

I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために
とるべき措置

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

1-(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

1-(1)-① 有形文化財の収集等

1-(1)-①-1 所蔵品一覧表

(単位：件)

令和4年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館			
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	
合計	131,771	135	1,006	120,073	89	648	8,279	29	200	1,930	13	114	1,489	4	44	
絵画	13,882	35	219	11,199	21	105	2,234	9	60	307	4	44	142	1	10	
書跡	3,608	37	175	1,927	14	60	1,376	17	78	152	5	29	153	1	8	
彫刻	1,460	1	49	1,113	0	24	152	0	3	153	1	16	42	0	6	
建築	78	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1	
金工	17,436	3	61	16,426	1	17	606	2	31	169	0	11	235	0	2	
刀剣	3,503	21	57	3,466	19	57				16	0	0	21	2	0	
陶磁	4,522	0	22	2,968	0	13	1,361	0	3	81	0	0	112	0	6	
漆工	4,780	6	32	3,961	4	20	534	0	3	107	2	5	178	0	4	
染織	4,917	2	29	3,795	0	20	971	1	8	94	1	1	57	0	0	
考古	30,468	5	76	28,625	5	55	699	0	11	745	0	8	399	0	2	
民族資料	1,380	0	0	1,264	0	0	0	0	0	101	0	0	15	0	0	
歴史資料	6,675	0	12	6,249	0	5	297	0	2	0	0	0	129	0	5	
和書	17,560	0	2	17,560	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
写真資料	2,283	0	2	2,283	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	
東洋	絵画	718	4	31	718	4	31									
	書跡	1,729	10	13	1,729	10	13									
	彫刻	814	0	20	814	0	20									
	金工	1,041	0	0	1,041	0	0									
	陶磁	3,089	0	11	3,089	0	11									
	漆工	529	0	4	529	0	4									
	染織	612	0	1	612	0	1									
	考古	5,981	0	2	5,981	0	2									
	民族	3,559	0	0	3,559	0	0									
法隆寺献納宝物	326	11	184	326	11	184										
黒田記念館収蔵品	818	0	2	818	0	2										
準歴史資料(含和書)	0	0	0	0	0	0										

* 東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係の列品」あり

京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の作品も「日本」に含む

* 列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。

* 列品に編入されていない資料については、「準歴史資料(含和書)」の項目にするし、列品化整理中の資料と分けて表示している。

* 東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-①-1 (参考)
【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要 (主なもの)

保管及び所蔵文化財・資料名	数
〔文化遺産部〕	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,400枚
国宝・重要文化財建造物掘拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料 (重要文化財)	約1,100点
榎田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
中村泰春譜文書	一式
森蓮資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川嘉幸関係資料	2,927点
塚原家寄贈資料 (歴史資料)	3箱
岡嶋家寄贈 大極殿標木建設等資料	1箱
溝辺家寄贈 大極殿標木	2本 (4片)
〔都城発掘調査部 (平城地区)〕	
平城宮跡出土木簡 (国宝)	3,184点
興福寺旧境内土壌 (一乘院裏殿跡下層) 出土品 (重要文化財)	一括
平城宮・京出土土器・土製品	31,420箱
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	36,429箱
平城宮・京出土瓦類	1,004,933箱
平城宮・京出土木簡	252,747点
塚原家寄贈資料 (考古資料)	7箱
長屋王家木簡附平城宮跡左京三条二坊出土木簡 (重要文化財)	1,809点
〔都城発掘調査部 (飛鳥・藤原地区)〕	
軒丸瓦・軒平瓦	約37,087点
丸瓦・平瓦 土囊袋	約167,847袋
丸瓦・平瓦 整理箱	41,801箱
土器 整理箱	17,062箱
土製品	15,165点
木器・木製品	34,387点
木簡	35,323点
建築部材	約3,000点
金属製品	20,029点
石器・石製品	14,707点
漏刻復原模型	1点
鐘幡復原模型 (台付き)	一式
飛鳥大仏頭部複製 (模刻)	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
富木銭杖銭復原模型	一式
基盤復原模型	1点
鉄釜製造土坑復原模型	1点
〔飛鳥資料館〕	
高松塚古墳出土品 (海歌葡萄鏡 銀製太刀金具 棺金具 ガラス小玉漆塗り木棺) (重要文化財)	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舍利荘器具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品 (重要文化財)	一括
和田原寺鴨尾 (都城発掘調査部 (飛鳥・藤原地区所属))	1点
川原寺出土水波紋土碑	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊佛仏	1点
飛鳥川原宮出土唐唐器	1点
高松塚古墳壁面模写 (前田青岬、平山郁夫等)	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土 玉枕 冠帽 復元模型	3点
川原寺加藍1/50模型	1点
山田寺金堂復原	1点
飛鳥京復原模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半加像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト5号古墳石室	1点
十二支拓本 (表装済み・収納箱あり)	一式
キトラ古墳模型	1点
山東省濟南市解放橋北唐墓石棺 青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	1式

令和4年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
〔武人復原〕	
山田寺灯籠復原	1点
具注歴木簡レプリカ	1点
天皇木簡レプリカ	1点
壬申の乱ジオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニジオラマ	1点
キトラ古墳出土品金銅製鏡座金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品銀鍍付六花形飾金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀製鞘尻金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀装把レプリカ	1点
キトラ古墳出土品鉄地銀張金象嵌帯執金具レプリカ	3点
キトラ古墳出土品琥珀玉レプリカ	4点
キトラ古墳出土品金銅製鏡座金具復元品	10点
キトラ古墳出土品銀釘復元品	一括
キトラ古墳出土品銀鍍付六花形飾金具復元品	10点
キトラ古墳出土品田原棺金具復元品	10点
飛鳥池遺跡出土土胎陶器復元品	3点
鍛冶工房風景想定復元図	1点
銅造観音菩薩立像 (夢達観音) 複製品	1体
隅田八幡宮人物画像鏡複製品	1点
山田寺仏頭複製品	1点
金銅小野毛人基誌複製品	1点
筑前国嶋郡川辺里大室2年戸籍残簡複製品	2点
人頭石 (光永寺) 複製品	1点
鱒淵寺銅造観音菩薩立像複製品	1点
重要文化財財団講寺銅壺製造模型 (下道園依母婦人骨蔵器)	1点
四十八体仏如來坐像複製	1点
丙寅年銘菩薩半跏像複製品	1具
於美阿志神社石塔婆のうち供養具	一括
牽牛子塚古墳出土品	一括
マルコ山古墳出土品	一式
高松塚古墳壁面漆喰印刷複製	一式
飛鳥池遺跡出土土胎陶器復元品	3点一式
飛鳥池遺跡出土土簡複製品	13点
暗文土師器復原制作品 (脇田宗孝氏制作)	5点
一町長法寺押出仏複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土 蛇行状鉄器複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土 馬鈴複製品	1点
扶桑略記 卷二十一～二十八	7冊
高松塚古墳石室 原寸模型	1台
高松塚古墳石室 1/20模型	1台
藤原宮跡木簡複製品	4点一括
飛鳥池遺跡木簡複製品	5点一括
二面石 (橋寺 模刻)	1点
呉文字ヘラ書き丸瓦	1点
特別史跡山田寺跡出土「銅板五尊像」原寸鑄造	1点
特別史跡山田寺跡出土「銅板五尊像」拡大樹脂製 (4倍)	1点
国宝「高松塚古墳壁面」コロタイプ印刷複製品	一式
〔埋蔵文化センター〕	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県戸田遺跡資料	一式
神奈川県母子貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登細文資料 (15遺跡)	一式
千葉県曾谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶館資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曾利式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県銚子貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木開貝塚	一式
東貝塚	一式
室浜貝塚	一式
福浦島貝塚	一式
里浜貝塚	一式
東北細文晩期末資料	一式
東北各地発見細文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳細文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
現生動物標本	一式
年輪年代学用木材標本	一式

1-(1)-① -2(参考)

収蔵品(所蔵品・寄託品)件数合計(過去5か年)

(単位:件) 令和4年3月31日現在

		平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
収蔵品 合計	国立博物館 計	140,448	330	2,193	142,680	332	2,180	143,576	329	2,180	143,928	332	2,207	144,284	334	2,209
	東京国立博物館	120,569	144	903	122,194	144	897	122,462	141	891	122,593	143	910	122,724	143	910
	京都国立博物館	14,212	115	822	14,509	116	812	14,650	117	815	14,697	117	818	14,841	119	819
	奈良国立博物館	3,855	66	417	3,882	66	418	3,885	65	420	3,917	66	423	3,886	66	423
	九州国立博物館	1,812	5	51	2,095	6	53	2,579	6	54	2,721	6	56	2,833	6	57
所蔵品	国立博物館 計	128,208	134	997	130,211	135	994	131,191	135	1,002	131,433	135	1,006	131,771	135	1,006
	東京国立博物館	117,460	89	643	119,064	89	644	119,871	89	646	119,942	89	648	120,073	89	648
	京都国立博物館	7,977	29	202	8,075	29	196	8,130	29	200	8,150	29	200	8,279	29	200
	奈良国立博物館	1,893	13	113	1,908	13	113	1,911	13	114	1,929	13	114	1,930	13	114
	九州国立博物館	878	3	39	1,164	4	41	1,279	4	42	1,412	4	44	1,489	4	44
寄託品	国立博物館 計	12,240	196	1,196	12,469	197	1,186	12,385	194	1,178	12,495	197	1,201	12,513	199	1,203
	東京国立博物館	3,109	55	260	3,130	55	253	2,591	52	245	2,651	54	262	2,651	54	262
	京都国立博物館	6,235	86	620	6,434	87	616	6,520	88	615	6,547	88	618	6,562	90	619
	奈良国立博物館	1,962	53	304	1,974	53	305	1,974	52	306	1,988	53	309	1,956	53	309
	九州国立博物館	934	2	12	931	2	12	1,300	2	12	1,309	2	12	1,344	2	13

1-(1)-①-3 令和3年度新収品一覧表

(単位：件)

令和4年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館			
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	
合計	338			131			129			1			77			
計	41	254	43	8	81	42	12	117	0	0	0	1	21	56	0	
絵画	6	104	1	1	4	0	3	100	0	0	0	1	2	0	0	
書跡	2	11	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	
彫刻	1	3	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
金工	3	9	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	2	7	0	
刀剣	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
陶磁	1	13	4	0	0	4	1	11	0	0	0	0	0	2	0	
漆工	1	6	5	0	5	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
染織	8	2	22	0	1	22	6	0	0	0	0	0	2	1	0	
考古	11	41	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	11	38	0	
民族資料	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	
歴史資料	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
写真資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
東洋	絵画	5	4	0	5	4	0	/								
	書跡	0	0	0	0	0	0									
	彫刻	1	0	0	1	0	0									
	金工	0	0	0	0	0	0									
	陶磁	0	30	2	0	30	2									
	漆工	0	0	0	0	0	0									
	染織	0	0	2	0	0	2									
	考古	0	27	0	0	27	0									
民族	0	0	4	0	0	4										
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0	/									
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0										

* 東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係の列品」あり

* 列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収品一覧表

(単位：件)

	平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	754			2,005			980			242			338		
小計	64	518	172	154	348	1,503	87	125	768	69	155	18	41	254	43
絵画	18	17	5	8	22	0	31	9	0	7	8	0	6	104	1
書跡	8	47	2	3	50	0	2	8	0	3	59	0	2	11	0
彫刻	5	2	0	2	3	0	1	0	0	1	18	0	1	3	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	3	253	8	3	21	0	3	12	0	6	1	0	3	9	0
刀剣	0	0	10	1	0	0	0	1	0	2	9	0	0	0	2
陶磁	10	123	5	15	44	0	1	11	0	4	2	0	1	13	4
漆工	2	12	93	4	23	0	1	8	0	5	1	0	1	6	5
染織	1	7	47	30	21	0	3	7	0	7	5	0	8	2	22
考古	11	18	2	81	120	2	34	10	0	30	31	0	11	41	1
民族資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0
歴史資料	4	2	0	6	1	0	3	50	0	3	1	0	2	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	/			/			/			/			/		
その他	0	0	0	0	0	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	0	1	0	0	15	0	3	1	0	0	0	5	4	0
	書跡	0	2	0	0	18	0	0	0	0	15	0	0	0	0
	彫刻	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	1	0	0
	金工	0	0	0	0	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	陶磁	2	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	30	2
	漆工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	染織	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	考古	0	11	0	0	3	0	0	4	0	3	0	0	27	0
民族	0	21	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	

1-(1)-①-4 令和3年度新収品一覧

【東京国立博物館】(計131件)

(1) 購入 (8件)

<絵画> (1件)

1 名称	泰西騎士像 (たいせいきしぞう)	品 質	紙本着色
作者等		員 数	1幅
時 代	江戸時代・17世紀	寸法等	縦85.1cm 横38.5cm
作品概要	<p>建物の壁面を背景に長槍を構えた甲冑姿の武人一人を表わす、初期洋風画の作例である。一紙に一人の西洋風騎士像を描く例は、泰西王侯図屏風(重要文化財、6曲1双、長崎歴史文化博物館蔵)や泰西王侯図屏風(6曲1隻、ボストン美術館蔵)のような押絵貼屏風形式の類例があるほか、掛軸装の作品が数点現存し、本作もその一群に属す。長槍を持つ騎士の姿はボストン本の一図とも良く似ており、17世紀初めに日本に輸入された銅版画を手本とした規範的な図様であったと考えられる。</p> <p>人体のプロポーションや立体感などの表現はやや稚拙だが、毛髪や衣、腫にハイライトを入れるなど丁寧に描写される。後世の補彩も入っているが、下書き線とみられる墨線も見えなど制作過程を含む成立当初の表現は損なわれていない。初期洋風画は現存例が少なく、貴重な遺例といえる。なお、西村貞『日本初期洋風画の研究』(全国書房、昭和21年)によれば、本図は泰西騎士像(A-10449)と対幅であった。</p>		

<彫刻> (1件)

2 名称	金剛力士立像 (こんごうりきしりゅうぞう)	品 質	木造、彩色
作者等		員 数	2軀
時 代	平安～鎌倉時代・12～13世紀	寸法等	阿形 像高276.3cm ; 吽形 像高274.0cm
作品概要	<p>寺院の仁王門に置かれていた金剛力士像。阿形像は頭部と体部のバランスが取れているが、吽形像は頭部が大きく肥満した体形で作風に差がある。しかし、腕に天衣が絡みつく表現は共通し、一対で造られたものと見て良い。</p> <p>両像とも頭部と体幹部をヒノキの一材から木取りし、割削いで造っている。内割りは深く、腕や足裏も割っている。吽形像の体幹部は辺材があり、その年輪年代測定から1173年頃の伐採と判明した。平安時代末期ないし鎌倉時代初期の作と見られる。滋賀県栗東市にあった蓮台寺に伝来、昭和9年の室戸台風で仁王門が倒壊し、この仁王像も大きく損傷した。昭和43年美術院国宝修理所の所有となった。</p>		

<東洋絵画> (5件)

3 名称	千仏図 (せんぶつず)	品 質	木製彩色
作者等		員 数	1面
時 代	6～7世紀	寸法等	高15.7cm 幅73.0cm 奥行7.8cm
作品概要	<p>千仏図の断片。如来が横一列に描かれている。如来はそれぞれ頭と身体の後後にいずれも光背を表す。両手は腹の前で印を結び、両足は蓮の上で結跏趺坐する。板の背面に絵は描かれていない。おそらく本作品は、ホータンの平地に建てられた寺院の梁あるいは長押の一部に描かれていたと考えられる。</p>		

4 名称	千仏図 (せんぶつず)	品 質	土壁彩色
作者等		員 数	1面
時 代	6～7世紀	寸法等	高23.2cm 幅17.5cm
作品概要	<p>千仏を描いた壁面の断片。壁面断片の左右両側に太く線が引かれており、その中はひし形に区画され、さらにその中に如来が一尊ずつ縦一列に配置されている。それぞれの如来は頭と身体の後後に光背を表す。両手は腹の前で印を結び、蓮の花の上で結跏趺坐するが、両足は衣の中にあつて露わにしない。おそらく本作品は、ホータンの平地に建てられた寺院の壁面に描かれていたもので、壁面断片の左右両側に引かれた太い線は、仏像の光背の一部であったと考えられる。おそらくその壁面には、塑造で作られた、あるいは壁面に描かれた大きな仏像が存在したと推定される。</p>		

5 名称	千仏図 (せんぶつず)	品 質	土壁彩色
作者等		員 数	1面
時 代	6～7世紀	寸法等	高33.5cm 幅14.0cm
作品概要	<p>千仏を描いた壁面の断片。壁面断片の左右両側に太く線が引かれており、その中はひし形に区画され、さらにその中に如来が一尊ずつ縦一列に配置されている。それぞれの如来は頭と身体の後後に光背を表す。両手は腹の前で印を結び、蓮の花の上で結跏趺坐するが、両足は衣の中にあつて露わにしない。おそらく本作品は、ホータンの平地に建てられた寺院の壁面に描かれていたもので、壁面断片の左右両側に引かれた太い線は、仏像の光背の一部であったと考えられる。おそらくその壁面には、塑造で作られた、あるいは壁面に描かれた大きな仏像が存在したと推定される。</p>		

6 名称	千仏図 (せんぶつず)	品 質	土壁彩色
作者等		員 数	1面
時 代	6～7世紀	寸法等	高40.0cm 幅25.0cm
作品概要	<p>千仏を描いた壁面の断片。壁面断片の左右両側に太く線が引かれており、その内側では如来が一尊ずつ縦一列に配置されている。それぞれの如来は頭と身体の後後に光背を表す。両手は衣の中にあつて、印相を露わにしない。蓮の花の上で結跏趺坐するが、両足は衣の中にあつて露わにしない。おそらく本作品は、ホータンの平地に建てられた寺院の壁面に描かれていたもので、壁面断片の左右両側に引かれた太い線は、仏像の光背の一部であったと考えられる。おそらくその壁面には、塑造で作られた、あるいは壁面に描かれた大きな仏像が存在したと推定される。</p>		

7 名称	如来坐像 (にょらいざぞう)	品 質	土壁彩色
作者等		員 数	1面
時 代	6～7世紀	寸法等	高32.0cm 幅26.0cm
作品概要	<p>如来坐像を描いた壁面の断片。頭と身体の後後にそれぞれ光背を表す。両手は腹の前で印を結び、蓮の花の上で結跏趺坐するが、両足は衣の中にあつて露わにしない。如来の衣は赤く、その着衣の型式は通肩である。おそらく本作品は、ホータンの平地に建てられた寺院の壁面の一部を構成していたと考えられる。</p>		

<東洋彫刻> (1件)

8 名称	女神像(じょしんぞう)	品 質	ストウッコ、彩色
作者等		員 数	1軀
時 代	5~7世紀	寸 法 等	高23.0cm 幅17.0cm 奥行8.0cm
作品概要	<p>頭部に宝冠を戴く。黒く塗られた頭髪は、中央から左右両側へ分ける。首にはネックレスをつける。半袖の薄い衣を着る。袖口のフリルには赤い彩色が、衣には茶色い彩色がうっすらと残る。両腕の上腕より先、腹部の下を欠損する。本作品の背面には尊像の後ろ姿が表現されていないことから、寺院の仏龕に貼り付けられていたと考えられる。</p>		

(2) 寄贈 (81件)

<絵画> (4件)

1 名称	鳥獸戯画(模本)(ちょうじゅうぎが(もほん))	品 質	紙本墨画
作者等	前田貫業(1838~?) 模	員 数	1巻
時 代	明治19年(1886)	寸 法 等	縦31.6cm 横1,081.0cm
作品概要	<p>卷子装(ただし未表装。木軸に本紙を仮巻きした状態)。現在、4巻から成る国宝「鳥獸戯画」(京都・高山寺蔵) 甲巻の写しである。原本の紙継箇所には墨線を引き、高山寺印も印形を表わす。図様も原本をおおむね忠実に写すが、一部欠落がある。全巻を通じて数種の異なる料紙が用いられており、中盤は上下に料紙を継いでいるなど、複雑な状況である。奥書に「明治十九年三月摹 前田貫業」とあり、模写年代、模写者が判明する。鳥獸戯画は明治14年前後に博物館で修理が施され、明治20年には東寺宝蔵に預けられており、本作はこの間に写されたものである。模写者の前田貫業は博物館(博物館)による古画の模写事業を担っており、本作は博物館に預けられていた期間に写された可能性も考えられる。</p>		

2 名称	芥子図(けしず)	品 質	紙本着色
作者等		員 数	1幅
時 代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦109.0cm 横42.4cm
作品概要	<p>掛幅装。画面中央の芥子を中心に菫など春から初夏にかけての草花を描く。葉脈には金泥が使われ、墨に藍を混ぜたと思われる色味や、たらしこみ等多用する画面は、俵屋宗達の画風を受け継ぐ俵屋工房の画家による作品であることを示している。芥子は俵屋工房が描く草花図にも多く描かれる人気の画題である。本作に押された「宗雪印」(朱白文方印)の使用例には、「相説」や「法橋相説」の款記を伴う作品が現存していることから、本作も、墨や中間色を多用し瀟洒な草花図を得意とした喜多川相説を筆者として推定することができる。日本画家である中村丘陵の旧蔵品。</p>		

3 名称	松寿老・竹鶴・梅亀図(まつじゅうろう たけつる うめかめず)	品 質	絹本着色
作者等	狩野(晴川院)養信(1796~1846) 筆	員 数	3幅
時 代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	本紙 縦128.7cm 横56.4cm
作品概要	<p>掛幅装。三幅対。中幅には松の下で鹿とともに座す寿老人、右幅には竹に鶴の親子、左幅には梅と水際に遊ぶ亀を描く。署名から、養信が法印を与えられた天保5年(1834)以降の作品とわかる。江戸狩野派が重要なレパートリーの一つとして手がけてきた吉祥画題を、良質で鮮やかな絵具で描き上げた優品である。</p>		

4 名称	臨済義玄像(りんざいぎげんぞう)	品 質	絹本着色
作者等		員 数	1幅
時 代	江戸時代・18世紀~19世紀	寸 法 等	縦101.7cm 横53.4cm
作品概要	<p>筵の上に結跏趺坐し、右の拳を握りしめた臨済義玄の肖像である。臨済義玄は臨済宗を開いた唐時代末の禅僧である。本品は真珠庵や養徳院に伝わる室町時代の作例と同じ図様であり、臨済像として流布した姿を描く。憤怒の表情は中世の作例よりも穏やかなものとなっているが、描写は的確で、とりわけ髪や髭は描線を使い分け、巧みに質感を描き出す。鮮やかな赤色や衣文線に沿うように施された金泥、整然とした絹目から、江戸時代後期の作例とみなされる。水墨を主体とした室町時代の作例に対し、本図は着色の臨済像として重要である。さらに、江戸時代の儒学者・荻生徂徠の家系に伝来した点も注目される。</p>		

<書跡> (7件)

5 名称	道済集卷十九断簡(紙燃切)(みちなりしゅう まきじゅうくたんだんかん(こよりぎれ))	品 質	彩箋墨書
作者等	伝藤原佐理(944~998) 筆	員 数	1幅
時 代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙 縦22.2cm 横15.2cm
作品概要	<p>掛軸装、牙軸。金銀の揉箔を散らした料紙に『道済集』巻十九より和歌を二首半書写している。もとは綴葉装の冊子本のため、本作はその一頁分にあたると思われる。右肩上がりのリズムカルな筆遣いで、ときに七文字分を連続にしており巧妙である。転折がねじれているように見えるところから、「紙燃切」と呼ばれる古筆切である。平安時代に『道済集』を書写した唯一の遺品としても貴重である。歌集の作者、藤原道済について詳しいことはわかっていない。</p>		

6 名称	色紙華嚴経断簡(泉福寺経)(しきしげごんきょうだんかん(せんぶくじきょう))	品 質	彩箋墨書
作者等		員 数	1幅
時 代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦24.7cm 横50.8cm
作品概要	<p>掛軸装、牙軸。藍の織維を漉き込んだ料紙に金の揉箔が撒かれており、金泥で界線が引かれている。そこに六十巻本『大方広華嚴経』の「如来光明覚品第五」から28行分書写された部分。当館が所蔵する一巻(B-2482)の巻頭に「泉福寺常住」という朱文長方印があることから「泉福寺経」と呼ばれる。伝来途中で火災に遭ってどれも上下に焼け跡が残っているが、本作は其中でも焼けた部分が少ない。</p>		

7 名称	書状(しょじょう)	品 質	紙本墨書
作者等	小堀遠州(1579~1647) 筆	員 数	1巻
時 代	元和元年(1615)	寸 法 等	本紙 縦15.3cm 横77.0cm
作品概要	<p>卷子装。荻生徂徠あるいは子孫が本書状を入手した経緯は明らかではないが、小堀遠州本来の役割であった幕府の作事について、小堀家家臣(おそらく家老格)権左衛門に指示を与えた書状である。元和元年(1615)8月5日徳川家康(上様)が近江国水口に到来すると記述から、本書状はこの年の7月28日と作成と思われる。</p>		

8 名称	風流使者之詩（ふりゅうししゃのし）	品 質	紙本墨書
作者等	柳沢吉保（1658～1714）筆	員 数	1幅
時 代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	本紙 縦63.2cm 横28.8cm
作品概要	掛軸装。牙軸。柳沢吉保が自作の詩を、親交のあった荻生徂徠に贈ったものである。吉保は宝永元年（1705年）に甲府藩主となり、宝永7年（1706年）荻生徂徠に甲斐国を見聞し、紀行文『風流使者記』『峡中紀行』としてまとめさせた。この書はこの時の紀行文から取った詩文である。		

9 名称	鳳陽院記（ほうよういんき）	品 質	紙本墨書
作者等	荻生徂徠（1666～1728）筆	員 数	1幅
時 代	江戸時代・17～18世紀	寸 法 等	本紙 縦136.3cm 横56.3cm
作品概要	掛軸装。木製印可軸。鳳陽院は万福寺の塔頭の一つ。本書はこの塔頭の由来について荻生徂徠が記した草稿である。文中の独湛性壺（1628～1706）は明の僧侶。承応3年（1654）隠元隆琦にしがって来日。遠江国・宝林寺、上野国・国瑞寺をひらき、天和2年（1682）山城国・万福寺の住持となった人である。漢詩・漢文に通じ、明の社会制度にも詳しく徂徠と禪宗（黄檗宗）との関係が伺える作品である。		

10 名称	文語（ぶんご）	品 質	紙本墨書
作者等	荻生徂徠（1666～1728）筆	員 数	1幅
時 代	宝永7年（1710）9月14日	寸 法 等	本紙 縦131.0cm 横54.2cm
作品概要	掛軸装。木軸。この文章は京都・伏見の人貴隆父（かんりゅうほ）の著作である「桃源業」と題する詩文集に寄せた長文の序で、徂徠の著作を集めた『徂徠集』にも収録されている。		

11 名称	荻生徂徠自筆稿本（おぎゅうそらいじひつこうほん）	品 質	紙本墨書
作者等	荻生徂徠（1666～1728）筆	員 数	5冊
時 代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	冊子装 縦23.0cm 横17.8cm
作品概要	冊子装。明朝綴じ。荻生徂徠が漢詩・漢文の研究のため、荀子を読み進めた「徂徠山人外集」巻一～四と、様々な中国の故事や出来事について記した「徂徠山人雑集」巻六、計五冊からなる草稿本である。「徂徠山房」の版心を有する木版罫紙を使用している点でも貴重。 内箱貼紙にある「光緒壬辰」は1892年。「黄超曾」は神戸、横浜で清国領事を勤め、公使の命で日本各地を遊歴し、各地の日本人を通して広い範囲にわたる交流を行った。在日中の詩作は『東瀛詩草』と題する1冊の詩集に纏められた。荻生徂徠の遺稿について題を寄せるにふさわしい人である。		

<漆工> (5件)

12 名称	山水蒔絵硯箱（さんすいまきえすずりばこ）	品 質	木製漆塗
作者等		員 数	1合
時 代	室町時代・15～16世紀	寸 法 等	高6.0cm 縦25.9cm 横24.4cm
作品概要	被蓋造の硯箱。身・蓋とも口縁に錫縁を廻らせ、蓋は削面をとる。身の中央に下水板を置き、金銅製円形水滴と硯を嵌め、左右に懸子を配する。加飾は総体漆塗で、平日地に研出蒔絵で土坡を描き、薄肉高蒔絵で近景の岩山、右上に望む遠山を表す。さらに付描による千鳥を加え、金貝で橋をわたす。		

13 名称	梅琴蒔絵文台（うめことまきえぶんだい）	品 質	木製漆塗
作者等		員 数	1基
時 代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	高10.5cm 縦32.9cm 横56.5cm
作品概要	総体漆塗の天板に研出蒔絵で加飾し、削形のある四脚をもつ文台。各脚は金銅製覆輪を有し、天板側面四隅及び各側面中央、また筆返し両端にも金銅製魚々子地梅花文飾金貝を打つ。蒔絵意匠は主要モチーフである洲浜上の梅樹が画面左方に寄せられ、右方に小洲浜上の岩、中央に琴と舞い散る梅花が描かれる。		

14 名称	御所車蒔絵硯箱（ごしょぐるままきえすずりばこ）	品 質	木製漆塗
作者等		員 数	1合
時 代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	高4.4cm 縦23.4cm 横21.2cm
作品概要	四隅及び蓋上面に面取りを施す被蓋造の硯箱。蓋表全面を研出蒔絵の石畳模様で満たし、そこへ高上げた牛車のみを描く。蓋裏及び身は梨子地とする。身の中央に下水板を置き、硯と象嵌七宝を施した鳥甲形水滴を具える。		

15 名称	竹雀蒔絵文庫（たけすずめまきえぶんこ）	品 質	木製漆塗
作者等		員 数	1合
時 代	安土桃山～江戸時代・16～17世紀	寸 法 等	高8.0cm 縦37.8cm 横35.6cm
作品概要	蓋に削面をとる方形の印籠蓋造で、前後の側面に蓋と身を繋ぐ鉄製金貝を付す。総体漆塗とし、底部を除く全面に金薄肉高蒔絵に青金による付描を併用し、三本の竹とそこへ飛来する雀を描く。身内面は漆塗無文、蓋裏には十羽の雀が飛び回る様が同様に薄肉高蒔絵で表される。文様配置は一方の短側面を起点として蓋表及び両長側面へと連続し、また四側面が横方向に連続する。		

16 名称	燕子花蒔絵箱（かきつばたまきえはこ）	品 質	木製漆塗
作者等		員 数	1合
時 代	江戸時代・17～18世紀	寸 法 等	高14.5cm 縦42.3cm 横17.6cm
作品概要	印籠蓋造の長方箱。底面を除く全面に平蒔絵を主体に燕子花を描く。随所に針描と絵梨子地を交え、また一部の花は螺鈿で表されていたと見られる。螺鈿は下地ではなく漆地に貼り付けているため、器面から突出させていたが、現状では全て脱落している。文様配置は一方の短側面を起点として蓋表及び両長側面、もう一方の短側面へと連続するもので、光琳蒔絵をはじめ江戸時代中期の漆工意匠に類例を見ることができる。		

<染織> (1件)

17 名称	有職雜飾り (ゆうそくひなかさざり)	品 質	人形：絹・木・胡粉ほか 道具：木製、黒漆塗・蒔絵ほか
作者等	5世 大木平蔵作	員 数	1式
時 代	昭和5年 (1930)	寸法等	男雛本体 高39.5cm ; 女雛本体 高27.0cm
作品概要	昭和5年 (1930)、高島屋創業者一族である飯田席雄の長女、京子の初節句に伴って詠えられた雛飾りの一式。京都を代表する人形師であり、皇室はもとより各宮家をはじめ、財閥などに雛飾りを納めた丸屋大木平蔵製の作品である。有職故実を踏まえた装束の出来栄などは見事であり、昭和初期の高い製作技術を伝えるものとして貴重。昭和5年は5世大木平蔵 (1885~1941) の時代であり、人形の頭は12世面庄が手掛けている。		

<考古> (3件)

18 名称	鞆形埴輪残欠 (ともがたはにわざんけつ)	品 質	土製
作者等	伝群馬県高崎市八幡原町出土	員 数	1個
時 代	古墳時代・6世紀	寸法等	現存高23.1cm 幅(長軸)16.3cm 幅(短軸)11.6cm
作品概要	鞆と呼ばれる武器を象った器財埴輪。鞆とは巴形をした袋状の革製品で、矢を射る際に弓をもつ手首に装着し、弓の弦が手首にあたることを防ぐために用いるもの。他の武器を象った器財埴輪と同様に、亡き王の武威を象徴するため、もしくは亡き王が葬られた古墳を守るために作られたと考えられている。 本例は円筒状の台部に鞆部が載る形をなし、部位界に突帯を一条巡らせる。円筒部は輪積みで、鞆部は手捏ねで形作られる。鞆部は直弧文が崩れた幾何学文を線刻で描く。		

19 名称	前漢鏡残片 (ぜんかんきょうざんぺん)	品 質	青銅製
作者等	福岡県春日市岡本町 須玖岡本遺跡D地点出土	員 数	3個
時 代	弥生時代(中期)・前2~前1世紀 [中国製・前2~前1世紀]	寸法等	最大長6.65cm
作品概要	須玖岡本遺跡D地点出土鏡は大きさから直径15~18cmを中型鏡とし、それより大きい大型鏡と小さい小型鏡に分けて把握されている。出土鏡の構成は、直径23cm前後の大型鏡が3面、中型鏡14ないし15面、小型鏡9面となり、これに直径不明の2面を合わせて29面からなる。 枝番1は大型鏡に相当する。面径が約23cmに及ぶ大型方格式草葉文鏡で、中山靖王劉勝(前113没)の墓である満城漢墓1号墓出土の大型方格式草葉文鏡よりも大きく、中国では王侯が所有する鏡に匹敵する。枝番号2・3は中型鏡に相当する。銘文が主な文様となる銘帯鏡で、銘文中の文字をとって「精白鏡」や「昭明鏡」などとも呼ばれるが、枝番2・3は「精白鏡」に相当すると考えられる。前者は前2世紀、後者は前1世紀前葉から中葉に位置づけられている。		

20 名称	武器形青銅器残片 (ぶきがたせいどうきざんぺん)	品 質	青銅製
作者等		員 数	2個
時 代	弥生時代(中期)・前2~前1世紀	寸法等	最大長6.7cm
作品概要	弥生時代の武器形青銅器の残片である。当該期の青銅製武器は、当初実用的な武器であったが、次第に非実用的な祭器へと変化するため、武器形青銅器の総称が用いられる。本例は、分厚く鋭利な刃部をもつといった実用的性格を残す中細形銅剣ないし銅矛に該当する。 残片は2点で、銅剣または銅矛の身部(刃部)破片と銅矛の袋部(着柄部)の破片である。銅剣は短い柄を装着し、銅矛は中空の袋部に長柄を装着し用いる。また、これらの武器形青銅器は、しばしば首長の墓に棺内副葬されることから、武威を表す重要な器物であったことがうかがえる。		

<東洋絵画> (4件)

21 名称	桃李園図軸 (とうりえんずじく)	品 質	絹本着色
作者等	仇英 (生没年不詳) 款	員 数	1幅
時 代	明~清時代・17世紀	寸法等	本紙 縦123.0cm 横66.7cm
作品概要	掛軸装、牙軸。 李白 (701~762) 「春夜宴桃李園序」を題材に、春の夜、満開の桃の下で、酒を楽しみながら詩作にふける高士たちを描く。同主題の仇英作品として、「金谷園・桃李園図軸」(京都・知恩院蔵、2幅、重要文化財)が知られる。本品の図像の大略は知恩院本と一致する。知恩院本の図像に倣った「桃李園図」は複数現存しており、本品もその一つ。本図の仇英の落款は偽款で、実際には17世紀に蘇州の偽画工房で作られたいわゆる蘇州片と考えられる。明時代、17世紀の著名な収蔵家、項元汴の鑑蔵印を有するが、いずれも偽印。		

22 名称	児女嬉戯図軸 (じじょきぎずじく)	品 質	絹本着色
作者等		員 数	1幅
時 代	明時代・17世紀	寸法等	本紙 縦89.1cm 横46.8cm
作品概要	掛軸装、牙軸。 桃の咲く春の庭園を舞台に、取っ組み合いのけんかをやる童子たちを描く。四季4幅対の1幅である可能性もある。無款だが、宋代絵画を学んだ明代宮廷画家の様式に属す。細部描写の精度から明時代末期、17世紀頃の作と考えられる。		

23 名称	猿猴図軸 (えんこうずじく)	品 質	絹本着色
作者等		員 数	1幅
時 代	朝鮮時代・16~17世紀	寸法等	本紙 縦42.3cm 横64.6cm
作品概要	掛幅装、牙軸。図像の上下左右が不自然に切れ詰められていることから、大画面の一部であったと推測される。 松の下の岩に座る親子の猿を描く。子どもの猿は腕を下に伸ばしており、猿猴捉月の主題を表わしていた可能性がある。画中の「敬緘」は作者印とは読みがたく、筆者不詳。岩石・樹木の描法と、比較的粗い画絹をかんがみ、明代宮廷絵画様式を学んだ16~17世紀朝鮮画家による作品と考える。		

24 名称	青緑山水図軸 (せいりょくさんすいずじく)	品 質	絹本着色
作者等		員 数	1幅
時 代	明時代・16~17世紀	寸法等	本紙 縦115.0cm 横52.6cm
作品概要	掛軸装、牙軸。 山中の溪流を渡る騎馬の高士たちを描く。無落款(右下切除の跡あり)だが、元時代の趙孟頫 (1254~1322) や盛懋を意識した濃彩の青緑山水描写、樓閣や人物の描法から、倣古山水の流行した明時代後期、16~17世紀の江南地方の画家によるものと推測される。明時代後期の倣古山水の一例として重要である。		

<東洋陶磁> (30件)

25 名称	中近東陶器 (ちゅうきんととうき)	品 質	
作 者 等		員 数	30口
時 代	9世紀～20世紀前半	寸 法 等	
作品概要	「イスラーム陶器」と呼ばれる施釉陶器のコレクションで、イラン西北部とエジプトで製作された器が中心をなす。中近東の中世から現代にかけての陶器の特徴 (胎土の調整、器形、装飾技法など) が概観できる資料群となっている。中でも、ラスター彩陶器として知られる一群は保存状態が極めてよく、美術品としての価値も高い。		

<東洋考古> (27件)

26 名称	パローチスタンの彩文土器 (ばろーちすたんのさいもんどき)	品 質	土器
作 者 等	パキスタン、パローチスタン出土	員 数	24口
時 代	前4000年～前2000年頃	寸 法 等	
作品概要	パキスタン西部のパローチスタン地方で出土した先史時代の彩文土器。鉢、杯、壺といった器種がみられ、特徴的な幾何学文のほか、動物 (ヤギ、ライオン、ヒョウ、コブウシ)、魚、樹木などの具象文が描かれる。パローチスタン地方に広がる高原や谷筋は、イラン高原とインダス平原とを結ぶ交通路となっており、同地域で出土した彩文土器は、東西の文化的接触を示す資料となっている。		

27 名称	白色化粧土鉢 (はくしよくけしやうどばち)	品 質	
作 者 等		員 数	1口
時 代	後期青銅器時代・前1500～前1200年頃	寸 法 等	長さ7.0cm ; 把手器高14.0cm
作品概要	本資料は、キプロスの後期青銅器時代を代表する工芸品である「ホワイト・スリップ・ウェア」と呼ばれるグループの土器に属するもので、白色化粧土と黒色の彩文が特徴である。回転台を用いずに手びねりで成形された鉢で、鳥の叉骨のような把手がとりつく。		

28 名称	彩文水差 (さいもんみずさし)	品 質	
作 者 等		員 数	1口
時 代	中期青銅器時代・前2000～前1600年頃	寸 法 等	器高15.5cm 幅10.6cm
作品概要	キプロスの中期青銅器時代に特徴的な器形の水差で、三角形のモチーフが連なる文様が描かれている。底部には小さな足が三本取りつけられている。		

29 名称	彩文水差 (さいもんみずさし)	品 質	
作 者 等		員 数	1口
時 代	鉄器時代・前10～前9世紀	寸 法 等	器高16.1cm 幅11.1cm
作品概要	やや小ぶりの水差で、胴部を水平方向にめぐる圏線、同心円などが描かれている。肩部と口縁部をつなぐ把手が設けられ、口縁部を左右からつまむようにして注口を作り出している。古代より交易の拠点として繁栄したキプロスでは、ワインやオイルなどの商品の容器となる特徴的な彩文土器が製作された。		

(3) 編入 (42件)

<刀剣> (2件)、<陶磁> (1件)、<東洋陶磁> (2件)、<漆工> (5件)、<染織> (22件)、<東洋染織> (2件)、<東洋民族> (4件)

1 名称	馬面 ほか (ばめん ほか)	員 数	38件
作品概要	過去に列品として登録されていたが、種々の事由により台帳から削除された作品のうち、2年度から3年度にかけて行った収蔵品移動に伴う列品情報調査の結果、存在が確認された作品38件。		

<陶磁> (3件)

2 名称	青磁輪花茶杯 (せいじりんかはい)	品 質	青磁
作 者 等		員 数	1口
時 代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	高2.8cm 口径6.6cm 高台径2.5cm
作品概要	硬質灰色の胎。薄づくり、六輪花形の小さな杯。置付を除いて総体に青磁釉を掛ける。口縁には金を塗り、覆輪風に表す。重要文化財「青磁輪花茶碗 銘 馬蝗絆」と同寸同形。見込みと底部高台回りに、TG-2354「馬蝗絆」の罫を真似て刻線を入れ、銚を金彩で再現している。高台内に「道人」銘を刻む。曲直瀬道三、織田有楽所持と伝わる「銚」(マズプロ美術館)に付属する「馬蝗絆」写しの箱書きの記述内容から、本作品は「馬蝗絆」を所蔵した京角倉家十代当主玄寧 (一方堂 1800～73) のもとで、親交のあった京焼陶工の二代高橋道八が焼いたものの一つと推測される。		

3 名称	青磁輪花茶碗 (せいじりんかちやわん)	品 質	青磁
作 者 等		員 数	1口
時 代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	高5.9cm 口径15.0cm 高台径5.3cm
作品概要	灰茶色の胎に、草緑色を帯びた釉が底部置付きを除いて総体に掛かる。TG-2354「青磁輪花茶碗 銘 馬蝗絆」を写した六輪花形の碗で、内外の罫は刻線で表し、6つの鉄製の銚を打つ。素地はやや厚く、見込みに浅く茶溜りを設ける。轆轤挽きの痕が外側に粗く残る。釉にはムラがあり、高台内には釉が掛からず茶色く焼けた胎がのぞいている。高台内に「御物写」と文字が刻まれている。他の2点に同じく、京焼の陶工、二代高橋道八 (仁阿弥道八 1783～1855) の作と考えられる。		

4 名称	青磁輪花茶碗 (せいじりんかちやわん)	品 質	青磁
作 者 等		員 数	1口
時 代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	高6.5cm 口径15.3cm 高台径5.2cm
作品概要	灰茶色の胎に、失透気味の薄い草緑色の青磁釉が底部置付きを除いて総体に掛かる。TG-2354「青磁輪花茶碗 銘 馬蝗絆」を写した六輪花形の碗で、罫は刻線で表し、6つの鉄製の銚を打つ。素地はやや厚く、見込み中央にくっきりと茶溜りを設ける。釉の表面には貫入と呼ばれる罫に加え、氷裂と呼ばれる細かい罫が覆うようにみられる。他の2点に同じく、京焼の陶工、二代高橋道八 (仁阿弥道八 1783～1855) の作と考えられる。		

<考古> (1件)

5 名称	武人埴輪模型 (ぶじんはにわもけい)	品 質	土製
作者等	吉田白嶺 (1872~1942) 作	員 数	3個
時 代	大正元年 (1912)	寸 法 等	右手に矛 総高91.0cm 底径25.8cm ; 左手に弓 総高90.5cm 底径25.8cm ; 右手に弓 総高90.0cm 底径25.2cm
作品概要	<p>本作は明治天皇の崩御に伴って伏見桃山陵に奉安された埴輪「神将」の同型品である。埴輪「神将」は、宮内省から帝室博物館歴史部(三宅米吉・高橋健自・関保之助・和田千吉)が委嘱を受け、服装などについては関、埴輪配列などについては高橋・和田が監修し、制作は当館から依頼を受けた吉田白嶺によって弓を持つ埴輪「神将」2体、矛を採る埴輪「神将」2体の合計4体作られたものである。群馬県太田市世良田町出土の武人埴輪を基本とし、太刀は三重県伊勢市神宮徴古館や滋賀県長浜市都久夫須麻神社、兜の鍔形は長野市清水寺や奈良市興福寺旧蔵品、甲冑のうち冠板は山梨県甲州市菅田神社、栴檀板や鳩尾板は愛媛県今治市大山祇神社、着物や沓は將軍塚絵巻や信真山縁起絵巻を参考にして作られている。</p> <p>胎土は常滑・今戸産で、成形は型作り。型で分割して作られた頭・胴・脚・腕・円筒部を継ぎ、これに太刀・弓・矢など付属品を貼り付けて全形を整えている。</p>		

【京都国立博物館】(計129件)

(1) 購入 (12件)

<絵画> (3件)

1 名称	重要美術品 北野本地絵巻断簡 (きたのほんじえまきだんかん)	品 質	(1巻) 紙本墨書 (1幅) 紙本白描
作者等		員 数	1巻・1幅
時 代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	(1巻) 縦28.3cm 横42.2cm 総長(見返・軸付含む) 91.4cm (1幅) 縦28.4cm 横100.7cm
作品概要	<p>北野天神縁起絵巻の断簡。もと三巻本の巻下にあたると考えられる一巻(詞・絵各十段)が伝来し、重要美術品に指定されていたが、戦後に分割され、現在では海外を含む各所で所蔵されている。そのうち、本作品は冒頭に位置していた詞書(卷子装)と、絵(掛軸装)にあたる。詞書の内容は、天慶五年(九四二)賤女の綾子に天神が右近馬場に社を造るよう告げたいわゆる「綾子託宣」と、天慶九年(九四六)に近江国の神官・神良種の子である太郎丸に天神が右近馬場に松を植え法華三昧堂を建立するよう命じた「太郎丸託宣」。詞書の冒頭に「北野本地」という内題が記されており、作品名はこれによる。絵は「太郎丸託宣」の部分で、画面右に僧侶と俗人男性が太郎丸から託宣を受ける場面を配し、中央に松の群生する右近馬場の埒(柵)を描く。なお、分割前は錯簡によって「綾子託宣」の絵がこの後に続いて配置されていた。絵は白描で、二紙分の横長の画面にたいへん伸びやかな墨線で広々とした景観を表し、人物や花・葉など細部も的確な画技をみせる。こうした白描の高い完成度や、片仮名書きの詞書の書風から、十三世紀後半~末期の作と考えられる。</p> <p>北野天満宮のある京都に位置する当館だが、北野天神縁起の所蔵品はない。鎌倉時代の北野天神縁起絵巻の重要作例として調査研究への活用のほか、社寺縁起や白描の特集展示に役立つことが期待される。また、前述したとおり他の断簡は海外に流出しているものもあり、同様の事態を防ぐ意味でも早期に購入すべき作品だと考える。なお、現状一巻と一幅は別々の二重箱に納められているが、巻子の内箱や表装は分割前のものを引き継いでいるとみられ、その点でも重要である。上田堪庵旧蔵。掛幅の箱書は安田靫彦による。巻子の箱書によれば藤原為家筆。</p>		

2 名称	重要美術品 住吉真景図巻 (すみよししんけいずかん)	品 質	紙本著色
作者等	岡田半江筆	員 数	2巻
時 代	江戸時代 天保12年 (1841)	寸 法 等	上巻 24.0×782.7cm、下巻 24.0×720.5cm
作品概要	<p>岡田半江 (1782~1846) は、江戸時代後期に大坂で活動した南画家。上野理一旧蔵品として早くから知られる本作は、住吉社の境内とそこに生えるクスノキなどの樹木を、卷子二巻にわたり描き連ねた作品である。巻頭に見える参道の賑わいに続き、太鼓橋を経て第三本宮・第一本宮、さらに正印殿・神宮寺・大海神社などの建物が描かれ、神域を彩る新緑の木々がリズムカルな筆のタッチとみずみずしい色彩によって表現されている。父に学びながらも、米山人とは異なる繊細な筆遣いと清澄な色彩感覚が特徴で、印象派を思わせるような光や大気の影響が魅力的な作品である。半江晩年の代表的作品であり、江戸時代の真景図としても屈指の名品と言える。</p> <p>同年の作に重文「春露起鴉図」(遠山記念館蔵)がある。本作はこれと双璧をなす半江の代表作であり、江戸時代後期の南画の魅力と重要性を雄弁に物語る作品である。京都に所在する博物館として、大坂を含む関西の南画に目配りすることは重要な責務だが、当館にはこの分野の作品がほとんど収蔵されていない。その欠を埋めることは勿論、当館館蔵品を代表する一点となることは疑いなく、今後の展示活用も大いに見込まれる。</p>		

3 名称	吉野・龍田図屏風 (よしの・たつたずびょうぶ)	品 質	紙本著色
作者等	英一蝶筆	員 数	6曲1双
時 代	江戸時代 17世紀	寸 法 等	各148.4×352.2cm
作品概要	<p>英一蝶 (1652~1724) は、江戸時代中期に江戸で活躍した狩野派画家。本作は、古来歌枕として名高い奈良の吉野と龍田を、春秋に描き分けた屏風である。それぞれ、金峯山寺蔵王堂と龍田大社を中心としながら周辺の名所旧跡を数多く描き込み、さらに参詣に訪れた人々や周辺住民の日常生活をも含み込んだ豊かな絵画世界が展開されている。吉野と龍田は名所絵としてさかんに描かれてきたが、その多くは桜と吉野川・紅葉と龍田川のみをモチーフとする象徴的な風景表現であり、このような豊富な風俗表現を伴う作品は珍しい。</p> <p>『徳川実紀』には、元禄7年(1694)、桂昌院が本願寺門跡に「多賀蝶湖筆吉野龍田図屏風」などを贈ったという記事があるが、本作はここに記される屏風に該当する可能性がある。これだけの力作でありながら署名はなく、印章が捺されたのみであるという落款の形式や、この時代としては大きな紙の使用も、特別な制作事情をうかがわせる。現存する一蝶作品のなかでも群を抜いて質の高い作品であり、将来的な展覧会での活用も大いに見込まれる。</p>		

<金工> (1件)

4 名称	太刀 銘(菊紋)和泉守来金道ノ選奉 鈞命享保庚戌年於京師二柄ヲ打一柄ハ献シ一柄ハ則是也 (たち めい(きくもん) いずみのかみらいかねみちノようほう きんめいきようほうかのえいぬのとしけいしにおいてふたえをうちとえはけんじひとえはすなわちこれなり)	品 質	鉄製 鍛造
作者等	和泉守来金道	員 数	1口
時 代	江戸時代 享保十五年 (1730)	寸 法 等	刃長 76.0cm 反り0.9cm
作品概要	<p>近世の山城鍛冶を代表する三品派・和泉守来金道(五代)の手による太刀。本品は、江戸幕府八代将軍・徳川吉宗(1684~1751)の命により製作された献上刀の影打(予備)である。現在では献上刀は失われており本品のみが現存することから、和泉守来金道の業績を証明する上でも非常に重要である。刀身は健全で反りが浅く、刃長は長めだが全体のバランスに優れ、優美な刀姿を呈する。刃文はやや箱がかった互の目が主体で、匂口は締まって冴えがある。総じて江戸時代の三品派の典型的な作行を示しており、五代目・和泉守来金道の代表作と言って過言ではない。</p>		

<陶磁> (1件)

5 名称	褐釉撫四方茶入 野々村仁清作 (かつゆうなでよほうちゃいれ ののむらにんせいさく)	品 質	施釉陶器
作者等	野々村仁清作	員 数	1口
時 代	江戸時代 17世紀	寸法等	高9.7cm 口径3.2cm 胴径4.4cm 底径3.0cm
作品概要	<p>野々村仁清は、巧みな轆轤の技術を活かし、茶入、茶壺、水指、茶碗、香炉、香合など、茶道具を中心とした洒落た作品を数多く作り出した京焼の陶工である。仁清は、錆絵、染付を施したものと鮮やかな色彩の上絵付けを施した色絵陶器なども知られており、茶壺をはじめとして、蒔絵の技法や狩野派や土佐派の画風取り入れ、金銀彩を用いた優美な作風で知られている。</p> <p>本作は轆轤で円筒形に挽いた後、胴部の四方を押さえて成形し、各面を面取りして仕上げた茶入である。室町時代後期から江戸前期頃までの茶会記を記した『松屋会記』の慶安元年(正保5年・1648)3月25日条、金森宗和の茶会で用いられた茶入について次のような記載がある。「宗和切形トテ、トウ四方也、シマノ袋[茶弁當二入レル為ト云ヘリ、仁和寺やきと也、]」とあり、「宗和切形」つまり宗和の見本に基づいて御室焼の「トウ四方」茶入が作られたことがわかる。本作のような四方茶入などから、「トウ四方」は胴四方のことと考えられ、宗和が茶会で用いた茶入が本作のような形状のものとして推測される。</p> <p>宗和は、仁清が知遇を受けて様々と指導を受けていた人物で、その優美な茶風は公家たちにも好まれていたものであり、本作の独創的な器形は江戸時代前期の好みや茶風を知る上でも極めて重要な作品といえる。京焼における技法を考える上でも重要な作品であり、当館の館蔵品としてふさわしい逸品である。</p> <p>当館は京都の地に所在しており、御室焼を含めた京焼の研究を進め、そうした成果を展示等にも活かしていくことが必要である。そうした点からも本作は欠かすことのできない作品であり、京焼の基準的な作品ともいえる本作を所蔵し、展示、研究に広く活用していきたい。</p>		

<漆工> (1件)

6 名称	木彫交椅(きぼりこうぎ)	品 質	木彫 ニス塗り ベルベット
作者等		員 数	1基
時 代	17世紀	寸法等	幅36.5cm 奥行45.2cm 高73.8cm
作品概要	<p>1640年前後のオランダで作られた折りたたみ式の椅子。当時のオランダで高級輸入品であったインドや東南アジアの黒檀で作られた家具を模し、椀材を彫刻してニス塗っている。座面にはイタリア様式の紅色のベルベットの布を張る。背もたれには挽物製の壺形のパーツを囲むアーチの連続文の上に、前面では頭蓋骨を両脇から挟む二名の天使、背面では三輪の菊のような花をつけた枝、脚部には海獣や唐草などを彫り出し、地となる部分には魚々子地のようなドットを彫っている。天使やメント・モーリを示す頭蓋骨などは、キリスト教に関連するデザインである。17世紀初頭の教会には常設のベンチがなく、裕福な人々は使用人にこうした椅子を持たせて参集したといわれ、そのようすを描写した水彩画も残されている。本品がオランダのディーラーの倉庫にあるあいだに実見した上で意見をくれたオランダ家具史研究の第一人者(Reinier Baarsen氏)によれば、このやや拙い彫刻は、アジアの彫刻を模して17世紀のオランダで作られた木彫家具のグループに属するらしく、なかでも頭蓋骨の表現は珍しいとのことである。</p> <p>当館は、この形の交椅に黒漆を塗り日本製の蒔絵と螺鈿で装飾した特注の輸出漆器を所蔵している。1630年代から40年代にかけて、バタヴィアで暮らしたオランダ東インド会社の上級の商人たちは、平戸や出島の商館を通じて、日本製の高度な蒔絵で器物を装飾する特別注文の術を心得ていた。大型の櫃や小型の裁縫道具入れ、御虎子までもが金銀の美しい草花や楼閣山水図で彩られた。本品のような挽物の連続文で飾った「スペイン風」椅子は17世紀前半のオランダで大流行したもののだが、蒔絵で飾られた例は当館の所蔵品のみである。その折りたたみ式の椅子を展示するにあたり、同型のヨーロッパ製の椅子と隣あわせて並べることで、西洋人の好みに合わせて注文通りの器物を日本で蒔絵し、納品したことが、一目瞭然となる。そのような展示効果の向上が期待されるうえ、価格も安いので、この機会を逃さず入手したいと考えている。</p>		

<染織> (6件)

7 名称	白平絹地銀箔に草花描絵団扇形散らし文様摺箔 (しろへいけんじぎんどうはくにそうかかきえだんせんがたちらしもんようすりはく)	品 質	絹(平絹地・箔・描絵)
作者等		員 数	1領
時 代	江戸時代 19世紀	寸法等	丈144.0cm 桁67.0cm
作品概要	<p>摺箔とは、能装束のうち、女役が内着として着用する装束である。そのため、壺折と呼ばれる特殊な着法をのぞき、着装時には襟回りから僅かにのぞく程度となる。表着ではないため過度に装飾されることは少なく、型紙を用いて糊を置き、金箔または銀箔を貼り付けた繰り返し文様とする作例が一般的である。しかしながらこの摺箔は、団扇形を残して地に銀を摺り詰め、七十以上にも及ぶ団扇形の中に墨絵と彩色絵を取り交えて四季折々の草花や野菜を描いた団扇絵散らしの趣向をとる。団扇絵の中には似通った図様も見受けられるが、周到に布置されているため、それとは気が付かない。摺箔には類例のない極めて凝った一領である。</p> <p>このような摺箔を眺めることができるのは審美眼が高く財力をもった家と察せられるが、それを証するように、附属する独特の量紙と貼紙から、本作は加賀藩前田家に伝来したことが判明する。前田家伝来能装束は、野村美術館や大倉記念館など各所に分蔵されており、製作年代や着用にあふくしい演目など様々な文字情報を記す量紙が附属することで重要視されている。この摺箔にも「姥捨其外老女もの着付ノ求塚の坪折 隅田川着付など」との墨書があり、老女役の着付などに着されたことがうかがわれる。</p>		

8 名称	紅絹縮地伊達紋繡小袖 (べにきぬちぢみじだてもんぬいこそで)	品 質	絹(絹縮地・刺繡)
作者等		員 数	1領
時 代	江戸時代 18世紀	寸法等	丈155.0cm(総丈160.0cm) 桁62.0cm(総桁63.0cm)
作品概要	<p>伊達紋とは、冢紋とは異なり、花鳥や器物など好みのモチーフで構成された洒落紋のことである。天ぷりな桜の伊達紋を刺繡した「斜格子菊青海波文様振袖」(京都丸紅株式会社蔵 享保15年<1730>寄進銘)が最初期の作例として知られ、このほかの作例も、「格子に幟旗文様小袖」(松坂屋コレクション)など、いずれも18世紀の製作にかかると考えられる。さらに18世紀には、『袖鏡』(明和六年<1769>刊)のように伊達紋ばかりを集めた雛形が発刊されており、伊達紋を入れた小袖は18世紀に流行したと考えて良いだろう。本作は、縦方向にしぼが現れる絹縮と呼ばれる生地を紅染めにし、五つ紋の位置に御簾と梅を組み合わせた伊達紋を、的確な繡技で表現した一領で、裏地は紅平絹である。</p> <p>なお、本作は染織品を扱う古美術商として活躍し、自らも蒐集研究をしたことで名高い野村正治郎の旧蔵品で、野村が覚書を記した量紙が附属する。その記述によれば、本作は昭和六年六月に日本橋三越で開催された西鶴記念展覧会の出品作である。</p>		

9 名称	白絹子地文字入花折枝文様繡帯 (しろしゆすじもじいりはなおりえだもんようぬいおび)	品 質	絹(絹子地・刺繡)
作者等		員 数	1筋
時 代	江戸時代 18世紀	寸法等	長335.0cm 幅16.5cm(総幅36.5cm)
作品概要	<p>現在は仕立てを解かれた状態となっているが、本来は芯を入れて二つ折りにし、周囲を縫い閉じた帯であった。白絹子地に金糸と紫絹糸を交互に置いて、右から「音羽山 遅桜 春夏相坂 関」の文字が繡い取られる。これらの文字から、この帯は「音羽山 卯花かきにおそ桜 春と夏とやあふ坂の関」(『広本拾玉集』)の一首に取材しており、文字の下に繡い取られる花折枝は、文字では示されない卯の花と推測できる。</p> <p>結び締めることで劣化が進む帯は、着物に比して現存作例が極めて少ない。現存遺品からも肖像画からも、桃山時代から江戸時代にかけて帯幅は次第に広がる傾向が指摘できるが、この帯は仕立て幅16.5cmと古様を示しており、18世紀の作例の可能性が高い。</p>		

10 名称	紺縮緬地海老文様友禪掛袷紗 (こんちりめんじえびもんようゆうぜんぞめかけふくさ)	品 質	絹 (縮緬地・友禪染)
作者等		員 数	1枚
時 代	江戸時代 19世紀	寸法等	縦59.0cm (総縦60.0cm) 横57.0cm (総横58.0cm)
作品概要	京都の旧家に調査に訪れると、婚礼衣裳や祝着とともに、掛袷紗を目にする事が多い。現代ではほぼ使用の機会を失ってしまったが、かつては慶弔いずれにおいても、進物は広蓋に納め袷紗を掛けて届けるのが作法であった。このように儀礼の場に用いる掛袷紗は、格式が求められる品であったため、格の高い技法である綴織や刺繍の作例が多い。しかし、江戸時代後期になると、吉祥文様をあらわした友禪染の品も相当数製作されるようになった。本作も、正月の縁起物である伊勢海老を上下二段に配している。裏地は紅平絹で、四隅のうちの二筋が残る紅と紺の絹糸房も当初のものであろう。		

11 名称	淡黄綸子地文字入松竹梅文様繡掛袷紗 (うすきりんずじもじりしょうちくばいふばこもんようぬいかけふくさ)	品 質	絹 (綸子地・刺繍)
作者等		員 数	1枚
時 代	江戸時代 (18世紀)	寸法等	縦63.5cm 横61.0cm
作品概要	夫婦和合を寿ぐ能曲「高砂」の二文字が繡い取られていることから、婚礼の進物に添えた掛袷紗だろう。花菱亀甲と宝尽文様を織り出した淡黄色の綸子地を用い、全体に松竹梅の折枝を、中央に登龍門文様の文箱を記し、「高」「砂」の二文字とともに、すべて刺繍で表現する。紅平絹の裏地は後補。刺繍掛袷紗としては、徳川綱吉が側室の瑞春院(お伝の方 1658~1738)に贈った進物に添えたという三十一枚(重要文化財 興福院蔵)が著名だが、これはその伝統を受け継ぐものの、文様が小ぶりなことで充填密度が低いことから、やや時代の下の18世紀半ばの作例と考えられよう。富裕な町家においても刺繍掛袷紗は用いられたが、その図様は鶴亀・貝桶・狸々など類型的である。本作のように、文箱に大ぶりの文字を入れる品は珍しく、高位の人物の特注品とみなされる。		

12 名称	紫紹地花鳥虫籠文様繡振袖 (むらさきろじかちようむしかごもんようぬいふりそで)	品 質	絹 (紹地・刺繍)
作者等		員 数	1領
時 代	明治時代 (19~20世紀)	寸法等	丈134.0cm 衿52.5cm 袖丈76.0cm
作品概要	京都国立博物館では、田村伎都子氏からの166点もの寄贈品を中心に、子どものきものが収蔵品の核のひとつとなっている。このたび購入した振袖は、田村伎都子コレクションでは作例の少ない公家女子の衣裳である。中裁の単衣振袖で、鮮やかな紫縮緬地を背景に、上半身には夾竹桃に雀を、下半身には秋草に虫籠をすべて刺繍であらわしている。このような刺繍のみで文様を表現する小袖は、公家では御繡御召と呼ばれ、儀礼に着用する品とされる。生地は紫、刺繍糸の赤といった鮮やかな色彩は化学染料によるもので、明治時代には上流階級に好んで用いられた。「花笠文様振袖」(1甲716)「破亀甲鶴梅折枝文様振袖」(1甲757)「繡に菊折枝文様振袖」(1甲758)と同じ伝来で、明治天皇の内親王所用と伝える。明治時代から戦前にかけて、旧華族制度の中で着用された公家小袖は、洋装の浸透と時を同じくしていることもあって洋装との使い分けなど詳細は明らかになっていない。宮廷文化に関わる作品は、京都に所在する当館の要であり、研究や展示のためにもぜひ収蔵品に加えるべき作例であると考え購入した。		

(2) 寄贈 (117件)

<絵画> (100件)

1 名称	吉野川操筏図 (よしのがわそうばつず)	品 質	紙本墨画淡彩
作者等	赤松雲嶺筆	員 数	1幅
時 代	昭和8年 (1933)	寸法等	211.0×111.0cm
作品概要	赤松雲嶺 (1892~1958) は大阪市生まれ。小山雲泉・姫島竹外に師事。大正4年文展で「溪山清趣」が初入選、以後帝展・新文展・日展などで活躍。また12年日本南画院同人となり、画塾墨雲社を主宰した。1933年の第12回日本南画院展出品作。		

2 名称	道成寺 (どうじょうじ)	品 質	絹本着色
作者等	織田観潮筆	員 数	6曲1双
時 代	明治~昭和時代 20世紀	寸法等	各171.5×345.0cm
作品概要	織田観潮 (1889~1961) は東京生まれ。尾竹国観に師事し、帝展・文展等に出品。歴史画、特に物語の世界を得意とした。本作は、道成寺に伝わる安珍・清姫伝説を主題とする。		

3 名称	夕顔 (ゆうがお)	品 質	絹本着色
作者等	浅見松江筆	員 数	6曲1双
時 代	大正時代 20世紀	寸法等	各177.7×375.6cm
作品概要	浅見松江 (1886~1969) は東京生まれ。上村松園・寺崎広業・松岡映丘に師事。大和絵調の歴史・人物画を得意とし、現代女性像も多く描いた。帝展に入選多数。文展でも活躍した。本作は、『源氏物語』第4帖「夕顔」、源氏が夕顔の花を手折らせた際、邸内にいた童女が扇にのせて差し上げるよう隨身に差し出している様子を描く。室内には、夕顔らの姿が見える。有職故実に通じた松岡映丘に学んだ松江らしい装束の描写などに見所がある。目黒雅叙園旧蔵。		

4 名称	女歌舞伎 (おんなかぶき)	品 質	絹本着色
作者等	浅見松江筆	員 数	2曲1隻
時 代	昭和2年 (1927)	寸法等	115.5×150.6cm
作品概要	1927年の第8回帝展出品作。出雲の阿国によって創始されたかぶき踊りを模倣した女歌舞伎を描く。かぶき者の姿や衣装の表現には、当館所蔵の「阿国歌舞伎図屏風」や狩野長信筆「花下遊楽図屏風」(東京国立博物館蔵)などのいわゆる初期風俗画を参照した様子がかがえ、特に館蔵品との関連性が認められる点でも意義深い作品と言える。		

5 名称	細川ガラシャ（ほそかわがらしゃ）	品 質	絹本着色
作者等	浅見松江筆	員 数	1面
時 代	昭和5年（1930）	寸 法 等	215.0×114.0cm
作品概要	1930年の第11回帝展出品作。目黒雅叙園旧蔵。明智光秀の娘で細川忠興に嫁いだ玉（玉子）、洗礼名ガラシャを描く。ガラシャがキリシタンであったことは現在では周知の事実だが、そのことが日本で広く認知され、ガラシャがキリシタンの姿で描かれるようになったのは丁度この頃からのことだったとされる。その意味では、教会らしき場所で祈りを捧げる姿でガラシャを描く本作は、近代における歴史上の人物イメージの生成過程という観点からも重要な作品であると言える。		

6 名称	琴（こと）	品 質	絹本着色
作者等	浅見松江筆	員 数	1幅
時 代	昭和7年（1932）	寸 法 等	165.5×166.8cm
作品概要	1932年の第13回帝展出品作。琴の稽古をする妹を見守る姉を描く。着物の柄、色彩が見事である。		

7 名称	龍宮玉の井（りゅうぐうたまのい）	品 質	絹本着色
作者等	生田花朝筆	員 数	1面
時 代	大正13年（1924）	寸 法 等	145.0×53.0cm
作品概要	生田花朝（1889～1978）は大阪生まれ。菅橋彦・北野恒富らに師事、大和絵・風俗人物画などを学ぶ。『古事記』『日本書紀』に見える山幸彦の伝説に取材した作品。海幸彦から借りた釣り針を亡くした山幸彦は、海神の宮門前の井戸（玉の井）に水を汲みに来た海神の娘豊玉姫と出会う。本作はその時の豊玉姫の姿を描いたもの。花朝のやまと絵研究、美人画研究の成果を示す作品として重要である。1924年の第3回白耀社展出品作。		

8 名称	踊子（おどりこ）	品 質	絹本着色
作者等	井口華秋筆	員 数	2曲1双
時 代	大正15年（1926）	寸 法 等	各164.5×183.4cm
作品概要	井口華秋（1880～1930）は京都生まれ。竹内栖鳳に学び、西山翠嶂・西村五雲とならんで栖鳳塾の三羽鳥とうたわれた。1926年の第6回日本自由画壇展出品作。トンボと蝶の羽をつけた踊り子の姿は当時よく見られたものらしく、同時代の高島華宵の作品にもよく似た踊り子の姿が描かれている。ハリウッドで映画出演を果たした女優砂田駒子がモデルとされる。着物美人が主流だった当時の日本画としては異色のモダンガールを描いた作品で、当時から46歳の中堅画家による「若返りの勇気」という皮肉とも賞賛とも取れる評を得た話題作であった。		

9 名称	春秋（しゅんじゅう）	品 質	絹本着色
作者等	菊池華秋筆	員 数	6曲1双
時 代	昭和7、8年（1932、33）頃	寸 法 等	各200.5×416.0cm
作品概要	菊池華秋（1889～1946）は山形県生まれ。初め黒木華郷、のちに川合玉堂に師事。文展・帝展で入選を重ねる。池田輝方と親交があった。大正時代末から昭和戦前期は、近世初期風俗画に対して大きな注目が集まった時期だったが、本作もそうした画壇の潮流を背景に、春秋の花を愛する江戸時代風の女性の姿を描いている。目黒雅叙園旧蔵。		

10 名称	花見（はなみ）	品 質	絹本着色
作者等	池田輝方筆	員 数	6曲1隻
時 代	明治～大正時代（20世紀）	寸 法 等	162.0×368.0cm
作品概要	池田輝方（1883～1921）は東京の生まれ。水野年方・川合玉堂に学び、美人画・風俗画を得意とした。花見を楽しむ女性の一行を描く。旧福富太郎コレクションで、『日本屏風絵集成 第17巻』（講談社）所収。		

11 名称	伝説当麻曼荼羅之図（でんせつたいままだたのず）	品 質	絹本着色
作者等	池田龍甫筆	員 数	1幅
時 代	明治～大正時代（20世紀）	寸 法 等	240.5×167.5cm
作品概要	池田龍甫（1885～1974）は盛岡の生まれ。上京して寺崎広業に師事。東京美術学校在学中に文展初入選を果たし、以後文展・帝展に出品を重ねる。戦後は岩手で後進の育成に尽力した。1930年の第11回帝展出品作。蓮の糸を用いて当麻曼荼羅を一晚で織り上げたという中将姫伝説を主題とする。		

12 名称	孔雀（くじゃく）	品 質	絹本着色
作者等	池田洛中筆	員 数	2曲1双
時 代	昭和12年（1937）	寸 法 等	各167.7×179.2cm
作品概要	池田洛中（1903～82）は京都の生まれ。京都市立絵画専門学校で学んだのち、堂本印象・川端龍子に学ぶ。風景・花鳥画を得意とし、1936年龍子の青龍社社人に推挙、青龍社解散後は個展を中心に活動した。1937年の第2回京都市美術展覧会出品作。		

13 名称	女と三味線（おんなとしゃみせん）	品 質	紙本着色
作者等	磯田長秋筆	員 数	1面
時 代	明治～大正時代（20世紀）	寸 法 等	159.2×74.5cm
作品概要	磯田長秋（1880～1947）は東京生まれ。小堀鞆音に師事。明治31年、安田鞆彦らと紫紅会（のちの紅児会）を結成。大正4年文展で「住の江」が3等賞。帝展委員。歴史人物画を得意とした。		

14 名称	一途（いちず）	品 質	紙本着色
作 者 等	北澤映月筆	員 数	1面
時 代	昭和54年（1979）	寸 法 等	117.9×97.6cm
作品概要	北澤映月（1907～90）は京都の生まれ。上村松園、土田麦僊に師事。院展を中心に活躍し、昭和16年日本美術院同人となる（女性としては小倉遊亀に続く二人目の同人）。歴史上の女性を多く描き、45年「わねと茶々」が内閣総理大臣賞を受賞した。1979年の第64回院展出品作。道成寺の安珍・清姫伝説を思わせる女性の姿を描いている。		

15 名称	葉鶏頭（はげいとう）	品 質	絹本着色
作 者 等	伝木谷千種筆	員 数	2曲1隻
時 代	大正時代（20世紀）	寸 法 等	168.3×168.0cm
作品概要	木谷千種（1895～1947）は大阪の生まれ。はじめ南画、のち北野恒富、菊池契月に美人画を学び、美人画の女流中堅作家として活躍。画面一杯に鶏頭を描く本作は、美人画を多く手掛けた千種としては珍しい画題であり、印章は千種所用のものと思われるが印付が悪く筆者の確定は保留としたい。		

16 名称	寛永美人之図（かんえいびじんのず）	品 質	絹本着色
作 者 等	北野恒富筆	員 数	1幅
時 代	大正～昭和時代（20世紀）	寸 法 等	128.6×42.3cm
作品概要	北野恒富（1880～1947）は金沢の生まれ。稲野年恒に師事。明治43年文展で「すだく虫」が初入選。大正3年からは院展に出品。同6年日本美術院同人。また大正美術会、大阪美術会を結成。大阪を拠点に独特の美人画を描いた。		

17 名称	美人（読書）（びじん どくしょ）	品 質	絹本着色
作 者 等	伊東成錦筆	員 数	1幅
時 代	大正～昭和時代（20世紀）	寸 法 等	128.6×42.3cm
作品概要	伊東成錦（1897～？）は、大阪で活躍した島成園に師事した画家。		

18 名称	猛鷲（もうしゅう）	品 質	紙本着色
作 者 等	木島櫻谷筆	員 数	1幅
時 代	明治時代（20世紀）	寸 法 等	188.2×46.5cm
作品概要	木島櫻谷（1877～1938）は京都の生まれ。今尾景年に学ぶ。文展で明治40年の第1回から第6回まで連続受賞。大正4年京都市立絵画専門学校（現京都市立芸大）教授をつとめた。背景の木々の描写は、同時代に京都画壇の人気を二分したと言われる竹内栖風の作風にも通じる筆触を生かしたもので、対照的に鷲の描写は緻密で櫻谷の写生の成果がうかがわれる。		

19 名称	春の庭（はるのにわ）	品 質	紙本着色
作 者 等	井上五朗筆	員 数	2曲1隻
時 代	昭和9年（1934）	寸 法 等	183.0×187.0cm
作品概要	井上五朗（1905～？）は、京都市立絵画専門学校で学ぶ。帝展を中心に出品し京都で活動。京都市展出品作か。		

20 名称	常磐御前之図 （ときわごぜんのず）	品 質	絹本着色
作 者 等	上島鳳山筆	員 数	1幅
時 代	明治時代（19～20世紀）	寸 法 等	116.5×50.7cm
作品概要	上島鳳山（1875～1920）は岡山の生まれ。はじめ円山派の流れを汲む木村貫山に学び、ついで西山完瑛・渡辺祥益に師事。義朝の側室だった常盤が、平治の乱で義朝が謀叛人となり殺害されたのち、三人の子を連れて都を逃れ大和国へ落ちていく姿を描く。円山派の技法を身に付けた鳳山らしい佳品。		

21 名称	建礼門院得度図 （けんれいもんいんとくどず）	品 質	絹本着色
作 者 等	植中直斎筆	員 数	1幅
時 代	昭和17年（1942）頃か	寸 法 等	113.3×116.5cm
作品概要	植中直斎（1885～1977）は奈良の生まれ。はじめ大阪で深田直城に、のちに上京して橋本雅邦に師事。また田中智学に日蓮宗の教義を学ぶ。大正2年、山元春挙に入門。文展、帝展などで活躍。仏教画や歴史風俗画を得意とした。昭和5年（1930）の第11回帝展に同画題作（「建礼門院」）を出品しており、本作はその後に制作された別バージョンと見られる。壇ノ浦の戦いで平家が敗れたのち、吉田山近くの坊に入り、長楽寺の僧印西を導師として落飾する建礼門院の姿を描く。		

22 名称	蝶の女達 （ちょうのおんなたち）	品 質	油彩、キャンバス
作 者 等	斎藤真一筆	員 数	1面
時 代	昭和55年（1980）	寸 法 等	97.0×145.5cm
作品概要	斎藤真一（1922～94）は岡山の生まれ。東京美術学校で学んだのち、静岡・岡山中で美術教師をしながら制作を行い、36歳でパリに留学。藤田嗣治と親交を深める。誓女、さらには明治期の遊郭に関心を寄せ、『明治吉原細見記』『絵草子吉原炎上』などを執筆、これらは五社英雄監督の映画「吉原炎上」（1987年）の原作となった。本作は明治の吉原で働く女性たちを描いたもので、暗いトーンの中に9人の女性像が浮かび上がる。斎藤が得意としたモチーフである。1985年に西武美術館ほかで開催された斎藤真一の回顧展（「斎藤真一 明治吉原細見記」展）への出品歴がある。		

23 名称	若衆 (わかしゅう)	品 質	絹本着色
作者等	北野恒富筆	員 数	1幅
時 代	昭和55年(1980)	寸法等	129.1×36.2cm
作品概要	1918年の現代名家新作画幅展出品作。		
24 名称	夕涼み (ゆうすずみ)	品 質	絹本着色
作者等	岡田壺中筆	員 数	2曲1隻
時 代	大正11年(1922)頃か	寸法等	183.0×187.0cm
作品概要	岡田壺中は、1914年、松本楓湖の門下生で今村紫紅を慕う日本画家たちによって東京で発足した赤曜会のメンバー。同会には、速水御舟、小茂田青樹らも所属。		
25 名称	舞踊図 (ぶようず)	品 質	絹本着色
作者等	小方華圃筆	員 数	1幅
時 代	明治～大正時代(20世紀)	寸法等	167.4×95.6cm
作品概要	小方華圃(1880?～1925)は大阪生まれ。はじめ円山派の高谷篁園に入門、のちに京都で竹内栖鳳に師事する。文展・帝展で入選したほか、大阪美術展覧会などでも活躍。現在知られる華圃作品の中では完成度の高い大作として貴重。		
26 名称	鬼曳宝鈴図下絵 (おにひきほうれいずしたえ)	品 質	墨・ペン・鉛筆、紙
作者等	狩野芳崖筆	員 数	1幅
時 代	明治時代(19～20世紀)	寸法等	23.8×33.5cm
作品概要	本作は、ポストン美術館所蔵の「鬼曳宝鈴図」の図案製作に際して描かれた1点と見られる。これは、ビゲローの依頼による銀の胸飾の図案で、海野勝珉の甥美盛の回想から、この図案に基づく胸飾りの製作は勝珉に依頼されたことがわかる。胸飾りそのものは所在不明となっているが、図案はポストン美術館に残っている。芳崖の弟子で四天王に数えられる高屋肖哲による模本(金沢美術工芸大学美術工芸研究所蔵)も確認されている。		
27 名称	扇取 (おうぎとり)	品 質	絹本着色
作者等	亀永吾郎筆	員 数	2曲1隻
時 代	大正15年(1926)	寸法等	186.0×200.0cm
作品概要	亀永吾郎(1890～1955?)は、山口の生まれ。鍋木清方の弟子。1926年の第7回帝展出品作で、目黒雅叙園旧蔵品。扇を取り合う遊戯を楽しむ桃山時代風の人物を描く大作。		
28 名称	星夜舟遊 (せいやしゅうゆう)	品 質	絹本着色
作者等	平井樞仙筆	員 数	1幅
時 代	大正時代(20世紀)	寸法等	124.5×40.9cm
作品概要	平井樞仙(1889～1969)は京都の生まれ。京都美術工芸学校を卒業後、竹内栖鳳に師事。明治40年第1回文展で「宮苑の朝」が入選、大正4年「夏」が2等賞を受賞。以後帝展、新文展に出品する。戦後は後援会の樞推会で制作した。		
29 名称	古城 (こじょう)	品 質	紙本墨画
作者等	平井樞仙筆	員 数	6曲1双
時 代	昭和時代(20世紀)	寸法等	各165.8×370.2cm
作品概要	平井樞仙(1889～1969)は京都の生まれ。京都美術工芸学校を卒業後、竹内栖鳳に師事。明治40年第1回文展で「宮苑の朝」が入選、大正4年「夏」が2等賞を受賞。以後帝展、新文展に出品する。戦後は後援会の樞推会で制作した。		
30 名称	夜ざくら (よざくら)	品 質	紙本着色
作者等	柴田晩葉筆	員 数	1幅
時 代	昭和8年(1933)	寸法等	104.0×85.5cm
作品概要	柴田晩葉(1885～1942)は天津の生まれ。文展・帝展で入賞を重ねるが、終戦を待たずに逝去し、戦後の日展で活躍することなくその名声は長らく忘れられていた。その正当な評価は今後委ねられている作家の一人である。1933年の第34回早苗会出品作。大津市の桜の名所として知られる長等公園を描いたものという。		
31 名称	波濤之図 (はとうのず)	品 質	絹本着色
作者等	平井樞仙筆	員 数	1幅
時 代	明治時代(20世紀)か	寸法等	102.2×35.8cm
作品概要	平井樞仙(1889～1969)は京都の生まれ。京都美術工芸学校を卒業後、竹内栖鳳に師事。明治40年第1回文展で「宮苑の朝」が入選、大正4年「夏」が2等賞を受賞。以後帝展、新文展に出品する。戦後は後援会の樞推会で制作した。		

32 名称	朝霧 (あさぎり)	品 質	絹本着色
作者等	不二木阿古筆	員 数	2曲1隻
時 代	昭和15年(1940)	寸法等	167.5×179.0cm
作品概要	不二木阿古(1896~1943)は兵庫県の生まれ。はじめ島御風に師事、のち北野恒富門に入り10余年の後、堂本印象門に転じた。旧帝展文展に数度入選。昭和12年に「将棋親旧」を出品し特選を得、16年無鑑査となり、印象塾東丘社に重きをなした。1940年の紀元二千六百年奉祝展出品作。朝霧の中、花などを担いで売りに出る大原女の姿を描いている。		

33 名称	小倉山 (おくらやま)	品 質	絹本着色
作者等	吉田秋光筆	員 数	6曲1双
時 代	大正10年(1921)	寸法等	各166.8×372.4cm
作品概要	吉田秋光(1887~1946)は金沢の生まれ。東京美術学校を卒業後、松岡映丘に師事し大和絵を学ぶ。大正6年文展に「伊勢物語」が初入選、8年以後は帝展にも出品。古典に取材した作品を発表する。11年「秋のけはひ」が帝展特選となり、13年「伊豆の春」を無鑑査出品。昭和2年帝展委員、4年、8年と審査員をつとめ、帝展、新文展に出品を続けた。一方、革新日本画会に出品。13年幹事として日本画院結成に参加、同会会員となる。また10年には映丘を盟主として結成された国画院に参加、同人として活動した。1921年の第3回帝展出品作。藤原定家の小倉山荘を描いている。戦前に絵葉書となった著名作。		

34 名称	伊勢物語 (いせものがたり)	品 質	絹本着色
作者等	吉田秋光筆	員 数	2曲1双
時 代	大正6年(1917)	寸法等	各179.8×218.0cm
作品概要	1917年の第11回文展出品作。主題は、『伊勢物語』23段「筒井筒」のいわゆる河内越えの場面と見られる。嘯月美術館旧蔵。		

35 名称	平宗盛 (たいらのむねもり)	品 質	絹本着色
作者等	堀井香坡筆	員 数	1面
時 代	昭和時代(20世紀)	寸法等	149.0×110.5cm
作品概要	堀井香坡(1897~1990)は京都の生まれ。菊池契月に師事。大正4年文展で「ねがひ」が初入選。以後、文展・帝展を発表の場とする。昭和3年「百万」、4年「夕風」が帝展で特選。美人画を多く描いた。2014年に初公開されるまでまくりの状態で伝わった作品で、何らかの事情で未発表となったと見られる。描かれるのは平宗盛と思われる人物で、手には平家納経を持つ。桜の花びらは、『平家物語』に登場する熊野の一場面、すなわち宗盛の愛妾だった熊野が病床の母に会うため帰郷を願い出るも許されず、清水寺での花見の供を命じられ悲痛な面持ちで舞を披露する場面を思わせる。		

36 名称	対王丸 (たいおうまる)	品 質	絹本着色
作者等	堀井香坡筆	員 数	2曲1隻
時 代	昭和時代(20世紀)	寸法等	148.0×136.0cm
作品概要	対王丸は、説教節の代表作「山椒大夫」に登場する厨子王のこと。躑躅の入った籠が脇に置かれることから、対王丸が山椒大夫のもとを脱出する場面かと思われる。箱書から、昭和8年(1933)から同18年にかけてソウルにある李王家の宮殿のひとつ徳寿宮で開催された日本美術展に出品された作品とわかる。この展覧会は、当時の官展を代表する作家を中心に、日本内地の美術館や機関から借用した作品展示したもので、大日本帝国による植民地支配の一環として行われたものだった。この展覧会には、速水御舟筆「炎舞」(山種美術館蔵)など現在でもよく知られる作品が多く出品された。本作も、画家の代表作のひとつに数えられるだけでなく、こうした植民地支配の歴史ともかかわる作品として貴重である。		

37 名称	元政庵の秋 (げんせいあんのあき)	品 質	絹本着色
作者等	木下青陽筆	員 数	1面
時 代	昭和3年(1928)	寸法等	130.2×137.0cm
作品概要	木下青陽(1901~66)は滋賀の生まれ。竹内栖鳳門下の西山翠嶂に師事。1928年の第9回帝展出品作。元政庵は、江戸時代初期の日蓮僧元政上人が建立した深草の瑞光寺のこと。現在も、本作に描かれるのと変わらないたたずまいを見ることができる。		

38 名称	月下美人 (げっかびじん)	品 質	絹本着色
作者等	松田富喬筆	員 数	1幅
時 代	大正8年(1919)頃	寸法等	174.0×70.5cm
作品概要	松田富喬(生没年不詳)は愛知県の生まれ。北野恒富に画を学ぶ。「主婦之友」の表紙や、月桂冠の広告などを手がけたポスター画家として知られるが、恒富に師事した大正時代にはこうした絵画作品も制作していた。黒い着物を着た女性の姿が、背後から月光を浴びて妖艶に浮かび上がる。富喬の肉筆美人画としては珍しい大作としても貴重。		

39 名称	つれづれ	品 質	絹本着色
作者等	小方華圃筆	員 数	1幅
時 代	大正7年(1918)	寸法等	157.6×56.3cm
作品概要	小方華圃(1876/80~1925)は大阪の生まれ。はじめ高谷華圃、のち竹内栖鳳に師事。文展・帝展で入選したほか、大阪美術展覧会などでも活躍。本作は1918年の異画会展出品作。		

40 名称	双鷺図 (そうろず)	品 質	絹本着色
作者等	三浦打魚筆	員 数	1幅
時 代	昭和時代 (20世紀)	寸 法 等	129.5×41.8cm
作品概要	三浦打魚は昭和時代に活躍した画家。		

41 名称	秋の夜長物語 (あきのよながものがたり)	品 質	絹本着色
作者等	窠本一洋筆	員 数	1幅
時 代	大正8年 (1919)	寸 法 等	157.0×50.9cm
作品概要	窠本一洋 (1893~1952) は京都の生まれ。山元春挙に師事し、その画塾早苗会に入る。本作は1919年の第1回帝展出品作。秋の夜長物語は、南北朝時代の男色稚児物語。比叡山の僧桂海と、三井寺の稚児梅若との悲恋、それをめぐって起きた三井寺と比叡山の争いを主題とする。本作は、両寺の争いののち瀬田川に入水することになる梅若の姿を描いている。背後に観音が描かれるのは、梅若が実は石山寺の観音の化身であったという筋書きを反映したものと考えられる。もとは3幅対として制作・出品されたもので、京都国立近代美術館に所蔵される左右幅には三井寺と延暦寺の争い、雲居寺に籠る桂海を描いている。		

42 名称	楚蓮香 (それんこう)	品 質	絹本着色
作者等	佐藤光華筆	員 数	1幅
時 代	大正7年 (1918)	寸 法 等	215.0×93.6cm
作品概要	佐藤光華 (1897~1944) は京都の生まれ。大正5年 (1916)、京都市立美術工芸学校絵画科卒業。大正8年 (1919) 同絵画専門学校卒業。菊池契月に師事した。1918年の第12回文展出品作。唐時代、長安一の美女と言われた楚蓮香を描く。戦前に絵葉書となっている。		

43 名称	ゆめ	品 質	絹本着色
作者等	佐藤光華筆	員 数	1幅
時 代	大正~昭和時代 (20世紀)	寸 法 等	183.8×85.6cm
作品概要	佐藤光華 (1897~1944) は京都の生まれ。大正5年 (1916)、京都市立美術工芸学校絵画科卒業。大正8年 (1919) 同絵画専門学校卒業。菊池契月に師事した。		

44 名称	天女図 (てんによず)	品 質	絹本着色
作者等	三浦北峽筆	員 数	1幅
時 代	明治38年 (1905) 頃	寸 法 等	145.8×84.0cm
作品概要	三浦北峽は寺崎広業門下の画家。		

45 名称	蛭狩 (ほたるがり)	品 質	絹本着色
作者等	三木翠山筆	員 数	1幅
時 代	昭和時代 (20世紀)	寸 法 等	155.0×50.5cm
作品概要	三木翠山 (1887~1957) は兵庫県の生まれ。明治36年上京し竹内栖鳳に師事。第7回文展に「朝顔」が初入選となり、引続き毎年入選をつづけ、帝展でも入選5回、昭和7年第13回帝展以来無鑑査待遇となった。美人、風俗画を得意とする。滞米中美人画の個展を開き、メトロポリタン美術館から終生名誉会員の称を贈られた。		

46 名称	舞姿 (まいすがた)	品 質	絹本着色
作者等	三谷十系子筆	員 数	1面
時 代	昭和2年 (1927)	寸 法 等	92.4×68.5cm
作品概要	三谷十系子 (1904~92) は兵庫県の生まれ。西山翠嶂に師事。昭和3年帝展で初入選。同39年日展で「若人の朝」が文部大臣賞、同44年「高原の朝」で芸術院賞を受賞。少女を題材とした作品が多い。女子美大学長もつとめた。1927年江月会出品作。		

47 名称	鸚鵡 (おうむ)	品 質	紙本着色
作者等	水上泰生筆	員 数	1幅
時 代	昭和時代 (20世紀)	寸 法 等	166.0×74.5cm
作品概要	水上泰生 (1877~1951) は福岡県の生まれ。寺崎広業に師事。大正3年「琉球の花」、同4年「禪太の夏」が文展三等賞となる。同5年上京。昭和2年帝展委員。写実的な花鳥画を得意とした。		

48 名称	稚児文殊 (ちごもんじゅ)	品 質	絹本着色
作者等	佐々木尚文筆	員 数	3曲1隻
時 代	昭和3年 (1928)	寸 法 等	240.0×145.0cm
作品概要	佐々木尚文 (1890~1970) は岐阜県の生まれ。岐阜市伊奈波の誓願寺に寄寓、住職雄山端倫の紹介により川合玉堂に入門。書生として玉堂宅に住み込み、玉堂の長流画塾に学ぶ。1915年第9回文展に初入選以来文展・帝展で活躍。第11回帝展では特選となり、翌1931年には帝展推薦を受けた。1945年長野市に疎開、以後同地に在住した。1928年の第9回帝展出品作。		

49 名称	富嶽夜景 (ふがくやけい)	品 質	絹本着色
作者等	邨田丹陵筆	員 数	1幅
時 代	明治時代 (20世紀)	寸 法 等	69.5×98.2cm
作品概要	邨田丹陵(1872~1940)は東京の生まれ。土佐派の画家川辺御楯に画を学ぶ。寺崎広業らとともに日本青年絵画協会を結成、以後同協会展やバリ万博、日本美術協会展などで受賞を重ねた。金刀比羅宮の表書院には、円山応挙の障壁画と並んで、丹陵が明治35年(1902)に本作とほぼ同図様の富士山図を床貼付絵として描いている。金刀比羅宮から制作を依頼されるにいたった経緯は明らかでないが、丹陵はこれに先立つ1895年の内国勸業博覧会に「富士巻狩図」を出品しており、富士山を得意画題としていたという認識があった可能性も考えられている。本作は、金刀比羅宮の障壁画に近い時期の制作であったと思われる、土佐派を学びつつも、特に陰影表現に西洋画の手法を取り入れた丹陵の様式をよく示す優品。		

50 名称	美人図 (びじんず)	品 質	紙本着色
作者等	矢澤弦月筆	員 数	1面
時 代	明治~大正時代 (20世紀)	寸 法 等	113.0×59.5cm
作品概要	矢澤弦月(1886~1952)長野県の生まれ。久保田米僊、寺崎広業に師事。東京美術学校卒業後、松屋百貨店意匠部に務めながら作画、大正2年第7回文展褒章で画壇に出た。以後官展系作家として帝展、日展審査員4回、昭和25年日展参事となり、川崎小虎、薦谷竜岬らと「霧天会」を創立した。文部省在外研究調査員として欧州留学、また美校、東京女子高師各講師、日本美術学校教授などを歴任。		

51 名称	湖上展望 (こじょうてんぼう)	品 質	絹本着色
作者等	山口玲照筆	員 数	2曲1隻
時 代	昭和7年(1932)	寸 法 等	207.0×198.0cm
作品概要	山口玲照(1894~1979)は京都の生まれ。山口華揚の兄。菊池芳文・菊池契月に師事。大正元年「今朝の秋」で文展初入選、以後も官展を中心に活躍、おもに花鳥を描いた。昭和39年京都小御所の襖絵を制作。1932年の第13回帝展出品作。		

52 名称	春秋 (しゅんじゅう)	品 質	絹本着色
作者等	山下竹斎筆	員 数	6曲1双
時 代	大正~昭和時代 (20世紀)	寸 法 等	各166.1×369.0cm
作品概要	山下竹斎(1885~1973)は京都の生まれ。山元春挙に師事。明治44年文展に「漁歌」が初入選、大正5年には「桃の里」が特選。昭和2年帝展委員となる。春挙ゆずりの風景画を得意とした。		

53 名称	鳥 (からす)	品 質	紙本着色
作者等	菊池芳文・菊池契月筆	員 数	6曲1双
時 代	明治~大正時代 (20世紀)	寸 法 等	各165.5×372.6cm
作品概要	菊池芳文(1862~1918)は大坂の生まれ。四条派の幸野樸嶺に学び、花鳥画を得意とした。内国絵画共進会などで受賞を重ね、京都画壇で活躍。文展審査員、京都絵画専門学校教授、帝室技芸員。菊池契月(1879~1955)は京都の生まれ。菊池芳文の養子。文展で7回受賞。四条派に大和絵の技法も加えた歴史画・人物画で知られる。昭和7年京都市立絵画専門学校長。芸術院会員。銀地に水墨で鳥を描いた作品で、芳文・契月の合作。契月は月のみを描いたかと思われる。		

54 名称	旧都の月 (きゅうとのつき)	品 質	絹本着色
作者等	乾南陽筆	員 数	6曲1双
時 代	大正7年(1918)	寸 法 等	各174.0×360.0cm
作品概要	乾南陽(1870~1940)は高知の生まれ。東京美術学校を卒業、橋本雅邦・山名貫義・下村観山に師事、一時教職にあつた。文展、帝展に数回出品したほか、聖徳記念絵画館の「五箇条御誓文之図」を制作。1918年の第12回文展出品作品。『平家物語』に取材する。福原運都のち、廃れ行く京都を訪れた左大臣徳大寺実定が、旧都にとどまる姉の藤原多子のもとを訪ねる場面を描く。荒れ果てた庭の様子、琵琶を奏でる多子など、物語の内容を忠実に踏まえた描写となっている。「旧都の都」との題は、実定が平安京の月を見たいと思い旧都へ赴いたことを踏まえたもの。		

55 名称	あんこ樁 (あんこつばき)	品 質	紙本着色
作者等	横尾芳月筆	員 数	2曲1隻
時 代	昭和時代 (20世紀)	寸 法 等	177.0×174.0cm
作品概要	横尾芳月(1897~1990)は福岡市の生まれ。上京し池田輝方、薦谷龍岬の門下を経て伊東深水に入門する。大正15年帝展に初入選、以後官展で入選を重ねる。また、筑前美術会、県美術協会の創設に参加、郷土の日本画界にも功労があった。戦後も日展を中心に70歳頃まで出品を続けたが、その後は個展や在住の千葉県展などを舞台に活躍した。美人画に始まり、一時、斬新な人物像や京都の庭園などのテーマにも取り組んだが、後年再び美人画に回帰した。		

56 名称	夏立つ頃 (なつたつころ)	品 質	絹本着色
作者等	吉田秋光筆	員 数	6曲1双
時 代	大正7年(1918)	寸 法 等	各176.5×362.8cm
作品概要	1918年の第12回文展出品作。目黒雅叙園旧蔵品で、『日本屏風絵集成 第17巻』所載。松岡映丘に師事した秋光らしいやまと絵表現により、平安風俗を描く画家の代表作。		

57 名称	老櫛五喜 (ろうかいごき)	品 質	紙本着色
作者等	菅井雲樵筆	員 数	2曲1双
時 代	昭和16年(1941)	寸法等	各170.5×163.0cm
作品概要	菅井雲樵(1889~1975)は兵庫県の生まれ。幼少の頃から画家をめざし、森脇雲溪、岸浪柳溪に師事し、花鳥山水を得意とする。日本美術協会に所属1941年の第113回日本美術協会展出品作。柏の木と鶴を描くことで、長寿と喜びを寓意する吉祥画題である。		

58 名称	鷹 (たか)	品 質	紙本着色
作者等	杉山哲郎筆	員 数	2曲1双
時 代	昭和36年(1961)	寸法等	各163.0×170.5cm
作品概要	杉山哲郎(1905~70)は白士会会員。		

59 名称	雪景 (せっけい)	品 質	絹本着色
作者等	白井烟嵩筆	員 数	1幅
時 代	大正時代(20世紀)	寸法等	158.0×50.5cm
作品概要	白井烟嵩(1894~1976)は愛知県の生まれ。大正6(1917)年、南画家松林桂月に師事。同9年第2回帝展に「幽栖」が初入選した。以後も帝展に出品をつづけ、戦後は日展に出品。		

60 名称	秋冬山水 (しゅうとうさんすい)	品 質	絹本金地着色
作者等	鈴木松年筆	員 数	6曲1双
時 代	大正5年(1916)	寸法等	各168.5×378.0cm
作品概要	鈴木松年(1848~1918)は京都の生まれ。鈴木派の祖鈴木百年の長男で、弟に鈴木百翠、鈴木万年がいる。上村松園の最初の師としても知られる。大正5年の作で、目黒雅叙園旧蔵品。「今蕭白」と称される豪放な作風とは異なり、穏健かつ端正な山水図。当館は松年が明治時代に描いた「群仙図屏風」も所蔵しており、画家の幅広い主題・画風を示すことができる点でも重要。		

61 名称	淑女 (しゆくじょ)	品 質	絹本着色
作者等	立石春美筆	員 数	2曲1隻
時 代	昭和6年(1931)	寸法等	189.5×206.0cm
作品概要	立石春美(1908~94)は佐賀の生まれ。伊東深水に師事。昭和6年帝展で「淑女」が初入選する。戦後は日展で活躍、同21年「年寄」、同26年「山荘の朝」が特選となる。1931年の第12回帝展出品作。23歳の春美が初入選した記念すべき作品。羽子板模様の着物に島田髷を結う姉と、松竹梅に鶴の着物姿の妹が並び、居住まいを正した姿である。丹念に描かれた絨毯や、リボンをつけた妹の髪型などが昭和初期のモダンな風俗を伝える。「最後の美人画家」と称された春美の出世作であり代表作。		

62 名称	苗取る朝 (いねとるあさ)	品 質	紙本着色
作者等	田中針水筆	員 数	4曲1隻
時 代	昭和23年(1948)	寸法等	177.7×236.6cm
作品概要	田中針水(1902~79)は小樽の生まれ。小樽中学卒業後上京し、川合玉堂に師事。弟子たちのほとんどは風景を描いたが、針水は入門後間もなく事故で足を失ったため、写生に同行することが出来ず、やむなく人物を描いたという。帝展・日展を中心に活躍。1948年の第4回日展出品作。		

63 名称	送春 (そうしゅん)	品 質	絹本着色
作者等	谷角日沙春筆	員 数	1幅
時 代	昭和6年(1931)	寸法等	184.0×106.7cm
作品概要	谷角日沙春(1893~1971)は兵庫の生まれ。菊池契月の塾に学んだ。第12回文展に「智恵頂ける児」が初入選、以後主に官展に出品した。1931年の第12回帝展出品作。兵庫髷に結った江戸初期風の遊女が、花見の席で三味線と撥を手にする姿を描く。毛氈の赤と、小袖の白緑の対比が鮮やかに映える。歌麿風の面貌描写も含め、浮世絵をかなり意識していると思われる。		

64 名称	雪松 (ゆきまつ)	品 質	紙本墨画金泥
作者等	都路華香筆	員 数	6曲1双
時 代	明治時代(20世紀)	寸法等	各126.8×262.6cm
作品概要	都路華香(1870~1930)は京都の生まれ。幸野樸嶺に師事。第1回より文展に出品し、大正5年「壺輪」が特選。京都市立美術工芸学校、京都市立絵画専門学校の校長などをつとめた。竹内栖鳳らとともに樸嶺門下の四天王に数えられ、門下に富田溪仙らがいる。本作は、円山応挙筆「雪松図」(三井記念美術館蔵)にならった作品。明治時代前期に三井家所蔵品として紹介され、明治時代後期には山本春拳らも同種の作品を制作している。		

65 名称	鹿 (しか)	品 質	紙本着色
作者等	都路華香筆	員 数	6曲1双
時 代	明治36年(1903)頃	寸法等	各153.0×358.2cm
作品概要	「都路華香展」(2006年)出品作。動物表現とともに、波の描写にも独特の様式を見せる。		

66 名称	波千鳥 (なみちどり)	品 質	絹本墨画
作者等	都路華香筆	員 数	6曲1双
時 代	明治44年(1911)頃	寸法等	各122.2×260.6cm
作品概要	シアトル美術館に類似作品が所蔵されており、そちらは2006年の京近美展に出品されている。華香が30~40歳代にかけて大きなテーマとして扱った波の表現が見どころ。		

67 名称	如意輪観音図 (にょいりんかんのんず)	品 質	絹本着色
作者等	都路華香筆	員 数	1幅
時 代	大正6年(1917)頃	寸法等	123.9×41.7cm
作品概要	おおらかな趣が漂う、大正期の様式的特徴を示す作。		

68 名称	閑雲野鶴 (かんうんやかく)	品 質	絹本着色
作者等	都路華香筆	員 数	6曲1双
時 代	大正3年(1914)	寸法等	各166.6×369.0cm
作品概要	1914年の第8回文展出品作。1932年に恩賜京都博物館で開催された都路華香遺作展にも出品されている。その時点では、京都の呉服商内貴清兵衛が所蔵しており、『日出新聞』の記事から、祇園祭の宵山に行われる屏風祭において名物屏風のひとつとなっていたことが知られる。古典的な画題によりながら壮大な気宇を示した作として名高い、画家の代表作のひとつである。1932年出版の『華香墨蹟』にひととき大きく取り上げられていることから、それが確かめられる。当館には、華香が1901年の第7回新古今美術品展覧会に出品した「李太白」が収蔵されており、これらの作品が加わることで華香の作品群が一層の厚みを増すこととなる。		

69 名称	行春 (ゆくはる)	品 質	絹本着色
作者等	蔦谷龍岬筆	員 数	1幅
時 代	大正~昭和時代(20世紀)	寸法等	141.0×50.4cm
作品概要	蔦谷龍岬(1886~1933)は弘前の生まれ。生家はこの地方の草分けといわれた造花店で、藩政期「猪股」という京都から来たお抱え細工師。明治35年父の造花の弟子の一戸や橘平蔵をたよって上京、寺崎広業に師事した。明治39年東京美術学校日本画科選科入学。明治43年同校卒業。大正4年第9回文展初入選。第10回文展は落選するが、第11回文展に入選、翌年12回展で「御堂の朝」で特選となり、無鑑査をはさんで第2回、3回帝展で連続特選となり委員に推挙され、帝展で審査員をつとめた。昭和5年東奥美術社創立会長。昭和8年、目黒雅叙園の壁画を制作した。		

70 名称	舞妓林泉下絵 (ぶぎりんせんしたえ)	品 質	朱、紙
作者等	土田麦僊筆	員 数	1面
時 代	大正13年(1924)頃	寸法等	53.0×30.7cm
作品概要	土田麦僊(1887~1936)は佐渡の生まれ。はじめ鈴木松年、竹内栖鳳に学び、国画創作協会創立に参加、新日本画開拓運動を起こす。西洋近代絵画の様式と大和絵伝統様式の総合に新境地を求めた。帝国美術院会員。麦僊の代表作「舞妓林泉(ぶぎりんせん)」(東京国立近代美術館蔵)の下絵。同種の下絵が複数残っている。		

71 名称	追撃 (ついげき)	品 質	絹本着色
作者等	寺田芦秋筆	員 数	2曲1隻
時 代	昭和12年(1937)	寸法等	175.5×183.0cm
作品概要	寺田芦秋は院展を中心に活動した画家。1937年の第2回京都美術展覧会出品作。		

72 名称	雪中鷺 (せっちゅうわし)	品 質	紙本墨画
作者等	都路華香筆	員 数	1面
時 代	明治時代(19~20世紀)	寸法等	65.5×67.0cm
作品概要	都路華香(1870~1930)は京都の生まれ。幸野樺嶺に師事。第1回より文展に出品し、大正5年「埴輪」が特選。京都市立美術工芸学校、京都市立絵画専門学校の校長などをつとめた。竹内栖鳳らとともに樺嶺門下の四天王に数えられ、門下に富田溪仙らがいる。		

73 名称	鸚鵡小町 (おうむこまち)	品 質	絹本着色
作者等	中村大三郎筆	員 数	2曲1隻
時 代	昭和15年(1940)	寸法等	176.0×181.0cm
作品概要	中村大三郎(1898~1947)は京都の生まれ。西山翠嶺に学び、美人画を多く描いた。本作は、1940年の紀元二千六百年奉祝展出品作。『日本美人画全集』(集英社)所載。謡曲「鸚鵡小町」は、絶世の美女とうたわれた小野小町が齢百を迎えるころ、天皇から賜った歌を一字だけ変えてそのまま返歌としたので鸚鵡小町と呼ばれたという内容。老いの刻まれた小町の顔がたたえる幽玄な気品、静寂な高貴さの表現に優れ、大三郎の代表作のひとつに数えられる。長らく行方不明であったが、2014年の展覧会で久し振りに公開された。		

74 名称	春雪 (しゅんせつ)	品 質	絹本着色
作者等	中村大三郎筆	員 数	1幅
時 代	昭和時代(20世紀)	寸法等	54.0×39.5cm
作品概要	『日本美人画全集』(集英社)所載。		

75 名称	うらなひ	品 質	絹本着色
作者等	中村大三郎筆	員 数	1幅
時 代	大正時代 (20世紀)	寸 法 等	169.7×64.5cm
作品概要	唐輪番を結った遊女が花札占いに興じる様子を描く。大正期に特有の退廃的な気分をたたえた艶麗な美人画である。清廉な女性像を多く描いた大三郎としては異色の作として貴重。		

76 名称	長生宝宴 (ちょうせいほうえん)	品 質	絹本着色
作者等	中村大三郎筆	員 数	1幅
時 代	大正13年 (1924)	寸 法 等	48.0×57.0cm
作品概要	長生宝宴は、朝鮮古代の舞踊。1924年に高島屋で開催された第2回の大三郎個展に出品。		

77 名称	舞妓 (まいこ)	品 質	絹本着色
作者等	中村大三郎筆	員 数	1幅
時 代	昭和時代 (20世紀)	寸 法 等	127.8×35.6cm
作品概要	中村大三郎 (1898～1947) は京都の生まれ。西山翠嶂に学び、美人画を多く描いた。		

78 名称	補綴 (ほてつ)	品 質	紙本着色
作者等	織田観湖筆	員 数	2曲1隻
時 代	昭和13年 (1938)	寸 法 等	176.0×182.0cm
作品概要	織田観湖 (1889～1961) は東京生まれ。尾竹国観に師事し、帝展・文展等に出品。歴史画、特に物語の世界を得意とした。本作は、1938年の第2回新文展出品作。題の補綴は破れなどの繕いをするを言う。『万葉集』所載の棕櫚部弟女「草枕旅の丸寝の紐絶えれば我が手と付けろこれの針持し」に基づき、上代の防人の姿を描いたと作者自身が記している。		

79 名称	狐 (きつね)	品 質	絹本着色
作者等	永峰秀湖筆	員 数	1幅
時 代	明治時代 (19世紀)	寸 法 等	155.4×84.5cm
作品概要	永峰秀湖 (1859/57～1895) は会津の生まれ。松本楓湖に師事。内国絵画共進会などに出品するも夭折。		

80 名称	桜雲 (さくらぐも)	品 質	絹本着色
作者等	林文塘筆	員 数	1幅
時 代	大正時代 (20世紀)	寸 法 等	62.5×71.0cm
作品概要	林文塘 (1882～1966) は京都の生まれ。前川文嶺・山元春挙に学び、山水画を得意とする。文展入選後、井口華秋・池田桂仙らと反帝展の自由な制作をめざして日本自由画壇を結成した。八瀬の景観を描いた作。		

81 名称	新涼 (しんりょう)	品 質	紙本着色
作者等	林文塘筆	員 数	1幅
時 代	昭和2年 (1927)	寸 法 等	77.0×89.0cm
作品概要	1927年の第7回自由画壇展出品作。		

82 名称	秋圃 (しゅうほ)	品 質	絹本金地着色
作者等	林文塘筆	員 数	2曲1双
時 代	明治～大正時代 (20世紀)	寸 法 等	各168.4×182.0cm
作品概要	近代における「琳派」観形成期の作であり、その様相をよく示している。		

83 名称	むすめ	品 質	絹本着色
作者等	原田千里筆	員 数	1面
時 代	大正～昭和時代 (20世紀)	寸 法 等	27.1×24.3cm
作品概要	原田千里は、大正・昭和期の大阪画壇を代表する女性画家木谷千種の弟子。		

84 名称	燕舞 (えんぶ)	品 質	絹本着色
作者等	樋口富麻呂筆	員 数	2曲1隻
時 代	大正12年 (1923)	寸 法 等	174.7×166.4cm
作品概要	樋口富麻呂 (1898～1981) は大阪生まれ。北野恒富に師事し、17歳の時第9回文展に「つやさん」が初入選。その後帝展・院展に出品を重ねる。京都市立絵画専門学校に入学し、同時に西山翠嶂に師事、青甲社同人となる。庶民的な風俗を好んで描く一方、仏教美術にも関心を抱き、インド・バリ島への取材旅行を行っている。晩年は人物や仏教に題材を求めた作品を多く手がけ、大西良慶・清水寺貫主をテーマに描いた個展「百寿説法展」(高島屋)などを開いている。		

85 名称	京劇(昭君出塞) (きょうげき しょうくんしゅっさい)	品 質	絹本着色
作者等	玉舎春輝筆	員 数	1面
時 代	大正14年(1925)	寸法等	80.0×90.0cm
作品概要	玉舎春輝(1880~1947)は岐阜の生まれ。春挙・栖鳳門下を中心に設立された日本自由画壇の中心メンバーとして活躍した。本作は、1925年の第3回自由画壇展出品作。中国の古典舞踊に取材し、中国前漢の元帝の宮女で匈奴との和親のため呼韓邪単于に嫁し、その地で没した王昭君を描く。		

86 名称	童子 (どうじ)	品 質	紙本着色
作者等	中村道太郎筆	員 数	2曲1双
時 代	昭和時代(20世紀)	寸法等	168.2×184.4cm
作品概要	中村道太郎は大三郎の弟。		

87 名称	美人春秋(春の野) (びじんしゅんじゅう はるのの)	品 質	絹本着色
作者等	三木翠山筆	員 数	2曲1双
時 代	昭和時代(20世紀)	寸法等	各162.4×182.4cm
作品概要	三木翠山(1887~1957)は兵庫県の生まれ。明治36年上京し竹内栖鳳に師事。第7回文展に「朝顔」が初入選となり、引続き毎年入選をつづけ、帝展でも入選5回、昭和7年第13回帝展以来無鑑査待遇となった。美人、風俗画を得意とする。		

88 名称	布袋 (ぼてい)	品 質	紙本墨画金泥
作者等	西山翠嶂筆	員 数	1幅
時 代	大正~昭和時代(20世紀)	寸法等	76.3×89.5cm
作品概要	西山翠嶂(1879~1958)は京都の生まれ。竹内栖鳳に師事。昭和8年母校京都市立美術工芸学校の校長、12年芸術院会員。青甲社を主宰し、堂本印象・上村松篁らを育てた。32年文化勲章。		

89 名称	西王母 (せいおうぼ)	品 質	絹本着色
作者等	北上聖牛筆	員 数	1幅
時 代	大正時代(20世紀)	寸法等	165.5×87.0cm
作品概要	北上聖牛(1891~1970)は北海道の生まれ。京都で竹内栖鳳に師事した。		

90 名称	舞姫 (まいひめ)	品 質	絹本着色
作者等	高谷篁園筆	員 数	1幅
時 代	大正5年(1916)	寸法等	154.5×80.3cm
作品概要	高谷篁園(1870~?)は京都の生まれ。四条派の流れを汲み、花鳥画を得意とした。		

91 名称	かごめかごめ	品 質	絹本着色
作者等	吉田秋光筆	員 数	2曲1隻
時 代	明治~大正時代(20世紀)	寸法等	162.3×162.0cm
作品概要	吉田秋光(1887~1946)は金沢の生まれ。東京美術学校を卒業後、松岡映丘に師事し大和絵を学ぶ。		

92 名称	国民合唱歌 (こくみんがっしょうか)	品 質	紙本着色
作者等	戸島光基筆	員 数	1面
時 代	昭和18年(1943)	寸法等	193.5×102.0cm
作品概要	戸島光基(1909~1963)は、京都の日本画家。東福寺の塔頭龍吟庵を拠点に制作した。父は漆画家の戸島光阿弥。1933年の第14回帝展をはじめとして、新文展・日展に出品を重ねた。本作は、1943年の第6回新文展出品作。日本放送協会(NHK)が大衆歌謡の向上のためにラジオで普及をはかった新作歌曲である国民歌謡に引き続き、1941~45年まで放送された国民合唱を主題とする。こうした音楽の放送は、この時期戦争遂行手段として動員されたものであり、本作のように一見時代風俗を描いただけに見えるような作品も、広義の戦争画に含み得る。		

93 名称	遊楽図屏風 (ゆうらくずびょうぶ)	品 質	紙本金地着色
作者等		員 数	6曲1双
時 代	江戸時代(17世紀)	寸法等	各74.1×244.6cm
作品概要	野外での酒宴と輪舞の様子を対として描いた屏風。桃山時代~江戸時代初期のいわゆる近世初期風俗画盛期の躍動感や華やかさには欠けるが、抑制の効いた丹念な描写に見どころがあり、17世紀半ばから後半頃の制作と考えられる。		

94 名称	春 (はる)	品 質	絹本着色
作者等	村野深秋筆	員 数	1幅
時 代	昭和時代(20世紀)	寸法等	174.0×81.8cm
作品概要	村野深秋は秋田の生まれ。伊東深水に師事。1930年の第11回帝展で初入選した。		

95 名称	江口 (えぐち)	品 質	絹本着色
作者等	大塚春嶺筆	員 数	1幅
時 代	大正2年 (1913)	寸 法 等	120.0×50.5cm
作品概要	大塚春嶺(1861~1944)は京都(園部)の生まれ。深田直城、谷口香嶠に師事、大阪に住した。内国勲業博覧会や日本美術協会展で活躍したほか、歴史風俗画展覧会でも銅牌を受賞。晩年は園部小麦山の麓に居住した。故郷の京都府南丹市園部町の生身天満宮には、杉戸絵や「琴棋書画図屏風」「三十六歌仙」などの作品が所蔵されている。江口は、謡曲「江口」で西行法師と歌問答をしたとされる遊女妙のこと。普賢菩薩の生まれ変わりとなれ、本作でも象の背に乗る姿で描かれる。		

96 名称	夕涼み (ゆうすずみ)	品 質	絹本着色
作者等	橋本成花筆	員 数	1幅
時 代	明治~大正時代 (20世紀)	寸 法 等	170.3×85.6cm
作品概要	橋本成花(1888~?)は、近代の大坂画壇を代表する女性画家島成園の弟子。遺作のほとんど知られていない成花の作として貴重。芝居小屋や茶屋でにぎわった道頓堀の相合橋からの景観と見られる。		

97 名称	凡影ススキ(秋景図) (ぼんえいすすき しゅうけいず)	品 質	絹本着色
作者等	忝本武雄筆	員 数	2曲1隻
時 代	昭和時代 (20世紀)	寸 法 等	134.6×181.8cm
作品概要	忝本武雄(1902~96)は京都の生まれ。兄は忝本一洋。菊池契月に師事し、帝展・新文展で活躍した。		

98 名称	五人ばやし (ごにんばやし)	品 質	絹本着色
作者等	三宅風白筆	員 数	3曲1隻
時 代	昭和時代 (20世紀)	寸 法 等	117.0×238.2cm
作品概要	三宅風白(1893~1957)は京都の生まれ。日本画家三宅呉暁の次男。山元春挙に師事。昭和5年「花旦」が帝展特選。春挙の没後は画塾早苗会の幹事となり、のち耕人社を結成した。母校京都市立絵画専門学校の助教授をつとめた。本作は、能楽の囃子方を人形化した五人囃子を描く。		

99 名称	虎溪三笑図屏風 (こけいさんしょうずびょうぶ)	品 質	紙本墨画
作者等	伝海北友松筆	員 数	6曲1隻
時 代	江戸時代 17世紀	寸 法 等	106.2×335.8cm
作品概要	友松の印は後捺と見られるが、友松の画風を受け継いだ画家による作であり、画中に大きく描かれた賛は三藐院流の書風を示している。このような画風・書風及び屏風にじかに書を大きく揮毫するという形式から、17世紀前半の制作と考えられ、友松の画風が江戸時代に継承されたことを示す作品として貴重である。		

100 名称	烏帽子折絵断簡(えぼしおりえだんかん)	品 質	紙本着色
作者等		員 数	1幅
時 代	室町~江戸時代 16~17世紀	寸 法 等	縦31.0cm 横20.7cm
作品概要	中世の語り物芸能・幸若舞の演目のひとつ『烏帽子折』を描いた絵の断簡。幸若舞は江戸時代に入り舞台芸能としては衰えるが、演目のテキスト集『舞の本』や絵巻・絵本が存在によってその盛んな受容が知られる。『舞の本』は36番の演目を収録するものが一般的だったが、個別でも入手でき、『烏帽子折』は『大織冠』や『堀河夜討』などと並んで人気があったという。『烏帽子折』は源義経が元服して奥州に向かう道中の話であるが、義経が所有する笛の由来を語る挿話の中で用明天皇が宇佐八幡で流鏝馬をおこなうと八幡神が現れたという場面があり、本断簡はそれに該当するものである。現存中で最古級の烏帽子折物語絵巻貼付屏風(手銭記念館蔵)に時代的に近いことが推定され、幸若舞絵巻・絵本の成立期の作例として重要。		

<彫刻> (3件)

1 名称	銅造薬師如来坐像(どうぞうやくしにょらいざぞう)	品 質	銅造鍍金
作者等	不明	員 数	1軀
時 代	鎌倉時代・13世紀	寸 法 等	総高18.4cm 像高(坐高)10.4cm
作品概要	徳川家康側室のお亀の方念持仏と伝える金銅製の薬師如来坐像		

2 名称	木造日光・月光菩薩立像 (もくぞうにっこう・がっこうぼさつりゅうぞう)	品 質	木造漆箔彩色
作者等	不明	員 数	2軀
時 代	江戸時代・17~18世紀	寸 法 等	像高33.0cm(日光) / 33.2cm(月光)
作品概要	上記薬師如来像の脇侍として江戸時代に造り加えられた日光・月光菩薩像		

3 名称	木造十二神将立像(もくぞうじゅうにしんしょうりゅうぞう)	品 質	木造彩色
作者等	不明	員 数	12軀
時 代	江戸時代・17~18世紀	寸 法 等	像高24.7~26.9cm
作品概要	上記薬師如来の守護神として江戸時代に造り加えられた十二神将立像		

<金工> (2件)

1 名称	口籠 (くちかご)	品質	鉄製 真鍮製 鍛造
作者等		員数	1口
時代	江戸時代 17~18世紀	寸法等	
作品概要	馬の口を覆う口籠。摂食量を制限したり、寝ワラを食べたりするのを防ぐために使用する。竹製の物が多く、本品のように金属製の物は極めて珍しい。『集古十種』に記載されている金属製口籠の類品、ないしはそのものと考えられる。日本の武具・馬具の歴史を考える上で非常に重要な作品である。		

2 名称	銅蠟型鑄物 (どうろうがたいもの)	品質	銅製 鑄造
作者等	長谷川易重 他	員数	19点
時代	明治~昭和時代 19~20世紀	寸法等	
作品概要	本品は、天正年間頃から続く京都鑄物師・長谷川家の手による置物等鑄造製品群。なかでも1915年に米国サンフランシスコにて開催されたパナマ運河世界博覧会に出品された蝦蟇仙人の置物は同博覧会で銅賞を受賞しており、国際的にも高い評価を受けている。写実性の高いこれらの作品は、近代における京都鑄物師の鑄造技術の高さを証明する物である。		

<陶磁> (11件)

1 名称	染付結文香合 (そめつけいもんこうごう) を含む11件	品質	磁器
作者等	永樂保全	員数	11件
時代	江戸時代 (19世紀)	寸法等	
作品概要	江戸時代後期の京焼の陶工、永樂保全作の十件の作品である。奥田頼川やその弟子である欽古堂竜祐、青木木米、仁阿弥道八など、同時代には多くの名工と呼ばれる工人たちが活躍していたが、茶陶を中心として、他の工人たちとはやや異なる作風を確立していつている。京都や紀州のお庭焼などとともに、近江の天津で湖南焼開窯や摂津高槻でのお庭焼開窯など、京都を離れた地域でも積極的に陶作を行っている。保全の作風は交趾(法花)、青磁、古染付、祥瑞、赤絵、金襴手、仁清写、高麗写、など、日本のみならず、当時賞翫されていた中国、朝鮮、東南アジアなどあらゆる陶技に及んでおり、これを写すだけではなく、それら作り上げたやきものを使用する人たちの好みや自身の工夫を取り入れ、単なる模倣をこえた意匠や釉薬などを作り上げ、時代の好みを反映した新しい茶陶を作り上げたものといえる。今回、寄贈いただいた十件の作品は、こうした保全の特徴をよく表したものであり、かつ京焼の流れを考える上でも重要な作品といえる。		

<漆工> (1件)

4 名称	竹製内漆塗花器 (たけせいうちしっぽかき)	品質	竹製 漆塗 金箔
作者等	不明	員数	1口
時代	江戸時代	寸法等	最大径19.0cm 高9.3cm
作品概要	樞太の竹の節を利用した容器。外周の七箇所のみ割れを銀製総で留め、内部には赤茶色の漆を塗ったうえに金箔を押すが、金箔の磨耗が著しい。寄贈者の長谷川氏は代々檀王法林寺の檀家であり、本品は当寺ゆかりの袋中和尚が琉球から持ち帰った品々の一部という。その信憑性は定かではないが、竹の太さから、南方で育生した竹を利用している可能性は高いといえる。金工品の一括とともに寄贈を受けた品。		

【奈良国立博物館】 (計1件)

(1) 編入 (1件)

<絵画> (1件)

1 名称	東大寺大仏蓮弁線刻図模本 宮原柳僊筆 (とうだいじだいでいぶんせんこくずもほん みやはらりゅうせんひつ)	品質	紙本墨画淡彩
作者等	宮原柳僊	員数	1幅
時代	昭和34 (1959) 頃	寸法等	本紙：縦208.5cm 横348.8cm 表具：縦228.8cm 横367.2cm 軸端：左右各4.5cm
作品概要	横長の大きな画面に東大寺の大仏蓮弁 (国宝) に線刻される蓮華蔵世界図を墨線で原寸大に描く。本図は昭和34年 (1959) 以前、当館が画家の宮原柳僊に製作を依頼したもので、宮原が蓮弁の拓本をもとに、欠損部を補いながら模写したものである。全28弁の蓮弁線刻図には少しずつ差異があり、本図は残りのよい13号に加え、複数の蓮弁の図用を参考にして描かれたと推定される。実物と相違する点もあるが、蓮華蔵世界図を明快に紹介するものとして意義深い作品であり、これまでも当館や他館での展示に供されてきた。		

【九州国立博物館】 (計77件)

(1) 購入 (21件)

<絵画> (2件)

1 名称	紫陽花文鳥図 (あじさいぶんちようず)	品質	絹本着色
作者等	司馬江漢筆	員数	1幅
時代	江戸時代 文化5年 (1808)	寸法等	本紙：縦100.0cm 横29.7cm、総寸：縦192.2cm 横42.7cm、軸長47.7cm
作品概要	紫陽花と二羽の文鳥を描く。花鳥は彩色、岩は水墨で表わし、異なる絵画技法の両立が試みられる。とりわけ紫陽花や蛇には明暗をつけて立体感を表現する点が注目される。「七十一翁」の落款から司馬江漢 (1747~1818) が9年の年齢加算を始めた文化5年 (1808) (実年齢は62歳) の制作とわかる。筆者の司馬江漢は、西洋絵画の技術を取り入れた作例を多く残しているが、本図は花鳥に油彩を用いるのみで、構図はむしろ江漢が宋紫石などから学習した沈南蘋風の花鳥画に近く、洋風画スタイルの作例としてはやや珍しい特徴を示す。江漢は晩年油彩を行わなくなり、西洋主題であっても墨画、淡彩が中心になっていくため、本図は希少な晩年期の油彩画として注目に値する。		

2 名称	水辺村童図 (すいへんそんどうず)	品 質	絹本着色
作者等	安田雷洲筆	員 数	1幅
時 代	江戸時代 天保11年(1840)	寸 法 等	本紙：縦95.4cm 横34.8cm、表装：縦162.5cm 横39.9cm、軸長44.9cm
作品概要	前景に竹籠を背負う男性、赤児を負った子どもと犬、川を挟んだ遠景には透視図法（線遠近法）を取り入れた村落と山並みを表わす。雲のかかった空を画面上半分に広々と表わし、画面右の高く枝を張った樹木に一羽の鳥が留まる。その表現には刻線（ハッチング、クロスハッチング）を模した平行線や交差する線が見られるなど、西洋銅版画学習の痕跡が顕著である。落款「天保十一年庚子九月 雷洲安田尚義製」「Willem Van Leiden」により、安田雷洲（?-1859）の円熟期の作例、かつ細緻な描き込みから画家の代表作と位置付けられるものである。		

<書跡> (2件)

3 名称	装飾法華経葉王品断簡 (そうしよくほけきょうやくおうほんだんかん)	品 質	彩箋墨書
作者等		員 数	1幅
時 代	平安時代 12世紀	寸 法 等	本紙：縦24.7cm 横49.0cm、表具：縦114.0cm 横63.0cm、軸長67.8cm
作品概要	『法華経』葉王菩薩本事品第二十三を書写した装飾経の断簡。料紙には金銀の砂子、野毛、切箔、特大の裂箔を蒔き、界線に金の截金を置く。天地には遠山と蓮池が彩色され、多彩な装飾技法に平安時代12世紀の特徴が見られる。本品は紙継を踏がない25行分の断簡であり、諸家に分蔵される断簡の書写形態から、もとは『法華経』全二十八品を1巻ずつ書写した一品経形式の経巻であったことが判明する。一品経は貴族社会における法華講会の大規模化に伴って盛行し、わが国における法華経信仰の展開を知る上で重要な書写形態である。さらに絵画的・工芸的な観賞性に富む料紙を用いた装飾一品経は極めて貴重であり、「善美」と言い表わされる平安時代の信仰と美意識が凝縮された作例といえる。		

4 名称	思溪版大明度経 巻第五 (しけいばんだいまいようどきょうまきだいご)	品 質	紙本墨刷
作者等		員 数	1帖
時 代	中国・南宋時代 12-13世紀刊	寸 法 等	縦29.1cm 横11.5cm 全長921.5cm
作品概要	日宋貿易の代表的な輸入品である宋版大蔵経（木版印刷）で、渡来後、鎌倉幕府御家人によって鹿島神宮（茨城県）に施入された大蔵経のうちの一帖。奥書から、笠間郷（茨城県笠間市）を本拠とした鎌倉幕府御家人の笠間時朝が、建長7年（1255）に常陸国一之宮の鹿島神宮に納めた大蔵経、いわゆる「笠間経」の零巻であることが知られる。同経典群は江戸末期には散逸しており、寺院や故実家、収集家等の手を経た数帖が伝世する。宋版大蔵経の中では、比較的多く日本へ舶載され、現存する思溪版大蔵経（北宋末）の一部だが、中世前期に渡来し、奉納者や施入先が明らかな渡来経典として希少である。		

<金工> (2件)

5 名称	三鈷鈴 (さんこれい)	品 質	銅鑄造
作者等		員 数	1口
時 代	平安時代 12世紀	寸 法 等	高22.4cm
作品概要	銅鑄造、鍍金。鈷・把部と鈴身部を一鑄とする三鈷鈴。中鈷は、わずかに匙面をとりつつ下方に抉りを入れた四面錐形をなす。脇鈷は中央には鋭く鑄をたて、稜角に添って樋を刻み、脇鈷と脇鈷の間にまで延長する。把の鬼目は出の大きな二重瞭で4ヶ所に鑄出し、鬼目の上下に配した連弁帯は、蕊（しべ）と連珠を伴い、把上部は二条の紐帯で約す。一方、把下部の連弁帯は途中で紐帯に約され、下半は鈴身上に間弁付重圍八葉蓮華となつてひろがる。弁先には鑿をやや粗く刻み、魚々子鑿で鑿頭をあらわす。また肩下と裾元にそれぞれ三条の隆帯をめぐらせた鈴身は撫で肩で、下端にむかい樋やかに外反する。張りのある脇鈷、出の大きな鬼目、薄造りで穏やかな裾広がりの鈴身、青味を帯びた鍍金など、古様をよくあらわした平安時代を代表する三鈷鈴である。		

6 名称	重要美術品 六器 (ろつき)	品 質	銅鑄造
作者等		員 数	1口
時 代	平安時代 12世紀	寸 法 等	高4.0cm 径8.1cm
作品概要	銅鑄造、鍍金。高台のついた小碗に台皿を備えた六器。碗は口造りが薄く丈が低くゆつたりとした形姿をとっており、高台から上方に向かい間弁付の素弁八葉蓮華を鑄出す。連弁には中央に鑄を立てつつ三条の弁脈を刻む。蓮華の花先には刻んだ薬（しべ）が胴を巡り、更にその上に隆帯を二条めぐらす。高台裏には轆轤（ろくろ）の挽き目が明瞭に残る。碗を載せる台皿は素文で、碗と同様に轆轤で薄く挽き上げ、極めて薄い高台を取り付ける。薄造りで碗の口が外反し、丈低く安定感のあるところに特徴があり、平安時代にまで遡る連弁飾六器の代表的作例であるばかりでなく、伝世の六器のなかでも最古級の作のひとつとみられる。高野山安養院伝来。		

<染織> (2件)

7 名称	橙縮緬地檜垣に桜文様小袖 (だいだいちりめんじひがきにさくらもんようこそで)	品 質	絹
作者等		員 数	1領
時 代	江戸時代 17世紀末-18世紀初	寸 法 等	丈：149.0cm 衿：61.0cm 袖丈：42.0cm 袖幅：30.0cm 前幅（上前）：23.0cm 衿幅：15.5cm 衿下がり：31.5cm 衿肩あき：9.0cm 衿幅：6.5cm 衿下：70.5cm 後幅：30.0cm 身幅：60.0cm
作品概要	農民歌舞伎の衣裳という伝承のもと山形の鶴岡に伝わった小袖。縮緬地に檜垣と桜の立木文様を型染めで表現している。このような立木文様の小袖は江戸期を通して製作されたが、器物文様と組み合わせられること、腰の上下で文様が連続しないこと、摺匹田（型鹿子）を用いていること、地組織が縮緬であること、左脇にわずかな空間を残した文様配置であること、以上の5点から、元禄期（1688-1704）から正徳期（1711-1716）にかけて製作された小袖（もとは振袖）であると考えられる。当初の地色は淡い黄と思われるが、現在は顔料（鉛丹）にて橙に塗られる。また中綿は除去され、背部分に木綿の裏地が当てられている。舞台衣裳への転用を目的として改変されたと思われる。		

8 名称	紫紋縮緬地松蔭笹に流水文様繻小袖（むらさきもんちりめんじまつぶじささにりゆうすいもんようぬいこそで）	品 質	絹
作者等		員 数	1領
時 代	江戸時代 19世紀	寸 法 等	丈：161.0cm 衿：61.5cm 袖丈：44.5cm 袖幅：33.0cm 前幅（上前）：24.0cm 衿幅：18.0cm 衿下がり：22.5cm 衿肩あき：9.2cm 衿幅：11.0cm 衿下：87.0cm 後幅：57.0cm 身幅：28.5cm 肩から内揚げまでの距離：51.5cm（前身頃）/47.0cm（後身頃）
作品概要	江戸後期の武家女性の小袖。紫の紋縮緬地に王朝文様や文芸意匠などのいわゆる御所解文様を素繻で表現している。刺繻で王朝文様や文芸意匠を表す小袖は江戸後期に盛んに製作されたが、輪子地や紗綾地が多く、本品のように紋縮緬を用いる例は珍しい。また袖が丸く、身八つ口がない形状は古様を示す。類例の中でも古い例であると考えられる。5つ紋には縫織いによる抱き香葉紋が入る。香葉には縦筋が表現されており、鍋島本家の家紋と共通する。汀に立つ松に蔓を絡ませ咲き乱れる藤花の図様からは、能「藤」が想起される。		

<考古> (11件)

9 名称	台形土器（だいがたどき）	品 質	土製
作者等	不明（中部高地～関東）	員 数	1基
時 代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	最大径16.0cm 高7.7cm
作品概要	円筒形の脚に鐔状に張り出した円盤形の天板が付く器台形の土器である。脚部には、沈線で縁取りされた円形の透かし5個が水平方向に展開する。天板中央には黒色漆が付着している。台形土器は、東日本の縄文時代中期を中心に出土し、特に中部高地から関東にかけて集中している。本品のように脚が付くもの以外に、脚が付かない円盤形のものもある。台形土器は、土器製作用台座や供献具等と考えられている。土器製作用台座とすれば縄文時代の土器製作技術を知ることができる資料、供献具とすれば後期・晩期に発達する台付鉢形土器の出現に関わる資料と言える。		

10 名称	浅鉢形土器（あさばちがたどき）	品 質	土製
作者等	青森県つがる市木造亀ヶ岡出土	員 数	1口
時 代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	最大径13.0cm 高4.2cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。外面には塗布された黒色漆が光沢を保って遺存している。漆工文化は、東・東南アジアに分布し、各地で多様に展開した。その歴史は、日本においては縄文時代早期にまで遡る。しかし、有機物が遺存しづらい埋蔵環境の中で塗膜が明瞭に残る漆製品が出土するのは低湿地遺跡に限られる。通常の遺跡では漆が腐朽し痕跡すら残らない場合や、赤色漆の場合には漆に混和されていた赤色顔料が粉状化して残るのみである。		

11 名称	壺形土器（つぼがたどき）	品 質	土製
作者等	不明（東北～北海道西部）	員 数	1口
時 代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	最大径11.0cm 口径5.5cm 高12.0cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器。外面には塗布された赤色漆が光沢を保って遺存している。漆工文化は、東・東南アジアに分布し、各地で多様に展開した。その歴史は、日本においては縄文時代早期にまで遡る。しかし、有機物が遺存しづらい埋蔵環境の中で塗膜が明瞭に残る漆製品が出土するのは低湿地遺跡に限られる。通常の遺跡では漆が腐朽し痕跡すら残らない場合や、赤色漆の場合には漆に混和されていた赤色顔料が粉状化して残るのみである。		

12 名称	台付鉢形土器（だいつきはちがたどき）	品 質	土製
作者等	青森県むつ市川内町宿野不備無出土	員 数	1口
時 代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	最大径20.6cm 高8.1cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。外面には塗布された赤色漆が光沢を保って遺存している。漆工文化は、東・東南アジアに分布し、各地で多様に展開した。その歴史は、日本においては縄文時代早期にまで遡る。しかし、有機物が遺存しづらい埋蔵環境の中で塗膜が明瞭に残る漆製品が出土するのは低湿地遺跡に限られる。通常の遺跡では漆が腐朽し痕跡すら残らない場合や、赤色漆の場合には漆に混和されていた赤色顔料が粉状化して残るのみである。		

13 名称	土偶（どぐう）	品 質	土製
作者等	伝青森県平川市石郷出土	員 数	1軀
時 代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	長11.0cm 幅11.5cm 厚5.5cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道西部にかけて分布する亀ヶ岡文化の土偶である。亀ヶ岡文化の土偶は肥大化した眼部表現を持つ遮光器土偶がよく知られているが、小さな目や人間らしい顔つきを持つ本品は遮光器土偶が型式変化により眼部が縮小化した時期のものである。仮面を身に着けたような扁平な顔面、髪結いと髪飾り風の表現を持つ頭部、首飾りのような刺突文のある隆帯を廻らせた頭部、動物の毛皮風の衣装を想像させる刺突文を有する体部など、縄文時代の装いの様子を具体的に知ることができる資料である。		

14 名称	注口土器（ちゅうこうどき）	品 質	土製
作者等	岩手県岩手郡葛巻町江刈五日市出土	員 数	1口
時 代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	最大径25.8cm 高13.8cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。口縁部と底部を若干欠失するものの、大型の注口土器で、底部全面に施された雲形文が特徴的である。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、精巧な造りの土器、土製や石製の祭祀具が多数生産されたが、本品はその特質をよく示す作例である。		

15 名称	壺形土器（つぼがたどき）	品 質	土製
作者等	岩手県岩手郡葛巻町江刈五日市出土	員 数	1口
時 代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	最大径14.2cm 高12.5cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。口縁部を欠失するものの、精緻な表面研磨、胴部の雲形文、全面の赤彩が特徴的である。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、精巧な造りの土器、土製や石製の祭祀具が多数生産されたが、本品はその特質をよく示す作例である。		

16 名称	台付鉢形土器（だいつきはちがたどき）	品 質	土製
作者等	岩手県岩手郡葛巻町江刈五日市出土	員 数	1口
時 代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	最大径13.6cm 高10.4cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。胴部を一部欠失するものの、均整のとれた器形、薄作り器壁、台部の透し、精緻な入組文と羊歯状文が特徴的である。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、精巧な造りの土器、土製や石製の祭祀具が多数生産されたが、本品はその特質をよく示す作例である。		

17 名称	壺 (つぼ)	品 質	土製
作者等	東瀬戸内から畿内地域	員 数	1口
時 代	弥生時代 前3世紀	寸 法 等	口径12.5cm 底径8.0cm 胴部最大径21.0cm 器高22.0cm
作品概要	弥生時代前期に西日本地域で広くみられる弥生土器の形式である遠賀川式土器の壺である。平底で小形の底部から、外反しながら立ち上がりつつ広がり、胴中位で内湾して頸部は強くすぼまり、口縁部直下で強く外湾して口縁部に至る。頸部には断面台形の貼付突帯を1条付す。北部九州の遠賀川式壺にみられる口縁部外面の段が突帯に変化したものである。口縁部には2個1対の穿孔を対面の位置に1対ずつ施し、本来は蓋を伴ったことが知られる。これらはいずれも東瀬戸内～畿内地域における定着期の遠賀川式土器にみられる特徴であり、水稲農耕を伴う弥生文化が北部九州より拡散・定着していく過程で、これとともに広がっていく遠賀川式土器が在地化していった過程をよく示す。		

18 名称	獅嚙環頭柄頭・柄頭筒金具 (しがみかんとつつかがしら・つつかがしらつつかなく)	品 質	青銅鑄造 (茎のみ鉄鍛造)、鍍金
作者等	伝奈良県奈良市 (旧大和国添上郡佐保村) 出土	員 数	1組
時 代	古墳時代後期 6世紀	寸 法 等	柄頭:縦4.2cm 横5.4cm 最大厚1.5cm 柄頭筒金具:長5.6cm径3.2×1.6cm
作品概要	もとは装飾大刀の柄の先端部分に装着した環頭柄頭と、環頭柄頭に接して柄を取り囲んだ柄頭筒金具であり、現状では遊離している。柄頭の外環は横長の楕円形を呈し、そのなかに獣面(鬼面)形の中心飾を配する。柄頭の下縁に大刀の茎の破断面が見える。柄頭筒金具は厚さ1ミリ未満の薄板を楕円形に巻いて鍛接した造りをもつ。文様はない。柄頭筒金具のなかには基部で折れた鉄製の茎が残存する。茎は長方形板状を呈する。下縁は弓なりに弧を描く。末端附近の中央を目釘孔が貫通している。		

19 名称	ミニチュア土器 (みにちゅあどき)	品 質	土製
作者等	伝印旛沼北岸地域出土	員 数	30個
時 代	古墳時代 6-7世紀	寸 法 等	高7.5cmほか
作品概要	実用に耐えないほど小形で、フリーハンドで大きめに成形し、成形した痕跡を器の内外表面に多く残したまま焼成する土器群がしばしば、弥生時代から古代にかけて生産される。これを「ミニチュア土器」と呼ぶ。本資料群は古墳時代後期の土師器のミニチュア土器30点である。平底でやや大形の椀形が3点 (いずれも底部に広葉樹の葉のプリントを残す)、丸底でやや大形の椀形が3点、平底で中形の椀形が2点、丸底で中～小形の椀形が18点、小形の高環形が3点、鏝形が1点である。いずれも手づくねで製作され外面に成型時の痕跡をよく残す。出土地は千葉県印旛沼北岸と伝えられ、形状の特徴からも矛盾はない。		

<歴史資料> (2件)

20 名称	豊臣秀吉定書 対馬国宛及び禁制 南海嶋宛 (とよとみひでよしさだめがき つしまのくにあておよびきんぜい なんかいとうあて)	品 質	紙本墨書
作者等		員 数	1巻
時 代	(1)安土桃山時代 文禄2年(1593) (2)安土桃山時代 慶長3年(1598)	寸 法 等	表紙:縦45.3cm 横28.9cm 軸長:49.5cm 本紙:(第1紙)縦45.3cm 横60.2cm (第2紙)縦45.3cm 横59.0cm
作品概要	(1)文禄2年(1593)正月付、対馬国宛の「定」、(2)慶長3年(1598)3月17日付、南海嶋宛の「禁制」、計2通の豊臣秀吉朱印状が綴られて1巻に成巻されたもの。いずれも「文禄・慶長の役」に関連するものである。 (1)は5箇条からなる「定」で、軍規を遵守することを求めるものである。秀吉は天正20年6月に朝鮮半島への渡海を延期し、7月に大政所死去のため名護屋から大坂に戻った。再び名護屋に戻ったのが11月で、翌文禄2年3月の渡海に向けて兵糧と船舶の確保を奉行衆に命じている。(1)は秀吉が渡海の準備を進めるなかで、改めて朝鮮での軍勢の規律を求めたもので、朝鮮への兵站線上にある対馬に発給されたものと位置付けられる。 (2)は3箇条からなる「禁制」で、(1)と同じく軍規を守ることを命じたものである。宛所の南海島は、朝鮮半島の南岸の島で、倭城(日本型城塞)があった。南海島の倭城は、越冬の駐留拠点とするために、慶長2年10月中旬頃から半島南岸の各地に築かれた城塞の一つであり、宗義智が守っていた。城塞普請は突貫工事で進められ、用材と労働力の確保が急がれた。(2)は、城塞普請のための用材を確保できるよう、また労働力となる人々が逃散しないよう、軍規を守らせるために発給されたものと考えられる。 本品は、海軍軍人、貴族院議員、日本画家であった下條正雄(号:桂谷、1842-1920)の旧蔵品である。桂谷が入手する以前の経緯は不明であるが、明治に入ってから対馬宗家が売却したものだと推測される。当館所蔵の重要文化財「対馬宗家関係資料」の文書箱のうち、箱3(P18)の蓋上書には、「入 一朝鮮御陣之時秀吉公方対馬国乱妨禁制之御朱印朝鮮国南海嶋禁制之御朱印一巻」とある。「入」という字が付けられたものは、明治11年(1878)に対馬から東京へ送られたものである。当館の「対馬宗家関係資料」にはこの巻子は含まれておらず、行方不明である。近代に入って流出した「宗家文書」は、卷子装から掛幅装に改装される場合が多いが、本品は卷子装の状態が維持されたまま、現在まで伝わったという点で大変貴重である。		

21 名称	凌煙閣功臣図 (りょうえんかくこうしんず)	品 質	紙本墨刷
作者等	市河寛斎序 沈南蘋跋 谷文晁写・識語 原画:劉源 版元:温古堂(江戸)	員 数	1冊
時 代	江戸時代 文化元年(1804)	寸 法 等	縦29.7cm 横20.3cm
作品概要	凌煙閣功臣図は、貞観17年(643)に唐太宗が閻立本に命じて宮中の凌煙閣に描かせた功臣24人の肖像壁画に由来する。本書は、康熙8年(1669)に蘇州で出版された劉源画『凌煙閣図』(紅葉山文庫旧蔵本・内閣文庫所蔵ほか)を、文化元年(1804)に谷文晁(1763~1840)が復刻した和刻本である。劉源本と比較すると、人物贊や観音大士、関羽像が省略され、功臣の順番も異なる。また、劉源本の蕭震、佟彭季、沈白、袁木ウ【金+方】4人の序文が市河寛斎の序文に差し替えられ、沈南蘋の跋文と文晁自身の識語が加えられている。南蘋の跋については日本における偽作とする説がある一方で、陳洪綬の功臣像画冊(個人蔵)にある南蘋の跋との関係が指摘されている。		

(1) 寄贈 (56件)

<書跡> (4件)

1 名称	ゆきて見ぬ (ゆきてみぬ)	品 質	紙本墨書
作 者 等	小山やす子筆	員 数	1面
時 代	平成14年(2002)「現代の書 新春展」出品	寸 法 等	額：縦121.2cm 横180.7cm
作品概要	<p>小山やす子(コヤマヤスコ、1924-2019)は、現代の書壇を代表する書家の一人。川口芝香(1896-1981)に師事。日展会員賞(平成8年<1996>)、毎日書道展文部科学大臣賞(平成14年<2002>)、第44回毎日芸術賞(平成15年<2003>)、恩賜賞・日本芸術院賞(平成21年<2009>)を受賞し、また旭日小綬章(平成15年<2003>)、紺綬褒章(平成25年<2013>)を受章するなど、輝かしい業績を誇る。さらに平成28年(2016)には、書分野で女性初の文化功労者に選出された。毎日芸術賞を受賞した「伊勢物語屏風」(成田山書道美術館所蔵)は、小山自身として平成を代表する仮名作品の一つである。</p> <p>小山の書は、ダイナミックでのびのびとした華やかな書風が特徴で、「大字仮名運動」の爛熟期にあつて、仮名の新しい表現を展開した。公募展などの展覧会における作品発表が主流となった今日、小山は大規模な会場での展覧会での展示を意識した大型作品を制作したが、単に額や文字を大きくするのは、仮名の表現性を志向した。小山は若い頃に東京国立博物館に足繁く通い、古筆を熱心に鑑賞しており、古筆の丁寧な臨書と古典の内容理解が重要であると述懐しているが、小山の作品は、こうした経験に裏付けされた古筆の格調高さ、特別に誂えた紙・表具裂を用いた現代的な造形感覚とが調和したものであるといえる。</p> <p>本品は平成14年(2002)に毎日書道会の「現代の書 新春展」に出品したもので、『貫之集』所収の和歌3首を書写したものである。書き始めは行頭低く、字を小粒にするが、中程に至ると行頭を高くし、字を大きく変化させる。この運筆のリズム感、墨の潤、転折により、古典の情感を表現しようとした作品であると位置付けられる。</p>		

2 名称	吹き過ぐる (ふきすぎる)	品 質	彩箋墨書
作 者 等	小山やす子筆	員 数	1面
時 代	平成25年(2013)「毎日書道展」出品	寸 法 等	額：縦78.8cm 横180.8cm
作品概要	<p>小山やす子(コヤマヤスコ、1924-2019)は、現代の書壇を代表する書家の一人。川口芝香(1896-1981)に師事。日展会員賞(平成8年<1996>)、毎日書道展文部科学大臣賞(平成14年<2002>)、第44回毎日芸術賞(平成15年<2003>)、恩賜賞・日本芸術院賞(平成21年<2009>)を受賞し、また旭日小綬章(平成15年<2003>)、紺綬褒章(平成25年<2013>)を受章するなど、輝かしい業績を誇る。さらに平成28年(2016)には、書分野で女性初の文化功労者に選出された。毎日芸術賞を受賞した「伊勢物語屏風」(成田山書道美術館所蔵)は、小山自身として平成を代表する仮名作品の一つである。</p> <p>小山の書は、ダイナミックでのびのびとした華やかな書風が特徴で、「大字仮名運動」の爛熟期にあつて、仮名の新しい表現を展開した。公募展などの展覧会における作品発表が主流となった今日、小山は大規模な会場での展覧会での展示を意識した大型作品を制作したが、単に額や文字を大きくするのは、仮名の表現性を志向した。小山は若い頃に東京国立博物館に足繁く通い、古筆を熱心に鑑賞しており、古筆の丁寧な臨書と古典の内容理解が重要であると述懐しているが、小山の作品は、こうした経験に裏付けされた古筆の格調高さ、特別に誂えた紙・表具裂を用いた現代的な造形感覚とが調和したものであるといえる。</p> <p>本品は平成25年(2013)に「毎日書道展」に出品したもので、西行の『山家集』所収の和歌5首を書写したものである。趣向を凝らした華やかな料紙を用い、非常に鑑賞効果が高い作品である。字の連綿、書と本紙の下絵・装飾のそれぞれの配置、本紙料紙と金銀箔を撒いた染紙との重ね方、料紙の貼り込み位置に小山のバランス感覚が見て取れる。小山が大字作品から小字作品へ移行し、自らの美意識を徹底的に追求した晩年の作品であると位置付けられる。</p>		

3 名称	人はいさ (ひとはいさ)	品 質	紙本墨書
作 者 等	小山やす子筆	員 数	1面
時 代	平成27年(2015)「日展」出品	寸 法 等	額：縦78.8cm 横212.0cm
作品概要	<p>小山やす子(コヤマヤスコ、1924-2019)は、現代の書壇を代表する書家の一人。川口芝香(1896-1981)に師事。日展会員賞(平成8年<1996>)、毎日書道展文部科学大臣賞(平成14年<2002>)、第44回毎日芸術賞(平成15年<2003>)、恩賜賞・日本芸術院賞(平成21年<2009>)を受賞し、また旭日小綬章(平成15年<2003>)、紺綬褒章(平成25年<2013>)を受章するなど、輝かしい業績を誇る。さらに平成28年(2016)には、書分野で女性初の文化功労者に選出された。毎日芸術賞を受賞した「伊勢物語屏風」(成田山書道美術館所蔵)は、小山自身として平成を代表する仮名作品の一つである。</p> <p>小山の書は、ダイナミックでのびのびとした華やかな書風が特徴で、「大字仮名運動」の爛熟期にあつて、仮名の新しい表現を展開した。公募展などの展覧会における作品発表が主流となった今日、小山は大規模な会場での展覧会での展示を意識した大型作品を制作したが、単に額や文字を大きくするのは、仮名の表現性を志向した。小山は若い頃に東京国立博物館に足繁く通い、古筆を熱心に鑑賞しており、古筆の丁寧な臨書と古典の内容理解が重要であると述懐しているが、小山の作品は、こうした経験に裏付けされた古筆の格調高さ、特別に誂えた紙・表具裂を用いた現代的な造形感覚とが調和したものであるといえる。</p> <p>本品は平成27年(2015)に「日展」に出品したもので、『古今和歌集』所収の和歌4首(紀貫之の和歌3首、読み人知らずの和歌1首)を書写したものである。小気味良いリズムで筆を運び、みずみずしい書が展開される。唐草文の裂の縁取りと雲龍紙の台紙は、視線が文字に向かう効果を生み、作品が散漫かつ単調になることを防ぐだけでなく、書に清らかさと爽やかさを添えている。小山が大字作品から小字作品へ移行し、自らの美意識を徹底的に追求した晩年の作品と位置付けられる。</p>		

4 名称	国学本蘭亭序 (こくがくぼんらんていじょ)	品 質	紙本墨拓
作 者 等		員 数	1帖
時 代	(原跡) 中国 東晋時代 永和9年(353) (拓本) 中国 明-清時代 16世紀末-19世紀初	寸 法 等	縦29.2cm 横16.4cm 全長293.2cm
作品概要	<p>「国学本」(または「国子監本」と呼ばれる蘭亭序。明時代・万曆年間(1573-1620)に刻石が出土し、後に宮廷の国学(国子監)に移されたことから、この名で呼ばれる。国学本蘭亭序は、欧陽詢の臨書を刻したといわれる定武蘭亭序の系統とされる。</p> <p>本品は旧蔵者の羅文俊(1789-1850)、その前の所蔵者、及び羅振玉(1866-1940)各々の題簽、計3枚の題簽を冒頭に貼り付ける。また翁方綱(1733-1818)、李宗瀚(1769-1831)、郭尚光(1785-1832)、周爾壻(1792-1859)の跋文を有す。清末民初の名だたる考証学・金石学者、収集家が本品を目にし、本品についての評価を与えている。</p>		

<金工> (7件)

5 名称	水注 (すいちゆう)	品 質	銅
作 者 等		員 数	1口
時 代	高麗時代 12-13世紀	寸 法 等	総高24.5cm、蓋径10.0cm、底径9.5cm
作品概要	<p>朝顔形に開いた太い頸部、肩衝形をなす胸部の肩に細長い注口が付き、蓋に蓮蕾形をした摘みをあしらった丸底の水注。蓋の鏤縁部分と把手には列点唐草を打ち、把手の胸部接合部には尖り花と花枝をそれぞれ線刻する。また、蓋の見込み部分には先の尖った九弁花をめぐる。高麗時代の銅製蓋付き水瓶として典型的な作であり、丸底の肩衝形に鼓胴を立てたような形の本体と低い高台を備えた本品の形式は、わが国で鎌倉時代以降に盛行し唐物茶でも用いられたいわゆる信貴形水瓶の祖型と考えられる。</p>		

6 名称	水瓶（すいびょう）	品 質	銅
作者等		員 数	1口
時 代	高麗時代 12-13世紀	寸 法 等	総高32.5cm、口径9.3cm、底径9.6cm
作品概要	口が上開きで細長い頸部と下膨れの胴、やや裾開きの高台からなる銅製の花瓶。頸部と肩部、胴下半に隆帯が一条ずつめぐる。胴部から頸部にかけて、土中していた際についたと思われる龍目跡が残る。中国・北宋時代から金時代に通称「玉壺春」と呼ばれる種類の長頸瓶があり、わが国でも元徳2年（1330）の針書銘が残る大阪・観心寺所蔵品を基準作として、東京・浅草寺や愛知・岩屋寺所蔵品などに頸と腰に複弁蓮華飾りを施した同様の古例がみられ、一般に徳利形花瓶とも称される。同時代の中国・日本の長頸瓶と比較検討し、その影響関係を窺う上で重要な資料である。		

7 名称	浄瓶（じょうへい）	品 質	銅
作者等		員 数	1口
時 代	高麗時代 12-14世紀	寸 法 等	総高37.0cm、底径8.9cm
作品概要	頂部に尖台と呼ばれる細長い飲み口を設け、胴部の肩に添水口を付けた水瓶。尖台は8面体に面取りし、先端にかけてわずかに細くすぼまる。蓋付きの添水口は短く括れて袋状をなす。浄瓶と呼ばれる水瓶の一種で、インドをはじめ南海各地で使われていたものが仏教伝来とともに東アジアにも伝えられた。特に朝鮮半島においては仏教文化が大きく花開いた高麗時代に盛んに用いられた。宣和5年（1123）に北宋の徐兢が徽宗の使者として訪れた高麗での見聞をまとめた『宣和奉使高麗図経』には、「浄瓶」が水を貯え「貴人、国官、道観、仏寺、民舎」で用いられているとの記載があり、高麗社会に広く受け入れられていたことが分かる。		

8 名称	水浄（すいびょう）	品 質	銅
作者等		員 数	1口
時 代	高麗-朝鮮時代 13-15世紀	寸 法 等	総高23.7cm、口径9.1cm、底径9.3cm
作品概要	口縁部が高く立ち上がり、頸部が細く寸胴形をした特異な形状の水瓶。縁まわりに隆帯2条をもうけるほか、口縁下端に1条、頸部に2条、胴部の肩に2条、中央に3条の沈線をそれぞれめぐらす。高台は非常に高くわずかに末広がりで、底部には轆轤挽きした痕跡が明瞭に残る。高麗時代や朝鮮時代の金属器にはその器形を青磁等に写したものがしばしばあるが、本品のような器形については陶磁類に写しが見当たらず、金属器特有の器形と言っているものである。		

9 名称	亀文象嵌銅筒（かめもんぞうがんどうづつ）	品 質	銅
作者等		員 数	1基
時 代	朝鮮時代 18-19世紀	寸 法 等	径12.0cm、高10.0cm
作品概要	銅板を円筒状に丸め、上下の端部を折り返してつくった筒型の銅器。胴部は太い隆帯で3段にわけられ、真鍮象嵌で上段には雲気文、中段には青海波に吉祥をあらわす正面向きの亀を前後1匹ずつ、下段には青海波をそれぞれあらわす。下段には、等間隔で円形の透かしを6つ設ける。朝鮮半島では古くから金属象嵌が盛んに行われており、特に朝鮮時代には真鍮象嵌が広く用いられ、器物にとどまらず様々な生活用具を飾った。本品の場合、胴全体のみならず口縁の折り返し先にまで真鍮象嵌で埋め尽くされており、朝鮮王朝時代に好まれた真鍮象嵌のあり方を知る上で貴重な資料である。		

10 名称	爵（しゃく）	品 質	銅
作者等		員 数	1口
時 代	朝鮮時代 18-19世紀	寸 法 等	高19.2cm、長16.8cm、最大幅10.2cm
作品概要	爵をかたどった祭器。3本の長く扁平な脚を伴う円筒型の胴部には、中央に沈線が2条めぐり、上辺に湾曲した流とよばれる注口と尾がほぼ同じ長さで作り出される。爵は、古代中国を代表する青銅器の一種で、特に殷時代から周時代にかけて盛行した。酒を入れて火のそばに置いて温め、注ぎ口から杯などに注いだ盛酒器と考えられる。秦・漢時代以降、青銅製の祭器・礼器の製作は途絶えたものの、周時代を理想とする儒教の儀式、特に孔子や儒教の先哲たちを祀る儀式である釈奠の際の祭器として重視された。朝鮮半島では高麗時代には中国からさまざまな文化がもたらされるなかで儒教も取り入れられ、特に朝鮮時代に入ってから社会にひろく浸透した。本品も、当時行われた儒教の祭儀において用いられた朝鮮半島製の倣古銅器のひとつである。		

11 名称	双耳香炉（そうじこうろ）	品 質	銅
作者等		員 数	1合
時 代	朝鮮時代 18-19世紀	寸 法 等	蓋径8.9cm、蓋高4.2cm、胴高22.0cm
作品概要	小ぶりの蓋付き握え香炉。蓋は扁平な頂部に切り形の摘みをつけ、周囲に八卦文を透かす。甕口の縁を伴う胴部はやや扁平な球形で、左右からは耳が甕口を貫通してやや外反しながら立つ。左右とも耳の内外に「香」の1字を刻む。胴中央に隆帯を1条めぐらす。脚台は別造りで円錐形をなす。朝鮮時代に製作されたもので、古代青銅器に範をとった一種の倣古銅器でありつつも、脚部が円錐形をなす点が特徴的である。室内調度品もしくは儒教の祭儀の際に他の様々な銅器とともに用いられたと考えられる。		

<陶磁> (2件)

12 名称	色絵花盆図大皿（いろえかぼんずおおざら）	品 質	磁器
作者等	伊万里（有田）	員 数	1枚
時 代	江戸時代 18世紀前半	寸 法 等	高10.4cm 口径60.0cm 底径30.3cm
作品概要	18世紀前半にヨーロッパ輸出向けに作られた古伊万里・金襴手様式の大皿である。金襴手様式は、柿右衛門様式の後に成立した色絵磁器の様式で、1690年代頃に誕生した。「金襴手」の名のとおり、金彩（または黄色）を主として、呉須と赤・緑・紫色の上絵具で文様を施す。国内向けと欧州輸出向けの二つのタイプがあり、後者は、18世紀になると本作品のように、緑・紫色は使用されず、呉須に赤・金色の三色が基本となる。 見込に描かれた花盆図は輸出向け金襴手様式磁器に最も多く描かれた文様で、同時期の清朝磁器にもよく描かれた。本作品は、花盆図の中でも特殊で、花盆の壺や文様帯などヨーロッパの陶器や染織品に見られるデザインを意識的に採用している。特に人物文を描いた壺は非常に珍しく、注文主からの絵図などによる指示がないと描けなかった文様である。また、金襴手様式では、1690年代～1720年代頃までの早い時期を除いて、高台内に文様を描かないが、本作品には牡丹文が描かれている。さらに、口径が60cmを超えており、この点も18世紀の金襴手様式磁器では希少である。以上のことから、本作品は、ヨーロッパから依頼された特注品であったと考えられる。国内にある金襴手様式磁器のなかでも非常に珍しく、貴重な作品であるといえよう。		

13 名称	青瓷彫文壺(せいじちようもんつぼ)	品質	青磁
作者等	中島 宏	員数	1口
時代	平成18年(2006)	寸法等	高38.5cm 口径38.5cm
作品概要	<p>本作品は、重要無形文化財保持者(人間国宝)の中島宏氏の作品である。中島作品の特徴の一つである「彫文」を施している。これは、中島が青磁の勉強のために訪れた中国で青銅器に出会い、その造形の力強さに感動し、自らの手でやきものに表現したいと取り入れたものである。青銅器を彷彿とさせる堂々たる姿の壺を成形し、肩に一番幅広の帯を置き、そこを起点として上下に狭まるように配した帯の段々と、逆に広がるよう規則的に施した彫文が、壺全体にリズムカルな印象を与え、それが特徴のある立体感を生み出している。さらに帯と各文のキワの釉溜まりや、釉薬の厚みで入り方の異なる貫入が独特の表情をあらわす。</p> <p>すべての技法が計算し尽くして施されながらも、品格は損なわれず、青磁釉の青色は深淵さと同時に、清々しさ感じさせる。まさに人間国宝が極めた高度な技術と思想のすべてを体現した作品といえよう。</p>		

<染織> (1件)

14 名称	白縮子地染織小袖裂(しろりんずじそめぬいこそでぎれ)	品質	絹(縮子)
作者等		員数	1枚
時代	江戸時代 17世紀	寸法等	縦100.0cm 横70.0cm
作品概要	<p>小袖の背面腰より下を切り取った小袖裂。総鹿子に近い広範囲の鹿子絞りであること、紅色と藍色による地色であること、小袖の左腰部分(本裂紅地部分)は意匠表現が見られないこと、絞り染めと刺繍以外の加飾が見られないこと、地組織が縮子であること、以上の5点から、当初は江戸前期の小袖であったことが推測される。共裂と思われる裂が、国立歴史民族博物館所蔵の「小袖裂貼装屏風」に見られる。この屏風には19枚の小袖裂が貼り込まれるが、このうち13種は野村正治郎(1879-1943)旧蔵の小袖屏風の裂に共通することから、小袖屏風を作成した際に発生した端裂が流出し、貼り混ぜ屏風に仕立てられたものと推測されている。このため本小袖裂も野村コレクションに関係する資料である可能性が考えられる。</p>		

<考古> (38件)

15 名称	大分県竹田市採集石器・石製品(おおいたけんたけたしさいしゅうせっき・せきせいひん)	品質	石製
作者等		員数	326個
時代	縄文時代～古墳時代 前10～6世紀、現代 20世紀	寸法等	長2.6cm 幅1.9cm 厚0.4cm ほか
作品概要	<p>石鏃221個、石斧15個、扁平打製石斧15個、石匙2個、石槍1個、石刀1個、十字形石器1個、刀子形石製品1個、石鏃未製品1個、二次加工剥片20個、剥片46個、黒曜石原石2個からなる計326個の石器・石製品コレクション。縄文時代のもものが中心で、石鏃等の剥片石器の石材には在地産チャートのほか遠隔地産の大分県姫島産黒曜石、西北九州産黒曜石が使用されており、この地域の典型的な石材組成を示す。扁平打製石斧、十字形石器、内反りの石刀については、縄文時代後晩期の九州に特徴的なものである。</p>		

16 名称	石匙(いしさじ)	品質	石製
作者等	青森県出土	員数	13個
時代	縄文時代 10,000年前-2,300年前	寸法等	長13.0cm 幅2.3cm 厚0.9cm ほか
作品概要	<p>つまみ部に紐を巻き付け、吊り下げて携帯する万能ナイフと考えられる石器で、縄文時代を代表する石器である。(1)～(3)は尖頭部を持つもの、(4)～(8)は縦型のもの、(9)～(13)は横型のものである。横型のものの中には、つまみ部にアスファルトが顕著に付着するものが多い。</p>		

17 名称	籠状石器(へらじょうせっき)	品質	石製
作者等	青森県出土	員数	10個
時代	縄文時代 10,000年前-2,300年前	寸法等	長5.9cm 幅2.8cm 厚1.2cm ほか
作品概要	<p>皮なめしに用いられたと考えられる石器で、縄文時代の東北から北海道に特徴的なものである。当該地域は寒冷地のため、皮革製品への需要が高かったと考えられる。この石器の分布から縄文文化の地域性を知ることができる。</p>		

18 名称	石錐(いしきり)	品質	石製
作者等	青森県出土	員数	30個
時代	縄文時代 10,000年前-2,300年前	寸法等	長6.7cm 幅2.6cm 厚0.7cm ほか
作品概要	<p>穴をあけるための道具で、縄文時代に特徴的な石器である。木器や皮革製品などの有機質の穿孔に用いられたものと思われる。柄部にはアスファルトによる固定痕が残るものがある。</p>		

19 名称	石鏃(せきぞく)	品質	石製
作者等	青森県出土	員数	45個
時代	縄文時代 10,000年前-2,300年前	寸法等	長5.3cm 幅1.4cm 厚0.8cm ほか
作品概要	<p>矢の先端に取り付けて使用する石器で、矢は弓で射って使用する。石鏃には有茎のものと無茎のものがある。茎部付近にはアスファルトが顕著に付着するものがある。弓矢は縄文時代を代表する狩猟具で、温暖化にともない狩猟対象が素早く動く小型動物に移行する過程で発明されたといわれる。東北出土の石鏃には本品のようにアスファルトによる固定痕が残るものが多い。アスファルトは石匙、骨角製漁労具、石錐の固定、また割れた土偶の補修などにも使用されることがある。</p>		

20 名称	石斧(いしおの)	品質	石製
作者等	(1)(3)～(6)青森県東半 (2)青森県下北郡東通村浦野沢石持	員数	6個
時代	縄文時代 10,000年前-2,300年前	寸法等	(1)縦12.2cm 横3.8cm 厚1.3cm (2)縦9.6cm 横2.2cm 厚1.1cm (3)縦7.3cm 横2.6cm 厚1.1cm (4)縦5.7cm 横2.8cm 厚1.2cm (5)縦3.7cm 横2.2cm 厚0.8cm (6)縦2.5cm 横1.4cm 厚0.4cm
作品概要	<p>磨製石斧。(1)～(3)は側面に石斧製作時の擦切痕を残し、特に(1)の長軸中央には途中で止めた擦切痕を残す。(4)～(6)は定角式。磨製石斧は縄文時代を特徴付ける石器で、堅穴住居の建築部材、丸木舟、各種木製の器等の製作のため、樹木の伐採加工に使用された。また、擦切技法による石斧製作技術は、新石器時代の中国北方や朝鮮半島、縄文時代～続縄文時代の北海道から東北北部、縄文時代後期の九州に分布しており、大陸との広域交流の可能性を考える上で重要である。</p>		

21 名称	球状耳飾（けつじょうみかざり）	品 質	石製
作 者 等	(1)青森県三戸郡五戸町大窪出土 (2)青森県下北郡東通村浦野沢石持出土	員 数	2個
時 代	縄文時代 6,000年前-5,000年前	寸 法 等	(1)縦5.0cm 横4.5cm 厚0.7cm (2)縦3.0cm 横2.7cm 厚0.3cm
作品概要	扁平な三角形の耳飾で、三角形の頂点部分に穿孔を施し、穿孔から中央対面にまで長い切り込みを加えた石製耳飾。現状では、穿孔部で割れ、半分を欠失している。割れ口に沿って補修孔が見られる。球状耳飾はC字状を呈し、縄文時代早期から中期の日本列島全域で出土する。中国の同形の耳飾が「球」と呼ばれることからこの名がある。同形の耳飾は、東アジア一帯で出土し、中国から各地へ伝わったと考えられている。日本のものは縄文時代早期に環状のC字形のものがあり、前期には扁平化し平面形が縦円状や三角形状となり、孔が小型化、切り込みが長くなる。中期に入り横長化や縦長化が進行する。		

22 名称	編物圧痕付土器片（あみものあっこんつきどきへん）	品 質	土製
作 者 等	(1)(2)青森県むつ市田名部最花出土 (3)青森県むつ市田名部品ノ木出土 (4)～(6)青森県東半出土	員 数	6個
時 代	縄文時代 6,000年前-2,300年前	寸 法 等	(1)縦12.3cm 横6.0cm 高4.0cm (2)最大径8.9cm 高2.5cm (3)最大径11.0cm 高1.9cm (4)最大径16.8cm 高3.0cm (5)縦10.0cm 横8.7cm 高3.2cm (6)縦11.2cm 横8.0cm 高2.2cm
作品概要	編物圧痕を有する平底土器の底部破片である。編み方は、(1)～(3)は1本超え1本潜り1本送り、(4)と(6)は三方向の条材が交差する三方編み、(5)は経条緯条2本1組の2本超え2本潜り1本送り。底面に残る編物圧痕は、土器製作時の台座として使用された編物と考えられ、編物製台座を用いた土器製作技法を知ることができる。また、編物は、通常の遺跡では腐朽して遺存しないため、縄文時代の編物文化を知ることができる。		

23 名称	嘴状石器（くちばしじょうせつき）	品 質	石製
作 者 等	青森県三戸郡五戸町切谷内高森山出土	員 数	4個
時 代	縄文時代 5,000年前-3,000年前	寸 法 等	(1)縦4.1cm 横2.5cm 厚0.6cm (2)縦3.9cm 横2.7cm 厚0.8cm (3)縦2.0cm 横2.7cm 厚0.3cm (4)縦2.0cm 横2.6cm 厚0.5cm
作品概要	長軸が湾曲した石鏃に類似する石器である。有茎のものと無茎のものがある。縄文時代中期～後期の東北に見られる石器で、魚の解体などの漁労に関わる加工具や祭祀に関わる道具とも言われる。		

24 名称	石製垂飾（せきせいすいしよく）	品 質	石製
作 者 等	(1)(2)(3)(5)青森県東半出土 (4)青森県三戸郡南部町鳥谷青鹿長根出土	員 数	5個
時 代	縄文時代 5,000年前-2,300年前	寸 法 等	(1)縦4.9cm 横2.2cm 厚0.8cm (2)縦3.3cm 横2.3cm 厚1.8cm (3)縦6.0cm 横3.8cm 厚1.0cm (4)縦5.0cm 横2.9cm 厚3.9cm (5)縦4.1cm 横1.9cm 厚1.3cm
作品概要	東北部の石製装身具である。(3)はサメの歯製垂飾を模したもの、(4)は勾玉形の自然石に穿孔を加えたもの、(5)は列点文を加え装飾性を高めたものである。		

25 名称	土製垂飾（どせいすいしよく）	品 質	土製
作 者 等	(1)青森県三戸郡南部町鳥谷青鹿長根出土 (2)青森県東半出土	員 数	2個
時 代	縄文時代 4,500年前-3,500年前	寸 法 等	(1)縦5.5cm 横4.5cm 厚1.5cm (2)縦2.6cm 横1.5cm 厚0.7cm
作品概要	列点文による装飾と器体長軸方向の穿孔を特徴とする東北部の縄文時代中期～後期の土製垂飾と考えられる。器体長軸方向への穿孔は、この時期に盛行する翡翠製大珠に見られる特徴でもある。		

26 名称	注口土器（ちゅうこうどき）	品 質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員 数	1口
時 代	縄文時代 4,000年前-3,000年前	寸 法 等	最大径12.0cm 高11.8cm
作品概要	縄文時代後期前半の東北部から北海道西部にかけて分布する十腰内I式土器である。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、注口土器、壺、台付鉢などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。特に注口土器や台付鉢は祭祀に用いられたと考えられており、これら多種多様な土器出現の背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		

27 名称	キノコ形土製品（きのこがたどせいひん）	品 質	土製
作 者 等	青森県八戸市南郷区島守下荒谷出土	員 数	1個
時 代	縄文時代 4,000年前-3,000年前	寸 法 等	最大径6.5cm 高3.7cm
作品概要	縄文時代後期前半の東北を中心に分布するキノコ形の土製品である。本品は、円錐形の傘部に、1条の沈線がめぐる円柱形の短い柄が付く。キノコ形土製品の用途は食用可能なキノコを覚えるための標本と言われることがある。また、近年では鳥形土器の注口部の蓋として出土した例があり、多様な用途が推定されている。		

28 名称	キノコ形土製品（きのこがたどせいひん）	品 質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部字品ノ木出土	員 数	1個
時 代	縄文時代 4,000年前-3,000年前	寸 法 等	最大径5.6cm 高5.5cm
作品概要	縄文時代後期前半の東北を中心に分布するキノコ形の土製品である。本品は、中高皿形の傘部に付け根の広がった円柱形の柄を持ち、やや異形を呈する。キノコ形土製品の用途は食用可能なキノコを覚えるための標本と言われることがある。また、近年では鳥形土器の注口部の蓋として出土した例があり、多様な用途が推定されている。		

29 名称	円盤形土製品（えんぱんがたどせいひん）	品 質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員 数	10個
時 代	縄文時代 4,000年前-3,000年前	寸 法 等	(1)最大径5.3cm 厚0.6cm (2)最大径4.1cm 厚1.0cm (3)最大径4.0cm 厚0.5cm (4)最大径3.1cm 厚0.6cm (5)縦4.8cm 横4.8cm 厚0.7cm (6)縦3.4cm 横3.6cm 厚0.8cm (7)縦3.2cm 横3.6cm 厚0.8cm (8)縦6.2cm 横3.1cm 厚1.0cm (9)縦5.5cm 横3.3cm 厚0.8cm (10)縦5.0cm 横2.7cm 厚0.9cm
作品概要	土器片を円盤形に再加工したもの。表裏面に土器の内外面の文様や調整痕が残る。(1)～(4)は典型的な円盤形のもので、他に(5)～(7)の三角形のものや(8)～(10)の長方形のものがある。用途は、土器製作時の器表面の調整具や祭祀具などと言われる。		

30 名称	分銅形土製品（ぶんどうがたどせいひん）	品 質	土製
作 者 等	青森県東半出土	員 数	1個
時 代	縄文時代 4,000年前-3,000年前	寸 法 等	縦3.3cm 横2.0cm 高4.8cm
作品概要	上端に穿孔のある台形の土製品。無文、中実。横断面は楕円形で、底部はやや膨らむ。		

31 名称	台付鉢形土製品（だいつきはちがたどせいひん）	品 質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員 数	1個
時 代	縄文時代 4,000年前-3,000年前	寸 法 等	直径5.2cm 高3.0cm
作品概要	台付鉢形土器のミニチュア製品。台付鉢形土器は縄文時代後期、晩期に発達した儀礼用の器で、盛り付けに使用されたと考えられる土器である。		

32 名称	キノコ形土製品（きのこがたどせいひん）	品 質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員 数	2個
時 代	縄文時代 4,000-3,000年前	寸 法 等	(1)直径8.0cm 高4.2cm (2)直径5.9cm 高3.5cm
作品概要	縄文時代後期前半の東北を中心に分布するキノコ形の土製品である。(1)は扁平で肉厚な傘部に、基部がやや広がる円柱形の柄が付く。(2)は血形の傘部に、基部がやや広がる円柱形の柄が付く。キノコ形土製品の用途は食用可能なキノコを覚えるための標本と言われることがある。また、近年では鳥形土器の注口部の蓋として出土した例があり、多様な用途が推定されている。		

33 名称	漆附着土器（うるしふちやくどき）	品 質	土製
作 者 等	青森県東半出土	員 数	1個
時 代	縄文時代 4,000年前-2,300年前	寸 法 等	直径8.5cm 高5.1cm
作品概要	割れた土器底部を漆塗用の容器として再利用したもの。漆工文化は、東・東南アジアに分布し、各地で多様に展開した。その歴史は、日本においては縄文時代早期にまで遡る。しかし、有機物が遺存しづらい埋蔵環境の中で漆工関係資料が出土することは非常に少ない。中でも本品のように漆工品生産に関わる資料はたいへん少ない。		

34 名称	珣形角器（ゆはずがたかつき）	品 質	骨角製
作 者 等	青森県東半出土	員 数	1個
時 代	縄文時代 4,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦1.7cm 横1.3cm 高1.4cm
作品概要	鹿角を素材に、円柱形に切断して海綿質部分に穿孔を加えて製作されたもの。浮袋の口とも言われる。		

35 名称	腕輪形土製品（うでわがたどせいひん）	品 質	土製
作 者 等	青森県東半出土	員 数	1個
時 代	縄文時代 4,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦6.3cm 横2.8cm 厚1.2cm
作品概要	両端に穿孔が施された弧状の土製品である。貝製や猪牙製の半環状の腕輪を模したものと考えられる。		

36 名称	注口土器（ちゆうこうどき）	品 質	土製
作 者 等	青森県東半出土	員 数	1口
時 代	縄文時代 3,000年前	寸 法 等	最大径15.0cm 高17.0cm
作品概要	縄文時代後期、晩期の東北に分布する注口土器と考えられる。注口土器はこの時期に特徴的な土器で、その形態から、酒や水などの液体を用いた儀礼に使用されたものと考えられている。中には本例のように注口部を男性器に見立てたと言われる注口部直下に二袋状突起を取り付けたものがある。縄文時代には、女性を表現した土偶や男性を表現した石棒など、子孫繁栄に関わると言われる祭祀具が見られるが、本品はその多様性を示すものである。		

37 名称	有孔円盤形土製品（ゆうこうえんぱんがたどせいひん）	品 質	土製
作 者 等	青森県東半出土	員 数	5個
時 代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	(1)最大径5.8cm 厚0.5cm (2)最大径5.1cm 厚0.6cm (3)最大径5.0cm 厚0.4cm (4)最大径4.6cm 厚0.6cm (5)最大径3.4cm 厚0.5cm
作品概要	土器片を素材に、打ち欠き、穿孔、研磨により円盤形に仕上げた土製品で、紡錘車や装身具等と言われている。		

38 名称	ボタン状石製品（ぼたんじょうせきせいひん）	品 質	石製
作 者 等	(1)青森県三戸郡南部町鳥谷青鹿長根出土 (2)～(6)青森県東半出土	員 数	6個
時 代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	(1)縦5.3cm 横3.0cm 厚1.0cm (2)縦4.9cm 横3.7cm 厚0.7cm (3)縦4.5cm 横2.2cm 厚1.3cm (4)縦3.9cm 横3.4cm 厚1.1cm (5)縦3.3cm 横2.4cm 厚1.2cm (6)縦2.8cm 横2.5cm 厚2.1cm
作品概要	縄文時代晩期の北海道西部から東北にかけて分布する亀ヶ岡文化の装飾品である。中央付近に2個1対の孔があり、ボタンの用途が推定されている。刻みや列点文により装飾性を高めたものもある。		

39 名称	小玉 (こだま)	品質	土製
作者等	青森県むつ市大畑町出土	員数	50個
時代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸法等	直径0.8cm 厚0.5cmほか
作品概要	縄文時代晩期の北海道南西部から東北にかけて出土する亀ヶ岡文化の装身具である。扁平で球形のものに沈線で文様を施したものや分銅型のあるものがある。全面に赤漆が塗布されているが、漆は劣化し粉状化した赤色顔料が残るのみである。		

40 名称	牙製垂飾形土製品 (げせいすいしよくがたどせいひん)	品質	土製
作者等	青森県むつ市大畑町出土	員数	5個
時代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸法等	(1)縦6.6cm 横1.1cm 厚1.3cm (2)縦2.7cm 横0.8cm 厚0.8cm (3)縦2.2cm 横1.1cm 厚0.6cm (4)縦2.0cm 横0.7cm 厚0.9cm (5)縦1.4cm 横0.7cm 厚0.5cm
作品概要	縄文時代晩期の北海道南西部から東北にかけて分布する亀ヶ岡文化の装飾品である。球形、円盤形、分銅形を呈し、沈線で装飾されたものがある。いずれもベンガラ漆により赤彩されているが、経年劣化により漆塗膜の光沢は見られない。		

41 名称	石製垂飾 (せきせいすいしよく)	品質	石製
作者等	青森県むつ市大畑町出土	員数	7個
時代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸法等	(1)縦2.3cm 横1.2cm 厚0.4cm (2)縦2.1cm 横1.6cm 厚0.3cm (3)縦1.6cm 横1.3cm 厚0.3cm (4)縦2.0cm 横0.9cm 厚0.3cm (5)縦1.1cm 横0.8cm 厚0.3cm (6)縦1.3cm 横0.9cm 厚0.4cm (7)縦1.1cm 横0.9cm 厚0.2cm
作品概要	縄文時代晩期の北海道南西部から東北にかけて分布する亀ヶ岡文化の装飾品である。金属光沢を有する板状の鉄鉱石 (褐鉄鉱) を素材とし、完成品 (1~3)、穿孔途中の未完成品 (4、5)、未加工の素材 (6、7) で構成される。		

42 名称	長頸壺 (ちょうけいこ)	品質	土製
作者等	朝鮮半島	員数	1口
時代	三国時代 (新羅) 5世紀中葉	寸法等	高19.4cm 口径13.5-14.0cm 胴径18.0cm
作品概要	朝鮮三国時代の新羅において典型的な長頸壺。古墳に副葬されることが多い。頸部の中央に突帯1条を作り出して上下に区画し、それぞれの区画に櫛描波状文をめぐらしている。本来は脚部があったが、折り取られ、丸底になじむように基部まで研磨されている。脚部には少なくとも3方向の透窓が設けられていたとみられる。新羅の台付長頸壺の脚部は、製作中の乾燥や焼成の過程で歪み、座りが悪いことが多い。本作では、脚部が歪んでいるか、あるいは破損していたために、近現代において商品として流通する際、脚部を除去したと考えられる。		

43 名称	鉢形土器 (はちがたどき)	品質	土製
作者等	伝北海道	員数	1口
時代	オホーツク文化 8-9世紀	寸法等	最大径8.3cm 高6.4cm
作品概要	オホーツク海沿岸部であるサハリン南部、北海道東北の沿岸部、千島列島に分布するオホーツク文化後期の土器と考えられる。オホーツク文化とは、5世紀~9世紀に上記地域に広がっていた文化で、海洋漁労と海獣狩猟を生業の中心としていた文化である。大陸や本州と交易し、金属器やガラス製品を入手していたと考えられている。日本列島中央部においては、旧石器時代に始まり、縄文時代、弥生時代、古墳時代へと続く教科書で学ぶ時代が展開したが、南北端においては、独自の文化が開花した。北端の北海道以北では、寒冷な気候条件などのために水田稲作が行われず、縄文時代以降、続縄文時代、オホーツク文化、擦文文化、トビニタイ文化、アイヌ文化といった狩猟採集漁労を生業とする文化が続いた。		

44 名称	小壺 (こつぼ)	品質	土製
作者等		員数	1口
時代	タイ 後期新石器-鉄器時代 前1千年紀	寸法等	口径4.4cm 胴部最大径6.3cm 器高6.5cm
作品概要	小さな胴部から口頸部が直立する褐色の小型壺で、粗雑な成形からミニチュア土器の可能性がある。東南アジアで精製と粗製の土器の分化見られるのは、後期新石器時代以降である。しかし、タイの土器編年は精製土器を中心として編まれており、本品のような粗製土器については不明点が多い。本品は新石器時代のような丸底ではなく、鉄器時代の平底を意識した小平底である。そこで、後期新石器時代から鉄器時代に移行する時期、紀元前1千年紀のうちに年代を押しえられる。東北タイでは、バーンチェン遺跡で知られる装飾土器文化が知られているが、本品はそのような精製土器と共にタイの先史土器文化を構成した粗製土器の例として学術的に貴重である。		

45 名称	壺 (つぼ)	品質	土製
作者等	タイ ナコンラーチャシーマー県バーンプラサート遺跡出	員数	1口
時代	タイ 鉄器時代 前3世紀-後2世紀	寸法等	口径11.8cm 胴部最大径11.8cm 器高12.0cm
作品概要	算盤玉形の胴部にラップ状の口縁部が付く赤褐色の壺である。底部は小さな上げ底で、赤色顔料をスリッパに溶き全面に塗布する。出土地のバーンプラサート遺跡は、新石器時代から鉄器時代にかけて形成された遺跡で、紀元前3世紀に営まれた墓地遺構から出土した「バーンプラサート式土器」が鉄器時代の土器型式になっている。東北タイでは、装飾性の高いバーンチェン式土器に後続する型式で、ナコンラーチャシーマー県やブリラム県を中心に分布し、本品の特徴とも合致する。このような土器文化は、通婚圏または交易圏の広がり示すものと理解され、本品は、鉄器時代における東北タイの土器文化の広がりを示す資料として、学術的に貴重である。		

46 名称	紡 (ほう)	品質	青銅
作者等	中国	員数	1合
時代	前漢時代 紀元前2世紀-前1世紀	寸法等	総高15.3cm、幅9.3×9.0cm
作品概要	平面の断面がほぼ正方形を呈する壺のことを紡という。蓋は中央が正方形に縁取られ、そのなかに橋梁状の小さな鈕と四葉文を配する。その四方のなだらかな各斜面は台形に区画され、なかに巻雲文を施す。身は腹部上方に獣面形の座金具「鋪首」を飾るほか、とくに文様や装飾は見られない。しかし、鋪首を除く器身には工具で丹念に研磨された筋状の痕跡が随所に留まる。表面をできるだけ平滑に仕上げようとする前漢時代の青銅器製作の特徴をよく示している。紡は総高30センチを超えるものが一般的であるが、本作のように20センチ未満の小型の例も知られている。なかでも内蒙古自治区鄂爾多斯市東勝区漫頼古城で出土した紡は、蓋の文様も大きさも本作と近似している。あるいは同じ工房の手による可能性も考えられる。		

47 名称	提梁壺（ていりょうこ）	品質	青銅
作者等	中国	員数	1合
時代	前漢-後漢時代 前2世紀-後1世紀	寸法等	総高40.5cm、胴径17.3cm
作品概要	<p>身と蓋からなる青銅製の壺であり、吊り手をともなう。肩部には獸面形の座金具「鋪首」を一對そなえる。鋪首には円環が留められ、円環からは「8」字形の金具を鎖のように連続させてつなぐ。この鎖の先端は双頭の龍をかたどった平板な持ち手につながる。途中、蓋の左右に固定された円環のなかにも鎖を通すことで、吊り手をもって壺を持ち上げてめぐらつかないようにしている。こうして容器の左右で鎖と接続され、固定された吊り手のことを「提梁」という。</p> <p>提梁壺は中国の戦国時代から漢時代にかけて盛んに作られた。本作は胴部内面の一定の高さから下をきらきら光る結晶物の混じった鍍が覆う。何らかの液体が入っていて、その成分が結晶化したのかも知れない。</p>		

48 名称	緑釉温酒樽（りよくゆうおんしゅそん）	品質	緑釉土器
作者等	中国	員数	1合
時代	前漢-後漢時代 前1世紀-後1世紀	寸法等	総高18.4cm、径19.7cm
作品概要	<p>円筒形の器身に3本の足と蓋をともなう容器は温酒樽という。前漢時代中期から後漢時代前期にかけて高級な酒器として王朝全域で流行した。とくに王侯貴族は温酒樽を耳杯、勺などと組み合わせて、酒宴に好んで使用したことが知られている。本作のような低火度焼成でできた緑釉陶の温酒樽は、液体が染み出すので実用品ではなく、墓に副葬することだけを目的として作られた模型「明器」であることが知られる。</p> <p>明器とはいえ、本作は獸面形の座金具「鋪首」や獸蹄形の三足といった細部に至るまで青銅製温酒樽の形態を忠実に模している。一方で、回転する轆轤から円筒形の底部を糸で切り離したり、鳳凰などの文様とともに蓋全体の形を一気に型から起こすなど、漢時代の土器によくある大量生産を図った製作技法の痕跡も見取れる。</p>		

49 名称	広口壺（ひろくちつぼ）	品質	土製
作者等	朝鮮半島	員数	1口
時代	三国時代（加耶） 6世紀	寸法等	高16.3cm、口径13.5cm、胴径13.0cm
作品概要	<p>朝鮮三国時代の加耶諸国のうち、韓国慶尚北道高霊を中心に最強を誇った大加耶の典型的な広口壺。古墳に副葬されることが多い。口頸部は太く長く、器高の半ば以上を占める。頸部を沈線2条で頸部を3段に区画し、各区画に時計回り方向で11歯具による歯描波状文をめぐらす。</p> <p>焼成は良好で、固く焼き締まっている。胴部下位は内面に火ぶくれが生じている。灰青色に発色し、胴部下位は暗灰色、底部外面は黄灰色に発色する。口頸部内面に濃緑色の自然釉がかかり、型の外面にも薄く自然釉がかかる。</p>		

50 名称	埴仏（せんぶつ）	品質	土製
作者等	タイ	員数	1個
時代	タイ 10-15世紀	寸法等	縦2.2cm、横1.7cm
作品概要	<p>埴仏は土を型押しして成型したもの。インドにおいて当初は釈尊の聖地巡礼に資するものであったが、やがて広く仏教文化圏に伝わり、多様な形で普及した。本埴仏はタイのもので、埴仏の形、大きさ、また像が単独で表わされることなどから、シュリーヴィジャヤ、ハリブンチャイ、スコータイなど比較的早い時期の埴仏と考えられる。摩滅により尊格は明らかではないが、像の輪郭から右膝を立て、右腕を膝にのせ、左手を床に置き重心のせるように見え、その場合は財宝神（Jambhala）の可能性もある。</p>		

51 名称	碗（わん）	品質	陶器
作者等		員数	1口
時代	カンボジア アンコール時代 12-13世紀	寸法等	口径8.7cm 底径3.3cm 器高4.9cm
作品概要	<p>黒褐釉をかけたクメール陶器の小型碗である。底部は露胎の平底であり、回転糸切り痕が確認される。風化が著しく、釉が薄い部分は剥けて胎土が露出する。クメール陶器とは9世紀から15世紀までの間、カンボジアを中心としてタイからマレー半島中部に版図を広げ繁栄したクメール王国で焼かれた施釉陶器である。9世紀末に登場した当初は乳白色から明緑色の灰釉であった。しかし、12世紀に黒褐釉をかけた器種が主体となり、13世紀になると黒褐釉の光沢が無くなり厚さにもムラが生じる。本品はクメール陶器では類例の少ない回転糸切りの採用が特異である。東南アジア固有の陶磁文化を生み出したクメール陶器の実例として、学術的に貴重な資料である。</p>		

52 名称	奉獻仏（ほうけんぶつ）	品質	錫
作者等	スコータイ出土	員数	1個
時代	タイ スコータイ/アユタヤー時代 14-15世紀	寸法等	縦6.1cm、横3.3cm
作品概要	<p>型押しした小型の仏像をタイ語では「プラピム（Phra phim）」、特に小さいものは「クルアンラン（Khruang rang）」という。奉獻仏は仏塔の建立時などに、仏教の繁栄と永続を願って在家信者により仏塔の中心に様々な奉獻物とともに納められるものである。本像に近い形状の奉獻仏が、1424年建立と伝わるアユタヤーの中心寺院、ワット・ラーチャブーラナ仏塔地下に設けられた「クル（Kru）」といわれる空間から大量に出土していることから、遅くとも15世紀には使用されていたタイプの奉獻仏であることがわかる。</p>		

<民族資料> (4件)

53 名称	銅鼓（どうこ）	品質	青銅
作者等	ラオス北部かタイ北部か中国雲南省	員数	1口
時代	18-19世紀	寸法等	高48.5cm、面径62.0cm、底径50.0cm
作品概要	<p>青銅製の太鼓で、底部を設けず、筒状の器体上に平坦な鼓面がつく。鼓面では中央の光芒文を囲むように同心円状の文様帯が区画され、そのなかに変形羽人文・円圏文などさまざまな文様を飾る。これらの文様は端でできた銅鼓の原型にローラーのような道具を回転摩擦させながら施したものである。鼓面縁辺の4箇所には3段重ねのカエル像を反時計回りに配する。側面の胴部にも多彩な文様のほかに、平面が「X」字形を呈する一對の把手や、ゾウとタニシのような生き物の小像を縦方向に並べた突帯などが見られる。</p> <p>中国南部から東南アジアにかけて広く分布する銅鼓は、約2500年前に出現し、今でも一部の山岳地帯で使用されている。この銅鼓は18~19世紀にラオスやミャンマーなどで盛んに作られた型式の典型的な例である。</p>		

54 名称	クリス（くりす）	品 質	鉄、真鍮、木、白銅製
作 者 等	インドネシア国立芸術大学スラカルタ校 インドネシア	員 数	1口
時 代	1999年	寸 法 等	全長48.5cm、身長38.7cm
作品概要	<p>インドネシアの伝統的な剣で、特殊な霊力が宿るとみなされている。現在でも、儀式や芸能の時に正装の男性が腰に差す。本作は中部ジャワのスラカルタで作られ、研磨はしていないものの伝統的な手法で作られている。剣身は蛇行し、屈曲は11回。鋒は丸い。鋒側を天、柄側を地とするナーガの頭部が突き出すように彫り出されている。胴体は刻線による区画で表され、基部まで伸びて鐔に沿うように折れ、さらに剣身中央の蛇行する刻線2条の間を尾に見立てて鋒まで続く。ナーガの頭と体は真鍮で金彩した後に、刻線で鱗を表現する。上下の顎には、各2本の紐状の真鍮線によって髭を立体的に表す。柄は木製で黒色。磨かれて光沢がある。木製金属装の鞘を伴う。</p>		

55 名称	クリス（くりす）	品 質	鉄、真鍮、木、白銅製
作 者 等	インドネシア国立芸術大学スラカルタ校 インドネシア	員 数	1口
時 代	1999年	寸 法 等	全長47.1cm、身長38.0cm
作品概要	<p>インドネシアの伝統的な剣で、特殊な霊力が宿るとみなされている。現在でも、儀式や芸能の時に正装の男性が腰に差す。本作は中部ジャワのスラカルタで作られ、研磨はしていないものの伝統的な手法で作られている。剣身に屈曲はなく直線的に伸びる。鋒は尖る。剣身の両面中央に鑄が通る。剣身の両面に、鑄をまたいで左右に強く折り返すような刃文がみられる。柄は木製で茶褐色。磨かれて光沢がある。木製金属装の鞘を伴う。</p>		

56 名称	クリス（くりす）	品 質	鉄、真鍮、木、白銅製
作 者 等	インドネシア国立芸術大学スラカルタ校 インドネシア	員 数	1口
時 代	1999年	寸 法 等	全長46.4cm、身長37.2cm
作品概要	<p>インドネシアの伝統的な剣で、特殊な霊力が宿るとみなされている。現在でも、儀式や芸能の時に正装の男性が腰に差す。本作は中部ジャワのスラカルタで作られ、研磨はしていないものの伝統的な手法で作られている。剣身は蛇行し、屈曲は5回。全体に細身の印象を受ける。鋒は鋭い。断面形は薄い凸レンズ状で、明確な鑄は存在しない。剣身と平行に、木目状の刃文がみられる。柄は木製で茶褐色。磨かれて光沢がある。木製金属装の鞘を伴う。</p>		

1-(1)-①-5 有形文化財に関する取組状況（文化財購入費）

令和4年3月31日

	令和3年度 合計金額（千円）	総件数	内訳					
			運営費交付金（千円）	件数	寄附金（千円）	件数	目的積立金（千円）	件数
国立文化財機構	1,101,070	41	621,070	39	480,000	2	0	0
東京国立博物館※	570,000	8	215,000	8	355,000	(1)	0	0
京都国立博物館	299,953	12	189,953	11	110,000	1	0	0
奈良国立博物館	0	0	0	0	0	0	0	0
九州国立博物館	231,117	21	216,117	20	15,000	1	0	0

※東京国立博物館購入1件分は、運営費交付金と寄附金の両方を財源としているため、実際の文化財購入件数は8件となる。

1-(1)-①-6 寄託品一覧表

(単位：件) 令和4年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	12,513	199	1,203	2,651	54	262	6,562	90	619	1,956	53	309	1,344	2	13
絵画	3,757	56	420	394	12	62	2,314	29	249	555	15	106	494	0	3
書跡	1,666	70	276	389	10	36	870	43	200	364	16	37	43	1	3
彫刻	867	9	191	150	2	41	261	1	63	428	6	85	28	0	2
建築	5	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0
金工	991	15	86	126	5	17	571	3	37	200	7	30	94	0	2
刀剣	273	8	57	240	8	48				16	0	9	17	0	0
陶磁	1,443	1	7	108	0	2	1,021	1	4	8	0	0	306	0	1
漆工	746	15	57	76	6	14	529	4	16	117	5	26	24	0	1
染織	693	7	37	68	2	4	535	3	30	49	2	3	41	0	0
考古	957	13	35	161	4	13	421	6	10	217	2	11	158	1	1
民族資料	115	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	110	0	0
歴史資料	68	0	12	2	0	0	37	0	10	2	0	2	27	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	158	2	14	158	2	14								
	書跡	51	2	8	51	2	8								
	彫刻	12	0	0	12	0	0								
	金工	2	0	1	2	0	1								
	陶磁	169	1	1	169	1	1								
	漆工	28	0	1	28	0	1								
	染織	9	0	0	9	0	0								
	考古	487	0	0	487	0	0								
	民族	3	0	0	3	0	0								
	異国記念館収蔵品	13	0	0	13	0	0								

* 東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係」あり。京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
 * 列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。
 * 東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-①-7 寄託品増減表

(単位：件) 令和4年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館							
	2年度		3年度	2年度		3年度	2年度		3年度	2年度		3年度	2年度		3年度					
	計	新規	返却	計	新規	返却	計	新規	返却	計	新規	返却	計	新規	返却					
合計	12,495	172	154	12,513	2,651	30	30	2,651	6,547	95	80	6,562	1,988	7	39	1,956	1,309	40	5	1,344
絵画	3,766	33	42	3,757	396	2	4	394	2,317	30	33	2,314	558	0	3	555	495	1	2	494
書跡	1,678	12	24	1,666	394	0	5	389	876	8	14	870	365	4	5	364	43	0	0	43
彫刻	842	37	12	867	140	13	3	150	262	1	2	261	432	3	7	428	8	20	0	28
建築	5	0	0	5	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2
金工	997	22	28	991	128	0	2	126	565	21	15	571	211	0	11	200	93	1	0	94
刀剣	260	13	0	273	227	13	0	240				16	0	0	16	17	0	0	0	17
陶磁	1,450	1	8	1,443	114	0	6	108	1,022	1	2	1,021	8	0	0	8	306	0	0	306
漆工	738	26	18	746	82	0	6	76	510	26	7	529	120	0	3	117	26	0	2	24
染織	675	21	3	693	68	0	0	68	531	7	3	535	49	0	0	49	27	14	0	41
考古	968	3	14	957	161	0	0	161	424	1	4	421	227	0	10	217	156	2	0	158
民族資料	114	1	0	115	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	109	1	0	0	110
歴史資料	68	1	1	68	2	0	0	2	37	0	0	37	2	0	0	2	27	1	1	27
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	162	0	4	158	162	0	4	158											
	書跡	51	0	0	51	51	0	0	51											
	彫刻	11	1	0	12	11	1	0	12											
	金工	2	0	0	2	2	0	0	2											
	陶磁	168	1	0	169	168	1	0	169											
	漆工	28	0	0	28	28	0	0	28											
	染織	9	0	0	9	9	0	0	9											
	考古	487	0	0	487	487	0	0	487											
	民族	3	0	0	3	3	0	0	3											
	異国記念館収蔵品	13	0	0	13	13	0	0	13											

1-(1)-①-8 登録美術品一覧表

(単位：件) 令和4年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	31	0	3	29	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0
絵画	6	0	3	6	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡	18	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	陶磁	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
複合資料	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

1-(1)-② 有形文化財の管理・保存・修理等

1-(1)-②-1 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度(年間)
本館	展覧会場	09:00~17:00	20~29℃	27~81%
	収蔵庫	09:30~17:00	20~29℃	36~70%
平成館	展覧会場	09:00~17:00	22~29℃	32~68%
	収蔵庫	09:30~17:00	20~24℃	48~59%
東洋館	展覧会場	09:30~17:00	21~29℃	38~63%
	収蔵庫	09:30~17:00	19~31℃	40~65%
法隆寺宝物館	展覧会場	24時間運転	21~25℃	45~60%
	収蔵庫	24時間運転	21~24℃	50~62%
黒田記念館	展覧会場	24時間運転	15~25℃	44~74%
	収蔵庫	24時間運転	20~22℃	48~60%
管理棟	収蔵庫	24時間運転	21~25℃	46~60%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度(年間)
明治古都館	展覧会場	休止中		
	収蔵庫	2年12月より休止中		
平成知新館	展覧会場	8:40~17:20	19~25℃	50~60%
	収蔵庫	8:40~17:20	19~24℃	55~60%(金工収蔵庫のみ45~55%)
北収蔵庫		9:00~17:30	19~24℃	50~60%
東収蔵庫		9:00~17:30	19~24℃	50~60%
文化財保存修理所		8:30~17:30	20~25℃	50~65%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)			湿度(年間)
			冬	夏	中	
なら仏像館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
青銅器館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±4%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±4%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度(年間)	湿度(年間)
3階展覧会場	8:00~19:00	22~26℃	55±5%
4階展覧会場	7:00~21:00	22~26℃	55±5%
収蔵庫	8:40~21:30	22~24℃	材質別に50±2%、55±2%、60±2%

1-(1)-②-2 収蔵品に関する資料等のデジタル化件数(収蔵品写真(フィルム)等のデジタル化件数)

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
画像	50件	画像	6,338件	画像	3,059件	完了)	
和古書・漢籍	10,152件			文字	4,269件		
洋古書	63件						

令和4年3月31日現在

1-(1)-②-3 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】

令和4年3月31日現在

合計			
計	本格修理調査時		応急修理時
	28		219
絵画	1	81	
書跡	0	10	
彫刻	0	3	
建築	0	0	
金工	0	0	
刀剣	0	1	
陶磁	0	6	
漆工	0	0	
染織	25	28	
考古	2	3	
歴史資料	0	14	
民族資料	0	0	
和書	0	9	
写真資料	0	28	
東洋	絵画	0	10
	書跡	0	3
	彫刻	0	0
	金工	0	0
	陶磁	0	8
	漆工	0	0
	染織	0	6
	考古	0	9
	民族	0	0
法隆寺献納宝物	0	0	
その他（黒田含）	0	0	

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	191	132	83
絵画	61	47	4
書跡	13	26	4
彫刻	7	9	0
建築	0	0	0
金工	} 38	17	1
刀剣		2	2
陶磁	44	0	0
漆工	5	7	0
染織	0	4	0
考古	17	14	6
民族資料	0	0	2
歴史資料	6	0	4
和書	0	0	0
写真資料	0	6	0
その他	0	0	60

1-(1)-②-4 本格修理件数

令和4年3月31日現在

	計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	
合計	82	53	9	3	17	
絵画	12	4	4	2	2	
書跡	7	2	1	0	4	
彫刻	2	0	1	1	0	
建築	0	0	0	0	0	
金工	4	0	3	0	1	
刀剣	2	0		0	2	
陶磁	0	0	0	0	0	
漆工	0	0	0	0	0	
染織	27	27	0	0	0	
考古	11	8	0	0	3	
民族資料	2	0	0	0	2	
歴史資料	3	0	0	0	3	
和書	1	1	0	0	0	
写真資料	0	0	0	0	0	
東洋	絵画	2	2	/	/	/
	書跡	2	2			
	彫刻	0	0			
	金工	0	0			
	陶磁	0	0			
	漆工	1	1			
	染織	1	1			
	考古	5	5			
民族	0	0				
法隆寺献納宝物	0	0				
黒田記念館収蔵品	0	0				
館史資料(収蔵品外)	0	0				

※東京国立博物館()内は考古相互貸借経費、内数。

1-(1)-②-5 修理概況

【東京国立博物館】(計 53件)

<絵画> (4件)

1 列品番号	A-1	品 質	絹本着色
名 称	普賢菩薩像	員 数	1幅
時 代	平安時代	寸 法 等	縦159.1 横74.5
年代世紀	12世紀	施工会社	株式会社半田九清堂
補足事項	①表装を解体する。②剥落止めを施し、汚れを除去する。③旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。⑤新規補紙部分に補彩を施す。⑥表装裂は、中廻し、一文字、風帯は修理して再使用、他の総縁、軸首は新調し、掛幅装に仕立てる。⑦桐製太巻、包裂、桐製二重箱、帙を新調する。(3年度は⑤の途中から実施)		

2 列品番号	A-1155	品 質	紙本墨画着色
名 称	扇面雑画	員 数	60面
時 代	江戸時代	寸 法 等	縦36.5 横63.8
年代世紀	18~19世紀	施工会社	株式会社半田九清堂
補足事項	①本紙を取り外す。②剥落止めを施し、汚れを除去する。③本紙裏面に付着した銀箔紙を除去し、増裏打ち紙を除去する。④新規裏打ちを行う。⑤中性紙ボードで落とし込みのマットを作製し、保管する。(3年度は③以降を実施)		

3 列品番号	A-11090	品 質	紙本着色
名 称	月次風俗図屏風	員 数	8曲1隻
時 代	室町時代	寸 法 等	総寸 縦114.2 横301.0: 本紙 第1扇 41.8 × 61.4, 第2扇 42.2 × 61.0, 第3扇 40.3 × 61.1, 第4扇 42.0 × 61.3, 第5扇 42.1 × 61.9, 第6扇 40.3 × 61.8, 第7扇 39.9 × 61.5, 第8扇 40.1 × 61.7
年代世紀	16世紀	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	①表装を解体する。②剥落止めを施し、汚れを除去する。③旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。④新規裏打ちを行う。⑤新調した骨木地に下張りを施し、いずれも新調した製木、表装裂地、裏貼裂で屏風装に仕立てる。(3年度は④の途中から実施)		

4 列品番号	A-12347	品 質	絹本着色
名 称	扇面散図	員 数	1幅
時 代	江戸時代	寸 法 等	本紙: 縦51.5 横71.4
年代世紀	19世紀	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	①表装を解体する。②剥落止めを施し、汚れを除去する。③旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。⑤新規補紙部分に補彩を施す。⑥表装裂、軸首を新調して、掛幅装に仕立てる。⑦桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。(3年度は③の途中から実施)		

<書跡> (2件)

5 列品番号	B-3171	品 質	紙本墨書
名 称	山城切 (秋興)	員 数	1幅
時 代	平安時代	寸 法 等	本紙: 縦25.8 × 横28.0
年代世紀	12世紀	施工会社	株式会社文化財保存
補足事項	①表装を解体する。②剥落止めを施し、汚れを除去する。③旧裏打ち紙を除去し、本紙に欠損部が認められれば補紙を施す。④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。⑤新規補紙部分に補彩を施す。⑥上下裂、軸首を新調し、中縁・柱裂地、一文字・風帯裂地は再使用し、現装の掛幅装に仕立てる。⑦桐製太巻、包裂、桐製保存箱(旧箱蓋活用)、布貼覆帙を新調する。(3年度は②の途中から実施)		

6 列品番号	B-3172	品 質	紙本墨書
名 称	山城切 (春興)	員 数	1幅
時 代	平安時代	寸 法 等	本紙: 縦25.7 × 横30.0
年代世紀	12世紀	施工会社	株式会社文化財保存
補足事項	①表装を解体する。②剥落止めを施し、汚れを除去する。③旧裏打ち紙を除去し、本紙に欠損部が認められれば補紙を施す。④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。⑤新規補紙部分に補彩を施す。⑥上下裂、軸首を新調し、中縁・柱裂地、一文字・風帯裂地は再使用し、現装の掛幅装に仕立てる。⑦桐製太巻、包裂、桐製保存箱(旧箱蓋活用)、布貼覆帙を新調する。(3年度は②の途中から実施)		

<染織> (27件)

7 列品番号	I-335	品 質	絹製 錦、綾、羅、刺繍
名 称	羅道場幡	員 数	1流
時 代	奈良時代	寸 法 等	幅頭 幅41.3; 幡身 幅27.8; 総 丈246.5
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラス板を外す。②紙の台を上から当てたうえで表裏を反転させる。③幅頭・幡身・幡足に分離する。また幡足も各条に分離する。④幅頭・幡身・幡足をそれぞれ加湿の上で成形。⑤幅頭は内側に両面刺繍があるため、周囲を補強。劣化の激しい幡身・幡足には和紙で裏打ちを施す。⑥幡の形状にそって和紙を裁断し、本来の形状に組み立てる。⑦内部にクッション材を仕込み、幡の形状にそって窪みをつけた台に設置。⑧上面からアクリル板を落とし込み、低加圧式ウィンドウマット装とする。		

8 列品番号	I-337-6	品 質	絹製、緞織・平絹
名 称	緑地目結文緞織平絹	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦21.9 横28.7
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②クリーニングの上、形を整える。③I-337-6とI-337-7の2点を1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

9 列品番号	I-337-7	品 質	絹製、緞織・平絹
名 称	緑地目結文緞織平絹	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦20.4 横28.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②クリーニングの上、形を整える。③I-337-6とI-337-7の2点を1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

10 列品番号	I-337-48	品 質	絹製、藤織・平絹
名 称	茶地震禪鳥文藤織平絹	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦13 横15.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②糸目を揃える。③和紙で裏打ちを行う。④中性紙のウィンドウマット装にする。		

11 列品番号	I-337-49	品 質	絹製、藤織・平絹
名 称	緑地震禪鳥文藤織平絹	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦18.5 横9.1
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②糸目を揃える。③低加圧式ウィンドウマット装にする。		

12 列品番号	I-337-50	品 質	絹製、藤織・平絹
名 称	紫地海賦文藤織平絹	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦9.7 横4.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②糸目を揃える。③和紙で裏打ちを行う。④中性紙のウィンドウマット装にする。		

13 列品番号	I-337-54	品 質	絹製、藤織・平絹
名 称	緑地草花文藤織平絹	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦29.2 横23.2
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②クリーニングの上、形を整える。③低加圧式ウィンドウマット装にする。		

14 列品番号	I-337-57	品 質	絹製、藤織・平絹
名 称	淡青地草花文藤織平絹腰袷残欠	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦23.4 横14.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②糸目を揃える。③低加圧式ウィンドウマット装にする。		

15 列品番号	I-337-89	品 質	絹製、夾織・平絹
名 称	淡茶地集花文夾織平絹	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦27.0 横40.8
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②糸目を揃える。③和紙で裏打ちを行う。④低加圧式ウィンドウマット装にする。		

16 列品番号	I-337-90	品 質	絹製、夾織・平絹
名 称	淡茶地集花文夾織平絹	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦26.6 横40.8
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②糸目を揃える。③和紙で裏打ちを行う。④低加圧式ウィンドウマット装にする。		

17 列品番号	I-337-109	品 質	絹製、夾織・羅
名 称	茶地花葉文夾織羅	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦40.0 横25.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②糸目を揃える。③低加圧式ウィンドウマット装にする。		

18 列品番号	I-337-134	品 質	絹製、綾
名 称	紫地飛仙文綾天蓋垂飾残欠	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦33.7 横27.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②糸目を揃える。③和紙で裏打ちを行う。④低加圧式ウィンドウマット装にする。		

19 列品番号	I-337-135	品 質	絹製、綾
名 称	紫地雲鳳文綾天蓋垂飾残欠	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦39.8 横26.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②糸目を揃える。③和紙で裏打ちを行う。④低加圧式ウィンドウマット装にする。		

20 列品番号	I-337-136	品 質	絹製、綾
名 称	黄地花唐草文綾	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	16.1 横24.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②クリーニングの上、形を整える。③低加圧式ウィンドウマット装にする。		

21 列品番号	I-337-137	品 質	絹製、綾
名 称	紫地花唐草文綾幅足残欠	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦24.4 横15.9
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②糸目を揃える。③和紙で裏打ちを行う。④中性紙のウィンドウマット装にする。		

22 列品番号	I-337-171	品 質	絹製、錦
名 称	紫地唐花文錦	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦25.2 横27.1
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②糸目を揃える。③和紙で裏打ちを行う。④中性紙のウィンドウマット装にする。		

23 列品番号	I-337-173	品 質	絹製、錦
名 称	黄地唐花文錦	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦17.8 横17.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②クリーニングの上、形を整える。③縁の処理を行う。④低加圧式ウィンドウマット装にする。		

24 列品番号	I-337-176	品 質	絹製、錦
名 称	長斑花鳥文錦	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦16.0 横17.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②クリーニングの上、形を整える。③縁の処理を行う。④低加圧式ウィンドウマット装にする。		

25 列品番号	I-337-196	品 質	絹製、錦
名 称	黄地連珠入亀甲紫花文錦幅足垂端飾	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦12.3 横11.5
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②クリーニングの上、形を整える。③I-337-196とI-337-197の2点を並列し、1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

26 列品番号	I-337-197	品 質	絹製、錦
名 称	黄地花文錦幅足垂端飾	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦13.0 横11.8
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②クリーニングの上、形を整える。③I-337-196とI-337-197の2点を並列し、1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

27 列品番号	I-337-198	品 質	絹製、錦
名 称	赤地唐花文錦幅足垂端飾	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦13.1 横11.7
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②クリーニングの上、形を整える。③I-337-198とI-337-199の2点を並列し、1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

28 列品番号	I-337-199	品 質	絹製、錦
名 称	白茶地花文錦幅足垂端飾	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦13.5 横11.7
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②クリーニングの上、形を整える。③I-337-198とI-337-199の2点を並列し、1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

29 列品番号	I-337-200	品 質	絹製、錦
名 称	赤地唐花文錦幅足垂端飾	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦12.4 横11.6
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②クリーニングの上、形を整える。③I-337-200とI-337-201の2点を並列し、1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

30 列品番号	I-337-201	品 質	絹製、錦
名 称	緑地唐花文錦幅足垂端飾	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦12.9 横12.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②クリーニングの上、形を整える。③I-337-200とI-337-201の2点を並列し、1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

31 列品番号	I-337-233	品 質	絹製、錦
名 称	淡縹地唐花文錦	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦34.8 横9.2
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②クリーニングの上、形を整える。③I-337-233とI-337-234の2点を1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

32 列品番号	I-337-234	品 質	絹製、平絹・縹縹
名 称	黄緑地目結文縹縹平絹	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦34.8 横8.8
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	①ガラスを外して裂を取り出す。②クリーニングの上、形を整える。③I-337-233とI-337-234の2点を1枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

33 列品番号	I-721	品 質	絹
名 称	小袖白綾地秋草模様	員 数	1領
時 代	江戸時代	寸 法 等	身丈147.2 衿65.1
年代世紀	18世紀	施工会社	株式会社松鶴堂
補足事項	①解体する。②補強、補修を行う。③旧修理を除去する。④表地に補修裂を綴じ付ける。⑤裏地を新調する。⑥仕立て 左右の袖を入れ替える(現状変更) ⑦収納 (2年度は①の途中まで、3年度は③まで)		

<考古> (8件)

34 列品番号	J-8897	品 質	鉄製、金銅製
名 称	方頭大刀	員 数	1口
時 代	奈良時代	寸 法 等	刀身(残存長) 45.5 ; 刀身(残存幅) 3.5 ; 柄(残存長) 12.5 ; 柄(残存幅) 3.5
年代世紀	8世紀	施工会社	公益財団法人 元興寺文化財研究所
補足事項	①クリーニングする。②脱塩処理をする。③樹脂含浸による補強をする。④接合する。⑤補強個所の補彩を施す。⑥安定台(展示台)を作成する。(3年度は③以降実施)		

35 列品番号	J-8898	品 質	鉄製
名 称	鉄板	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦(残存) 31 ; 横(残存) 16 ; 厚(最大) 3
年代世紀	8世紀	施工会社	公益財団法人 元興寺文化財研究所
補足事項	①クリーニングする。②脱塩処理をする。③樹脂含浸による補強をする。④接合する。⑤補強個所の補彩を施す。⑥安定台(展示台)を作成する。(3年度は③以降実施)		

36 列品番号	J-21576	品 質	土製
名 称	埴輪 帽子を被る男子	員 数	1個
時 代	古墳時代	寸 法 等	高72.8cm
年代世紀	6世紀	施工会社	株式会社東都文化財保存研究所
補足事項	①解体し、石膏部分を除去する。②クリーニングする。③頭部と胸部の接合を中心に強化し、整形する。④欠失部を補填し、復元する(ただし左腕と靴尻の形状については類例がないため復元しない)。⑤補填箇所に補彩を施す。(3年度は②以降実施)		

37 列品番号	J-22780	品 質	土製
名 称	深鉢形土器	員 数	1個
時 代	縄文時代(中期)	寸 法 等	高30 口径20
年代世紀	前3000~前2000年	施工会社	有限会社 武蔵野文化財修復研究所
補足事項	①解体し、石膏などを除去する。②クリーニングする。③強化し、接合する。④欠失部分を補填、復元する。⑤補填箇所に補彩する。(3年度は②の途中から実施)		

38 列品番号	J-23174	品 質	土製
名 称	壺形土器	員 数	1個
時 代	縄文時代(中期)	寸 法 等	高40 口径33
年代世紀	前3000~前2000年	施工会社	有限会社 武蔵野文化財修復研究所
補足事項	①解体し、石膏などを除去する。②クリーニングする。③強化し、接合する。④欠失部分を補填、復元する。⑤補填箇所に補彩する。(3年度は②以降実施)		

39 列品番号	J-23765	品 質	土製
名 称	壺形土器	員 数	1個
時 代	擦文時代	寸 法 等	器高14.3 底径6.7
年代世紀	8世紀	施工会社	株式会社東都文化財保存研究所
補足事項	①解体する。②クリーニングする。③強化し接合する。④欠失部分を補填し復元する。⑤補填箇所に補彩する。(3年度は③以降実施)		

40 列品番号	J-38859-16	品 質	土師器
名 称	S字状口縁甕	員 数	1個
時 代	古墳時代	寸 法 等	高9.3~26.0 口径10.2~17.0
年代世紀	3~4世紀	施工会社	藪山 隆司
補足事項	①解体し、石膏部分を除去する。②クリーニングする。ただし、表面の煤焦げは用途を証明する部位のため取り去らない。③強化し、接合する。④欠失部を補填し、復元する。この際、制作時本来の形状である脚台も復元する。⑤補填箇所に補彩を施す。ただし、脚台は後補であることが明瞭な仕上げにする。(3年度は①の途中から実施)		

41 列品番号	J-7822	品 質	土師器
名 称	埴輪 馬	員 数	1個
時 代	古墳時代	寸 法 等	高78.9 長77.2
年代世紀	6世紀	施工会社	岡山 隆司
補足事項	①解体し、石膏部分を除去する。②クリーニングする。③破断、亀裂箇所を重点的に強化し、接合する。④欠失部を補填し、復元する。⑤補填箇所に補彩を施す。⑥取り外し可能な支持具付きの展示台を作製し、頭部にかかる重心を分散し安定した展示を可能にする。(2年度は①の途中まで、3年度は④まで)		

<和書>(1件)

42 列品番号	QB-30	品 質	紙本墨摺
名 称	大三川志	員 数	109冊
時 代	江戸時代	寸 法 等	各冊とも、縦26.4×横18.1
年代世紀	18世紀	施工会社	有限会社 東京修復保存センター
補足事項	リーフキャストイング(漉き込み)法による修理とする。①修理前調査を行なう。②解体する。③リーフキャストイング前処置(本紙整形、虫糞等除去、脆弱部分を和紙と生糊で固定)をする。④リーフキャストイング(本紙に適した槽・三極の混合液を原料として、作業後は十分な乾燥期間をおく)⑤断裁作業(周囲を本紙保護に適した余白を残して断裁する)⑥表紙を補修する。⑦元の冊子装に製本する。(2年度は①まで、3~4年度は②~⑦を行う)		

<東洋絵画>(2件)

43 列品番号	TA-40	品 質	絹本墨画淡彩
名 称	第二十三天聖尊者図軸	員 数	1幅
時 代	高麗時代	寸 法 等	縦60.2 横41.6
年代世紀	13世紀	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	①表装を解体する。②剥落止めを施し、汚れを除去する。③表打ちをして養生をしたのち、旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補綴を施す。④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。⑤新規補綴部分に補彩を施す。⑥表装裂、軸首、端喰は再使用して、掛幅装に仕立てる。⑦桐製太巻、桐製保存箱、布貼覆帙を新調する。(3年度は③の途中から実施)		

44 列品番号	TA-694	品 質	紙本墨画淡彩
名 称	五馬図巻	員 数	1巻
時 代	北宋時代	寸 法 等	縦27.8 長さ256.5
年代世紀	11世紀	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	①表装を解体する。②剥落止めを施し、汚れを除去する。③旧裏打ち紙を除去し、現状の補綴は検討の上処置する。④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。⑤題簽・見返し・隔水・巻き込み紙・天地表装紙は補修の上再使用、爪、軸首も再使用する。紐は新調し、表紙は復元新調して卷子装に仕立てる。⑥桐製太巻芯・桐材印籠箱を新調する。旧箱・旧八双をまとめて中性紙保管箱に収納し、作品を収めた収納箱と並置する外箱を新調し、中性紙布貼帙にまとめて収納する。(3年度は⑤以降実施)		

<東洋書跡>(2件)

45 列品番号	TB-1215	品 質	紙本墨書
名 称	草書尺牘巻	員 数	1巻
時 代	明時代	寸 法 等	本紙 縦19.0×横91.0
年代世紀	14世紀	施工会社	株式会社光影堂
補足事項	①表装を解体する。②墨、印章の剥落止めを施し、汚れを除去する。③旧裏打紙を除去し、本紙上下部に足し紙、欠損部に補綴を施す。④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。⑤新規補綴部分に補彩を施す。⑥旧表装裂は再使用し、覆輪、軸木、八双、紐、爪は新調し、中国式の卷子装に仕立てる。⑦保存箱は再使用し、タトウは布貼覆帙を新調する。(3年度は③の途中から実施)		

46 列品番号	TB-1458	品 質	紙本墨書
名 称	行書三帖巻	員 数	1巻
時 代	北宋時代	寸 法 等	(1)叔晦帖：縦24.5 横29.6 (2)李太師帖：縦26.0 横34.5 (3)張李明帖：縦25.8 横31.3
年代世紀	11~12世紀	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	①表装を解体する。②剥落止めを施し、汚れを除去する。③旧裏打ち紙を除去し、本紙欠損部に補綴を施す。④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。⑤見返し、紐、コハセ、軸首は補修の上再使用し、新調した表紙にて卷子装に仕立てる。⑥桐製太巻添軸、桐製保存箱を新調して収納する。(3年度は⑤以降実施)		

<東洋漆工>(1件)

47 列品番号	TH-388	品 質	木製漆塗
名 称	雲龍螺鈿机	員 数	1基
時 代	朝鮮時代	寸 法 等	幅75.8 奥行34.3 高27.7
年代世紀	19世紀	施工会社	東京藝術大学
補足事項	①外れている破損部を、元の位置に接着する。欠失している部材を補う。②剥離した漆塗膜を、可能な限り平滑となるよう漆等を含浸させて圧着する。③亀裂開口部の空隙に漆下地等を充填し、強化する。④全体を養生しクリーニングを行う。(3年度は③以降実施)		

<東洋染織>(1件)

48 列品番号	TI-421	品 質	絹製、羅・緯絲
名 称	九条袈裟紫地唐草文様印金／草花文様緯絲	員 数	1肩
時 代	元~明時代	寸 法 等	長231.5 幅：右端 101.5 中央89.8 左端92.0
年代世紀	14世紀	施工会社	株式会社半田九清堂
補足事項	①解体する。②表面に付着した汚れを除去する。③旧裏打紙を除去し、新規裏打ちを行う。④補綴を加工し、欠損部に補綴を行う。⑤裏地補強用の裂を染め、全面に留めつける。⑥芯地を新調し、本体裂を部位ごとに留め付け、裏地を仕立てる。⑦紐、紐座を補修し、元の位置に留め付ける。⑧表地と裏地を合わせ、全体を仕立てる。⑨中性紙製収納箱を作製し、袈裟を収める。(3年度は⑤以降実施)		

〈東洋考古〉(5件)

49 列品番号	TJ-2976	品 質	土製
名 称	灰陶短頸壺	員 数	1合
時 代	後漢時代	寸 法 等	高18.7 口径9.8
年代世紀	2世紀	施工会社	蘭山 隆司
補足事項	①解体する。②クリーニングする。③強化し、接合する。④欠失部を補填し、復元する。⑤補填箇所を補彩を施す。(3年度は②以降実施)		

50 列品番号	TJ-2979	品 質	土製
名 称	灰陶壺	員 数	1合
時 代	後漢時代	寸 法 等	蓋:高18.5 径23.6/器身:高17.7 径19
年代世紀	2世紀	施工会社	蘭山 隆司
補足事項	①解体し、石膏を除去する。②クリーニングする。③強化し、接合する。④欠失部を補填し、復元する。⑤補填箇所を補彩を施す。(3年度は①の途中から実施)		

51 列品番号	TJ-2981	品 質	土製
名 称	灰陶壺	員 数	1合
時 代	後漢時代	寸 法 等	蓋:高12 長21.8/器身:高17.5
年代世紀	2世紀	施工会社	蘭山 隆司
補足事項	①解体し、石膏を除去する。②クリーニングする(魚骨が遺存する土は除去しない)。③強化し、接合する。④欠失部を補填し、復元する。⑤補填箇所を補彩を施す。(3年度は①の途中から実施)		

52 列品番号	TJ-3006	品 質	土製
名 称	灰陶蓋	員 数	1口
時 代	後漢時代	寸 法 等	径11 高6.1
年代世紀	2世紀	施工会社	蘭山 隆司
補足事項	①解体する。②クリーニングする。③強化し、接合する。④欠失部を補填し、復元する。⑤補填箇所を補彩を施す。(3年度は②の途中から実施)		

53 列品番号	TJ-5824	品 質	土製
名 称	灰陶壺	員 数	1基
時 代	後漢時代	寸 法 等	高12.5cm,長幅22.7cm,短幅12.7cm
年代世紀	2世紀	施工会社	蘭山 隆司
補足事項	①解体する。②クリーニングする。③強化し、接合する。④欠失部を補填し、復元する。⑤補填箇所を補彩を施す。(3年度は②の途中から実施)		

【京都国立博物館】(計9件)

〈絵画〉(4件)

1 名 称	遠浦帰帆図(えんぼきはんず)	員 数	1幅
時 代	中国・南宋時代(13世紀)、伝牧谿	寸 法 等	縦32.5cm×横112.3cm
品 質	紙本墨画	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> ① 修理前の本紙の状態を写真撮影し、調査を行う。 ② 掛軸装を解体し、肌裏紙を残して、旧裏打紙を除去する。 ③ 浄化水で本紙表面の汚れを除去する。 ④ 膠水溶液で墨及び印の朱の剥落止めを行う。 ⑤ 旧肌裏紙、旧補修紙を除去する。 ⑥ 本紙欠失箇所を補修紙にて補紙を施す。 ⑦ 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 ⑧ 本紙に美禰紙にて増裏打を行う。 ⑨ 折れ伏せを入れる。 ⑩ 表装裂地などはこれまでの由来を示すものとして、できる限り再使用する。 ⑪ 本紙と表装裂地を掛軸装の形に付け廻す。 ⑫ 美禰紙にて中裏打を行う。 ⑬ 宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りして十分に乾燥させる。 ⑭ 桐製太巻添軸、旧箱を合わせて収納する二重箱をそれぞれ新調し、包装に包む。 ⑮ 2か年修理で、総工費629万2,588円(見積額)の予定。 		
指 定	重要文化財		

2 名 称	阿弥陀八大菩薩図(あみだはちだいぼさつず)	員 数	1幅
時 代	朝鮮王朝時代(16世紀)	寸 法 等	縦148.2cm 横159.4cm
品 質	絹本着色	施工会社	株式会社松鶴堂
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> ① 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 ② 解体に先立ち、本紙表面の汚れを除去する。 ③ 本紙と表装裂地を取り外し、旧肌裏紙以外の裏打紙を除去する。 ④ 本紙の汚れを除去する。 ⑤ 絵具層の剥落止を行う。 ⑥ 本紙の肌裏紙を除去する。 ⑦ 本紙の欠損部分には、本紙と組成の近い補修絹を入れる。 ⑧ 各種裏打を施し、折れ伏せを入れる。 ⑨ 補修絹には補彩を施すが、違和感なく鑑賞できる処置とする。 ⑩ 掛軸装に仕立てる。表装裂地や軸首などは新調する。 ⑪ 桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、納入する。 ⑫ 修理後の記録をとり、報告書を作成する。 		

3 名 称	山水図 (さんすいず)	員 数	1幅
時 代	室町時代 (15世紀)、拙宗	寸 法 等	縦98.2cm × 横33.2cm
品 質	紙本墨画淡彩	施工会社	株式会社光影堂
補足事項	<p>① 本紙の状態を調査、記録して損傷状況を精査する。 ② 掛軸装を解体し、本紙肌裏紙以外の旧裏打紙をおおよそ除去する。 ③ 本紙表面に数回の剥落止めを施す。 ④ 本紙の汚れを適切に除去する。 ⑤ 本紙の旧肌裏紙及び旧補紙を適切に除去する。 ⑥ 本紙欠失箇所に補紙を施す。 ⑦ 本紙の色合いにあわせ、薄美濃紙を用いて新たに肌裏打ちを行う。 ⑧ 増裏を施した上、折伏せを入れる。 ⑨ 新たに選定した表装製を、三段表具として付け直す。 ⑩ 中裏、総裏を施す。 ⑪ 新たに補った補紙に本紙地色に合わせて補彩を施す。 ⑫ 新調した軸木、八双、金具類、掛緒、巻緒などを取り付ける。軸首のみは元のを再使用する。 ⑬ 新調した包装に包み、同じく新調した桐太巻及び屋郎箱に納める。軸木などをふくむ旧表装は旧箱におさめ、全体を中性紙の保存箱で保管する。 ⑭ 修理後の状態を記録し、修理報告書を作成して修理を完了する。</p>		
指 定	重要文化財		

4 名 称	雪裡三友図 (せつりさんゆうず)	員 数	1幅
時 代	室町時代 15世紀	寸 法 等	縦131.5cm 横37.3cm
品 質	紙本墨画	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	<p>① 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 ② 掛軸装をし、本紙と表装裂地及び一部の裏打紙を取り外す。 ③ あらかじめ危険箇所の剥落止めを行った上で、本紙の汚れを除去する。 ④ 改めて剥落止めを行う。 ⑤ 適切な方法で、本紙の肌裏紙を除去する。 ⑥ 本紙の欠損部分に補修紙を入れる。 ⑦ 各種の裏打を新たに施し、折れ伏せを入れて補強する。 ⑧ 補修紙に補彩を施す。 ⑨ 掛軸装に仕立てる。 ⑩ 必要に応じて桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、収納する。 ⑪ 修理後の記録をとり、報告書を作成し、納品する。</p>		
指 定	重要文化財		

<書跡> (1件)

5 名 称	説一切有部品類足論卷第十五 (孝謙天皇願經) (せついつさいうぶほんるいそくろんかんだい15)	員 数	1卷
時 代	奈良時代 神護景雲二年 (768)	寸 法 等	縦27.4cm 横485.6cm
品 質	紙本墨書	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	<p>① 本紙の部を詳細に調査し、写真撮影等を行い、修理前の状況を記録する。 ② 現状の卷子装より本紙を取り外す。 ③ 柔らかい筆などを用いたドライクリーニングを行い、本紙の負担がかからないように埃や汚れを取り除く。 ④ 最小限の加湿を与え、旧肌裏紙の除去を行う。 ⑤ デジタル撮影した料紙データを元に、DIPS方式にて虫損箇所の補修紙を準備する。 ⑥ 作製した補修紙を用いて、虫損による欠失箇所を補填する。 ⑦ 本紙の色調に合わせて染色した薄美濃紙と新糊を用いて、肌裏打ちを行う。 ⑧ 折れが発生している箇所や今後、折れが発生する恐れのある箇所に楮紙と新糊を用いて、折れ伏せを施す。 ⑨ 本紙を元の順番に継ぎ直す。 ⑩ 楮紙と新糊・布海苔抽出接着剤の混合糊を用いて、総裏打ちを行う。 ⑪ 仮張りを行い、十分に乾燥させる。 ⑫ 新調した表紙、八双、紐を用いて表紙を作製する。 ⑬ 巻頭に新調した表紙、巻末に新調した軸巻紙、軸首は元のを修理し再使用し、新調した軸木等を取り付け、卷子装に仕立てる。 ⑭ 桐太巻添軸1本を新調し太く巻き、羽二重の包装に包み、新調した桐屋郎箱1箱に納める。 ⑮ 写真撮影等を行い、修理後の記録をする。 ⑯ 修理報告書を作成し、修理を完了する。</p>		

<彫刻> (1件)

6 名 称	木造神像のうち 伝宇賀御魂神立像 (でんうがみたましんりゅうぞう)	員 数	1軀
時 代	江戸時代 17~18世紀	寸 法 等	像高100.6cm
品 質	木造彩色	施工会社	公益財団法人美術院
補足事項	<p>① 付着する塵埃を払い、汚れをできるだけ除去する。 ② 表面の後補彩色は、下層の当初彩色に留意して除去する。 ③ 当初彩色層の浮き上がりは、膠・樹脂等で剥落止めを行う。また後補彩色の除去後に木地が露出する箇所は、周囲に合わせて古色による補彩を行う。 ④ 矧ぎ目が離れる箇所は一旦取り離して劣化した膠等を除去し、目違いを修整して組み付ける。また矧ぎ目が離れずに緩みや隙間がみられる箇所は、隙間に膠や薄板を差し入れ、矧ぎ目を木屎漆で整形し補修する。 ⑤ 後補の顎鬚は取り離し、形状の修整を行い取り付ける。後補の鼻先は木屎漆で修整する。 ⑥ 脱落する両手先は、新たな膠で接着し復位する。 ⑦ 割損脱落する左手第一指は、膠と漆で接着し復位する。欠失する第五指先は桧材で補足する。 ⑧ 狐の尾の蠟柄が緩い箇所は薄板を貼って調整し、安定をはかる。 ⑨ 台座は漆仕上げの方座を新補し、安定を図る。</p>		

<金工> (3件)

7 名 称	三足香炉 (さんそくこうろ)	員 数	1口
時 代	江戸時代 元和八年(1622)	寸 法 等	高さ17.0 口径24.8 底径20.0
品 質	鉄鑄造	施工会社	公益財団法人元興寺文化財研究所
補足事項	①純水による器体全体のクリーニングを行う。 ②炉内の剥離箇所については極力残す方向性でクリーニングを行うが、処置によりやむを得ず崩壊した箇所については樹脂による再接着はせず、破片を保管する。 ③防錆処理を行う。 ④錆化の進行具合によって、樹脂塗布ないし樹脂含浸を行う。 ⑤処置中の適切な段階で、三次元計測及び乾式・湿式拓本による外周部陽鑄銘の記録調査を行う。 ⑥処置中の適切な段階で、X線写真撮影を行う。 ⑦報告書を作成する。		

8 名 称	刀 銘藤原鎮清 (かたな めいふじわらしげきよ)	員 数	1口
時 代	藤原鎮清 室町時代・16世紀	寸 法 等	全長108.2cm 刃長81.7cm
品 質	鉄鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
補足事項	①金剛砥・備水砥・改正砥を用いて成形し、下地研磨を行う。 ②中名倉砥・細名倉砥を用いて地鉄を整える。 ③内曇砥を用いて刃と地を研磨する。 ④刃艶と地艶を用い、古式研磨法である差込研を行う。 ⑤鋒部分の銚子を磨き、ナルメを行う。 ⑥繩を純銀で新規製作する。 ⑦白鞘を朴材で新規製作する。 ⑧報告書を作成する。		

9 名 称	刀 (かたな)	員 数	1口
時 代	河内守国助 (二代) 江戸時代・17世紀	寸 法 等	全長69.6cm 刃長54.3cm
品 質	鉄鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
補足事項	①金剛砥・備水砥・改正砥を用いて成形し、下地研磨を行う。 ②中名倉砥・細名倉砥を用いて地鉄を整える。 ③内曇砥を用いて刃と地を研磨する。 ④刃艶と地艶を用い、古式研磨法である差込研を行う。 ⑤鋒部分の銚子を磨き、ナルメを行う。 ⑥繩を清掃し、調整を行う。 ⑦白鞘を朴材で新規製作する。旧白鞘には鞘書が存在するため、これを保管する。 ⑧報告書を作成する。		

【奈良国立博物館】 (計3件)

<絵画> (2件)

1 名 称	絹本着色聖徳太子絵伝	員 数	2幅
時 代	南北朝時代	寸 法 等	
品 質	絹本着色	施工会社	株式会社文化財保存
補足事項	修理前調査、剥落止め、解体、クリーニング、裏打ち除去、補絹、裏打ち、補彩、表装、箱新調。		

2 名 称	絹本着色十二天像	員 数	12幅
時 代	鎌倉～南北朝時代	寸 法 等	
品 質	絹本着色	施工会社	株式会社文化財保存
補足事項	修理前調査、剥落止め、解体、クリーニング、裏打ち除去、補絹、裏打ち、補彩、表装、箱新調。		

<彫刻> (1件)

3 名 称	木造二十八部衆立像 (毘沙門天・毘樓博叉天)	員 数	2軀
時 代	鎌倉時代	寸 法 等	
品 質	木彫	施工会社	公益財団法人美術院
補足事項	クリーニング、再接着、形状整形、補修、剥落止め、補足安定化、部材取り付け。		

【九州国立博物館】 (計17件)

<絵画> (2件)

1 名 称	釈迦三尊図 (しゃかさんぞんず)	員 数	3幅
時 代	中国・元時代 13-14世紀	寸 法 等	各 縦135.5cm 横77.2cm
品 質	絹本着色	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1. 膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2. 表装を解体する。 3. 汚れを除去する。 4. 料絹欠失箇所に電子線劣化絹にて補絹を行う。 5. 布海苔抽出液で養生を施し、肌裏紙を除去する。 6. 新たに裏打ちを行う。 7. 折れ伏せを施す。 8. 中縁裂は可能であれば再使用し、総縁裂と風袋裂を新調して、仏表装の形に付け廻しする。 9. 中裏打ち、総裏打ちを行う。 10. 補絹箇所に補彩を施す。 11. 吊環は再使用し、掛幅装に仕立てる。 12. 桐製太巻添軸、3幅入り桐製印籠箱を新調する。 (2～3年度 2か年継続事業、3年度は12まで実施)		

2 名 称	大坪流馬術印可状及び馬術図	員 数	4巻、7枚
時 代	印可状：江戸時代 元和3年(1617) 馬術図：江戸時代 17世紀	寸 法 等	印可状：縦18.2cm 横108.2cm 馬術図：縦30.4cm 横39.1cm
品 質	紙本着色	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 表装を解体する。 2. 膠水溶液にて墨、絵具層の剥落止めを行う。 3. 汚れを除去する。 4. 印可状は本紙のフラットニングを行い、本紙裏面から損傷箇所の補修を行う。馬術図は旧肌裏紙等を除去する。 5. 折れ伏せを施す。 6. 印可状は再度、本紙のフラットニングを行い、馬術図は新たに裏打を行う。 7. 馬術図は補修箇所にも補彩を施し、印可状は卷子装に仕立てる。 8. 桐製印籠箱を新調する。 		

<書跡> (4件)

3 名 称	高麗再離版大方等無想經	員 数	6帖
時 代	韓国・高麗時代 13世紀	寸 法 等	縦29.2cm 全長：巻1 350.9cm、巻2 568.7cm、巻3 長568.7cm、巻4 532.4cm、巻5 459.8cm、巻6 453.8cm
品 質	紙本墨刷	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 表装を解体する。 2. 汚れを除去する。 3. 旧補修紙等を除去する。 4. 本紙欠失箇所の補修を行う。 5. 亀裂箇所に補強を施す。 6. 本紙欠失箇所に補修を施す。 7. 表紙と裏表紙を作成し、折本装に仕立てる。 8. 裂貼箱帙を新調する。 		

4 名 称	伊勢集断簡(石山切)	員 数	1幅
時 代	平安時代 12世紀	寸 法 等	縦19.9cm 横15.6cm
品 質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2. 表装の解体を行う。 3. 汚れを除去する。 4. 旧肌裏紙を除去する。 5. 損傷箇所の補修を行う。 6. 新たに裏打ちを行い、折れ伏せを施す。 7. 表装裂地は再使用し、掛幅装に仕立てる。 8. 桐製太巻添軸、桐製印籠箱を新調する。 		

5 名 称	醍醐天皇宸翰 模本	員 数	1巻
時 代	江戸時代 17世紀	寸 法 等	縦32.4cm 横196.3cm
品 質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 表装を解体する。 2. 膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 3. 汚れを除去する。 4. 再度剥落止めを行う。 5. 旧裏打紙を除去する。 6. 本紙欠失箇所に補修を施す。 7. 新たに裏打ちを行う。 8. 折れ伏せを施し、総裏打ちを行う。 9. 表紙と見返しは補修を施し再使用して卷子装に仕立てる。 10. 桐製太巻添軸、桐製印籠中箱、漆塗桐製台差紐付外箱を新調する。 		

6 名 称	大乘密藏經上巻(色定法師一筆一切經)	員 数	1巻
時 代	鎌倉時代・建久5年(1194)	寸 法 等	縦24.6cm 全長806.7cm
品 質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卷子装を解体する。 2. 膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 3. 汚れを除去する。 4. 旧裏打紙及び旧補修紙を除去する。 5. 本紙欠失箇所の補修を行う。 6. 折れ伏せを施す。 7. 新たに裏打ちを施し、本紙を継ぎ合わせる。 8. 表紙と軸巻紙を新調し、本紙に継ぎ合わせる。 9. 軸首を再使用して卷子装に仕立てる。 10. 桐製太巻添軸、桐製印籠中箱、黒漆塗桐製台差外箱を新調する。 		

<金工> (1件)

7 名 称	霞地真形釜欠風炉	員 数	1口
時 代	室町時代 15世紀	寸 法 等	総高25.2cm 羽径39.6cm
品 質	鉄・鑄造	施工会社	八木鑄金
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内外面の赤錆を除去する。 2. 内面の隙間に入った灰を除去する。 3. ひび割れ部分に漆を浸透させ、剥離を防止する。 4. 金漆を充填し補強する。 5. 全体の補修が完了後、錆止め処置と色調合わせを行う。 		

<刀剣> (2件)

8 名称	短刀 銘吉光	員数	1口
時代	室町時代前期 14-15世紀	寸法等	総長24.9cm 刃長16.9cm 反なし 元幅1.9cm 元重1.0cm
品質	鉄・鍛造	施工会社	刀剣研師 小宮 光敏
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 茎の手入れをする。 2. 棟の錆を取る。 3. 彫り物の掃除をする。 4. 平地を手入れし、うすいシミを除去する。 5. 棟を磨く。 6. 拵えの目釘を新調する。 7. 色上げし直した緋を装着し、白鞘に納める。 		

9 名称	刀 朱銘長義	員数	1口
時代	南北朝時代 14世紀	寸法等	全長87.4cm 刃長66.8cm 反1.5cm 元幅3.0cm 先幅2.0cm 元重0.7cm 先重0.4cm
品質	鑄造	施工会社	刀剣研師 小宮 光敏
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 茎の黒色部分を手入れする。 2. 改正砥で錆と刃こぼれを取り、姿を直す。 3. 樋を磨く。 4. 名倉砥、内曇砥を用いて研磨を行う。 5. 刃艶砥、地艶砥で整える。 6. 刃取りを行う。 7. 差込み拭いをかける。 8. 鉋子をナルメる。 9. テリ、棟を磨く。 10. 金を着せなおした緋を装着し、白鞘に納める。 		

<考古> (3件)

10 名称	福岡県指定 ガラス璧(三雲南小路遺跡1号甕棺出土品)	員数	2点
時代	弥生時代 前1~後1世紀	寸法等	1: 復原径12.3cm 2: 復原径12.0cm
品質	ガラス	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	<p>作品の形状に合わせて安定台座(アクリル板、艶消し黒色アクリル塗装)を作成する。作品との接地部分はエポキシ樹脂で受けを作成する。欠失部分は、アクリル板と樹脂等で全体形状を簡略化し、作品の基調色を単色で表現して復元する。</p>		

11 名称	福岡県指定 金銅四葉座飾金具(三雲南小路遺跡1号甕棺出土品)	員数	2点
時代	弥生時代 前1~後1世紀	寸法等	各最大径7.8cm
品質	金銅	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	<p>作品の形状に合わせて安定台座(アクリル板、艶消し黒色アクリル塗装)を作成する。作品との接地部分はエポキシ樹脂で受けを作成する。欠失部分は、アクリル板と樹脂等で全体形状を簡略化し、作品の基調色を単色で表現して復元する。</p>		

12 名称	福岡県指定 連弧文「清白」鏡(三雲南小路遺跡1号甕棺出土品)	員数	1面
時代	弥生時代 前1~後1世紀	寸法等	復原径16.4cm、鈕径2.2cm
品質	青銅	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	<p>作品の形状に合わせて安定台座(アクリル板に、艶消し黒色アクリル塗装)を作成する。作品との接地部分はエポキシ樹脂で受けを作成する。欠失部分は、アクリル板と樹脂等で全体形状を簡略化し、作品の基調色を単色で表現して復元する。</p>		

<民族資料> (2件)

13 名称	浮彫十二支像(善徳女王陵) 拓本	員数	11枚
時代	現代 20世紀(原品:大韓民国 統一新羅時代 8世紀)	寸法等	各 縦141.0cm 横74.0cm
品質	紙本墨拓	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2. 額装の解体を行う。 3. 汚れの除去を行う。 4. 旧肌裏紙の除去を行う。 5. 本紙周囲に補修を行う。 6. 新たに裏打ちを行う。 7. 折れ伏せを施す。 8. 表装裂地を新調し、丸表装の形に仕立てる。 9. 表装裂地を新調し、裏打ちを行う。 10. 本紙と表装裂地を付け廻し、丸表装の形に仕立てる。 11. 軸首、上下軸木、吊環、啄木等を新調し、掛幅装に仕立てる。 12. 桐製太巻添軸、桐製印籠箱2合を新調する。(3~4年度 2か年継続事業。3年度は工程9までを施工) 		

14 名称	浮彫十二支像(金庚信墓) 拓本	員数	11枚
時代	現代 20世紀(原品:大韓民国 統一新羅時代 8世紀)	寸法等	各 縦141.0cm 横74.0cm
品質	紙本墨拓	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2. 額装の解体を行う。 3. 汚れの除去を行う。 4. 再度、剥落止めを行う。 5. 旧肌裏紙の除去を行う。 6. 本紙周囲に補修を行う。 7. 新たに裏打ちを行う。 8. 折れ伏せを施す。 9. 表装裂地を新調し、裏打ちを行う。 10. 本紙と表装裂地を付け廻し、丸表装の形に仕立てる。 11. 軸首、上下軸木、吊環、啄木等を新調し、掛幅装に仕立てる。 12. 桐製太巻添軸、桐製印籠箱2台を新調する。 (3~4年度 2か年継続事業。3年度は工程9までを施工)		

<歴史資料> (3件)

15 名称	広開土王碑拓本	員数	4面
時代	(採拓) 昭和9年頃(1934年) (原碑) 朝鮮・三国時代 414年	寸法等	第1面: 縦539.3cm 横148.0cm, 第2面: 縦528.0cm 横122.0cm, 第3面: 縦532.0cm 横178.0cm, 第4面: 縦530.0cm 横120.0cm
品質	紙本墨拓	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 膠水溶液を用いて剥落止め、強化を行う。 2. 汚れを除去する。 3. 本紙欠失箇所及び四方周囲に補修を行う。 4. 新たに裏打ちを行う。 5. 折れ伏せを施す。 6. 美栖紙にて古糊を用い、増裏を打つ。 7. 表装裂地を新調し、袋表装の形に付け廻しする。 8. 中裏打ち、総裏打ちを行う。 9. 軸首・上下軸木・啄木・吊環等を新調し、掛軸装に仕立てる。 10. 中性ボード製保存箱を作製する。 (30年~3年 4か年継続事業。3年度は第4面を施工)		

16 名称	重要文化財 対馬宗家関係資料20箱 巻4~6巻	員数	3巻
時代	江戸時代 18世紀	寸法等	巻4: 縦23.4cm 全長2,372.0cm 巻5: 縦23.4cm 全長3,848.3cm 巻6: 縦23.3cm 全長2,222.5cm
品質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卷子装を解体する。 2. 膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 3. 汚れを除去する。 4. 旧肌裏紙及び旧補修を除去する。 5. 本紙の欠失箇所に補修を行う。 6. 新たに裏打ちを行う。 7. 折れ伏せを施す。 8. 補修した表紙裂地と見返しを貼り合わせ、総裏打ちを行う。 9. 表紙を本紙に継ぎ合わせる。 10. 軸首、軸木、八双、紐を再使用して卷子装に仕立てる。 11. 桐製太巻添軸を新調する。 		

17 名称	重要文化財 安南国臣文理侯書	員数	1幅
時代	ベトナム・後黎朝 弘定11年(1610)	寸法等	縦29.5cm 横43.6cm
品質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2. 表装を解体する。 3. 汚れの除去を行う。 4. 旧肌裏紙を除去する。 5. 損傷箇所の補修を行う。 6. 本紙のフラットニングを行い、マット装に仕立てる。 7. 安南国副都堂福義侯阮肅書(P14982)の保存箱に重ねて納める。 		

1-(1)-②-6 文化財修理データのデータベース化件数

令和4年3月31日現在

	計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合計	195	16	124 (5,577)	55 (1,145)
絵画	77	2	56 (2,314)	19 (410)
書跡	41	2	32 (1,254)	7 (220)
彫刻	40	0	21 (1,432)	19 (325)
建築	0	0	0 (15)	0 (1)
金工	1	1	0 (2)	0 (4)
刀剣	0	0	0 (0)	0 (0)
陶磁	0	0	0 (1)	0 (0)
漆工	8	0	0 (40)	8 (125)
染織	3	0	1 (198)	2 (25)
考古	4	4	0 (18)	0 (0)
民族資料	0	0	0 (6)	0 (2)
歴史資料	9	0	9 (242)	0 (31)
和書	0	0	0 (0)	0 (0)
写真資料	0	0	0 (0)	0 (0)
その他	5	0	5 (55)	0 (2)
東洋	絵画	1	1	
	書跡	2	2	
	彫刻	0	0	
	金工	0	0	
	陶磁	1	1	
	漆工	0	0	
	染織	0	0	
	考古	1	1	
	民族	0	0	
法隆寺献納宝物	2	2		
黒田記念館収蔵品	0	0		
館史資料(収蔵品外)	0	0		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、()内は当年度までの新規入力件数の累計。

1-(2) 展覧事業

1-(2)-① 平常展

1-(2)-② 特別展等

1-(2)-①・②-1 来館者数推移（入館料別）（過去5か年（後述の資料に記載） ◎共通資料a-①

1-(2)-①・②-2 来館者数推移（展覧会別）（過去5か年（後述の資料に記載） ◎共通資料a-②

1-(2)-①・②-3 平常展・特別展・海外展（後述の資料に記載） ◎共通資料a-③

1-(2)-①-4 平常展の展示替件数（後述の資料に記載） ◎共通資料a-③

1-(2)-①-5 平常展の展示総件数（後述の資料に記載） ◎共通資料a-③

1-(2)-①-6 平常展来館者アンケート（後述の資料に記載） ◎共通資料e

1-(2)-②-7 特別展来館者アンケート（後述の資料に記載） ◎共通資料e

1-(2)-③ 観覧環境の向上等

1-(2)-③-1 観覧環境に関する来館者アンケート（後述の資料に記載） ◎共通資料e

1-(2)-③-2 多言語表記に関する外国人アンケート（後述の資料に記載） ◎共通資料e

1-(2)-③-3 バリアフリー施設・設備の設置状況

令和4年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
トイレ(多目的トイレ、車いす対応)	18か所 (本館6、平成館3、東洋館2、法隆寺宝物館1、資料館1、黒田記念館2、正門プラザ2、庭園1)	9か所 (平成知新館5、明治古都館1、南門施設1(乳児ベッド併設)、屋外トイレ1、文化財保存修理所1)	3か所 (東新館1、地下回廊2)	9か所 (本体建物6、屋外3)
エレベータ(手すり、押しボタン、車いす対応)	10基 (本館1、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1、黒田記念館2、表慶館1)	5基 (平成知新館4、東収蔵庫1) 昇降装置1基 (旧管理棟1)	4基 (なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1)	2基 (本体建物)
スロープ	5か所 (本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館)	4か所 (平成知新館1、明治古都館1、南門施設1、文化財保存修理所1)	3か所 (なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1)	1か所 (通用口)
ハンディキャップ優先駐車	2台	3台	3台	23台
車椅子	27台 (正門・正門プラザ5、本館5、東洋館3、平成館11、法隆寺宝物館2、黒田記念館1)	14台 (検札2、平成知新館7、倉庫保管5)	14台	28台
乳幼児用設備	○ベビーカー 3台 ○ベビーシート 16か所 ○ベビーチェア 13か所 ○授乳室 1か所	○ベビーカー 8台 ○ベビーシート 12か所 ○ベビーチェア 11か所 ○授乳室 2か所	○ベビーシート 2か所 ○ベビーチェア 1か所 ○おむつ交換台 1か所	○ベビーカー 10台 ○ベビーシート 15か所 ○ベビーチェア 6か所 ○幼児用補助便座 6か所 ○授乳室 1か所
自動扉	61台(多目的トイレ含む)	33台(多目的トイレ含む)	13台	19台(多目的トイレ含む)
3年度整備事項	平成館2階男子トイレの小便器を低リップの壁掛け式小便器に更新した。	屋外トイレの洗浄スイッチを視覚障害者が使用しやすい大型の押ボタン式に交換した。また敷地内雨水側溝の溝蓋(ゲレチン)が、現状目が粗く杖利用者が踏く恐れがあることから、目が細かいもの(隙間1cm以下)のものに交換した。	東西新館内点字ブロック未整備場所について整備を行った。またイラストやピクトグラムなどを取り入れ、外国人来館者や障がい者にもわかりやすい内容になるよう、館内看板などの作成・更新を行った。また、館内看板などの4言語(日・英・中・韓)による表記を進めた。	

1-(2)-③-4 音声ガイド実施状況

令和4年3月31日現在

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
3年度計(台):	147,981台	3年度計(台):	13,656台	3年度計(台):	39,340台	3年度計(台):	26,119台
・特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」(日)	44,477台	・凝然国師没後700年 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」(日、英)	2,495台	・聖徳太子1400年遠忌記念特別展「聖徳太子と法隆寺」	9,529台	・特別展「よみがえる正倉院宝物・再現模造にみる天平の技」	2,255台
・特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」(日)	13,225台	うち日本語版	2,475台	うち日本語版	9,529台	うち日本語版	2,252台
・聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」(日)	19,980件	うち英語版	20台	うち英語版	—	うち英語版	2台
・伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」(日)	18,303件	・特別展「京の国宝—守り伝える日本のたから—」(日、英)	4,662台	うち中国語版	—	うち中国語版	1台
・特別展「ボンベイ」	43,250件	うち日本語版	4,640台	うち韓国語版	—	うち韓国語版	0台
・特別展「空也上人と六波羅蜜寺」	8,746件	うち英語版	22台	・特別展「奈良博三昧」	3,980台	・特別展「皇室の名宝-皇室と九州をむすぶ美-」	7,518台
(参考) 3年度ダウンロード件数		・特別展「畠山記念館の名品—能楽から茶の湯、そして琳派—」(日、英)	4,691台	うち日本語版	3,980台	うち日本語版	7,518台
・「トーハクナビ」(リニューアル版)		うち日本語版	4,672台	うち英語版	—	うち英語版	—
Android版	1,517件	うち英語版	19台	うち中国語版	—	うち中国語版	—
iOS版	31,519件			うち韓国語版	—	うち韓国語版	—
貸出終了		名品ギャラリー(平常展)	1,808台	・「第73回正倉院展」	18,765台	・特別展「海幸山幸-折りと恵みの風景-」	—
アプリ端末貸出(日英)		うち日本語版・一般向け	1,650台	うち日本語版	18,765台	うち日本語版	—
貸出終了		うち日本語版・ジュニア版	81台	うち英語版	—	うち英語版	—
音声ガイド貸出(中韓)		うち英語版・一般向け	37台	うち中国語版	—	うち中国語版	—
「法隆寺宝物館30分ナビ」iOSアプリ	公開終了	うち英語版・ジュニア版	0台	うち韓国語版	—	うち韓国語版	—
		うち中国語版・一般向け	33台	・特別展「聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」	4,368台	・特別展「最澄と天台宗のすべて」	5,157台
		うち中国語版・ジュニア版	3台	うち日本語版	4,368台	うち日本語版	5,157台
		うち韓国語版・一般向け	4台	うち英語版	—	うち英語版	—
		うち韓国語版・ジュニア版	0台	うち中国語版	—	うち中国語版	—
				うち韓国語版	—	うち韓国語版	—
				・なら仏像館名品展	2,698台	・文化交流展示(4月27日より貸出再開)	11,189台
				うち日本語版	2,638台	うち日本語版	10,547台
				うち英語版	35台	うち英語版	298台
				うち中国語版	22台	うち中国語版	296台
				うち韓国語版	3台	うち韓国語版	48台

※特別展「名画の殿堂 藤田美術館展」は音声ガイドなし

1-(3) 教育・普及活動等

1-(3)-① 教育活動の充実

1-(3)-①-1 学習機会の提供（過去5か年）

令和4年3月31日現在

	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
○講演会等の回数					
東京国立博物館					
講演会等 実施回数	125回	93回	97回	19回	39回
講演会等 参加者数	21,692人	12,206人	11,691人	52,032人	34,403人
①講演会	26回	23回	20回	10回	14回
	6,999人	6,249人	6,051人	29,875人	10,199人
アンケート結果	88.09%	86.16%	84.89%	—	84.85%
(内訳)					
・月例講演会等	12回	12回	10回	8回	12回
	2,716人	2,822人	2,630人	24,923人	8,777人
アンケート結果	89.57%	89.57%	84.75%	—	86.74%
・記念講演会	7回	7回	7回	0回	1回
	2,589人	2,189人	2,591人	0人	135人
アンケート結果	84.45%	85.24%	84.19%	—	67.80%
・シンポジウム	3回	1回	2回	2回	1回
	920人	250人	575人	4,952人	1,287人
アンケート結果	83%	—	—	—	—
・テーマ別講演会	0回	3回	1回	0回	0回
	0人	988人	255人	0人	0人
アンケート結果	—	84.20%	93.46%	—	—
・その他講演会	4回	0回	0回	0回	0回
	774人	0人	0人	0人	人
アンケート結果	—	—	—	—	—
②列品解説（ギャラリートーク等）	96回	64回	71回	9回	23回
	14,026人	5,108人	4,791人	22,157人	23,701人
③連続講座	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）	0回	1回
	551人	728人	645人	0人	276人
アンケート結果	89.00%	88.50%	92.93%	—	94.50%
④公開講座	2回	5回	5回	0回	1回
	116人	121人	204人	0人	227人
アンケート結果	96.49%	100.00%	100.00%	—	—
京都国立博物館					
講演会等 実施回数	32回	37回	28回	23回	31回
講演会等 参加者数	4,014人	4,357人	3,285人	1,435人	3,164人
①土曜講座	22回	19回	13回	7回	12回
	2,433人	1,969人	1,211人	572人	583人
アンケート結果	83%	80%	85%	84%	82%
②記念講演会	4回	12回	9回	12回	14回
	800人	1,884人	1,465人	1,227人	1,106人
アンケート結果	86%	80%	81%	83%	81%
③夏期講座	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）
	212人	198人	201人	60人	73人
アンケート結果	90%	90%	78%	94%	96%
④社会科教員のための向上講座	1回	1回	1回	0回	1回
	49人	39人	50人	0人	34人
⑤ギャラリートーク・シンポジウム等	4回	4回	3回	3回	3回
	520人	267人	358人	248人	1,368人
奈良国立博物館					
講演会等 実施回数	26回	27回	25回	12回	27回
講演会等 参加者数	3,437人	3,569人	3,261人	847人	1,865人
①特別展等講座	13回	14回	13回	5回	15回
	2,141人	1,853人	1,838人	353人	1,060人
アンケート結果	91%	88%	92%	91%	93%
②夏季講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	0回	0回
	525人	478人	386人	—	—
アンケート結果	91%	95%	94%	—	—
③サウンズトーク	12回	12回	11回	7回	12回
	771人	1,238人	1,037人	494人	805人
アンケート結果	87%	88%	92%	90%	90%
九州国立博物館					
講演会等 実施回数	84回	80回	69回	13回	50回
講演会等 参加者数	6,024人	4,491人	4,862人	308人	2,229人
①特別展記念講演会	2回	2回	6回	0回	3回
	359人	150人	1,336人	0人	385人
アンケート結果	—	—	—	—	92.9%
②講演及びシンポジウム	26回	16回	16回	0回	20回
	3,521人	2,166人	2,033人	0人	1,395人
アンケート結果	—	—	—	—	91.7%
③ミュージアムトーク	56回	62回	47回	13回	27回
	2,144人	2,175人	1,493人	308人	449人
○キャンパスメンバーズ					
東京国立博物館	53校	56校	60校	61校	59校
京都国立博物館	29校	32校	32校	33校	32校
奈良国立博物館	27校	28校	27校	28校	26校
九州国立博物館	25校	23校	23校	21校	22校

1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数※1	回数計	39回	回数計	31回	回数計	27回	回数計	50回
	参加者計	34,403人	参加者計	3,164人	参加者計	1,865人	参加者計	2,229人
	講演会	14回 10,199人	土曜講座	12回 583人	特別展等講座	15回 1,060人	特別展記念講演会	3回 385人
	列品解説 (ギャラリートーク等)	23回 23,701人	記念講演会	14回 1,106人	夏季講座	0回 0人	講演及びシンポジウム	20回 1,395人
	連続講座 (2日間)	1回 276人	夏期講座 (2日間)	1回 73人	サンデートーク	12回 805人	ミュージアムトーク	27回 449人
	公開講座	1回 227人	社会科教員のための向上講座	1回 34人				
			セミナー・シンポジウム等	3回 1,368人				
	その他展示に関連するイベント	2回 28組	その他展示に関連するイベント	— —	その他展示に関連するイベント	16回 61,460人	その他展示に関連するイベント	9回 278人

※1実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。(実施回数は計上している。)

【東京国立博物館】

1) 講演会	14回	10,199人
①月例講演会	12回	8,777人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	“良い”の割合
※1~3は新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンライン月例講演会として実施した(事前収録・YouTube配信)。開催日は配信日、参加者数は再生回数からの算定数値である。					
1	6月1日	「トーハクナビ」のつくり方とつかい方	博物館教育課教育普及室 中村麻友美	2,563人	アンケート実施せず
2	6月28日	仏具の庭は花盛り	調査研究課工芸室主任 清水健	2,570人	アンケート実施せず
3	8月2日	『上野の山で動物めぐり』の裏側をめぐる	企画課デザイン室主任 神辺知加	2,436人	アンケート実施せず
※4~12は新型コロナウイルスの感染拡大と防止策を十分に配慮したうえで、大講堂で再開・実施した。定員は通常の半数以下の180名。					
4	7月10日	トーハクのデジタル文化資源	博物館情報課情報管理室長 阿児雄之	133人	93.40%
5	8月21日	中国・宋時代の水墨画と日本	学芸研究部長 教仁郷秀明	136人	84.90%
6	9月20日	アジアの空想動物を語る	上席研究員 勝木 言一郎 調査研究課東洋室長 市元 壘 企画課特別展室長 猪熊 兼樹 列品管理課平常展調整室主任 小野塚 拓造	126人	87.30%
7	10月23日	瓦が語る東大寺の歴史	調査研究課考古室 山本 亮	145人	87.30%
8	11月6日	博物館の国際交流活動	企画課国際交流室長 楊 鋭	92人	76.60%
9	12月4日	名物刀剣といわゆる『享保名物帳』	列品管理課登録室主任 酒井 元樹	133人	82.70%
10	1月15日	比較陶磁史覚書	博物館情報課長 今井敦	150人	86.30%
11	2月5日	没後700年 趙孟頫とその時代—復古と伝承—	副館長 富田淳 台東区立書道博物館主任 鍋島稲子 企画課出版企画室 植松瑞希 調査研究課東洋室 六人部克典	136人	95.90%
12	3月19日	博物館が楽しくなるデジタル体験	文化財活用センター副センター長 小林牧	157人	86.30%

②記念講演会

1回 135人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	“良い”の割合
新型コロナウイルスの感染拡大と防止策を十分に配慮したうえで、大講堂で実施した。定員は通常の半数以下の180名。					
1	12月8日	アラビア書道の神髄	アラビア書道家・日本アラビア書道協会会長 本田・フアド・孝一	135人	67.80%

③シンポジウム

1回 1,287人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	“良い”の割合
※1は新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンライン国際シンポジウムとして実施した(事前収録・YouTube配信)。開催日は配信日、参加者数は再生回数からの算定数値である。					
1	4年1月29日	国際シンポジウム「ミュージアムとオンライン 実践と展望」	発表 シアトル美術館 シャオチン・ウー ハンブルク美術工芸博物館 ウィブケ・シュラーベ メトロポリタン美術館 アーロン・リオ 東京国立博物館 猪熊 兼樹	1,287人	実施せず

④テーマ別講演会

0回 0人

実施日	テーマ	講師等	参加者数	“良い”の割合

⑤その他講演会

0回 0人

2) 列品解説（ギャラリートーク等） 23回 23,701人

①ギャラリートーク

12回 23,567人

開催日	テーマ	講師等	参加者数	
※1～12は新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンラインギャラリートークとして実施した（事前収録・YouTube配信）。開催日は配信日、参加者数は再生回数からの算定数値である。				
1	6月10日	「博物館で動物めぐり」	列品管理課平常展調整室長 血井舞 企画課特別展室主任研究員 三笠景子 調査研究課絵画・彫刻室研究員 大橋美織 調査研究課考古室研究員 山本亮	2,636人
2	6月23日	名物裂 レンズを通して裂を味わう	保存修復課保存修復室研究員 沼沢ゆかり	3,491人
3	7月19日	仏画に描かれた動物たち	列品管理課長 沖松健次郎	2,825人
4	8月25日	特別企画『スポーツ NIPPON』の見どころ	列品管理課登録室・貸与特別観覧室長 佐藤寛介 文化財活用センター企画担当研究員 高橋真作 秩父宮記念スポーツ博物館学芸員 青木祐一 秩父宮記念スポーツ博物館学芸員 木村一貴 秩父宮記念スポーツ博物館学芸員 新名佐知子	1,634人
5	10月12日	岐阜県関市春日神社伝来の能面	学芸企画部長 浅見龍介 博物館教育課教育普及室研究員 川岸瀬里	2,083人
6	10月25日	東洋彫刻の動物とヨガ	調査研究課絵画・彫刻室研究員 増田政史 ヨガイストラクター 渡辺美保	2,024人
7	11月29日	文人陶工奥田頼川	博物館情報課長 今井敦	1,238人
8	12月10日	浅草寺のみほとけの魅力	文化財活用センター企画担当研究員 西木政統	1,709人
9	1月12日	西晋時代の副葬品	調査研究課東洋室長 市元豊	1,815人
10	1月28日	博物館に初もうで 今年はトーハク150周年！めでタイガー！！	保存修復課保存修復室研究員 沼沢ゆかり 調査研究課絵画・彫刻室研究員 古川攝一	1,372人
11	3月8日	埴輪物語－群馬県伊勢崎市赤堀村104号古墳－	企画課特別展室主任研究員 河野正訓	1,655人
12	3月22日	掛軸の修理と補修紙の作製について	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 大山龍顕	1,085人

②特別展関連ギャラリートーク

0回 0人

③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク

11回 134人

実施日	回数	テーマ	氏名	参加者	
新型コロナウイルスの影響を勘案し、ガイダンス・検討会・リハール・ギャラリートーク等すべてをオンラインで実施。トーク対象は、当館ボランティア。					
1	4年1月14日、1月25日、1月27日、2月2日	4回	「『御所車時絵硯箱』にみる精緻な技巧と意匠の調和について」	光武春香	47人
2	4年1月19日、1月20日、1月24日	3回	「唐津焼と茶道－《彫唐津茶碗 銘 巖》－」	金昭延	42人
3	4年2月8日、2月10日、2月16日、2月18日	4回	「『南京赤絵周茂叔愛蓮図火入』にみる日中交流について」	高家融	45人

3) 連続講座 2日間(計1回) 1回 276人

開催日	テーマ・講師等	参加者数	“良い”の割合
※1は新型コロナウイルスの感染拡大と防止策を十分に配慮したうえで、大講堂で実施した。定員は両日も通常の半数以下の160名。			
1 8月14日～15日	鳥獣戯画研究の最前線 第1講「鳥獣戯画の伝わった寺—高山寺と明恵上人をめぐる美術—」 (1) 明恵上人と高山寺の文化財 講師：大槻信(京大大学院文学研究科教授) (2) 明恵上人坐像の作者は誰か?—高山寺の彫刻と慶派仏師をめぐって— 講師：血井舞(東京国立博物館学芸研究部列品管理課平常展調整室長) 第2講「鳥獣戯画研究のこれまでとこれから」 (3) 鳥獣戯画八〇〇年の生命誌—伝来と研究史をたどる— 講師：土屋貴裕(東京国立博物館学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長) (4) 鳥獣戯画「平成の修理」の成果と展望 講師：朝賀浩(宮内庁長官官房参事官) (5) 欧米がみた鳥獣戯画—近代における海外出品をめぐって— 講師：鬼頭智美(東京国立博物館上席研究員) 第3講「何が、どのように描かれているのか?—図様と表現の特質—」 (6) 平安絵巻としての鳥獣戯画—ストーリー展開の妙味— 講師：井並林太郎(京大国立博物館企画室研究員) (7) 白描画としての鳥獣戯画—線描の妙技— 講師：古川攝一(東京国立博物館学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員) (8) 「鳥獣戯画」乙巻にみる宋画的要素 講師：猪熊兼樹(東京国立博物館学芸企画部企画課特別展室長) 第4講「誰が描いたのか?—絵師をめぐる議論—」 (9) 宮廷絵師説の可能性—「伴大納言絵巻」との近さを視野に入れて— 講師：五月女晴恵(北九州市立大学文学部教授) (10) 絵師説の可能性—鳥羽僧正覚猷説と当時の寺院の社会性の観点から— 講師：大原嘉豊(京大国立博物館保存修理指導室長) 第5講「何のために描かれたのか?—主題と制作背景を探る—」 (11) 正倉院宝物と鳥獣戯画 講師：増記隆介(京大大学院人文社会系研究科准教授) (12) 鳥獣戯画の主題解釈は可能か? 講師：三戸信恵(山種美術館特任研究員) 第6講 パネルディスカッション「徹底討論! 鳥獣戯画研究を究める」	276名	94.50%

4) 公開講座 1回 227人

開催日	テーマ・講師等	参加者数	会場
※2は新型コロナウイルスの感染拡大と防止策を十分に配慮したうえで、リアルとオンラインを活用したハイブリッド方式の講演会を実施した。			
1 実施せず	教育連携事業「博物館学講座」	0人	平成館小講堂、本館地下みどりのライオン(教育普及スペース)他
2 9月8日	教育連携事業「博物館セミナー」	227人	平成館大講堂、ラウンジ

5) その他展示に関連する事業 2回 28組

実施日	内容	会場	参加者数
※1は新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンライン配信に変更して実施した			
1 5月18日	国際博物館の日記念「上野の山で動物めぐり—動物の『うごき』と『しせい』」	恩賜上野動物園、国立科学博物館、東京国立博物館	28組
※2は新型コロナウイルスの影響を勘案し、電子データのみ公開あるいはオンライン配信に変更して実施予定			
2 1月2日～	博物館で初もうで「2022寅」カレンダー・ワークシート配布	—	—

【京都国立博物館】

1) 土曜講座 12回 583人

特別展覧会関連などの講座

開催日	テーマ	講師	参加者数
1 6月5日	おうちで学び楽しむ文化財と博物館	列品管理室研究員 近藤無滴	32人
2 6月12日	弥生・古墳時代の生産遺跡—日本原始古代の産業と辰砂・鉄—	研究員 古谷毅	55人
3 6月19日	神々に捧げる自己ベスト	教育室長 永島明子	42人
4 6月26日	東アジアをめぐる「金磁瑠」の旅	考古室長(兼学芸部長) 尾野善裕	51人
5 1月15日	虎—現実と空想のはざまに—	教育室主任研究員 水谷亜希	60人
6 1月29日	西宮山古墳の発掘調査と出土品の意義	研究員 古谷毅	44人
7 2月5日	清時代の花鳥画と沈南蘋	調査・国際連携室研究員 森橋なつみ	46人
8 2月12日	仏像の来た道—インド・中国そして日本へ—	館長 松本伸之	80人
9 2月19日	本法寺所蔵「古文書貼交屏風」について	美術室長(兼列品管理室長) 羽田聡	23人
10 2月26日	キモノと流行—江戸時代初期のモード—	工芸室長(兼企画室長) 山川暁	45人
11 3月5日	桃の文化史—西王母・孫悟空・桃太郎—	特任研究員 宮川禎一	54人
12 3月12日	しあわせの貝合わせ	教育室長 永島明子	51人

2) 記念講演会 14回 1,106人

	実施日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	4月3日	律とは何か	調査・国際連携室研究員 上杉智英	83人
2	4月10日	日本の戒律運動と日本人	保存修理指導室長 大原嘉豊	70人
3	4月17日	俊蒔と宋代戒律の日本への影響	泉涌寺宝物館「心照殿」学芸員 西谷功	71人
4	5月8日	鑑真和上とゆかりのみ仏たち	上席研究員 浅湊毅	100人
5	7月24日	彫刻修理の歴史と現状	文化庁文化財第一課主任文化財調査官 奥健夫	81人
6	7月31日	国宝・重要文化財の指定 —書跡・典籍、古文書を中心に—	文化庁文化財第一課主任文化財調査官 藤田励夫	66人
7	8月7日	京の国宝 —日本の文化財保護のあゆみと京都—	研究員 森道彦	67人
8	8月21日	京の国宝 —流転する工芸—	主任研究員 末兼俊彦	66人
9	8月28日	京の国宝 —絵画の美と評価の歴史—	企画室研究員 井並林太郎	71人
10	9月4日	今日の文化財保存技術 —装演修理、特に紙を中心に—	文化庁文化財第一課文化財調査官 地主智彦	61人
11	10月9日	共に楽しむ茶の美術館 —畠山コレクション誕生の背景とその魅力—	畠山記念館学芸課長 水田至摩子	100人
12	10月23日	近代の紳士能と大名家旧蔵能装束 —加賀藩前田家伝来品をめぐって—	工芸室長(兼企画室長) 山川暁	87人
13	11月6日	近代数寄者の琳派作品収集と畠山即翁	保存修理指導室主任研究員 福士雄也	87人
14	11月20日	與衆愛玩 —即翁蒐集の名物道具と数寄者との交友—	調査・国際連携室主任研究員 降矢哲男	96人

3) 夏期講座 1回 73人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	7月2日	第1講 伝統工芸と自然素材 —染織品復元・修理の知見から—	工芸室長(兼企画室長) 山川暁	73人
		第2講 描かれた名所と自然 —歌絵から名所風俗図まで—	京都工芸繊維大学 特定教授/美術工芸資料館長 並木誠士	
		第3講 日本の自然と金属 —自ずから然らないもの—	美術室主任研究員 末兼俊彦	
	7月3日	第1講 中国の自然観と山水画	京大文学部文学研究科教授 宇佐美文理	
		第2講 古墳時代の社会と自然—山と海の信仰—	研究員 古谷毅	
		第3講 植物を写す—絵画と写真と拓本と—	愛知県美術館主任学芸員 副田一穂	

4) 社会科教員のための向上講座 1回 34人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	8月18日	講義「特別展<京の国宝>鑑賞ポイント」	美術室研究員 森道彦	34人

5) ギャラリーツアー・シンポジウム等 3回 1,368人

	開講日	テーマ・講師	参加者数(人)
1	11月4日~7日	ICOM-DRMC(国際博物館会議博物館防災国際委員会)年次会議「文化財防災ネットワークの構築:連携に関する事例研究」	副館長 栗原祐司 325人
2	1月22日	多言語担当者によるギャラリーツアー(留学生の日関連イベントとして)	調査・国際連携室主任専門職員 リンネ/マリサ 企画室AF ボレンガッセル・ダニエル 企画室AF 玉珏人 企画室AF 趙ウニル 30人
3	3月19日	国際シンポジウム「敦煌写本研究の現状」	調査・国際連携室研究員 上杉智英 1,013人

※キャンパスメンバーズ限定講演会については1-(3)-①-4 大学生・大学院生を対象とした教育事業 に記載。

【奈良国立博物館】

1) 特別展等講座 15回 1,060人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	5月1日	「聖徳太子—史実から信仰へ」	奈良大学・大阪大学名誉教授 東野治之	77人
2	5月22日	「法隆寺と古代仏教の世界—工芸品から探る」	学芸部研究員 三本周作	81人
3	6月19日	「法隆寺の仏像と聖徳太子信仰」	学芸部主任研究員 山口隆介	78人
4	7月24日	「観仏画三昧—奈良博仏教絵画コレクションをあじわう—」	学芸部教育室長 谷口耕生	68人
5	7月31日	「仏教工芸の魅力—奈良博のコレクションから—」	学芸部研究員 三本周作	68人
6	8月7日	「奈良博の仏像コレクション—種類と時代—」	学芸部美術室長 岩井共二	67人
7	8月28日	「古写経と古代文字史料」	学芸部資料室長 野尻忠	63人
8	9月4日	「ちょっと良いかも、奈良博の考古」	学芸部長 吉澤悟	78人
9	9月11日	「仏教美術の殿堂—奈良博コレクション形成史—」	学芸部情報サービス室長 宮崎幹子	75人
10	10月30日	「正倉院の染織品にみる文様染め技法」	宮内庁正倉院事務所保存課整理室員 片岡真純	78人
11	11月6日	「正倉院の筆」	宮内庁正倉院事務所宝物調査員（前所長）杉本一樹	67人
12	11月13日	「正倉院のガラス器について—白瑠璃高坏を中心として—」	学芸部長 吉澤悟	72人
13	12月11日	「藤田家伝来の唐絵—中国絵画と中世日本水墨画」	東京大学東洋文化研究所教授 板倉聖哲	59人
14	2月19日	「不退の行法、東大寺修二会（お水取り）」	東大寺長老 北河原公敬	65人
15	3月5日	「聖林寺十一面観音菩薩立像をめぐって」	学芸部美術室長 岩井共二	64人

2) 夏季講座 ※新型コロナウイルスの影響により中止

3) サンデートーク 12回 805人

	実施日	テーマ	解説者	参加者数(人)
1	4月18日	「災害から文化財を守る—文化財防災センターの取り組み—」	学芸部研究員 佐藤稜介	59人
2	5月16日	「平安貴族の信仰生活—仏教を中心に—」	学芸部列品室長 齋木涼子	57人
3	6月20日	「ならはくのエデュケーション活動」	学芸部研究員 翁みほり	71人
4	7月11日	「古代寺院の出土品が語るもの」	学芸部企画室長 中川あや	79人
5	8月8日	「保存修理指導室のお仕事—博物館科学の役割—」	学芸部研究員 安藤真理子	64人
6	9月12日	「あこがれの天平絵画」	学芸部研究員 萩谷みどり	72人
7	10月3日	「絵はがきと仏像研究」	学芸部主任研究員 山口隆介	65人
8	11月21日	「奈良博の壺」	学芸部長 吉澤悟	67人
9	12月19日	「閻魔王と地獄の美術」	学芸部研究員 内藤航	75人
10	1月16日	「辟邪絵をめぐって」	学芸部教育室長 谷口耕生	69人
11	2月20日	「ほとけの装いにみる工芸」	学芸部研究員 三本周作	65人
12	3月20日	「“サスティナブル”な文化財保存」	学芸部保存修理指導室長 荒木臣紀	62人

4) その他展示に関連するイベント 16回 61,460人

	実施日	内容	会場	参加者
1	5月4日～5日	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」関連イベント 聖徳太子ジャンボすごろく	地下回廊	43人
2	5月30日	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」関連イベント「奈良仏像けんきゅ一部 聖徳太子と法隆寺編」	講堂	60人
3	7月16日～3月31日	特別展「奈良博三昧ー至高の仏教美術コレクションー」関連ワークショップ「オリジナルワークキット 奈良博ざんまいわいわい紙ずもう 作り方動画」	Youtube	756人
4	7月23日	特別展「奈良博三昧ー至高の仏教美術コレクションー」関連ワークショップ「切り絵でアート ならはくの仏像」	地下回廊	47人
5	7月29日	特別展「奈良博三昧ー至高の仏教美術コレクションー」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	37,434人
6	7月31日	特別展「奈良博三昧ー至高の仏教美術コレクションー」 研究員レクチャー付き！夜間特別鑑賞チケット特別鑑賞会	講堂	86人
7	8月21日	特別展「奈良博三昧ー至高の仏教美術コレクションー」 関連イベント「奈良仏像けんきゅ一部 奈良博三昧編」	講堂	47人
8	11月4日	第73回正倉院展 研究員レクチャー付き！特別鑑賞チケット特別鑑賞会	講堂	176人
9	11月7日	第73回正倉院展関連イベント「奈良仏像けんきゅ一部 第73回正倉院展編」	講堂	85人
10	12月16日	文化財保存修理所特別公開	講堂・文化財保存修理所	78人
11	1月8日	「名画の殿堂 藤田美術館展ー傳三郎のまなざしー」関連イベント「奈良仏像けんきゅ一部 藤田美術館展編」	講堂	36人
12	2月11日	特別展「国宝 十一面観音菩薩ー三輪山信仰のみほとけ」 研究員レクチャー付き！夜間特別鑑賞会	講堂	66人
13	3月12日	特別展「国宝 十一面観音菩薩ー三輪山信仰のみほとけ」 関連イベント「奈良仏像けんきゅ一部 十一面観音菩薩編」	講堂	73人
14	3月13日	特別展「国宝 十一面観音菩薩ー三輪山信仰のみほとけ」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	22,411人
15	3月19日	特別展「国宝 十一面観音菩薩ー三輪山信仰のみほとけ」 関連ワークショップ「散華でボン！～聖林寺十一面観音をかいてみよう」	地下回廊	24人
16	3月26日	お水取り「講話」と「現地解説」の会	講堂、展示室	38人

【九州国立博物館】

1) 特別展記念講演会 3回 385人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	8月8日	特別展「皇室の名宝-皇室と九州をむすぶ美-」記念講演会 「美を伝えゆく-《動植綵絵》と《春日権現験記絵》の修理をとおして」	宮内庁三の丸尚蔵館・首席研究官 太田彩	140人
2	10月9日	特別展「海幸山幸-祈りと恵みの風景-」特別記念講演会 「海山への祈り-九州の祭りの風景-」	福岡県文化財保護審議会委員 森弘子	109人
3	4年2月26日	特別展「最澄と天台宗のすべて」記念講演会 「最澄と九州天台」	天台宗宗務総長 阿部昌宏	136人

2) 講演及びシンポジウム等

20回

1,395人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	5月1日	特別展「よみがえる正倉院宝物-再現模造にみる天平の技-」リレー講座 「近代の正倉院と宝物の模造」	学芸部文化財課アソシエイトフェロー 樋笠逸人	30人
2	5月15日	特別展「よみがえる正倉院宝物-再現模造にみる天平の技-」リレー講座 「2つの「模造 螺鈿紫檀五絃琵琶」」	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	オンライン開催
3	7月24日	特別展「皇室の名宝-皇室と九州をむすぶ美-」記念対談 「やきもの王国・九州と近代の皇室」	沈壽官窯十五代・陶芸家 沈壽官 宮内庁三の丸尚蔵館・主任研究官 岡本隆志	124人
4	7月25日	特別展「皇室の名宝-皇室と九州をむすぶ美-」関連イベント 「さかなクンと一緒にむかしの海を探検だ!」	さかなクン	288人
5	7月31日	きゅーはく☆とっておき講座 古代ガラスの世界	展示課主任研究員 齋部麻矢	41人
6	8月1日	特別展「皇室の名宝-皇室と九州をむすぶ美-」リレー講座 「九州と帝室技芸員」 「皇室と九州・沖縄をむすぶ美」	学芸部企画課主任研究員 望月規史 学芸部文化財課課長 原田あゆみ	57人
7	8月7日	全国高等学校歴史学フォーラム2021 「現代における庚申信仰のあり方と課題～古墳、城から転用された祭場に着目して～」 「福島県相馬市の官軍墓地～戊辰戦争の記憶～」 「現代人から見る弥生絵画～人物画をデータ化する～」 「皇女和宮と口紅と將軍家茂」 「江戸時代の疫病と考古資料～イトシマを舞台として～」 「中世岐略の深江田原平野の衰退原因に関する一考察」 「甲斐武田氏の津久井信仰と街道からみる深大寺城再興の目的」 「栃木県北部における烽跡の推定」 「歴史上における関門海峡の地理的重要性について」 「九州最古!あの夏目漱石も愛した!筑前国二日市温泉」	群馬県立高崎北高等学校 JRC部歴史研究班 福島県立相馬高等学校 郷土部 奈良県立橿原高等学校 考古学研究部 埼玉県立熊谷西高等学校 福岡県立糸島高等学校 歴史部 長崎県立壱岐高等学校 東アジア歴史・中国語コース 法政大学第二高等学校 社会科学・歴史研究部 栃木県立矢板東高等学校リベラルアーツ同好会 福岡県立八幡高等学校 九州産業大学付属九州産業高等学校 史跡探索研究部	26人 (参加校関係者数)
8	8月29日	きゅーはく☆とっておき講座 オリエントのガラス-色彩の魅力からシルクロードの交易まで-	岡山市オリエント美術館主管学芸員 四角隆二	71人
9	9月19日	きゅーはく☆とっておき講座 范道生の作品とその生涯-日中交流史の視点から-	展示課長 楠井隆志	61人
10	10月30日	特別展「海幸山幸-祈りと恵みの風景-」リレー講座 第一回きゅーはくオータムスクール	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子 交流課主任研究員 今井涼子 学芸部企画課研究員 大澤信	44人
11	11月13日	特別展「海幸山幸-祈りと恵みの風景-」リレー講座 第二回きゅーはくオータムスクール	学芸部文化財課研究員 松浦晃佑 学芸部文化財課アソシエイトフェロー 樋笠逸人 学芸部企画課主任研究員 望月規史	47人
12	11月14日	きゅーはく☆とっておき講座 手わざ-琉球王国の文化-	学芸部企画課研究員 桑原有寿子	48人
13	11月20日	展示解説「8分野の手わざ解説」	沖縄県立博物館・美術館学芸員 篠原あかね	25人
14	11月21日	製作者による報告会「手わざの秘密を探る」	久下有貴、岡田靖、杉浦誠、前田貴子、宇良英明	33人
15	12月12日	講演会「琉球の染織と模造復元について」	那覇市歴史博物館主任学芸員 山田葉子	67人
16	4年1月8日	きゅーはく☆とっておき講座 国宝 初音の調度について	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	59人
17	4年2月12日	特別展リレー講座 国宝講座～これであなとも立派な国宝～第1回	学芸部企画課特別展研究員 大澤信	60人
18	4年3月5日	九州国立博物館「大宰府学研究」事業・科学研究費助成事業「日中文明遺物の産地探索をめざす中近世沈船・船載遺物の考古学と自然科学の融合研究」シンポジウム「アジアを渡した鉄-大宰府鴻臚館の衰退と海商の時代-」	福岡大学文学部 桃崎祐輔 九州歴史資料館 小嶋篤 明治大学日本古代学研究所 石黒ひさ子 千葉大学大学院理学研究科 沼子千弥 福岡大学理学部 市川慎太郎・佐藤かのん・脇田久伸・栗崎敏 別府大学文学部 上野淳也 福岡大学文学部 古澤義久 九州国立博物館 岡寺良	120人
19	4年3月6日	記念座談会「英彦山と神仏習合の歴史と未来」	英彦山神宮宮司 高千穂秀敏 英彦山神宮禰宜 高千穂有昭 学芸部企画課特別展室研究員 大澤信	130人
20	4年3月12日	特別展リレー講座 国宝講座～これであなとも立派な国宝～第2回	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子 学芸部博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー 瓜生翠	64人

3) ミュージアムトーク

27回 参加者総数 449人

- ・担当研究員数 延べ 20人 ※うち夜間開催分は 0人
- ・事業内容 文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。

(原則として第1、3、5火曜日の15時より15~30分間、夜のミュージアムトークは原則として第2、4土曜日の18時より15~30分間)

	開催日	テーマ	解説者	参加者数(人)
1	4月13日	雪舟、中国に行く	学芸部文化財課資料管理室主任研究員 畑 靖紀	8人
2	4月27日	はじめまして! きゅーはくデビューの「新 収品」	学芸部文化財課資料登録室研究員 松浦晃 佑	17人
3	5月11日	遣唐使の船	展示課主任研究員 一瀬智	14人
4	5月25日	唐物の名前あれこれ	学芸部企画課文化交流展示室長 川村佳男	22人
5	6月1日	韓流の美~九博への不時着~	学芸部企画課特別展示室研究員 大澤信	12人
6	6月15日	輸入織物へのあこがれ	学芸部企画課文化交流展示室研究員 桑原有 寿子	14人
7	6月29日	装飾古墳の円文は鏡か太陽か	学芸部長 河野一隆	14人
8	7月13日	古代ガラスの世界	学芸部文化財課アソシエイトフェロー 折 山桂子	21人
9	7月27日	文化財の保存環境	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 和泉田絢子	18人
10	8月3日	きゅーはくはくの収蔵品修理	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 瓜生翠	25人
11	8月17日	鉄砲の伝来と普及	学芸部企画課主任研究員 望月規史	17人
12	8月31日	中国人仏師・范道生作品の魅力	展示課長 楠井隆志	20人
13	9月14日	古代ガラスの世界	学芸部文化財課アソシエイトフェロー 折 山桂子	8人
14	9月28日	アジアに広がる仮面の世界	交流課主任研究員 今井涼子	10人
15	10月12日	イスラーム陶器-描かれたいきもの-	展示課主任研究員 齋部麻矢	18人
16	10月26日	密教法具-空海が伝えた破邪のしるし-	学芸部企画課主任研究員 望月規史	17人
17	11月2日	きらきら輝く金属器-シルクロードの恵み-	学芸部企画課文化交流展示室長 川村佳男	26人
18	11月16日	太宰府を守れ!!-大野城と鞠智城-	展示課主任研究員 岡寺良	18人
19	11月30日	お経のかたち-文字と包みと入れものの世 界-	学芸部文化財課アソシエイトフェロー 樋笠透人	22人
20	12月14日	「出土人骨は語る-骨考古学のススメ-」	展示課主任研究員 小澤佳憲	12人
21	4年1月12日	徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度	学外部企画課特別展示室長 川畑憲子	15人
22	4年1月25日	九博書跡コレクション-高木聖雨氏寄贈品 から-	学芸部文化財課資料登録室研究員 松浦晃 佑	12人
23	4年2月1日	欧州を魅了した伊万里焼-「磁器の間」へ のオマージュ-	学芸部企画課主任研究員 酒井田千明	11人
24	4年2月15日	アジアを変えた鉄-大陸から来た鉄素材-	展示課主任研究員 岡寺 良	13人
25	4年3月1日	いにしえのひびき~弥生時代の楽器たち~	展示課主任研究員 小澤佳憲	23人
26	4年3月15日	大航海時代の美術	学芸部博物館科学課主任研究員 文化財防 災センター 鷲頭 桂	26人
27	4年3月29日	古代豊の港-草野津と国崎津-	展示課主任研究員 岡寺 良	16人

4) その他展示に関連するイベント

9回 278人

	実施日	内容	会場	参加者数	備考
1	5月9日	カード織りワークショップ	研修室	14人	
2	7月31日、8月5日	オンラインワークショップ「ぬりぬりグレイズ~十四代中里太郎右衛 門氏と三彩に挑戦!~」	zoom開催	16人	
3	8月16日、8月21 日	オンラインワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK 糸紡ぎ」	zoom開催	14人	
4	10月31日	特集展示「手わざ - 琉球王国の文化 -」関連イベント ワークショップ『琉球古刺繍をやってみよう』	研修室	10人	
5	12月4日	ファイアンスを作ってみよう	研修室	19人	
6	12月11日	ぬりぬりグレイズ~十四代中里太郎右衛門氏と三彩に挑戦!~	研修室	12人	
7	4年2月23日、2月 27日	ワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK 糸取り」	研修室	19人	
8	4年3月11日	特別展「最澄と天台宗のすべて」関連イベント 伝教大師 1200年大遠忌記念 天台宗九州の青年僧による声明公演	ミュージアム ホール	124人	出演:天台宗仏 教青年会(九州東 教区・九州西教 区)
9	4年3月19日	博物館でヨガ体験! きゅーはくヨガレッスン	ミュージアム ホール	50人	主催:株式会社 CROSSFM

1-(3)-①-3 児童生徒を対象とした教育普及事業

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数※1※2	回数計	134回	回数計	19回	回数計	498回	回数計	391回
	参加者計	20,091人	参加者計	19,483人	参加者計	36,946人	参加者計	5,710人
	体験型プログラム等	95回 18,598人	体験型プログラム等	2回 18,643人	体験型プログラム等	461回 35,529人	体験型プログラム等	318回 653人
	学校との連携事業	39回 1,493人	学校との連携事業	17回 840人	学校との連携事業	37回 1,417人	学校との連携事業	73回 5,057人
	児童生徒を対象とした刊行物	2件 10,000部	児童生徒を対象とした刊行物	5件 159,200部	児童生徒を対象とした刊行物	5件 76,680部	児童生徒を対象とした刊行物	1件 1,500部
	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	1件 84台	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —

※1一定期間通して実施した事業については、期間の日数=回数としてカウントする

※2実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。(実施回数は計上している。)

【東京国立博物館】

1) 体験型プログラム等

95回 18,598人

①ハンズオン展示等

0回 0人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1・2は、新型コロナウイルスの影響を勘案し、開催場所を閉室した。						
1	通年	総合文化展（東洋館）関連「アジアの古い体験」	東洋館6室	0回	0人	
2	通年	総合文化展（本館）「トーハクでデザイン」「トーハクで〇〇ができるまで」「トーハクで国宝をさぐる」「トーハクをまわそう」	本館19室	0回	0人	

②ワークショップ

40回 1,525人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	5月15日～5月16日	ファミリーオンラインワークショップ「屏風をつくる」	本館地下教育普及スペース+zoom	4回	76人	zoomにてオンライン開催
2	7月20日～8月1日	みんなで作る貼り交ぜ屏風	—	12回	379人	キッズデー関連イベントとして実施（回数は、開催期間中の開館日数）
3	7月20日～8月1日	おうちでギャラリートーク	—	12回	658人	キッズデー関連イベントとして動画を公開（回数は、開催期間中の開館日数。参加者数は、3月31日時点の4本の動画の合計再生数）
4	8月1日	学校版トーハクなび貸出	—	1回	35人	キッズデー関連イベントとして実施
5	8月1日	子ども和楽器コンサート	—	3回	243人	キッズデー関連イベントとして実施
6	8月14日～8月15日	ファミリーオンラインワークショップ「なりきり光琳」	本館地下教育普及スペース+zoom	4回	70人	zoomにてオンライン開催
7	2月26日～2月27日	ファミリーオンラインワークショップ「ひいな遊び立雛をつくろう」	本館地下教育普及スペース+zoom	4回	64人	zoomにてオンライン開催

③その他の体験型プログラム

—回 —人

④児童生徒を対象とした展示

43回 15,737人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
2	7月20日～9月5日	「親と子のギャラリー まるごと体験！日本の文化 リターンズ」	本館特別4室	43回	15,737人	

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

12回 1,336人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	7月20日～8月1日	トーハクキッズデーオンライン	—	12回	1,336人	新型コロナウイルスの影響でオンラインと対面のハイブリッド開催となった(回数は、開催期間中の開館日数。人数は、8月1日リアルイベント開催日の未就学児から高校生までの入館のみをカウント)

2) 学校との連携事業

39回 1,493人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

39回 1,493人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	通年	スクールプログラム	—	38回	1,491人	
2	2月2日	盲学校のためのスクールプログラム	本館ボランティア室 事務室Teams	1回	2人	

②出前授業等

—回 —人

③職場体験

0回 0人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
新型コロナウイルスの影響で、対面プログラムを中止した。オンラインに変更したが、申込なし。						

④教員を対象とした研修

0回 0人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
※新型コロナウイルスの影響を勘案し、開催を中止した。						

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

—回 —人

3) 児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物

2件 10,000部

	名 称	発行部数	備考
1	親と子のギャラリー「まるごと体験!日本の文化 リターンズ」ワークシート	10,000部	
2	博物館に初もうで カレンダー	—	新型コロナウイルスの影響により、PDF版のみ公開。

②音声ガイド

—件 —台

③その他メディア

—件 —台

【京都国立博物館】

1) 体験型プログラム等

2回 18,643人

①ハンズオン展示等

—回 —人

②ワークショップ

—回 —人

③その他の体験型プログラム

—回 —人

④児童生徒を対象とした展示

1回 18,586人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	4年1月2日～2月13日	新春特集展示「寅づくし—干支を愛でる—」	京都国立博物館 平成知新館	1回	18,586人	参加者は当該期間の入館者数

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

1回 57人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	7月4日	記者体験in京都国立博物館	京都国立博物館 平成知新館	1回	57人	京都市立中学校の生徒(美術部員)を招き、特別展「京の国宝—守り伝える日本のたから—」を鑑賞し、作品に対する考えや感想等を記事にまとめる「記者体験」を行った。 講師：京都国立博物館 文化財ソムリエ 主催：京都市教育委員会、京都市立中学校教育研究会 美術部会

2) 学校との連携事業

17回

840人

① スクールプログラム、来館学校団体等への対応

4回

53人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	5月14日、11月5日	京都府立嵯峨野高等学校 2年生	京都国立博物館、京都府立嵯峨野高等学校	2回	17人	「京の文化財」をテーマとした探求活動に係るフィールドワークの受け入れ、活動への助言
2	11月10日	滋賀県立守山高等学校 2年生	京都国立博物館	1回	1人	「日本文化を残し、伝える意味」について、オンラインビデオ通話を用いたインタビュー対応
3	4年2月3日	京都女子中学校	京都国立博物館	1回	35人	「博物館の仕事」「名品ギャラリー展示」について、質問対応

② 出前授業等

7回

425人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	7月14日	文化財に親しむ授業 京都市立八瀬小学校 6年生	京都市立八瀬小学校	1回	16人	教材：依屋宗達筆「風神雷神図屏風」(複製)、講師：文化財ソムリエ
2	10月4日	文化財に親しむ授業 京都市立御室小学校 6年生	京都市立御室小学校	1回	56人	教材：雪舟筆「天橋立図」(複製)、講師：文化財ソムリエ
3	10月25日	文化財に親しむ授業 京都市立大宅小学校 6年生	京都市立大宅小学校	1回	111人	教材：雪舟筆「天橋立図」(複製)、講師：文化財ソムリエ
4	10月27日	文化財に親しむ授業 京都市立西大路小学校 5、6年生	京都市立西大路小学校	1回	31人	教材：依屋宗達筆「風神雷神図屏風」(複製)、講師：文化財ソムリエ
5	12月14日	文化財に親しむ授業 京都市立宇多野小学校 6年生	京都市立宇多野小学校	1回	87人	教材：尾形光琳筆「八橋図屏風」(複製)、講師：文化財ソムリエ
6	12月21日	文化財に親しむ授業 京都市立向島藤の木小学校 6年生	京都市立向島藤の木小学校	1回	29人	教材：依屋宗達筆「風神雷神図屏風」(複製)、講師：文化財ソムリエ
7	12月15日	文化財に親しむ授業 京都市立常盤野小学校 6年生	京都市立常盤野小学校	1回	95人	教材：依屋宗達筆「風神雷神図屏風」(複製)、講師：文化財ソムリエ

③ 職場体験

一回

一人

④ 教員を対象とした研修

1回

34人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	8月18日	社会科教員のための向上講座(小・総)社会科授業実践力向上講座、(中・高・総)社会科教員指導力向上講座	京都国立博物館	1回	34人	講義「特別展<京の国宝>鑑賞ポイント」森道彦(研究員) 主催：京都市教育委員会、京都国立博物館、京都市小学校社会科教育研究会、京都市立中学校教育研究会社会科部会、京都市立高等学校社会科研究会

⑤ その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

5回

328人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	6月28日	京都市立嵐山東小学校 6年生鑑賞の授業	京都市立嵐山東小学校	1回	50人	複製(雪舟筆「天橋立図」)を活用した授業への助言・当日の補助を行った
2	12月2日	京都市立烏丸中学校 2年生鑑賞の授業	京都市立烏丸中学校	1回	58人	複製(尾形光琳筆「八橋図屏風」)を活用した授業への助言・当日の補助を行った
3	12月13日	京都市立四条中学校 2年生鑑賞の授業	京都市立四条中学校	1回	103人	複製(雪舟筆「天橋立図」)を活用した授業への助言・当日の補助を行った
4	12月16日	京都市立四条中学校 1年生鑑賞の授業	京都市立四条中学校	1回	110人	複製(依屋宗達筆「風神雷神図屏風」)を活用した授業への助言・当日の補助を行った
5	4年3月19日	「子育てミュージアム」南相馬市博物館	南相馬市博物館	1回	7人	「地域を創生するミュージアム活用実行委員会(事務局 南相馬市博物館)」が主催する座談会に、研究員がゲストとしてオンライン参加した。

3) 児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物

		5件	159,200部	
	名 称	発行部数	備 考	
1	特別展「京の国宝—守り伝える日本のたから—」関連鑑賞ガイド「京の国宝はじめてガイド」	(日) 105,500部 (英) 5,000部 (中) 700部 (韓) 700部	7月発行。観覧者(子ども~大人)対象。4言語で作成し、ウェブサイトにも掲載。京都市教育委員会を通じて、京都市立の中学校・高等学校の全生徒に配付。	
2	特別展「畠山展記念館の名品—能楽から茶の湯、そして琳派—」関連鑑賞ガイド「即翁さんの宝物」	(日) 22,600部 (英) 1,700部 (中) 500部 (韓) 300部	10月発行。観覧者(子ども~大人)対象。4言語で作成し、ウェブサイトにも掲載。	
3	博物館Dictionary No. 32, 173, 216, 224~226	12,000部	6月、4年1月、2月発行。観覧者(子ども~大人)対象。No. 32, 173, 216は過去に発行した号を増刷。ウェブサイトにも掲載。	
4	子ども向けリーフレット「京都国立博物館へようこそ」	5,000部	4年1月増刷。観覧者(子ども~大人)対象。	
5	新春特集展示「寅づくし—干支を愛でる—」ワークシート さがしてみよう!こんなトラ	(日・英) 5,000部 (中・韓) 200部	4年1月発行。観覧車(6歳以上~)対象。	

②音声ガイド

		1件	84台	
	名 称	台数	備 考	
1	名品ギャラリー ジュニア版音声ガイド(日本語・英語・中国語・韓国語)	84台	各言語につき、作品解説など38本作成。利用台数84台。	

③その他メディア

		6件		
	名 称	発行部数	備 考	
1	虎BLOG	—	公式キャラクター「トラりん」のブログを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。	
2	トラりんツイッター	—	公式キャラクター「トラりん」のツイッターを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。	
3	トラりんFacebook	—	公式キャラクター「トラりん」のFacebookを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。	
4	トラりんYouTube	—	公式キャラクター「トラりん」のYouTubeを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。	
5	今日から君も狛犬博士 (YouTube京博チャンネル)	—	獅子と狛犬について分かりやすく紹介。日英中韓の4言語で作成。6月公開。再生数2,972回(4年3月15日時点)	
6	おひなさまのヒミツ (YouTube京博チャンネル)	—	雛人形と雛祭りについて分かりやすく紹介。日英中韓の4言語で作成。4年3月公開。再生数817回(4年3月15日時点)	

【奈良国立博物館】

1) 体験型プログラム等

461回

35,529人

①ハンズオン展示等

— 回

— 人

②ワークショップ

		5回	827人			
	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数(人)	備 考
1	7月16日~3月31日	特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」関連ワークショップ「オリジナル工作キット 奈良博ざんまいわいわい紙ずもう作り方動画」	YouTube	1回	756人	YouTube配信
2	7月23日	特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」関連ワークショップ「切り絵でアート ならはくの仏像」	地下回廊	2回	47人	
3	3月19日	特別展「国宝 十一面観音菩薩—三輪山信仰のみほとけ—」関連ワークショップ「散華でポン! ~聖林寺十一面観音をかいてみよう」	地下回廊	2回	24人	

③その他の体験型プログラム

— 回

— 人

④児童生徒を対象とした展示

439回

34,702人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備 考
1	5月4日~5日	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」関連イベント 聖徳太子ジャンボすざろく	地下回廊	1回	43人	
2	7月17日~9月12日	特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」の子ども向け解説パネルと子ども向け題箋の設置	東新館・西新館	58回	34,659人	特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」の開催期間中、特別展会場内に、子ども向けの解説パネル10点と子ども向け題箋28点を設置した。
3	9月23日~	地下回廊の仏像模型コーナーの子ども向け題箋の設置	地下回廊	190回	—人	地下回廊にある仏像模型コーナーに、子ども向け題箋2点を新たに設置した。
4	9月23日~	なら仏像館の子ども向け題箋の設置	なら仏像館	190回	—人	なら仏像館に子ども向け題箋10点を新たに設置した。

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

17回

— 人

1	10月30日~11月15日	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	17回	—	2020年度受賞作品を展示
---	---------------	-------------------	------	-----	---	---------------

2) 学校との連携事業

37回

1,417人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

37回

1,417人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
奈良市世界遺産学習の受け入れ						
1	9月24日	奈良市立東市小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	35人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
2	10月7日	奈良市立明治小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	51人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
3	10月7日	奈良市立柳生小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	8人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
4	10月7日	奈良市立興東小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	12人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
5	10月12日	奈良市立都跡小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	90人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
6	10月14日	奈良市立右京小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	32人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
7	10月22日	奈良市立田原小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	11人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
8	11月19日	奈良市立帯解小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	28人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
9	11月19日	奈良市立神功小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	46人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
10	11月26日	奈良市立伏見南小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	69人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
11	11月30日	奈良市立月ヶ瀬小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	10人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
12	12月3日	奈良市立朱雀小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	53人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
13	12月7日	奈良市立富雄第三小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	74人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
14	12月10日	奈良市立左京小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	55人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
15	1月13日	奈良市立富雄北小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	97人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
16	1月21日	奈良市立大宮小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	103人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
17	2月24日	奈良市立登美ヶ丘小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	66人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館。
学校団体を対象にしたオンライン中継プログラムの実施						
18	1月17日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム	別府市立東山小学校・なら仏像館	1回	8人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
19	1月24日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム	大分市立判田中学校・なら仏像館	4回	134人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
20	2月7日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム	大分大学教育学部附属中学校・なら仏像館	4回	160人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
21	2月28日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム	大分市立大分西中学校・なら仏像館	4回	144人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
22	2月28日	ウェブ会議システムを活用した展示案内プログラム	奈良市立大安寺小学校・なら仏像館	2回	49人	奈良市教育委員会との連携事業
23	2月28日	ウェブ会議システムを活用した展示案内プログラム	奈良市立済美南小学校・なら仏像館	1回	33人	奈良市教育委員会との連携事業
学校団体による研究員インタビュー						
24	10月5日	研究員インタビュー対応 渋谷教育学園渋谷中学校3年生	会議室	1回	6人	当館や展示等に関わるインタビュー対応を行った。
25	10月6日	研究員インタビュー対応 渋谷教育学園渋谷中学校3年生	なら仏像館	2回	10人	当館や展示等に関わるインタビュー対応を行った。
26	12月10日	研究員インタビュー対応 鹿児島県立松陽高等学校美術科2年生	なら仏像館	1回	33人	当館や展示等に関わるインタビュー対応を行った。

②出前授業等

— 回

— 人

③職場体験

— 回

— 人

④教員を対象とした研修

— 回

— 人

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

— 回 — 人

3) 児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物 5件 76,680部

	名 称	発行部数	備 考
1	特別展「聖徳太子と法隆寺」のジュニアガイド「聖徳太子と法隆寺」	35,000部	4月発行。観覧者（子ども～大人）対象。特別展会場や法隆寺にて配布。また奈良県内小学校5・6年生に配布した。また、PDFデータを特別展特設ウェブサイトや当館ウェブサイト内にある教育普及ウェブサイト「ならはく教育普及室」にて公開した。
2	特別展「奈良博三味-至高の仏教美術コレクション」のジュニアガイド「なぞとき! ざんまいずの探検-あおじの主を探して-」	20,000部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。特別展会場にて配布。また、PDFデータを当館ウェブサイト内にある教育普及ウェブサイト「ならはく教育普及室」にて公開した。
3	特別展「奈良博三味-至高の仏教美術コレクション」のジュニアガイド「なぞとき! ざんまいずの探検-あおじの主を探して-」の解答・解説シート	20,000部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。特別展会場にて配布。
4	なら仏像館クイズ&ミッションシート	840部	奈良市世界遺産学習の現地学習の際に配布する教材。
5	なら仏像館クイズ&ミッションシートの解答・解説シート	840部	奈良市世界遺産学習の現地学習の際に配布する教材。

②音声ガイド 0件 0台

③その他メディア 2件

	名 称	制作件数	備 考
1	動画「ならはく世界遺産学習」	1件	世界遺産学習の事前学習教材として、当館の案内動画を制作し、YouTube上で公開した。
2	世界遺産学習の事前学習シート「仏像ちょこっとクイズ」	1件	PDFにし、世界遺産学習で来館する各学校に提供した。

【九州国立博物館】

1) 体験型プログラム等

318回

653人

①ハンズオン展示（あじっぱ・あじ庵・あじぎやら）等

306回

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備 考
1	4月1日～3月31日	おうちdeあじっぱ	あじっぱ	306回	—	展示日数

②ワークショップ

7回

104人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備 考
1	5月9日	カード織りワークショップ	研修室	2	14人	
2	7月31日、8月5日	オンラインワークショップ「ぬりぬりグレイズ～十四代中里太郎右衛門氏と三彩に挑戦!～」	zoom開催	2	16人	
3	8月16日、8月21日	オンラインワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK 糸紡ぎ」	zoom開催	2	14人	
4	10月31日	特集展示「手わざ - 琉球王国の文化 -」関連イベント ワークショップ『琉球古刺繍をしてみよう』	研修室	1	10人	
5	12月4日	ファイアンスを作ってみよう	研修室	2	19人	
6	12月11日	ぬりぬりグレイズ～十四代中里太郎右衛門氏と三彩に挑戦!～」	研修室	1	12人	
7	4年2月23日、2月27日	ワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK 糸取り」	研修室	2	19人	

③その他の体験型プログラム

5回

549人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備 考
1	10月28日	きゅーはくきやらばん（工作体験、民族楽器体験、レブリカ触察体験）	太宰府市立太宰府南小学校	1回	76人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
2	11月7日	きゅーはくきやらばん（民族楽器体験）	JR博多シティ屋上つばめの杜広場	1回	200人	
3	11月28日	きゅーはくきやらばん（民族楽器体験、レブリカ触察体験）	九州歴史資料館	1回	150人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
4	4年3月22日	きゅーはくきやらばん（工作体験、民族楽器体験、レブリカ触察体験）	うきは市立山春小学校	1回	23人	移動博物館車「きゅーはく号」運行

5	4年3月24日	きゅーはくきやらばん(工作体験、民族楽器体験、レプリカ触察体験)	久留米市立徳山小学校児童保育所	1回	100人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
---	---------	----------------------------------	-----------------	----	------	------------------

④児童生徒を対象とした展示 0回

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会 0回 0人

2) 学校との連携事業 73回 5,057人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応
20回 826人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	11月2日	小郡市立立石小学校	研修室/文化交流展示(自由観覧)	1回	23人	
2	11月4日	豊前市立合岩小学校	ミュージアムホール/文化交流展示室(自由観覧)/バックヤード(外回り)	1回	48人	
3	11月5日	八女市立立花中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室(自由観覧)/バックヤード(外回り)	1回	36人	
4	11月19日	行橋市立今元中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室(自由観覧)/バックヤード(外回り)	1回	54人	
5	11月24日	みやこ町立諫山小学校	研修室/和室/バックヤード/文化交流展示室(自由観覧)/あじっば	1回	18人	
6	11月26日	八女市立矢部清流学園	研修室/バックヤード/文化交流展示室(自由観覧)	1回	15人	
7	11月30日	古賀市立舞の里小学校	ミュージアムホール/文化交流展示室(自由観覧)/バックヤード(外回り)	1回	50人	
8	12月1日	飯塚市立飯塚第二中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室(自由観覧)/バックヤード(外回り)	1回	69人	
9	12月2日	行橋市立権市小学校	研修室/文化交流展示室(自由観覧)/バックヤード(外回り)	1回	27人	
10	12月3日	大牟田市立宮原中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室(自由観覧)/あじっば	1回	100人	
11	12月7日	大任町立大任中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室(自由観覧)/バックヤード(外回り)	1回	46人	
12	12月14日	田川市立後藤寺中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室(自由観覧)/バックヤード(外回り)	1回	52人	
13	12月15日	柳川市立有明小学校・血垣小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室(自由観覧)/あじっば	1回	19人	
14	12月17日	うきは市立山春小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室(自由観覧)/あじっば	1回	36人	
15	4年1月12日	大川市立大川小学校	ミュージアムホール/文化交流展示室(自由観覧)/バックヤード	1回	44人	
16	4年1月18日	鞍手町立古月小学校	第4会議室/バックヤード/文化交流展示室(自由観覧)/あじっば	1回	4人	
17	4年3月4日	広川町広川中学校	研修室/文化交流展示室(自由観覧)	1回	19人	
18	4年3月8日	筑紫野市立天拝中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室(自由観覧)/バックヤード(外回り)/あじっば	1回	110人	
19	4年3月9日	大刀洗町立大刀洗小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室(自由観覧)/あじっば	1回	23人	
20	4年3月11日	大川市立田口小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室(自由観覧)/あじっば	1回	33人	

②出前授業等
3回 169人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	9月27日	歴史授業「大陸に学んだ国づくり」	東京都練馬区大泉北小学校6年生	1回	100人	文化交流展示室よりリモート授業
2	11月8日	歴史授業「古代人の暮らし」	大分県姫島村立姫島小学校	1回	4人	バックヤード、文化交流展示室よりリモート授業
3	4年3月7日	文化交流展示室よりリモート授業	久留米市榊原中学校	1回	65人	バックヤード、文化交流展示室よりリモート授業

③職場体験
0回 0人

④教員を対象とした研修

0回 0人

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

50回 4,062人

	開催日		開催場所	回数	参加者数	備 考
1	4月1日～3年3月31日	学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し	—	49回	4,036人	計55バック
2	8月7日	全国高等学校歴史学フォーラム2021	研修室 ミュージアムホール	1回	26人	

3) 児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物

1件 1,500部

	名 称	冊数	備 考
1	きゅうはくきやらばん利用ガイド	1,500部	福岡県内の全小・中学校に配布

②音声ガイド 一件 一台

③その他メディア 一件 一回

1-(3)-①-4 大学生・大学院生を対象とした教育事業

令和4年3月31日現在

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	インターンシップ	0人	インターンシップ	2人	インターンシップ	0人	インターンシップ	0人
	大学との連携講座	1件 227人	大学との連携講座	1件 14人	大学との連携講座	2件 4人	大学との連携講座	1件 20人
	見学対応	2回 11人	見学対応	1回 42人	見学対応	0回 0人	見学対応	0回 0人
	その他	0回 0人	その他	20回 138人	その他	4回 119人	その他	6回 157人

【東京国立博物館】

1) インターンシップ 0人

受入期間			
受入部署			
参加者数	0人	学校数	0大学 / 0専門学校
担当研究員数	4人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、インターンシップ受け入れは中止した。		

2) 大学等との連携講座 1件 227人

期 間	9月8日		
回 数	1回		
開催場所	平成館大講堂、平成館エントランスホール		
参加者数	227人	学校数	16大学 / 0専門学校
担当研究員数	3人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、キャンパスメンバーズ校を対象とした教育連携事業「博物館学講座」を中止し、「博物館セミナー」を実施した。		

3) 見学対応 2回 11人

期 間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	11人	学校数	1大学 / 1専門学校
担当研究員数	1人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、事前視聴動画を提供し、当日は自由見学とした。		

4) その他 0回 0人

期 間	月 日		
回 数	0回		
開催場所	平成館大講堂		
参加者数	0人	学校数	0大学 / 0専門学校
担当研究員数	0人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、キャンパスメンバーズ校を対象とした教育連携事業「博物館セミナー」を中止した。		

【京都国立博物館】

1) インターンシップ 2人

受入期間	10月11日～21日		
受入部署			
参加者数	2人	学校数	2大学 / 0専門学校
担当研究員数	2人		
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、国宝修理装演師連盟の協力を得て、文化財修復に関わる加盟大学院生2名のインターンを文化財保存修理所にて受け入れた。12月18日にオンラインにて2名による報告会を行った。(出席者35名)		

2) 大学等との連携講座 1件 14人

内 容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座		
実施日	通年		
開催場所	京都国立博物館		
受入人数	14人		
担当研究員数	5人		

3) 見学対応 1回 42人

期 間	年間		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	42人	学校数	1大学 / 0専門学校
担当研究員数	1人		
事業内容	・特別展「畠山記念館の名宝」見学に伴う博物館の概要説明、質問対応など		

4) その他 20回 138人

期 間	5月19日、5月26日、6月2日、6月23日、6月30日、7月7日、9月1日、9月8日、9月22日、9月29日、10月13日、10月20日、11月10日、11月17日、12月1日、12月8日		
回 数	18回		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	20人	学校数	9大学 / 0専門学校
担当研究員数	4人		
事業内容	「文化財ソムリエに向けたスクーリング」 京都市内の小中学校で文化財の高精細複製品を用いた訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内及びその周辺の大学で日本文化を専門に学ぶ大学生、大学院生。スクーリングでは、教材となる文化財の取り扱い方法や作品の専門的な知識について当館の研究員が解説をした。また、授業案の作成では文化財ソムリエ同士の主体的な議論を促し、必要に応じて助言をした。		

期 間	4月21日、10月14日		
回 数	2回		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	118人	学校数	32大学 / 0専門学校
担当研究員数	2人		
事業内容	京都国立博物館キャンパスメンバーズ会員校の学生・教職員を対象とした特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」、特別展「畠山記念館の名品」にかかる講演会を実施した。		

【奈良国立博物館】

1) インターンシップ 0人

2) 大学等との連携講座 2件 4人

内 容	奈良女子大学大学院人間文化研究科との連携講座		
実施日	前期、後期		
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館		
受入人数	4人 (前期2人、後期2人)		
担当研究員数	1人		

内 容	神戸大学大学院人文学研究科との連携講座		
実施日	通年		
開催場所	奈良国立博物館		
受入人数	0人		
担当研究員数	2人		

3) 見学対応 0回 0人

期 間			
開催場所			
参加者数	人	学校数	大学 / 専門学校
担当研究員数	人		
事業内容			

4) その他 4回 119人

期 間	5月7日、7月21日、1月12日、2月10日		
回 数	4 回		
開催場所	奈良国立博物館		
参加者数	119 人	学校数	17 大学 / 0 専門学校
担当研究員数	4 人		
事業内容	奈良国立博物館キャンパスメンバーズ会員校の学生・教職員を対象とした特別展「聖徳太子と法隆寺」、特別展「奈良博三昧」、「名画の殿堂 藤田美術館展」、特別展「国宝 聖林寺十一面観音」にかかる講演会を実施した。		

【九州国立博物館】

1) インターンシップ

0 人

受入期間			
受入部署			
参加者数	人	学校数	大学 / 専門学校
担当研究員数	人		
事業内容			

2) 大学等との連携講座

1 件

20 人

内 容	放送大学の面接授業		
実施日	12月2日、3日		
開催場所	九州国立博物館研修室		
受入人数	20人		
担当研究員数	8人		

3) 見学対応

0 回

0 人

期 間			
開催場所			
参加者数	人	学校数	大学 / 0 専門学校
担当研究員数	人		
事業内容			

4) その他

6 回

157 人

期 間	8月18日、19日、20日、22日、23日（5日間）		
回 数	1回		
開催場所	全館		
参加者数	17 人	学校数	14 大学 / 0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	博物館実習		

期 間	6月28日		
回 数	1回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）		
参加者数	- 人	学校数	1 大学 / 0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	カフェコンサート（動画撮影・非公開）		

期 間	7月16日、12月10日		
回 数	4回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）		
参加者数	140 人	学校数	1 大学 / 0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	カフェコンサート		

1-(3)-①-5 キャンパスメンバーズ

令和4年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
59校	32校 (※)	26校 (※)	22校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入23校

【東京国立博物館】

① 加入校数 (59校)

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	10,937人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	8,077人	20年4月1日	
3	文化学園(文化学園大学、文化学園大学短期大学部、文化ファッション大学院大学、文化服装学院、文化外国語専門学校)	8,596人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	6,104人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	4,684人	20年4月1日	
6	東京大学	35,018人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,356人	20年4月1日	
8	大正大学	5,422人	20年4月1日	
9	東海大学	31,399人	20年4月1日	
10	青山学院大学・青山学院女子短期大学	21,634人	20年4月1日	
11	メイ・ウシヤマ学園(ハリウッド大学院大学、ハリウッド美容専門学校)	107人	20年4月1日	
12	多摩美術大学	5,470人	20年4月1日	
13	立教大学	23,210人	20年4月1日	
14	東京都立大学	9,777人	20年4月1日	
15	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	3,934人	20年4月1日	
16	東京造形大学	1,971人	20年4月1日	
17	法政大学	38,614人	20年4月1日	
18	筑波大学	20,264人	20年4月1日	
19	昭和女子大学	6,952人	20年4月1日	
20	実践女子大学・実践女子短期大学	4,966人	20年5月1日	
21	東洋大学	33,869人	20年6月1日	
22	東洋美術学校	1,229人	20年6月1日	
23	日本大学(芸術学部・芸術学研究科)	4,807人	20年6月1日	
24	文教大学	9,250人	20年7月1日	
25	上智学院(上智大学、上智短期大学部、上智社会福祉専門学校)	16,138人	20年10月1日	
26	国際基督教大学	3,428人	21年4月1日	
27	学習院女子大学	1,888人	21年11月1日	
28	獨協大学	9,276人	22年4月1日	
29	学習院大学	10,662人	22年4月1日	
30	東京工業大学	12,480人	22年7月1日	
31	日本女子大学	8,364人	23年4月1日	
32	二松学舎大学	3,361人	23年5月1日	
33	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	7,674人	23年6月1日	
34	神奈川大学	19,422人	24年6月1日	
35	日本工業大学	4,712人	24年7月1日	
36	東京女子大学	4,434人	24年8月1日	
37	中央大学(文学部・文学研究科)	4,297人	25年6月1日	
38	麗澤大学	3,126人	25年6月1日	
39	慶応義塾大学	44,809人	25年8月1日	
40	共立女子大学・共立女子短期大学	6,163人	26年4月1日	
41	成城大学(文芸学部・文学研究科)	1,265人	26年4月1日	
42	日本文化大学	990人	27年4月1日	
43	鶴見大学(文学部・文学研究科)	1,461人	27年5月1日	
44	十文字学園女子大学	4,185人	27年6月1日	
45	早稲田大学	52,392人	27年6月1日	
46	横浜国立大学	10,304人	28年4月1日	
47	國學院大学・國學院大学北海道短期大学部	11,719人	28年4月1日	
48	聖心女子大学	2,774人	28年5月1日	
49	津田塾大学	3,833人	29年8月1日	
50	清泉女子大学	2,139人	29年10月1日	
51	立正大学(文学部)	2,257人	30年4月1日	
52	東京国際大学・東京国際大学付属日本語学校	6,767人	30年4月1日	
53	明治大学(文学部・文学研究科)	3,811人	30年5月1日	
54	大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部	8,447人	31年4月1日	
55	明星大学	8,934人	31年4月1日	
56	宝塚大学	1,089人	元年5月29日	
57	東京理科大学	20,767人	2年4月1日	
58	駒澤大学	16,448人	2年8月1日	
59	中央学院大学	3,388人	3年4月1日	

※キャンパスメンバーズ対象人数が学生+教員数のため、学生数には教員の人数も含む。

※職員(事務・技術)は含まず。

【京都国立博物館】

① 加入校数 (32校)

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	学校法人 瓜生山学園	13,024人	18年6月1日	京博のみ	
2	帝塚山大学	3,682人	18年6月1日	奈良博との共通加入	
3	奈良女子大学	2,681人	18年6月1日	奈良博との共通加入	
4	嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学	1,117人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
5	学校法人 京都女子学園	6,832人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
6	京都精華大学	3,452人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
7	京都橘大学	5,977人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
8	龍谷大学	20,555人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
9	成安造形大学	953人	18年8月1日	京博のみ	
10	京都大学	23,203人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
11	近畿大学 文芸学部・総合文化研究科	2,119人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
12	花園大学	1,742人	18年11月1日	京博のみ	
13	大谷大学	3,386人	18年12月1日	京博のみ	
14	佛教大学	13,852人	19年4月1日	奈良博との共通加入	
15	京都工芸繊維大学	3,978人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
16	学校法人 同志社	38,525人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
17	奈良大学	4,045人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
18	奈良先端科学技術大学院大学	1,111人	19年12月1日	奈良博との共通加入	
19	就実大学 人文科学部	1,003人	20年4月1日	奈良博との共通加入	
20	京都市立芸術大学	1,071人	20年8月1日	京博のみ	
21	国立大学法人 大阪大学	24,238人	20年12月1日	奈良博との共通加入	
22	京都外国語大学 京都外国語大学短期大学	6,346人	21年8月1日	奈良博との共通加入	
23	学校法人 関西大学	33,069人	23年6月1日	奈良博との共通加入	
24	京都府立大学	2,145人	23年7月1日	京博のみ	
25	学校法人 京都産業大学	15,950人	24年8月1日	京博のみ	
26	学校法人 立命館	36,691人	26年4月1日	奈良博との共通加入	
27	学校法人 二本松学院	3,071人	29年4月1日	京博のみ	
28	四天王寺大学 人文社会学部	1,833人	29年5月1日	奈良博との共通加入	
29	学校法人 関西学院	27,325人	30年4月1日	奈良博との共通加入	
30	大手前大学	2,984人	30年6月1日	京博のみ	
31	大阪大谷大学	3,036人	30年11月1日	奈良博との共通加入	
32	滋賀大学	3,812人	2年4月1日	京博のみ	

【奈良国立博物館】

①加入校数 (26校)

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良教育大学	1,274人	18年4月4日	奈良博のみ	
2	帝塚山大学	3,682人	18年5月8日	京博との2館併用	
3	奈良女子大学	2,681人	18年5月15日	京博との2館併用	
4	嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学	1,117人	18年6月9日	京博との2館併用	
5	京都精華大学	3,452人	18年6月28日	京博との2館併用	
6	京都橘大学	5,977人	18年6月30日	京博との2館併用	
7	龍谷大学・龍谷大学短期大学部	20,555人	18年6月30日	京博との2館併用	
8	京都大学	23,203人	18年8月22日	京博との2館併用	
9	近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科	2,119人	18年8月24日	京博との2館併用	
10	佛教大学	13,852人	19年4月1日	京博との2館併用	
11	奈良大学	4,045人	19年5月2日	京博との2館併用	
12	京都工芸繊維大学	3,978人	19年6月1日	京博との2館併用	
13	学校法人 同志社 (同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校)	38,525人	19年6月1日	京博との2館併用	
14	奈良先端科学技術大学院大学	1,111人	19年11月7日	京博との2館併用	
15	就実大学 人文科学部	1,003人	20年4月1日	京博との2館併用	
16	天理大学	3,230人	20年7月1日	奈良博のみ	
17	大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校	24,283人	20年12月1日	京博との2館併用	
18	京都外国語大学・京都外国語短期大学	6,346人	21年8月1日	京博との2館併用	
19	関西大学・関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部	33,069人	23年6月1日	京博との2館併用	
20	奈良工業高等専門学校	1,115人	23年7月1日	奈良博のみ	
21	立命館大学	36,691人	26年4月1日	京博との2館併用	
22	京都女子大学	6,832人	29年4月1日	京博との2館併用	
23	四天王寺大学 人文・社会学部	1,833人	29年5月1日	京博との2館併用	
24	学校法人 関西学院	27,325人	30年4月1日	京博との2館併用	
25	大阪大谷大学	3,036人	30年11月1日	京博との2館併用	
26	奈良県立大学	657人	2年6月1日	奈良博のみ	

【九州国立博物館】

① 加入校数 (22校)

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州産業大学	10,634人	19年4月1日	
2	久留米大学	7,219人	19年4月1日	
3	筑紫女学園大学	2,850人	19年4月1日	
4	福岡教育大学	2,826人	19年4月1日	
5	福岡大学	20,119人	19年4月1日	
6	九州産業大学造形短期大学部	308人	19年4月1日	
7	福岡女子短期大学	332人	19年4月1日	
8	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	129人	19年4月1日	
9	久留米大学附設高等学校	621人	19年4月1日	
10	筑紫女学園高等学校	1,254人	19年4月1日	
11	筑紫台高等学校	1,407人	19年4月1日	
12	福岡大学附属大濠高等学校	1,918人	19年4月1日	
13	福岡大学附属若葉高等学校	888人	19年4月1日	
14	放送大学福岡学習センター	2,624人	19年5月1日	
15	九州大学	18,973人	20年5月1日	
16	九州情報大学	490人	21年4月1日	
17	日本経済大学 (福岡キャンパス)	2,421人	21年5月1日	
18	第一薬科大学	1,017人	27年4月1日	
19	福岡工業大学	4,452人	2年10月1日	
20	福岡工業大学短期大学部	374人	2年10月1日	
21	福岡工業大学附属城東高等学校	1,992人	2年10月1日	
22	福岡女子大学	1,096人	24年4月1日	30年一時退会、3年4月再入会

1-(3)-①-6 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 新型コロナウイルスの 影響により中止		
京都国立博物館 1月22日(土) 9:30~17:00	○来館者数 569人《389人》 留学生 45人《68人》 ・名品ギャラリー(平常展示)観覧料無料 ・公式キャラクター「トラりん」ノベルティ グッズプレゼント ・多言語スタッフによるギャラリーツアー	・留学生アンケート回答者数31人 (回収率69%) ・来館頻度:来たことがある19% ・「留学生の日」参加:初めて84% ・認知経路:ポスター・チラシを見て29%、HPを 見て13%、チラシをもらって0%、友人・教師 42% 他0% ・展示内容:とても良かった77%、良かった23%、 普通以下0% ・出身国:米国3%、中国26%、香港3%、台湾 3%、韓国32%、タイ6%、フランス1%、エ ルサルバドル3%、ベトナム10%、イラク 3%、インドネシア6%
奈良国立博物館 11月23日(火・祝) 9:30~17:00	○来館者数 530人《196人》 (なら仏像館389人+英語落語141人) 留学生 31人《0人》 (なら仏像館17人+英語落語14人) ・「名品展」の無料観覧 ・留学生の日関連イベント「英語落語 in 奈 良博」を実施	・留学生アンケート回答者数14人
九州国立博物館 11月3日(水・祝) 9:30~17:00	○来館者数 文化交流展(平常展) 1,284人《814人》 留学生 21人《8人》 令和3年度留学生イベント 「古代の彩り-日本の装飾古墳-」 参加者20人 ※同伴者のカウントはなし ※特別展「海幸山幸」観覧者は含まない ・文化交流展(平常展)のみ無料観覧	・留学生アンケート回答者数21人(回収率 100%) ・出身国:中国14人、アメリカ2人、カナダ 1人、オーストラリア人1名、アイル ランド人1人、ベトナム人1人、ブラ ジル人1人 ・来館回数:1回9人、2回5人、3回3人、4回 1人、5回以上3人 ・認知経路(複数回答):ポスター・チラシ7人、 学校(教師)から3人、友人から8人、 ホームページ1人、フェイスブック1 人、観光ガイドブック2人、留学生イ ベントをきっかけに知った4人、その 他1人 ・留学生イベントの流れやスタッフの対応: とてもよかった19人、よかった1人 ※アンケートは、留学生イベント参加者と交流 展来館者から回収。

* 来館者数、参加者数等:《 》内は令和2年度

1-(3)-①-7 ボランティア受入実績

(後述の資料に記載) ◎共通資料b

1-(3)-①-8 友の会・メンバーズパス等

1) 会員数

友の会 (29年4月1日改定) 令和4年3月31日現在

館名	友の会会員数	(参考) 年会費
東京国立博物館	6,972 人	7,000 円
九州国立博物館	46 人	7,500 円

メンバーズプレミアムパス (29年4月1日より新設) 令和4年3月31日現在

館名	区分 (年会費)	会員数	一般 (3,800 円)	一般 (3,500 円)	学生 (2,500 円)
奈良国立博物館 (奈良博プレミアムカード)		2,353 人	-	2,353 人	-
九州国立博物館		1,653 人	1,582 人	-	71 人

国立博物館メンバーズパス (4館共通/29年4月1日より新設) 令和4年3月31日現在

館名	区分 (年会費)	会員数	一般 (2,500 円)	学生 (1,200 円)
東京国立博物館		2,363 人	2,225 人	138 人
京都国立博物館		249 人	239 人	10 人
奈良国立博物館		59 人	33 人	26 人
九州国立博物館		17 人	16 人	1 人

2) 各種会員を対象とした事業

友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

特別展無料観覧券3枚贈呈、ミュージアムシアター無料観覧券1枚贈呈、当館ミュージアムショップ・レストラン・カフェでの割引。

【九州国立博物館】

当館特別展観覧券6枚贈呈、季刊情報誌「アジアージュ」、特別展示ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン・カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

メンバーズプレミアムパスを対象とした事業

【奈良国立博物館】(奈良博プレミアムカード)

- ①『奈良国立博物館だより』(年4回)の配布
- ②『奈良国立博物館展示案内』(年1回)の配布
- ③当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
- ④当館レストランでの飲食料金の割引
- ⑤近隣他館の入館料金割引または無料
- ⑥当館研究員による解説付きの別鑑賞会を実施
 - ・4月30日(金) 聖徳太子1400年遠忌記念特別展「聖徳太子と法隆寺」特別鑑賞会 参加人数 71人
 - ・7月27日(火) 特別展「奈良博三昧ー至高の仏教美術コレクション」特別鑑賞会 参加人数 81人
 - ・11月5日(金) 特別展「第73回正倉院展」特別鑑賞会 参加人数 82人
 - ・1月13日(木) 「名画の殿堂 藤田美術館展ー傳三郎のまなざしー」特別鑑賞会 参加人数 69人
 - ・2月9日(水) 特別展「国宝 聖林寺十一面観音ー三輪山信仰のみほとけ」特別鑑賞会 参加人数 84人

【九州国立博物館】

- ①当館特別展の無料観覧（計4回まで、うち同一展は2回まで）
- ②当館平常展の無料観覧

1-(3)-①-9 賛助会

1) 会員数

令和4年3月31日現在

館名	京都国立博物館		奈良国立博物館	九州国立博物館	
	東京国立博物館	(一般社団法人 清風会)			(ミュージアム・ ハートナ)
件数	546件	473件	7件	121件	50件
内訳	プレミアム/プラチナ会員(個人):7人 特別会員(団体):20団体 特別/コート会員(個人):40人 維持会員(団体):40団体 維持/シルバー会員(個人):439人	賛助会員(団体):31団体 特別会員(団体):24団体 特別会員(個人):37人 普通会員(団体):21団体 普通会員(個人):360人	団体会員:6件 個人会員:1件	特別支援会員:1団体 特別会員:5団体 一般会員(団体):18団体 一般会員(個人):97人	プレミアム会員(個人):1人 特別会員(個人):6人 維持会員(個人):23人 プレミアム会員(団体):1団体 特別会員(団体):1団体 維持会員(団体):18団体

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

- ①当館総合文化展、特別展（シルバー会員以外）の無料観覧
- ②各特別展開会式・内覧会へのご招待
- ③賛助会感謝デーへのご招待
- ④『東京国立博物館ニュース』（年4回）の配布
- ⑤当館ミュージアムショップの商品の一部割引
- ⑥当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

【京都国立博物館】

- ①『京都国立博物館だより』（年4回）の配布
- ②当館平常展（平成知新館名品ギャラリー）、特別展の無料観覧
- ③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
- ④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
- ⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】

- ①当館平常展、特別展の無料観覧
- ②各特別展開会式（内覧会）へのご招待
- ③展覧会図録の1冊贈呈
- ④『奈良国立博物館カレンダー』（年1回）の贈呈
- ⑤『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
- ⑥当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
- ⑦当館レストランでの飲食料金の割引
- ⑧当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
 - ・4月28日（水） 聖徳太子1400年遠忌記念特別展「聖徳太子と法隆寺」
特別鑑賞会 参加人数 53人
 - ・7月20日（火） 特別展「奈良博三昧ー至高の仏教美術コレクションー」
特別鑑賞会 参加人数 38人
 - ・11月5日（金） 特別展「第73回正倉院展」
特別鑑賞会 参加人数 65人
 - ・1月7日（金） 「名画の殿堂 藤田美術館展ー傳三郎のまなざしー」
特別鑑賞会 参加人数 33人
 - ・2月10日（木） 特別展「国宝 聖林寺十一面観音ー三輪山信仰のみほとけ」
特別鑑賞会 参加人数 36人

【九州国立博物館】

- ①当館文化交流展、特別展の無料観覧
- ②各特別展開会式へのご招待
- ③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待（3年度は新型コロナウイルスの影響により特別鑑賞会中止。
代わりに日時指定のない招待券を送付）
- ④特別展図録の贈呈
- ⑤季刊情報誌『アジアージュ』（年4回）の配布
- ⑥当館駐車場無料利用
- ⑦当館施設利用料割引
- ⑧当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

1-(3)-①-10 渉外活動

令和4年3月31日現在

【東京国立博物館】

- 1) 会場提供 0件
2) 館主催・協力イベント 13件

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者数 (人)	備考
1	6月26日	音楽会	東京国立博物館 初夏のコンサート	平成館ラウンジ	63	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
2	8月1日	イベント	キッズデー 子ども和楽器コンサート	平成館大講堂	243	主催：東京国立博物館
3	9月12日	音楽会	東京国立博物館 秋のコンサート	平成館ラウンジ	92	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
4	10月21日～ 11月28日	イベント	柳瀬荘アートプロジェクト	柳瀬荘	—	主催：日本大学芸術学部、東京国立博物館
5	10月28日	音楽会	Music Program TOKYO まちなかコンサート	本館大階段	250	主催：東京文化会館他 共催：東京国立博物館他
6	11月3日～ 11月7日	イベント	創エネ・あかりパーク 2021に伴うライトアップ	本館前庭	—	主催：「創エネ・あかりパーク 2021」実行委員会 協力：東京国立博物館
7	12月5日	音楽会	東京国立博物館 クリスマスコンサート	平成館ラウンジ	110	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
8	12月17日	イベント	Daiwa Sakura Aid Concert 花*花	平成館ラウンジ	108	主催：東京国立博物館、大和ハウス工業
9	12月18日	イベント	Daiwa Sakura Aid Concert K	平成館ラウンジ	185	主催：東京国立博物館、大和ハウス工業
10	12月19日	イベント	Daiwa Sakura Aid Concert ジュスカ・グランパール	平成館ラウンジ	336	主催：東京国立博物館、大和ハウス工業
11	4年3月23日	音楽会	東京・春・音楽祭 2022	法隆寺宝物館	59	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
12	4年3月30日	音楽会	東京・春・音楽祭 2022	平成館ラウンジ	140	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
13	4年3月31日	音楽会	東京・春・音楽祭 2022	法隆寺宝物館	62	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館

【京都国立博物館】

- 1) 会場提供 40件

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
1	3月26日～5月16日	イベント	特別展に係る音声ガイドの貸出等	平成知新館	4/日	
2	3月26日～5月16日	イベント	特別展に係る物販・図録の販売等	平成知新館	5/日	
3	4月12日	鑑賞会	協賛社特別鑑賞会	展示室、接客室3	246	
4	4月16日	研修会	修理技術者資格制度 新任者研修会	研修室・会議室1	23	
5	4月21日	茶席	茶会	茶室	7	
6	5月14日	研修会	修理技術者資格制度 登録審査	研修室・会議室1・会議室2	19	
7	5月31日	研修会	会場運営従事者研修	講堂	55	
8	6月6日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室1	90	
9	6月18日	会議	会議会場	講堂・接客室1	100	
10	7月3日	会議	会議会場	会議室1・事務棟2階応接室	8	

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
11	7月12日	会議	会議会場	講堂、グラウンドロビ ー	40	
12	7月12日	研修会	会場運営従事者研修	研修室・会議室1	40	
13	7月14日	研修会	修理技術者資格制度 第1回試験準備委 員会	会議室1・会議室2	11	
14	7月15日	会議	会議会場	事務棟2階応接室	2	
15	7月16日	研修会	修理技術者資格制度 上級・中級講習会	研修室	7	
16	7月23日～9月12 日	イベント	特別展に係る音声ガイドの貸出等	平成知新館	15	
17	7月23日～9月12 日	イベント	特別展に係る物販・図録の販売等	平成知新館	25	
18	7月26日	鑑賞会	休館日鑑賞会	展示室、接客室1	100	
19	8月16日	鑑賞会	休館日鑑賞会	展示室、接客室1	1,050	
20	10月3日	茶席	茶会	茶室	13	
21	10月8日	研修会	修理技術者資格制度 主任技師／技師長 第1次試験	研修室・会議室1・会 議室2	17	
22	10月8日～12月 5日	イベント	特別展に係る音声ガイドの貸出等	平成知新館	4/日	
23	10月8日～12月 5日	イベント	特別展に係る物販・図録の販売等	平成知新館	5/日	
24	10月24日	研修会	茶室勉強会	茶室	16	
25	10月30日	茶席	茶道教室	茶室	3	
26	11月25日	研修会	修理技術者資格制度 主任技師／技師長 第2次試験	研修室・会議室1・会 議室2	17	
27	11月26日、27日	研修会	修理技術者資格制度 初級講習会	会議室1・研修室	16	
28	12月4日、5日	茶席	茶会	茶室	21	
29	12月11日	茶席	茶道教室	茶室	3	
30	12月18日	茶席	茶会	茶室	13	
31	12月19日	茶席	茶会	茶室	9	
32	4年1月9日	茶席	茶会	茶室	10	
33	4年1月21日	会議	会議会場	講堂	40	
34	4年1月22日	茶席	茶道教室	茶室	3	
35	4年1月24日	会議	表彰式	講堂	100	
36	4年2月13日	コンサート	コンサート	講堂	70	
37	4年2月19日	茶席	茶道教室	茶室	3	
38	4年3月14日、 15日	イベント	落語会	講堂・接客室3	100	
39	4年3月19日	茶席	茶道教室	茶室	3	
40	4年3月25日、 26日	イベント	シンポジウム	講堂、グラウンドロビ ー・接客室1・接客室 2・接客室3	100	

2) 館主催・協力イベント 20件

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
1	4月3日	講演会	記念講演会「律とは何か」	講堂	83	凝然国師没後700年 特別展 「鑑真和上と戒律のあゆみ」 関連イベント
2	4月10日	講演会	日本の戒律運動と日本人	講堂	70	凝然国師没後700年 特別展 「鑑真和上と戒律のあゆみ」 関連イベント
3	4月17日	講演会	俊蒔と宋代戒律の日本への影響	講堂	71	凝然国師没後700年 特別展 「鑑真和上と戒律のあゆみ」 関連イベント
4	4月25日	コンサート	ヒジャミュージッククラブコンサート	講堂	30	主催: Hijiya Music Club (京 都国立博物館ミュージアム パートナー) 後援: 当館
5	5月8日	講演会	鑑真和上とゆかりのみ仏たち	講堂	100	凝然国師没後700年 特別展 「鑑真和上と戒律のあゆみ」 関連イベント
6	7月4日	イベント	記者体験 in 京都国立博物館	講堂	57	京都市教育委員会、京都市立 中学校教育研究会 美術部会 との共催
7	7月24日	講演会	彫刻修理の歴史と現状	講堂	81	特別展 「京の国宝—守り伝 える日本のたから—」関連イ ベント
8	7月31日	講演会	国宝・重要文化財の指定 —書跡・典籍、古文書を中心に—	講堂	66	特別展 「京の国宝—守り伝 える日本のたから—」関連イ ベント
9	8月7日	講演会	京の国宝 —日本の文化財保護のあゆみと京都—	講堂	67	特別展 「京の国宝—守り伝 える日本のたから—」関連イ ベント
10	8月18日	講座	社会科教員のための向上講座	講堂	34	京都市教育委員会、京都市小 学校・中学校・高等学校の社 会科・美術科の研究部会との 共催
11	8月21日	講演会	京の国宝—流転する工芸—	講堂	66	特別展 「京の国宝—守り伝 える日本のたから—」関連イ ベント
12	8月28日	講演会	京の国宝—絵画の美と評価の歴史—	講堂	71	特別展 「京の国宝—守り伝 える日本のたから—」関連イ ベント
13	9月1日	コンサート	ヒジャミュージッククラブコンサート	講堂	44	主催: Hijiya Music Club (京 都国立博物館ミュージアム パートナー) 後援: 当館
14	9月4日	講演会	今日の文化財保存技術 —装演修理、特に紙を中心に—	講堂	61	特別展 「京の国宝—守り伝 える日本のたから—」関連イ ベント
15	10月9日	講演会	共に楽しむ茶の美術館 —畠山コレクション誕生の背景とその魅 力—	講堂	100	特別展「畠山記念館の名品— 能楽から茶の湯、そして琳派 —」関連イベント
16	10月23日	講演会	近代の紳士能と大名家旧蔵能装束 —加賀藩前田家伝来品をめぐって—	講堂	87	特別展「畠山記念館の名品— 能楽から茶の湯、そして琳派 —」関連イベント
17	11月6日	講演会	近代数寄者の琳派作品集と畠山即翁	講堂	87	特別展「畠山記念館の名品— 能楽から茶の湯、そして琳派 —」関連イベント
18	11月20日	講演会	與衆愛玩 —即翁蒐集の名物道具と数寄者との交友 —	講堂	96	特別展「畠山記念館の名品— 能楽から茶の湯、そして琳派 —」関連イベント
19	11月28日	コンサート	ヒジャミュージッククラブコンサート	講堂	88	主催: Hijiya Music Club (京 都国立博物館ミュージアム パートナー) 後援: 当館
20	4年2月20日	コンサート	ヒジャミュージッククラブコンサート	講堂	94	主催: Hijiya Music Club (京 都国立博物館ミュージアム パートナー) 後援: 当館

【奈良国立博物館】

1) 会場提供 106件

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
1	4月3日	撮影	着物レンタルモデル撮影	庭園・茶室	12	Wakana style + 峪口治恵
2	4月17日	講座・セミナー	奈良八重桜の会設立20周年記念総会	会議室	30	奈良八重桜の会 上田トクエ
3	4月18日	撮影	奈良八重桜の会 撮影	庭園・茶室	2	奈良八重桜の会 上田トクエ
4	4月22日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
5	4月22日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学 矢澤実穂
6	4月26日～6月21日	キャンペーン	特別展 展覧会関連ブース出展	地下回廊	—	奈良県文化資源活用課
7	4月27日、30日、5月3日、4日、	イベント	着物レンタル	庭園・茶室	63	Wakana style + 峪口治恵
8	5月5日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB 奈良店
9	5月6日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	6	ファーストステージ奈良本店
10	5月10日	講座・セミナー	休館日内覧会	講堂・展示室	746	読売新聞社
11	5月13日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
12	5月13日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学 矢澤実穂
13	5月16日	撮影	「あさいち」内コーナー「みんなでシェア旅（奈良県）」	敷地内	6	NHK 奈良放送局 宮川慎也
14	5月20日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
15	5月21日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	6	(株)トライアングル
16	5月27日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
17	6月3日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
18	6月4日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	6	ファーストステージ奈良本店
19	6月10日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
20	6月16日	講座・セミナー	奈良県講演会	講堂	180	奈良県
21	6月17日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
22	6月17日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学 矢澤実穂
23	6月18日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	6	Studio TVB 奈良店
24	6月19日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	ローバイモード
25	6月23日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB 奈良店
26	6月24日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
27	6月24日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学 矢澤実穂
28	6月30日	撮影	おとな旅あるき旅の番組撮影	敷地内・展示室	10	テレビ大阪 番組制作センター 林
29	7月1日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
30	7月8日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
31	7月8日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学 矢澤実穂
32	7月15日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
33	7月15日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学 矢澤実穂

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
34	7月16日～9月13日	イベント	記念写真サービス	地下回廊	3,294	小路谷写真 桂
35	7月20日	撮影	アパレルブランド撮影	仏美センター	11	loop&loop kaze no sumika 大津真雪
36	7月20日	撮影	「わたしは、奈良派」撮影	仏美センター	2	コムニコ 杉浦茉衣子
37	7月22日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
38	7月17日、18日、 21日、22日、23	イベント	着物レンタル	庭園・茶室	34	Wakana style + 峠口治恵
39	7月29日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
40	7月29日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学 矢澤実穂
41	8月2日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB 奈良店
42	8月5日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
43	8月5日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学 矢澤実穂
44	8月15日	撮影	メンズアパレル商品 撮影のため	仏美センター	5	中川政七商店 佐々木香里
45	8月19日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
46	8月19日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学 矢澤実穂
47	8月26日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
48	8月26日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学 矢澤実穂
49	8月26日	撮影	ETV 特集「美術院」	敷地内	3	NHK 京都放送局放送部ディレクター 河原愛子
50	9月2日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
51	9月2日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学 矢澤実穂
52	9月6日	鑑賞会	バーチャル鑑賞ツアー	展示室	—	JTB
53	9月6日	撮影	ウェディングフォト	仏美センター・庭園・ 茶室・敷地内	5	スタジオゼロ 氷見雄輔
54	9月9日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
55	9月9日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学 矢澤実穂
56	9月13日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB 奈良店
57	9月13日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	5	名新社 湊(菊水楼関連)
58	9月13日	会議	正倉院展 呈茶席担当者会議	会議室	20	結の会 片桐弘枝
59	9月16日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
60	9月21日	撮影	奈良市交通対策動画	敷地内	1	JR東海エージェンシー
61	9月23日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	5	スタジオゼロ 氷見雄輔
62	9月29日	撮影	「奈良観光ガイドブック」取材	敷地内・仏像館	1	マガジン ハウスコロカル 編集部 坂本愛
63	9月30日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	150	奈良シニア大学 矢澤実穂
64	9月30日	講座・セミナー	史跡探訪部講座開催のため	講堂	70	奈良シニア大学 矢澤実穂
65	10月1日	祭事	秋祭り	敷地内	60	氷室神社
66	10月7日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	140	奈良シニア大学 矢澤実穂
67	10月12日	撮影	雑誌撮影	敷地内	6	ふみ舎 糸瀬ふみ
68	10月14日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	140	奈良シニア大学 矢澤実穂

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
69	10月14日、15日、 21日	講座・セミナー	庭園・茶室鑑賞のため	庭園・茶室	20	淡交カルチャー 八重樫郁
70	10月30日～11月 15日	キャンペーン	正倉院展図録、グッズ等の販売	西新館・地下回廊	—	(財)仏教美術協会
71	10月30日～11月 15日	キャンペーン	休憩所及びフード・ドリンクの販売	新館西側敷地	—	(有)日本クリーンシステムズ
72	10月30日～11月 15日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	—	校倉な会
73	10月30日～11月 15日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	—	なら和み館
74	10月30日～11月 15日	キャンペーン	正倉院展記念撮影	地下回廊	—	小路谷写真 桂
75	11月1日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	スタジオゼロ 氷見雄輔
76	11月1日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB 奈良店
77	11月11日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	穴田有佐(個人)
78	11月13日	会議	正倉院展出陳品解説	会議室	20	法華寺 樋口教香
79	11月21日	茶会	茶会	茶室	10	千葉桂司
80	11月22日～11月 23日	撮影	「戦後レジーム研究」シリーズの撮影	庭園・茶室	6	ダイレクト出版
81	11月25日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	140	奈良シニア大学 矢澤実穂
82	11月27日	講座・セミナー	奈良県調停協会奈良支部文化研修	講堂	54	奈良県調停協会 須和隆彦
83	11月27日	見学	建物見学	仏美センター	30	クラブツーリズム 川後田
84	11月28日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	5	(株)トライアングル
85	11月29日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	5	(株)トライアングル
86	11月30日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB 奈良店
87	12月3日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	5	(株)トライアングル
88	12月5日	イベント	日本クラシックカー&エキサイティング カーラリー2021奈良	敷地内	100	(株)ツーアンドフォー
89	12月6日	撮影	バーチャル視察動画の撮影のため	敷地内・仏美センター・ なら仏像館内	8	奈良県観光局 MICE 推進室
90	12月10日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB 奈良店
91	12月14日	撮影	バスターミナル上映会での映像撮影	庭園・茶室	3	奈良県奈良公園室
92	12月17日	敷地提供	春日若宮おん祭執行に係る敷地提供	一の鳥居付近の敷地	—	春日大社
93	12月18日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	スタジオゼロ 氷見雄輔
94	12月20日	撮影	Webメディア「Narakko!」掲載のため	敷地内、仏美センター	1	読売奈良ライフ 塩田
95	12月29日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	スタジオゼロ 氷見雄輔
96	1月9日	撮影	ウェディングフォト	庭園・茶室	4	スタジオゼロ 氷見雄輔
97	1月13日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	140	奈良シニア大学 矢澤実穂
98	1月27日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため	講堂	140	奈良シニア大学 矢澤実穂
99	2月8日	撮影	ウェディングフォト	敷地内、会議室	8	Wakana style + 森山治恵
100	2月21日	講座・セミナー	特別展「国宝 十一面観音菩薩-三輪山信仰 のみほとけ」よみうり文化センター休館 日内覧会	講堂	132	読売新聞社
101	2月24日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB 奈良店
102	2月26日	講座・セミナー	歴史、設計者等の講義受講のため	講堂・仏美センター	36	奈良まちづくりセンター 上嶋晴久

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
103	3月11日	講座・セミナー	特別展「国宝 十一面観音菩薩」講演会	講堂	59	清風会 理事長 武藤治太
104	3月21日	講座・セミナー	奈良きたまち近現代建築を歩くの見学のため	講堂・仏美センター	9	きたまちコンセント 大戸旬人
105	3月28日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	5	(株)トライアングル
106	3月31日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	5	(株)トライアングル

2) 館主催・協力イベント 46件

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
1	4月5日	法要	春季仏像供養	なら仏像館	20	関係者のみ
2	4月26日、5月22日、6月22日	法要	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」法要	西新館2階	80	
3	4月27日～6月20日	イベント	JR西日本×特別展「聖徳太子と法隆寺」スタンプラリー	新館エントランス	—	
4	4月28日	鑑賞会	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」賛助会員特別鑑賞会	講堂	53	
5	4月30日	鑑賞会	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂	71	
6	5月4日、5日	イベント	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」関連イベント 聖徳太子ジャンボすごろく	地下回廊	43	
7	5月7日	イベント	奈良博文化大使就任式	西新館	20	
8	5月7日	鑑賞会	キャンパスメンバーズ特別鑑賞会	講堂	48	
9	5月30日	イベント	奈良仏像けんきゅ一部 聖徳太子と法隆寺編	講堂	60	よしもとエリアアクション
10	7/16～	イベント	特別展「奈良博三昧」関連 オリジナル工作キット 奈良博さんまいわい紙ずもう 作り方動画	You Tube	756	
11	7月20日	鑑賞会	特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」賛助会員特別鑑賞会	講堂	38	
12	7月21日	鑑賞会	特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」キャンパスメンバーズ特別鑑賞会	講堂	51	
13	7月23日	イベント	特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」関連ワークショップ 切り絵でアート ならはくの仏像	地下回廊	47	
14	7月26日	法要	夏季仏像供養	なら仏像館	10	関係者のみ
15	7月27日	鑑賞会	プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂	81	
16	7月29日	イベント	特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	37,434	
17	7月31日	鑑賞会	特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」研究員レクチャー付き！夜間特別鑑賞チケット特別鑑賞会	講堂	86	
18	8月21日	イベント	奈良仏像けんきゅ一部 奈良博三昧編	講堂	47	よしもとエリアアクション
19	10月4日	法要	秋季仏像供養	なら仏像館	30	関係者のみ
20	10月9日	イベント	音燈華 DAIWA SAKURA AID コンサート2021	庭園	93	主催：大和ハウス工業株式会社
21	10月27日～12月26日	イベント	庭園と茶室の再生クラウドファンディング	庭園・茶室	554	
22	10月30日～11月15日	展示	第73回正倉院展 法華寺御流のいけばな展示	西新館1Fロビー	—	
23	10月30日～11月15日	イベント	第73回正倉院展「あるくん奈良スタンプラリー」	敷地内	—	
24	10月30日～11月15日	展示	第73回正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	—	主催：奈良国立博物館・読売新聞社・読売テレビ
25	11月1日～11月15日	展示	庭園開放	庭園・茶室	7,454	

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
26	11月4日	鑑賞会	第73回正倉院展 研究員レクチャー付き！特別鑑賞チケット特別鑑賞会	講堂	176	
27	11月5日	鑑賞会	第73回正倉院展 プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂	82	
28	11月5日	鑑賞会	第73回正倉院展 賛助会員特別鑑賞会	講堂	65	
29	11月7日	イベント	奈良仏像けんきゅ一部 第73回正倉院展編	講堂	85	よしもとエリアアクション
30	11月20日～11月21日	特別鑑賞	関西文化の日	なら仏像館	3,156	
31	11月23日	イベント	留学生の日関連イベント 英語落語 in 奈良博	講堂	141	
32	11月23日	特別観覧	留学生の日	展示室	31	
33	11月27日～12月2日	イベント	入館者へ鹿袋プレゼント	なら仏像館	600	
34	12月10日	イベント	「藤田美術館展－傳三郎のまなざし－」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	22,167	
35	12月16日	特別公開	文化財保存修理所特別公開	講堂・文化財保存修理所	78	
36	1月7日	鑑賞会	「藤田美術館展－傳三郎のまなざし－」賛助会員特別鑑賞会	講堂	33	
37	1月8日	イベント	奈良仏像けんきゅ一部 藤田美術館展編	講堂	36	よしもとエリアアクション
38	1月12日	鑑賞会	「藤田美術館展－傳三郎のまなざし－」キャンパスメンバーズ特別鑑賞会	講堂	28	
39	1月13日	鑑賞会	「藤田美術館展－傳三郎のまなざし－」プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂	69	
40	2月9日	鑑賞会	特別展「国宝 十一面観音菩薩－三輪山信仰のみほとけ」プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂	84	
41	2月10日	鑑賞会	特別展「国宝 十一面観音菩薩－三輪山信仰のみほとけ」賛助会員とキャンパスメンバーズ特別鑑賞会	講堂	59	
42	2月11日	鑑賞会	特別展「国宝 十一面観音菩薩－三輪山信仰のみほとけ」研究員レクチャー付き！夜間特別鑑賞会	講堂	66	
43	2月13日	イベント	「聖林寺十一面観音菩薩」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	22,411	
44	3月12日	イベント	奈良仏像けんきゅ一部 聖林寺展編	講堂	73	よしもとエリアアクション
45	3月19日	イベント	特別展「国宝 十一面観音菩薩－三輪山信仰のみほとけ」関連ワークショップ「散華でポン！～聖林寺十一面観音をかいてみよう」	地下回廊	24	
46	3月26日	イベント	お水取り「講話」と「現地解説」の会	講堂、展示室	38	

【九州国立博物館】

- 1) 会場提供 0件 (イベント、講演会等)
2) 館主催・協カイベント 44件

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
1	4月6日～5月16日	展示	綴プロジェクト高精細複製品の展示	文化交流展示室 11室	-	主催：特定非営利活動法人 京都文化協会
2	5月4日、5日	イベント	きゅーはく夢広場 「おいでよ！GWのきゅーはく」 「答えてみよう！きゅーはく文化財クイズ！」	エントランス、文化交流展示室	220	主催：九州国立博物館
3	5月9日	イベント	カード織りワークショップ	研修室	14	主催：九州国立博物館
4	7月16日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	60	主催：九州国立博物館
5	7月31日、8月5日	イベント	オンラインワークショップ「ぬりぬりグレイズ～十四代中里太郎右衛門氏と三彩に挑戦！～」	Zoom によるオンライン開催	16	主催：九州国立博物館
6	8月5日～4年3月	展示	飾り山笠「十一番山笠 天神一丁目」展示	エントランス	-	主管：博多祇園山笠振興会

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
7	8月7日	フォーラム	全国高等学校歴史学フォーラム2021	ミュージアムホール、 エントランス	-	参加校関係者出席人数： 26人
8	8月11日～17日	展示	九州国立博物館に集まる怪しいやつら展	ミュージアムホール	-	主催：九州国立博物館
9	8月16日、21日	イベント	オンラインワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK 糸紡ぎ」	Zoom によるオンライン 開催	14	主催：九州国立博物館
10	9月14日～26日	展示	第72回太宰府天満宮七夕揮ごう大会 優秀作品展示	エントランス	-	主催：公益財団法人 太宰府顕 彰会
11	9月28日～ 10月6日	イベント	日本のからくり人形展	エントランス	-	主催：九州国立博物館
12	10月12日～17日	展示	歴史と文化とアートの街「太宰府」の創造 に向けたまちづくり運動～ARTIVERS(アー ティバース)～	エントランス	-	主催：一般社団法人つくし青年 会議所
13	10月18日	会議	第29回日米文化教育交流会議(カルコン) 日米合同会議	オンラインにて開催	-	主催：国際交流基金カルコン事 務局
14	10月20日～22日	相談会	3年度IPM オンライン相談会	オンラインにて開催	19	参加施設：10施設
15	10月26日～ 11月7日	展示	3年度筑紫地区文化写真展 ようこそ！古代日本の『西の都』へ	エントランス	-	主催：筑紫地区社会教育振興協 議会
16	10月31日	イベント	特集展示「手わざ - 琉球王国の文化 -」 関連イベント ワークショップ『琉球古刺繍をやってみよ う』	研修室	10	主催：九州国立博物館
17	11月3日	講演会	文化の日特別記念講演 「近代洋画と九州、そして福岡」 高山百合（福岡県立美術館学芸員） 佐々木奈美子（久留米市美術館学芸員）	ミュージアムホール	57	主催：福岡県立美術館
18	11月3日	イベント	3年度留学生イベント古代の彩り 日本の 装飾古墳	研修室	21	主催：九州国立博物館
19	11月6、7日	イベント	東九州神楽人の祭典	ミュージアムホール	160	主催：神楽の里づくり推進協 議会、京築連帯アメニティ都市圏 推進会議、大分県
20	11月16日～28日	展示	宮地嶽第54回光の道全国競書大会作品展 示	エントランス	-	主催：宮地嶽光の道全国競書大 会実行委員会
21	11月28日	イベント	グラスハーブ☆ファンタジーコンサート	ミュージアムホール	235	主催：九州国立博物館
22	12月4日	イベント	ファイアンスを作ってみよう	研修室	19	主催：九州国立博物館
23	12月10日	イベント	クリスマスカフェコンサート	エントランス	90	主催：九州国立博物館
24	12月11日	イベント	ワークショップ「ぬりぬりグレイズ～十四 代中里太郎右衛門氏と三彩に挑戦！～」	研修室	12	主催：九州国立博物館
25	12月14日～19日	展示	第37回筑紫地区中学校美術展	エントランス	-	主催：筑紫地区中学校美術教育 研究会事務局
26	12月18日	イベント	第93回親子で茶道体験（4回）	茶室	22	主催：九州国立博物館
27	12月19日	イベント	トレジャーハンターみっちーのきゅーは くディスカバリー「海を渡ったお宝と歴 史」	ミュージアムホール	88	主催：九州国立博物館
28	4年1月3日	イベント	きゅーはくニューイヤーコンサート2022	ミュージアムホール	334	主催：九州国立博物館
29	4年1月5日	イベント	新春は九博で博物館浴しようー学芸員体 験と科学的データの測定ー	研修室、展示室	17	主催：九州産業大学、九州産業 大学美術館
30	4年1月12日～ 16日	展示	第5回MOA美術館児童作品展 in 九州国立 博物館	エントランス	-	主催：MOA美術館、「MOA美術 館児童作品展 in 九州国立博物 館」実行委員会
31	4年1月18日～ 2月6日	展示	旅するデニム展-世界の子ども服をデニム で表現-	ミュージアムホール	-	協力：香蘭ファッションデザイ ン専門学校
32	4年1月22日～ 30日	展示	第24回 日中青少年書画巡回展	エントランス	-	主催：九州日中文化協会
33	4年2月11日～ 13日	イベント	「九州・沖縄夢のお菓子まつり」シュガー ロードのお菓子販売会	エントランス	-	主催：太宰府への誘客・周遊イ ベント実行委員会
34	4年2月15日～ 20日	展示	ワンヘルスパネル展	エントランス	-	主催：福岡県保健医療介護部保 険医療介護総務課
35	4年2月22日～ 27日	展示	九州女子大学 第52回卒業書作展	エントランス	-	主催：九州女子大学人間科学部 人間基礎学専攻
36	4年2月23日、2 月27日	イベント	オンラインワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK 糸取り」	研修室	19	主催：九州国立博物館
37	4年3月5日	イベント	手話通訳付きオンラインバックヤードツ アー	Zoom によるオンライ ン開催	21組	主催：九州国立博物館

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
38	4年3月5日	シンポジウム	九州国立博物館「大宰府学研究」事業・科学研究費助成事業「日中文明遺物の産地探索をめざす中近世沈船・舶載遺物の考古学と自然科学の融合研究」シンポジウム「アジアを変えた鉄—大宰府鴻臚館の衰退と海商の時代—」	ミュージアムホール	120	主催：九州国立博物館・福岡県 共催：福岡大学考古学研究室
39	4年3月5日～6日	展示	日本遺産・やばけい遊覧パネル展示	エントランス	中止	主催：中津市・玖珠町
40	4年3月8日～21日	展示	九州次世代展 2022 九州のユネスコ無形文化遺産を引き継ぐ者たち	エントランス	-	主催：九州国立博物館
41	4年3月11日	講演会	特別展「最澄と天台宗のすべて」関連イベント 伝教大師 1200年大遠忌記念 天台宗九州の青年僧による声明公演	ミュージアムホール	124	出演：天台宗仏教青年会(九州東教区・九州西教区)
42	4年3月19日	イベント	博物館でヨガ体験！きゅーはくヨガレッスン	ミュージアムホール	50	主催：株式会社 CROSSFM
43	4年3月26日	イベント	九州国立博物館を愛する会イベント「きゅーはく雲海桜」	ミュージアムホール、 散策路ほか	-	主催：九州国立博物館を愛する会
44	4年3月27日	イベント	「TAKE IT EASY」 in 九州国立博物館桜満開スペシャル	ミュージアムホール ほか	-	主催：株式会社 CROSSFM

1-(3)-② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実

1-(3)-②-1 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

（前述の資料に記載）1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

1-(3)-②-2 収集した情報資料数（総数）

令和4年3月31日現在

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館		
	3年度新規	総数	3年度新規	総数	3年度新規	総数	3年度新規	総数	
写真原板(フィルム)	50件	323,991件	0件	257,681件	0件	361,503件	0件	23,622件	
デジタル撮影	14,881件	134,712件	7,025件	(*)57,597件	3,432件	62,529件	2,146件	32,678件	
資料	模造	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
	模写	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
	その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
	計	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
図書	和書	3,831冊	220,287冊	868冊	155,071冊	1,500冊	94,878冊	4,016冊	202,797冊
	漢書	356冊	41,574冊	94冊	22,406冊	22冊	5,368冊	0冊	0冊
	洋書	147冊	15,071冊	20冊	4,830冊	18冊	2,089冊	105冊	3,038冊
	計	4,334冊	276,932冊	982冊	182,307冊	1,540冊	102,335冊	4,121冊	205,835冊
映画フィルム	0巻	0巻	0巻	0巻	0巻	30巻	0巻	0巻	
スライド	0本	0本	0本	26本	0本	21本	0本	0本	
	0コマ	0コマ	0コマ	2,779コマ	0コマ	2,192コマ	0コマ	12コマ	
マイクロフィルム	0巻	3,601巻	0巻	643巻	0巻	68巻	0巻	515巻	

(*) 令和3年度以前のデジタル撮影にて新たに追加されたデータ(1,361件)を加えた。

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
開館日数	229日	229日	204日	177日	122日
利用者数	4,971人	4,616人	4,080人	1,219人	1,103人
開架図書（閲覧）	4,905件	5,314件	4,649件	4,151件	3,112件
マイクロフィルム（閲覧）	502件	456件	398件	507件	189件
レファレンスサービス	4,861件	5,113件	5,152件	1,954件	1,934件
コピーサービス	30,066枚	33,832枚	27,286枚	23,331枚	19,540枚

※新型コロナウイルス感染症対策のため、緊急事態宣言発出に伴い元年度は2月7日～3月31日、2年度は4月1日～6月1日、3年度は4月25日～5月31日に臨時休館した。

また、同じく感染症対策のため、2年度6月2日から予約制・人数制限の下で再開、2月15日からは開館日を週3日に減らして開館し、3年度も週3日開館を継続した。

1-(3)-②-3 特別観覧件数

申請件数

令和4年3月31日現在

区 分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合 計	248	11	237	88	2	86	67	9	58	59	0	59	34	0	34
写 真 撮 影	85	4	81	2	0	2	26	4	22	24	0	24	33	0	33
映 画 撮 影							0	0	0		0	0	0	0	0
テ レ ビ 撮 影	4	2	2	2	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
ビ デ オ 撮 影							0	0	0				1	0	1
模 写	7	0	7	1	0	1	1	0	1	5	0	5	0	0	0
模 造							0	0	0				0	0	0
熟 覧	152	5	147	83	0	83	40	5	35	29	0	29	0	0	0

点数

令和4年3月31日現在

区 分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合 計	1,330	45	1,285	527	7	520	212	38	174	462	0	462	129	0	129
写 真 撮 影	445	18	427	16	0	16	78	18	60	223	0	223	128	0	128
映 画 撮 影							0	0	0	0	0	0	0	0	0
テ レ ビ 撮 影	9	7	2	7	7	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
ビ デ オ 撮 影							0	0	0				1	0	1
模 写	8	0	8	1	0	1	2	0	2	5	0	5	0	0	0
模 造							0	0	0				0	0	0
熟 覧	868	20	848	503	0	503	132	20	112	233	0	233	0	0	0

1-(3)-②-4 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

令和4年3月31日現在

区 分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画 像 利 用	フ ィ ル ム での提供	モノクロ	0	0	0	(画像提供業務を外部へ委託)	/			/			0	0	0
		カラー	0	0	0								0	0	0
	デ ジ タ ル デ ー タ 提供	モノクロ	1,175	805	370		744	579	165	310	171	139	9	1	8
		カラー								112	54	58			
	プ リ ン ト での提供	モノクロ	47	37	10		44	35	9	3	2	1	/		
カラー		3	1	2	0	0	0	3	1	2					
画 像 再 利 用		111	78	33					111	78	33	0	0	0	

点数

令和4年3月31日現在

区 分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画 像 利 用	フ ィ ル ム での提供	モノクロ	0	0	0	(画像提供業務を外部へ委託)	/			/			0	0	0
		カラー	0	0	0								0	0	0
	デ ジ タ ル デ ー タ 提供	モノクロ	5,092	1,869	3,223		3,090	1,428	1,662	1,504	329	1,175	45	4	41
		カラー								453	108	345			
	プ リ ン ト での提供	モノクロ	177	88	89		153	77	76	24	11	13	/		
カラー		34	5	29	0	0	0	34	5	29					
画 像 再 利 用		250	160	90					250	160	90	0	0	0	

1-(3)-②-5 広報実績一覧
【本部文化財活用センター】

・〈冬木小袖〉修理プロジェクト 新たな返礼品「江戸の手しごと・伝統工芸品」が登場

会期	4月27日（火）
ターゲット	一般の美術愛好者、若年層
重点項目	ライトユーザー
特記事項	〈冬木小袖〉修理プロジェクトの一環として実施
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト特設ページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計7回、ぶんかつブログでの紹介計2回
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

・文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」十日町市博物館「形をうつす」

会期	6月1日（火）～7月4日（日）
ターゲット	一般の美術愛好者、考古愛好者、歴史愛好者、該当地域在住者、旅行者
重点項目	ライトユーザー、インターネット媒体、開催地域の地元向け媒体
特記事項	文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」を受託、複製・コンテンツを開発・提供
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計2回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

・日本美術のとびら

会期	6月22日（火）～
ターゲット	ファミリー層、インターネット媒体、SNSを通しての情報提供
重点項目	インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト、トーハクウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計5回、ぶんかつブログでの紹介1回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	FASHION PRESS、goo ニュース、LINEニュースほか、計78媒体
その他	—

・〈冬木小袖〉修理プロジェクト 1,500万円の目標達成

会期	7月5日（月）
ターゲット	一般の美術愛好者、若年層
重点項目	ライトユーザー
特記事項	〈冬木小袖〉修理プロジェクトの一環として実施
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト特設ページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計2回、ぶんかつブログでの紹介計1回、Youtubeでの動画配信
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	読売新聞オンライン、朝日新聞デジタルマガジン&、@nifty ビジネス ほか53媒体
その他	—

・びじゅチューン！× 山口ゆめ回廊博覧会 なりきり美術館

会期	7月16日（金）～ 8月22日（日）
ターゲット	ファミリー層、小学生などの子どもとその親
重点項目	家族向け
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ館内配布、ポスター館内掲示
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計8回、ぶんかつブログでの紹介1回
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	山口宇部経済新聞
その他	—

・春夏秋冬／フォーシーズンズ 乃木坂46

会期	9月4日（土）～ 11月28日（日）
ターゲット	若年層、美術愛好者若年層
重点項目	ライトユーザー
特記事項	文化財修理プロジェクトの一環として実施、「日本博」主催・共催型プロジェクト、ソニーミュージックエンターテインメントとの共催事業

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ館内配布
交通広告	東京メトロ上野駅内
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	9, 10, 11月号に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト特設ページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計10回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	SNS (Twitter/Instagram) 広告出稿、Twitter解説生配信、共催社にてオフィシャルECサイト制作、乃木坂46公式SNSチャンネルからの発信、広報用配信用映像の制作（「日本博」主催・共催型プロジェクト）

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	東スポ（9月4日）
テレビ、ラジオ	アートシーン、カウントダウンTV(7月5日放送)
雑誌	—
インターネットメディア	Yahooニュース、マイナビニュース、インターネットミュージアム、読売新聞オンラインほか計114媒体
その他	本事業の告知として、アットPressによるプレスリリース配信を行った。

・文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」愛知県陶磁美術館 特集展示「喫茶の碗の物語—中国陶磁への憧れ、そして…」

会期	10月9日（土）～12月12日（日）
ターゲット	一般の美術愛好者、古美術愛好者、該当地域在住者、旅行者
重点項目	ライトユーザー、インターネット媒体、映像技術系媒体、開催地域の地元向け媒体
特記事項	文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」を受託、複製・コンテンツを開発・提供

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計2回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	中日新聞、東奥日報
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

・文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」都城市立美術館「日本美術の源流—雪舟・狩野派から近代美術—」

会期	10月30日（土）～12月5日（日）
ターゲット	一般の美術愛好者、古美術愛好者、該当地域在住者、旅行者
重点項目	ライトユーザー、インターネット媒体、開催地域の地元向け媒体
特記事項	文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」を受託、複製・コンテンツを開発・提供
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計2回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

・8Kで文化財「みほとけ調査」

会期	11月16日（火）～12月5日（日）
ターゲット	一般の美術愛好者、若年層、経済（トレンド・デジタル）関連
重点項目	ライトユーザー、インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	シャープ株式会社との共同研究
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト、トーハウウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計6回、ぶんかつブログでの紹介1回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞
テレビ、ラジオ	フジテレビ「めざましテレビ」（11月17日放送）、NHKおはよう日本
雑誌	—
インターネットメディア	わつなぎ、和楽WEB、マイナビニュース、読売新聞オンライン、PRTIMESほか計84媒体
その他	—

・文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」名古屋市博物館「大雅と蕪村—文人画の大成者—」

会期	12月4日（土）～4年1月30日（日）
ターゲット	一般の美術・古美術愛好者、該当地域在住者、旅行者
重点項目	ライトユーザー、インターネット媒体、開催地域の地元向け媒体
特記事項	文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」を受託、複製・コンテンツを開発・提供

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計2回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	日本旅行「愛知県のお出かけイベント情報」
その他	—

・3年度国立博物館収蔵品貸与促進事業実施について

会期	4月24日(土)～4年2月27日(日) (全国5施設にて開催)
ターゲット	各開催会場来場者、古美術愛好者、歴史愛好者、ファミリー層、小学生などの子どもとその親、観光客
重点項目	一般媒体、開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体
特記事項	貸与促進事業全体の活動周知を目的とする広報

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	開催会場に貸与促進事業の説明及び年間の事業実施会場について掲載したパネルを掲出
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信計40回、ぶんかつブログでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

・3年度貸与促進事業 佐賀県立美術館 特別展「白馬、翔びたつ—黒田清輝と岡田三郎助—」

会期	9月7日(火)～10月17日(日)
ターゲット	古美術愛好者、近代美術愛好者、歴史愛好者、ファミリー層、小学生などの子どもとその親、観光客
重点項目	開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体、一般の美術愛好者向け雑誌媒体
特記事項	(※)は、文化財活用センターから支出された広報費による掲出

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	西鉄高速バスターミナル デジタルサイネージ (9月13日～10月13日) (※)
新聞・雑誌広告	「るるぶFREE福岡」Vol.52夏秋号(※)、「ぶらぶら美術・博物館プレミアムアートブック」2021-2022(※)、「美術手帖」2021年10月号(※)、「美術の窓」10月号(※)
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計9回
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	NHK日曜美術館 アートシーン
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

・2021年度公開シンポジウム「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」

会期	4年2月10日(木)
ターゲット	ミュージアム関係者、外部資金獲得に関わる企業・団体関係者、関係省庁、一般の寄附者
重点項目	一般媒体、インターネット媒体
特記事項	公益財団法人日本博物館協会共催
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ機構内施設配布、「博物館研究」のチラシ同封
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計6回、ぶんかつブログでの紹介
その他	日本博物館協会ウェブサイトでの紹介、アットプレスによるリリース発信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	月刊誌「美術の窓」
インターネットメディア	—
その他	—

・令和5(2023)年度 国立博物館収蔵品貸与促進事業 実施対象館募集開始

会期	4年4月1日(金)～6月30日(木)
ターゲット	全国の博物館・美術館、各都道府県教育委員会・政令指定都市教育委員会
重点項目	一般媒体、開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体
特記事項	貸与促進事業募集開始の周知を目的とする広報

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ及び申請要項の送付169件(公開承認施設、各都道府県教育委員会・政令指定都市教育委員会)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	excite. ニュース、LINEニュース ほか計59件
その他	—

・令和4(2022)年度 国立博物館収蔵品貸与促進事業 実施対象館が決定

会期	4年4月1日(金)～12月4日(日)(全国6施設にて開催)
ターゲット	各開催会場来場者、古美術愛好者、歴史愛好者、ファミリー層、小学生などの子どもとその親、観光客
重点項目	一般媒体、開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体
特記事項	貸与促進事業全体の活動周知を目的とする広報
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	朝日新聞デジタルマガジン&、ノアドット ほか計34媒体
その他	—

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

- ・「博物館でお花見を」

会期	3年3月16日(火)～4月11日(日) (25日間)
ターゲット	外出傾向にある、SNSを多用している日本の20代前半～30代前半。一般の美術愛好家、訪日・在日外国人
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	新型コロナウイルス感染拡大による運営方法変更等に備え、広報ビジュアルデータを制作しデジタルメディアの広報をメインとしたため、館内掲示用のポスターのみ作成。
交通広告	デジタルサイネージ：JR上野駅（公園口）、JR新橋駅（北改札）、JR東京駅（八重洲一番街） ※動画広告を内製し放映
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン・SNSでの情報配信。「博物館でお花見を」対象作品のうち、絵巻作品のギャラリートーク動画を内製しYouTubeにて配信。
その他	SNS広告（Twitter、Instagram、Facebook）、yhoo00広告（モバイル）、アットプレスによるリリース発信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	東京新聞、聖教新聞、新美術新聞ほか
テレビ、ラジオ	J:COM11チャンネル台東区広報番組「ニュースたいとう」
雑誌	—
インターネットメディア	レッツエンジョイ東京、オズモール、ファッションプレス、わつなぎ、ウォーカープラス、ananweb ほか
その他	

- ・マレーシア・イスラーム美術館精選 特別企画 「イスラーム王朝とムスリムの世界」

会期	7月6日(火)～4年2月20日(日) (192日間)
ターゲット	一般の東洋美術愛好家、若年層（学生など）
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	新型コロナウイルス感染拡大による運営方法変更等に備え、チラシ・ポスター等の印刷物はごく少数の制作とし、管内及び上野近隣施設等での掲出・配布を実施した。
交通広告	交通広告（サイネージ）：JR東日本（上野駅・東京駅丸の内地下通路2期）
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事3回、メールマガジン・SNSでの情報配信など。
その他	ツイッター・フェイスブック・インスタグラムでの広告配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	東京新聞、神奈川新聞、聖教新聞、東洋経済日報社
テレビ、ラジオ	J:COM11チャンネル台東区広報番組「ニュースたいとう」
雑誌	『美術の窓』『外交』『週刊金曜日』
インターネットメディア	ウェブ版美術手帖、ファッションプレス、Walkerplus、モモモサーパー、月刊うえのWEB版8・9月合併号、「OBIKAKE」、Are You Happy、The Chain Museum、web太陽
その他	マレーシア文化通信『WAW(ワウ)』、時事通信、「TOKYO METRO NEWS 2021年9月号」、さくらタイムズ、JTBトラベル&ライフ

- ・東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 特別企画「スポーツ NIPPON」

会期	7月13日(火)～9月20日(月・祝) (62日間)
ターゲット	外出傾向にある、SNSを多用している日本の20代前半～30代前半。館内の他の展示を見に来た来館者を誘導。
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	B2…50部、A4…2万部 ※DMは実施なし
交通広告	デジタルサイネージ：JR上野駅（公園口）
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジン・SNSでの情報配信など
その他	SNS広告（Twitter、Instagram、Facebook）、アットプレスによるリリース発信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	東京新聞、都政新聞、新美術新聞 ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	株式会社生活の友社「美術の窓」（8月号）、（株）ベースボール・マガジン社「相撲」（9月号）ほか
インターネットメディア	読売新聞社「読売新聞オンライン」・「美術展ナビ」、ファッションプレス「FASHION PRESS」、美術出版社「Web版『美術手帖』」、インターネットミュージアム「インターネットミュージアム」 ほか
その他	—

・親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」

会期	7月20日（火）～9月5日（日）（43日間）
ターゲット	小学生などの子どもとその親、若年層、外国人
重点項目	お子さんのいる家族向け媒体、インターネット媒体、SNSを通しての情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	上野駅デジタルサイネージ
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信など
その他	SNS広告、アットプレスによるリリース発信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	朝日新聞デジタルマガジン&、OBIKAKE、インターネットミュージアム、kodomoe、月刊うえのWEB版 ほか
その他	—

・「博物館でアジアの旅」

会期	9月14日（火）～10月17日（日）（30日間）
ターゲット	一般の東洋美術愛好家、小学生などの子どもとその親、若年層（学生など）
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	館内掲示用にポスターのみ作成
交通広告	交通広告（サイネージ）：JR東日本（上野駅）
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回、メールマガジン・SNSでの情報配信など。
その他	SNS広告、アットプレスによるリリース発信

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	J:COM11チャンネル台東区広報番組「ニュースたいとう」
雑誌	—
インターネットメディア	読売新聞オンライン、ファッションプレス、レッツエンジョイ東京、月刊うえのWEB版 ほか
その他	—

・「博物館に初もうで」

会期	4年1月2日（日）～1月30日（日）（25日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、小学生などの子どもとその親、若年層（学生など）、在日外国人
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	館内掲示用にポスターのみ作成
交通広告	交通広告（サイネージ）：JR東日本（上野駅）
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信など。
その他	アットプレスによるリリース配信

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、新美術新聞、しんぶん赤旗
テレビ、ラジオ	—
雑誌	冬びあ、修美
インターネットメディア	ぶんかる、ファッションプレス、withPETS、朝日新聞デジタルマガジン&、美術手帖オンライン、Sfumart、月刊うえのWEB版ほか
その他	—

・特別企画 沖縄県立博物館・美術館 琉球王国文化遺産集積・再興事業 巡回展「手わざー琉球王国の文化ー」

会期	4年1月15日（土）～3月13日（日）（50日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、沖縄文化愛好家
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	B2…30部、A4…1万部（当館分） ※DMは実施なし
交通広告	デジタルサイネージ：JR上野駅（公園口）※予定
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事4回、メールマガジン・SNSでの情報配信など
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞 ほか
テレビ、ラジオ	J-WAVE（TDK VOICES FROM NIHONMONO）
雑誌	遠州流茶道月刊誌月刊茶道誌「遠州」（株式会社大有・3月号）
インターネットメディア	和楽WEB（小学館）、「美術展ナビ」（読売新聞社）、「ファッションプレス」、WEB版『美術手帖』、「インターネットミュージアム」、「月刊うえの」、「スフマート」ほか
その他	—

(2) 特別展、共催展等

・【会期変更】特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」

会期	4月13日(火)～6月20日(日) (31日間) ※4月25日(日)～5月31日(月)臨時休館
ターゲット	日本文化・美術愛好家全般
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約2,700件(美術館・博物館、古美術骨董、各種教室等)に送付、館内配布
交通広告	JR-NSW27駅28面、私鉄5社フレコミボード43駅、東急線・みなどみらい線 横浜駅「メガセット」、京王新宿アドゲート、ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞折込チラシ
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、当館メールマガジンでの情報配信、公式サイト・共催者(朝日新聞社、NHKプロモーション)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式フェイスブック・ツイッター、当館ツイッター・フェイスブックでの情報発信 ほか
その他	SNS広告実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、共同通信、新聞情報社、宗教新聞社ほか
テレビ、ラジオ	BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」、NHK「日曜美術館」
雑誌	美術の窓(生活の友社、4月号)、別冊太陽(平凡社、特集号)、時空旅人別冊(三栄、特集号)、とんぼの本(新潮社、特集ムック)、ノジュール(JTBパブリッシング、3月号)、日経おとなのOFF(日経トレンディ、2021年1月号増刊)、AERA(朝日新聞出版、4月26日号)ほか
インターネットメディア	美術展ナビ、いこレポ、タイムアウト東京、東京アートビート、カーサブルータズ ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	2年2月13日(平成館大講堂)
人数等	95名出席
④報道内覧会	
実施日	4月12日(月)
人数等	281名出席

・【会期変更】特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」

会期	6月22日(火)～9月12日(日) (73日間)
ターゲット	仏像ファン、日本文化・美術愛好家全般
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により会期変更
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,000件(美術館・博物館・マスコミ等)に送付、館内配布
交通広告	東京メトロ電飾看板(コルトン)5駅6面、東京メトロ(プラチナボード)15駅20面、JR東日本窓上チャンネル、私鉄5線窓上チャンネル、京王線沿線ポスター駅貼り(B1・B2) & 中吊り(B3)、ローチケ店頭ポスター掲出 ほか
新聞・雑誌広告	読売新聞(全国版)全5段カラー(7月6日)、日経新聞朝刊(全国版)全5段カラー(7月18日、7月25日)、朝日新聞朝刊(東京版)全5段カラー(7月6日)ほか
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事6回、メールマガジンでの情報配信、公式サイト・共催者(読売新聞社、聖林寺)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式Twitter、当館Twitter・Facebook・Instagramでの情報発信
その他	・有楽町ビッグカメラ屋外ビジョンスポット放映 ・SNS広告配信(Twitter、Facebook) ほか

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、共同通信、陸奥新報 ほか
テレビ、ラジオ	NHK奈良放送局「県外初めて東京へ」(5月13日放送)、近鉄ケーブルテレビネットワーク(5月18日放送)、NHK Eテレ「日曜美術館 アートシーン」(7月11日放送)、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」(8月17日放送)、BS TBS「和の學校」(9月6日放送)(再放送あり)
雑誌	日経おとなのOFF別冊「2021年絶対見逃せない美術展」(2年12月9日発売)、馬ライフ(5月12日)、歴史人(6月5日発売)、美の履歴書(6月29日)、シティライフ(7月26日)、大神神社 みわさん(8月20日)、しんぶん赤旗(8月22日)、目の眼(7月号)、週刊文春(8月号)、和楽(8・9月号)ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、美術展ナビ、朝日マリオン・コム、うえの、シグネチャー、じゃらん、上野がすき、週刊新潮、サライ ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	2年2月27日(平成館大講堂)
人数等	26媒体 37名出席
④報道内覧会	
実施日	6月21日
人数等	120媒体 178名出席

・聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」

会期	7月13日(火)～9月5日(日)(49日間)
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約8,400件(美術館・博物館等)
交通広告	JR駅貼り44駅(7月中)、東武一日比谷線・半蔵門線ドア横(7月中)、メトロコンコースビジョン304面(7月中旬)、私鉄駅貼り89駅(8月中)、メトロ駅貼り17駅(8月中)
新聞・雑誌広告	読売新聞にて展開
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、フェイスブック、ブログ関連記事4回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	日本教育新聞、東京新聞、朝日新聞、東洋経済日報ほか
テレビ、ラジオ	ぶらぶら美術・博物館
雑誌	BM(美術の杜出版社・4月発売)、サライ(小学館・5月号)、和楽(小学館・6・7月号)、時空旅人(三栄・6月号)、芸術新潮(新潮社・7月号)ほか
インターネットメディア	OIL MAGAZINE、M3PRESS、Living東京Web、婦人画報デジタル、美術展ナビ、東京アートファン、インターネットミュージアムほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	2月25日(木) ※奈良国立博物館にて実施。あわせて会場からオンライン生中継も実施
人数等	会場：約30人 オンライン生中継視聴者：約50人
④報道内覧会	
実施日	7月12日(月)
人数等	127人

・伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」

会期	10月12日(火)～11月21日(日)(36日間)
ターゲット	仏像ファン、日本文化・美術愛好家全般
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,000件（美術館・博物館・マスコミ等）に送付、館内配布
交通広告	東京メトロ電飾看板（コルトン）5駅6面、東京メトロUボードゴールド17駅20面、JR東日本窓上チャンネル、私鉄5線窓上チャンネル、京王線沿線ポスター駅貼り（B1・B2）&中吊り（B3）、ローテケ店頭ポスター掲出 ほか
新聞・雑誌広告	読売新聞（全国版）一面社告（9月28日）、日経新聞朝刊（全国版）全5段カラー（10月17日）、朝日新聞朝刊（東京版）全5段カラー（10月19日）ほか
テレビ広告	日本テレビ「ワーズハウスへようこそ」スポット放映、BS日テレ「深層NEWS」スポット放映
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジンでの情報配信、公式サイト・共催者（読売新聞社、天台宗）ウェブサイトでの紹介 SNS:公式Twitter、当館Twitter・Facebook・Instagramでの情報発信
その他	・ローテケ渋谷街頭ビジョンスポット放映、有楽町ビッグカメラ屋外ビジョンスポット放映 ・SNS広告配信（Twitter、Facebook） ・Yahooディスプレイネットワーク（YDN）でのスポット放映
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、比叡山時報ほか
テレビ、ラジオ	NHK Eテレ「日曜美術館 アートシーン」（11月7日放送）、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」（11月9日放送）、KBS京都「比叡の光」（9月19日、9月26日放送）ほか
雑誌	日経おとなのOFF別冊「2021年絶対見逃せない美術展」（2年12月9日発売）、「芸術新潮」（3月25日発売）、「東京人」（10月号）、「婦人公論」（10月12日発売）、「Discover Japan」（9月6日発売）、「サライ」（10月号）、「時空旅人」（11月号・9月24日発売）、「美術の窓」（10月号・9月18日発売）ほか
インターネットメディア	ダウンゴ「ニコニコ美術館」（10月26日配信）、インターネットミュージアム、美術展ナビ、ウェッジ「ほんのひととき」、伝教大師最澄1200年魅力交流委員会コミュニケーションサイト「いろり」ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	4月15日（木）（平成館大講堂） ※後日、録画映像を期間限定でオンライン配信
人数等	会場出席者：26媒体44名、オンライン配信視聴申込：21媒体27名
④報道内覧会	
実施日	10月11日（月）
人数等	132媒体182名

・ユネスコ無形文化遺産 特別展「体感！日本の伝統芸能—歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界—」

会期	4年1月7日（金）～3月13日（日）（57日間）
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約250件（博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等）
交通広告	東京メトロ駅構内B1ポスター貼り（上野駅2021年12月～1月、日比谷駅2月11～24日ほか）、上野駅構内デジタルサイネージ、有楽町ビックビジョン街頭サイネージ
新聞・雑誌広告	読売新聞朝刊紡ぐ面特集、読売新聞朝刊一面社告、伝統芸能専門誌「KENSYO」5段カラー広告ほか
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、産経新聞、毎日新聞ほか
テレビ、ラジオ	TOKYO MX「週末ハッピーライフ！お江戸に恋して」、TOKYO FM「Blue Ocean」、ニッポン放送「辛坊治郎ズーム そこまで言うか！」
雑誌	生活の友社「美術の窓2021年12月号」、集英社「eclat 2月号」、（株）ディスカバージャパン「Discover Japan3月号」、「タウン誌深川12/25発行号」
インターネットメディア	インターネットミュージアム、美術展ナビ、ウォーカープラス、たいとう文化マルシェほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—

④報道内覧会	
実施日	4年1月6日(木)
人数等	54媒体78名参加

・特別展「ポンペイ」

会期	4年1月14日(金)～4月3日(日) (70日間)
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	8,071件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	JRポード17駅20面(1/15～4週間)、上野駅1面(1/10～3/31)、メトロポード15駅20面(2/1～4週間)、京王線B1ポスター100枚×4週間×2期間、JRデジタルサイネージ18駅229面(1/31～2/6)
新聞・雑誌広告	朝日新聞
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社
テレビ、ラジオ	NHKBSプレミアム「古代ローマ・ポンペイ遺跡が日本にやってきた!」、東京MXTV「わたしの芸術劇場」ほか
雑誌	新潮社「芸術新潮2021年12月号」、生活の友社「美術の窓2021年12月号」、ぴあ「美術展ぴあ2022」、日経BPマーケティング「日経おとなのOFF別冊 2022年絶対見逃せない美術展」、時空旅人「大人が観たい美術展2022」、フォーシーズンズプレス「美プレミアム2022年3月号」、晋遊舎「美術展完全ガイド2022」など
インターネットメディア	Walkerplus、美術手帖オンライン、オソイトコ、大人のカルチャーガイド、ナショナルジオグラフィック日本版サイトなど
その他	—

③報道発表会	
実施日	10月18日(月) ※朝日新聞社読者ホールにて、オンライン生中継配信のみ実施
人数等	視聴者：約50人

④報道内覧会	
実施日	4年1月13日(木)
人数等	139媒体188名参加

【京都国立博物館】

(1)名品ギャラリー(平常展)

・特別企画「オリュンピア×ニッポン・ビジュツ」

会期	6月5日(土)～7月4日(日) (26日間)
ターゲット	一般の日本美術ファン、古美術ファン、オリンピックで来日した旅行者
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	産経新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	美術の窓（生活の友社）
インターネットメディア	京都で遊ぼうART（エグザム）
その他	—

・新春特集展示「寅づくし—干支を愛でる—」

会期	4年1月2日（日）～2月13日（日）（37日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、年末年始の観光客
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,561件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	京都駅地下東口サイネージ、京都市地下街サイネージ、京都市営地下鉄ホームドア広告、駅貼り広告（京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅）
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「京都国立博物館だより」掲載	予告1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB: 当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS: 当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、朝日小学生新聞、毎日小学生新聞、京都新聞 ほか計6件
テレビ、ラジオ	BS朝日「京都ぶらり歴史探訪」、KBS京都「きらきん!」、KBS京都ラジオ
雑誌	月刊茶の間（宇治田原製茶場）、おふたいむ（ひでみ企画） ほか計28件
インターネットメディア	ミュージアムプレス、DigiStyle京都、京都で遊ぼうART ほか計11件
その他	—

・特集展示「新収品展」

会期	4年1月2日（日）～2月6日（日）（31日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、古美術ファン、若冲ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB: 当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS: 当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	神戸新聞、京都新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	クロワッサン（マガジンハウス）、きょうの歳時記・美術館「アートの旅」
インターネットメディア	ミュージアムプレス、DigiStyle京都、京都で遊ぼうART ほか計2件
その他	—

・特集展示「後期古墳の実像―播磨の首長墓・西宮山古墳―」

会期	4年1月2日（日）～2月13日（日）（37日間）
ターゲット	一般の考古学ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	きょうの歳時記・美術館「アートの旅」
インターネットメディア	ミュージアムプレス、DigiStyle京都、京都で遊ぼうART ほか計2件
その他	—

・特集展示「雛まつりと人形」

会期	4年2月19日（土）～3月21日（月・祝）（27日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、人形ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	サライ、和布と手作り ほか2件
インターネットメディア	アートアジェンダ、京都で遊ぼうART、沿線おでかけ情報（阪急電鉄）
その他	—

(2) 特別展覧会、共催展等

・特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」

会期	3月27日（土）～5月16日（日）（44日間うち14日は緊急事態宣言のため休館）
ターゲット	一般の日本美術ファン、仏像ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,000件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告（JR京都駅ほか京阪電車主要駅）、JR京都駅東改札バナー
新聞・雑誌広告	日本経済新聞
テレビ広告	—
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事2回、メールマガジン、展覧会公式ウェブサイトでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッターでの情報発信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞 ほか計112件
テレビ、ラジオ	おはようニッポン（NHK） ほか10件
雑誌	日経おとなのOFF（日経BP社）、芸術新潮（新潮社） ほか計73件
インターネットメディア	和楽WEB（小学館）、Lmaga.jp（エルマガジン社） ほか計39件
その他	テーマのある旅（クラブツーリズム名古屋） ほか計2件
③報道発表会	
実施日	2年12月18日（金）
人数等	34媒体、39人出席
④報道内覧会	
実施日	3月26日（金）
人数等	63媒体、77人出席

・特別展「京の国宝—守り伝える日本のたから—」

会期	7月24日（土）～9月12日（日）（44日間）
ターゲット	国宝ファン、日本美術ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスコミ及びSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,000件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告（JR大阪駅、JR京都駅ほか京阪電車、大阪市営地下鉄、京都市営地下鉄主要駅）、JR京都駅東改札バナー
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	読売テレビ スポット枠
「京都国立博物館だより」掲載	予告1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事3回、メールマガジン、展覧会公式ウェブサイトでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッター、展覧会公式ツイッターでの情報発信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞、京都新聞 ほか計140件
テレビ、ラジオ	アートシーン（NHK） ほか計3件
雑誌	芸術新潮（新潮社）、和楽（小学館） ほか計97件
インターネットメディア	ニコニコ美術館（ダウンゴ）、美術手帖Web版（BTCompany）、Yahoo!ニュース ほか計121件
その他	—
③報道発表会	
実施日	3月17日（水）
人数等	23媒体、24人出席（場所：文化庁）
④報道発表会	
実施日	4月20日（火）
人数等	17媒体、23人出席
④報道内覧会	
実施日	7月23日（金・祝）
人数等	55媒体、76人出席

・特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」

会期	10月9日(土)～12月5日(日) (50日間)
ターゲット	日本美術ファン、古美術ファン、琳派ファン、茶道を嗜む人
重点項目	広く一般のマスコミ及びSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,000件(※博物館・美術館・学校(小・中・高・大)、図書館、ギャラリー等)
交通広告	駅貼り広告(JR京都駅ほか阪急、京阪京橋駅)
新聞・雑誌広告	日本経済新聞
テレビ広告	NHK スポット枠
「京都国立博物館だより」掲載	予告1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事4回、メールマガジン、展覧会公式ウェブサイトでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッター、展覧会公式ツイッターでの情報発信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、京都新聞 ほか計59件
テレビ、ラジオ	アートシーン(NHK)、京都コトはじめ(NHK)、パッピーカーライフ(ラジオ大阪) ほか計4件
雑誌	美術の窓(生活の友社)、茶道雑誌(河原書店) ほか計68件
インターネットメディア	ニコニコ美術館(ドワンゴ)、じゃらんアプリ版(リクルート) ほか計38件
その他	花めぐり・美術の旅(クラブツーリズム) ほか計4件
③報道発表会	
実施日	6月7日(金)
人数等	22媒体、26人出席
④報道内覧会	
実施日	10月8日(金)
人数等	47媒体、63人出席

【奈良国立博物館】

(1)名品展(平常展)

・名品展 「珠玉の仏たち」

会期	3年2月23日(火・祝)～常時開催
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術(仏像)ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術(仏像)ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生向けに、マスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	外国人向け音声ガイド(英・中・韓)、日本語音声ガイドは29年10月28日から導入
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、Youtubeで紹介
その他	『小西通り商店街アナウンス』
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	『浄土宗新聞』6月号
テレビ、ラジオ	『784～ならどっとFM』
雑誌	—
インターネットメディア	『ライトアッププロムナードならホームページ』、『ウォーカープラス』、『じゃらんnet』、『るるぶ&more』、『奈良県観光公式サイト なら旅ネット』、『奈良市観光協会サイト』、『関西文化.com』、『JAFなび』、『えらべる倶楽部』、『ベネフィット・ステーション』、『イオンカード』等
その他	—

・名品展 特別公開「金峯山寺仁王門 金剛力士立像」

会期	3年2月23日（火・祝）～
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,730件（博物館・美術館・学校（幼・小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	話題1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	『奈良ぶら』
雑誌	—
インターネットメディア	『フジトラベルサービス』
その他	広報紙『あんしんlife』（一般社団法人あんしん財団）

・特集展示「新たに修理された文化財」

会期	4年3月1日（火）～3月27日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン、写真ファン
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト
その他	『小西通り商店街アナウンス』
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	京都新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	『784～ならどっとFM』
雑誌	—
インターネットメディア	『BIGLOBE旅行』、『ウォーカープラス』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『大東建託 進化する暮らし』、『日本旅行』等
その他	—

・特別陳列「お水取り」

会期	4年2月5日(土)～3月27日(日)
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、「お水取り」(お松明)を見に来る観光客。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件(博物館・美術館・学校(幼・小・中・高・大)・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社、近鉄、JR、デジタルサイネージ(近鉄奈良駅)約150件(近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等)
交通広告	ポスター(近鉄、JR)、チラシ(近鉄、JR)、デジタルサイネージ(県庁玄関・E.V前、近鉄奈良駅、スイムピア奈良、社会福祉総合センター、奈良総合医療センター、奈良市総合観光案内所、奈良市観光センター(ナラニクル)、近鉄奈良駅観光案内所)
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ウェブサイト、YouTube
その他	『小西通り商店街アナウンス』
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	京都新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	『784～ならどっとFM』
雑誌	『京都観光コンシェルジュ』
インターネットメディア	『関西文化.com』、『artことはじめ』、『BIGLOBE旅行』、『ウォーカープラス』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『大東建託 進化する暮らし』、『日本旅行』等
その他	JALカード会員誌『AGORA』、『小西通り商店街アナウンス』、デジタルサイネージ(県庁玄関・E.V前、スイムピア奈良、社会福祉総合センター、奈良総合医療センター、奈良市総合観光案内所、奈良市観光センター(ナラニクル)、近鉄奈良駅観光案内所)

(2) 特別展、共催展等

聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」

会期	4月27日(火)～6月20日(日)(49日間)
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供。
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,880件(博物館・美術館・学校(幼・小・中・高・大)・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社、近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等)
交通広告	読売新聞、近鉄(車内吊、駅置)、JR(車内吊、駅貼、駅置、ドア貼、デジタルサイネージ)、大阪メトロ(駅貼、車内ドア貼り、デジタルサイネージ、駅ホーム貼)、阪急(車内吊、駅貼)、京阪(デジタルサイネージ)
新聞・雑誌広告	読売新聞、読売テレビCM、NHKTVスポット
テレビ広告	読売テレビCM、NHKTVスポット
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター
その他	公式サイト、『小西通り商店街アナウンス』、三条通りショッピングモールのほり広告、デジタルサイネージ(県庁玄関・E.V前、スイムピア奈良、社会福祉総合センター、奈良総合医療センター、奈良市総合観光案内所、奈良市観光センター(ナラニクル)、近鉄奈良駅観光案内所)
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、産経新聞、奈良新聞 ほか
テレビ、ラジオ	『ぶらぶら美術館・博物館』12/22放送、『法隆寺1400年の祈り「救世観音と百済観音」』3/27放送、『NHK「日曜美術館」』、『ラジオ大阪「ハッピーカーライフ」』、『MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」』、『784～ならどっとFM』
雑誌	『和楽』1・2月号、3・4月号、『ノジュール』3月号、『時空旅人』4月号、『美術の窓』1月号、『芸術新潮』3月号、『月刊美術』5月号 ほか
インターネットメディア	『お出かけガイド』、『奈良ぶらぶら』、『キタコレアート』、『アプリ版びあ』、『じゃらんネット』、『サライ.jp』、『美術展ナビ』、『神戸観光コンシェルジュ』、『OBIKAKE』、『関西文化.com』、『artことはじめ』、『BIGLOBE旅行』、『ウォーカープラス』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『大東建託 進化する暮らし』、『日本旅行』等
その他	『旅だより』日経カルチャー、『四季の華』クラブツーリズム ほか

③報道発表会	
実施日	2月25日
人数等	22媒体、34人出席（場所：当館講堂） オンライン配信もあり、オンライン参加者数は不明。
④報道内覧会	
実施日	4月26日
人数等	57媒体、77人出席

特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」

会期	7月17日（土）～9月12日（月）（51日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供。
特記事項	—

①広告・広報

種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,870件（博物館・美術館・学校（幼・小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社、近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等）
交通広告	読売新聞、近鉄（ポスター、チラシ）、JR（ポスター、チラシ）、大阪メトロ（ポスター）、大阪梅田ツインボード、J・ADビジョンWEST京阪神セットmini
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	読売テレビCM、NHKTVスポット
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター
その他	公式サイト、公式ツイッター、『小西通り商店街アナウンス』、東向き商店街（巨大ペナント広告）、デジタルサイネージ（県庁玄関・EV前、スイムピア奈良、社会福祉総合センター、奈良総合医療センター、奈良市総合観光案内所、奈良市観光センター（ナラニクル）、近鉄奈良駅観光案内所）

②メディア掲載等

種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞（7/17）、朝日新聞大阪本社版夕刊（7/13）、産経新聞、奈良新聞（7/13）、中外日報（7/9）ほか
テレビ、ラジオ	『ならナビ』5/20、『おとな旅あるき旅』7/17、『西国三十三所 Trip around33』7/18 『MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」』、『784～ならどっとFM』ほか
雑誌	『関西夏ウォーカー2021』、『歴史人』7月号、『月刊大和路ならら』8月号、『旅の手帖』8月号、『和楽』8・9月号 ほか
インターネットメディア	『ウェブ版美術手帖』、『アートアジェンダ』、『美術展ナビ』、『神戸観光コンシェルジュ』、『Yahoo! ニュース』、『奈良ぶら』、『奈良県みんなでのしむ大芸術祭』、『関西文化.com』、『ニコニコ美術館』、『artことはじめ』、『BIGLOBE旅行』、『ウォーカープラス』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『大東建託 進化する暮らし』、『日本旅行』等
その他	『スケッチ・花』クラブツーリズム ほか

③報道発表会

実施日	5月20日
人数等	10媒体、11名出席（場所：当館講堂）

④報道内覧会

実施日	7月16日
人数等	30媒体、43人出席

特別展「第73回正倉院展」

会期	10月30日（土）～11月15日（月）（17日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客向けにテレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報

種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,870件（博物館・美術館・学校（幼・小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社、近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等）
交通広告	東京メトロ（デジタルサイネージ）、JR（東京駅デジタルサイネージ、名古屋駅デジタルサイネージ）、大阪メトロ（ポスター）、近畿日本鉄道（駅貼り）、奈良交通（バス車内吊）
新聞・雑誌広告	読売新聞、The Japan News、読売KODOMO新聞、読売中高生新聞、スポーツ報知
テレビ広告	読売テレビCM
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター
その他	『小西通り商店街アナウンス』、デジタルサイネージ（県庁玄関・EV前、スイムピア奈良、社会福祉総合センター、奈良総合医療センター、奈良市総合観光案内所、奈良市観光センター（ナラニクル）、近鉄奈良駅観光案内所）

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞、朝日新聞、読売新聞、報知新聞 ほか
テレビ、ラジオ	『ならナビ』8/28放送、『JNNニュース』、『BS-TBS 和の学校』『MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」』、『784～ならどっとFM』 ほか
雑誌	『ひととき』11月号、『女性自身』10月26日号、『目の眼』11月号、『月刊奈良』11月号、『ならめがね』、『月刊大和路ならら』11月号 ほか
インターネットメディア	『美術展ナビ』、『アートアジェンダ』、『JR東海ツアーズHP』、『ACT4』、『キタコレアート』、『WEB美術手帖』、『ARTことはじめ』、『日刊webタウン情報ぱーぐる』、『奈良ぶら』、『ニコニコ美術館』、『artことはじめ』、『BIGLOBE旅行』、『ウォーカープラス』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『大東建託 進化する暮らし』、『日本旅行』 ほか
その他	『日本の旅』（三越伊勢丹ニッコウトラベル）
③報道発表会	
実施日	リリース資料配信のみ（8/27（金））
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	10月29日
人数等	25媒体、76人出席

特別展「名画の殿堂 藤田美術館展 —傳三郎のまなざし—

会期	12月10日（金）～4年1月23日（日）（35日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン、絵画ファン。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供。
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,860件（博物館・美術館・学校（幼・小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社、近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等）
交通広告	大阪メトロ（ポスター）、JR（ポスター）
新聞・雑誌広告	朝日新聞
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回、紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、YouTube
その他	『小西通り商店街アナウンス』、デジタルサイネージ（県庁玄関・E.V前、スイムピア奈良、社会福祉総合センター、奈良総合医療センター、奈良市総合観光案内所、奈良市観光センター（ナラニクル）、近鉄奈良駅観光案内所）
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	京都新聞（11/22）、朝日新聞夕刊（12/7） ほか
テレビ、ラジオ	『MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」』、『784～ならどっとFM』
雑誌	『芸術新潮』、『美術の窓』12月号、『ノジュール』1月号、『目の眼』1月号、『月刊美術』1月号、『週刊文春』 ほか
インターネットメディア	『奈良ぶら』、『Exhibitions』ウェブ版美術手帖、『東京アートニュース』、『ニコニコ美術館』、『関西文化.com』、『artことはじめ』、『BIGLOBE旅行』、『ウォーカープラス』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『大東建託 進化する暮らし』、『日本旅行』 ほか
その他	近鉄・阪神電車吊り下げ広告、『沿線案内フラッシュアップ』12月号 阪神電車 ほか
③報道発表会	
実施日	リリース資料配信のみ（11/19（金））
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	12月9日
人数等	14媒体、18人出席

特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ—

会期	4年2月5日（土）～3月27日（日）（47日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供。
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件（博物館・美術館・学校（幼・小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社 約150件（近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等）
交通広告	ポスター（近鉄、大阪メトロ、JR、奈良交通）、チラシ（近鉄、JR）、デジタルサイネージ（近鉄奈良駅）
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	読売テレビCM
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、YouTube
その他	『小西通り商店街アナウンス』、デジタルサイネージ（県庁玄関・EV前、スィムピア奈良、社会福祉総合センター、奈良総合医療センター、奈良市総合観光案内所、奈良市観光センター（ナラニクル）、近鉄奈良駅観光案内所）
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	『MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」』、『784～ならどっとFM』
雑誌	『和楽』2.3月号、『美術展完全ガイド2022』
インターネットメディア	『ニコニコ美術館』、『関西文化.com』、『artことはじめ』、『BIGLOBE旅行』、『ウォーカープラス』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『大東建託 進化する暮らし』、『日本旅行』等
その他	『大宮通りジャーナル』、
③報道発表会	
実施日	リリース資料配信のみ（11/17（金））
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	4年2月4日
人数等	38媒体、56人出席

【九州国立博物館】

(1) 文化交流展（平常展）

・新収品展

会期	4月13日（火）～5月23日（日）（37日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、刀剣・仏像ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	読売新聞、毎日新聞
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国
インターネットメディア	—
その他	—

・古代ガラスの世界-岡山市立オリエント美術館所蔵品展-

会期	7月6日(火)～10月3日(日) (79日間)
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、工芸品に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	28件(友の会会員)
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス(車内・バス停)
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、WEBプレスリリース実施、報道内覧会実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、西日本新聞、新美術新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊はかた、サライ、クロスロード福岡、ぐらんざ、わくわく課外授業ほか
インターネットメディア	読売新聞、西日本新聞、ARTNE、クロスロード福岡、Walkerプラス、WEB版美術手帖 ほか
その他	—

・ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2021～

会期	7月13日(火)～9月5日(日) (49日間)
ターゲット	一般の歴史ファン、文化財に関心のある一般市民、視覚に障がいのある人等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス(車内・バス停)
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、WEBプレスリリース実施、報道内覧会実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	ARTNE、西日本新聞
その他	—

・没後350年記念 明国からやってきた奇才仏師 范道生

会期	7月17日(土)～10月10日(日) (75日間)
ターゲット	一般の歴史ファン、仏像ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	28件（友の会会員）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス（車内・バス停）
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスパナー設置、WEBプレスリリース実施、報道内覧会実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、西日本新聞、新美術新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊はかた、クロスロード福岡、ぐらんざ、わくわく課外授業 ほか
インターネットメディア	読売新聞、西日本新聞、ARTNE、クロスロード福岡、Walkerプラス、WEB版美術手帖 ほか
その他	—

・琉球王国文化遺産集積・再興事業 巡回展 手わざ -琉球王国の文化-

会期	10月19日（火）～12月12日（日）（48日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、沖縄ファン、文化財保護に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	36件（友の会会員）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス（車内・バス停）
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスパナー設置、WEBプレスリリース実施、報道内覧会実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、西日本新聞、奈良新聞、産経新聞、聖教新聞、新美術新聞
テレビ、ラジオ	NHK福岡「はっけんTV」、NHK「はっけんラジオ」、TVQ九州放送「太宰府・九博散歩道」
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊はかた、クロスロード福岡、ぐらんざ、東経リビング、陶業時報、FREE、99VIEW ほか
インターネットメディア	読売新聞、西日本新聞、ARTNE、クロスロード福岡、Walkerプラス、婦人画報公式WEBサイト、アイエム ほか
その他	—

・新春特別公開 徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度

会期	4年1月1日（土・祝）～1月30日（日）（26日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、漆工芸品ファン、太宰府天満宮参拝客等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	45件（友の会会員）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス（車内・バス停）
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスパナー設置、WEBプレスリリース実施

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、新美術新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送「太宰府・九博散歩道」
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊はかた、クロスロード福岡、ぐらんざ、美術の窓、美術館ぴあ
インターネットメディア	読売新聞
その他	—

(2) 特別展、共催展等

・御大典記念 特別展 よみがえる正倉院宝物—再現模造にみる天平の技—

会期	4月20日（火）～6月13日（日）（49日間）
ターゲット	歴史及び美術ファン、仏教美術ファン
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DMM送付	約1,200件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス
新聞・雑誌広告	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、エントランスバナー設置、参道フラッグ掲出
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、新美術新聞、地元新聞
テレビ、ラジオ	NHK福岡、RKB、ケーブルステーション福岡、TVQ九州放送「ふくサテ」、RKBラジオ
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊はかた、クロスロード福岡、ぐらんざ、美術の窓、しっとこ九博、ミニコミまいんず、旅の手帖、そめとおり、クルメスタイル ほか
インターネットメディア	アートアジェンダ、OBIKAKE、Walkerプラス、JR西日本、じゃらんネット、Fukuoka Now、ファンファン福岡、ふくおかサポートねっと、九州サイト、ウェブ版「美術手帖」 ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	3年2月16日（火）
人数等	10媒体17名（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	4月19日（月）
人数等	11媒体20名（場所：特別展示室）

・皇室の名宝-皇室と九州をむすぶ美-

会期	7月20日（火）～8月29日（日）（35日間） ※8月14日～15日は大雨のため臨時休館
ターゲット	皇室ファン、日本美術ファン、伊藤若冲ファン
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,200件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞、西日本新聞、日本経済新聞
テレビ広告	TVQ九州放送
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、エントランスバナー設置、参道フラッグ掲出、WEBプレスリリース実施

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、西日本新聞、朝日新聞、日本経済新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送「ふくサテ」、ケーブルステーション福岡、
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊はかた、クロスロード福岡、ぐらんざ、わくわく課外授業、ESPRESSO、広報ちくしの、和楽、ながさきプレス、アートコレクターズ、クリム、刀剣画報、ふくおかニュース、ミニコミまいんず、陶業時報 ほか
インターネットメディア	ARTNE、シニアコム、九州サイト、ふくおかサポートねっと、インターネットミュージアム、婦人画報、クロスロード福岡、アートアジェンダ、OBITAKE、Fukuoka Now、JR西日本、じゃらんネット、Fashion Press、ウェブ版「美術手帖」、あるくあるけるMAP&NEWS、今見られる全国のおすすめ展覧会 ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	4月28日（水）
人数等	10媒体17名（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	7月19日（月）
人数等	11媒体25名（場所：特別展示室）

・海幸山幸- 祈りと恵みの風景 -

会期	10月9日（土）～12月5日（日）（50日間）
ターゲット	歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、屏風ファン
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,250件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス
新聞・雑誌広告	西日本新聞
テレビ広告	TVQ九州放送
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、エントランスバナー設置、参道フラッグ掲出、WEBプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、宮崎日日新聞、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	NHK「はっけんTV」、「日曜美術館アートシーン」、TVQ九州放送「ふくサテ」、「週刊よかタイムス」、「太宰府・九博散歩道」、ケーブルステーション福岡
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊はかた、クロスロード福岡、ぐらんざ、あんしんLife、美術の窓、東経りピング、美術屋・百兵衛、歴史人、ミニコミまいんず、クラブオフ アライアンス、くるめすたい、六次新報、エクラ、muto、広報ちくしの ほか
インターネットメディア	JAFナビ、Walkerプラス、九州観光推進機構、シニアコム、Fashion Press、アートアジェンダ、筑紫野市ホームページ、クロスロード福岡、あるくあるけるMAP&NEWS、今見られる全国のおすすめ展覧会、JR西日本、じゃらんネット ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	8月27日（金）
人数等	7媒体13名（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	10月8日（金）
人数等	14媒体22名（場所：特別展示室）

・伝教大師1200年大遠忌記念 最澄と天台宗のすべて

会期	4年2月8日（火）～3月21日（月・祝）（37日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、仏像ファン、仏教文化に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,200件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡天神駅、JR二日市駅、西鉄バス
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、本館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、エントランスバナー設置、参道フラッグ掲出、WEBプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、西日本新聞、愛媛新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送「太宰府 九博 散歩道」
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊はかた、クロスロード福岡、ぐらんぞ、美術の窓、和布と手作り、FREE、時空旅人、シティ情報ふくおか、espresso、広報ちくしの、リビングひろしま、Off Time、ながさきプレス、99VIEW ほか
インターネットメディア	シニアコム、インターネットミュージアム、筑紫野市ホームページ、JAFナビ、Fashion Press、クロスロード福岡、九州サイト、ふくおかサポートねっと、るるぶ&more. ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	10月19日（火）
人数等	8媒体11名（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	4年2月7日（月）
人数等	16媒体30名（場所：特別展示室）

【平城宮跡資料館】

(1) 平常展

会期	4月1日（木）～4年3月31日（木）（265日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため5月2日～6月20日の間、臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報発信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

(2) 特別展等

・令和3年度 春期特別企画展

第一部「平城宮跡保存運動のさきがけ ー大極殿標木建設式120周年ー」

第二部「大地鳴動 ー大地の知らせる危機と私たちの生活ー」

会期	4月29日（木・祝）～6月27日（日）（9日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため5月2日～6月27日の間、臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	142件（博物館・研究機関・教育委員会・神社、寺・大学・旅行会社・観光、報道関係等）
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞、朝日新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	4月28日
人数等	6媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・令和3年度夏期企画展

「奈良を測る ー森蘊（もりおさむ）の庭園研究と作庭ー」

会期	8月7日（土）～9月12日（日）（32日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	448件（1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学・小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等）
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞、日経新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	8月6日
人数等	1媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）

④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・令和3年度秋期特別展
「地下の正倉院展 ―木簡を科学するⅡ―」

会期	10月9日（土）～11月7日（日）（26日間）
ターゲット	木簡ファン、正倉院展愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	553件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学・小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、産経新聞
テレビ、ラジオ	奈良テレビ、NHK
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

③報道発表会	
実施日	10月8日
人数等	3媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）

④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・令和3年度冬期期企画展
「発掘された平城 2020・2021」

会期	2月11日（金）～3月27日（日）（39日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	125件(博物館・教育委員会・大学・ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	奈良テレビ、NHK
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

③報道発表会	
実施日	2月10日
人数等	5媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）

④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

【藤原宮跡資料室】

(1) 平常展

会期	4月1日（木）～4年3月31日（木）（308日間）
ターゲット	特別史跡藤原宮跡等見学者、香具山等周辺遺跡への訪問者
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	新聞・インターネットメディア等で展示紹介記事掲載 新型コロナウイルスの影響で5月1日～6月20日まで臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈良県学習教材デジタルブック、旅行ガイドブック、奈良県ポータルサイト等に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	—
その他	橿原市観光案内所等にリーフレット配置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	KBC(韓国)番組取材への協力
雑誌	—
インターネットメディア	産経WEST、産経フォト、毎日新聞ニュース
その他	—

・速報展

- ①飛鳥寺旧境内の調査（飛鳥藤原197-6次）飛鳥寺所用軒瓦9点、鷗尾4点
- ②藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第200次）大極殿院出土軒瓦5点・軒平瓦3点
- ③石神遺跡土坑SK1244・1245出土土器（石神遺跡第7次）石神遺跡出土土器19点
- ④藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第205次）大極殿院出土軒丸瓦4点・軒平瓦7点・面戸瓦7点
- ⑤石神遺跡南北溝SD1347・1476出土土器（石神遺跡第8・9次）石神遺跡出土土器66点

【飛鳥資料館】

(1) 平常展

会期	4月1日（木）～4年3月31日（木）（102日間）
ターゲット	飛鳥を訪れる観光客、歴史・考古学の愛好家など
重点項目	ホームページ、SNSの更新頻度アップによる告知効果をあげる
特記事項	新型コロナウイルス対策のため5月2日～6月20日を臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	るるぶ奈良、奈良散策情報、Dokka!おでかけ探検隊、まっぶる情報、おしごとくぶつかん情報館、東海歴史散歩、ミュージアムカフェ ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、日本政府観光局グローバルサイト、るるぶwebサイト、奈良のミュージアム
その他	—

(2) 特別展等

・ミニ展示「新収蔵品紹介－呉と書かれた瓦－」

会期	4月23日（金）～5月1日（土）（8日間）臨時休館のため5月16日までの開催を期間短縮
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	檜隈寺周辺から出土した「呉」と書かれた瓦を通じて、はるか昔の国際色豊かな飛鳥を紹介した。
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	
交通広告	
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞
テレビ、ラジオ	
雑誌	広報あすか
インターネットメディア	
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス 橿原
③報道発表会	
実施日	
人数等	
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・夏期企画展「第12回 写真コンテスト作品展「飛鳥の木」」

会期	7月16日（金）～9月12日（日）（51日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家、写真愛好家、飛鳥を散策したい観光客、
重点項目	写真投稿サイト、写真雑誌、地域の写真サークル、高校・大学の写真部などへの情報提供
特記事項	遺跡や集落、古寺の境内などにたたずむ飛鳥の「木」の写真を通して、飛鳥の人々の営みや歴史、文化の奥深さを発信した。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,046件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学・小学校(県内)・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、奈良新聞、毎日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	
雑誌	広報あすか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、イベントバンク、チラシミュージアム、Dokka!おでかけ探検隊ほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス 橿原
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・秋期特別展「屋根を彩る草花－飛鳥の軒瓦とその文様」

会期	10月15日（金）～12月19日（日）（57日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	日本にもたらされた軒瓦文様の変化とその後の展開を、飛鳥を中心に紹介した。
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,424件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学・小学校(県内)・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトピラ」
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事6回、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、奈良新聞ほか
テレビ、ラジオ	NHK奈良
雑誌	広報あすか ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、イベントバンク、チラシミュージアム、Dokka!おでかけ探検隊ほか
その他	榎原ナビブラザ、ミグランス 榎原
③報道発表会	
実施日	10月14日
人数等	5媒体（場所：飛鳥資料館特別展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・冬期企画展「飛鳥の考古学2021」

会期	4年1月21日（金）～3月13日（日）（45日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,387件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学・小学校(県内)・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介 ブログ関連記事3回、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	奈良テレビ
雑誌	広報あすか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、イベントバンク、Dookkaa! おでかけ探検隊 ほか
その他	榎原ナビブラザ、ミグランス 榎原
③報道発表会	
実施日	2月20日
人数等	6媒体（場所：飛鳥資料館特別展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

1-(3)-②-6 広報刊行物一覧

【本部】

刊行物名	発行部数	配布先
文化財活用センター事業報告書2020年度	200部	・視察者、関係施設等に配布 ・関係省庁等に配布
2020年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書	300部	・文化庁、首都圏小中学校、都道府県教育委員会、都道府県教育センター、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
2023年度 国立博物館収蔵品貸与促進事業実施対象館募集 チラシ	2,000部	・地方公共団体、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
2022年度ぶんかつアウトリーチプログラム募集 パンフレット	3,000部	・首都圏小中学校、都道府県教育委員会、都道府県の教育センター、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
2021年度公開シンポジウム「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」チラシ	5,000部	・全国のミュージアム（「博物館研究」への同封）、関係各施設に配布
文化財活用センターパンフレット	3,000部	・視察者、関係施設等に配布
文化財防災センターパンフレット2022年版	4,000部	・国内の関係機関等に配布 ・奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」を通じて、WEB上にて公開

【東京国立博物館】

刊行物名	発行部数	配布先
東京国立博物館ニュース	6・7・8月号 75,000部 9・10・11月号 75,000部 12月・4年1・2月号 75,000部 4年3・4・5月号 75,000部	来館者、マスコミ媒体（新聞・雑誌・放送局各社）、定期郵送希望者、友の会・賛助会等会員、キャンパスメンバーズ会員校、国内外の美術館・博物館・大学・研究所等に送付
東京国立博物館「案内と地図」4年3月改訂	日本語 44,000部 英語 14,000部 中国語（簡体字） 5,000部 中国語（繁体字） 2,500部 韓国語 3,000部 フランス語 2,500部 スペイン語 2,000部 ドイツ語 2,000部	館内で来館者に無償配布

【京都国立博物館】

刊行物名	発行部数	配布先
京都国立博物館だより	210号（4・5・6月） 15,000部 211号（7・8・9月） 18,000部 212号（10・11・12月） 10,000部 213号（4年1・2・3月） 10,000部	館内で来館者に無償配布 新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
Kyoto National Museum Letter Vol.149～152	Vol.149（4・5・6月） 3,000部 Vol.150（7・8・9月） 3,000部 Vol.151（10・11・12月） 3,000部 Vol.152（4年1・2・3月） 3,000部	館内で来館者に無償配布
2022年度年間スケジュール	15,000部	館内で来館者に無償配布 新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送

【奈良国立博物館】

刊行物名	発行部数	配布先
奈良国立博物館だより (年4回)	春号 20,000部 夏号 20,000部 秋号 20,000部 冬号 20,000部	美術館・博物館・学校・研究所・郵送希望者等 約5,500件に発送 館内で来館者に配布
奈良国立博物館展示案内	20,000部	館内で来館者に配布
奈良国立博物館リーフレット	前年度残部を使用し新規印刷はなし	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊行物名	発行部数	配布先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版 16,000部 中国語版(簡体字) 1,000部 中国語版(繁体字) 500部 韓国語版 1,000部 英語版 2,000部 ドイツ語版 800部 フランス語版 800部 スペイン語版 800部 合計 22,900部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、視察者等へ配布
文化交流展示室案内マップ	日本語版 2,610部 合計 2,610部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、視察者等へ配布
九州国立博物館概要	日本語版 1,800部 中国語版 200部 韓国語版 200部 英語版 300部 合計 2,500部	・視察者等に配布 ・学校関係へ郵送
季刊情報誌「アジアージュ」	春(60)号 50,000部 夏(61)号 50,000部 秋(62)号 50,000部 冬(63)号 50,000部 合計 200,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、県内市町村 近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月発行 各号16,000部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布
九州国立博物館 2021年間スケジュール	10,000部	・館内で来館者に配布 ・近隣駅、観光案内所等で配布
学校利用ガイド	1,500部	・館内で来館した学校に配布 ・アウトリーチ活動(きゅーはくきやらばん)で出向いた学校・イベント先で配布

1-(3)-②-7 ウェブサイトアクセス件数

(後述の資料に記載) ◎共通資料d

1-(5) 国内外の博物館活動への寄与

1-(5)-① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与

1-(5)-①-1 国内外の博物館等への収藏品貸与件数

令和4年3月31日現在

	国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数	236	230	6	113	108	5	81	81	0	22	22	0	20	19	1
合計	1,688	1,665	23	990	969	21	314	314	0	252	252	0	132	130	2
絵画	405	411	0	198	198	0	105	111	0	81	81	0	21	21	0
書跡	74	78	0	15	15	0	21	25	0	36	36	0	2	2	0
彫刻	163	159	6	130	124	6	9	11	0	24	24	0	0	0	0
建築	9	9	0	3	3	0	0	0	0	5	5	0	1	1	0
金工	96	150	0	47	47	0	24	28	0	25	25	0	0	0	0
刀剣	30	30	0	19	19	0	0	0	0	10	10	0	1	1	0
陶磁	63	73	8	30	24	6	30	48	0	0	0	0	3	1	2
漆工	143	125	2	75	73	2	25	9	0	42	42	0	1	1	0
染織	142	97	0	41	41	0	45	0	0	13	13	0	43	43	0
考古	231	239	0	156	156	0	16	24	0	14	14	0	45	45	0
民族資料	60	60	0	52	52	0	0	0	0	0	0	0	8	8	0
歴史資料	24	21	0	4	4	0	11	8	0	2	2	0	7	7	0
和書	9	9	0	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東 洋	絵画	23	23	0	23	23	0								
	書跡	13	13	0	13	13	0								
	彫刻	6	4	2	6	4	2								
	金工	0	0	0	0	0	0								
	陶磁	45	43	2	45	43	2								
	漆工	4	1	3	4	1	3								
	染織	0	0	0	0	0	0								
	考古	55	55	0	55	55	0								
民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物	47	47	0	47	47	0									
黒田記念館収藏品	18	18	0	18	18	0									

*巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
貸与先件数	242	321	246	204	236	
合計	1,544	1,858	1,488	1,235	1,688	
絵画	454	586	416	278	405	
書跡	133	83	46	67	74	
彫刻	185	192	205	124	163	
建築	13	13	13	16	9	
金工	88	83	90	89	96	
刀剣	48	97	35	26	30	
陶磁	98	77	91	58	63	
漆工	114	58	66	135	143	
染織	54	89	66	105	142	
考古	211	214	243	164	231	
民族資料	2	36	0	0	60	
歴史資料	27	26	39	33	24	
和書	39	30	21	8	9	
写真資料	0	0	28	0	0	
東 洋	絵画	32	20	20	30	23
	書跡	7	28	5	8	13
	彫刻	6	12	1	19	6
	金工	0	48	4	0	0
	陶磁	20	44	29	5	45
	漆工	3	2	2	2	4
	染織	0	3	0	0	0
	考古	7	94	28	22	55
民族	0	10	0	0	0	
法隆寺献納宝物	1	11	0	43	47	
黒田記念館収藏品	2	2	40	3	18	

*東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

1-(5)-①-2 国内外の博物館等への収藏品貸与先別件数

○所蔵品

令和4年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計(国内+海外)	204	1,433	113	952	51	191	20	181	20	109
国内	198	1,410	108	931	51	191	20	181	19	107
国・国立	37	237	15	152	17	49	3	24	2	12
地方・公立	123	947	71	602	24	115	13	137	15	93
私立団体	38	226	22	177	10	27	4	20	2	2
海外	6	23	5	21	0	0	0	0	1	2

○寄託品

令和4年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計(国内+海外)	71	255	21	38	30	123	12	71	8	23
国内	71	255	21	38	30	123	12	71	8	23
国・国立	12	86	4	7	4	37	3	37	1	5
地方・公立	35	97	12	26	12	33	5	21	6	17
私立団体	24	72	5	5	14	53	4	13	1	1
海外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1-(5)-①-3 海外への列品貸与

令和4年3月31日現在

【東京国立博物館】 海外貸与先 5件 海外貸与文化財21件[うち寄託品0件]

	展覧会名称	申請者【会場】	貸与期間	種別・員数
1	常設展示（長期貸与）	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館（フランス共和国パリ市）】	平成14年1月1日～4年12月31日	2件 東洋彫刻2
2	「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバルイゼーション」	浙江省博物館 武林館区（中華人民共和国浙江省）	元年6月17日～4年3月18日	8件 陶磁6、東洋陶磁2
3	特別展「朝鮮時代の僧侶職人」	国立中央博物館（大韓民国ソウル市）	12月7日～4年3月12日	1件 彫刻1
4	特別展「漆：アジアを塗る」	国立中央博物館（大韓民国ソウル市）	12月20日～4年3月31日	5件 漆工2、東洋漆工3
5	常設展示「日本 仏教彫刻の世界」（長期貸与）	国立中央博物館（大韓民国ソウル市）	4年3月13日～5年10月29日	5件 彫刻5

【京都国立博物館】 海外貸与先 0件 海外貸与文化財 0件[うち寄託品 0件]

【奈良国立博物館】 海外貸与先 0件 海外貸与文化財 0件[うち寄託品 0件]

【九州国立博物館】 海外貸与先 1件 海外貸与文化財 2件[うち寄託品 0件]

	展覧会名称	申請者【会場】	貸与期間	種別・員数（件）
1	「虎笑寅年——中日虎年迎春展」	上海博物館	12月1日～4年3月31日	陶磁2件

1-(5)-①-4 考古の相互貸借実績

【京都国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	愛媛県歴史文化博物館	5月16日～4年3月31日	2（6点）	15
2	徳島県立博物館	5月18日～4年3月31日	1（1点）	38
3	柏原市立歴史資料館	5月19日～4年3月31日	1（7点）	21

1-(5)-② 国内外の博物館等への援助・助言等

1-(5)-②-1 国内外の博物館への援助・助言等に関する取組状況
(専門的・技術的な援助・助言の件数、行政、公私立博物館等の各種委員会等の各種委員等への就任件数、
依頼事項への対応件数等)

【東京国立博物館】98件

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
1	NPO文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家に向けた講習	12月13日	学芸研究部保存修復課保存修復室 研究員 野中昭美
2	SOMP0美術館	ボランティアの組織と運営について	12月16日	学芸企画部博物館教育課ボランティア室長 鈴木みどり
3	一般社団法人 国宝修理装演師連盟	修理技術者資格制度委員会委員 (試験内容の準備、試験監督、面接、合否検討)	4月～11月	学芸研究部列品管理課長 沖松健次郎
4	一般社団法人 照明学会	第19回(2021)照明デザイン賞 審査委員	3年度	学芸企画部上席研究員 木下史青
5	一般社団法人 日本甲冑武具研究保存会	理事	4月1日～4年3月31日	学芸研究部列品管理課登録室長 佐藤寛介
6	永青文庫	冬季展に向けた東洋考古文化財に関する助言	5月19日～20日、7月20日、7月27日、9月3日、10月22日	学芸研究部調査研究課東洋室長 市元壘
7	大倉集古館	次年度企画展に向けた東洋考古文化財に関する助言	9月16日、11月12日、12月1日	学芸研究部調査研究課東洋室長 市元壘
8	大阪府岸和田市立図書館	図書館資料のデジタル化について	10月15日	学芸企画部博物館情報課情報管理室長 阿児雄之
9	岡山県教育委員会	岡山県文化財保護審議会委員	4月1日～4年3月31日	学芸研究部列品管理課登録室長 佐藤寛介
10	尾道市教育委員会	尾道市史執筆委員	4月1日～4年3月31日	学芸研究部列品管理課登録室長 佐藤寛介
11	鎌倉国宝館	鎌倉国宝館協議会委員	3年11月15日～5年11月14日	学芸研究部保存修復課保存修復室長 瀬谷愛
12	韓国国立中央博物館	購入候補日本陶磁器の評価	10月12日	学芸企画部博物館情報課長 今井敦
13	韓国国立中央博物館	東京国立博物館の国際交流活動	11月25日	学芸企画部企画課国際交流室長 楊銳
14	北山堂基金	国際協力の推進：東京国立博物館の中国美術および日本美術の交流	4月23日	学芸企画部企画課国際交流室長 楊銳
15	京都市京セラ美術館	IE0(国際展覧会オーガナイザー会議)の組織とアジア間の国際交流について	10月26日	学芸企画部上席研究員(兼)広報室長 鬼頭智美
16	宮内庁三の丸尚蔵館	作品修理指導	7月1日～7月2日	学芸研究部特任研究員 田沢裕賀
17	公益財団法人遠山記念館	文化財買取評価員	10月21日	学芸企画部博物館教育課ボランティア室主任研究員 金井裕子
18	国立アイヌ民族博物館	貸与先施設の文化財保存環境についての協議	7月13日	学芸研究部保存修復課環境保存室長 和田浩
19	国立国会図書館	ジャパンサーチ戦略方針2021-2025に関する意見交換会	12月15日	学芸企画部博物館情報課情報管理室長 阿児雄之
20	国立歴史民俗博物館	展示プロジェクト委員	4月～4年3月	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員 清水健
21	五條市	五條市史編集委員会専門部会員(美術工芸部会)	11月～5年3月	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員 清水健
22	山東博物館・徳州学院	東洋考古関連学術書籍の日本語版作成に係る指導助言	9月24日～11月15日	学芸研究部調査研究課東洋室長 市元壘
23	神宮の杜芸術祝祭実行委員会	「神宮の杜芸術祝祭」の次行に関する監修・助言	3年度	学芸企画部上席研究員 木下史青
24	千葉市	千葉市美術品等収集審査会委員	3年1月7日～5年1月6日	学芸研究部特任研究員 田沢裕賀
25	筑波大学	筑波大学附属図書館所蔵狩野山雪筆「歴聖大儒像」の修復状況についての協議	12月14日	学芸研究部列品管理課長 沖松健次郎
26	東京藝術大学大学院	染織品保存修復に関する特別講義	10月8日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員 佐藤萌

27	東京藝術大学大学院	文化財修理実務に関する特別講義	11月29日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員 野中昭美
28	東京藝術大学大学美術館	解説執筆（1点）	8月31日～9月26日	学芸研究部調査研究課工芸室研究員 福島修
29	東京大学史料編纂所	共同研究員	4月1日～4年3月31日	学芸企画部博物館情報課情報資料室主任研究員 遠藤菜子
30	遠野市立博物館	火災、消火のため放水を浴びた地域文化財の応急処置に関して	5月9日～5月10日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員 野中昭美
31	長崎歴史文化博物館	貸与先施設の文化財保存環境についての連絡調整	4月1日～4年3月31日	学芸研究部保存修復課環境保存室長 和田浩
32	日本学会議	連携会員	2年10月1日～7年9月30日	学芸研究部保存修復課保存修復室長 瀬谷愛
33	福井県立一乗朝倉氏遺跡資料館	新博物館の展示照明に関する指導監修	2年6月～4年10月	学芸企画部上席研究員 木下史青
34	文化庁	文化財買取評価	12月14日	学芸企画部特別展室長 猪熊兼樹
35	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会第六専門調査会）	4月1日～4年3月31日	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子
36	文化庁	文化財買取評価員	11月11日	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子
37	文化庁	買取協議委員	12月10日	学芸研究部列品管理課長 沖松健次郎
38	文化庁	登録美術品絵画・彫刻調査研究協力者	4月8日～4年3月31日	学芸研究部特任研究員 田沢裕賀
39	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月12日～4年3月31日	学芸研究部特任研究員 田沢裕賀
40	文化庁	「博物館等の国際交流の促進事業」選定委員会委員	10月1日～4年3月31日	学芸企画部博物館情報課情報管理室長 阿児雄之
41	文化庁	美術品補償制度部会専門調査会 委員	4月1日～4年3月31日	学芸企画部上席研究員（兼）広報室長 鬼頭智美
42	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会・壁画ワーキンググループ・美術史班	4月1日～4年3月31日	学芸研究部保存修復課保存修復室長 瀬谷愛
43	町田市立博物館	運営委員	～5年6月30日	学芸企画部博物館情報課長 今井敦
44	ミツカンミュージアム	ガイドアプリ「トーハクなび」の制作・運営について	11月19日	学芸企画部博物館教育課教育普及室長 藤田千織 研究員 中村麻友美
45	薬師寺	薬師寺大講堂ご本尊白鳳繡修復興委員会委員	30年7月～	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員 清水健
46	大和文華館	祈りと救いの仏教美術展・特別講演「大和文華館仏教美術コレクション再考 ―十五鬼神図巻と日吉曼荼羅―」	9月19日	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員 古川攝一
47	米沢市上杉博物館	資料収集に係る資料評価	9月18日	学芸企画部博物館情報課長 今井敦
48	愛知県教育委員会	愛知県文化財保護審議会委員	4月1日～4年3月31日	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子
49	一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会	アーバンデータチャレンジ実行委員	7月1日～4年3月31日	学芸企画部博物館情報課情報管理室長 阿児雄之
50	鎌倉市教育委員会	鎌倉市文化財専門委員会	2年6月1日～7年5月31日	学芸研究部保存修復課保存修復室長 瀬谷愛
51	韓国国立中央博物館	教育普及シンポジウムにおけるグループディスカッションファシリテーター（ボランティア運営）	9月9日	学芸企画部博物館教育課ボランティア室長 鈴木みどり
52	京都国立近代美術館	視覚障害者対応について	11月5日	学芸企画部博物館教育課ボランティア室長 鈴木みどり
53	公益財団法人千葉市教育振興財団	千葉市美術館評価委員会委員	元年6月13日～3年6月12日	学芸研究部特任研究員 田沢裕賀
54	国宝奈良県藤ノ木古墳出土品保存修理事業協力者会議	「国宝奈良県藤ノ木古墳出土品」の保存修理事業について協力者会議協力者として助言を行う。	4月1日～4年3月31日	学芸研究部調査研究課考古室長 品川欣也
55	国立アイヌ民族博物館	国立アイヌ民族博物館の調査研究、展示、教育等の各種業務にかかる博物館運営会議の構成員（外部有識者）として助言する。	7月1日～4年3月31日	学芸研究部調査研究課考古室長 品川欣也

56	国立アイヌ民族博物館	体験型展示の運営、盲学校を含む学校対応、展示室内での教育普及活動について	12月3日	学芸企画部博物館教育課ボランティア室長 鈴木みどり 教育普及室長 藤田千織
57	国立アイヌ民族博物館	体験型展示と盲学校対応の運営・ボランティア研修について	12月3日	学芸企画部博物館教育課ボランティア室長 鈴木みどり
58	国立歴史民族学博物館	共同研究員(研究課題「博物館における持続可能な資料管理および環境整備―保存科学の視点から」)	4月1日～4年3月31日	学芸研究部保存修復課環境保存室長 和田浩
59	埼玉県歴史と民俗の博物館	埼玉県資料評価委員	4月1日～4年3月31日	東京国立博物館百五十年史編集室長 恵美千鶴子
60	宗教法人 浅草寺	宝蔵門のライトアップ改修に係る仕様等に関する対応・助言	3年度	学芸企画部上席研究員 木下史青
61	小平市役所	小平市文化財保護審議会委員	4月1日～4年3月31日	学芸研究部上席研究員 勝木言一郎
62	新宿区	新宿区文化財保護審議会委員	元年12月1日～5年11月30日	学芸研究部特任研究員 田沢裕賀
63	東京都江戸東京博物館	資料収蔵委員会委員	9月1日～5年8月31日	学芸研究部特任研究員 田沢裕賀
64	日本科学未来館	コロナ禍のボランティア活動と運営について	11月18日	学芸企画部博物館教育課ボランティア室長 鈴木みどり
65	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会保存環境ワーキンググループ専門委員	4月1日～4年3月31日	学芸研究部保存修復課環境保存室長 和田浩
66	立命館大学ゲーム研究センター	文化庁メディア芸術連携推進事業におけるゲームアーカイブ所蔵間連携に関わる調査事業への協力	9月17日	学芸研究部調査研究課東洋室長 市元豊
67	文化庁文化財第一課	文化審議会文化財分科会第四専門調査会専門委員	4月1日～4年3月31日	学芸企画部博物館教育課長 伊藤信二
68	栃木県教育委員会	栃木県文化財保護審議会委員	7月19日～6年7月18日	学芸企画部博物館教育課長 伊藤信二
69	日本工芸会	日本伝統工芸展第一次監査委員	8月4日	学芸企画部博物館教育課長 伊藤信二
70	日立市郷土博物館	アプリ「学校版トナーハクナビ」の貸出状況、およびコロナ禍前後での学校団体への対応の変化、オンラインプログラムについて	4年1月14日	学芸企画部博物館教育課教育普及室長 藤田千織、研究員 中村麻友美
71	文部科学省	教科用図書検定調査審議会臨時委員	4月1日～4年3月31日	学芸企画部百五十年史編集室長 恵美千鶴子
72	名古屋市	金シャチ横丁博物館構想 有識者	4年3月22日～5年3月31日	学芸研究部特任研究員 田沢裕賀
73	東久留米市	文化財保護委員	8月～令和5年8月	学芸研究部調査研究課考古室研究員 飯田茂雄
74	公益社団法人日本工芸会	第68回日本伝統工芸展 鑑審査会 鑑査委員	8月2日	学芸研究部調査研究課工芸室研究員 福島修
75	公益財団法人国際茶道文化協会	第77期《茶の湯の美》「漆の世界」	11月26日	学芸研究部調査研究課工芸室研究員 福島修
76	文化庁	文化財買取協議員	12月14日	学芸研究部調査研究課工芸室研究員 福島修
77	永青文庫	作品調査援助	4年1月31日、2月18日～19日	学芸研究部調査研究課工芸室研究員 福島修
78	文京区一行院	徳本上人像の安置・照明方法に関する指導・助言	4年1月	学芸企画部上席研究員 木下史青
79	荒川区地域文化スポーツ部(荒川ふるさと文化館)	真言宗養福寺 二天王の安置方法に関する監修・助言	4年2月	学芸企画部上席研究員 木下史青
80	国立科学博物館	コロナ禍のボランティア活動と運営について	4年2月15日	学芸企画部博物館教育課ボランティア室長 鈴木みどり
81	文化庁	文化庁文化財部調査員(非常勤)	4月16日～4年3月31日	学芸研究部調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
82	独立行政法人日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	6月1日～11月30日	学芸研究部調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
83	文化庁	文化審議会専門委員(非常勤)	4月1日～4年3月31日	学芸研究部調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
84	文化庁	無形文化財工芸技術資料評価員	6月16日	学芸研究部調査研究課工芸室長 小山弓弦葉

85	関市文化財保護センター	関市春日神社能装束調査員	7月21日～23日、10月12日～14日	学芸研究部調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
86	文化庁	工芸技術記録映画製作監修委員会委員	9月14日～4年3月31日	学芸研究部調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
87	新潟県立歴史博物館	展示指導	8月10日、8月30日	学芸研究部調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
88	山梨県立博物館	展示指導	11月2日、11月24日	学芸研究部調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
89	文化庁	文化審議会無形文化遺産部会作業部会構成員	12月1日～4年3月31日	学芸研究部調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
90	茨城県立歴史館	展示指導	4年2月15日	学芸研究部調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
91	半蔵門ミュージアム	所蔵品の調査	4年1月12日	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員 清水健
92	神奈川県立金沢文庫	特別展「春日神霊の旅」に関連する連続講座における講演	4年3月6日	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員 清水健
93	公益財団法人日本博物館協会	令和3年度美術品梱包輸送技法取得士認定制度に関する委員会委員	4月～4年3月	副館長 富田淳
94	岐阜県美術館	第7回ぎふ美術展書部門審査	7月26日	副館長 富田淳
95	島根県教育委員会	世界遺産室客員研究員	5月6日～6年3月31日	学芸研究部保存修復課調査分析室長 鳥越俊行
96	法隆寺	「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ(材料調査班)専門委員	4月1日～4年3月31日	学芸研究部保存修復課調査分析室長 鳥越俊行
97	国立民族学博物館	国立民族学博物館共同研究員	4月1日～4年3月31日	学芸研究部保存修復課調査分析室長 鳥越俊行
98	宮内庁正倉院事務所	模造事前調査「御弔」調査員	10月1日～4年3月31日	学芸研究部保存修復課調査分析室長 鳥越俊行

【京都国立博物館】129件

機 関	内 容	期 間	担 当 者
1 奈良女子大学	経営協議会委員	4月～4年3月	館長 松本伸之
2 京都国立近代美術館	評議員	4月～4年3月	館長 松本伸之
3 古典の日推進委員会	特別委員	4月～4年3月	館長 松本伸之
4 奈良国立博物館	評議員	4月～4年3月	館長 松本伸之
5 日本イタリヤ会館	顧問	6月～4年3月	館長 松本伸之
6 日本工芸会	顧問	6月～4年3月	館長 松本伸之
7 アール・ブリュットネットワーク	アール・ブリュットネットワーク企画委員	4月～6月	副館長 栗原祐司
8 兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館運営委員	4月～11月	副館長 栗原祐司
9 田川市世界遺産活用活性化推進委員会事務局	田川市世界遺産活用活性化推進委員会委員	4月～4年3月	副館長 栗原祐司
10 国際基督教大学	非常勤講師	4月～4年3月	副館長 栗原祐司
11 南九州市	南九州市世界の記憶推進会議アドバイザー	4月～4年3月	副館長 栗原祐司
12 古典の日文化基金賞顕彰委員会	古典の日文化基金賞候補者情報調査委員会委員	4月～4年3月	副館長 栗原祐司
13 大阪市	大阪市地方独立行政法人大阪市博物館機構評価委員会	4月～4年3月	副館長 栗原祐司
14 人権ネットを活用した地域活性化事業実行委員会	「人権ネットを活用した地域活性化事業」実行委員会実行委員	4月～4年3月	副館長 栗原祐司
15 徳島県	「坂東俘虜収容所関係資料」ユネスコ「世界の記憶」調査検討委員会委員	4月～11月	副館長 栗原祐司
16 ICOM日本委員会	ICOM日本委員会理事就任	4月～4年3月	副館長 栗原祐司
17 田川市教育委員会	田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員	4月～4年3月	副館長 栗原祐司
18 國學院大學	非常勤講師	4月～4年3月	副館長 栗原祐司
19 日本博物館協会	理事	6月～4年3月	副館長 栗原祐司
20 兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館運営委員会委員	12月～4年3月	副館長 栗原祐司
21 大阪市経済戦略局	地方独立行政法人大阪市博物館機構評価委員会出席	8月2日	副館長 栗原祐司
22 独立行政法人国際協力機構	エジプト国「大エジプト博物館開館支援合同保存修復プロジェクト」にかかる国内支援委員会委員	4年1月～4年3月	副館長 栗原祐司
23 九州国立博物館	九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会委員	4月～4年3月	学芸部長 尾野善裕
24 奈良国立博物館	奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員	4月～4年3月	学芸部長 尾野善裕
25 岐阜市	史跡岐阜城跡整備委員会委員	4月～4年3月	学芸部長 尾野善裕
26 野崎家塩業歴史館	評議員	4月～4年3月	学芸部長 尾野善裕
27 公益財団法人大和文華館	公益財団法人大和文華館評議員	4月～4年3月	学芸部長 尾野善裕

28	公益財団法人楽美術館	公益財団法人楽美術館作品購入委員会委員	4月～4年3月	学芸部長 尾野善裕
29	大阪市教育委員会	大阪市文化財保護審議会委員	7月～4年3月	学芸部長 尾野善裕
30	西尾市教育委員会	西尾市史特別執筆員	6月～4年3月	学芸部長 尾野善裕
31	公益財団法人岐阜市教育文化振興事業団 埋蔵文化財調査事務所	市内遺跡調査出土遺物の指導	6月21日	学芸部長 尾野善裕
32	大分市教育委員会	調査指導	7月27日、28日	学芸部長 尾野善裕
33	京都大学大学院人間・環境学研究科	客員教授・客員准教授	4月～4年3月	学芸部長 尾野善裕 学芸部上席研究員 浅萩毅 学芸部企画室長 山川暁 学芸部教育室長 永島明子 学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
34	奈良文化財研究所	令和3年度文化財担当者専門研修「土器・陶磁器調査課程」 講師	6月15-16日（尾野） 6月16日（降幡）	学芸部長 尾野善裕 学芸部保存科学室長 降幡 順子
35	公益財団法人仏教美術上野記念財団	研究委員会委員	4月～4年3月	学芸部上席研究員 浅萩毅 学芸部企画室長 山川暁 学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
36	祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾装飾品等専門委員	4月～4年3月	学芸部上席研究員 浅萩毅 学芸部企画室長 山川暁
37	静岡市教育委員会	静岡市文化財保護審議会委員	4月～4年3月	学芸部上席研究員 浅萩毅
38	京都美術工芸大学	非常勤講師	10月～4年3月	学芸部上席研究員 浅萩毅
39	智山専修学院	特別講義講師	6月9日	学芸部上席研究員 浅萩毅
40	大阪市教育委員会文化財保護課	大阪市指定文化財の保存と活用に関する意見	12月24日	学芸部上席研究員 浅萩毅
41	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会委員	4月～4年3月	学芸部企画室長 山川暁
42	京都府教育委員会	京都府文化財保護審議会委員	4月～4年3月	学芸部企画室長 山川暁
43	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月～4年3月	学芸部企画室長 山川暁
44	三重県伊勢市高向区	御頭神事用具類製作指導委員会委員	4月26日～4年3月	学芸部企画室長 山川暁
45	草津市教育委員会	青花紙保存継承懇話会委員	10月～4年3月	学芸部企画室長 山川暁
46	京都芸術大学	非常勤講師	12月18日	学芸部企画室長 山川暁
47	装道礼法きもの学院大阪校	講師	4年1月22日	学芸部企画室長 山川暁
48	三重県伊勢市高向区	重無民 御頭神事 民俗文化財伝承・活用等事業	4月26日	学芸部企画室長 山川暁
49	清風会	鑑賞会講師	6月14日	学芸部企画室長 山川暁
50	装道礼法きもの学院大阪校	講師	1月22日	学芸部企画室長 山川暁
51	近畿大学	非常勤講師	4月～4年3月	学芸部美術室長 羽田聡
52	真宗大谷派	宗宝宗史蹟保存会委員	4月～4年3月	学芸部美術室長 羽田聡
53	一般社団法人国宝修理装演師連盟	修理技術者資格制度委員会委員	4月～4年3月	学芸部美術室長 羽田聡
54	園城寺	国宝智証大師関係文書典籍保存活用専門委員会委員	11月～4年3月	学芸部美術室長 羽田聡
55	一般社団法人国宝修理装演師連盟	第1回試験準備委員会への出席	7月14日	学芸部美術室長 羽田聡
56	宇治市源氏物語ミュージアム	宇治市源氏物語ミュージアム連続講座講師	7月16日	学芸部美術室長 羽田聡
57	津市教育委員会	津八幡宮所蔵三十六歌仙扁額の文化財調査	4年1月27日	学芸部美術室長 羽田聡
58	越前市教育委員会	越前市文化財保護委員会委員	4月～4年1月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
59	法隆寺	「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」壁画ワーキンググループ（美術史班）専門委員	4月～4年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
60	佛教大学（通信教育課程）	非常勤講師	4月～3年9月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
61	智山専修学院	特別講義講師	6月23日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
62	宗教法人総持寺	総持寺十王図修理委員会委員	4月～4年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
63	宗教法人護国院	紀三井寺地藏菩薩立像修理委員会委員	10月～4年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
64	滋賀県文化スポーツ部文化財保護課	滋賀県立琵琶湖文化館における壁画価格評価	9月28日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
65	越前市教育委員会	歴史講座「帆山寺の仏教絵画の見どころ」講師	11月23日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
66	滋賀県文化スポーツ部文化財保護課	滋賀県立琵琶湖文化館別館壁画現地説明会「杉本哲郎氏作「舍利供養」の価値と保存」	4年2月28日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
67	東京国立博物館	科研にかかる研究発表及び討議会への出席	4月23-24日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊 学芸部企画室研究員 井並 林太郎
68	丸亀市教育委員会	丸亀市史跡快天山古墳保存整備委員会委員	4月～7月	学芸部保存科学室長 降幡 順子
69	鳥取県地域づくり推進部	とっとり弥生の王国調査整備活用委員会委員	4月～4年3月	学芸部保存科学室長 降幡 順子
70	法隆寺	「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」壁画ワーキンググループ（材料調査班）専門委員	4月～4年3月	学芸部保存科学室長 降幡 順子
71	同志社女子大学	囑託講師	4月～4年3月	学芸部保存科学室長 降幡 順子
72	長浜曳山文化協会	月宮殿見送幕修理委員	4月～4年3月	学芸部保存科学室長 降幡 順子
73	丸亀市教育委員会	丸亀市史跡快天山古墳保存整備委員会委員	8月～4年3月	学芸部保存科学室長 降幡 順子

74	浄土宗総本山知恩院	浄土宗総本山「知恩院文化財保存委員」	4月～4年3月	学芸部保存科学室長 降幡順子
75	国立大学法人神戸大学	非常勤講師	8月21日、22日、28日、29日	学芸部保存科学室長 降幡順子
76	長浜曳山文化協会	民俗文化財伝承・活用等事業修理委員会への出席	5月14日	学芸部保存科学室長 降幡順子
77	教賀市教育委員会	柴田氏庭園書院釘隠等金属製品の分析調査	6月2日	学芸部保存科学室長 降幡順子
78	総合研究大学院大学文化科学研究科	総研大大学院講演会講師	6月12日	学芸部保存科学室長 降幡順子
79	立命館大学歴史都市防災研究所	Lecture: Disaster Risk Management System in Kyoto National Museum 講師	9月13日及びオンラインビデオ撮影日	学芸部保存科学室長 降幡順子
80	文化庁	文化財（美術工芸品）調査の協力	12月7日	学芸部保存科学室長 降幡順子
81	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」ワーキンググループ全体会合への出席	6月13日	学芸部保存科学室長 降幡順子 学芸部列品管理室主任 岡田愛
82	三重県教育委員会	三重県文化財保護審議会委員	4月～4年3月	学芸部教育室長 永島明子
83	京都工芸繊維大学美術工芸資料館	講演講師及び原稿執筆	9月11日	学芸部教育室長 永島明子
85	KYOTO STEAM-世界文化交流祭-実行委員会	OKAZAKI MARKET+「幸福を呼ぶ新しいきもの園」ミニレクチャー講師	12月25日、26日	学芸部教育室長 永島明子
86	文化庁	文化財の買取評価員	12月14日	学芸部教育室長 永島明子
84	公益財団法人国際茶道文化協会	講師	4年2月18日	学芸部教育室長 永島明子
87	京都芸術大学	非常勤講師	4月～9月	学芸部美術室主任研究員 福土雄也
88	京田辺市史編さん委員会	京田辺市史編さん専門部会会員	4月～4年3月	学芸部美術室主任研究員 福土雄也
89	京都橋大学	非常勤講師	9月～4年3月	学芸部美術室主任研究員 福土雄也
90	大阪府教育委員会	大阪府文化財保護審議会委員	4月～4年3月	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
91	株式会社大阪のみうり文化センター	講演講師	4月～4年3月	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
92	サントリー美術館	特別協力 開館60周年記念展「刀剣 もののふの心」	9月～11月	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
93	京都府京都文化博物館	講演会講師	4月17日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
94	京都乙訓ふるさと歴史研究会	講師	5月16日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
95	京都府京都文化博物館	陳列・撤収作業・図録・展示パネルへの寄稿	4月4日ほか	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
96	東京国立博物館	法隆寺献納宝物に関する調査	12月5日、6日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
97	大阪成蹊大学	非常勤講師	4月～9月	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
98	京都工芸繊維大学	非常勤講師	12月～4年3月	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
99	兵庫県立人と自然の博物館	兵庫県立人と自然の博物館協議会委員	10月～4年3月	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
100	一般財団法人秋水美術館	学芸アドバイザー	4月～4年3月	学芸部調査・国際連携室主任研究員 降矢哲男
101	福井市愛宕坂茶道美術館	特別協力 特別展「眼福 美麗なる中国陶磁～京都国立博物館 松井コレクションより～」	4年2月～5月	学芸部調査・国際連携室主任研究員 降矢哲男
102	株式会社大阪のみうり文化センター	講演会講師	5月23日、7月25日、9月26日、11月28日	学芸部企画室研究員 井並林太郎
103	大阪読売サービス株式会社	講演講師	4年1月23日、3月27日	学芸部企画室研究員 井並林太郎
104	公益財団法人遠山記念館	講演会講師	4月17日	学芸部企画室研究員 井並林太郎
105	文化庁企画調整課	登録美術品評価会議への出席	5月21日	学芸部企画室研究員 井並林太郎
106	中日新聞社文化センター-局栄中日文化センター	講師	4年2月25日	学芸部企画室研究員 井並林太郎
107	佛教大学	非常勤講師	9月～4年3月	学芸部美術室研究員 上杉智英
108	鳥取市教育委員会	大雲院資料調査委員会委員	5月～4年3月	学芸部美術室研究員 上杉智英
109	大阪府教育庁文化財保護課	天野山金剛寺所蔵一切経調査	9月～4年3月31日	学芸部美術室研究員 上杉智英
110	亀岡市教育委員会	亀岡市文化資料館第37回特別展に係る資料調査	8月27日	学芸部美術室研究員 森道彦
111	京都大学大学院	非常勤講師	10月～4年3月	特任研究員 宮川禎一
112	九州国立博物館	寄贈候補の銅鼓に関する指導助言	10月15日	特任研究員 宮川禎一
113	京都大学	日本文化研修「京都国立博物館見学」講師	4年1月19日	特任研究員 宮川禎一 研究員 古谷毅
114	國學院大學	研究会「死生観の歴史学」での研究発表	4年2月13日	特任研究員 宮川禎一 研究員 古谷毅
115	國學院大學	客員教授	4月～4年3月	研究員 古谷毅
116	聖心女子大学	非常勤講師	4月～4年3月	研究員 古谷毅
117	國學院大學	非常勤講師	4月～4年3月	研究員 古谷毅

118	京都市立芸術大学	非常勤講師	9月～4年3月	学芸部調査・国際連携室専門職 リンネ マリサ
119	一般社団法人記録映画保存センター	文化庁工芸技術記録映画「竹工芸－飯塚小珣齋のわざ－」英語版監修業務	6月1日～4年3月	学芸部調査・国際連携室専門職 リンネ マリサ
120	国土交通省観光庁観光資源課	観光庁地域観光資源の多言語解説整備支援事業「令和3年度分かりやすい多言語解説整備推進委員会」の国会及び部会委員	11月～4年3月	学芸部調査・国際連携室専門職 リンネ マリサ
121	京都女子大学	オンデマンド講義	10月28日	学芸部調査・国際連携室専門職 リンネ マリサ
122	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」アーカイブワーキング・グループ専門委員	4月～4年3月	学芸部列品管理室主任 岡田愛
123	文化庁	令和3年度文化財（美術工芸品）保存修理講習会講演講師	12月16日	学芸部列品管理室主任 岡田愛
124	文化庁	博物館等の文化施設インバウンド強化事業審査委員会委員	4月～4年3月	学芸部企画室アソシエイトフェロー 趙ウニル
125	姫路市立美術館	文化観光拠点計画認定記念特別展「日本の心象 刀剣、風韻、そして海景」展記念イベント及び専門情報翻訳	6月4日～9月30日	学芸部企画室アソシエイトフェロー ボレンガッセル・ダニエル
126	奈良大学	科学研究費研究補助業務	9月～4年3月	学芸部企画室アソシエイトフェロー 青木麻佑花
127	京都国立近代美術館	京都国立近代美術館企画競争審査委員会	11月2日	総務課長 阿部勝
128	東京工業高等専門学校	Microsoft Teamsを用いたWeb講演	4年3月3日	総務課環境整備係 豊原直樹
129	慶應義塾大学	ゲスト・スピーカー	4年1月	総務課事業推進係 近藤雅士

【奈良国立博物館】68件

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
1	鳥根県教育委員会	鳥根県文化財保護審議会委員	4月1日～4年1月29日	館長 井上洋一
2	文部科学省日本ユネスコ国内委員会	ユネスコ国内委員会委員	4月1日～4年3月31日	館長 井上洋一
3	ICOM日本委員会	ICOM日本委員会理事	4月1日～4年3月31日	館長 井上洋一
4	國學院大學	非常勤講師	4月1日～4年3月31日	館長 井上洋一
5	成城大学	非常勤講師	4月1日～4年3月31日	館長 井上洋一
6	公益財団法人日本博物館協会	参与	4月1日～4年3月31日	館長 井上洋一
7	京都国立博物館	評議員会評議員	4月1日～4年3月31日	館長 井上洋一
8	公益社団法人日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月1日～4年3月31日	館長 井上洋一
9	宮内庁	正倉院懇談会会員	4月15日～4年3月31日	館長 井上洋一
10	東京藝術大学	東京藝術大学埋蔵文化財発掘調査団参与	4月26日～4年3月31日	館長 井上洋一
11	公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館	理事	5月～4年3月31日	館長 井上洋一
12	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」委員	5月1日～4年3月31日	館長 井上洋一
13	公益社団法人日本工芸会	顧問	5月20日～4年3月31日	館長 井上洋一
14	奈良県	奈良県文化振興戦略懇話会委員	5月24日～4年3月31日	館長 井上洋一
15	公益財団法人仏教美術研究上野記念財団	評議員	6月～4年3月31日	館長 井上洋一
16	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団	財団の運営に係る競技及び定例理事会への出席	6月13日～6月14日	館長 井上洋一
17	一般財団法人仏教美術協会	評議員	6月16日～4年3月31日	館長 井上洋一
18	公益財団法人松伯美術館	理事	6月30日～4年3月31日	館長 井上洋一
19	公益財団法人大和文華館	理事	6月30日～4年3月31日	館長 井上洋一
20	文部科学省	「世界の記憶」国内案件に関する審査委員会委員	7月14日～4年3月31日	館長 井上洋一
21	奈良県文化・教育・くらし創造部	なら歴史芸術文化村コミッション委員	8月1日～4年3月31日	館長 井上洋一
22	京都国立博物館	文化財保存修理所運営委員会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部長 吉澤悟
23	九州国立博物館	文化財保存修復施設運営委員会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部長 吉澤悟
24	奈良県文化・教育・くらし創造部	なら歴史芸術文化村修復工房使用者等選定委員会委員	6月1日～4年3月31日	学芸部長 吉澤悟
25	公益財団法人大和文華館	評議員	6月30日～4年3月31日	学芸部長 吉澤悟
26	大阪大学	大阪大学大学院文学研究科非常勤講師	4月1日～9月30日	企画室長 中川あや
27	鳥取県	鳥取県文化財保護審議会委員	4月1日～4年3月31日	企画室長 中川あや
28	九州国立博物館	特別展「よみがえる正倉院宝物」開催にかかる指導助言	4月14日～4月16日、6月15日～6月17日	企画室長 中川あや、研究員 三本周作

29	新潟県立近代美術館	特別展「よみがえる正倉院宝物」開催にかかる指導助言	6月29日～7月1日、8月31日～9月1日	企画室長 中川あや、研究員 三本周作
30	北海道立近代美術館	特別展「よみがえる正倉院宝物」開催にかかる指導助言	9月9日～9月13日、11月7日～11月8日	企画室長 中川あや、研究員 三本周作
31	サントリー美術館	特別展「よみがえる正倉院宝物」展示・撤収作業指導	4年1月20日～1月24日、4年3月28日～3月30日	企画室長 中川あや、研究員 三本周作
32	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」アーカイブ・ワーキンググループ専門委員	4月1日～4年3月31日	情報サービス室長 宮崎幹子
33	京都府立大学	非常勤講師	9月27日～4年3月31日	情報サービス室長 宮崎幹子
34	公益社団法人日本建築家協会	講師	4年2月26日	情報サービス室長 宮崎幹子
35	神戸大学	神戸大学大学院人文学研究科教授	4月1日～4年3月31日	教育室長 谷口耕生
36	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ専門委員	4月1日～4年3月31日	教育室長 谷口耕生
37	大阪大学	大阪大学大学院文学研究科非常勤講師	4月1日～9月30日	教育室長 谷口耕生
38	天理市教育委員会	天理市文化財保護審議会委員	4月1日～4年3月31日	教育室長 谷口耕生
39	東北大学	東北大学大学院文学研究科非常勤講師	10月1日～4年2月28日	教育室長 谷口耕生
40	愛知県立芸術大学	令和3年度大学院美術研究科博士後期課程博士学位論文予備審査(論文)外部審査委員	11月11日	教育室長 谷口耕生
41	文化庁	買取評価員	12月10日	教育室長 谷口耕生
42	奈良女子大学	奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科客員教授	4月1日～4年3月31日	資料室長 野尻忠
43	文化庁	仁和寺所蔵文化財調査	8月3日、8月5日～8月6日	資料室長 野尻忠、列品室長 齋木涼子
44	園城寺	国宝智証大師関係文書典籍保存活用専門委員会	11月1日～4年3月31日	資料室長 野尻忠
45	神戸大学	神戸大学大学院人文学研究科教授	4月1日～4年3月31日	美術室長 岩井共二
46	岐阜市歴史博物館	特別展「波濤を越えて―鑑真和尚と美濃の僧・栄叡―」開催にかかる指導助言	6月10日～12月3日	美術室長 岩井共二、資料室長 野尻忠、特任研究員 内藤栄
47	山口市教育委員会	山口市文化財審議会委員	4年1月1日～3月31日	美術室長 岩井共二
48	特定非営利活動法人 文化財保存支援機構	会員	8月1日～4年3月31日	保存修理指導室長 荒木臣紀
49	学習院大学	非常勤講師	9月13日～4年3月31日	保存修理指導室長 荒木臣紀
50	特定非営利活動法人 文化財保存支援機構	講師	11月4日、11月9日	保存修理指導室長 荒木臣紀
51	奈良女子大学	非常勤講師	4月1日～9月30日	主任研究員 山口隆介
52	高野山大学	非常勤講師	4月1日～4年3月31日	主任研究員 山口隆介
53	大津市教育委員会	大津市文化財専門委員会委員	4月1日～7月31日	特任研究員 岩田茂樹
54	文化庁	文化審議会専門委員(文化財分科会)	4月1日～4年3月31日	特任研究員 岩田茂樹
55	神戸市文化スポーツ局文化財課	神戸市文化財保存活用計画協議会委員	4月1日～4年3月31日	特任研究員 岩田茂樹
56	神戸市教育委員会	神戸市文化財保護審議会委員	4月1日～4年3月31日	特任研究員 岩田茂樹
57	河合町教育委員会	文化財保護審議会委員	4月1日～4年3月31日	特任研究員 岩田茂樹
58	文化庁	教王護国寺所有重要文化財木造四天王立像〔(焼損) / (所在食堂)〕四軀復元模造事業における企画選定のための書面審査	4年2月～3月31日	特任研究員 岩田茂樹
59	大和文華館	評議員	4月1日～6月30日	特任研究員 内藤栄
60	高野山大学	非常勤講師	4月1日～4年3月31日	特任研究員 内藤栄
61	春日大社	国宝 若宮御料古神宝類復元制作の監修	4月1日～4年3月31日	特任研究員 内藤栄
62	奈良女子大学	非常勤講師	4月1日～4年3月31日	特任研究員 内藤栄
63	奈良県文化・教育・くらし創造部	なら歴史芸術文化村コミッション委員	4月1日～4年3月31日	特任研究員 内藤栄
64	奈良県	奈良県文化財保護審議会委員	4月1日～4年3月31日	特任研究員 内藤栄
65	松濤美術館	展覧会開催にかかる援助助言	4月1日～4年3月31日	特任研究員 内藤栄
66	東京国立博物館	法隆寺献納宝物に関する調査のため	12月6日	特任研究員 内藤栄
67	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」アーカイブ・ワーキンググループ専門委員	4月1日～4年3月31日	係員 西川夏永
68	奈良女子大学	講師	12月15日	アソシエイトフェロー 萩谷みどり

【九州国立博物館】77件

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
1	三重県文化会館事業課	令和3年度みえ文化芸術祭・第71回みえ県展・書部門審査員	4月1日～7月31日	館長 島谷弘幸
2	九州ベトナム友好協会	特別顧問	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
3	高知城歴史博物館	研究顧問	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
4	公益財団法人陽明文庫	理事	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
5	西南学院大学博物館	協議会委員	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
6	文化庁	文化審議会正委員(文化財分科会)	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
7	公益財団法人日本伝統工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
8	外務省	日米文化教育交流会議(カルコン)パネル委員	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
9	文化庁	「日本博」企画委員会委員	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
10	福岡市博物館	協議会委員	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
11	文部科学省	日本ユネスコ国内委員 コミュニケーション小委員会委員	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
12	文化庁	文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に係る計画認定委員会委員	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
13	文化庁	文化観光拠点を中核とした地域における文化観光推進事業に係る協力者会議委員	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
14	独立行政法人日本芸術文化振興会	独立行政法人日本芸術文化振興会・日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業に関する審査・評価委員会委員	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
15	文化庁	文化庁「日本博」公募助成型事業の審査・評価委員会委員(文化資源活用推進事業及び国際的文化フェスティバル展開推進事業(長期開催型))	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
16	徳島県立文学書道館	徳島県立文学書道館書道資料収集委員会委員	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
17	独立行政法人国立美術館	独立行政法人国立美術館運営委員	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
18	一般社団法人公園財団	研究顧問	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
19	公営財団法人福岡文化財団	評議員	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
20	公営財団法人福岡文化財団	評議員選定委員	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
21	ICOM日本委員会	理事	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
22	福岡県	福岡県文化芸術振興審議会委員	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
23	光村図書出版	高校教科用図書「書道」編集委員	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
24	公益社団法人日展	日展諮問委員会委員	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
25	学校法人九州学園	理事・評議員	4月1日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
26	福岡県立美術館	協議会委員	4月1日～4年3月31日	副館長 小泉恵英
27	長崎県松浦市教育委員会	松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会委員	4月1日～4年3月31日	副館長 小泉恵英
28	九州歴史資料館	協議会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長 木川りか
29	宇佐市教育委員会	宇佐市平和ミュージアム(仮称)建設準備委員会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長 木川りか
30	熊本市教育委員会	熊本博物館協議会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長 木川りか
31	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	運営会議委員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長 木川りか
32	法隆寺	「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」保存環境ワーキング・グループ専門委員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長 木川りか
33	公益財団法人文化財虫菌害研究所	文化財IPMコーディネータ委員会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長 木川りか
34	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合的防除対策検討委員会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長 木川りか
35	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館	令和3年度国立民族学博物館共同研究員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長 木川りか
36	大分県立歴史博物館	協議会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部文化財課長 原田あゆみ
37	福岡市美術館	美術資料収集審査員	4月1日～4年3月31日	学芸部文化財課長 原田あゆみ
38	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県文化財保護審議会専門委員	4月1日～4年3月31日	学芸部文化財課長 原田あゆみ
39	武雄市教育委員会	武雄鍋島家洋学関係資料策定委員会委員	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
40	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県文化財保護審議会専門委員	4月1日～4年3月31日	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子
41	法隆寺	「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ美術史班専門委員	4月1日～4年3月31日	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子

42	同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター	研究員	4月1日～4年3月31日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課専門職 竹内俊貴
43	アート・ドキュメンテーション学会	幹事	4月1日～4年3月31日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課専門職 竹内俊貴
44	一般社団法人文化財保存修復学会	理事	4月1日～4年3月31日	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長 木川りか
45	考古学研究会	テクニカル・サポーター	4月1日～4月24日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課専門職 竹内俊貴
46	公益財団法人日本工芸会西部支部	第55回西部伝統工芸展審査委員	4月7日～4月8日	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子
47	宮崎県教育委員会	指導助言	5月1日～4年3月30日	学芸部長 河野一隆
48	同上	同上	同上	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長 木川りか
49	同上	同上	同上	学芸部文化財課長 原田あゆみ
50	同上	同上	同上	文化防災センター(併)学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員 鷲頭桂
51	同上	同上	同上	学芸部博物館科学課環境保全室研究員 渡辺祐基
52	九州国立博物館を愛する会	講師	5月11日	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子
53	文化庁	登録美術品評価会議 協力者	5月12日	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子
54	福岡県豊前神楽保存連合会	豊前神楽民俗文化財伝承・活用等に係る委員	5月28日～4年3月31日	学芸部企画課文化交流展室研究員 桑原有寿子
55	福岡県伝統的工芸品振興協議会	第45回福岡県伝統的工芸展 企画・運営業務に係る受託事業者選定委員会	5月25日	学芸部長 河野一隆
56	公益社団法人福岡県建築士会	講師	6月5日	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長 木川りか
57	公益財団法人日本博物館協会	公益財団法人日本博物館協会評議員	6月23日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
58	福岡県	古代日本の「西の都」文化観光推進協議会委員	6月25日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
59	文部科学省	「世界の記憶」国内案件に関する審査委員会委員	8月6日～4年3月31日	館長 島谷弘幸
60	考古学研究会	常任委員会委員	8月7日～4年3月31日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課専門職 竹内俊貴
61	考古学研究会	第68回総会・研究集会実行委員	8月7日～4年3月31日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課専門職 竹内俊貴
62	九州日中文化協会	第24回日中青少年書画音楽交流大会・審査委員会審査委員長	9月1日～11月1日	館長 島谷弘幸
63	文化庁	「国有文化財等(美術工芸品)保存修理事業協力者会議」協力者	9月30日～4年3月31日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
64	同上	同上	同上	学芸部文化財課資料登録室研究員 松浦晃佑
65	ふくおか歴史資源活用協議会	講師	10月20日	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子
66	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県銃砲刀剣類登録審査会における技術的支援	10月7日～4年2月3日	学芸部企画課特別展室主任研究員 望月規史
67	公益財団法人文化財虫菌害研究所	講師	10月15日	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長 木川りか
68	福岡市美術館	美術資料収集審査員	10月27日～4年3月31日	学芸部企画課文化交流展室長 川村佳男
69	公益財団法人香雪美術館	講師	10月30日	文化防災センター(併)学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員 鷲頭桂
70	一般社団法人あおい文化交流研究所	講師	11月27日	学芸部企画課特別展室研究員 大澤信
71	高浜町教育委員会	指導助言	12月18日～12月19日	学芸部長 河野一隆
72	一般社団法人文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会 第44回大会実行委員	4年1月11日～3月31日	学芸部博物館科学課長(兼)環境保全室長 木川りか
73	福岡県伝統的工芸品振興協議会	第45回福岡県伝統的工芸品展審査委員	4年1月14日	学芸部長 河野一隆
74	佐賀県立名護屋城博物館	「亀井家資料」調査に係る指導・助言	2月8日	学芸部企画課文化交流展室研究員 桑原有寿子
75	学校法人武蔵野大学仏教文化研究所	講師	4年2月19日	副館長 小泉恵英
76	秋田市立千秋美術館	展覧会に係る助言等	4月1日～7月1日	学芸部文化財課長 原田あゆみ
77	秋田市立千秋美術館	展覧会に係る助言等	4月1日～7月1日	学芸部企画課文化交流展室研究員 桑原有寿子

1-(6) 文化財の積極的な活用による文化財の継承につながる新たな取組

1-(6)-① 文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進
(レプリカや、VR・AR、8K映像など企画コンテンツの開発数)

【本部文化財活用センター】コンテンツ開発及び展開数 24件 (うちコンテンツ開発数 18件)

令和4年3月31日現在

事業名称	内容	期間	担当者
1 コンテンツ開発	「国宝 檜図屏風」の高精細複製品制作 (キヤノン株式会社との共同研究)	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター研究員 小島有紀子
2 コンテンツ開発	「国宝 洛中洛外図屏風(舟木本)」の高精細複製品制作 (キヤノン株式会社との共同研究)	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当研究員 小島有紀子
3 コンテンツ開発	「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏 摺り工程見本」の高精細複製品制作	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当研究員 小島有紀子
4 コンテンツ開発	「重要文化財 蘆屋楓流水鶏図真形釜」の高精細複製品制作	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当研究員 小島有紀子、九州国立博物館 学芸部企画課特別展室 研究員 望月規史
5 コンテンツ開発	「阿弥陀如来立像(裸形)」の高精細複製品制作	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当研究員 西木政統、奈良国立博物館 教育室長 谷口 耕生
6 コンテンツ開発	「国宝 楼閣山水図屏風」の高精細複製品制作(文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業 先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による)	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当研究員 高橋真作
7 コンテンツ開発	「重要文化財 山野行楽図屏風」の高精細複製品制作(文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業 先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による)	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当研究員 高橋真作
8 コンテンツ開発	「国宝 秋冬山水図」の高精細複製品制作(文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業 先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による)	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当研究員 高橋真作
9 コンテンツ開発	「重要文化財 遮光器土偶」のハンズオンレプリカ制作(文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業 先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による)	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当研究員 小島有紀子、アソシエイトフェロー 加納彩子
10 コンテンツ開発	「重要文化財 遮光器土偶」のハンズオンレプリカ(前後分割)制作(文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業 先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による)	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当研究員 小島有紀子、アソシエイトフェロー 加納彩子
11 コンテンツ開発	「重要文化財 みみずく土偶」のハンズオンレプリカ制作(文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業 先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による)	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当研究員 小島有紀子、アソシエイトフェロー 加納彩子
12 コンテンツ開発	「土偶(ヤマネコ)」ハンズオンレプリカ制作(文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業 先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による)	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当研究員 小島有紀子、アソシエイトフェロー 加納彩子
13 コンテンツ開発	「重要文化財 みみずく土偶」の複製品(土製)制作(文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業 先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による)	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当研究員 小島有紀子、アソシエイトフェロー 加納彩子
14 コンテンツ開発	床の間と映像の演出による鑑賞体験コンテンツの制作(使用複製:「国宝 秋冬山水図」、都城市立美術館で公開)(文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業 先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による)	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当研究員 高橋真作
15 コンテンツ開発	畳と照明の演出による高精細複製の鑑賞体験コンテンツの制作(使用複製:「国宝 楼閣山水図屏風」、「重要文化財 山野行楽図屏風」、名古屋博物館で公開)(文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業 先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による)	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当研究員 高橋真作
16 コンテンツ開発	茶碗型ハンズオンコントローラーと8Kモニターを活用した体験型コンテンツ制作(愛知県陶磁美術館で公開)(文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業 先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託による)	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター副センター長 小林牧、企画担当専門職 松沼穂積
17 コンテンツ開発	複製・映像を使用した常設の体験型展示スペース「日本美術のとびら」開設。(日本文化紹介映像、非接触体験展示「日本美術のデジタル年表」、高精細複製品(「重要文化財 夏草草図屏風・風神雷神図屏風」ほか)を東京国立博物館で公開)	6月22日～4年3月31日(今後も継続)	文化財活用センター企画担当研究員 高橋真作、企画担当研究員 小島有紀子
18 コンテンツ展開	乃木坂46と日本美術のコラボレーションによる映像インスタレーション「春夏秋冬/フォーシーズンズ 乃木坂46」(使用複製:「国宝 花下游楽図屏風」、「燼」、「重要文化財 夏草草図屏風・風神雷神図屏風」、「重要文化財 秋草草図屏風」、「見返り美人図」、「重要文化財 四季花鳥図屏風」、「重要文化財 振袖 白縮緬地梅樹衛立鷹模様」。東京国立博物館で公開)	9月4日～11月28日	文化財活用センター企画担当室長 高橋美奈子、企画担当専門職 高木結美、アソシエイトフェロー 加納彩子
19 コンテンツ開発	懐中電灯型デバイスと8Kモニターを活用した体験型コンテンツ「8Kで文化財 みほとけ調査」の実証実験。(東京国立博物館で公開)(シャープ株式会社との共同研究)	11月16日～12月5日	企画担当室長 高橋美奈子、企画担当研究員 西木政統、企画担当専門職 松沼穂積
20 コンテンツ展開	コンテンツ巡回「びじゅチューン! × 山口ゆめ回廊博覧会 なりきり美術館」(NHK山口放送局・山口情報芸術センター)	7月16日～8月22日	文化財活用センター副センター長 小林牧、企画担当専門職 松沼穂積

21	コンテンツ展開	文化財に親しむためのコンテンツ「8Kで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」」の日英コンテンツを東京国立博物館で再公開	7月13～9月5日	文化財活用センター企画担当 専門職 高木結美
22	コンテンツ展開	東京国立博物館・NHKの共同研究「みんなの8K文化財」プロジェクトのマネジメント（8K文化財コンテンツ（「国宝 救世観音」、「重要文化財 樫鳥糸肩赤威胴丸」、「重要文化財 能面 伝山姥」ほか）の制作と放映	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター企画担当 室長 高橋 美奈子
23	コンテンツ展開	複製品・デジタルコンテンツの貸与（8件）	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター研究員 小島有紀子
24	コンテンツ展開	「ぶんかつアウトリーチプログラム」として複製品を活用した教育プログラムの提供（12件）	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター研究員 小島有紀子、企画担当専門職 松沼穂積、企画担当研究員 高橋真作、企画担当研究員 西木政統

1-(6)-② 国立博物館収蔵品貸与促進事業

【本部文化財活用センター】 5件

令和4年3月31日現在

	貸与先名	展覧会名称	期間	収蔵館・貸与件数（件）
1	やないづ町立斎藤清美術館	斎藤清とハニワ！	4月24日～6月6日	東京国立博物館：6件 九州国立博物館：1件
2	佐賀県立美術館	白馬、翔びたつー黒田清輝と岡田三郎助ー	9月7日～10月17日	東京国立博物館：22件
3	奈良県立美術館	生誕200周年記念 森川杜園展	9月23日～11月14日	東京国立博物館：23件 奈良国立博物館：1件
4	那覇市立壺屋焼物博物館	うちなー赤瓦ものがたり	11月2日～12月26日	東京国立博物館：18件
5	桑名市博物館	やまと絵のしらべー帆船花乃舎と復古大和絵ー	4年1月22日～2月27日	東京国立博物館：16件 九州国立博物館：2件

1-(6)-③ 文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信（後述の資料に記載）◎共通資料d

1-(6)-④-1 文化財の保存等の相談・助言・支援に関わる取組状況

（専門的・技術的な援助・助言の件数、行政、公私立博物館等の各種委員会等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

【本部文化財活用センター】 81件

令和4年3月31日現在

	機関	内容	期間	担当者
1	奈良県公園緑地課	飛鳥宮跡活用検討委員会 委員	4月～4年9月	文化財活用センター副センター長 小林牧
2	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会 委員	4月～4年3月	文化財活用センター副センター長 小林牧
3	文化庁	「博物館等の国際交流の促進事業」選定委員会委員	5月～4年3月	文化財活用センター副センター長 小林牧
4	文化庁	「高松塚古墳壁画保存管理施設（仮称）の設置にかかる基礎調査」技術審査専門員	4月	文化財活用センター副センター長 小林牧
5	文化庁	「高松塚古墳壁画保存管理施設（仮称）の設置にかかる基礎調査」ワーキング会議委員	4月～4年3月	文化財活用センター副センター長 小林牧
6	文化庁	令和3年度ミュージアムマネジメント研修 協力者	12月17日	文化財活用センター副センター長 小林牧
7	東京都建設局	葛西臨海水族園（仮称）整備等事業技術審査委員会委員	4月～5年3月	文化財活用センター副センター長 小林牧
8	愛知県陶磁美術館	運営委員会委員	8月～5年3月	文化財活用センター副センター長 小林牧
9	茨城県立歴史館	協議会委員	7月～5年6月	文化財活用センター企画担当 研究員 高橋真作
10	墨田区	文化財保護審議会臨時委員	9月～4年1月	文化財活用センター企画担当 研究員 高橋真作
11	学校法人学習院大学 学習院女子大学	非常勤講師	4月1日～9月20日	文化財活用センター企画担当 室長 高橋美奈子
12	山種美術館	ミュージアムマネジメント・学芸／広報戦略に関する研修講師	5月9日、5月23日	文化財活用センター企画担当 室長 高橋美奈子
13	学校法人大妻学院	大妻女子大学非常勤講師	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
14	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事	4月～継続中	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
15	奈良県	なら歴史芸術文化村修復工房使用者等選定委員会委員	6月～継続中	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
16	文化庁	文化審議会専門委員	4月1日～4年3月31日	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
17	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」保存環境ワーキンググループ専門委員	4月～4年3月31日	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
18	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合調整委員会委員	4月～5年3月31日	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
19	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第44回大会実行委員会委員	1月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 吉田直人
20	三重県総合博物館	三重県総合博物館研究協力者	4月～4年3月	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
21	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事	4月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
22	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第44回大会実行委員会委員	1月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創

23	東京文化財研究所	第61号保存科学誌編集委員	12月～4年3月	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
24	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第44回大会プログラム作成委員	12月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
25	静岡県富士山世界遺産センター	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
26	三菱一号館美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
27	京都府立丹後郷土資料館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
28	長野県立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～6月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
29	國學院大學博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
30	姫路市立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～6月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
31	中津市歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～6月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
32	高岡の森弘前藩歴史館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
33	京都市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
34	田辺市立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～6月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
35	小林古徑記念美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～7月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
36	高知県立坂本龍馬記念館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
37	都城市立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
38	熊本博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～8月	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
39	太田市立新田荘歴史資料館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～8月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
40	佐賀県立佐賀城本丸歴史館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
41	安芸高田市歴史民俗資料館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～8月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
42	しもだて美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～8月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
43	刈谷市歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～9月	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
44	竹田市歴史文化館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～9月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
45	静岡市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～9月	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
46	茨城県近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～9月	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
47	國學院大學博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～9月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
48	大山崎町歴史資料館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	10月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
49	あつぎ郷土博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	9月～12月	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
50	高松市歴史資料館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	10月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
51	横須賀美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2月	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
52	刈谷市歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	10月～2月	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
53	板橋区立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	12月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
54	京都国立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	12月～1月	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
55	福岡市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2月～3月	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
56	中津市歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～2月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
57	あいち朝日遺跡ミュージアム	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
58	早稲田大学會津八一記念博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
59	岐阜県美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～2月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
60	岐阜関ヶ原古戦場記念館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～2月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
61	秋水美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～2月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
62	鎌倉国宝館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2月～継続中	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
63	比叡山国宝殿	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
64	埼玉県立嵐山史跡の博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
65	熊本博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
66	渋谷区立松涛美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3月～継続中	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人

67	大阪歴史博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	10月～継続中	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
68	野洲市歴史民俗博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	11月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
69	彦根城博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	11月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
70	大和文華館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	11月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
71	八代市立博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	12月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
72	齋宮歴史博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	9月～12月	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
73	徳川美術館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	10月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人、研究員 間 淵創
74	岩宿博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	10月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人、研究員 間 淵創
75	滋賀県立美術館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	10月～12月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
76	石川県立美術館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	10月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
77	石川県立美術館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	5月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
78	姫路城管理事務所	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	9月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
79	山梨県立博物館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	1月	文化財活用センター保存担当 課長 吉田直人
80	沖縄県立博物館・美術館	4年度貸与促進事業内定施設への環境調査、改善協力	10月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創
81	刈谷市歴史博物館	4年度貸与促進事業内定施設への環境調査、改善協力	10月～3月	文化財活用センター保存担当 研究員 間淵創

2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働

2-(3)-① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

2-(3)-①-1 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況

(文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度)

【東京文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数(日)	回数(回)	満足度(%)	備考
1	国際研修におけるIT技術導入のための実証実験	9月8日～10日、13日	所内有志職員	4	1	-	
2	合同調査会「ブータン中部・東部地域の伝統的民家の成立背景と建築的特徴」(オンライン)	3月7日	ブータン・内務文化省文化局職員及び協力事業に参加する日本側専門家	1	1	90.6	参加者アンケート評価4項目の平均値
3	オンライン国際研修「3次元写真計測(基礎)Ⅱ」	3月15日	パキスタン・ネパール・カンボジア・スリランカの文化遺産保存専門家	1	1	-	

【奈良文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数	回数	満足度(%)	適用
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2021(集団研修)「考古遺跡の調査記録と保存活用」	9月1日～9月30日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっているもの	30	1	-	
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2021(個別テーマ研修)「文化財建造物の写真撮影技法」	10月8日～11月21日	インドネシアの専門家	14	1	-	
3	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」(ミャンマー)	11月10日～11月12日	ミャンマーの専門家	3	1	-	

2-(3)-①-2 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況(諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数)

【東京文化財研究所】2件

	名称	機関名	備考
1	アンコール遺跡群の保存に関する共同協力事業に関する覚書	アンコール・シェムリアップ地域保存整備機構(APSARA)・東京文化財研究所・奈良文化財研究所	
2	伝統民家を含むブータンの歴史的建造物の共同調査研究に関する覚書	ブータン王国内務文化省文化局・東京文化財研究所・奈良文化財研究所	

【奈良文化財研究所】1件

	名称	機関名	備考
1	学術交流及び協力に関する覚書	奈良文化財研究所、国際中央アジア研究所(ウズベキスタン共和国)	

2-(3)-② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

2-(3)-②-1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（刊行物件数）

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-2 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際会議等開催件数）

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】5件

令和4年3月31日現在

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数 (日間)	回数 (回)	摘要
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関するIRCI研究者フォーラム 無形文化遺産研究の進展と課題- 持続可能な未来に向けて- (オンライン)	10月29日	無形文化遺産の研究者及び一般	1日	1	文化庁受託経費
2	第10回IRCI運営理事会 (オンライン)	11月17日	IRCI運営理事	1日	1	文化庁受託経費
3	国際専門家会合 無形文化遺産の持続的な開発への貢献に関する研究- 教育とまちづくり (オンライン)	12月21日	フィリピン、ベトナム、日本、インドネシア、バングラデシュ、キルギスの専門家、研究者	1日	1	文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」経費
4	国際シンポジウム 「無形文化遺産の貢献 ～ より良い学びと持続可能なまちづくりに向けて～」 (オンライン)	12月22日	フィリピン、ベトナム、日本、インドネシア、バングラデシュ、キルギスの専門家、研究者及び一般	1日	1	文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」経費
5	Sustainable Research Data Collection for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region The Fourth Working Group Meeting in FY2021 (オンライン)	4年1月21日	マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、キルギスの専門家、研究者	1日	1	文化庁受託経費

2-(3)-②-3 研究交流実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-①

2-(3)-②-4 調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-②

2-(3)-②-5 学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-③

2-(3)-②-6 シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-④

2-(3)-②-7 論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑤

2-(3)-②-8 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-9 ウェブサイトアクセス件数

（後述の資料に記載） ◎共通資料d

2-(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

2-(4)-① 文化財情報基盤の整備・充実

2-(4)-①-1 図書、雑誌等の公開に関する取組状況

令和4年3月31日

		東京文化財研究所			奈良文化財研究所		
資料閲覧室・図書資料室の開室日数（日）		69日			209日		
資料閲覧室・図書資料室の利用者数（人）		570人			217人		
文化財に関する 資料・図書の 受入件総数（件）		令和2年度末	3年度追加	3年度末	令和2年度末	令和3年度追加	令和3年度末
	図書	125,316件	1,085件	126,401件	385,361件	7,459件	392,820件
	雑誌	168,062件	2,465件	170,527件	105,687件	3,381件	109,068件
	その他（図録・ 報告書等）	47,695件	849件	48,544件	204,303件	4,206件	208,509件
	計	337,374件	4,399件	345,472件	491,048件	10,840件	501,888件

* 奈良文化財研究所においては、その他（図録・報告書等）は図書に含む。

2-(4)-①-2 文化財に関するデータベースの状況

令和4年3月31日

		東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
文化財に関するデータベースの公開件数（件）		36件		32件	
データベースのデータ件数（件）		1,718,006件		1,299,503件	
データベース等へのアクセス件数（件）		2,929,768件		9,419,564件	
（ホームページへのアクセス件数（件））		3,865,899件		1,047,737件	

2-(4)-② 調査研究成果の発信

2-(4)-②-1 調査研究刊行物一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑥

2-(4)-②-2 講演会等の開催実績

【東京文化財研究所】

2件

34人

令和4年3月31日

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	第55回オープンレクチャー「かたちを見る、かたちを読む」	11月5日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	美術史研究の成果を一般に公表する講座を開催した。	34人	
2	第16回無形民俗文化財研究協議会「無形文化遺産の新たな活用を求めて」	(4年1月15日～2月15日オンラインにて公開)	オンライン	東京文化財研究所	ユネスコ無形文化遺産に関する研究協議会を開催した。	—	

【奈良文化財研究所】

5件

2,145人

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	第126回公開講演会	6月25日12:00～6月28日12:00	インターネット なぶんけんチャンネル (YouTube)	奈良文化財研究所	演題 「古代の人形を読み解く」 「都市ヨークにおける初期中世装飾石彫の製作」について2名による講演を開催した。	—	
2	藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第208次)現地見学会	10月2日	橿原市醍醐町	奈良文化財研究所	藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第208次)現地見学会を開催した。	619人	
3	興福寺東金堂院の門と回廊の発掘調査(平城第640次)現地見学会	10月9日	奈良市登大路町	奈良文化財研究所	興福寺東金堂院の門と回廊の発掘調査(平城第640次)現地見学会を開催した。	949人	
4	第13回東京講演会	10月23日	有楽町朝日ホール	奈良文化財研究所	テーマ「特別史跡山田寺跡—史跡指定100年—」について、6名による講演会を開催した。	来場者数 135名 オンライン参加者数 358名	
5	第127回公開講演会	11月13日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	演題 「神々の住まいの内装—石清水八幡宮本殿の室礼(しつらい)について」、 「どうして古墳の副葬品は現代まで残るのか?—模擬古墳による金属製品の腐食メカニズムの検討」について2名による講演を開催した。	84人	

2-(4)-②-3 シンポジウム開催実績一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-④

2-(4)-②-4 ウェブサイトアクセス件数

(後述の資料に記載) ◎共通資料d

2-(4)-②-5 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数

令和4年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数(件)	3,845件	7,454件

2-(4)-③ 展示公開施設の充実

2-(4)-③-1 来館者数推移(入館料別) (過去5か年)

(後述の資料に記載) ◎共通資料a-①

2-(4)-③-2 来館者数推移(展覧会別) (過去5か年)

(後述の資料に記載) ◎共通資料a-②

2-(4)-③-3 平常展・特別展・海外展

(後述の資料に記載) ◎共通資料a-③

2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

2-(5)-① 文化財に関する研修の実施

2-(5)-①-1 文化財に関する研修の実施実績

【東京文化財研究所】

1件

受講者 16人

No.	研修課程	研修期間	日数 (日)	研修対象	研修内容	参加者 数	満足度	研修成果 の 活用実績	備考
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	7月5～9日	5	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	16人	100%	100%	

【奈良文化財研究所】

13件

受講者 139人

No.	研修課程	研修期間	日数 (日)	研修対象※	研修内容	参加者 数	満足度	研修成果 の 活用実績	備考
1	文化財担当者専門研修「古文書歴史資料調査基礎課程」	5月31日～6月4日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	古文書・歴史資料の調査・管理等を担当する立場にあるが、当該分野に関する専門的教育を受けたことのない地方公共団体等の文化財担当者を対象に、基礎的知識の習得を目指す研修。	10人	100%	100%	
2	文化財担当者専門研修「土器・陶磁器調査課程」	6月14日～18日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	発掘調査報告書の作成に向けて、遺跡から出土する土器・陶磁器に関する専門的知識を習得すると共に、製作技法や時期・産地を推定できる鑑識眼を養う。	10人	100%	100%	
3	文化財担当者専門研修「建築遺構調査課程」	6月21日～25日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	発掘調査で検出される建築遺構や出土建築部材に関して必要な、上部構造の専門的知識や発掘方法などについての研修。	8人	100%	100%	
4	文化財担当者専門研修「近現代建築保存活用課程」	7月5日～9日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	近現代建築の価値の理解、その保存方法及び活用方法について、理念、制度、修理、耐震対策、管理、活用等の面から講義をおこない、近現代建築の保存に取り組む自治体担当者としての必要な知識の習得を目指す研修。	10人	100%	100%	
5	文化財担当者専門研修「木質文化財の科学的調査課程」	7月13日～16日	4	地方公共団体の文化財担当職員※	木質文化財を調査する際に必要となる木材科学、年代学、保存科学などの科学的な知識を習得し、担当現場に生かすことを目指す。	4人	100%	100%	
6	文化財担当者専門研修「遺跡調査技術課程」	9月27日～10月1日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	発掘調査現場や調査成果の活用に関わる実践的な知識と技術の習得、多分野協業に求められる視点について実習を交えながら学ぶ。具体的には直営で必要となる地質調査や探査・計測、遺存体を含めた土壌の調査法を学び、対してどのような分析を、どのような形で委託すべきか、その際に必要な知識や判断基準は何か、加えて委託分析に向けた試料採取法について学ぶ。	10人	100%	100%	

7	文化財担当者専門研修「保存科学（木製遺物）課程」	10月11日～19日	7	地方公共団体の文化財担当職員※	出土木製遺物の保存に必要な基礎的な知識と技術の習得を目的とした課程。木製遺物の保存処理法を中心に、発掘現場における応急処置から取り上げ後の一時保管、保存処理後の展示・保管環境にいたるまでの一連の流れに沿った講義と実習をおこなう。研修を通して、受講生自身が木製遺物の保存処理を実践できるようになること、また処理を外注する場合にも適切な仕様を策定できるようになることを目標とする。	10人	100%	100%	
8	文化財担当者専門研修「遺跡GIS課程」	11月15日～19日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	GISの利用に関して必要な専門知識と技術の習得を目指した研修。	30人	100%	100%	対面9人 オンライン 21人 (Zoom)
9	文化財担当者専門研修「文化財写真課程」	11月22日～12月3日	9	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財の記録保存と活用において中心的な役割を持つ写真記録について、必要不可欠な写真技術の基礎知識と、デジタル写真を中心とした実習による実技を習得する研修。	8人	100%	100%	
10	文化財担当者専門研修「報告書編集基礎課程」	12月13日～17日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財調査記録に必要な不可欠な報告書出版について、記述内容の意義や記述記録の基礎知識を習得する研修。	10人	100%	100%	
11	文化財担当者専門研修「報告書デジタル作成課程」	12月20日～24日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	報告書出版に必要な編集知識や図版制作について、デジタル技術を活用しながら出版物作成をおこなう実践的な技術を習得する研修。	10人	100%	100%	
12	文化財担当者専門研修「史跡等保存活用計画策定課程」	1月18日～24日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	史跡等の保存活用計画書の策定演習を通して、計画書の事務局案作成を行う。ただし、「現状と課題」までは研修の事前課題として提出することを前提とする。	9人	100%	100%	対面8人 オンライン1 人 (Zoom)
13	文化財担当者専門研修「文化財三次元計測課程」	1月27日～28日	2	地方公共団体の文化財担当職員※	「文化財を測る」ための実践的技術を実習を通して学ぶ。具体的にはSfM/MVSによる三次元計測から実測下図作成までの作業を学ぶハンズオンや三次元レーザースキャナーを利用した計測などを行う。	10人	100%	100%	対面5人 オンライン5 人 (Zoom)

※地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者

2-(5)-② 文化財に関する協力・助言等

2-(5)-②-1 専門的・技術的な援助・助言の取組状況

(行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等)

令和4年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	本部 文化財活用センター
653件	214件	267件	172件

【東京文化財研究所】 214件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の収集、保管に関する指導助言	28件
2	無形文化遺産に関する助言	41件
3	文化財の虫菌害に関する調査・助言	36件
4	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	49件
5	文化財の材質・構造に関する調査・助言	20件
6	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	40件

【奈良文化財研究所】 267件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	213件
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	6件
3	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	43件
4	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究	5件

【本部文化財活用センター】 172件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力	172件

2-(5)-③ 平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

2-(5)-③-1 ボランティア受入実績 (後述の資料に記載) ◎共通資料b

2-(5)-⑤ 文化財等の防災・救援等への寄与

2-(5)-⑤-1 研究交流実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-①1)・3)

2-(5)-⑤-2 シンポジウム開催実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-④

2-(5)-⑤-3 ウェブサイトアクセス件数 (後述の資料に記載) ◎共通資料d

2-(6) 文化財防災に関する取組

2-(6)-① 地域防災体制の構築

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑥

2-(6)-①-1 防災・救援のための連携・協力体制構築への取組状況(都道府県内各種会議等参加数)

【本部文化財防災センター】68件

令和4年3月31日現在

	期間	内容	期間	担当者	備考
1	文化庁	文化財等災害対策委員会委員	4月7日～4年3月31日	文化財防災センター長 高妻洋成	
2	ICOM-DRMC日本大会2021実行委員会	ICOM-DRMC日本大会2021実行委員	8月1日～4年3月31日	文化財防災センター長 高妻洋成、同副センター長 建石徹	
3	東北工業大学	非常勤講師	4月1日～9月24日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介	
4	東松島市教育委員会	東松島市文化財保護審議会委員	4月1日～5年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介	
5	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館	人間文化研究機構基幹研究プロジェクト連携研究員	4月1日～4年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介	
6	東京大学大気海洋研究所	客員准教授	4月1日～4年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介	
7	東北大学東北アジア研究センター	非常勤講師	4月1日～4年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介	
8	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第43回大会実行委員	4月7日～4年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介	
9	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会公開シンポジウム実行委員	4月7日～4年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介	
10	八戸市教育委員会	八戸地方えんぶり調査委員会委員	4月15日～4年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介	
11	亀山市教育委員会	亀山市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員	4月1日～5年3月31日	文化財防災センター主任研究員 前川歩	
12	吹田市教育委員会	旧西尾家住宅修理専門会議委員	5月1日～5年6月30日	文化財防災センター主任研究員 前川歩	
13	赤磐市教育委員会	第二次山陽遺跡整備委員会委員	5月1日～5年4月30日	文化財防災センター主任研究員 前川歩	
14	泉大津市教育委員会 和泉市教育委員会	史跡池上曾根遺跡再整備計画策定委員	5月1日～4年3月31日	文化財防災センター主任研究員 前川歩	
15	宮崎県	宮崎県文化財保存活用大綱の策定にかかる防災関連の指導・助言	5月1日～4年3月30日	文化財防災センター主任研究員 鷲頭桂、文化財防災PT 九博学芸部長 河野一隆、同PT 九博学芸部文化財課長 原田あゆみ、同PT 九博学芸部博物館科学課長 木川りか、同PT 九博学芸部博物館科学課研究員 渡辺祐基	
16	枚方市	特別史跡百済寺跡再整備検討委員	7月1日～5年6月30日	文化財防災センター主任研究員 前川歩	
17	大阪市教育委員会	難波宮跡整備計画検討委員会議委員	11月24日～5年11月23日	文化財防災センター主任研究員 前川歩	
18	厚生労働省健康局	歴史的建造物の保存等検討会構成員	4年2月28日～3月31日	文化財防災センター主任研究員 前川歩	
19	埼玉県教育局文化資源課	埼玉県立博物館等施設における資料防災マニュアル策定にかかる指導	6月1日～4年3月31日	文化財防災センター研究員 黄川田翔	
20	川崎市市民文化局 (川崎市市民ミュージアム)	令和元年東日本台風(台風第19号)による被災美術作品及び文化財の救援に係る指導・助言	4月1日～4年3月31日	奈文研客員研究員 浜田拓志	
21	西山美術館	シンポジウム「人・文化財・歴史そして芸術～震災を振り返り、今を見つめ直す」講師	4月20日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介	

22	山形県観光スポーツ部文化振興・文化財活用課	大綱策定に向けた文化財防災に関するワーキンググループへのオブザーバー出席	5月21日、10月15日	東文研保存科学研究センター 研究員 芳賀文恵、文化財防災センター研究員 後藤知美
23	文化庁	「全国博物館長会議（第28回）」講師	6月1日	文化財防災センター長 高妻洋成
24	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会福島大会公開シンポジウム講師	6月1日～8月31日（配信期間）	文化財防災センター長 高妻洋成、文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介
25	福岡県建築士会	ヘリテージマネージャー・スキルアップ講習会講師	6月5日、10月2日	文化財防災PT 九博学芸部博物館科学課長 木川りか
26	奈良大学	博物館実習講演会講師	6月19日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介
27	福島県教育委員会	被災文化財の修理・保存及び保管環境等の指導	6月22日	文化財防災センター研究員 水谷悦子
28	西南学院大学	博物館資料保存論 非常勤講師	7月2日	文化財防災センター主任研究員 鷲頭桂
29	福岡県建築士会	ヘリテージマネージャー・スキルアップ講習会出席	7月3日、9月4日、11月27日	文化財防災センター主任研究員 鷲頭桂
30	東京文化財研究所	「博物館・美術館等の保存担当学芸員研修」講師	7月9日	文化財防災センター長 高妻洋成
31	公益財団法人富山県建築士会	文化財建造物保存修理技術スキルアップ講習会講師	7月10日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介
32	京都文化財防災対策連絡会（京都府内12機関）	京都文化財防災対策連絡会出席	7月12日、11月25日（書面）、4年3月4日（書面）	文化財防災センターアソシエイトフェロー 中屋菜緒
33	奈良県文化・教育・暮らし創造部	文化財防犯・防火・防災関係者連絡会議講師	8月6日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介
34	野洲市永原御殿跡調査整備委員会	野洲市永原御殿跡調査整備委員会における指導・助言	8月23日、12月13日	文化財防災センター主任研究員 前川歩
35	文化庁	記念物担当者会議講師	8月25日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介
36	嘉島町教育委員会	史跡井寺古墳南側墳丘斜面崩落防止措置工事に関する指導・助言	10月13日	文化財防災センター長 高妻洋成
37	文化庁	文化財建造物修理関係者等連絡協議会	10月18日	文化財防災センター主任研究員 前川歩
38	博物館と市民による持続可能なふるさと再生プロジェクト実行委員会	シンポジウム「市民と博物館がまもり、つなぐふるさとの宝」講師	11月6日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介
39	文化庁	文化財行政講座講師	11月10日	文化財防災センター主任研究員 前川歩
40	九州・山口ミュージアム連携事業実行委員会	ワーキング会議出席	11月17日	文化財防災PT 九博学芸部長 河野一隆
41	西山美術館	シンポジウム「愛知県で考える美術・文化を残すために今すべき事」講師	11月24日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介
42	埼玉県教育局文化資源課	県立博物館資料防災マニュアル検証に係る埼玉県立嵐山史跡の博物館の視察	11月30日	文化財防災センター研究員 黄川田翔
43	東北大学学術資源研究公開センター	歴史文化資料保全コーディネーター講座テキストブック執筆	12月7日（依頼日）	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介
44	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所	国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題—災害時応急対応事例と課題—」講師	12月14日、15日	文化財防災センター長 高妻洋成

45	文化庁	ミュージアム・マネジメント 研修講師	12月16日	文化財防災センター副セ ンター長 建石徹	
46	群馬歴史文化遺産発掘・活 用・発信実行委員会（運 営：群馬歴史資料継承ネッ トワーク）	ぐんま史料ネット地域文化遺 産フォーラム2021「群馬の文 化財防災を考える」講師	12月19日	文化財防災センター文化財防 災統括リーダー 小谷竜介、 同研究員 黄川田翔	
47	神奈川県立歴史博物館	緊急搬出訓練に関する指導・ 助言	12月21日	文化財防災センター長 高妻 洋成、同副センター長 建石 徹	
48	国立国会図書館	第32回保存フォーラム講師	12月21日～4年1月17日（配信 期間）	文化財防災センター文化財防 災統括リーダー 小谷竜介	
49	岡山県文化財等救済ネット ワーク研修会	「岡山県文化財等救済ネット ワーク研修会」における講演	4年1月19日 （オンライン）	文化財防災センター長 高妻 洋成、同文化財防災統括リー ダー 小谷竜介、同研究員 中島志保	
50	文化財活用センター	博物館・美術館等保存担当学 芸員研修（基礎コース）講師	4年1月21日	文化財防災センター研究員 黄川田翔	
51	千葉県教育委員会	令和3年度千葉県文化財管理指 導講習会 講師	4年1月27日	文化財防災センター研究員 黄川田翔	
52	埼玉県教育局文化資源課	県立博物館資料防災マニュアル 検証に係る県立さきたま史 跡の博物館の災害対策に関す る指導・助言	4年1月28日	文化財防災センター研究員 黄川田翔	
53	栗駒山麓ジオパーク推進協 議会	栗駒山麓ジオパークガイド養 成講座講師	4年2月5日	文化財防災センター文化財防 災統括リーダー 小谷竜介	
54	京都市文化財保護課	京都市文化財保存活用地域計 画策定記念講演会「京都文化 遺産の保存と活用を考える」 講師	4年2月23日	文化財防災センター文化財防 災統括リーダー 小谷竜介	
55	東北大学学術資源研究公開 センター	歴史文化資料保全コーデ ィネーター講座講師	4年3月7日、9日	文化財防災センター文化財防 災統括リーダー 小谷竜介	
56	福島県教育委員会	被災文化財の修理・保存及び 保管環境等に係る指導・助言	4年3月9日	文化財防災センター副セン ター長 建石徹 同研究員 水谷悦子、文化財防災PT 東文 研 保存環境研究室長 秋山 純子	
57	埼玉県教育局文化資源課	県立博物館資料防災マニュアル 検証に係る県立近代美術館 の災害対策に関する指導・助 言	4年3月16日	文化財防災センター研究員 黄川田翔	
58	埼玉県教育局文化資源課	県立博物館資料防災マニュアル 検証に係る県立歴史と民俗 の博物館の災害対策に関する 指導・助言	4年3月24日	文化財防災センター研究員 黄川田翔	
59	熊本県御船町	今城大塚古墳復旧対策に関す る指導・助言（28年熊本地震）	4月22日	文化財防災センター長 高妻 洋成	
60	熊本県八代市	水損資料調査（2年7月球磨川豪 雨）	4月21日	文化財防災センター長 高妻 洋成	
		被災文化財救援活動（2年7月球 磨川豪雨）	5月18日～21日	文化財防災センター長 高妻 洋成、同文化財防災統括リー ダー 小谷竜介、同研究員 中島志保、同研究員 上相研 究員、同主任研究員 鷲頭桂	
		被災文化財に関する指導・助 言（2年7月球磨川豪雨）	9月21日、22日	文化財防災センター長 高妻 洋成、同文化財防災統括リー ダー 小谷竜介	
61	鳥取県	文化財被災状況調査（3年7月梅 雨前線に伴う大雨）	7月16日	文化財防災センター文化財防 災統括リーダー 小谷竜介、 同主任研究員 前川歩、同研 究員 中島志保	
62	島根県	文化財被災状況調査（3年7月梅 雨前線に伴う大雨）	7月17日	文化財防災センター文化財防 災統括リーダー 小谷竜介、 同主任研究員 前川歩、同研 究員 中島志保	

63	静岡県熱海市	被災文化財救援活動に関する指導・助言(熱海市土石流)	8月5日	文化財防災センター長 高妻洋成、同文化財防災統括リーダー 小谷竜介、同主任研究員 前川歩、同研究員 中島志保、同研究員 上相研究員、同研究員 後藤知美、同AF 中屋菜緒、同総務担当係長 甲斐優介、奈文研客員研究員 浜田拓志
64	奈良県	焼損建造物の現地調査(火災)	10月21日	文化財防災センター主任研究員 前川歩
65	広島県三次市	郷土人形館「よしみちぼっこ」の水害等による環境変化に伴うカビ等への対処に関する指導・助言(3年8月大雨)	11月2日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介、同研究員 中島志保、同研究員 上相英之
66	三重県鳥羽市	文化財被災状況調査(火災)	11月3日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介、同AF 小峰幸夫、文化財防災PT 奈良博学芸部保存修理指導室長 荒木臣紀
		被災文化財に関する指導・助言(火災)	12月9日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介、同AF 小峰幸夫、文化財防災PT 奈良博学芸部保存修理指導室長 荒木臣紀、同PT 奈良博学芸部研究員 内藤航
67	宮城県富谷市	被災文化財に関する指導・助言(3年2月13日の福島県沖を震源とする地震)	11月12日	文化財防災センター研究員 後藤知美
68	長野県大桑村	被災文化財に関する指導・助言(3年8月大雨)	12月24日	文化財防災センター研究員 黄川田翔

2-(6)-③ レスキュー及び収蔵・展示における技術開発

2-(6)-③-1 文化財防災に関する技術開発への取組状況(論文等数、報告書等の刊行数)

(後述の資料に記載)◎共通資料c-⑤、⑥

2-(6)-④ 文化財防災を促進するための普及啓発

2-(6)-④-1 文化財防災に関する普及啓発への取り組み状況(シンポジウム等の開催件数)

【文化財防災センター】6件

令和4年3月31日現在

	開催日	事業名称	開催場所	参加者数	備考
1	10月26日	研修「水損紙資料の応急処置ワークショップ」	奈良文化財研究所	6人	
2	11月4日、6日	ICOM-DRMC(国際博物館会議 博物館防災国際委員会)年次大会-東日本大震災から10年。今、博物館と文化財の防災を考える-	11/4 東京国立博物館 11/6 陸前高田市コミュニティホール (対面及びオンラインでの開催)	11/4 145人 11/6 180人	主催: ICOM-DRMC、ICOM 日本委員会、公益財団法人日本博物館協会、文化財防災センター、東京国立博物館、京都国立博物館、岩手県立博物館、陸前高田市
3	11月13日	研修「なぜ災害発生後に文化財を救うのか-文化財レスキューと心理社会的支援-」	東北芸術工科大学 (対面及びオンラインでの開催)	30人	
4	12月14日、15日	国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題-災害時応急対応事例と課題-」	オンライン配信	7か国10人(オブザーバーは2日間で10か国114人)	共催: 文化庁、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所、文化財防災センター
5	4年1月26日	文化財防火デートークイベント	オンライン配信		
6	4年3月9日	令和3年度文化財防災センター講演会「文化財防災体制の構築とその未来~文化財防災センター設置から1年を経て」	オンライン配信	125人 ※公開から12日間の再生回数	

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務改善の取組

1-(5) 一般管理費の削減

1-(5)-① 施設の有効利用件数

令和4年3月31日現在

○件数

(単位：件)

	国立文化財機構 計	博物館				文化財研究所				
		計	東京国立博 物館	京都国立 博物館	奈良国立 博物館	九州国立 博物館	計	東京文化 財研究所	奈良文化 財研究所	
合計	総件数	2,133	1,852	726	144	254	728	281	208	73
	うち有償	1,000	987	722	128	126	11	13	0	13
	うち無償	1,133	865	4	16	128	717	268	208	60
茶室	総件数	70	70	22	12	27	9			
	うち有償	65	65	22	12	23	8			
	うち無償	5	5	0	0	4	1			
講堂等 (講堂、会議 室、研修室)	総件数	689	417	79	22	79	237	272	208	64
	うち有償	151	143	75	11	55	2	8	0	8
	うち無償	538	274	4	11	24	235	264	208	56
その他 (左記以外の 建物、敷地)	総件数	619	610	37	10	96	467	9	0	9
	うち有償	81	76	37	7	32	0	5	0	5
	うち無償	538	534	0	3	64	467	4	0	4
撮影利用	総件数	755	755	588	100	52	15	0	0	0
	うち有償	703	703	588	98	16	1	0	0	0
	うち無償	52	52	0	2	36	14	0	0	0

○有償利用の利用金額

(単位：千円)

	国立文化財機構 計	博物館				文化財研究所			
		計	東京国立博 物館	京都国立 博物館	奈良国立 博物館	九州国立 博物館	計	東京文化 財研究所	奈良文化 財研究所
合計	69,724	69,461	62,618	4,582	1,937	324	263	0	263
茶室	2,264	2,264	1,609	227	391	37			
講堂等 (講堂、会議 室、研修室)	6,253	6,156	3,546	1,822	507	281	97	0	97
その他 (左記以外の 建物、敷地)	20,706	20,540	19,327	575	638	0	166	0	166
撮影利用	40,501	40,501	38,136	1,958	401	6	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

a-① 来館者数推移（入館料別）（過去5年間）

令和4年3月31日現在

年		29	30	元	2	3		
国 立 文 化 財 機 構	平常展	総来館者数	4,875,133	3,977,125	4,358,044	858,177	1,483,715	
		計	1,736,421	1,706,401	1,753,198	344,392	432,362	
		有料	778,185	747,422	713,037	132,915	148,848	
		大学生	76,093	73,196	66,176	14,005	19,183	
		小・中・高生	159	0	0	0	0	
		友の会	185,553	192,482	189,313	53,579	59,980	
		無料	107,824	116,321	78,584	33,306	36,650	
		一般(黒田含む)	206,900	204,691	193,984	24,623	43,070	
		小・中・高・大生	381,707	372,289	512,104	85,964	124,631	
		招待者等	3,138,712	2,270,724	2,604,846	513,785	1,051,353	
	特別展	計	2,049,172	1,510,156	1,721,359	362,251	744,781	
	有料	105,410	112,381	91,077	25,289	69,675		
	高・大生	29,312	22,558	26,793	2,715	7,641		
	小・中生	56,008	22,245	20,405	4,834	13,341		
友の会	98,848	91,328	94,201	32,499	37,937			
無料	799,962	512,056	651,011	86,197	177,978			
招待者等	2,569,585	2,142,960	2,588,632	375,575	836,720			
東 京 国 立 博 物 館	平常展	総来館者数	1,030,180	989,508	1,030,652	166,639	211,052	
		計	525,037	478,770	435,389	65,236	79,707	
		有料	48,052	43,486	37,542	7,137	10,788	
		大学生	—	—	—	—	—	
		小・中・高生	160,739	172,646	170,236	46,389	50,122	
		友の会	32,714	27,701	21,911	3,183	5,627	
		無料	70,686	66,933	62,703	8,519	10,336	
		高校生	143,888	145,696	258,794	22,290	35,990	
		小・中生	49,064	54,276	44,077	13,885	18,482	
		招待者等	1,539,405	1,153,452	1,557,980	208,936	625,668	
		黒田記念館(無料)	995,261	764,691	1,038,356	158,484	471,946	
	特別展	計	41,210	54,270	51,783	11,591	45,712	
	有料	—	—	—	—	—		
	高・大生	11,684	1,988	1,642	760	949		
	小・中生	20,551	37,968	37,024	5,244	18,264		
	友の会	471,199	294,535	429,175	32,857	88,797		
	無料	20,551	37,968	37,024	5,244	18,264		
	招待者等	941,931	477,884	376,061	170,494	132,793		
	京 都 国 立 博 物 館	平常展	総来館者数	136,862	146,314	158,664	18,941	35,440
			計	80,789	87,013	95,014	8,525	17,911
			有料	12,016	13,028	12,370	779	1,965
大学生			9,341	7,058	6,552	1,562	2,268	
友の会			13,069	14,608	14,943	862	2,548	
無料			21,647	24,607	29,785	7,213	10,748	
小・中・高生			15,676	11,168	13,908	9,932	5,851	
招待者等			8,082	6,114	7,688	5,383	2,468	
庭園開放			計	—	—	—	572	357
有料			505	196	256	505	73	
大学生			436	362	689	—	—	
友の会		2,777	1,638	1,815	588	624		
無料		3,876	2,858	3,460	2,884	2,329		
小・中・高生		789,393	320,402	203,489	141,621	91,502		
招待者等		579,728	227,508	130,145	105,811	59,367		
特別展		計	31,654	29,472	10,227	7,327	7,530	
有料		13,192	3,166	3,291	1,175	372		
高・大生		17,566	10,023	6,240	1,547	2,517		
小・中生		147,253	50,233	53,586	25,761	21,716		
無料		147,253	50,233	53,586	25,761	21,716		
招待者等		549,211	527,786	612,755	122,452	253,196		
奈 良 国 立 博 物 館	平常展	総来館者数	135,776	140,829	160,869	43,262	52,178	
		計	60,294	63,675	75,109	17,695	18,185	
		有料	6,518	6,534	7,981	1,251	1,213	
		大学生	159	0	0	0	0	
		小・中・高生	4,250	3,196	3,414	3,062	4,258	
		友の会	28,257	28,492	34,407	5,876	11,722	
		無料	36,298	38,932	39,958	15,378	16,800	
		小・中・高生	413,435	386,957	451,886	79,190	201,018	
		招待者等	298,133	284,723	342,015	57,939	143,001	
		特別展	計	17,109	15,684	14,385	4,199	11,537
	有料	11,792	13,443	11,045	4,497	4,718		
	高・大生	16,058	3,901	2,970	1,278	6,245		
	小・中生	420	269	0	595	762		
	友の会	69,923	68,937	81,471	13,682	34,755		
	無料	69,923	68,937	81,471	13,682	34,755		
	招待者等	668,269	700,391	674,277	131,662	213,153		
	九 州 国 立 博 物 館	平常展	総来館者数	350,848	349,114	348,563	81,230	104,898
計			101,029	109,272	97,786	33,727	28,407	
有料			9,253	9,950	8,068	4,181	4,761	
大学生			—	—	—	—	—	
小・中・高生			10,718	9,386	8,855	2,061	3,259	
友の会			22,730	28,868	24,056	1,441	5,416	
無料			34,789	34,730	32,905	3,537	6,187	
高校生			172,329	156,908	176,893	36,283	56,868	
小・中生			317,421	351,277	325,714	50,432	108,255	
招待者等			168,511	226,615	205,067	35,721	66,458	
特別展		計	14,820	12,369	14,180	1,883	4,596	
有料		17,520	9,115	15,748	1,218	2,923		
高・大生		15,074	13,190	12,502	1,621	5,775		
小・中生		101,496	89,988	78,217	9,989	28,503		
友の会	104,279	90,558	71,408	37,913	25,264			
平城宮跡 資料館	平常展	総来館者数	50,598	53,775	26,562	15,004	12,942	
	特別展	総来館者数	53,681	36,783	44,846	22,909	12,322	
藤原宮跡 資料館	平常展	総来館者数	8,162	8,270	7,945	4,417	5,226	
	平常展	総来館者数	8,162	8,270	7,945	4,417	5,226	
飛 鳥 資 料 館	平常展	総来館者数	33,696	29,276	26,966	15,664	17,363	
		計	8,319	7,423	6,035	4,967	4,775	
		有料	2,954	2,578	2,051	2,349	2,170	
		大学生	254	198	215	85	99	
		小・中・高生	1,442	1,359	555	617	610	
	無料	3,669	3,288	3,214	1,916	1,896		
	招待者等	25,377	21,853	20,931	10,697	12,588		
	特別展	計	7,539	6,619	5,776	4,296	4,009	
	有料	617	586	502	289	300		
大学生	7,130	6,285	6,091	2,204	4,072			
無料	10,091	8,363	8,562	3,908	4,207			
招待者等								

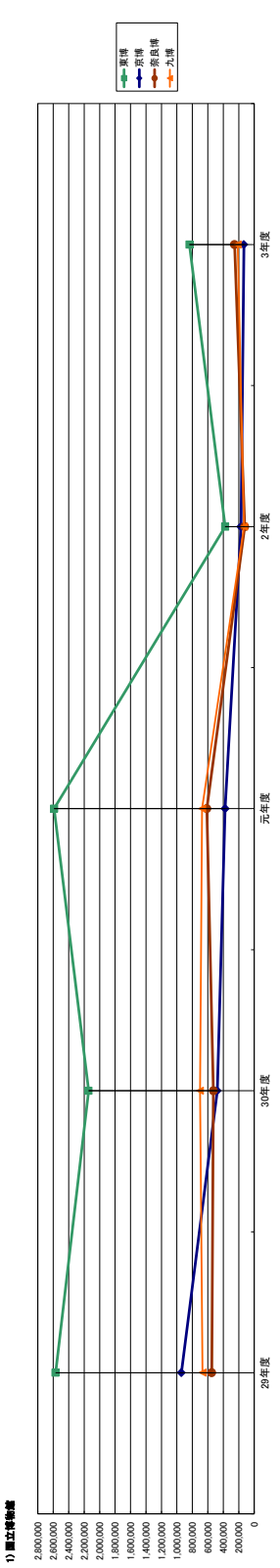
※飛鳥資料館特別展有料高校生入場者数は、料外公開(25)のみ有料(大学生)に含み、それ以外は無料(小・中・高生)に含む。

※京都国立博物館における平常展、庭園開放については高校生以下の区別せず。

※京都国立博物館における庭園開放は、平常展に含む。

独立行政法人国立文化財機構 展示会別来館者数(平成29～令和3年度)

展示会	29年度		30年度		31年度		32年度		33年度	
	来館者数	特別(来館)累計	来館者数	特別(来館)累計	来館者数	特別(来館)累計	来館者数	特別(来館)累計	来館者数	特別(来館)累計
合計	4,678,133	3,971,129	4,838,044	4,038,044	688,177	688,177	1,455,715	1,455,715	439,392	439,392
平常展のみ来館者数	1,788,421	1,708,421	1,733,191	1,733,191	344,392	344,392	573,746	573,746	10,873	10,873
特別(来館)累計	3,189,712	2,262,708	2,994,853	2,304,853	343,785	343,785	881,969	881,969	428,519	428,519

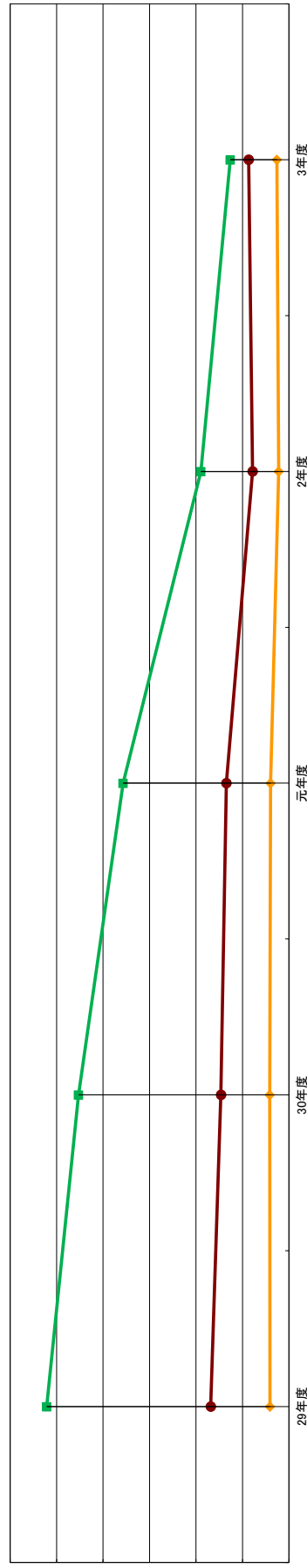


展示会	29年度		30年度		31年度		32年度		33年度	
	来館者数	特別(来館)累計	来館者数	特別(来館)累計	来館者数	特別(来館)累計	来館者数	特別(来館)累計	来館者数	特別(来館)累計
合計	4,678,133	3,971,129	4,838,044	4,038,044	688,177	688,177	1,455,715	1,455,715	439,392	439,392
平常展のみ来館者数	1,788,421	1,708,421	1,733,191	1,733,191	344,392	344,392	573,746	573,746	10,873	10,873
特別(来館)累計	3,189,712	2,262,708	2,994,853	2,304,853	343,785	343,785	881,969	881,969	428,519	428,519
特別展「茶の道」	1,000,160	1,539,405	1,000,652	1,539,990	166,630	203,936	211,052	211,052		
特別展「茶の道」	245,705	67,262	74,424	74,424	中止	特別展「国宝 鳥獣戯図のすべ」	120,310	120,310		
日タイ友好30周年記念特別展「タイ～仏の国境をへて」	116,100	173,995	特別展「国宝 東寺空海と仏像彫刻」	430,311	中止	特別展「聖林寺十一面観音一三輪山信仰のみほとけ」	59,125	59,125		
「フランス人回廊展」	70,192	特別展「種文一万年の美の鼓動」	334,252	特別展「きもの KIMONO」	106,532	特別展「国宝 鳥獣戯図のすべ」	91,830	91,830		
展覧会中企業連携記念特別展「国産」	600,409	特別展「京都 大観音寺 佛堂、扉巻のみほとけ」	197,000	特別展「奈良大観音のみほとけ」	※(130,398)	特別展「国宝 鳥獣戯図のすべ」	211,052	211,052		
特別展「仁徳寺と御堂宗茂のよほど〜天竺と真意」	324,042	特別展「大正時代の建築と生活」	80,191	日中文化交流協会結成40周年記念 特別展「三国」	337,639	特別展「スウェーデンのデザイン」	※(122,735)	中止		
特別展「アラビヤの道〜サウジアラビア王国の歴史」	182,837	特別展「日本平賀正徳と茶の道」	※(182,405)	特別展「日本平賀正徳と茶の道」	※(182,405)	特別展「スウェーデンのデザイン」	※(125,463)	中止		
特別展「新・権山展〜大徳神時の日本美術」	87,410	特別展「タイ〜仏の国境をへて」	198,929	特別展「正倉院の世界〜聖堂がまもり伝」	362,076	特別展「国宝 鳥獣戯図のすべ」	58,461	58,461		
特別展「王権への道」	55,130	特別展「新・権山展〜大徳神時の日本美術」	48,344	特別展「人・神、自然〜アール・ヌーヴ〜コレク」	※(130,732)	特別展「工藤200年〜日本の工業と自然」	13,851	13,851		
特別展「王権への道」	55,130	特別展「新・権山展〜大徳神時の日本美術」	33,489	特別公開「高野山と御帳巻」	※(202,801)	特別展「日本天下人の100年」	82,800	82,800		
特別展「王権への道」	55,130	特別展「新・権山展〜大徳神時の日本美術」	164,900	特別展「日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」	136,054	特別展「日本のたてももの〜自然素材を伝統技術に活かす」	20,447	20,447		
特別展「王権への道」	55,130	特別展「新・権山展〜大徳神時の日本美術」	624,403	特別展「東のわたる〜一匹のわたる〜」	233,002	特別展「日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」	199	199		
特別展「王権への道」	55,130	特別展「新・権山展〜大徳神時の日本美術」	549,211	特別展「東のわたる〜一匹のわたる〜」	577,868	特別展「日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」	499	499		
特別展「王権への道」	55,130	特別展「新・権山展〜大徳神時の日本美術」	18,716	特別展「東のわたる〜一匹のわたる〜」	16,829	特別展「日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」	199	199		
特別展「王権への道」	55,130	特別展「新・権山展〜大徳神時の日本美術」	413,455	特別展「東のわたる〜一匹のわたる〜」	338,957	特別展「日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」	499	499		
特別展「王権への道」	55,130	特別展「新・権山展〜大徳神時の日本美術」	123,840	特別展「東のわたる〜一匹のわたる〜」	95,950	特別展「日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」	499	499		
特別展「王権への道」	55,130	特別展「新・権山展〜大徳神時の日本美術」	72,540	特別展「東のわたる〜一匹のわたる〜」	45,173	特別展「日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」	499	499		
特別展「王権への道」	55,130	特別展「新・権山展〜大徳神時の日本美術」	217,055	特別展「東のわたる〜一匹のわたる〜」	245,837	特別展「日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」	499	499		
特別展「王権への道」	55,130	特別展「新・権山展〜大徳神時の日本美術」	668,269	特別展「東のわたる〜一匹のわたる〜」	700,391	特別展「日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」	499	499		
特別展「王権への道」	55,130	特別展「新・権山展〜大徳神時の日本美術」	317,421	特別展「東のわたる〜一匹のわたる〜」	351,277	特別展「日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」	499	499		
特別展「王権への道」	55,130	特別展「新・権山展〜大徳神時の日本美術」	56,314	特別展「東のわたる〜一匹のわたる〜」	14,971	特別展「日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」	499	499		
特別展「王権への道」	55,130	特別展「新・権山展〜大徳神時の日本美術」	118,535	特別展「東のわたる〜一匹のわたる〜」	198,487	特別展「日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」	499	499		
特別展「王権への道」	55,130	特別展「新・権山展〜大徳神時の日本美術」	87,410	特別展「東のわたる〜一匹のわたる〜」	63,067	特別展「日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」	499	499		
特別展「王権への道」	55,130	特別展「新・権山展〜大徳神時の日本美術」	55,130	特別展「東のわたる〜一匹のわたる〜」	74,748	特別展「日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」	499	499		

※1 この特別展は、平常展のみの来館者に計上
 ※2 この特別展は、特別公開の来館者は平常展の一部で、別途カウントを行っている。
 ※3 特別公開は、特別公開の来館者は平常展の一部で、別途カウントを行っている。
 ※4 0以内の数値は、絶大な文化財の特別展(特別展)による来館者数を含む。

独立行政法人国立文化財機構 展覧会別来館者数(平成29～令和3年度)

2) 野宮成泉公關施設



平城宮跡資料館
藤原宮跡資料室
飛鳥資料館

	29年度		30年度		元年度		2年度		3年度	
	総 計	平常展のみの来館者 特別(共催)展計 総計	総 計	平常展のみの来館者 特別(共催)展計 総計	総 計	平常展のみの来館者 特別(共催)展計 総計	総 計	平常展のみの来館者 特別(共催)展計 総計	総 計	平常展のみの来館者 特別(共催)展計 総計
計	146,137	67,079	128,104	69,468	106,319	40,542	57,994	24,388	47,863	22,943
	79,058	104,279	58,636	90,558	65,777	71,408	33,608	37,913	24,943	25,264
	50,598	53,681	53,775	36,783	26,562	44,946	15,004	22,909	12,942	12,942
	※1	ロビ－展示「豊後御調査とその支展」 (26.3.12より継続展示)	※1	ロビ－展示「豊後御調査とその支展」 (26.3.12より継続展示)	※1	ロビ－展示「豊後御調査とその支展」 (26.3.12より継続展示)	※1	ロビ－展示「豊後御調査とその支展」 (26.3.12より継続展示)	※1	ロビ－展示「豊後御調査とその支展」 (26.3.12より継続展示)
平城宮跡資料館	927	平城宮跡資料館春企画展「発掘速報展 平城2016」 「生活ふ」	9,208	平城宮跡資料館2019年度特別展「高御座」	14,456	ロビ－展示「古代のいのりー疫病退散！」	2,846	春秋特別企画展「平城宮跡保存運動のまがけー大 御殿跡木造遺式ー二〇周年ー」/「大地編動 一大地 の知らざる成態と私たちの生活ー」	688	春秋特別企画展「平城宮跡保存運動のまがけー大 御殿跡木造遺式ー二〇周年ー」/「大地編動 一大地 の知らざる成態と私たちの生活ー」
	21,811	秋期特別展「地下の正倉院展ー荷札木簡をひもとく 夏のことばも展示「すてきな!? 平城 宮の考古学ー」	15,853	夏のことばも展示「ならのみやこのしよくぶつえん」	9,162	夏期企画展「奈良の都の考古学ー発掘された平城 宮の考古学ー」	3,968	夏期企画展「奈良を測る 一森羅の庭園研究と作庭 ー」	1,157	夏期企画展「奈良を測る 一森羅の庭園研究と作庭 ー」
	10,882	平城宮跡資料館 冬季企画展「発掘された平城 宮2017・2018」	11,725	秋期特別展「地下の正倉院展ー年号と木簡ー」	13,257	秋期特別展「地下の正倉院展」	14,670	秋期特別展「地下の正倉院展」	6,310	秋期特別展「地下の正倉院展」
	14,841	平城宮跡資料館 冬季企画展「発掘された平城 宮2017・2018」		平城宮跡資料館「発掘された平城宮の子」	4,456	平城宮跡資料館新春ミニ展示「平城宮の丑」	1,425	企画展「発掘された平城2020・2021」	4,167	企画展「発掘された平城2020・2021」
	5,220	平城宮跡資料館ミニ展示「平城宮の成」	8,270	平城宮跡資料館「発掘された平城2019」	3,515	平城宮跡歴史公園第一大御殿跡南門遺跡整備工事 記念特別展「鬼神乱舞ー展る・扱う・見互の世界ー」	※2 31,530			
	8,162	平常展のみの来館者	8,270	平常展のみの来館者	7,945	平常展のみの来館者	4,417	平常展のみの来館者	5,226	平常展のみの来館者
	0	特別(共催)展計	0	特別(共催)展計	0	特別(共催)展計	0	特別(共催)展計	0	特別(共催)展計
	33,696	総計	29,276	総計	26,966	総計	15,664	総計	17,363	総計
	8,319	平常展のみの来館者	7,423	平常展のみの来館者	6,035	平常展のみの来館者	4,967	平常展のみの来館者	4,775	平常展のみの来館者
	25,377	特別(共催)展計	21,853	特別(共催)展計	20,931	特別(共催)展計	10,697	特別(共催)展計	12,588	特別(共催)展計
飛鳥資料館	9,613	春期特別展「あすかの原風景 ー」	8,816	春期特別展「青もがたがりー環状考古学研究室のお 仕事ー」	10,024	奈良国立博物館・奈良文化研究所 合同企画 夏期 特別展「日本人と古代仏教ー仏教徒文字文化の考古 学ー」	中止	ミニ展示「新収蔵品紹介ー呉と書かれた五ー」	535	ミニ展示「新収蔵品紹介ー呉と書かれた五ー」
	2,930	夏期企画展 飛鳥資料館第10回写真コンテスト作品 展「飛鳥の路」	2,428	夏期企画展 飛鳥資料館第10回写真コンテスト作品 展「飛鳥の古墳」	3,070	秋期企画展 飛鳥資料館第10回写真コンテスト作品 展「飛鳥の家」	3,212	夏期企画展 飛鳥資料館第10回写真コンテスト「飛 鳥の木」	2,112	夏期企画展 飛鳥資料館第10回写真コンテスト「飛 鳥の木」
	9,877	秋期特別展「よみがえる飛鳥の工房ー日韓の技術交 流を探る」	7,492	秋期特別展「飛鳥ー自然と人ー」	6,506	秋期企画展 飛鳥資料館第10回写真コンテスト作品 展「飛鳥の家」	5,114	秋期企画展「雁報を彩る華花 一飛鳥の軒五と その文様」	7,353	秋期企画展「雁報を彩る華花 一飛鳥の軒五と その文様」
	2,957	冬期企画展「飛鳥の考古学2018」	3,117	冬期企画展「飛鳥の考古学2019」	1,331	冬期企画展「飛鳥の考古学2020」	2,271	冬期企画展「飛鳥の考古学2021」	2,588	冬期企画展「飛鳥の考古学2021」

※1 平常展の一部として実施
※2 平城宮跡資料館ではなく、平城宮跡内のいざない館にて開催のため、
合計の数値には含まない。(参考値として記載。)

a-③ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

①開館日数 278日間（9月21日の「春夏秋冬／フォーシーズンズ 乃木坂46」のみの開館日を含む）（平常展のみの開館日数 35日間）

②会場

- (1)本館 1階、2階
- (2)東洋館 1階、2階、3階、4階、5階
- (3)法隆寺宝物館 1階、2階
- (4)平成館 1階
- (5)黒田記念館

③展示総件数 9,212件（うち国宝472件、重要文化財884件）

- (1)本館・平成館企画展示室 4,253件（うち国宝291件、重要文化財417件）
- (2)東洋館 2,428件（うち国宝18件、重要文化財88件）
- (3)法隆寺宝物館 334件（うち国宝8件、重要文化財172件）
- (4)平成館考古展示室 2,094件（うち国宝155件、重要文化財207件）
- (5)黒田記念館 103件（うち国宝0件、重要文化財0件）

④展示替件数 5,837件 ・ 展示替回数 延べ395回

⑤入場料金

黒田記念館以外 一般1,000円、大学生410円
 黒田記念館 無料

⑥特集 全26件（●国宝、◎重要文化財、○重要美術品）

※東京都からの要請により、4月25日～5月31日まで臨時休館。

場所	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
東洋館 8室	宮廷から地方へ—明時代の絵画と書跡	3月2日～4月11日	41件(重文5件)
<主な作品> ●四季花鳥図軸、●探花図巻、●山水図軸、●寒江独釣図軸、●漁夫図軸 明時代(1368～1644)の宮廷画壇は、特に15世紀から16世紀はじめにかけて繁栄を誇り、宮廷画家たちは、宋時代をはじめとする古画をよく学び、花鳥、走獣、人物、山水など多彩な主題を描いた。本特集展示では、宮廷絵画とそこから発展した浙派、狂態邪学派の名品を、江南文人書跡とともに紹介した。			
本館 特別1・特別2・14室	鳥獣戯画展スピンオフ	3月23日～6月20日	47件(重文2件)
<主な作品> 藍釉兔、兔形香油壺、鳥獣戯画 甲巻(模本)、獣形帽額縮図 本特集は、特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」(平成館、4月13日～5月30日)の関連企画として、本館特別1・2室及び14室で開催したもの。鳥獣戯画の主要なモチーフである動物に注目し、3つの展示室でそれぞれ、1)古今東西において、動物たちがどのような存在としてあらわしてきたのかを探る展示、2)「鳥獣戯画」成立の背景を探るさまざまな作品を紹介する展示、3)可笑(おか)しみに富んだ「鳥獣戯画」が、その後与えた影響に関する展示を行った。			
平成館 企画展示室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	3月23日～4月18日	9件
<主な作品> 四季花鳥図巻、玄奘三蔵像、五彩人物文長方合子、突線鈕3式銅鐸 本特集では、東京国立博物館が手がける保存と修理の成果をより分かりやすく紹介するため、近年に解体を含む根本的な修理を終えた絵画、考古、歴史資料、陶磁などさまざまな分野から、形態、技法が異なる作品を取り上げた。博物館が担う文化財修理の役割を広くご理解いただけるよう、作品とともに修理過程で得られた情報もパネルにして公開した。			
平成館 企画展示室	親と子のギャラリー 動物のうごき	5月11日～6月27日	42件
<主な作品> 自在鷹置物、三彩狸置物、葡萄棚に栗鼠図罎、セクメト女神倚像、道化十二支の見立、桃太郎 特集「親と子のギャラリー」は東京都恩賜上野動物園と国立科学博物館との三館園連携企画を受けて企画された特集陳列であり、今回が14回目である。動物の「うごき」に注目し、「だいはくりよくのうごき」と「ひとをまねたうごき」の2部構成で展示した。また、新型コロナウイルスの影響を勘案し、東京都恩賜上野動物園と国立科学博物館と協議の上、5月16日に3館園関連イベントをオンラインで動画配信した。			
本館 14室	那智—出土品にみる霊地の遺宝	6月8日～7月18日	65件
<主な作品> 菩薩半跏像、経筒、錫杖頭、銭弘俵八万四千塔、線刻薬師如来鏡像 那智を含む紀伊山地は、幾重にも山々が連なる自然豊かな悠久の地として、仏教伝来以降、真言密教や山岳信仰、修験道の霊場として栄えた。また、平安時代以降、末法思想が世の中に広まるにつれ、那智には数多くの経塚が造営されている。本特集展示は、那智の遺宝ともいえる古代から中世の仏教関連遺物を紹介し、当時の人々の願いや思いに迫った。			
本館 特別1室	平安時代の名筆—高木聖鶴氏旧蔵品より—	7月20日～9月26日	23件
<主な作品> 和漢朗詠集巻上断簡(戊辰切)、伊勢集断簡(石山切)、後撰和歌集巻九断簡(白河切) 仮名の書家で文化功労者、文化勲章受章者であった高木聖鶴氏(1923～2017)は、学書のために平安時代の古筆切を中心に収集したことで知られる。本特集展示では、それらの高木聖鶴氏旧蔵コレクションより、優品の多い平安時代の名筆をまとめて紹介した。			

本館 14室	岐阜県関市・春日神社の能狂言面	7月20日～9月26日	61件(重文61件)
<p><主な作品> ●能面 尉(笑尉)、●能面 男(若男)、●能面 霊男(怪士)</p> <p>岐阜県関市の春日神社は関鍛冶七流と呼ばれた刀鍛冶の守護神として信仰を集めた。同社には、能狂言面と古楽面あわせて61面が伝来し、その多くが室町から安土桃山時代の作と見られる貴重な作品群で、平成22年に重要文化財に指定されている。この特集展示ではその全貌を紹介したものの。</p>			
本館 特別1室	瓦が語る東大寺の歴史	8月31日～11月7日	35件
<p><主な作品> 複弁蓮華文軒丸瓦、梵字「ア」及び「東大寺大仏殿」銘軒丸瓦、「七」字銘蓮華文軒丸瓦、平瓦(桶巻作り)</p> <p>本尊の盧遮那仏が「奈良の大仏」として親しまれ、多くの人々が訪れる東大寺は、正式には金光明四天王護国寺といい、全国60か所に及ぶ国分寺の中心となる「総国分寺」として聖武天皇により建立された。東大寺には多くの栄華と苦難、再建の物語があり、本特集展示では、折々を見届けてきた瓦からその歴史を辿った。</p>			
東洋館 8室	江戸時代にもたらされた中国書画	9月7日～10月17日	66件
<p><主な作品> 草書千字文巻、白衣観音図、鹿鶴図屏風、雪梅群兔図、楷書紺紙金字妙沙経</p> <p>中国大陸の文化を伝える人や文物は、貿易の管理・統制が比較的厳しく行われた江戸時代にあっても、長崎などを通じて日本に流入していた。この中で、新しい明・清時代の書壇・画壇の動向がもたらされたこと、中国本土では必ずしも注目されてこなかった類の作品が、日本で大切に保存されてきたことが重要である。本特集展示では、このような、江戸時代にもたらされた中国書画を紹介した。</p>			
本館 14室	浅草寺のみほとけ	9月28日～12月19日	13件
<p><主な作品> 僧形坐像、不動明王立像、大威徳明王騎牛像、四天王立像</p> <p>浅草寺は、浅草観音として親しまれる観音霊場であるとともに、1950年に聖観音宗として単立寺院になるまで、慈覚大師円仁の中興にかかる天台宗の古刹としても知られます。本特集展示では、寄託の仏像13件17体を一堂に展示。近年実施された寺宝の悉皆調査で新たに見出された作品を含め、これまで公開の機会が少なかった浅草寺の仏像を広く紹介した。</p>			
平成館 企画展示室	令和2年度新収品	10月5日～10月31日	14件(重文1件)
<p><主な作品> ●法然上人絵伝、針切、グリーンシン(肩衣) ワヤン人形文様経緯緋、色絵枝垂桜図皿</p> <p>令和2年度に新たに収蔵品に加わった文化財のうち、寄贈分、購入分より主だった作品を公開した。新収品を通じ、東京国立博物館のもっとも重要な事業のひとつに位置づけられる「文化財の収集」について、その成果と意義を紹介する機会となった。</p>			
東洋館 8室	中国書画精華—仏教文化の粋—	10月19日～12月5日	62件(国宝14件、重文19件)
<p><主な作品> ◎寒山拾得図軸、◎瀟湘臥遊図巻、◎出山釈迦図軸、◎印可状(流れ圓悟)、◎禅院額字「旃檀林」</p> <p>毎年秋の恒例の中国書画の名品展「中国書画精華」。今年は仏教文化の中で生み出された書跡・絵画をテーマに、当館所蔵・寄託の中国書画の中から、南北朝時代の古写経や造像記、宋・元時代の羅漢図や禅宗絵画、墨跡などの優品を紹介した。</p>			
本館 14室	日本人に愛された華南のやきもの	12月21日～4年2月20日	29件
<p><主な作品> 華南三彩五耳壺、灰被天目、青呉州人物図水指、青磁鉄絵牡丹文鉢</p> <p>「華南」では、宋から明・清時代の長きにわたり陶磁器が生産され、海外へ輸出された。その製品は、日本では茶の湯や懐石、煎茶の道具として親しまれた。本特集展示は日本における陶磁器研究史をたどりながら、華南のやきものの魅力と、日本人の美意識に与えた影響を紹介した。</p>			
本館 特別1・2室	博物館に初もうで 今年は一ハク150周年!めでタイガー!!	4年1月2日～1月30日	54件(重文2件)
<p><主な作品> 白釉鉄絵虎形枕、龍虎図屏風、●朝鮮国王国書別幅、博物館写生図(虎皮)、漆絵画帖</p> <p>寅年にちなんだ「虎」をテーマとした特集展示。古代より虎は瑞獣として、とりわけ西方をつかさどる守護神とみなされてきた。また、その獠猛さから畏怖の対象として、仏教美術にも取り入れられる一方、勇猛さや豪傑の象徴としても数々の作品に表されてきた。本展示では、「神獣・仏教にかかわる虎」「龍虎図」「日本の勇猛な虎」「アジアの多彩な虎」「博物学におけるネコ科の虎」のテーマに沿って、各々の虎の表現に着目しながら、それにまつわる文化を紹介した。</p>			
東洋館 8室	没後700年 趙孟頫とその時代—復古と伝承—	4年1月2日～2月27日	102件(国宝3件、重文9件)
<p><主な作品> 独孤本定武蘭亭序並蘭亭十三跋、行草書十詩五札巻、●枯木図軸、●雪汀遊禽図軸</p> <p>趙孟頫は、詩文書画に優れた元時代随一の芸術家。書画においては、王羲之を主とする晋唐の書法と唐宋の画法を規範とする復古主義を唱導し、当代のみならず明清時代の諸家にも大きな影響を与えた。令和4年が趙孟頫の没後700年にあたることから、あらためて趙孟頫に焦点をあて、関連する中国書画と文房具を、「趙孟頫前夜」「趙孟頫と元時代の書」「元時代の絵画」「明清時代における受容」に分けて展示し、趙孟頫の功績を紹介した。</p>			

本館	全巻修理完了記念 日本最古の医学書・国宝「医心方」の世界	4年2月8日～3月21日	46件(国宝38件)
特別1・2室			
<主な作品> ◎医心方 巻第一治病大体部			
<p>本特集は、2年9月に足掛け5年をかけた修理が終了した国宝「医心方」の全巻を紹介したもの。「医心方」の祖本は、永観2年(984)針博士・丹波康頼が撰述・編纂し宮廷に献上された。この祖本は失われているが、当館所蔵の「医心方」は平安時代12世紀の写本27巻を中心に、全巻が完存する最古の写本として国宝に指定(1984年)されている。その内容はすでに滅失した中国、朝鮮の古医書を多く収録し、古代東洋医学の知識の宝庫といえる。</p>			
本館	おひなさまと日本の人形	4年2月22日～3月21日	49件
14室			
<主な作品> 古今雛、立雛(次郎左衛門頭)、御所人形、牙首雛、紫宸殿(雛用御殿)			
<p>3月3日の桃の節供、雛祭にちなんで恒例となった特集展示。今回は三谷家伝来の牙首雛や山本家伝来の古今雛といった江戸の地における雛飾りの名品とともに、東博が所蔵する御所人形の代表作を一堂に会した展示を行った。人形の名品を通じ、繊細で美しく、そしてかわいらしいものを尊び、高い技術を駆使して作品を作り上げてきた日本の美意識を紹介した。</p>			
平成館	東京国立博物館コレクションの保存と修理	4年3月23日～4月17日	12件(重文2件)
企画展示室			
<主な作品> 雛雀図、縫箔 白地草花肩裾模様、鉢、密教法具、儀式風俗資料その他			
<p>本特集展示は、近年に修理を終えた絵画、考古、染織、陶磁などさまざまな分野から、形態、技法が異なる作品を取り上げ、東京国立博物館が手がける保存と修理の成果を分かりやすく紹介したもの。作品とともに修理過程で得られた情報もパネルなどを用いて公開し、博物館が担う文化財修理の役割を広く発信する機会となった。</p>			

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	特別展「鳥獣戯画のすべて」		
会 期	4月13日(火)～6月20日(日)※4月25日(日)～5月31日(月)は臨時休館		
会 場	東京国立博物館 平成館特別展会場		
主 催	東京国立博物館、高山寺、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社		
協 賛	鹿島建設、損保ジャパン、凸版印刷、三井物産		
作品件数	41件(うち、国宝7件、重要文化財14件)		
来館者数	129,349人(目標80,000人、達成率162%)		
入場料金	一般 2,000円、大学生 1,200円、高校生 900円、中学生以下無料		
アンケート結果 満足度	94.1%		
担当研究員数	3人		
展覧会の内容	<p>国宝「鳥獣戯画」の全貌を紹介する展覧会。国宝4巻の全場面を一挙公開するとともに、かつて国宝4巻から分かれた断簡、さらに原本ではすでに失われた場面を留める模本の数々も集結した。また、「鳥獣戯画」が伝わった高山寺中興の祖・明恵上人を紹介すべく重要文化財「明恵上人坐像」なども展覧した。</p>		
講演会等	連続講座「鳥獣戯画研究の最前線」を4月23日、24日に開催した。		

展覧会名	特別展「聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」		
会 期	6月22日(火)～9月12日(日)(72日間)		
会 場	東京国立博物館 本館特別5室		
主 催	東京国立博物館、読売新聞社、文化庁、日本芸術文化振興会		
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス		
協 賛	清水建設、高島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事		
協 力	あいおいニッセイ同和損害保険		
作品件数	29件(うち、国宝2件、重要文化財1件)		
来館者数	59,125人(目標60,000人、達成率99%)		
入場料金	一般1,500円(1,400円)、大学生800円(700円)、高校生500円(400円)、中学生以下無料		
アンケート結果 満足度	85.3%		
担当研究員数	2人		
展覧会の内容	<p>奈良県桜井市に所在する聖林寺の十一面観音菩薩像(国宝)は天平彫刻の名品で、日本を代表する仏像の一つである。法隆寺の地蔵菩薩像、正暦寺の日光菩薩像、月光菩薩像とともに、江戸時代までは同市の大神神社にあった。大神神社は本殿を持たず、三輪山を拝む自然信仰をいまに伝えるが、奈良時代には仏教の影響を受けて神社に付属する寺(大神寺、後に大御輪寺に改称)や仏像が作られた。本展では、大御輪寺にあった仏像や、大神神社の自然信仰を示す三輪山禁足地の出土品などを展覧した。</p>		
講演会等	展覧会の内容を掘り下げて理解するための動画を配信した。		

展覧会名	マレーシア・イスラーム美術館精選 特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」		
会 期	7月6日(火)～4年2月20日(日)(192日間)		
会 場	東京国立博物館 東洋館12・13室		
主 催	東京国立博物館、マレーシア・イスラーム美術館		
協 賛	住友商事株式会社、J-POWER(電源開発株式会社)、三井住友銀行		
作品件数	204件		
来館者数	125,463人(目標100,000人、達成率125.5%)		

入場料金	一般：1,000円、大学生：500円 ※総合文化展料金
アンケート結果 満足度	—
担当研究員数	3人
展覧会の内容	時代、地域、ジャンルによらず、イスラーム文化全体に関する展覧会を、マレーシア・イスラーム美術館の全面的な協力を得て開催した。構成は、総論としてのムスリム世界の歴史と文化、各論としての14のイスラーム王朝のほか、「モスクの美術」「イスラーム書道芸術」「現代絵画」をテーマとする展示からなる。主な展示作品としてはアカンサス文柱頭、エナメル彩騎馬鷹狩人物文鉢、ミフラーブ・パネル、宝飾ネックレスなどが挙げられる。
講演会等	12月8日に平成館大講堂にて記念講演会を開催した。また、マレーシア・イスラーム美術館の学芸部長による記念講演の動画を製作、発信するとともに、展覧会会場でも上映した。

展覧会名	特別展「聖徳太子と法隆寺」
会 期	7月13日(火)～9月5日(日)(49日間)
会 場	東京国立博物館 平成館特別展会場
主 催	東京国立博物館、法隆寺、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション、文化庁
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協 賛	清水建設、高島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
協 力	内田洋行、NISSHA、あいおいニッセイ同和損害保険
作品件数	178件(うち、国宝24件、重要文化財82件)
来館者数	69,640人(目標80,000人、達成率：87%)
入場料金	一般 2,200円、大学生 1,400円、高校生 1,000円
アンケート結果 満足度	90.6%
担当研究員数	4人
展覧会の内容	聖徳太子の1400年遠忌を記念した特別展。企画構成としては歴史的な聖徳太子の実像にはじまり、その後日本仏教の根幹として発達した聖徳太子信仰の広がりを法隆寺所蔵の作品を中心とした207件により展覧した。特に法隆寺の歴史や場、儀式といった文脈のなかで作品がどのように伝わり使用されてきたのか展示を通じて表現することに留意した。主な展示作品としては、御物「法華義疏」、法隆寺金堂東の間本尊「国宝 薬師如来坐像」、法隆寺聖霊院本尊「国宝 聖徳太子および侍者像」が挙げられる。
講演会等	展覧会の内容を掘り下げて理解するための動画を配信した。

展覧会名	東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 特別企画「スポーツ NIPPON」
会 期	7月13日(火)～9月20日(月)(62日間)
会 場	東京国立博物館 平成館企画展示室
主 催	東京国立博物館、秩父宮記念スポーツ博物館、読売新聞社
協 力	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
後 援	公益財団法人日本オリンピック委員会
作品件数	50件(うち、重要文化財3件)
来館者数	22,735人(目標50,000人、達成率45%)
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円 ※総合文化展料金
アンケート結果 満足度	—
担当研究員数	2人
展覧会の内容	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を記念して、日本スポーツの歴史と文化を紹介する展覧会である。内容は2章構成で、計50件を展示した。第1章では東京国立博物館が所蔵する美術工芸品から江戸時代以前の日本スポーツの源流を紹介し、第2章では秩父宮記念スポーツ博物館が所蔵する近現代スポーツ資料から明治時代以降の日本スポーツの発展を紹介した。
講演会等	展覧会の内容を掘り下げて理解するための動画を配信した。

展覧会名	春夏秋冬／フォーシーズンズ 乃木坂46
会 期	9月4日(土)～11月28日(日)(74日間)
会 場	東京国立博物館 表慶館
主 催	東京国立博物館、文化財活用センター、ソニー・ミュージックエンタテインメント、文化庁、日本芸術文化振興会
制作協力	NHKプロモーション、中山マネジメント
作品件数	7件(複製7点、映像インスタレーション7点)
来館者数	58,461人(目標50,000人、達成率117%)
入場料金	一般・大学生 1,800円、高校生 1,000円
アンケート結果 満足度	95.3%
担当研究員数	1人
展覧会の内容	本展では、春夏秋冬の花があらわされた7点の日本美術(複製)とともに現代のポップカルチャーをあわせて紹介した。7つの作品と現代を結ぶキーとなるのは、アイドルグループの乃木坂46である。メンバー一人一人が花に見立てられ、彼女たちのパフォーマンスが、映像インスタレーションによって、日本の人々が花に託した造形の本質を、季節を巡りながら示されていく展示とした。
講演会等	展覧会の内容を掘り下げて理解するための動画を配信した。

展覧会名	伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」
会 期	10月12日(火)～11月21日(日)(36日間)
会 場	東京国立博物館 平成館
主 催	東京国立博物館、天台宗、比叡山延暦寺、読売新聞社、文化庁
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協 賛	清水建設、高島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
特別協力	園城寺(三井寺)、西教寺、四天王寺、浅草寺、日吉大社
協 力	NISSHA
作品件数	82件(うち、国宝17件、重要文化財46件)、復元展示2件
来館者数	63,977人(目標60,000人、達成率107%)
入場料金	一般 2,200円、大学生 1,400円、高校生 1,000円
アンケート結果 満足度	90.7%
担当研究員数	3人
展覧会の内容	本展は、「最澄と天台宗の始まり—祖師ゆかりの名宝」、「教えのつらなり—最澄の弟子たち」、「信仰の高まり—天台美術の精華」、「教学の深まり—天台思想が生んだ多様な文化」、「現代へのつながり—江戸時代の天台宗」、「全国への広まり—各地に伝わる天台の至宝」という構成で、天台宗の開宗から江戸時代に至るまでの日本天台宗の歴史を時系列に追った辿ったのち、各地に伝わる天台美術を展示して天台宗の広がりを紹介した。
講演会等	なし

展覧会名	特別企画 沖縄県立博物館・美術館 琉球王国文化遺産集積・再興事業 巡回展「手わざ —琉球王国の文化—」
会 期	4年1月15日(土)～3月6日(日)(44日間)
会 場	東京国立博物館 平成館特別企画室
主 催	東京国立博物館、沖縄県立美術館・博物館
作品件数	50件
来館者数	27,440名(目標30,000人、達成率:91.5%)
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円 ※総合文化展料金
アンケート結果 満足度	—
担当研究員数	3人
展覧会の内容	「手わざ」とは、作品を製作する手仕事の高度な技術を意味する。沖縄県立博物館・美術館が平成27年度より行ってきた琉球王国文化遺産集積・再興事業では、明治以降の近代化や先の戦争で失われた文化財とその製作技術の復元に努めてきた。この事業で完成した作品は、絵画、木彫、石彫、漆芸、染織、陶芸、金工、三線に至る8分野と多岐にわたり、携わった専門家、技術者は県内外100人以上にもものぼる。本展では、琉球王国に伝わる卓越した技術でつくられた、模造復元品を紹介した。
講演会等	なし

展覧会名	特別展「ポンペイ」
会 期	4年1月18日(火)～4月3日(日)(70日間)
会 場	東京国立博物館 平成館特別展会場
主 催	東京国立博物館、ナポリ国立考古学博物館、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション
特別協賛	住友金属鉱山
協 賛	大和ハウス工業、凸版印刷、竹中工務店
後 援	イタリア大使館
作品件数	155件
来館者数	197,700人(目標80,000人、達成率:247.1%)
入場料金	一般 2,100円、大学生1,300円、高校生900円
アンケート結果 満足度	90.3%
担当研究員数	2人
展覧会の内容	本展は、ポンペイ遺跡の膨大な遺物を収蔵するナポリ国立考古学博物館が、その名品をかつてない規模で出品する「ポンペイ展の決定版」であり、床モザイク、壁画、彫像、工芸品の傑作から、豪華な食器、調理具といった日用品にいたる様々な発掘品を展示した。2000年前に繁栄した都市と市民の豊かな生活を体感できる、発掘資料の実物ならではの魅力が詰まった展覧会となった。
講演会等	なし

展覧会名	ユネスコ無形文化遺産 特別展「体感!日本の芸能—歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界—」
会 期	4年1月7日(金)～3月13日(日)(48日間)
会 場	東京国立博物館 表慶館
主 催	文化庁、日本芸術文化振興会、東京国立博物館、読売新聞社
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス

協 賛	清水建設、高島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
特別協力	宮内庁式部職楽部
協 力	日本俳優協会、文楽協会、人形浄瑠璃文楽座、能楽協会、国立劇場おきなわ運営財団、沖縄美ら島財団、国立映画アーカイブ
作品件数	141件
来館者数	15,405名（目標30,000人、達成率：51.4%）
入場料金	一般 1,500円、大学生 1,000円、高校生 600円
アンケート結果 満足度	90.9%
担当研究員数	1人
展覧会の内容	本展では、ユネスコ無形文化遺産一覧に登録された日本の伝統芸能（歌舞伎、文楽、能楽、雅楽、組踊）を一室に集め、それぞれの芸能が持つ固有の美とそれを支える「わざ」を紹介する。各展示室では、来館者が実際に舞台上上がり、伝統芸能ならではの舞台空間を臨場感たっぷりに体験できる再現舞台を設置するほか、実際の公演で使用されている衣裳、小道具、楽器等を展示する。
講演会等	なし

【京都国立博物館】

(1) 平常展(名品ギャラリー)

- ①開館日数 341日(名品ギャラリー開館日数：105日、特別展(鑑真)開館日数：44日(4月25日(日)～5月11日(火)は臨時休館)、特別展(京)開館日数：44日、特別展(畠山)開館日数：50日、庭園のみ開館日数：98日)
- ②展示総件数 753件
- ③展示替件数 749件
- ④入場料金 一般700円、大学生350円 ※庭園のみ開館時は一般300円
- ⑤特集展示等 全5件

	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
特別企画	オリュンピア×ニッポン・ビジュツ	6月5日～7月4日	113件(国宝17件、重要文化財26件、重要美術品1件)
特集展示	新収品展	4年1月2日～2月6日	43件(重要文化財2件)
新春特集展示	寅づくし—干支を愛でる—	4年1月2日～2月13日	36件(重要文化財5件、重要美術品1件)
特集展示	後期古墳の実像—播磨の首長墓・西宮山古墳—	4年1月2日～2月13日	67件
特集展示	雛まつりと人形	4年2月19日～3月21日	63件

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」
会 期	3月27日(土)～5月16日(日)(44日間、4月25日(日)～5月11日(火)は臨時休館)
会 場	平成知新館
主 催	京都国立博物館、律宗総本山 唐招提寺、日本経済新聞社、京都新聞、NHK京都放送局
特別協力	華嚴宗大本山 東大寺、真言宗泉涌寺派総本山 御寺 泉涌寺、真言律宗総本山 西大寺
協 賛	岩谷産業、カシオ計算機、NISSHA、日本通運、三井不動産
作品件数	160件(うち国宝13件、重要文化財65件、重要美術品3件)
来館者数	18,797人(目標来館者数50,000人、達成率：37.5%)
入場料金	一般1,800円、大学生1,200円、高校生700円
アンケート結果 満足度	73.4%
講演会等	・記念講演会(5回) 3月27日「鑑真和上の教え」講師：西山明彦師(律宗管長、唐招提寺八十八世長老) 4月 3日「律とは何か」講師：上杉智英(京都国立博物館 研究員) 4月10日「日本の戒律運動と日本人」講師：大原嘉豊(京都国立博物館 保存修理指導室長) 4月17日「俊苧と宋代戒律の日本への影響」講師：西谷功氏(泉涌寺宝物館「心照殿」学芸員) 5月 8日「鑑真和上とゆかりのみ仏たち」講師：浅湊毅(京都国立博物館 上席研究員)

展覧会名	特別展「京の国宝-守り伝える日本のたから-」
会 期	7月24日(土)～9月12日(日)(44日間)
会 場	平成知新館
主 催	文化庁、京都国立博物館、独立行政法人日本芸術文化振興会、読売新聞社
特別協力	キャノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協 賛	清水建設、高島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
作品件数	120件(うち国宝72件、重要文化財8件、重要美術品1件)
来館者数	37,065人(目標来館者数80,000人、達成率：46.3%)
入場料金	一般1,600円、大学生1,200円、高校生700円
アンケート結果 満足度	88.5%
講演会等	・記念講演会(6回) 7月24日「彫刻修理の歴史と現状」奥 健夫(文化庁文化財第一課 主任文化財調査官) 7月31日「国宝・重要文化財の指定—書跡・典籍、古文書を中心に—」藤田 励夫(文化庁文化財第一課 主任文化財調査官) 8月 7日「京の国宝—日本の文化財保護のあゆみと京都—」森 道彦(京都国立博物館 研究員) 8月21日「京の国宝—流転する工芸—」末兼 俊彦(京都国立博物館 主任研究員) 8月28日「京の国宝—絵画の美と評価の歴史—」井並 林太郎(京都国立博物館 研究員) 9月 4日「今日の文化財保存技術—装飾修理、特に紙を中心に—」地主 智彦(文化庁文化財第一課 文化財調査官)

展覧会名	特別展「畠山記念館の名品—能楽から茶の湯、そして琳派—」
会 期	10月9日(土)～12月5日(日) (50日間)
会 場	平成知新館
主 催	京都国立博物館、公益財団法人荏原畠山記念文化財団 畠山記念館、日本経済新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿
特別協力	—
協 賛	大成建設
作品件数	228件 (うち国宝6件、重要文化財31件、重要美術品7件)
来館者数	39,782人 (目標来館者数50,000人、達成率: 79.5%)
入場料金	一般1,800円、大学生1,200円、高校生700円
アンケート結果 満足度	76.1%
講演会等	・記念講演会 (4回) 10月9日「共に楽しむ茶の美術館—畠山コレクション誕生の背景とその魅力—」水田 至摩子 (畠山記念館学芸課長) 10月23日「近代の紳士能と大名家旧蔵能装束—加賀藩前田家伝来品をめぐって—」山川 暁 (京都国立博物館 工芸室長/企画室長) 11月6日「近代数寄者の琳派作品収集と畠山即翁」福士 雄也 (京都国立博物館 主任研究員) 11月20日「與衆愛玩—即翁蒐集の名物道具と数寄者との交友—」降矢 哲男 (京都国立博物館 主任研究員)

【奈良国立博物館】

(1) 名品展 (平常展)

- ①開館日数: 317日 (名品展のみの開館日数: 118日)
- ②展示総件数: 260件
- ③展示替件数: 44件
- ④入場料金: 一般 700円 大学生 350円
- ⑤特別陳列等: 全66件

名品展

- 珠玉の仏たち (なら仏像館) 126件
- 珠玉の仏教美術 (西新館) 0件
- 特集展示「新たに修理された文化財」 (西新館) 10件
- 中国古代青銅器 (青銅器館) 124件

特別陳列

	名称	会期	陳列件数 (うち指定品件数)
特別陳列	お水取り	3年2月5日～3月27日	66件 (重要文化財19件)

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」
会 期	4月27日(火)～6月20日(日) (49日間)
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館
主 催	奈良国立博物館、法隆寺、読売新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿、文化庁
後 援	—
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協 賛	清水建設、高島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
協 力	内田洋行、NISSHA、非破壊検査、奈良県、日本香堂、仏教美術協会
作品件数	174件 (うち国宝36件、重文75件)
来館者数	44,233人 (目標来館者数 100,000人・達成率 44.2%)
入場料金	一般2,000円、高校・大学生1,400円、小・中学生300円
アンケート結果 満足度	95.0%
担当研究員数	4名
展覧会の内容	本展覧会では法隆寺において護り伝えられてきた寺室を中心に、太子の肖像や遺品と伝わる宝物、飛鳥時代以来の貴重な文化財を展覧し、太子その人と太子信仰の世界を紹介した。
講演会等	○記念講演会 1回 参加者数 77人 5月1日(土)「聖徳太子—史実から信仰へ」東野治之 (奈良大学・大阪大学名誉教授) / 参加者数 77人 ○公開講座 2回 参加者数合計 159人 5月22日(土)「法隆寺と古代仏教の世界—工芸品から探る」三本周作 (学芸部研究員) / 参加者数 81人 6月19日(土)「法隆寺の仏像と聖徳太子信仰」山口隆介 (学芸部主任研究員) / 参加者数 78人

展覧会名	特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」
会 期	7月17日(土)～9月12日(日) (51日間)
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館
主 催	奈良国立博物館、読売新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿
後 援	—
特別協賛	—
協 賛	岩谷産業、大和ハウス工業、非破壊検査

協 力	日本香堂、仏教美術協会
作品件数	246件（うち国宝13件、重文100件）
来館者数	34,659人(目標来館者数 50,000人・達成率 69.3%)
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
アンケート結果 満足度	96.8%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	当館蔵品の中から選りすぐった作品によって、日本仏教美術1400年の歴史をたどり、奈良博の仏教美術コレクションの魅力を紹介した。
講演会等	○公開講座 6回 参加者数合計 416人 7月24日(土)「観仏画三昧—奈良博仏教絵画コレクションをあじわう—」谷口耕生(学芸部教育室長)/参加者数 68人 7月31日(土)「仏教工芸の魅力—奈良博のコレクションから—」三本周作(学芸部研究員)/参加者数 68人 8月7日(土)「奈良博の仏像コレクション—種類と時代—」岩井共二(学芸部美術室長)/参加者数 67人 8月28日(土)「古写経と古代文字史料」野尻忠(学芸部資料室長)/参加者数 63人 9月4日(土)「ちょっと良いかも、奈良博の考古」吉澤悟(学芸部長)/参加者数 78人 9月11日(土)「仏教美術の殿堂—奈良博コレクション形成史—」宮崎幹子(学芸部情報サービス室長)/参加者数 75人

展覧会名	第73回正倉院展
会 期	10月30日(土)～11月15日(月) (17日間)
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館
主 催	奈良国立博物館
特別協賛	—
協 賛	岩谷産業、NTT西日本、関西電気保安協会、近畿日本鉄道、JR東海、JR西日本、シオノギヘルスケア、ダイキン工業、ダイセル、大和ハウス工業、中西金属工業、丸一鋼管、大和農園
特別協力	読売新聞社
協 力	NHK奈良放送局、Osaka Metro、奈良交通、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、読売テレビ
作品件数	55件
来館者数	73,968人(目標来館者数60,000人・達成率 123.3%)
入場料金	一般2,000円、高校・大学生1,500円、小・中学生500円
アンケート結果 満足度	92.0%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	8世紀の東アジア文化の至宝である正倉院宝物55件を公開する。
講演会等	○公開講座 3回 参加者数合計 217人 10月30日(土)「正倉院の染織品にみる文様染め技法」片岡真純(宮内庁正倉院事務所保存課整理室員)/参加者数 78人 11月6日(土)「正倉院の筆」杉本一樹(宮内庁正倉院事務所宝物調査員(前所長))/参加者数 67人 11月13日(土)「正倉院のガラス器について—白瑠璃高坏を中心として—」吉澤悟(学芸部長)/参加者数 72人

展覧会名	特別展「名画の殿堂 藤田美術館展 —傳三郎のまなざし—」
会 期	12月10日(金)～4年1月23日(日) (35日間)
会 場	奈良国立博物館 西新館
主 催	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿
後 援	—
特別協力	藤田美術館
特別協賛	—
協 賛	大成建設、ライブアートボックス
協 力	Osaka Metro、日本香堂、仏教美術協会
作品件数	74件（うち国宝2件、重文5件）
来館者数	13,733人
入場料金	一般1,200円、高校・大学生1,000円
アンケート結果 満足度	87.5%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	藤田美術館の所蔵品の中から絵画作品を中心に構成し、コレクションの礎を築いた藤田傳三郎がどのような意識をもって美術品蒐集を行ったかに注目しつつ、各時代の名品を展覧した。あわせて、藤田美術館と当館が共同で行った絵画作品の調査の成果についても紹介した。
講演会等	○公開講座 1回 参加者数合計 59人 12月11日(土)「藤田家伝来の唐絵—中国絵画と中世日本水墨画」板倉聖哲(東京大学東洋文化研究所教授)/参加者数 59人

展覧会名	特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」
会 期	4年2月5日(土)～3月27日(日) (47日間)
会 場	奈良国立博物館 東新館
主 催	奈良国立博物館、読売新聞社、文化庁、日本芸術文化振興会
後 援	—
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス

協 賛	清水建設、高島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
協 力	日本香堂、仏教美術協会
作品件数	31件（うち国宝4件、重文1件）
来館者数	34,385人(目標来館者数 40,000人・達成率 85.9%)
入場料金	一般1,400円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
アンケート結果 満足度	95.3%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	かつて大御輪寺（大神寺）にあった聖林寺の十一面観音菩薩立像、法隆寺の地蔵菩薩立像、正暦寺の菩薩立像などの仏像と、仏教伝来以前の日本の自然信仰を示す三輪山禁足地の出土品などを展覧した。
講演会等	○公開講座 1回 参加者数合計 64人 4年3月5日(土)「聖林寺十一面観音菩薩立像をめぐって」岩井共二(学芸部美術室長) / 参加者数 64人

【九州国立博物館】

(1) 文化交流展（平常展）

- ①開館日数 306日(うち平常展のみ開館日数 112日) *大雨の影響により臨時休館(8月14・15日)、台風のため臨時休館(9月17日13時以降)
 ②展示総件数：2,183件(うち国宝68件、重要文化財227件)
 ③展示替件数：1,986件
 ④入場料金：一般700円、大学生350円
 ⑤特集展示・特別公開等：全6件

展示名称	特集展示「古代ガラスの世界-岡山市立オリエント美術館蔵品展-」				
開催期間	7月6日(火)～ 10月3日(日)	開催場所	文化交流展示室 第8室、第9室	陳列件数(うち 指定品件数)	168件
内容	岡山市立オリエント美術館の大規模改修に伴い、現在九博がお預かりしている所蔵作品の中から「古代ガラス」にまつわる作品を公開した。				
展示名称	ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2021～				
開催期間	7月13日(火)～ 9月5日(日)	開催場所	文化交流展示室 第7室	陳列件数(うち 指定品件数)	12件(うち重文1件)
内容	ユニバーサル・ミュージアムへの取り組みの一環として、実物展示に加えてレプリカや再現文化財を公開した。				
展示名称	特集展示「没後350年記念 明国からやって来た奇才仏師 范道生」				
開催期間	7月17日(土)～ 10月10日(日)	開催場所	文化交流展示室 第11室	陳列件数(うち 指定品件数)	20件
内容	没後350年を記念して、范道生にまつわる作品を公開した。				
展示名称	特集展示「琉球王国文化遺産集積・再興事業巡回展 手わざ-琉球王国の文化-」				
開催期間	10月19日(火)～ 12月12日(日)	開催場所	文化交流展示室 第9室、第10室、第11室	陳列件数(うち 指定品件数)	74件
内容	失われた琉球王国の文化遺産の原品と模造復元品を展示し、その製作工程も併せて紹介した。				
展示名称	特別公開「海の神殿・沖ノ島の美」				
開催期間	11月2日(火)～ 12月5日(日)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室2テーマ	陳列件数(うち 指定品件数)	21件(うち国宝20件)
内容	世界遺産「神宿の島」宗像・沖ノ島と関連遺産群を核とした文化観光推進地域計画の一環として、金製指輪をはじめとする沖ノ島祭祀遺物を公開した。				
展示名称	新春特別公開 徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度				
開催期間	4年1月1日(土)～ 30日(日)	開催場所	文化交流展示室 第9室	陳列件数(うち 指定品件数)	27件(うち国宝3件)
内容	徳川美術館に所蔵される国宝「初音の調度」のうち、刀掛、寄り掛り、掛硯箱の3件と、大揃いの南部家婚礼調度も併せて公開した。				

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	御大典記念 特別展「よみがえる正倉院宝物—再現模造にみる天平の技—」				
会 期	4月20日(火)～6月13日(日)(49日間)				
会 場	九州国立博物館 特別展示室				
主 催	宮内庁正倉院事務所、九州国立博物館・福岡県、朝日新聞社、西日本新聞社、NHK福岡放送局				
作品件数	86件(うち国宝0件、重要文化財0件)				
来館者数	18,157人(目標来館者数30,000人・達成率60.5%)				
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円				
アンケート結果 満足度	88.7%				
講演会等	・リレー講座 第1回「近代の正倉院と宝物の模造」樋笠逸人(学芸部文化財課アソシエイトフェロー) / 参加者数30人 第2回「2つの「模造 螺鈿紫檀五絃琵琶」」川畑憲子(学芸部企画課特別展室長) / オンライン開催				

展覧会名	特別展「皇室の名宝—皇室と九州をむすぶ美—」				
会 期	7月20日(火)～8月29日(日)(35日間) ※8月14～15日は大雨の影響により、臨時休館				
会 場	九州国立博物館 特別展示室				
主 催	九州国立博物館・福岡県、宮内庁、西日本新聞社、TVQ九州放送、日本経済新聞社				
作品件数	68件(うち国宝4件、重要文化財0件)				
来館者数	43,197人(目標来館者数50,000人・達成率86.4%)				

入場料金	一般 2,000 円、高大生 1,200 円、小中生 800 円
アンケート結果 満足度	91.7%
講演会等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記念講演会 「美を伝えゆく-《動植絵》と《春日権現験記絵》の修理をとおして」太田彩（宮内庁三の丸尚蔵館首席研究官）/参加者数140人 ・ 記念対談 「やきもの王国・九州と近代の皇室」沈壽官（沈壽官窯十五代・陶芸家）・岡本隆志（宮内庁三の丸尚蔵館主任研究官）/参加者数124人 ・ リレー講座/参加者数57人 「九州と帝室技芸員」望月規史（学芸部企画課主任研究員） 「皇室と九州・沖縄をむすぶ美」原田あゆみ（学芸部文化財課長）

展覧会名	特別展「海幸山幸—祈りと恵みの風景—」
会 期	10月9日(土)～12月5日(日) (50日間)
会 場	九州国立博物館 特別展示室
主 催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TVQ九州放送
作品件数	96件（うち国宝11件、重要文化財24件）
来館者数	17,383人(目標来館者数40,000人・達成率43.4%)
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円
アンケート結果 満足度	83.9%
講演会等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別記念講演会 「海山への祈り-九州の祭りの風景-」森弘子（福岡県文化財保護審議会委員）/参加者数109人 ・ リレー講座 きゅーはくオータムスクール第1回 森實久美子（学芸部文化財課資料登録室長）・今井涼子（交流課主任研究員）・大澤信（学芸部企画課研究員）/参加者数44人 きゅーはくオータムスクール第2回 松浦晃佑（学芸部文化財課研究員）・樋笠逸人（学芸部文化財課アソシエイトフェロー）・望月規史（学芸部企画課主任研究員）/参加者数47人

展覧会名	伝教大師1200年大遠忌記念特別展「最澄と天台宗のすべて」
会 期	4年2月8日(火)～3月21日(日) (37日間)
会 場	九州国立博物館 特別展示室
主 催	九州国立博物館・福岡県、天台宗、比叡山延暦寺、読売新聞社、西日本新聞社、文化庁
作品件数	114件（うち国宝23件、重要文化財69件）
来館者数	29,518人(目標来館者数40,000人・達成率74.8%)
入場料金	一般1,900円、高大生1,200円、小中生800円
アンケート結果 満足度	92.6%
講演会等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記念講演会 「最澄と九州天台」阿部昌宏（天台宗宗務総長）/参加者数136人 ・ 記念座談会 「英彦山と神仏習合の歴史と未来」高千穂秀敏（英彦山神宮宮司）、高千穂有昭（英彦山神宮禰宜）・大澤信（学芸部企画課特別展室研究員）/参加者数130人 ・ リレー講座 国宝講座～これであなとも立派な国宝～第1回 大澤信（学芸部企画課特別展室研究員）/参加者数60人 国宝講座～これであなとも立派な国宝～第2回 森實久美子（学芸部文化財課資料登録室長）・瓜生翠（学芸部博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー）/参加者数64人

【奈良文化財研究所】

【平城宮跡資料館】

(1) 平常展

- ①開館日数：265日（平常展のみの開館日数：153日）※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため5月2日～6月20日の間、臨時休館とした。
- ②展示総件数：561件
- ③展示替回数：0回
- ④入場料金：無料
- ⑤平常展のみの来館者数：12,942人

(2) 特別展、企画展等：3件

展覧会名	春期特別企画展 第一部「平城宮跡保存運動のさきがけ 一 大極殿標木建設式120周年一」 第二部「大地鳴動 一 大地の知らせる危機と私たちの生活一」		
会 期	4月29日(木・祝)～6月27日(日) (9日間)	会 場	平城宮跡資料館 企画展示室
主 催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	第1部約35件（0件） 第2部 2件（0件）
来館者数	688人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	夏期企画展「奈良を測る 一 森羅(もりおさむ)の庭園研究と作庭一」		
会 期	8月7日(土)～9月12日(日) (32日間)	会 場	平城宮跡資料館 企画展示室
主 催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	約30件（0件）
来館者数	1,157人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	秋期特別展「地下の正倉院展 ―木簡を科学するⅡ―」		
会 期	10月9日（土）～11月7日（日）（26日間）	会 場	平城宮跡資料館 企画展示室
主 催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	約50件（重要文化財3件、国宝3件）
来館者数	6,310人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	冬期企画展「発掘された平城 -2020・2021-」		
会 期	2月11日（祝・金）～3月27日（日）（45日間）	会 場	平城宮跡資料館 企画展示室
主 催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	約100件（0件）
来館者数	4,167人	入場料金	無料
講演会等	なし		

【藤原宮跡資料室】

(1) 平常展

- ①開館日数：308日（新型コロナウイルスの影響で5月1日～6月20日まで臨時休館。）
- ②展示総件数：534件
- ③展示替回数：1回
- ④入場料金：無料
- ⑤特集陳列等：5件
- ⑥平常展来館者数：5,226人

名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
【特集陳列】 飛鳥寺旧境内の調査（飛鳥藤原197-6次）	4月1日～9月30日	飛鳥寺所用軒瓦9点、鷗尾4点
藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第200次）	4月1日～9月30日	大極殿院出土軒瓦5点・軒平瓦3点
石神遺跡土坑SK1244・1245出土土器（石神遺跡第7次）	4月1日～9月30日	石神遺跡出土土器19点
藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第205次）	10月1日～3月31日	大極殿院出土軒丸瓦4点・軒平瓦7点・面戸瓦7点
石神遺跡南北溝SD1347・1476出土土器（石神遺跡第8・9次）	10月1日～3月31日	石神遺跡出土土器66点

【飛鳥資料館】

(1) 平常展

- ①開館日数：263日（平常展のみの開館日数：102日）
- ②展示総件数：143件
- ③展示替回数：0回
- ④入場料金：一般350円 大学生200円 高校生及び18歳未満、70歳以上は無料
- ⑤平常展のみの来館者数：4,775人

(2) 特別展、企画展等：4件

展覧会名	ミニ展示「新収蔵品紹介―呉と書かれた瓦」		
会 期	4月23日（金）～5月1日（土）（8日間）	会 場	飛鳥資料館 閲覧室
主 催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	1点（0件）
来館者数	535人		
入場料金	一般350円 大学生200円 高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会	-		

展覧会名	夏期企画展「第12回写真コンテスト作品展「飛鳥の木」		
会 期	7月16日（金）～9月12日（日）（51日間）	会 場	飛鳥資料館 特別展示室
主 催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	160点（0件）
来館者数	2,112人		
入場料金	一般350円 大学生200円 高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会	-		

展覧会名	秋期特別展「屋根を彩る草花―飛鳥の軒瓦とその文様―」		
会 期	10月15日（金）～12月19日（日）（57日間）	会 場	飛鳥資料館 特別展示室
主 催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	57点（0件）
来館者数	7,353人		
入場料金	一般350円 大学生200円 高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会	-		

展覧会名	冬期企画展「飛鳥の考古学2021」	会 場	飛鳥資料館 特別展示室
会 期	4年1月21日（金）～3月13日（日）（45日間）	陳列件数（うち指定品数）	129点（0件）
主 催	奈良文化財研究所		
来館者数	2,588人		
入場料金	一般350円 大学生200円 高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会	-		

b ボランティア受入実績

1 受入人数

令和4年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
725人	158人	40人	147人	251人	129人

2 活動内容

【東京国立博物館】 計158人

種別 (登録人数)	概要
生涯学習ボランティア (155人)	<p>1) 各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 新型コロナウイルスへの影響を勘案し、緊急事態宣言発令中は館内での活動をすべて休止、それ以外の期間は、活動内容を限定したうえで実施。</p> <p>【教育普及事業の補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインスクールプログラムの事前トライアルへ参加 (2回) ・オンラインワークショップの事前トライアルへの参加 (5回) ・講演会のサポート (7回) ・ボランティア執筆の投稿冊子を発行 (1回) ・オンライン機器利用研修会 (12回) ・本館特別4室「日本文化のひろば」対応 ・来館者対応 <p>【保存修復事業の補助 (令和3年度は休止)】</p> <p>【資料印刷・作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点字パンフレットの印刷 (9冊) ・たんけんマップの作成・オンライン化 (3回) ・自主企画グループのウェブ新聞作成 (7回) <p>【職場体験実施活動補助】</p> <p>対面での受け入れを中止したかわりに、オンライン等での職場インタビューを実施準備 申込0のため、実施無し。</p> <p>職場体験紹介動画の作成 (1回)</p> <p>【障がい者対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー対応班の発足 (29人) ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版作成 (9冊) ・盲学校のためのスクールプログラムの実施 (1回) ・バリアフリー班への情報発信等による研修 (通年) <p>【ボランティアデー開催】</p> <p>ボランティア内部の研修の一環として開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たてもの散歩ツアー (2回) ・樹木ツアー (2回) ・お茶会 (2回) ・オンラインによる、自主企画グループ16グループの紹介 (1回) ・オンラインギャラリートーク (1回) ・ボランティアの投稿による「誌上ボランティアデー」の発行 (1回) <p>2) 来館者参加型ガイドツアー</p> <p>ガイドツアーの再開に向けて、段階的に準備。ボランティア対象のガイドツアー、来館者参加型ガイドツアーの試行を野外のガイドグループが実施。また、各自主企画グループの勉強会を実施した。</p> <p>【ボランティア対象ガイドツアー】 25回181人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たてもの散歩ツアー (8回、61人)、 ・樹木ツアー (7回、58人) ・庭園茶室ツアー (2回、11人) ・お茶会 (6回、38人) ・アートスタジオ (2回、13人) <p>【来館者参加型ツアー (試行)】 10回143人</p> <ul style="list-style-type: none"> たてもの散歩ツアー (5回、90人) 樹木ツアー (5回、53人) ・自主企画グループ勉強会 (72回)
東京藝術大学大学院インターンシップ (3人)	<p>新型コロナウイルスの影響を勘案し、ガイダンス・検討会・リハール・ギャラリートーク等すべてをオンラインで実施。トーク対象は、当館ボランティア。</p> <p>「『御所車蒔絵硯箱』にみる精緻な技巧と意匠の調和について」 (4回47人)</p> <p>「唐津焼と茶道―《彫唐津茶碗 銘 巖》―」 (3回42人)</p> <p>「『南京赤絵周茂叔愛蓮図火入』にみる日中交流について」 (4回45人)</p> <p>※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数と</p>

種別 (登録人数)	概要
	して計上している。従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「1(3)①3」大学との連携事業等の実施」の事業である。詳細は処理番号1313Aを参照。

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】 計42回

- ・基本活動関連研修 31回 (ボランティアデー1回を含む)
- ・バリアフリー班研修 10回
- ・新規ボランティア研修 1回

【京都国立博物館】 計40人

種別 (登録人数)	概要
京博ナビゲーター (0人)	新型コロナウイルスの影響により活動を中止している。
調査・研究支援ボランティア(14人)	各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
文化財ソムリエ(20人)	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生が、当館研究員によるスクーリング(18回)を受けたのち、下記の活動で講師を務めた。 ・文化財に親しむ授業 7回・425人 ・記者体験in京都国立博物館 1回・57人
京都・らくご博物館学生ボランティア(6人)	当館主催で定期的に開催する「京都・らくご博物館」において、京都女子大学落語研究会の有志が運営に協力した。

【奈良国立博物館】 計147人

種別 (登録人数)	概要
ならはくボランティア (147人)	<p>【オンライン活動説明会の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年度登録ならはくボランティアの活動開始にあたってのオンライン活動説明会の実施(2回) ※ウェブ会議アプリを利用した実施 <p>【ならはく展示作品や当館の庭園・茶室案内の各自学習】</p> <p>ならはく展示作品や当館の庭園・茶室の案内の際に使用するツアーテキストを教室で新たに作成し、ボランティア全員に配布した。そのツアーテキストをもとに、ボランティアが各自練習を実施した。</p> <p>【奈良市世界遺産学習における案内の練習】</p> <p>奈良市世界遺産学習の事前学習案内用のテキストを教室で新たに作成し、ボランティアに配布した。そのテキストをもとに、ボランティアが各自練習を実施した。</p> <p>【学校オンライン中継授業の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県連携事業 アバターロボット(遠隔操作ロボット)を活用した小学校オンライン中継授業の実施(1回) ・大分県連携事業 アバターロボット(遠隔操作ロボット)を活用した中学校オンライン中継授業の実施(12回) ※新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、1月23日以降のボランティア活動を休止したため、ボランティアの代わりに教室職員が授業の実施を担当した。 ・奈良市世界遺産学習 小学校オンライン中継授業の実施(3回) ※新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、1月23日以降のボランティア活動を休止したため、ボランティアの代わりに教室職員が授業の実施を担当した。 <p>【学校オンライン中継授業実施準備のための練習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン形式による練習の実施(3回) ・ならはく展示作品や当館の庭園・茶室案内の練習の実施(9回) ・ならはく衣装の着付け練習会の実施(3回) ・ならはく展示作品や当館の庭園・茶室案内のリハーサルの実施(1回)

【ボランティアに対する研修の実施】 計27回

- ・展示作品案内等の活動に関する研修(Web会議アプリ利用形式・動画配信形式の2種の形式にて実施) 計19回
- ・特別展の研修(Web会議アプリ利用形式・動画配信形式の2種の形式にて実施) 計8回

【九州国立博物館】 計251人

種別 (登録人数)	概要
展示解説ボランティア(56人)	文化交流展示室内及び展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア(30人)	体験型展示室「あじっば」で来館者への対応。参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内日本語ボランティア(30人)	館内の施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。予約団体(一般・学校)、及び当日来館者に対応。バックヤードツアーは毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
館内案内外国語ボランティア(47人)	英語・韓国語・中国語での施設案内(ガイド)及びバックヤードツアーの案内。
環境ボランティア(27人)	IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
資料整理ボランティア(8人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。あじぎやらの郷土人形の企画展示。

種 別 (登録人数)	概 要
イベント・サポートボランティア (8人)	ボランティア主催イベントや他館ボランティアとの交流の企画・立案・実施。 ボランティア広報紙の作成 (年4回)。
学生ボランティア (6人)	高校生・大学生による子供向けイベントの企画・実施。 他館学生ボランティアとの連携。
フィールドボランティア (15人)	博物館周辺の自然環境 (山林及び水辺、遊歩道) の保全。
手話ボランティアグループ (24人)	地域のボランティアグループにより構成。聴覚障がいのある来館者の対応。

・この他博物館周辺の環境整備グループとして35人が活動 (NPO法人「九州国立博物館を愛する会」所属のためボランティアには含まない)。

【奈良文化財研究所】 計129人

種 別 (登録人数)	概 要
解説ボランティア (129人)	平城宮跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等

平城宮跡資料館企画展・特別展の展示研修 0回

解説ボランティア向け現地説明会 0回

解説ボランティア勉強会 0回

※新型コロナウイルスの影響により、対面での研修会等は中止せざるを得なかったが、代替策として展示解説資料等を各ボランティアに送付し各人の独習による形で研修を実施した。

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1) 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

令和4年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
1人	0人	0人	0人	0人	0人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	1人	0人		1人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	0人	0人		0人	

【本部文化財活用センター】 0人

【本部文化財防災センター】 0人

【東京国立博物館】 0人

【京都国立博物館】 0人

【奈良国立博物館】 0人

【九州国立博物館】 0人

【東京文化財研究所】 0人

【奈良文化財研究所】 1人

※部分について…E U一般データ保護規則により氏名・役職は非公開とする(対象E E A加盟国)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	※	英国	日本学術振興会外国人特別研究員	日本学術振興会外国人特別研究員として	3月28日～6年3月27日

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】 0人

2) 他機関の共同研究への参画実績

科学研究費助成事業の研究分担者等として参画（延べ人数）

令和4年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
158人	73人	27人	15人	15人	16人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	84人	29人		55人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1人				

【東京国立博物館】延べ 27人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大阪大学	光学的科学調査を軸とした初期洋風画とアジア太平洋海域美術交通に関する基盤的研究	教授 岡田 裕成	調査研究課工芸室研究員 福島修
2	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授 藤岡 穰	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行
3	九州国立博物館	公武の信仰を統合した足利將軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究	主任研究員 畑靖紀	列品管理課平常展調整室研究員 古川攝一
4	九州国立博物館	人類遺産としての先史壁画の保存と公開活用にむけた研究基盤の確立	学芸部長 河野一隆	調査研究課考古室研究員 山本亮
5	京都大学人文科学研究所	共同研究（課題公募班〔一般A班〕）「見えるもの」や「見えないもの」に関わる東アジアの文物や芸術についての学際的な研究	ヴュルツブルク大学教授 外村中	調査研究課工芸室主任研究員 清水健
6	慶應義塾大学	挑戦的研究(萌芽)「博物館の新たな在り方を模索するための体験学習・ワークショップ評価の構築」	特任講師 鳥谷真佐子	博物館情報課情報管理室長 阿児雄之
7	公益財団法人古代学協会	弥生時代高地性集落の列島の再検証	客員研究員 森岡秀人	調査研究課考古室研究員 山本亮
8	国立歴史民俗博物館	秦漢時代の文字使用をめぐる学際的研究	東京学芸大学 次世代教育研究センター准教授 下田誠	東京国立博物館客員研究員 谷豊信
9	国立歴史民俗博物館	研究プロジェクト「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」	館長 西谷大	博物館情報課情報管理室長 阿児雄之
10	筑波大学	恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築	教授 松井敏也	保存修復課環境保存室長 和田浩
11	筑波大学	「儒教美術史」構築のための発展的研究—東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化	助教 水野裕史	上席研究員 勝木言一郎
12	天理大学	地中海東岸地域における青銅器・鉄器時代移行期の再検討	教授 桑原久男	列品管理課平常展調整室主任研究員 小野塚拓造
13	東京藝術大学	基盤研究(C)美術解剖学教育の交流と展開 一独、UK、USA、NZの教育・研究の比較を通して	助教 宮永美知代	上席研究員 木下史青
14	東京大学	西洋中世における境界地域の統治システムに関する比較史的研究	教授 高山 博	企画課出版企画室アソシエイトフェロー 村松綾
15	東京大学史料編纂所	基盤研究(A)「コンテキストに応じた人文科学データパッケージ化に関する研究」	教授 山家浩樹	博物館情報課情報管理室長 阿児雄之
16	東京大学史料編纂所	東博所蔵写真史料(高精細データ)の解析	教授 保谷徹	博物館情報課情報資料室主任研究員 遠藤楽子
17	東京大学史料編纂所	撰関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究	教授 尾上陽介	百五十年史編纂室長 恵美千鶴子

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
18	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築—物質文化史の視点から	広領域研究室長 小林公治	企画課特別展室長 猪熊兼樹
19	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築—物質文化史の視点から	広領域研究室長 小林公治	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行
20	名古屋大学	中世拠点寺院の蔵書と美術に基づく人と知のネットワーク解明	教授 近本謙介	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛
21	京都国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長 松本伸之	保存修復課環境保存室長 和田浩
22	京都国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長 松本伸之	列品管理課長 沖松健次郎
23	奈良文化財研究所	埴輪の生産・流通体制の総合的検証にもとづく王権中枢部巨大古墳群造営過程の解明	考古第一研究室長 廣瀬覚	調査研究課考古室研究員 山本亮
24	南山大学	芸術との対話を経た公共圏の形成過程に関する実証研究	講師 佐々木陽子	博物館教育課教育講座室 山本桃子
25	早稲田大学	特別テーマ研究「新型コロナウイルス感染症の影響下における日本演劇界の調査研究」	助教 後藤隆基	博物館情報課情報管理室長 阿児雄之
26	京都国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長 松本伸之	博物館教育課長 伊藤信二
27	立教大学	王国から行政州へ—鉄器時代からペルシア時代のイスラエル北部の考古学的研究	教授 長谷川修一	列品管理課平常展室主任研究員 小野塚拓造

【京都国立博物館】延べ 15人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復元的研究—作品伝来情報の検討から—	学芸企画部主任研究員 土屋貴裕	学芸部企画室研究員 井並林太郎
2	奈良文化財研究所	古代都城から出土する製塩土器の生産地推定	都城発掘調査部室長 神野恵	学芸部長 尾野善裕
3	名古屋大学	古代における谷底平野および周辺丘陵部の開発と宗教施設の展開に関する研究	人文学研究科准教授 梶原義実	学芸部長 尾野善裕
4	奈良文化財研究所	蛍光X線分析と鉱物組成分析による大和の古代寺院・宮都出土瓦の生産・供給体制の研究	都城発掘調査部副部長 清野孝之	学芸部保存科学室長 降幡順子
5	国際仏教学大学院大学	「奈良朝勅定一切経」の総合的研究—漢文仏教テキストの資料的基盤の再構築に向けて	仏教学研究科教授 落合俊典	学芸部美術室研究員 上杉智英
6	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築—物質文化史の視点から	文化財情報資料部室長 小林公治	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
7	国際仏教学大学院大学	日本現存宋版大蔵経の基礎的研究とその受容・展開に関する総合的な研究	日本古写経研究所研究員 牧野和夫	学芸部美術室研究員 上杉智英
8	東北学院大学	平泉仏教文化の諸相とその社会的基盤に関する資料学的研究	文学部教授 七海雅人	学芸部美術室研究員 上杉智英
9	国文学研究資料館	金剛寺摩尼院聖教の調査を基盤とした日本中世の宗教的知の流通と蔵書形成に関する研究	研究部教授 海野圭介	学芸部美術室研究員 上杉智英
10	東京文化財研究所	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	保存科学研究センター室長 犬塚将英	学芸部保存科学室長 降幡順子
11	京都大学	五台山仏教文化圏における文物の生成・継承・波及	人文科学研究科教授 稲本泰生	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
12	京都大学	五台山仏教文化圏における文物の生成・継承・波及	人文科学研究科教授 稲本泰生	学芸部企画室研究員 井並林太郎
13	奈良県立橿原考古学研究所	三次元デジタル・アーカイブを活用した青銅器製作技術解明の総合的研究	企画部資料課係長 水野敏典	研究員 古谷毅
14	東京国立博物館	仏教儀礼的観点に基づく明兆作品の総合的研究	学芸研究部研究員 高橋真作	学芸部美術室研究員 森道彦
15	山形大学	壬辰戦争期、豊臣秀吉＝日本国王冊封のために贈られた明朝箭付・冠服類の総合的研究	人文社会科学部教授 新宮学	学芸部企画室長 山川暁

【奈良国立博物館】 延べ 15人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画—半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的研究—	教授 井手誠之輔	教育室長 谷口耕生
2	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画—半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的研究—	教授 井手誠之輔	情報サービス室主任研究員 北澤菜月
3	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授 藤岡謙	特任研究員 岩田茂樹
4	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授 藤岡謙	企画室主任研究員 山口隆介
5	奈良大学	古代～中世の「鍮石」と「真鍮」の研究—金に等しい価値があったころ—	名誉教授 西山要一	資料室長 野尻忠
6	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築—物質文化史の視点から—	室長 小林公治	保存修理指導室 アソシエイトフェロー 安藤真理子
7	島根大学	器物の「伝世・長期保有」・「復古再生」の実証的研究と倭における王権の形成・維持	准教授 岩本崇	学芸部長 吉澤 悟
8	北九州市立自然史・歴史博物館	藕糸織の基礎的研究—非破壊調査による藕糸織の再検討を中心に—	学芸員 富岡優子	情報サービス室主任研究員 北澤菜月
9	京都大学	五台山仏教文化圏における文物の生成・継承・波及	教授 稲本 泰生	教育室長 谷口 耕生
10	多摩美術大学	在米の仏像と仏具およびアーカイブ調査—寺宝流出と古美術商、収集家の関係とその実態	教授 木下 京子	企画室主任研究員 山口隆介
11	同上	同上	同上	工芸考古室研究員 三本周作
12	京都国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長 松本 伸之	列品室長 斎木 涼子
13	東京国立博物館	大谷探検隊将来品を中心とした西域美術の再評価に関する研究	上席研究員 勝木言一郎	保存修理指導室長 荒木臣紀
14	東京国立博物館	ユーラシア草原地帯と東アジアの青銅器鑄造技術の比較研究	客員研究員 高浜 秀	保存修理指導室長 荒木臣紀
15	文化財活用センター	仏教儀礼的観点に基づく明光作品の総合的研究	研究員 高橋 真作	保存修理指導室長 荒木臣紀

【九州国立博物館】 延べ 16人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	奈良大学	古代～中世の「鍮石」と「真鍮」の研究—金に等しい価値があったころ—	名誉教授 西山要一	学芸部企画課特別展室主任研究員 望月規史
2	東京大学史料編纂所	摂関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究	教授 尾上陽介	館長 島谷弘幸
3	京都国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長 松本伸之	副館長 小泉恵英
4	国立民族学博物館	博物館における持続可能な資料管理および環境整備—保存科学の視点から	人類基礎理論研究部教授 園田直子	学芸部博物館科学課長(兼) 環境保全室長 木川りか
5	大阪大学	地方基幹寺院に於ける文献資料調査と経蔵ネットワークの研究	文学研究科招へい研究員 中山一磨	学芸部文化財課資料登録室長 森貴久美子
6	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画—半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的研究—	人文科学研究院教授 井手誠之輔	学芸部文化財課資料登録室長 森貴久美子
7	同上	同上	同上	学芸部文化財課資料管理室主任研究員 畑靖紀
8	東京外国語大学	東南アジア「古代史」の下限としての14・15世紀に関する地域・分野横断的研究	総合国際学研究院教授 青山亨	学芸部文化財課長 原田あゆみ
9	奈良県立橿原考古学研究所	日本における初期王陵の実態解明—「国産化という産業革命」の視点から—	副所長 岡林孝作	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
10	奈良国立博物館	明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究	学芸部情報サービス室長 宮崎幹子	学芸部文化財課資料管理室アソシエイトフェロー 樋笠逸人
11	大阪大学	光学的科学調査を軸とした初期洋風画とアジア太平洋海域美術交通に関する基礎的研究	文学研究科教授 岡田裕成	学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員 鷲頭桂
12	同上	同上	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
12	同上	同上	同上	学芸部企画課文化交流転室アソシエイトフェロー 杉田真菜
14	筑波大学	「儒教美術史」構築のための発展的研究—東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化	芸術系助教 水野裕史	学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員 鷲頭桂
15	東京国立博物館	高精細X線CTスキャナ活用を中心とする古代中国の封泥の作成方法に関する総合的研究	客員研究員 谷豊信	学芸部企画課文化交流展室長 川村佳男
16	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復元的研究—作品伝来情報の検討から—	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長 土屋貴裕	学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員 鷲頭桂

【東京文化財研究所】 延べ 29人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	金沢大学	中東部族社会の起源：アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究	古代文明・文化資源学研究センター 特任教授 藤井 純夫	文化遺産国際協力センター 主任研究員 安倍 雅史
2	筑波大学	アンコール遺跡群における石材烈火の新展開とその集学的研究	芸術系 教授 松井 敏也	保存科学研究センター 客員研究員 片山 葉子

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
3	奈良大学	古代～中世の「鍮石」と「真鍮」の研究—金に等しい価値があったころ—	名誉教授 西山 要一	副所長 早川 泰弘
4	九州国立博物館	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	客員研究員 伊藤 嘉章	保存科学研究センター 室長 早川 典子
5	大阪大学	美術市場とその国際化に関する制度論的、交流史的研究。西洋から日本・アジアへの展開	文学研究科 教授 園府寺 司	文化財情報資料部 主任研究員 安永 拓世
6	東海大学	天文学との連携にもとづく考古学・古代史学研究法の構築	文学部 教授 北條 芳隆	無形文化遺産部 室長 石村 智
7	筑波大学	恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築	芸術系 教授 松井 敏也	保存科学研究センター センター長 建石 徹
8	筑波大学	恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築	芸術系 教授 松井 敏也	保存科学研究センター 客員研究員 片山 葉子
9	東京国立博物館	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	学芸研究部・平常展調整室 室長 皿井 舞	副所長 早川 泰弘
10	東京国立博物館	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	学芸研究部・平常展調整室 室長 皿井 舞	文化財情報資料部 専門職員 城野 誠治
11	京都大学	歴史的組積造建物及び遺跡の塩類風化メカニズム解明と予防的保存対策の開発	工学研究科 教授 小椋 大輔	保存科学研究センター 研究員 水谷 悦子
12	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復原的研究—作品伝来情報の検討から—	学芸企画部企画課 主任研究員 土屋 貴裕	文化財情報資料部 研究員 安永 拓世
13	愛知県立芸術大学	膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究および研究ネットワーク形成	美術学部 教授 北田 克己	保存科学研究センター 室長 早川 典子
14	愛知県立芸術大学	膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究および研究ネットワーク形成	美術学部 教授 北田 克己	保存科学研究センター 客員研究員 宇高 健太郎
15	大谷大学	モンゴルの世界遺産ブルカン・カルドゥン山に関する歴史文献学及び文化遺産学的研究	社会学部 教授 松川 節	文化財情報資料部 室長 二神 葉子
16	天理大学	地中海東岸地域における青銅器・鉄器時代移行期の再検討	文学部 教授 桑原 久男	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 間舎 裕生
17	東海大学	「模する」技術の発展と伝統的習俗の変容についての学際的研究	工学部 助教 野口 直人	無形文化遺産部 主任研究員 今石 みぎわ
18	龍谷大学	文化財建造物の伝統的塗装彩色材料・技術の系譜解明と修理施工・資料活用に関する研究	文学部 教授 北野 信彦	保存科学研究センター 保存環境研究室付 吉田 直人
19	早稲田大学	ネクロポリス・テーベにおける岩窟墓のライフ・ヒストリー	文学学術院 教授 近藤 二郎	文化遺産国際協力センター 研究員 前川 佳文
20	和光大学	デジタルアーカイブ時代における1960-70年代の芸術表現の拡張に関する研究	表現学部 教授 松枝 到	文化財情報資料部 主任研究員 橘川 英規
21	和光大学	デジタルアーカイブ時代における1960-70年代の芸術表現の拡張に関する研究	表現学部 教授 松枝 到	文化財情報資料部 客員研究員 三上 豊
22	沖縄国際大学	墓葬制資料に基づく近世琉球社会史の学際的研究	総合文化学部 准教授 宮城 弘樹	文化遺産国際協力センター 主任研究員 前川 佳文
23	奈良県立橿原考古学研究所	文化遺産を構成する煉瓦の微生物による劣化機構に関する研究	企画学芸部資料課 主任研究員 河崎 衣美	保存科学研究センター 客員研究員 片山 葉子
24	東京外国語大学	「コロナ状況」下で育まれる芸能—危機への応答・身体性をめぐる交渉・社会との関係	アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授 吉田 ゆか子	無形文化遺産部 室長 前原 恵美
25	岡山大学	心・身体・社会をつなぐアート/技術	文明動態学研究所 教授 松本 直子	無形文化遺産部 室長 石村 智

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
26	東京藝術大学	絹本着色絵画の技法史的展開に関する研究	社会連携センター 専門研究員 京都 絵美	保存科学研究センター 室長 早川 典子
27	東京国立博物館	高精細X線CTスキャナ活用を中心とする古代中国の封泥の作成方法に関する総合的研究	学芸研究部 客員研究員 谷 豊信	保存科学研究センター 室長 犬塚 将英
28	東京農工大学	真菌類が硫化カルボニル代謝により気体状硫黄を固定する生理的意義と代謝経路の解明	(連合)農学研究科(研究院) 教 授 吉田 誠	保存科学研究センター 客員研究員 片山 葉子
29	総合地球環境学研究所	オマーン南部海港都市の脆弱な社会環境下にあるリビングヘリテージの復興と継承	研究基盤国際センター 准教授 近藤 康久	無形文化遺産部 室長 石村 智

【奈良文化財研究所】延べ 55人

○科学研究費補助金 延べ 43人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	天皇家・公家文庫収蔵資料の高度利用化と日本目録学の進展—知の体系の構造伝来の解明	教授 田島 公	都城発掘調査部平城地区史料研究室長 馬場基
2	岡山大学	王陵級巨大古墳の構造分析に関する文理融合型総合研究	教授 清家 章	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第二研究室アソシエイトフェロー 木村理
3	帝京大学	シルクロードの国際交易都市スイヤブの成立と変遷—農耕都市空間と遊牧民世界の共存—	教授 山内 和也	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第二研究室研究員 山藤正敏
4	愛媛大学	4カ国アルタイ地域を対象とした初期鉄器時代の鉄器生産に関する実証的研究	教授 村上 恭通	都城発掘調査部平城地区主任研究員 丹羽崇史
5	東京大学	統合史資料画像データの生成と駆動方式の確立による人文科学研究基盤の創出	准教授 山田 太造	都城発掘調査部平城地区史料研究室長 馬場基
6	京都大学	古代・中世東西回廊—東南アジア大陸部交流網の歴史的動態	名誉教授 柴山 守	企画調整部国際遺跡研究室専門職 佐藤由似
7	東京都立大学	考古学・人類学・文化財科学の学際的研究による縄文社会論の再構築	教授 山田 康弘	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長 山崎健
8	東京大学	ホモ・サピエンス躍進の初源史：東アジアにおける海用進出のはじまりを探る総合的研究	教授 海部 陽介	都城発掘調査部平城地区主任研究員 森先一貴
9	東京大学	デジタル技術による金石文史料の研究資源化と学融合的歴史叙述への応用研究	准教授 菊地 大樹	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員 上相英之
10	国際仏教学大学院大学	「奈良朝勅定一切経」の総合的研究—漢文仏教テキストの資料的基盤の再構築に向けて	教授 落合 俊典	都城発掘調査部平城地区史料研究室客員研究員 杉本一樹
11	東京大学	コンテキストに応じた人文科学データパッケージ化に関する研究	教授 山家 浩樹	都城発掘調査部平城地区史料研究室長 馬場基
12	東北大学	石材構築文化財の保全のための3次元デジタルアーカイブの標準化の研究	教授 藤澤 敦	埋蔵文化財センター長 金田明大
13	東京大学	筆跡・花押情報の高度利活用研究—収集スキームの錬成と関連歴史情報との統合による—	教授 末柄 豊	都城発掘調査部平城地区主任研究員 桑田訓也
14	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授 三舟 隆之	都城発掘調査部平城地区史料研究室長 馬場基
15	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授 三舟 隆之	都城発掘調査部平城地区主任研究員 小田裕樹
16	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授 三舟 隆之	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長 山崎健
17	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授 三舟 隆之	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第二研究室長 森川実
18	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授 三舟 隆之	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田慎矢
19	近畿大学	東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較的研究	教授 網 伸也	都城発掘調査部平城地区主任研究員 小田裕樹

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
20	筑波大学	クメール王朝の都市構造と社会基盤の解明—高精度地形情報を利用した実査より	准教授 下田 一太	企画調整部国際遺跡研究室専門職 佐藤由似
21	鹿児島大学	「ボカシの文化」にメスを入れる	教授 高宮 広土	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田慎矢
22	立命館大学	実世界大規模建造物の形状理解のための、3次元計測ビッグデータの超高精細可視化	教授 田中 覚	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員 山口欧志
23	帝京大学	牛馬文化の渡来と変容過程の解明による新たな列島史像の構築	准教授 植月 学	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田慎矢
24	沖縄国際大学	小規模島嶼群における文化適応と潜在的な考古学的研究	准教授 新里 貴之	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田慎矢
25	東京大学	古代東アジアにおける建築技術体系・技術伝播の解明と日本建築の特質	准教授 海野 聡	都城発掘調査部平城地区遺構研究室アソシエイトフェロー 李暉
26	大谷大学	モンゴルの世界遺産ブルカン・カルドゥン山に関する歴史文献学及び文化遺産学的研究	教授 松川 節	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員 山口欧志
27	東海大学	東南アジア港市の船体考古資料調査と保存研究	准教授 木村 淳	副所長 高妻洋成
28	金沢大学	高句麗・渤海を東部ユーラシア史に位置づけるための基礎的研究	教授 古畑 徹	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員 中村亜希子
29	三重大学	日本古代の都市造営をめぐる土木技術史的研究	教授 小澤 毅	都城発掘調査部平城地区考古第三研究室長 今井晃樹
30	三重大学	日本古代の都市造営をめぐる土木技術史的研究	教授 小澤 毅	飛鳥資料館主任研究員 石田由紀子
31	京都橋大学	日本古代土器の複眼的編年検証に基づく通時代的特質の解明	准教授 中久保 辰夫	都城発掘調査部平城地区主任研究員 小田裕樹
32	東北大学	新たな長期年輪幅標準年輪曲線ネットワークの構築とそのオープンアクセス化	助教 大山 幹成	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治
33	東京文化財研究所	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	分析科学研究室長 犬塚 将英	副所長 高妻洋成
34	東北大学	中世禅院を拠点に流通した建築の形態・空間・技法に関する学際的・対外交渉史的研究	准教授 野村 俊一	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区主任研究員 鈴木智大
35	明治大学	璽印・ガラス・鉄器からみた西暦1～3世紀日本列島～東アジアの広域交流の重層性	専任教授 石川 日出志	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区主任研究員 田村朋美
36	明治大学	璽印・ガラス・鉄器からみた西暦1～3世紀日本列島～東アジアの広域交流の重層性	専任教授 石川 日出志	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第二研究室研究員 谷澤亜里
37	早稲田大学	出土陶磁器と交易関連文書に基づく前近代日本＝カンボジア間交易・交流史の復元研究	教授 田畑 幸嗣	企画調整部国際遺跡研究室専門職 佐藤由似
38	奈良県立橿原考古学研究所	古墳時代における甲冑製作および生産組織の実態解明	主査 吉村 和昭	企画調整部文化財情報研究室客員研究員 小林謙一
39	金沢大学	中国文明起源解明の新・考古学イニシアティブ	教授 中村 慎一	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田慎矢
40	南山大学	三次元データベースと数理解析・モデル構築による分野統合的研究の促進	准教授 中尾 央	埋蔵文化財センター長 金田明大
41	東京大学	アジアにおけるホモ・サピエンス定着プロセスの地理的編年の枠組み構築	教授 西秋 良宏	企画調整部長 加藤真二
42	筑波大学	災害に伴う地域の超長期的な変動の比較研究：東日本大震災被災地を事例に	准教授 木村 周平	埋蔵文化財センター上席研究員 小谷竜介
43	京都大学大学院	歴史的組積造建物及び遺跡の塩類風化メカニズム解明と予防的保存対策の開発	教授 小椋 大輔	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長 脇谷草一郎

○学術研究助成基金助成金 延べ 12人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	大阪大学	東部モンゴル新発見の突厥・ウイグル期の定住遺跡に関する歴史・考古学的調査研究	教授 大澤 孝	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員 山口欧志

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
2	奈良大学	3Dデータを利用した東アジアにおける文化遺産の保存と活用	教授 今津 節生	副所長 高妻洋成
3	東京大学	日露共同調査によるサハリン新石器時代社会形成過程の解明	准教授 福田 正宏	都城発掘調査部平城地区主任研究員 森先一貴
4	奈良県立橿原考古学研究所	旧石器時代サヌカイトの流通に関する体系的研究：東部瀬戸内地域を中心に	特別研究員 光石 鳴巳	都城発掘調査部平城地区主任研究員 森先一貴
5	京都府立大学	山口県域の銅生産・銅銭鑄造関係古代出土文字資料を用いた政治・社会的地域特質の解明	特任准教授 竹内 亮	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区史料研究室長 山本崇
6	金沢大学	ロシア沿海地方における渤海（698～926年）遺跡出土遺物編年の基礎的研究	客員教授 小嶋 芳孝	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員 中村亜希子
7	京都国立博物館	御室仁清窯跡出土陶片の科学的特徴－野々村仁清が受容した生産技術と陶工必用－	室長 降幡 順子	文化遺産部歴史研究室長 吉川聡
8	鹿児島国際大学	超・高密度三次元発掘記録法（悉皆的3D発掘）の開拓と展開を目指す実践的研究	教授 中園 聡	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員 平川ひろみ
9	身延山大学	旧石器時代の食料資源究明に関する基礎研究	講師 保坂 康夫	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田慎矢
10	近畿大学	X線CTを用いた多孔質材料内部の歪の分布測定と熱&水分移動・応力・歪連成解析	准教授 安福 勝	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長 脇谷草一郎
11	大阪府立自然史博物館	自然史系文化財を社会の中で維持・保全できるか？次世代ネットワーク管理の模索	課長代理 佐久間 大輔	埋蔵文化財センター環境考古学研究室客員研究員 松崎哲也
12	埼玉大学	深層学習を用いた画像診断による玉類の産地同定の簡易化研究	准教授 中村 大介	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区主任研究員 田村朋美

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ 1人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	人工的環境の構築と時空間認知の発達	助教 鶴見 英成	研究担当室長 野嶋洋子

3) 研究者海外派遣実績（延べ人数）

令和4年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
5人	1人	1人	0人	0人	0人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	4人	4人		0人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	0人	0人		0人	

【本部文化財活用センター】延べ 0人

【本部文化財防災センター】延べ 0人

【東京国立博物館】延べ 1人（科学研究費助成事業を除く）

（参考：科学研究費助成事業を含む合計人数は2人）

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	今井敦	中国	4年2月9日～3月10日	浙江省博物館「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバルライゼーション」展出陳文化財の点検・梱包・輸送	先方負担	浙江省博物館

○科学研究費助成事業：延べ1人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	小野塚 拓造	アメリカ	11月16日～11月22日	ASOR 大会での発表、シカゴ大学オリエンタ学研究での視察・打合せ	科学研究費	

【京都国立博物館】延べ 0人

【奈良国立博物館】延べ 0人

【九州国立博物館】延べ 0人

【東京文化財研究所】延べ 4人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	間舎 裕生	ネパール	12月3日～12月19日	国際協力機構の依頼による、考古学発掘調査及び測量調査手法に関する、ネパール文化観光航空考古局職員への技術移転、及びハヌマンドカ王宮内シヴァ寺院基壇部の現状調査	先方負担	
2	浅田 なつみ	カンボジア	1月9日～1月24日	タネイ寺院遺跡における建築調査及びICCへの出席	運営費交付金	
3	間舎 裕生	カンボジア	1月9日～1月24日	タネイ寺院遺跡における考古調査	運営費交付金	
4	友田 正彦	カンボジア	1月9日～1月24日	タネイ寺院遺跡における建築調査及びICCへの出席	運営費交付金	

【奈良文化財研究所】延べ 0人

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ 0人

c-② 調査研究テーマ一覧

令和4年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
145 件	67 件	27 件	13 件	15 件	12 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	75 件	22 件		53 件	
	本部文化財活用センター		アジア太平洋無形文化遺産研究センター		
	2 件	1 件			

【本部文化財活用センター】 2件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究 1件

調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1 レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	文化財活用センター	副センター長 小林牧

○その他有形文化財に関連する調査研究 1件

調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1 展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	文化財活用センター	保存担当課長 吉田直人

【東京国立博物館】 27件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究 24件

調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1 a. 特別調査「法隆寺献納宝物」(第42次)	学芸研究部	博物館教育課長 伊藤信二
2 e. 特別調査「絵画」第6回	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長 土屋貴裕
3 収蔵品等の有形文化財に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室長 市元壘
4 仏教美術等の光学的手法による共同研究	学芸研究部	列品管理課長 沖松健次郎
5 美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究	学芸研究部	列品管理課長 沖松健次郎
6 東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室長 猪熊兼樹
7 特集「那智の遺宝—出土品にみる霊地の威容—」に関連する調査研究	学芸研究部	博物館教育課長 伊藤信二
8 特集「岐阜県関市・春日神社の能狂言面」に関連する調査研究	学芸研究部	学芸企画部長 浅井龍介
9 特集「平安時代の名筆—高木聖鶴氏旧蔵品より—」に関連する調査研究	学芸研究部	百五十年史編纂室長 恵美千鶴子
10 特集「瓦が語る東大寺の歴史」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課考古室研究員 山本亮
11 特集「浅草寺のみほとけ」に関連する調査研究	学芸研究部	列品管理課貸与特別観覧室研究員 西木政統
12 特集「江戸時代にもたらされた中国書画」に関連する調査研究	学芸研究部	企画課出版企画室研究員 植松瑞希
13 特集「没後700年 趙孟頫とその時代—復古と伝承—」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室研究員 六人部克典
14 特集「全巻修理完了記念 日本最古の医学書・国宝「医心方」の世界」に関連する調査研究	学芸研究部	保存修復課長 富坂賢
15 館蔵の埴輪等資料に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課考古室長 品川欣也
16 特別展「聖徳太子と法隆寺」に関連する調査研究	学芸企画部	列品管理課平常展調整室長 皿井舞
17 特別企画「東アジアのうろしの世界」に関連する調査研究	学芸企画部	企画課特別展室長 猪熊兼樹
18 特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」に関連する調査研究	学芸企画部	企画課長 丸山士郎
19 マレーシア・イスラーム美術館精選「イスラーム王朝とムスリムの世界」に関連する調査研究	学芸企画部	上席研究員 勝木言一郎
20 博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長 矢野賀一
21 博物館教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長 伊藤信二
22 凸版印刷及び文化財活用センターと共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課長 今井敦
23 ICTを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長 伊藤信二
24 博物館広報・国際交流活動に関する調査研究	学芸企画部	上席研究員(兼) 広報室長 鬼頭智美

○その他有形文化財に関連する調査研究 3件

調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1 博物館の環境保存に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長 富坂賢
2 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課 村田良二
3 創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	学芸企画部	百五十年史編纂室長 恵美千鶴子

【京都国立博物館】 13件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究 9件

調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1 近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究	学芸部	調査・国際連携室主任研究員 降矢哲男
2 訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	美術室長 羽田聡
3 旧家伝来の工芸品に関する調査研究	学芸部	工芸室長 山川暁
4 京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究	学芸部	特任研究員 宮川禎一 研究員 古谷毅
5 特集展示・特別企画に関連する調査研究	学芸部	学芸部長 尾野善裕
6 特別展「京の国宝」に関する調査研究	学芸部	列品管理室研究員 森道彦
7 特別展「畠山記念館の名品」に関する調査研究	学芸部	調査・国際連携室主任研究員 降矢哲男

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
8	特別展「最澄と天台宗のすべて」に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長 大原嘉豊
9	博物館教育及びボランティアに関する調査研究	学芸部	教育室主任研究員 水谷亜希

○その他有形文化財に関連する調査研究 4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長 大原嘉豊
2	文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究	学芸部	保存科学室長 降幡順子
3	社寺等における保存環境に関する調査研究	学芸部	保存科学室長 降幡順子
4	データベースやアーカイブズ等、収蔵品等情報の整理・活用に関する調査研究	学芸部	列品管理室長 羽田聡

【奈良国立博物館】 15件

○有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究 12件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究	学芸部	教育室長 谷口耕生
2	古代・中世の写経と聖教に関する基礎的研究	学芸部	資料室長 野尻忠
3	仏教工芸・上代工芸の総合的調査	学芸部	特任研究員 内藤栄 研究員 三本周作
4	墳墓出土品の調査研究	学芸部	学芸部長（兼工芸考古室長） 吉澤悟
5	南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	学芸部	美術室長 岩井共二
6	東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	学芸部	教育室長 谷口耕生
7	特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」に関する調査研究	学芸部	教育室長 谷口耕生
8	特別展「第73回正倉院展」に関する調査研究	学芸部	研究員 三本周作
9	特別展「名画の殿堂 藤田美術館展 —傳三郎のまなざし—」に関する調査研究	学芸部	教育室長 谷口耕生
10	特別展「国宝 聖徳太子十一面観音—三輪山信仰のみほとけ—」に関する調査研究	学芸部	美術室長 岩井共二
11	特別展「大安寺のすべて—天平のみほとけと祈り—」に関する調査研究	学芸部	企画室長 中川あや
12	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	学芸部	教育室長 谷口耕生

○その他有形文化財に関連する調査研究 3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長 荒木臣紀
2	文化財修理の観点からの収蔵品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長 荒木臣紀
3	保存科学の観点からの収蔵品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長 荒木臣紀

【九州国立博物館】 12件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究 8件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	X線CTスキャナ等による文化財の構造や製作技法に関する調査研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長 木川りか
2	近世キリスト教に関する研究	学芸部文化財課	研究員 松浦晃佑
3	特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ かわいい考古学のススメ」に関する調査研究	学芸部企画課	主任研究員 西島亜木子
4	水中遺跡保護体制の設備充実に関する調査研究	学芸部	学芸部長 河野一隆
5	開館15周年記念特別展「海幸山幸-祈りと恵みの風景-」に関連する調査研究	学芸部文化財課	資料登録室長 森實久美子
6	特別展「北斎」に関連する調査研究	学芸部文化財課	主任研究員 畑靖紀
7	特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	学芸部企画課	主任研究員 西島亜木子
8	文化交流展示室における障がい者向け展示解説プログラムに関する調査研究	展示課 学芸部企画課 交流課	主任研究員 加藤小夜子 主任研究員 西島亜木子 主任研究員 今井涼子

○その他有形文化財に関連する調査研究 4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化財の材質・構造等に関する共同研究	学芸部博物館科学課	研究員 渡辺祐基
2	博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究	学芸部博物館科学課	保存修復室長 志賀智史
3	博物館危機管理としての持続的IPMシステムの研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長 木川りか
4	展示収蔵環境の空気質に関する調査研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長 木川りか

【東京文化財研究所】 22件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 7件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化財に関する調査研究成果及び研究情報の共有に関する総合的研究	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長 江村知子
2	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部	日本東洋美術史研究室長 小林達朗
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部	近・現代視覚芸術研究室長 塩谷純
4	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部	広領域研究室長 小林公治

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等及び無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等	無形文化遺産部	無形文化財研究室長 前原恵美
2	重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等	無形文化遺産部	無形民俗文化財研究室長 久保田裕道
3	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	無形文化遺産部	音声映像記録研究室長 石村智

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財情報資料部	文化財情報研究室長 二神葉子

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 7件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	保存科学研究センター	生物科学研究室長 佐藤嘉則
2	文化財の保存環境にかかる調査研究	保存科学研究センター	保存環境研究室長 秋山純子
3	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター	分析科学研究室長 犬塚将英
4	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	保存科学研究センター	修復計画研究室長 朽津信明
5	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	保存科学研究センター	修復材料研究室長 早川典子
6	多様な文化財の修復技術に関する調査	保存科学研究センター	修復技術研究室長 建石徹
7	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	保存科学研究センター	保存科学研究センター長 建石徹

(3) 文化遺産保護に関する国際協働 5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長 西 和彦
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長 金井健
3	文化遺産の保存修復技術に係る国際的研究	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長 加藤雅人
4	国際研修	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長 加藤雅人
5	在外日本古美術品保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長 加藤雅人

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 2件

○文化財情報基盤の整備・充実 2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部	文化財情報研究室長 二神葉子
2	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長 江村知子

【奈良文化財研究所】 53件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 20件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部	建造物研究室長 大林 潤
2	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長 吉川 聡

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 18件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡等整備）	文化遺産部	遺跡整備研究室長 内田和伸
2	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	文化遺産部	遺跡整備研究室長 内田和伸
3	平城宮跡東院地区の発掘調査（第633次）	都城発掘調査部 平城地区	都城発掘調査部長 箱崎和久
4	平城京左京一条二坊十五坪の発掘調査（第638・639次）	都城発掘調査部 平城地区	都城発掘調査部長 箱崎和久
5	平城宮・京の発掘調査（第642・646次）	都城発掘調査部 平城地区	都城発掘調査部長 箱崎和久
6	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長 清野孝之
7	日高山瓦窯の地下探査	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長 清野孝之
8	飛鳥地域等の発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長 清野孝之
9	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査研究	都城発掘調査部 平城地区	都城発掘調査部長 箱崎和久
10	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長 清野孝之
11	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館	学芸室長 石橋茂登
12	中国との共同研究	都城発掘調査部 平城地区	都城発掘調査部長 箱崎和久
13	韓国との共同研究	都城発掘調査部 平城地区	都城発掘調査部副部長 清野孝之
14	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	景観研究室長 中島義晴
15	全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長 金田明大
16	古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書の刊行	都城発掘調査部 平城地区	都城発掘調査部長 箱崎和久
17	古代瓦に関する研究集会の開催及び報告書刊行	都城発掘調査部 平城地区	都城発掘調査部長 箱崎和久
18	水中文化遺産に関する調査研究	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長 金田明大

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 11件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進 5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長 金田明大
2	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	年代学研究室長 星野安治

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
3	動植物遺存体の分析方法の研究開発	埋蔵文化財センター	環境考古学研究室長 山崎健
4	文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのICTを用いた普及・啓発手法の開発	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長 金田明大
5	物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究	埋蔵文化財センター	主任研究員 村田泰輔

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 6件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長 脇谷草一郎
2	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長 脇谷草一郎
3	考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長 脇谷草一郎
4	高松塚古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長 金田明大
5	キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長 金田明大
6	遺跡現地における壁画の安定した保存と公開活用を行うための劣化状態調査、適切な石室内の熱水分環境に関する検討	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長 脇谷草一郎

(3) 文化遺産保護に関する国際協働 4件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信（ユネスコ等）	企画調整部	国際遺跡研究室長 庄田慎矢
2	文化遺産に関する研究交流（イギリス等）	企画調整部	国際遺跡研究室長 庄田慎矢
3	アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業	企画調整部	国際遺跡研究室長 庄田慎矢
4	ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力	企画調整部	国際遺跡研究室長 庄田慎矢

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 6件

○文化財情報基盤の整備・充実 3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化財に関するデータベースの充実	企画調整部	文化財情報研究室長 高妻洋成
2	文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究	企画調整部	文化財情報研究室長 高妻洋成
3	図書等の収集・整理・公開・提供	研究支援推進部	連携推進課長 井関信雄

○調査研究成果の発信 1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	研究支援推進部	連携推進課長 井関信雄

○展示公開施設の充実 2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	企画調整部	企画調整部展示企画室長 加藤 真二、岩戸晶子 飛鳥資料館学芸室長 石橋 茂登
2	平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	研究支援推進部	連携推進課長 井関信雄

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 12件

○文化財に関する研修の実施 1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化財担当者研修	企画調整部 研究支援推進部	企画調整部長 加藤真二

○文化財に関する協力・助言等 5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	都城発掘調査部 平城地区	都城発掘調査部長 箱崎和久
2	地方公共団体等が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長 清野孝之
3	地方公共団体等が行う文化財及びその保存・活用に関する技術的助言	奈良文化財研究所	所長 本中眞
4	他機関等との共同研究及び受託研究	奈良文化財研究所	所長 本中眞
5	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長 金田明大

○平城宮跡・飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	研究支援推進部	研究支援課長 不藤忠義
2	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原・整備・活用等への協力	都城発掘調査部 平城地区	都城発掘調査部長 箱崎和久
3	国土交通省が行う平城宮いざない館での公開・活用事業への協力	企画調整部	展示企画室長 岩戸晶子
4	文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	飛鳥資料館	学芸室長 石橋茂登
5	NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	研究支援推進部	連携推進課長 井関信雄

○連携大学院との連携教育等の推進 1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進及び奈良大学への教育協力	奈良文化財研究所	所長 本中眞

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】 1件

調査研究テーマ名	担当部課
1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

(参考) 受託研究一覧

合計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	本部文化財防災センター	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
49 件	6 件	39 件	2 件	2 件

【東京文化財研究所】 6件

調査研究テーマ名	担当部課
1 国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	保存科学研究センター
2 特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	保存科学研究センター
3 美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業	保存科学研究センター
4 エアロゾル消火薬剤が文化財に与える影響	保存科学研究センター
5 文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化遺産国際協力センター
6 令和3年度文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」	文化遺産国際協力センター

【奈良文化財研究所】 39件

調査研究テーマ名	担当部課
1 高野山地区建造物調査業務	文化遺産部
2 東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務	都城発掘調査部(平城)
3 興福寺東金堂院伽藍整備に伴う発掘調査	都城発掘調査部(平城) 埋蔵文化財センター 企画調整部
4 平城京跡左京三条四坊十坪の発掘調査	都城発掘調査部(平城) 埋蔵文化財センター 企画調整部
5 平城京跡右京三条一坊十坪の発掘調査	都城発掘調査部(平城) 埋蔵文化財センター 企画調整部
6 史跡法華寺旧境内及び名勝法華寺庭園の発掘調査	都城発掘調査部(平城) 埋蔵文化財センター 企画調整部
7 史跡 法華寺旧境内の発掘調査	都城発掘調査部(平城) 埋蔵文化財センター 企画調整部
8 令和2年度水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業	都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター
9 令和3年度水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業	都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター
10 木造金剛力士立像2軀の製作年代調査	埋蔵文化財センター
11 木造源頼朝坐像解体修理(ともなう)年輪年代調査	埋蔵文化財センター
12 松帆銅鐸・舌の調査研究	埋蔵文化財センター
13 特別史跡キトラ古墳の保存・活用にかかる研究等業務	文化遺産部 都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター 企画調整部・飛鳥資料館
14 国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	文化遺産部 都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター
15 令和3年度文化遺産国際協力拠点交流事業実施委託業務(カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業)	企画調整部 都城発掘調査部(平城) 埋蔵文化財センター
16 平成31年度(2019年度)二国間交流事業共同研究 物質文化に見る前期青銅器時代1期南西カナンにおけるエジプト人居留地	都城発掘調査部(飛鳥・藤原)
17 松江市内社寺建築詳細調査	文化遺産部 都城発掘調査部(平城)
18 松江市内社寺建築悉皆調査業務	文化遺産部
19 生駒市内歴史的建造物悉皆調査業務	文化遺産部
20 和束の茶業景観における文化的景観全覧図作成業務	文化遺産部
21 第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	都城発掘調査部(平城) 企画調整部
22 明日香村西橋遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究	都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター
23 山口市周防銭司跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究	都城発掘調査部(飛鳥・藤原)
24 甘樫丘地区発掘調査	都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター 企画調整部
25 宝塚1号墳出土土輪軸再整理に係る遺物写真撮影・保存科学研究	企画調整部
26 「中世・近世石づくりのまち」調査研究	埋蔵文化財センター
27 令和3年度 史跡關鷄山古墳の調査保存に資する基礎的調査	埋蔵文化財センター
28 岡山県浅口市城殿山遺跡出土ガラス玉の自然科学的調査	埋蔵文化財センター
29 須玖岡本遺跡地中レーダー探査	埋蔵文化財センター

30	令和3年度 国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務	埋蔵文化財センター
31	自然災害伝承碑に係る試料写真撮影・表面光学処理	埋蔵文化財センター
32	塚坊主古墳地中レーダー探査及び電気探査	埋蔵文化財センター
33	橿岡古墳群から出土したガラス玉の分析業務	埋蔵文化財センター
34	ベンシヨ塚古墳出土眉庇付甕のX線CT撮影委託	埋蔵文化財センター
35	河内寺廃寺跡出土遺物整理業務に伴う瓦に付着した白色物質の材質調査	埋蔵文化財センター
36	X線CTを用いた陵東遺跡出土埴輪中の堆積物の撮像と立体構造データ作成	埋蔵文化財センター
37	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学的解析	埋蔵文化財センター
38	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務および解説案内等業務	企画調整部
39	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	研究支援推進部

【本部文化財防災センター】 2件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	被災美術工芸資料等安定化処理及び修理業務	文化財防災センター
2	令和3年度文化財防災のための詳細資料保存に係る調査等業務	文化財防災センター

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】 2件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	令和3年度 無形文化遺産保護パートナーシッププログラム	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
2	令和3年度 ユネスコ未来共創プラットフォーム事業「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究—教育と地域振興」	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

令和4年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
332件	166件	63件	40件	46件	17件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	140件	57件		83件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	2件	11件		13件	

【本部文化財活用センター】 11件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 4件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	「ファンドレイジングを通じた文化財への親しみの創出」	文化財活用センター総務担当 ファンドレイジング専門職員 古山珠美	2月10日	ぶんかつ3周年記念2021年度公開シンポジウム「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」
2	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	「デジタル技術による文化財の活用」	文化財活用センター 副センター長 小林 牧	12月15日	故宮博物院、テンセントテクノロジー有限公司 第2回「文化+科学技術国際フォーラム」
3	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	「オンラインによるアウトリーチプログラムの実践」	文化財活用センター 企画担当研究員 小島有紀子	1月29日	東京国立博物館 第8回ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業 国際シンポジウム「ミュージアムとオンライン 実践と展望」
4	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	建長寺蔵「観音図」（三十二幅）と十五世紀鎌倉地方画壇	文化財活用センター企画担当研究員 高橋真作	10月22日	基盤研究(B)「公武の信仰を統合した足利将軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究」研究会

○その他有形文化財に関連する調査研究 7件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	公開承認施設における保存環境の把握と対策	文化財活用センター保存担当課長 吉田直人	6月3日	文化庁 公開承認施設会議
2	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	博物館における空気環境問題とその対策－特に展示ケースについて－	文化財活用センター保存担当課長 吉田直人	11月2日	滋賀県博物館協議会 令和3年度第1回情報交換会
3	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	博物館等におけるATP拭き取り検査－カビ集落の活性評価と機器の特徴について－	文化財活用センター保存担当研究員 間淵創 東京文化財研究所保存科学研究センター生物科学研究室長 佐藤 嘉則	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会
4	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	保存科学 環境制御（保存環境管理）	文化財活用センター保存担当研究員 間淵創	9月7日	国文学研究資料館令和3年度アーカイブズ・カレッジ長期コース
5	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	IPMから見た博物館等の施設管理	文化財活用センター保存担当研究員 間淵創	12月1日	文化財虫菌害研究所第10回文化財IPMコーディネータ資格取得のための講習会
6	その他有形文化財に関連する調査研究	「ColBase」におけるデータの公開について	文化財活用センターデジタル資源担当課長 村田良二	12月12日	第11回文化財写真技術研究会
7	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	保存環境管理－展示照明－	文化財活用センター保存担当課長 吉田直人	3月3日	宮内庁正倉院事務所 宝物修理・保存技術指導

【本部文化財防災センター】 13件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財等の防災・救援等への寄与	文化財防災体制の構築に向けて	文化財防災センター長 高妻洋成	6月1日-8月31日 (オンライン公開)	文化財保存修復学会公開シンポジウム「東日本大震災の文化財レスキューを振り返る」
2	同上	文化財防災センターの発足	文化財防災センター長 高妻洋成	6月1日	令和3年度全国博物館長会議
3	同上	文化財防災センターについて	文化財防災センター長 高妻洋成	6月4日	国宝・重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会
4	同上	三次元動作解析システムによる強震動を受けた展示物および支持具の地震時挙動評価	文化財防災センター研究員 黄川田翔	7月3日	文化財保存修復学会第43回大会
5	同上	一次元振動台を用いた美術工芸品の転倒防止対策の評価	文化財防災センター研究員 黄川田翔	9月10日	日本建築学会2021年度大会（東海）
6	同上	地震対策の評価を目的とした美術工芸品の振動台試験について	文化財防災センター研究員 黄川田翔	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
7	同上	日本における文化財防災体制について	文化財防災センター長 高妻洋成	11月4日	ICOM-DRMC年次大会
8	同上	東日本大震災による宮城県の博物館被害	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介	11月6日	ICOM-DRMC年次大会東日本大震災10周年シンポジウム
9	同上	Activities and Issues of Cultural Heritage Disaster Risk Management in Japan (日本における文化財防災の取り組みと課題)	文化財防災センター長 高妻洋成	12月14日-15日	ACCU国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題」-災害時応急対応事例と課題-
10	同上	文化財防災センターの取り組み	文化財防災センター長 高妻洋成	12月21日	神奈川県立歴史博物館令和3年度緊急搬出訓練
11	同上	文化財防災センターとネットワークを通じた多様な文化財の救済	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介	12月21日	日本学術会議文化財分科会
12	同上	文化財防災の最近の動向	文化財防災センター長 高妻洋成	4年1月19日	岡山県文化財等救済ネットワーク研修会
13	同上	文化財を未来に継承するために-文化財防災センターの取り組み-	文化財防災センター長 高妻洋成	4年3月30日	日本博物館協会公開シンポジウム「これからの博物館防災を考える」

【東京国立博物館】 63件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 52件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	東京国立博物館の埴輪-群馬県域を中心に-	企画課特別展室主任研究員 河野正訓	4月11日	群馬県立歴史博物館講演会
2	同上	弥生時代における土製鋳型外枠の基礎的研究	調査研究課考古室アソシエイトフェロー 菊池望	8月21日~9月5日 (オンライン)	アジア鑄造技術史学会高岡大会
3	同上	津波被害を受けた陸前高田市立博物館所蔵「金銅装双塔文笈」の保存修復-旧調査記録を元にした欠失箇所の復元-	保存修復課保存修復室研究員 野中昭美、調査分析室専門職 宮田将寛	7月3日	文化財保存修復学会第43回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
4	同上	アフガニスタンから将来した「ストウツコ像」の技法材料研究	保存修復課調査分析室専門職 宮田将寛	7月3日	文化財保存修復学会第43回大会
5	同上	津波被災した陸前高田市立博物館の再生を目指した東京国立博物館の活動に関する総括	保存修復課保存修復室研究員 野中昭美、環境保存室長 和田浩、調査分析室専門職 宮田将寛	7月3日	文化財保存修復学会第43回大会
6	同上	文化財保存と機器による調査：隠れた線・形の発見	保存修復課調査分析室専門職 宮田将寛	8月28日	第27回 美術解剖学会 大会
7	同上	「木挽町狩野家伝来『公用扣』の紹介」	博物館教育課ボランティア室主任研究員 金井裕子	10月26日	江戸狩野研究会
8	同上	厳島神社蔵「平家納経」 平清盛とその魅力	百五十年史編集室長 恵美千鶴子	5月22日	慶応義塾大学教養研究センター新入生歓迎行事 連続講演企画 平家納経の世界—昇華する祈り—
9	同上	楽長入の創意について	博物館情報課長 今井敦	10月23日	茶の湯文化学会東京例会
10	同上	唐物模倣の論理	博物館情報課長 今井敦	12月4日	日本中世土器研究会
11	同上	周溝墓の発展と前方後円墳の成立過程	調査研究課考古室研究員 山本亮	11月18日	かながわ考古学同好会
12	同上	遼東公孫氏は考古学的に可視化できるのか	調査研究課東洋室長 市元壘	11月20日	東アジアの古代文化を考える会
13	同上	漁童吹笛図 鄭顛仙筆 橋本コレクション、華山傳堂圖 謝時臣筆 橋本コレクション	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	12月3日	関西中国書画コレクション研究会
14	同上	明・清時代旅行文化における実体験と絵画の関係	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	11月4日	EAAシンポジウム「コロナ禍における藝術の理論と実践」
15	同上	「神宝より見える、見えない日本の神々の姿」	調査研究課工芸室主任研究員 清水健	9月25日	共同研究（課題公募班〔一般A班〕）「見えるもの」や「見えないもの」に関わる東アジアの文物や芸術についての学際的な研究（令和3年度第2回研究会）
16	同上	16世紀パーゼルの金エコレクション形成にみる交流と流通 -ニュルンベルク由来鑄造作品を中心に-	企画課出版企画室アソシエイトフェロー 村松綾	6月19日	西洋中世学会第13回大会 自由論題報告5
17	同上	重要文化財 文殊菩薩騎獅像（京都・大智寺）のX線CT調査	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	9月18日～9月19日	日本文化財科学会
18	同上	大和・額安寺出土忍性骨蔵器の科学調査	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	9月18日～9月19日	日本文化財科学会
19	同上	五條猫塚古墳出土龍文透彫帯金具の自然科学分析	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	9月18日～9月19日	日本文化財科学会
20	同上	鉢石から貨幣になるまで	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	10月13日	日本銀行貨幣博物館勉強会
21	同上	鳥獸戯画八〇〇年の生命誌—伝来と研究史をたどる—	調査研究課絵画・彫刻室長 土屋貴裕	4月23日	連続講座「鳥獸戯画研究の最前線」
22	同上	存在しない名物漆器	調査研究課工芸室研究員 福島修	5月2日	茶湯文化学会
23	同上	「ドクロ茶室」考—X線CTスキャナーを用いた造形について	上席研究員 木下史青	8月28日	美術解剖学会
24	同上	津波被害を受けた陸前高田市立博物館所蔵「金銅装双塔文笈」の保存修復—旧調査記録を元にした欠失箇所への復元—	保存修復課保存修復室研究員 野中昭美、調査分析室専門職 宮田将寛	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会
25	同上	津波被災した陸前高田市立博物館の再生を目指した東京国立博物館の活動に関する総括	保存修復課保存修復室研究員 野中昭美、環境保存室長 和田浩、調査分析室専門職 宮田将寛	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会
26	同上	津波被災した木製彩色資料「算額」の展示活用を目的とした保存修復—3D技術を用いた欠損箇所の復元—	保存修復課保存修復室研究員 野中昭美	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会
27	同上	海水被害を受けた木質文化財中の残留塩化物の測定基準となる検量線の作成	保存修復課保存修復室研究員 野中昭美	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会
28	同上	コロナ禍における東京国立博物館博物館教育課のプログラム運営	博物館教育課長 伊藤信二	9月9日	令和3年日韓学術交流事業 パンデミック時代、日韓における博物館教育の挑戦と課題
29	同上	弥生時代青銅器生産研究における諸問題—土製鋳型の採用とその意義—	調査研究課考古室アソシエイトフェロー 菊池望	4年2月23日	国立歴史民俗博物館共同研究公開セミナー 近畿地方における弥生時代～古墳時代初頭の金属器生産と社会
30	同上	聖徳太子信仰と太子伝の生成—造形作品の検討から—	調査研究課主任研究員 三田覚之	4年3月21日	美術史学会（西支部大会）聖徳太子1400年御遠忌記念シンポジウム「聖徳太子太子伝とその視覚化」
31	同上	「風俗画と浮世絵—誰が描いたかということ—」	特任研究員 田沢裕賀	6月20日	国際浮世絵学会 第23回春季大会
32	同上	北海道常呂郡置戸町置戸山2遺跡の第5次発掘調査報告	調査研究課考古室研究員 飯田茂雄	5月23日	日本考古学協会第87回総会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
33	同上	大和地域における集落構造と遺構の変化	調査研究課考古室研究員 山本亮	4年3月5日	古代学研究会拡大例会・シンポジウム「弥生後期社会の実像—集落構造と地域社会」
34	同上	須恵器マルチヘッド・マルチタスク3D-2D-CNNモデル	調査研究課考古室研究員 山本亮	4年3月26日～ 3月27日	日本情報考古学会第46大会一般講演
35	同上	ヤボンセ・ロックーヨーロッパに渡った「日本着物」—	調査研究課工芸室長 小山 弓弦葉	4月24日	国際服飾学会
36	同上	Fashioning Identities としての「きもの」—特別展「きもの KIMONO」展と東京国立博物館での「きもの」の展示—	調査研究課工芸室長 小山 弓弦葉	6月26日	服飾美学会
37	同上	「きもの」の歴史と文化	調査研究課工芸室長 小山 弓弦葉	11月17日	農林水産省
38	収蔵品等の有形文化財に関する調査研究	瓦が語る東大寺の歴史	調査研究課考古室研究員 山本亮	10月23日	東京国立博物館月例講演会
39	美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究	中国絵画史研究における画絹への関心	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	12月17日	一般社団法人 国宝修理装演師連盟 オンライン研修会「絹と装演文化財」
40	東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究	「アジアの空想動物を語る」	上席研究員 勝木言一郎、 調査研究課東洋室長 市元 壘、企画課特別展室長 猪 熊兼樹、列品管理課平常展 調整室主任研究員 小野塚 拓造	9月20日	東京国立博物館月例講演会
41	東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究	鉄器時代 IIB 期の北イスラエルの物質文化：外来的要素とその背景	列品管理課平常展調整室主任研究員 小野塚拓造	10月31日	日本オリエント学会第63回大会
42	東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究	Anaharath, Amarna Letters (EA237-239), and Tel Rehesh	列品管理課平常展調整室主任研究員 小野塚拓造	11月20日	2021 Annual Meeting, American Society of Overseas Research
43	東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究	Tel Rehesh and Its Connectivity through the Iron Age: A Preliminary Perspective	列品管理課平常展調整室主任研究員 小野塚拓造	11月25日	JSPS-ISF Colloquium, <i>Between Tel Rehesh and Horvat Tevet: New Insights on Connectivity in the Eastern Jezzeel Valley during the Late Bronze and Early Iron Ages</i>
44	東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究	バビロニア時代？—テル・レヘシュの鉄器時代末期の年代について	列品管理課平常展調整室主任研究員 小野塚拓造	12月18日	第28回イスラエル考古学研究会（科研課題報告会）
45	東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究	X線技術を応用した封泥研究序説	客員研究員 谷豊信	11月7日	封泥研究会
46	同上	後期鉄器時代城塞とローマ時代ユダヤ人村落の調査—イスラエル国テル・レヘシュ第二期調査（2013～2017）—	列品管理課平常展室主任研究員 小野塚拓造	4年3月12日～ 3月13日	日本西アジア考古学会主催『第29回（2021年度）西アジア発掘調査報告会』
47	同上	楽浪土城の新たな研究にむけて 遺構の分析を中心に	客員研究員 谷豊信	11月26日	科学研究費基盤(A)「南縁・東縁地域における郡県都市の変容からみた“漢帝国の遺産”の東アジア史的意義」第2回研究会
48	同上	秦封泥の考古学的分類にむけた中間報告—東京国立博物館収蔵品を中心に—	客員研究員 谷豊信	4年3月14日	国立歴史民俗博物館共同研究「秦漢時代の文字使用をめぐる学際研究」第3回研究会
49	同上	コロナ禍における体験型展示の運営/オンラインワークショップの現状と課題	博物館教育課教育普及室長 藤田千織	9月9日	令和3年日韓学術交流事業 パンデミック時代、日韓における博物館教育の挑戦と課題
50	同上	新型コロナウイルス感染症対策の視点から試みた歴史的建造物内の文化財修理室における換気対策と修理作業環境維持に関する事例報告	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー 相川 悠、環境保存室長 和田浩	7月3日	文化財保存修復学会第43回大会
51	博物館教育に関する調査研究	理工系大学博物館の資源を活用したSTEAM教育としての文理芸術融合型オブジェクト介在型学習	博物館教育課教育講座室アソシエイトフェロー 山本 桃子	8月21日	日本科学教育学会
52	博物館広報・国際交流活動に関する調査研究	欧米がみた鳥獣戯画—近代における海外出品をめぐる—	上席研究員（兼）広報室長 鬼頭智美	4月23日	連続講座「鳥獣戯画研究の最前線」

○その他有形文化財に関連する調査研究 11件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	博物館の環境保存に関する調査研究	屏風の展示用支持具の耐震効果についての検証	保存修復課環境保存室長 和田浩	6月13日	日本展示学会第40回大会
2	同上	地震動を受けた屏風の挙動に関するシミュレーション	保存修復課環境保存室長 和田浩	6月14日	日本文化財科学会第38回大会
3	同上	法隆寺金堂壁画における壁面の保存・公開に関する研究-収蔵庫の限定公開と建具隙間の気密化を考慮した非公開時の環境調整方法の検討-	保存修復課環境保存室長 和田浩	6月14日	日本文化財科学会第38回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
4	同上	屏風下地を想定した木組み構造の振動応答解析シミュレーションに関する基礎的研究	保存修復課環境保存室長 和田浩	7月1日	日本包装学会第30回年次大会研究発表会
5	同上	3Dモデルを用いた文化財の地震対策シミュレーションに関する研究	保存修復課環境保存室長 和田浩	7月3日	文化財保存修復学会第43回大会
6	同上	津波被災した陸前高田市立博物館の再生を目指した東京国立博物館の活動に関する総括	保存修復課環境保存修復室 研究員 野中昭美、環境保存 室長 和田浩、調査分析室 専門職 宮田将寛	7月3日	文化財保存修復学会第43回大会
7	同上	新型コロナウイルス感染症対策の視点から試みた歴史的建造物内の文化財修理室における換気対策と修理作業環境維持に関する事例報告	保存修復課環境保存室アソ シエイトフェロー 相川 悠、環境保存室長 和田浩	7月3日	文化財保存修復学会第43回大会
8	同上	屏風に用いられる木製骨組み下地の振動応答特性に関する研究	保存修復課環境保存室長 和田浩	9月7日	日本機械学会2021年度年次大会
9	同上	文化財の振動対策	保存修復課環境保存室長 和田浩	10月6日	日本機械学会令和3年度第1回耐震問題研究会
10	同上	屏風用木製骨組みの振動応答特性に関する研究	保存修復課環境保存室長 和田浩	12月2日	第59回全日本包装技術研究大会
11	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	教科書編修趣意書を介した学習内容とデジタルコンテンツ接続可能性の検討	博物館情報課情報管理室長 阿児雄之	6月20日	2021年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会

【京都国立博物館】40件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 24件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	雛人形にみる衣裳	企画室長 山川 暁	1月22日	装道きもの学院 大阪校
2	同上	観尊の活動と関連作品	美術室長 羽田聡	7月16日	宇治市源氏物語ミュージアム
3	同上	孤篷庵の障壁画	保存修理指導室主任研究 員 福土雄也	7月16日	孤篷庵 DNP文化プログラム
4	同上	佐竹本三十六歌仙絵を味わう—歌と肖像の情緒—	企画室研究員 井並林太 郎	4月17日	50周年記念連続講座「遠山記念館の重要文化財」（遠山記念館 ※オンライン開催）
5	同上	平安絵巻としての鳥獣戯画—ストーリー展開の妙味—	同上	4月23日	連続講座「鳥獣戯画研究の最前線」（東京国立博物館）
6	同上	日本美術の基礎 絵画（古代）	同上	5月23日	大阪よみうり文化センター（メルパルク京都カルチャールーム）
7	同上	日本美術の基礎 絵画（中世前期）	同上	7月25日	大阪よみうり文化センター（メルパルク京都カルチャールーム）
8	同上	日本美術の基礎 絵画（中世後期）	同上	9月26日	大阪よみうり文化センター（メルパルク京都カルチャールーム）
9	同上	国宝「病草紙」—平安絵巻の問題作—	同上	10月2日	2021年度京カレッジ京都力養成コース京都学講座「“ファクターX”をさかのぼる—京都と疫病—」（キャンパスプラザ京都）
10	同上	日本美術の基礎 絵画（近世）	同上	11月28日	大阪よみうり文化センター（メルパルク京都カルチャールーム）
11	同上	古美術（文化財）の修理とは？—絵画について—	同上	4年1月23日	大阪よみうり文化センター（メルパルク京都カルチャールーム）
12	同上	「鳥獣戯画」の謎に迫る	同上	4年2月25日	中日文化センター「日本が誇る「国宝・四大絵巻」の世界」
13	同上	丹波、亀岡と狩野派の画家たち	列品管理室研究員 森道 彦	4年2月13日	亀岡市文化資料館
14	同上	「徳化李氏凡将閣珍藏」本の再検討	調査・国際連携室研究員 上杉智英	4年3月19日	京都国立博物館国際シンポジウム「敦煌写本研究の現在」
15	同上	「“揚州八怪”の作品をめぐる諸問題」	調査・国際連携室研究員 森橋なつみ	10月17日	関西中国書画コレクション研究会設立10周年記念 国際シンポジウム「中国書画コレクションの時空」（オンライン開催）
16	特別展「畠山記念館の名品」に関する調査研究	與衆愛玩 —即翁菟集の名物道具と数寄者との交友—	調査・国際連携室主任研 究員 降矢哲男	10月22日	高槻市生涯学習センター
17	同上	與衆愛玩 —即翁菟集の名物道具と数寄者との交友—	同上	10月26日	千里公民館
18	同上	與衆愛玩 —即翁菟集の名物道具と数寄者との交友—	同上	10月29日	宇治市生涯学習センター

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
19	特別企画「オリュンピア×ニッポン・ビジュツ」に関する調査研究	オリュンピア×ニッポン美術—多神教の神々の国と祭典競技—	企画室長 山川 暁	6月14日	一般社団法人 清風会総会
20	同上	オリュンピア×ニッポン・ビジュツの彫刻作品	上席研究員 浅萩毅	6月18日	京都市内博物館施設連絡協議会
21	教育活動に関する調査研究	近代京都の漆芸	教育室長 永島明子	9月11日	京都工芸繊維大学美術工芸資料館 展覧会「美術の教育／教育の美術」関連リレー講座「京都の近代化遺産—あらたな京都の発見—」（オンライン）⑤
22	同上	京都国立博物館におけるボランティア活動について	教育室主任研究員 水谷 亜希	4年2月27日	兵庫県立美術館ミュージアム・ボランティアコーディネーター養成セミナー
23	収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	日本の原始古代の考古学—日本列島における先史・原史・古代文化の展開—	研究員 古谷 毅	4年1月19日	京都大学国際高等教育院 日本語・日本文化研修プログラム 日本文化研修「博物館見学」講座
24	博物館の国際交流に関する調査研究	博物館・美術館での仕事	調査・国際連携室主任専門職 リンネ マリサ	10月28日	京都女子大学

○その他有形文化財に関連する調査研究 16件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の製作技法・材料等に関する調査研究	鉛釉陶器のはじまり—7・8世紀の出土遺物の化学的特徴から—	保存科学室長 降幡順子	6月13日	総研大大学院講演会『自然科学からみる歴史資料』
2	同上	密教法具の科学的調査—金勝寺所蔵品および京博所蔵品を中心に—	同上	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
3	国内外の博物館等への援助・助言等	The Kyoto National Museum's Facilities and Disaster Risk Countermeasures for Movable Cultural Properties	同上	9月13日	UNESCOチェアITC-DRMCH
4	その他有形文化財に関連する調査研究	猿投窯系須恵器編年の再編と下り松瓦窯の操業年代	学芸部長 尾野善裕	4年3月13日	公開シンポジウム「伊保谷からみた豊田市の古代」
5	同上	運慶の東国下向について	上席研究員 浅萩毅	12月4日	早稲田大学美術史学会秋季例会
6	同上	蒔絵の美	教育室長 永島明子	4年2月18日	国際茶道文化協会 青山グリーンアカデミー 第77期 茶の湯の美—漆の世界（オンライン講座）第4回
7	同上	美術のなかのミラクルないきものたち	同上	12月25日	KYOTO STEAM—世界文化交流祭—実行委員会（京都市 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化芸術企画課）OKAZAKI MARKET+ 参加型プログラム「幸福を呼ぶ新しいいきもの園」ロームシアター京都 プロムナード
8	同上	会読：梁武帝「斷酒肉文」（13）（大正五二・三〇〇中二六行「問涅槃云」～三〇一上五行「法寵無復答」）	企画室アソシエイトフェロー 趙ウニル	5月21日	京都大学人文科学研究所 研究班「中国在家の仏教観：唐道宣撰『広弘明集』を読む」（班長：船山徹、2020年4月～2024年3月）
9	同上	会読：梁武帝「斷酒肉文」（20）（大正五二・三〇二七行「佛告文殊師利」～三〇三上十三行「令知此意」）	同上	10月29日	京都大学人文科学研究所 研究班「中国在家の仏教観：唐道宣撰『広弘明集』を読む」（班長：船山徹、2020年4月～2024年3月）
10	同上	会読：梁武帝「斷酒肉文」（22）（大正五二・三〇三中十五行「又教捨言」～三〇三下六行「廣弘明集卷第二十六」）	同上	12月3日	京都大学人文科学研究所 研究班「中国在家の仏教観：唐道宣撰『広弘明集』を読む」（班長：船山徹、2020年4月～2024年3月）
11	同上	蓮華王院の千体仏堂 二つの視点	企画室アソシエイトフェロー ボレンガッセル ダニエル	5月15日	第65回国際東方学者会議
12	同上	エンターテイメントから始まる、もっと自由な刀の楽しみ方	同上	7月11日	姫路市立美術館パネルディスカッション
13	同上	日本原史（古墳時代）～古代における死生観	研究員 古谷 毅	4年2月13日	令和3年度 國學院大學文学部共同研究 公開研究会
14	文化財と国際交流に関する調査研究	海外から京都東山へ	調査・国際連携室主任専門職 リンネ マリサ	7月30日	京都東ロータリークラブ 卓話

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
15	同上	Comparing Fragments in the Costen Textile Traces Collection and the Hikone Sarasa Collection: Japanese Tastes in Indian Printed and Painted Cotton Textiles (日本女子大学名誉教授小笠原小枝の逐次通訳)	同上	11月18日	米国ジョージ・ワシントン大学付属テキスタイル・ミュージアム国際シンポジウム「Costen Textile Traces Global Roundtable: From India to the World」
16	同上	Contemporary Asian Textiles: In Conversation with Designers and an Artist (長板中形作家松原伸生の逐次通訳)	同上	4年2月22日	米国ネルソン・アトキンス美術館「Weaving Splendor: Treasures of Asian Textiles」展 特別国際パネルディスカッション

【奈良国立博物館】 46件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 36件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品等及び館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	行基墓誌断片を考える	学芸部長 吉澤悟	10月16日	奈良芸術短期大学歴史公開講座
2	同上	奈良博の壺	学芸部長 吉澤悟	11月21日	奈良国立博物館サンデートーク
3	同上	仏教美術って何？	学芸部長 吉澤悟	12月15日	しなやかエンジニア教育プログラム
4	同上	“サスティナブル”な文化財保存	保存修理指導室長 荒木臣紀	4年3月20日	奈良国立博物館サンデートーク
5	同上	斑鳩に残る飛鳥時代の面影を辿る	美術室長 岩井共二	10月30日	第176回奈良学講座
6	同上	金峯山寺仁王門 金剛力士立像—吉野から奈良に來臨した巨大仁王像—	美術室長 岩井共二	12月12日	近鉄文化サロン阿倍野
7	同上	平安貴族の信仰生活—仏教を中心に—	列品室長 齋木涼子	5月16日	奈良国立博物館サンデートーク
8	同上	『灌頂御願記』と『真言付法纂要抄』—真言僧の仏教史観と天皇—	列品室長 齋木涼子	9月5日	日本史研究会古代支部会（大会共同研究報告援助報告会）（オンライン開催）
9	同上	聖徳太子と法隆寺の美術	教育室長 谷口耕生	12月5日	奈良学セミナー
10	同上	壁邪絵をめぐる	教育室長 谷口耕生	4年1月16日	同上
11	同上	古代寺院の出土品が語るもの	企画室長 中川あや	7月11日	同上
12	同上	地獄絵の世界～奈良国立博物館所蔵品を中心に	情報サービス室主任研究員 北澤菜月	8月8日	同上
13	同上	絵はがきと仏像研究	企画室主任研究員 山口隆介	10月3日	同上
14	同上	浄土寺の仏像と重源上人	企画室主任研究員 山口隆介	10月9日	小野市立コミュニティセンターおの「知られざる浄土寺の至宝～來迎会衣装など初公開資料を中心に～」
15	同上	閻魔王と地獄の美術	教育室研究員 内藤航	12月22日	同上
16	同上	ほとけの装いにみる工芸	工芸考古室研究員 三本周作	4年2月20日	同上
17	同上	あこがれの天平絵画	美術室アソシエイトフェロー 萩谷みどり	9月12日	同上
18	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」に関する調査研究	絵画のなかの聖徳太子	情報サービス室主任研究員 北澤菜月	5月15日	朝日カルチャーセンター名古屋
19	同上	法隆寺の仏像と聖徳太子信仰	企画室主任研究員 山口隆介	6月19日	「聖徳太子1400年遠忌記念特別展 聖徳太子と法隆寺」公開講座
20	同上	法隆寺と古代仏教の世界—工芸品から探る—	工芸考古室研究員 三本周作	5月22日	同上
21	特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」に関する調査研究	ちょっと良いかも、奈良博の考古	学芸部長 吉澤悟	9月4日	「特別展 奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」公開講座
22	同上	奈良博の仏像コレクション—種類と時代—	美術室長 岩井共二	8月7日	同上
23	同上	観仏画三昧—奈良博仏教絵画コレクションをあげよう—	教育室長 谷口耕生	7月24日	同上
24	同上	古写経と古代文字史料	資料室長 野尻忠	8月28日	同上
25	同上	仏教美術の殿堂—奈良博コレクション形成史—	情報サービス室長 宮崎幹子	9月11日	同上

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
26	同上	仏教工芸の魅力—奈良博のコレクションから—	工芸考古室研究員 三本周作	7月31日	同上
27	特別展「第73回正倉院展」に関する調査研究	正倉院のガラス器について—白瑠璃高坏を中心として—	学芸部長 吉澤悟	11月13日	「第73回 正倉院展」公開講座
28	同上	「第73回 正倉院展」解説	工芸考古室研究員 三本周作	11月5日	賛助会員特別鑑賞会
29	同上	「73回 正倉院展」研究員による宝物の解説 パート1～5	工芸考古室研究員 三本周作	11月5日～30日	ならばくチャンネル
30	同上	正倉院宝物の歴史と魅力、そして今年の正倉院展から	特任研究員 内藤栄	9月3日	京都アスニー
31	同上	今年の正倉院展のみどころ	特任研究員 内藤栄	9月20日	読売新聞東京本社
32	同上	正倉院所蔵の韓半島遺物	特任研究員 内藤栄	11月2日	奈良韓国教育院
33	同上	せいぶ正倉院講座	特任研究員 内藤栄	11月5日	奈良市西部公民館
34	同上	「第73回 正倉院展」研究員レクチャー付き鑑賞券講演会	工芸考古室アソシエイトフェロー 伊藤旭人	11月4日	奈良国立博物館講堂
35	同上	奈良仏像けんきゅ一部（ゲスト出演）	工芸考古室アソシエイトフェロー 伊藤旭人	11月7日	同上
36	特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」に関する調査研究	聖林寺十一面観音菩薩立像をめぐって	美術室長 岩井共二	4年3月5日	同上

○その他有形文化財に関連する調査研究 10件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関する調査研究	文化遺産と社会	館長 井上洋一	4年1月27日	奈良シニア大学
2	同上	五條塚塚古墳出土龍文透彫帯金具の自然科学分析	学芸部長 吉澤悟、他3名	9月18日	文化財科学会
3	同上	博物館学芸員として働く	企画室長 中川あや	10月23日	大阪府立茨木高校（卒業生講座）
4	同上	仏教美術写真と文化財データベース—奈良国立博物館における蓄積と公開を中心に—	情報サービス室長 宮崎幹子	6月5日	第23回 洛北史学会大会（オンライン）
5	同上	奈良国立博物館の近現代建築	情報サービス室長 宮崎幹子	4年2月26日	日本建築家協会 文化財修復塾
6	同上	奈良国立博物館の建築と景観	情報サービス室長 宮崎幹子	4年3月21日	文化創造アルカ
7	同上	奈良と教育	工芸考古室研究員 三本周作	7月6日	奈良教育大学・奈良女子大学
8	同上	展示公開と保存	美術室アソシエイトフェロー 萩谷みどり	12月15日	奈良女子大学（ゲストスピーカー）
9	保存科学の観点からの収蔵品等の調査研究	収蔵品のコンディションチェック	保存修理指導室長 荒木臣紀	12月1日～31日	特定非営利活動法人 文化財保存支援機構（配信）
10	同上	保存修理指導室のお仕事—博物館科学の役割—	保存修理指導室アソシエイトフェロー 安藤真理子	8月8日	奈良国立博物館サンデートーク

【九州国立博物館】 17件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 3件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	浦添市美術館所蔵黒漆山水人物螺鈿料紙箱のX線CT調査から、修復計画変更までの経緯と結果報告	大西漆芸修復スタジオ 大西智洋、学芸部博物館科学課研究員 渡辺祐基、浦添市美術館 當山綾乃	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会（紙上開催）
2	同上	国宝「初音の調度」のうち貝桶、昆布箱、楊枝箱の構造・技法のX線CT調査	学芸部博物館科学課研究員 渡辺祐基、学芸部企画課特別展室長 川畑憲子、徳川美術館 吉川美穂、学芸部博物館科学課研究補佐員 田中麻美、同課長 木川りか	9月18日～19日	日本文化財科学会第38回大会（オンライン開催）
3	同上	コロナ禍におけるオンライン・プログラム	学芸部企画課特別展室主任研究員 西島亜木子	12月14日	令和3年度四国地区博物館協議会および日本博物館協会四国支部研修会（オンライン開催）

○その他有形文化財に関連する調査研究 14件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関連する調査研究	柳橋水車図をめぐる旅	学芸部博物館科学課主任研究員 鷲頭桂	10月30日	中之島香雪美術館 特別展「柳橋水車図の世界」記念講演会（中之島会館）
2	同上	Conservation of Paintings and Calligraphy at Kyushu National Museum（九州国立博物館における書画の修理）	学芸部博物館科学課主任研究員 鷲頭桂	11月1日	Online session “Research on procedures of making and restoration of traditional Asian cultural artifacts”, Kyushu National Museum and Heritage Conservation Centre of Singapore（オンライン）
3	同上	湿度制御した加熱処理による桐箱からの有機酸放散量低減化に関する検討	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 和泉田絢子、同研究員 渡辺祐基、同研究補佐員 富松志帆、松尾実香、同課長 木川りか	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会（紙上開催）
4	同上	文化財建造物を加害したシバンムシ科甲虫のDNAバーコーディングによる同定法の検討	東京文化財研究所 小峰幸夫、篠崎（矢花）聡子、佐藤嘉則、日光社寺文化財保存会 原田正彦、千葉県立中央博物館 齋藤明子、学芸部博物館科学課長 木川りか、京都大学大学院農学研究科 藤井義久	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会（紙上開催）
5	同上	木版印刷經典に付着した毛織物の観察	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 瓜生翠	9月18日～19日	日本文化財科学会第38回大会（オンライン開催）
6	同上	法隆寺金堂収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究-収蔵庫の限定公開時と建具隙間の気密化を考慮した非公開時の環境調整方法の検討	京都大学大学院工学芸研究科 小椋大輔、和田拓也、学芸部博物館科学課長 木川りか、東京国立博物館 和田浩、文化財保存活用センター 吉田直人、東京文化財研究所 秋山純子、佐藤嘉則、京都大学大学院農学研究科京都大学大学院工学芸研究科 藤井義久、銚井修一、伊庭千恵美、文化庁文化財部 森井順之	9月18日-19日	日本文化財科学会第38回大会（オンライン開催）
7	同上	IPM of Kyushu National Museum: Developing strategies and cooperation.	学芸部博物館科学課長 木川りか、同研究員 渡辺祐基、同アソシエイトフェロー 和泉田絢子、同研究補佐員 富松志帆、松尾実香	9月20日-22日	Pest Odyssey 2021, The Next Generation,（オンライン開催）
8	同上	Seasonal changes in the distribution of head capsule size of a silverfish species	学芸部博物館科学課研究員 渡辺祐基、同課長 木川りか、Canadian Conservation Institute T. Strang	9月20日～22日	Pest Odyssey 2021, The Next Generation,（オンライン開催）
9	同上	美術工芸品をはじめとする動産文化財の調査とレスキュー	学芸部博物館科学課長 木川りか	6月5日	福岡県建築士会主催ヘリテージマネージャースキルアップ講習会講師、福岡八重洲ビル
10	同上	美術品、動産文化財の調査とレスキュー	学芸部博物館科学課長 木川りか	10月2日	鹿児島県建築士会主催ヘリテージマネージャースキルアップ講習会講師、鹿児島大学
11	同上	博物館の環境管理	学芸部博物館科学課長 木川りか	12月2日	放送大学、九州国立博物館
12	同上	X線CTによるオオナガシバンムシの蛹化および羽化の観察	学芸部博物館科学課研究員 渡辺祐基、同課長 木川りか、京都大学大学院農学研究科 藤原裕子、藤井義久	4年3月15日～17日	第72回日本木材学会大会（オンライン開催）
13	同上	今帰仁阿応理屋患ノロが使用した勾玉の材質調査	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史	7月15日	文化財保存修復学会第43回大会（紙上開催）
14	同上	重要文化財沖繩県斎場御嶽出土品の材質と構造の調査	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史	9月18日～19日	日本文化財科学会第38回大会（オンライン開催）

【東京文化財研究所】 57件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 22件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 15件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	Building Bridges: Working Together to Disseminate Japanese Art Literature	文化財アーカイブズ研究室長 江村知子	5月13日	北米美術図書館協会第49回年次大会
2	日本東洋美術史の資料学的研究	「辟邪絵」の主題についての復元的考察	神奈川県立金沢文庫 梅沢恵	4月27日	文化財情報資料部研究会
3	同上	新出の住吉廣行筆「酒吞童子絵巻」（ライプツィヒ民族学博物館蔵）について	文化財アーカイブズ研究室長 江村知子	5月25日	文化財情報資料部研究会
4	同上	皆金色阿弥陀絵像の出現とその意味—転換期の時代思潮の表象	日本東洋美術史研究室長 小林達朗	11月5日	第55回オープンレクチャー
5	同上	カナダ・モントリオール美術館所蔵の熊野曼荼羅図について（仮）	文化財アーカイブズ研究室研究員 米沢玲	4年1月25日	文化財情報資料部研究会
6	同上	中世六道絵における阿修羅図像の成立	早稲田大学文学学術院教授 山本聡美	4年1月25日	文化財情報資料部研究会
7	同上	六道釈から読み解く聖衆来迎寺本六道絵	名古屋大学文学研究科 附属人類文化遺産テキスト学術センター 共同研究員 阿部美香	4年1月25日	文化財情報資料部研究会
8	日本の近・現代美術に関する調査研究・情報整備・資料収集	岸田劉生による「手」という図像—静物画を中心に—	近・現代視覚芸術研究室研究員 吉田暁子	4年2月24日	文化財情報資料部研究会
9	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	近現代日本における「南蛮漆器」の出現と変容—その言説をめぐって—	文化財情報資料部広領域研究室長 小林公治	7月16日	文化財情報資料部研究会
10	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	多変角測色計による貝類切片の分光分析	広領域研究室長 小林公治	9月18・19日	日本文化財科学会第38回大会
11	同上	螺鈿の位相—輸出用器物としての南蛮漆器—	広領域研究室長 小林公治	4年2月13日	九州大学国際シンポジウム「第一次グローバル時代の「モノと文化」」
12	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	香川・妙法寺の与謝蕪村筆「寒山拾得図襖」—画像資料を活用した復元的研究—	主任研究員 安永拓世	11月5日	第55回オープンレクチャー
13	同上	田中一松資料にみるコレクション形成の足跡—個人コレクターとの親交	文化財アーカイブズ研究室長 江村知子	4年1月8日	オンライン・シンポジウム「日本美術の記録と評価—美術史家の調査ノート」
14	文化財情報基盤の整備・充実	文化財の記録作成の意義	文化財情報資料部文化財情報研究室長 二神葉子	9月21日	文化財の記録作成に関するセミナー「文化財保護と記録作成・画像圧縮の原理」
15	同上	世界遺産条約の履行に関する最近の国内外の動向	文化財情報資料部文化財情報研究室長 二神葉子	11月30日	文化財情報資料部研究会

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 7件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等	Geoarchaeological information and cultural heritage disaster risk management: Cases in Japan	無形文化遺産部音声映像記録研究室長 石村智	12月7日	Culture, Heritage and Climate Change (ICSM CHC)
2	重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等	映像による記録作成とアーカイブ化にかかる実践的課題	無形文化遺産部主任研究員 今石みぎわ	6月12日	国立歴史民俗博物館共同研究「映像による民俗誌の叙述に関する総合的研究」第一回研究会
3	同上	民俗芸能のカタとカタチ	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長 久保田裕道	5月9日	儀礼文化学会
4	同上	民俗芸能の体系的把握を目的とした芸態研究の可能性	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長 久保田裕道	11月14日	民俗芸能学会
5	同上	Diversity in intangible cultural heritage as seen through lion dances	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長 久保田裕道	9月10日	Unesco Mongolian National Commission / ichcap
6	同上	A diversity-focused approach to musical instruments	無形文化遺産部無形文化財研究室長 前原恵美	9月10日	Unesco Mongolian National Commission / ichcap
7	無形文化財の保存・継承に関する調査研究	コロナ禍における研究機関の取り組み（鼎談）	無形文化遺産部無形文化財研究室長 前原恵美・早稲田大学教授 児玉竜一・武蔵野大学教授 三浦裕子	7月11日	楽劇学会

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 32件

○文化財の調査手法に関する調査研究 0件

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 32件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
1	文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	博物館におけるATP拭き取り検査-カビ集落の活性評価と機器の特徴について-	文化財活用センター研究員・間瀬創、生物科学研究室長・佐藤嘉則	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
2	同上	文化財を害したシバンムシ科甲虫のDNAバーコーディングによる同定法の検討	文化財防災センターAF・小峰幸夫、研究補佐員・矢花聡子、生物科学研究室長・佐藤嘉則他	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
3	同上	低酸素濃度殺虫法に用いる脱酸素剤からの有機酸発生	研究補佐員・岡部迪子、分析科学研究室長・犬塚将英、生物科学研究室長・佐藤嘉則他	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
4	同上	空調設備のない収蔵施設の保存環境改善-岐阜県関市春日神社の事例研究-	研究補佐員・小野寺裕子、生物科学研究室長・佐藤嘉則他	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
5	同上	虎塚古墳の壁画剥落片に形成された独特な微生物叢	奈良文化財研究所AF・松野美由樹、分析科学研究室長・犬塚将英、生物科学研究室長・佐藤嘉則他	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
6	同上	微生物による文化財の劣化と対策 ~古墳・洞窟壁画の微生物劣化~	生物科学研究室長・佐藤嘉則	9月9日	日本防菌防霉学会 第48回年次大会
7	同上	歴史的建築物における甲虫類駆除のための湿度制御温風処理	客員研究員・北原博幸、生物科学研究室長・佐藤嘉則他	10月31日	日本建築学会第50回熱シンポジウム
8	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	国宝高松塚古墳壁画仮設修理作業室におけるカビ環境管理指針の検討	研究補佐員・岡部迪子、生物科学研究室長・佐藤嘉則他	9月9日	日本防菌防霉学会 第48回年次大会
9	文化財の保存環境にかかる調査研究	特定波長域を遮光した照射下における黄色系染料の変退色挙動	保存環境研究室長・秋山純子他2名	9月18日	日本文化財科学会
10	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	日本絵画における白色顔料の変遷	副所長・早川泰弘	11月12日-13日	中国伝統色彩学術年会
11	同上	鉛金属の腐食と空気環境との関係についての調査事例	分析科学研究室長・犬塚将英他3名	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
12	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	常陸太田市・直牒洞の光環境と緑色生物	修復計画研究室長・朽津信明、分析科学研究室長・犬塚将英	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
13	同上	過去の写真・三次元データを用いた薬師堂石仏の崩落の検証	修復計画研究室長・朽津信明、研究補佐員・白石明香	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
14	同上	新宮市・九重の土砂災害慰霊碑の三次元印刷	修復計画研究室長・朽津信明、研究補佐員・白石明香、藤 隆宏、後 誠介、柳沼 由可子、西山 賢一	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
15	同上	天草市・アンモナイト館における化石の現地保存とその評価	修復計画研究室長・朽津信明、研究補佐員・白石明香、廣瀬浩司	10月14-15日	日本応用地質学会2021年度研究発表会
16	高松塚キトラ	Application of Cell Lytic Enzymes to Remove Biofilm from the Surface of East Asian Paintings	修復材料研究室長・早川典子ほか	5月17日-21日	ICOM-CC 19th Triennial Conference
17	文化財修復と伝統技法に関する調査研究	植物由来染織文化財の種同定における非破壊赤外分光分析利用の可能性 —葛・芭蕉を中心に—	修復材料研究室長・早川典子ほか	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
18	同上	Characteristics of lacquer coating films extracted from <i>Gluta usitata</i> before and after UV irradiation	研究員・倉島玲央	5月17日-21日	ICOM-CC 19th Triennial Conference
19	同上	タンバク質を混合した漆塗膜の表面状態と機械的強度の関係	研究員・倉島玲央	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
20	同上	多変角測色計による貝類切片の分光分析	研究員・倉島玲央	9月18日-19日	日本文化財科学会第38回大会
21	文化財修復材料と伝統技法に関する研究	Application of pyrolysis-comprehensive two-dimensional gas chromatography to the study of paper-based artefacts	客員研究員・稲葉政満他	5月17日-21日	ICOM-CC 19th Triennial Conference
22	同上	Degradation behaviour of Japanese painting paper in naturally aged hanging scrolls	客員研究員・稲葉政満他	5月17日-21日	ICOM-CC 19th Triennial Conference
23	同上	日本画掛軸から生成される揮発性有機化合物を用いた紙の自然劣化と加速劣化との比較	客員研究員・稲葉政満他	8月11日	文化財保存修復第43回学会
24	同上	和紙の緑青焼けと裏打ち層の効果	客員研究員・稲葉政満他	2月24日	マテリアルライフ学会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
25	同上	近現代資料に関する保存科学のノウハウ	客員研究員・川野辺渉	11月30日	第2回スポーツ関係資料の保存アーカイブ課題共有ワークショップ
26	同上	伝統的煤及び膠を用いた近似墨液インク並びに機械的料紙加工等を含む文化財リマスターシステムの開発	客員研究員・宇高健太郎、他 外部4名	8月11日	文化財保存修復第43回学会
27	同上	膠の概要と関連資料等について	客員研究員・宇高健太郎	11月27日	膠2021オンライン公開研究会
28	多様な文化財の修復技術に関する調査研究	産業遺産における活用—文化財の活用に関するアンケート調査結果—	アソシエイトフェロー・中村舞 他	11月27日	産業遺産学会
29	同上	空調機が稼働していない収蔵庫における木質材料の吸放湿挙動—タイプの異なる部屋の比較—	研究員・芳賀文絵 他	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
30	同上	宮城県における被災資料の保管環境管理について	研究員・芳賀文絵 他	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
31	同上	宮城県における被災資料の保全活動について	研究員・芳賀文絵 他	8月11日	文化財保存修復学会第43回大会
32	同上	The History of Japan's System for the Protection of Cultural Properties and Fire, Disaster and Crime Prevention Measures for Museums, Temples and Shrines	修復技術研究室長・建石徹 他	11月16日	ICCROM, "PREVENT:Building Capacities for Mitigating Fire Risk at Heritage Places"

(3) 文化遺産保護に関する国際協働 3件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 3件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	建築遺産における写真の役割	文化遺産国際協力センター保存計画研究室長 金井健	10月14日	ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保存協力事務所国別研修（インドネシア）
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	日本の調査隊によるイスラエルの考古学調査の歴史	アソシエイトフェロー 間舎裕生	4年2月20日	研究会 考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産
3	文化遺産の保存修復技術に係る国際的研究	ミャンマー・バガン遺跡における複合文化財として捉えた煉瓦造寺院の保存修復	文化遺産国際協力センター主任研究員 前川他	9月1日	日本文化財科学会科学会

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 0件

○文化財情報基盤の整備・充実 0件

○調査研究成果の発信 0件

【奈良文化財研究所】 83件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 19件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	当麻寺の中近世銘文の調査—曼荼羅堂・金堂につき—	文化遺産部・歴史研究室長 吉川聡他	12月4日	第43回木簡学会総会・研究集会

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 18件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	京都中川の北山林業景観における民家の庭の地域性	文化遺産部主任研究員 恵谷浩子	5月23日	2021年度日本造園学会全国大会ミニフォーラム
2	同上	文化的景観からとらえる京都らしさ	文化遺産部主任研究員 恵谷浩子	7月26日	京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab, <京都思考>研究会
3	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡等整備）	近代日本における史跡の保護と整備	文化遺産部長・内田和伸	8月27日	『第4回日韓文化財研究フォーラム』：日帝植民統治期の文化財の整備と復元 韓国 在外文化財財団
4	同上	日本統治下の朝鮮における史跡の保存と整備	文化遺産部長・内田和伸	8月27日	『第4回日韓文化財研究フォーラム』：日帝植民統治期の文化財の整備と復元 韓国 在外文化財財団
5	同上	史蹟名勝天然記念物保存法と山田寺の史蹟指定	文化遺産部長・内田和伸	10月23日	『特別史蹟山田寺 史蹟指定—00年』奈文研第13回東京講演会奈良文化財研究所 pp. 4-7
6	同上	平城宮を訪れた新羅使について	文化遺産部長・内田和伸	4月7日	奈良韓国教育院<古代の韓日関係を学ぶ奈良古代遺跡踏査プログラム
7	同上	移築移設された遺跡由来の遺構遺物の保存活用	文化遺産部長・内田和伸	4年3月15日	令和3年度遺跡整備・活用研究集会 移築された遺跡由来の遺構および石造物の現状と課題

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
8	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	東近江市五箇荘金堂の庭園 一外村市郎兵衛家住宅庭園を中心に	文化遺産部主任研究員・高橋知奈津	11月6日	日本庭園学会 関西支部大会
9	同上	近代庭園に用いた遺跡由来の石造物について	文化遺産部長・内田和伸	10月30日	大乗院庭園文化講座
10	同上	『築山庭造伝』を読む	文化遺産部主任研究員・高橋知奈津	4年3月20日	大乗院庭園文化館 文化サロン
11	古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書刊行	文献史料から見た古代集落	都城発掘調査部平城地区史料研究室研究員・垣中健志	12月18日	古代官衙・集落研究集会
12	古代瓦に関する研究集会の開催及び報告書刊行	奈良の鬼瓦	企画調整部展示企画室長・岩戸晶子	4年2月5日	古代瓦研究会
13	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	飛鳥の鷗尾	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第三研究室アソシエイトフェロー・道上祥武	5月15日	第3回令和あすか塾
14	同上	山田寺の歴史と発掘調査	都城発掘調査部副部長・清野孝之	10月9日	奈良文化財研究所第13回東京公演会 特別史跡山田寺跡史跡指定100年
15	同上	出土遺物からみた山田寺一瓦磚類を中心に	都城発掘調査部考古第三研究室長・林正憲	10月9日	奈良文化財研究所第13回東京公演会 特別史跡山田寺跡史跡指定100年
16	同上	考古学からみる大官大寺の実像	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第二研究室研究員・山藤正敏	11月20日	第4回令和あすか塾
17	同上	藤原宮大極殿院の構造と造営過程に関する再検討	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第一研究室長・廣瀬覚	12月25日	都城制研究会
18	水中文化遺産に関する調査研究	海底遺跡における沈没船の現地保存に関する研究 一鷹島海底遺跡における元軍船の埋め戻し法の検討とその評価	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進、同保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室研究員・松田和貴、副所長・高妻洋成 他2名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 49件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進 29件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	動植物遺存体の分析方法の研究開発	群馬県金井遺跡群における鹿角利用	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長・山崎健	7月4日	日本動物考古学会第8回大会
2	同上	遺跡出土マグロ属の体長推定と体長組成	埋蔵文化財センター環境考古学研究室客員研究員・松崎哲也	7月4日	日本動物考古学会第8回大会
3	同上	遺跡の花粉分析データからみた奈良県北部の植生変遷	埋蔵文化財センター環境考古学研究室客員研究員・上中央子	8月29日	日本第四紀学会2021年大会公開シンポジウム
4	同上	考古学者の道具箱	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長・山崎健	10月9日	近江貝塚研究会第355回例会
5	同上	西大寺食堂院跡出土の動物遺体	環境考古学研究室長 山崎健	4年3月4日	西大寺食堂院跡の古代食再現シンポジウム
6	年輪年代学研究	中部産ヒノキ属の2000年年輪幅標準年輪曲線構築	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治 他3名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
7	同上	ヒノキ科樹種年輪幅標準曲線ネットワークの氣候応答	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治 他7名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
8	同上	平城宮・京跡出土曲物の年輪年代測定一木簡の年紀との対応関係一	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治、都城発掘調査部平城地区考古第一研究室研究員・浦蓉子、副所長・高妻洋成	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
9	同上	高精度文化財資料撮像装置の開発	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治 他2名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
10	同上	年輪年代学の歴史・考古学分野への応用一平城京跡における事例を中心に一	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治	12月18日	2021年度樹木年輪研究会オンラインシンポジウム
11	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	縄文原体から社会を読む	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・高野紗奈江	5月16日	季刊考古学155号刊行記念 土器研究が拓く新たな縄文社会
12	同上	文化財の三次元計測方法による収集データの比較	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員・山口欧志	5月23日	日本考古学協会第87回総会研究発表
13	同上	土器作りの認知・身体技法と社会変化	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・平川ひろみ、埋蔵文化財センター一長・金田明大 他1名	7月18日	出ユーラシアの統合的人類学第5回全体会議 2021年7月18日 新学術領域研究（研究領域提案型）2019年度～2023年度「出ユーラシアの統合的人類学—文明創出メカニズムの解明—」

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
14	同上	遺跡発掘調査記録のDXの試行	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員・山口欧志	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
15	同上	三次元計測データで比較する同紋瓦と同範瓦―東大寺式軒丸瓦の検討―	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・中村亜希子、都城発掘調査部平城地区考古第三研究室長・今井晃樹、同飛鳥藤原地区考古第三研究室長・林正憲、同飛鳥藤原地区考古第三研究室研究員・岩永玲	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
16	同上	MRを利用した発掘調査支援システムの試行	埋蔵文化財センター長・金田明大、同主任研究員・村田泰輔、同遺跡・調査技術研究室研究員・山口欧志、同遺跡・調査技術研究室研究員・上相英之	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
17	同上	文化財のデジタル記録とその活用：ポロブドゥールの三次元計測を中心に	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員・山口欧志	7月8日	文化遺産国際協力コンソーシアム第39回東南アジア・南アジア分科会
18	同上	弥生土器における回転台問題とその論理	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・平川ひろみ 他1名	5月	日本考古学協会第87回総会
19	同上	3Dデジタル技術等の多角的応用による土器製作者の動的身体技法復元のための基礎研究―概要―	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・平川ひろみ	10月30日	日本情報考古学会第45回大会
20	同上	地域の「見慣れた」石造物の清掃・調査・3D計測―三島村黒島大里地区の仁王像と住民―	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・平川ひろみ 他4名	10月30日	日本情報考古学会第45回大会
21	同上	土器作りにおける身体を介した「心とモノ」の連関研究に向けて	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・平川ひろみ 他3名	10月30日	日本情報考古学会第45回大会
22	同上	「悉皆的3D発掘」および「ペーパーレス発掘」の試みと検討―鹿児島県三島村黒島大里遺跡の調査の事例から―	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・平川ひろみ 他3名	10月30日	日本情報考古学会第45回大会
23	同上	史跡整備の最新動向について：文化財のデジタル記録とその活用	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員・山口欧志	4年2月10日	長野県令和3年度史跡整備市町村協議会研修会
24	同上	福井城石垣の三次元記録	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員・山口欧志	4年2月20日	日本遺産調査研究講演会「石から深める、一乗谷と福井城」
25	文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのICTを用いた普及・啓発手法の開発	MRを利用した発掘調査支援システムの試行	埋蔵文化財センター長・金田明大、同主任研究員・村田泰輔、同遺跡・調査技術研究室研究員・山口欧志、同遺跡・調査技術研究室研究員・上相英之	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
26	物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究	美術工芸品等動産文化財の調査とレスキュー	埋蔵文化財センター上席研究員・小谷 竜介	7月10日	ヘリテージマネージャーのための文化財建造物保存修理技術スキルアップ講習会
27	同上	フィールドから生まれる学芸業務	埋蔵文化財センター上席研究員・小谷 竜介	6月19日	奈良大学「博物館実習講演会」
28	同上	東日本大震災から10年の道程～民俗芸能の再開と再定位～	埋蔵文化財センター上席研究員・小谷 竜介	7月11日	第29回楽劇学会体系
29	同上	川崎市市民ミュージアムの浸水被害と被災収蔵品レスキュー活動―支援団体と支援内容を中心にして	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室客員研究員・浜田 拓志	6月4日	令和3年度 国宝・重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 20件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	地盤に接する文化財の脱塩に関する研究―多孔質材料中における塩溶液の移動特性の検討―	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔、ほか3名	6月27日	日本建築学会近畿支部
2	同上	地盤に接する文化財の脱塩に関する研究―多孔質材料中における塩溶液の移動特性の検討―	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔、ほか3名	9月7日	日本建築学会
3	同上	地盤に接する文化財の脱塩に関する研究―多孔質材料中における塩溶液の移動特性の検討―	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔 他3名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
4	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	壁画構成材料の乾湿による膨張、収縮の測定	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎 他3名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
5	同上	蛍光X線分析による泥に覆われたキトラ古墳壁画の調査	副所長・高妻洋成、埋蔵文化財センター保存修復科学研究所アソシエイトフェロー・中田愛乃、同保存修復科学研究所客員研究員・辻本与志一他7名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
6	同上	虎塚古墳の壁画剥落片に形成された独特な微生物叢	埋蔵文化財センター保存修復科学研究所アソシエイトフェロー・松野美由樹 他5名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
7	同上	どうして古墳の副葬品は現在まで残るのか？—模擬古墳による金属製品の腐食メカニズムの検討	埋蔵文化財センター保存修復科学研究所研究員・柳田明進	11月13日	第127回奈良文化財研究所公開講演会
8	同上	文化財の調査・保存・活用に関する取り組みについて	埋蔵文化財センター保存修復科学研究所アソシエイトフェロー・中田愛乃	12月4日	東京都市大学 キャリアデザイン
9	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵時の鉄製文化財の腐食を支配する土中溶存酸素の挙動に関する検討—マイクロ酸素センサを用いた溶存酸素拡散層の実測	埋蔵文化財センター保存修復科学研究所研究員・柳田明進、同保存修復科学研究所長・脇谷草一郎、副所長・高妻洋成	5月19日	材料と環境2021
10	同上	溶媒蒸発速度の制御による水浸出土木製遺物の保存処理における薬剤含浸の効率化（その2）	副所長・高妻洋成、埋蔵文化財センター保存修復科学研究所長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究所研究員・松田和真	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
11	同上	木簡の劣化を抑制する保存処理と保存環境調整	埋蔵文化財センター保存修復科学研究所長・脇谷草一郎	12月4日	木簡学会第43回研究集会
12	考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究	目梨泊遺跡出土のガラス玉について	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究所兼務）・田村朋美	6月5日	目梨泊遺跡（北海道・枝幸町）出土：金銅装直刀の技法材料およびその歴史的背景に関する研究会（2）
13	同上	元素分析および同位体比分析から見た古代ガラスの産地と交易	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究所兼務）・田村朋美	6月25日	プラズマ分光分析研究会第112回講演会
14	同上	ガラス製品の同位体比分析	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究所兼務）・田村朋美	6月26日	ウズベキスタン・フハラオアシス遺跡出土ガラス製品に関する調査研究会
15	同上	COMPOSITIONAL AND ISOTOPIC INVESTIGATION OF PLANT-ASH GLASS BEADS IN JAPAN	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究所兼務）・田村朋美、埋蔵文化財センター保存修復科学研究所客員研究員・大賀克彦	9月14日	The 22nd Congress of the Association International pour l'Histoire du Verre & ICOM Glass Meeting
16	同上	福岡県平原1号墓出土の紺色重層ガラス連珠の再検討	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究所兼務）・田村朋美 他6名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
17	同上	元素分析による田能遺跡出土管玉の分類学的検討	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究所兼務）・田村朋美 他3名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
18	同上	アイヌ文化期におけるガラス玉の時期変遷に関する考古学研究—化学組成と鉛同位体比分析—	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究所兼務）・田村朋美 他1名	9月19日	日本文化財科学会第38回大会
19	同上	海を越えたガラスビーズ—東西交易とガラスの道	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究所兼務）・田村朋美	11月28日	令和3年度 文化遺産国際協カコンソーシアム シンポジウム「海と文化遺産—海が繋ぐヒトとモノ—」
20	同上	A Study on the Structure and Significance of the North Sanctuary at Western Prasat Top	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究所兼務）・田村朋美 他3名	12月14日	The SEAMEO SPAFA International Conference 2021 on Southeast Asian Archaeology and Fine Arts (SPAFACON2021)

(3) 文化遺産保護に関する国際協働 7件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 7件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進	ポスト・アンコール期カンボジア王都の調査	企画調整部国際遺跡研究室専門職・佐藤由似	5月22日	クメール王朝都市科研勉強会
2	同上	ポスト・アンコール期王都の調査	企画調整部国際遺跡研究室専門職・佐藤由似	6月12日	ポスト・アンコール研究会
3	同上	A Study on the Structure and Significance of the North Sanctuary at Western Prasat Top	企画調整部国際遺跡研究室専門職・佐藤由似、都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究所兼務）・田村朋美	12月14日	SPAFACON21
4	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	アメリカ北西海岸民族誌にみる編組製品と土器の相互補完性	企画調整部国際遺跡研究室アソシエイトフェロー・西原和代	10月31日	日本植生史学会第36回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
5	同上	カザフスタン先史時代のキビ利用に関する新たな考古植物学的証拠	企画調整部国際遺跡研究室・庄田慎矢、同国際遺跡研究室アソシエイトフェロー・村上夏希	10月31日	日本植生史学会第36回大会
6	同上	サイエンスとロマンのはざま：アルコール発酵を考古学する	企画調整部国際遺跡研究室長・庄田慎矢	10月1日	日本ソムリエ協会奈良支部講演会
7	同上	East-West Interaction of Cereals in Eurasia: The 'Globalisation of Food' in Prehistory	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田慎矢	4年3月19日	ILCAA Joint Research Project "Studies in Asian and African Geolinguistics" The 4rd meeting

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 8件

○文化財情報基盤の整備・充実 8件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関するデータベースの充実	考古学・埋蔵文化財の情報プラットフォームとしての全国遺跡報告総覧—When Where Whatで検索できるシステムを目指して—	企画調整部文化財情報研究室 研究員・高田祐一	5月23日	日本考古学協会第87回総会研究発表 セッション4 オープンサイエンス時代の考古学・埋蔵文化財情報 日本考古学協会
2	同上	「全国遺跡報告総覧」と文化財論文ナビ	企画調整部文化財情報研究室 研究員・高田祐一	7月18日	文化財論文ナビ×博物館・図書館連携で拡げるオープンな文化財情報 考古形態測定学研究会
3	同上	地域の文化財を調べる・Wikipediaに引用する	企画調整部文化財情報研究室 研究員・高田祐一	9月4日	考古学・文化財のためのデータサイエンス・サロンonline#17 考古形態測定学研究会
4	同上	全国遺跡報告総覧：日本考古学の最大規模のデータベース	企画調整部文化財情報研究室 研究員・高田祐一、同文化財情報研究室アソシエイトフェロー・ヤナセ・ペーテル	9月6日	The 11th Conference of Japanese Association for Digital Humanities (JADH2021) The Japanese Association for Digital Humanities
5	同上	文化財×Wikipedia—地域における考古学・文化財情報発信の方法として—	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・野口淳、企画調整部文化財情報研究室研究員高田祐一 他5名	10月30日	日本情報考古学会第45回大会 日本情報考古学会
6	同上	コメント—文化財・利活用の観点から—	企画調整部文化財情報研究室 研究員・高田祐一	12月3日	公開研究集会「新たな画像公開方法とデジタル連携」東京大学史料編纂所画像史料解析センター・前近代日本史情報国際センター
7	同上	60万を超える地物の属性検索・描画に対応した文化財総覧WebGISの開発	企画調整部文化財情報研究室 研究員・高田祐一 他1名	12月4日	FOSS4G Japan 2021 Online コアデイ OSGeo日本支部
8	同上	地域学習や文化財防災に役立つ文化財総覧WebGIS	企画調整部文化財情報研究室 研究員・高田祐一 他1名	12月8日	第13回地理院地図パートナーネットワーク会議 国土地理院

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】 2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	Research by IRCI and suggestions for cultural mapping	研究担当室長 野嶋洋子	10月25日	Indira Gandhi National Centre for the Arts "Mapping Culture, Safeguarding Heritage"
2	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	無形文化遺産教育とまちづくり	所長 岩本渉	4年2月6日	日本ESD学会第4回大会

c-④ シンポジウム開催実績一覧

令和4年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
11件	6件	2件	2件	0件	2件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	1件	1件		0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	2件	1件		1件	

【本部文化財活用センター】 1件

○ぶんかつ3周年記念 2021年度公開シンポジウム「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」

開催日 4年2月10日
 開催場所 東京国立博物館 本館地下教育スペース（オンラインでのライブ配信及びYouTubeでのアーカイブ配信を実施）
 主催 文化財活用センター
 共催 日本博物館協会
 参加者数 478人
 事業内容 非営利セクターであるミュージアムが外部から支援を得て館の活動を継続・発展していくことの意味について考えるとともに、多様なファンドレイジング活動に取り組むミュージアムの担当者と活動に込めた想いや現状を共有し、目指すべき姿を探った。

【本部文化財防災センター】 1件

○ICOM-DRMC(国際博物館会議 博物館防災国際委員会)年次大会-東日本大震災から10年。今、博物館と文化財の防災を考える-

開催日 11月4日、11月6日
 開催場所 11/4東京国立博物館 平成館大講堂（オンラインでも参加可能なハイブリッド方式）、11/6陸前高田市コミュニティホール
 主催 ICOM-DRMC、ICOM日本委員会、公益財団法人日本博物館協会、独立行政法人国立文化財機構文化財防災センター、東京国立博物館、京都国立博物館、岩手県立博物館、陸前高田市
 参加人数 11/4 145人、11/6 180人
 事業内容 「文化財防災ネットワークの構築：連携に関する事例研究」をテーマとした基調講演と研究発表会を実施した。

【東京国立博物館】 2件

○ICOM-DRMC年次大会（基調講演・研究発表）

開催日 11月4日
 開催場所 東京国立博物館 平成館大講堂（オンラインでも参加可能なハイブリッド方式）
 主催 ICOM-DRMC、ICOM日本委員会、公益財団法人日本博物館協会、独立行政法人国立文化財機構文化財防災センター、東京国立博物館、京都国立博物館、岩手県立博物館、陸前高田市
 参加人数 145人（現地参加 60人、オンライン参加 85人）
 事業内容 「文化財防災ネットワークの構築：連携に関する事例研究」をテーマとした基調講演と研究発表会を実施した。

○国際シンポジウム ミュージアムとオンライン 実践と展望

開催日 4年1月29日
 開催場所 東京国立博物館 平成館大講堂（オンラインでのライブ配信及びYouTubeでのアーカイブ配信を実施）
 主催 東京国立博物館
 参加者数 613人（参加者数はライブ配信視聴者及びYouTubeでのアーカイブ配信再生回数）
 事業内容 国内外のミュージアム関係者ととともに、新型コロナウイルスの感染拡大の中で各国のミュージアムが挑戦し、実践した「オンライン事業」の事例を紹介するとともに、その将来像を展望した。

【京都国立博物館】 2件

○ICOM-DRMC年次大会

開催日 11月4日～7日
 開催場所 東京国立博物館、陸前高田市コミュニティホール
 主催 ICOM-DRMC、ICOM日本委員会、公益財団法人日本博物館協会、独立行政法人国立文化財機構文化財防災センター、東京国立博物館、京都国立博物館、岩手県立博物館、陸前高田市
 参加人数 325人（11月4日（東京開催）145人、11月6日（岩手開催）180人）
 事業内容 「文化財防災ネットワークの構築：連携に関する事例研究」をテーマとした基調講演と研究発表会を実施した。
 「市民と博物館がまもり、つなぐふるさとの宝～東日本大震災後10年目における博物館活動の再生と創造」をテーマとして、事例発表とパネルディスカッションを実施した。また、岩手県立博物館や東日本大震災津波伝承館、陸前高田市立博物館などを見学した。

○国際シンポジウム 敦煌写経研究の現在

開催日 4年3月19日
 開催場所 オンライン（Zoomウェビナーの利用）／京都国立博物館
 主催 京都国立博物館
 参加人数 1,013人（事後の視聴も含む）
 事業内容 シルクロード研究の重要な一端である「敦煌写経」をテーマとして、国内外の研究者を交えて発表・討論等を行い、今後の展望や課題を検討するとともに、研究者の国際的な情報交換やネットワークづくりの機会とした。

【奈良国立博物館】 0件

【九州国立博物館】 2件

○公開シンポジウム 全国高等学校歴史学フォーラム2021

開催日 8月7日
 開催場所 ミュージアムホール
 主催 九州国立博物館
 参加者数 26人（参加校関係者数）
 事業内容 高校生が、歴史学研究に関する活動内容や成果をポスターセッションにて発表。
 「現代における庚申信仰のあり方と課題」群馬県立高崎北高等学校（JRC部歴史研究班）、「福島県相馬市の官軍墓地」福島県立相馬高等学

校(郷土部)、「現代人から見る弥生絵画」奈良県立橿原高等学校(考古学研究部)、「皇女和宮と口紅と将軍家茂」埼玉県立熊谷西高等学校、「江戸時代の疫病と考古資料」福岡県立糸島高等学校(歴史部)、「中世沓岐の深江田原平野の衰退原因に関する一考察」長崎県立沓岐高等学校(東アジア歴史・中国語コース)、「甲斐武田氏の津久井信仰と街道からみる深大寺城再興の目的」法政大学第二高等学校(社会科学・歴史研究部)、「栃木県北部における烽跡の推定」栃木県立矢坂東高等学校(リベラルアーツ同好会)、「歴史上における関門海峡の地理的重要性について」福岡県立八幡高等学校、「九州最古!?あの夏目漱石も愛した!筑前国二日市温泉」九州産業大学付属九州産業高等学校(史跡探索研究部)

- 公開シンポジウム 九州国立博物館「大宰府学研究」事業・科学研究費助成事業「日中文明遺物の産地探索をめざす中近世沈船・舶載遺物の考古学と自然科学の融合研究」シンポジウム「アジアを変えた鉄 ― 大宰府鴻臚館の衰退と海商の時代 ―」
- | | |
|------|--|
| 開催日 | 4年3月5日 |
| 開催場所 | ミュージアムホール |
| 主催 | 九州国立博物館・福岡県、福岡大学考古学研究室 |
| 参加者数 | 120人 |
| 事業内容 | 「宋元代沈没船に積載された大量の鉄素材」や「琉球諸島・日本列島で出土した棒状鉄製品」を手がかりに、東アジアの鉄流通の実態を探るというテーマに基づき、シンポジウムを開催した。 |

【東京文化財研究所】 1件

- 国際シンポジウム「東南アジアの木造建築遺産の保存修理」
- | | |
|------|--|
| 開催日 | 11月21日 |
| 開催場所 | オンライン/東京文化財研究所 |
| 主催 | 東京文化財研究所 |
| 参加者数 | 56人 |
| 事業内容 | 東南アジア地域における木造建築保存の方法論の特徴や課題を議論する国際シンポジウムを開催した。 |

【奈良文化財研究所】 0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】 2件

- アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関するIRC1研究者フォーラム 無形文化遺産研究の進展と課題- 持続可能な未来に向けて-
- | | |
|------|---|
| 開催日 | 10月29日 |
| 開催場所 | オンライン |
| 主催 | アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRC1)、文化庁 |
| 参加者数 | 95人 |
| 事業内容 | IRC1と協力関係にあったアジア太平洋地域の無形文化遺産の専門家を招き、無形文化遺産保護に関する研究について報告を行い、現在の無形文化遺産研究の動向、今後の課題について、議論を行った。またIRC1の開設以来10年の事業を振り返り、今後のIRC1の無形文化遺産研究に関する研究活動の方向性を議論した。 |
- 国際シンポジウム「無形文化遺産の貢献～より良い学びと持続的可能なまちづくりに向けて～」
- | | |
|------|---|
| 開催日 | 12月22日 |
| 開催場所 | オンライン |
| 主催 | アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRC1) |
| 参加者数 | 44人 |
| 事業内容 | 無形文化遺産、教育、コミュニティとの関連性と無形文化遺産のSDG4およびSDG11達成に果たす役割に関して、バングラデシュ、インドネシア、キルギス及び日本各地の事例研究を共有した。また事業成果を一般に共有するとともに、日本の教育関係・若者に無形文化遺産保護とSDGsについて学び、海外の研究者や専門家と交流する機会を提供した。 |

c-⑤ 論文等発表実績一覧

令和4年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
511件	280件	139件	71件	48件	22件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	211件	35件		176件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	0件	9件		11件	

【本部文化財活用センター】 9件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 4件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	本部文化財活用センター企画担当研究員 高橋真作	回顧と展望(中世美術)	『史学雑誌』130編5号	史学会	5月20日	有
2	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員 高橋真作	美術工芸にみる日本スポーツの源流(作品解説ほか)	特別企画「スポーツNIPPON」リーフレット	東京国立博物館	7月13日	無
3	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員 高橋真作	観音懺法と観音变相図	特集『江戸時代にもたらされた中国書画』小冊子	東京国立博物館	9月7日	無
4	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員 高橋真作	巻九・巻十上・巻十六 校訂	『校訂 原本 古画備考』(全五巻)	思文閣出版	2月22日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究 5件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	その他有形文化財に関連する調査研究	文化財活用センターデジタル資源担当課長 村田良二	ColBase—国立文化財機構所蔵品統合検索システムについて	博物館研究 Vol.56 No.9	日本博物館協会	8月25日	無
2	同上	文化財活用センターデジタル資源担当課長 村田良二	「ColBase」におけるデータの公開について	文化財写真研究 Vol.11	文化財写真技術研究会	11月11日	無
3	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	文化財活用センター保存担当課長 吉田直人	4年目を迎えた文化財活用センター保存担当の活動と課題	文化財の虫菌害 第82号	公益財団法人文化財虫菌害研究所	12月26日	無
4	同上	本部文化財活用センター保存担当研究員 間瀬創	博物館・美術館におけるカビのモニタリングとリスク低減の実践	博物館研究 643号	日本博物館協会	12月25日	無
5	同上	本部文化財活用センター保存担当研究員 間瀬創、同保存担当課長 吉田直人	代替消毒法に用いられる製品からの揮発性物質が文化財へ与える影響についての調査事例	保存科学第61号	東京文化財研究所	4年3月	有

【本部文化財防災センター】 11件

○文化財防災に関する調査研究 11件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	文化財防災に関する調査研究	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介	民俗芸能の被災と再開	文化財の虫菌害 No.81 令和3年6月号	公益財団法人文化財虫菌害研究所	6月30日	無
2	同上	文化財防災センター研究員 黄川田翔	国内外の博物館・美術館における災害対策の現状と比較	文化財の虫菌害 No.81 令和3年6月号	公益財団法人文化財虫菌害研究所	6月30日	無
3	同上	文化財防災センター長 高妻洋成	文化財レスキューの現状と今後の展望	考古学研究第68巻(3号)	考古学研究会	12月30日	無
4	同上	文化財防災センター長 高妻洋成	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業から文化財防災ネットワーク推進事業を経て文化財防災センター設立まで	第7回全国史料ネット研究交流集会報告書	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	4年2月1日	無
5	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介、日高真吾	レスキューに関わった側として・宮城県 システムチックな文化財レスキューを超えて	第7回全国史料ネット研究交流集会報告書	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	4年2月1日	無
6	同上	文化財防災センター研究員 水谷悦子、文化財防災PT 東文研保存科学研究所室長 秋山純子、東文研研究員 芳賀文絵他	プレハブ式高気密高断熱収蔵庫におけるアセトアルデヒドの放散挙動の把握と換気量による低減	保存科学 61号	東京文化財研究所	4年3月31日	有

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
7	同上	文化財防災センター長 高妻洋成	文化財を災害からまもるー文化財防災スバイラルによる文化財の継承ー	ベース設計資料 No. 190	建設工業調査会	4年3月20日	無
8	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介、日高真吾	郷土芸能の持つ力	地域文化から考える復興の姿	国立民族学博物館日高研究室	4年3月14日	無
9	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介、日高真吾	様々な資料の保全④:有形民俗文化財	歴史文化資料保全コーディネーター講座テキストブック	歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大拠点	4年3月25日	無
10	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介、日高真吾	様々な資料の保全⑤:無形民俗文化財	歴史文化資料保全コーディネーター講座テキストブック	歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大拠点	4年3月25日	無
11	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー 小谷竜介、瀧川浩樹、李善姫、福田雄	東日本大震災の影響に関する無形民俗文化財アンケート調査報告	無形文化遺産研究報告第16号	東京文化財研究所	4年3月31日	無

【東京国立博物館】139件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関する調査研究 125件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	保存修復課保存修復室研究員 野中昭美	津波被災した木製彩色資料「算額」の展示活用を目的とした保存修復ー3D技術を用いた欠損箇所への復元ー	文化財保存修復学会 第43回大会 研究発表集	一般社団法人文化財保存修復学会	7月15日	無
2	同上	保存修復課保存修復室研究員 野中昭美	海水被害を受けた木質文化財中の残留塩化物の測定基準となる検量線の作成	文化財保存修復学会 第43回大会 研究発表集	一般社団法人文化財保存修復学会	7月15日	無
3	同上	保存修復課保存修復室研究員 野中昭美、調査分析室専門職 宮田将寛	津波被害を受けた陸前高田市立博物館所蔵「金銅装双塔文笈」の保存修復ー旧調査記録を元にした欠損箇所の復元ー	文化財保存修復学会 第43回大会 研究発表集	一般社団法人文化財保存修復学会	7月15日	無
4	同上	保存修復課保存修復室研究員 野中昭美、環境保存室長 和田浩、調査分析室専門職 宮田将寛	津波被災した陸前高田市立博物館の再生を目指した東京国立博物館の活動に関する総括	文化財保存修復学会 第43回大会 研究発表集	一般社団法人文化財保存修復学会	7月15日	無
5	同上	企画課出版企画室アソシエイトフェロー 村松綾	近世初期の都市パーゼルにおける市民と金工	比較都市史研究 40	比較都市史研究会	12月	有
6	同上	企画課出版企画室アソシエイトフェロー 村松綾	第7章 中世後期スイスの緩やかな政治的結合体ー立役者、盟約者代表者会議が果たした役割	高山博・亀長洋子編 中世ヨーロッパの政治的結合体:統治の諸相と比較	東京大学出版会	4年3月	無
7	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員 大橋美織	高階秀爾氏を囲む座談会「文人性と文人画 近代日本への継承と海外での受容〜アンドレ・マルローが注いだ眼差しを発端に」	『浦上玉堂関係叢書 浦上玉堂親子の藝術 別冊』	浦上家史編集委員会	5月	無
8	同上	調査研究課長 松嶋雅人	犬のいない甲巻ーふたたび問う、鳥獣戯画がマンガを生んだのか？	特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」図録	NHK、NHK ブロモーション、朝日新聞社	4月13日	無
9	同上	調査研究課長 松嶋雅人	日本美術の花と乃木坂 46	「春夏秋冬／フォーシーズンズ 乃木坂 46」図録	東京国立博物館、文化財活用センター、ソニー・ミュージックエンタテインメント	9月4日	無
10	同上	調査研究課長 松嶋雅人	長谷川等伯筆「波瀾図」をめぐる諸問題	国華	国華社	9月17日	無
11	同上	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	美を紡ぐ 国宝「普賢菩薩像」	月間経団連 2021年12月号	日本経済団体連合会	12月1日	無
12	同上	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	法隆寺金堂壁画と百済観音	仏教文化第60号	東京大学仏教青年会	4年3月31日	無
13	同上	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	中世律宗絵画試論	東京国立博物館紀要第57号	東京国立博物館	4年3月31日	無
14	同上	博物館教育課ボランティア室主任研究員 金井裕子	「美を紡ぐ 『大原御幸図屏風』	「月刊 経団連」2021年4月号	日本経済団体連合会	4月1日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
15	同上	企画課特別展室主任研究 員 河野正訓	埼玉県皆野町稲荷塚古墳の研究 —単鳳環頭大刀を中心に—	MUSEUM 693号	東京国立博物 館	8月15日	有
16	同上	企画課特別展室主任研究 員 河野正訓	論文展覧 日本列島における古 墳時代の鉄柄斧	季刊考古学 175号	雄山閣	11月1日	無
17	同上	企画課特別展室主任研究 員 河野正訓	—	作って学ぼう! 日本の歴 史ペーパークラフト 古代 編	あかね書房	7月12日	無
18	同上	企画課特別展室主任研究 員 河野正訓	今から始める古墳入門	週刊アサヒ芸能 3806号	徳間書店	9月9日	無
19	同上	調査研究課考古室アソシ エイトフェロー 菊池望	巴形銅器の系譜と展開	古代学研究第 229号	古代学研究会	7月26日	有
20	同上	調査研究課考古室アソシ エイトフェロー 菊池望	有鉤銅剣生産の展開	考古学研究第 68巻第3号	考古学研究会	12月	有
21	同上	調査研究課考古室アソシ エイトフェロー 菊池望	青銅器の流通と高地性集落	季刊考古学第 157号	榊雄山閣	11月1日	無
22	同上	調査研究課絵画・彫刻室 長 土屋貴裕	「鳥獣戯画」制作年代の再検討	『ユリイカ』53巻4号	青土社	4月1日	無
23	同上	調査研究課絵画・彫刻室 長 土屋貴裕	特別展「国宝 鳥獣戯画のすべ て」 ハイクラス鑑賞法	『茶道雑誌』85巻4号	河原書店	4月1日	無
24	同上	調査研究課絵画・彫刻室 長 土屋貴裕	「国宝 鳥獣戯画のすべて」展 全5巻全場面を一堂に モノク ロームの美を堪能	公明新聞	—	4月8日	無
25	同上	調査研究課絵画・彫刻室 長 土屋貴裕	一步踏み込んで見る 鳥獣戯画 のすべて	特別展「国宝 鳥獣戯画 のすべて」図録	NHK、NHK プ ロモーショ ン、朝日新聞 社	4月13日	無
26	同上	調査研究課絵画・彫刻室 長 土屋貴裕	鳥獣戯画の真像—平安絵巻とし ての内巻人物戯画—	特別展「国宝 鳥獣戯画 のすべて」図録	NHK、NHK プ ロモーショ ン、朝日新聞 社	4月13日	無
27	同上	調査研究課絵画・彫刻室 長 土屋貴裕	鳥獣戯画甲巻の「すべて」—断 簡・模本によるかつての姿の復 原—	特別展「国宝 鳥獣戯画 のすべて」図録	NHK、NHK プ ロモーショ ン、朝日新聞 社	4月13日	無
28	同上	調査研究課絵画・彫刻室長 土屋貴裕	嶋殿—明恵上人と紀州苅藻 島、鷹島—	特別展「国宝 鳥獣戯画 のすべて」図録	NHK、NHK プ ロモーショ ン、朝日新聞 社	4月13日	無
29	同上	調査研究課絵画・彫刻室長 土屋貴裕	和歌山浄教寺と明恵上人ゆかり の文化財	特別展「国宝 鳥獣戯画 のすべて」図録	NHK、NHK プ ロモーショ ン、朝日新聞 社	4月13日	無
30	同上	調査研究課絵画・彫刻室長 土屋貴裕	鳥獣戯画八〇〇年の生命誌	特別展「国宝 鳥獣戯画 のすべて」図録	NHK、NHK プ ロモーショ ン、朝日新聞 社	4月13日	無
31	同上	調査研究課絵画・彫刻室長 土屋貴裕	華厳宗祖師絵伝と明恵上人をめ ぐる人びと	特別展「国宝 鳥獣戯画 のすべて」図録	NHK、NHK プ ロモーショ ン、朝日新聞 社	4月13日	無
32	同上	調査研究課絵画・彫刻室長 土屋貴裕	鳥獣戯画年表稿 附、甲巻系断 簡の伝来について	『MUSEUM』691号	東京国立博物 館	4月15日	有
33	同上	調査研究課絵画・彫刻室長 土屋貴裕	「鳥獣戯画」の全貌を知る、史 上空前の展覧会	『美術の窓』451号	生活の友社	4月20日	無
34	同上	調査研究課絵画・彫刻室長 土屋貴裕	5つのテーマで読み解く鳥獣戯 画の魅力 ③筆者像	『時空旅人別冊 鳥獣戯 画の世界』	三栄	5月22日	無
35	同上	調査研究課絵画・彫刻室 長 土屋貴裕	鳥獣戯画 抗いがたいその魅力	『七緒』67号	プレジデント 社	9月7日	無
36	同上	調査研究課絵画・彫刻室 長 土屋貴裕	魔仏一如—中世の天狗の実像—	特別展「最澄と天台宗の すべて」図録	読売新聞社	10月12日	無
37	同上	調査研究課絵画・彫刻室 長 土屋貴裕	似絵における「写実」の再検討 —水無瀬神宮の「後鳥羽天皇 像」を手がかりに—	『美術フォーラム 21』44 号	醍醐書房	12月10日	無
38	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	趙孟頫の絵画	没後 700 年 趙孟頫とその 時代—復古と伝承—	台東区立書道 博物館	4年1月4日	無
39	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	管道昇と墨竹	没後 700 年 趙孟頫とその 時代—復古と伝承—	台東区立書道 博物館	4年1月4日	無
40	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	明・清時代における趙孟頫山水 画理解	没後 700 年 趙孟頫とその 時代—復古と伝承—	台東区立書道 博物館	4年1月4日	無
41	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	洞天福地への旅	コレクションとアーカイ ヴ	勉誠出版	4年1月	無
42	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	「沈銓らしさ」の形成と継承	特集 江戸時代にもたら された中国書画	東京国立博物 館	9月7日	無
43	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	清・銭杜筆 四因山色一層樓図 卷	国華 1510号	国華社	8月	無
44	同上	百五十年史編集室長 恵美 千鶴子	「平家納経」込められた祈り	墨 270号	芸術新聞社	6月1日	無
45	同上	百五十年史編集室長 恵美 千鶴子	平家納経を考える 4 厳王品	ピオ・シティ 87号	ブックエンド	7月6日	無
46	同上	百五十年史編集室長 恵美 千鶴子	女性と写経 1 光明皇后御願五月 十一日経	ピオ・シティ 88号	ブックエンド	10月7日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
47	同上	博物館教育課教育講座室研究員 横山梓	「伊万里焼吸坂手についての一考察 —東京国立博物館所蔵の作例を中心に」	『東京国立博物館紀要』第57号	東京国立博物館	4年3月31日	無
48	同上	列品管理課平常展調整室研究員 古川攝一	乙巻の馬はどこから来たのか—東アジアの馬比べ	特別展『国宝 鳥獣戯画のすべて』図録	NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社	4月13日	無
49	同上	列品管理課平常展調整室研究員 古川攝一	酒井抱一が見た鳥獣戯画—MIHO MUSEUM 断簡と抱一筆「鳥獣戯画写」	特別展『国宝 鳥獣戯画のすべて』図録	NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社	4月13日	無
50	同上	列品管理課平常展調整室研究員 古川攝一	白描画としての鳥獣戯画—線描の妙技	特別展『国宝 鳥獣戯画のすべて』図録	NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社	4月13日	無
51	同上	列品管理課平常展調整室研究員 古川攝一	高山寺経蔵と白描画像—鳥獣戯画の移入をめぐる	特別展『国宝 鳥獣戯画のすべて』図録	NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社	4月13日	無
52	同上	列品管理課平常展調整室研究員 古川攝一	鳥獣戯画の筆致	『時空旅人別冊 鳥獣戯画の世界』	三栄	5月22日	無
53	同上	列品管理課平常展調整室研究員 古川攝一	天台僧の入唐求法—天台山と五台山	『伝教大師1200年大遠忌記念 特別展 最澄と天台宗のすべて』図録	読売新聞社	10月12日	無
54	同上	列品管理課平常展調整室研究員 古川攝一	智証大師円珍と園城寺(三井寺)	『伝教大師1200年大遠忌記念 特別展 最澄と天台宗のすべて』図録	読売新聞社	10月12日	無
55	同上	列品管理課平常展調整室研究員 古川攝一	法華経の功德と荘厳	『伝教大師1200年大遠忌記念 特別展 最澄と天台宗のすべて』図録	読売新聞社	10月12日	無
56	同上	列品管理課平常展調整室研究員 古川攝一	伝教大師1200年大遠忌記念 特別展 最澄と天台宗のすべて	『美術の窓』457号	生活の友社	10月20日	無
57	同上	列品管理課平常展調整室研究員 古川攝一	作品解説「金剛界八十一尊曼荼羅」「不動明王像(青不動)」「阿弥陀聖衆來迎図」	別冊太陽『伝教大師1200年大遠忌記念 最澄と天台宗のこころ』	平凡社	4年1月10日	無
58	同上	列品管理課平常展調整室研究員 古川攝一	大和文華館所蔵「日吉山王宮曼荼羅図」について	『大和文華』140号	大和文華館	4年2月28日	有
59	同上	調査研究課考古室研究員 山本亮	山城地域からみた前期前方方墳の性格	季刊考古学別冊34	雄山閣	5月31日	無
60	同上	調査研究課考古室研究員 山本亮	たつの市龍子三ツ塚1号墳の土器とその配置再論	東生第9・10号	東日本古墳確立期土器検討会	10月20日	無
61	同上	調査研究課考古室研究員 山本亮	五塚原古墳前方部東南隅角の基底石列について	五塚原古墳の研究	向日市埋蔵文化財センター	11月26日	無
62	同上	調査研究課考古室研究員 山本亮	五塚原古墳出土土器と乙訓地域(再掲)	五塚原古墳の研究	向日市埋蔵文化財センター	11月26日	無
63	同上	保存修復課保存修復室研究員 佐藤萌、	服飾文化財に用いられたプラスチックの同定と収蔵方法の改善	Fashion Talks... 第13号	京都服飾文化研究財団	10月29日	無
64	同上	調査研究課考古室長 品川欣也	触れることのできる国宝の作成	月刊文化財	第一法規株式会社	4月25日	無
65	同上	調査研究課考古室長 品川欣也	みんなの縄文	令和3年度青森県私立幼稚園教員研修大会講演会	一般社団法人青森県私立幼稚園連合会	8月10日	無
66	同上	調査研究課東洋室長 市元壘	副葬容器からみた北周政権の主流派と復古	『滋賀県立大学考古学研究室論集』I	滋賀県立大学考古学研究室	6月30日	無
67	同上	調査研究課東洋室長 市元壘	龍のはじまり／饗饗／鳳凰／四神	『博物館でアジアの旅 空想動物園』	東京国立博物館	9月14日	無
68	同上	調査研究課東洋室長 市元壘	北魏北辺地帯の六鈴付垂飾	『MUSEUM』694号	東京国立博物館	10月15日	有
69	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	元人冠冕耀丹青	典藏・古美術353	典藏	4年2月1日	無
70	同上	上席研究員 勝木言一郎	人面を持つ鳥／有翼人物	『博物館でアジアの旅 空想動物園』	東京国立博物館	9月14日	無
71	同上	調査研究課考古室アソシエイトフェロー 菊池 望	梅ヶ畑遺跡出土銅鐸	リーフレット京都(389)	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	6月	無
72	同上	調査研究課考古室アソシエイトフェロー 菊池 望	弥生時代青銅器生産研究における諸問題 -土製鋳型の採用とその意義-	国立歴史民俗博物館共同研究公開セミナー要旨集 近畿地方における弥生時代～古墳時代初頭の金属器生産と社会	国立歴史民俗博物館	4年2月23日	無
73	同上	百五十年史編集室長 恵美千鶴子	女性と写経2 吉備由利願経	ピオ・シティ89号	ブックエンド	4年1月17日	無
74	同上	百五十年史編集室長 恵美千鶴子	後鳥羽天皇宸翰 熊野懐紙「深山紅葉、海辺冬月」	陽明文庫講座 図録3	東京大学資料編纂所・公益財団法人陽明文庫	4年2月5日	無
75	同上	博物館情報課長 今井敦	三の丸尚蔵館所蔵の中国陶磁について	三の丸尚蔵館年報・紀要第27号	宮内庁	4年3月25日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
76	同上	調査研究課主任研究員 三田覚之	聖徳太子の美術	聖徳太子 1400 年遠忌記念特別展 聖徳太子と法隆寺	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	4 月 27 日	無
77	同上	調査研究課主任研究員 三田覚之	法隆寺金堂諸仏に関する新知見	聖徳太子 1400 年遠忌記念特別展 聖徳太子と法隆寺	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	4 月 27 日	無
78	同上	調査研究課主任研究員 三田覚之	二つの厨子	聖徳太子 1400 年遠忌記念特別展 聖徳太子と法隆寺	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	4 月 27 日	無
79	同上	調査研究課主任研究員 三田覚之	聖徳太子信仰の宝物	時空旅人 7 月号	株式会社三栄	7 月	無
80	同上	調査研究課主任研究員 三田覚之	聖徳太子 1400 年遠忌記念 特別展 聖徳太子と法隆寺	雑誌 うえの 第 745 号	上野のれん会	7 月	無
81	同上	調査研究課主任研究員 三田覚之	法隆寺金堂薬師如来像台座画の想定復元について	MUSEUM 第 693 号	東京国立博物館	8 月	有
82	同上	調査研究課考古室研究員 山本亮	赤彩台付壺形土器	國華第一五〇八號	國華社	6 月 20 日	無
83	同上	調査研究課考古室研究員 山本亮	近畿地方南部地域における弥生中期から後期への移行過程の検討	国立歴史民俗博物館研究報告第 231 集	国立歴史民俗博物館	4 年 2 月 25 日	有
84	同上	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉	ヤポONSE・ロックーヨーロッパに渡った「日本着物」—	国際服飾学会誌 No. 59	国際服飾学会	7 月 31 日	無
85	同上	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉	Japanese rok: Japanese Kimono traded in Europe	国際服飾学会誌 No. 59	国際服飾学会	7 月 31 日	無
86	同上	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉	EDO MODE No. 1-8	富山新聞、福井新聞など	共同通信社	8 月 1 日～ 4 年 1 月 31 日	無
87	同上	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉	「きもの KIMONO—Fashioning Identities—」展	Fashion Talks… 第 13 号	公益財団法人 京都服飾文化財団	10 月 29 日	無
88	同上	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉	きものと染めの歴史	染織 1 染を知る (はじめて学ぶ芸術の教科書)	京都芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 芸術学舎	4 年 3 月 10 日	無
89	同上	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉	関市春日神社の能装束	春日神社文化財詳細調査報告書	関市文化財保護センター	4 年 3 月 27 日	無
90	同上	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉	報告 3 Fashioning Identities としての「きもの」—特別展「きもの KIMONO」展と東京国立博物館での「きもの」の展示—	服飾美学 No.63	服飾美学会	4 年 3 月 31 日	無
91	同上	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉	染織ディーラーとしての山中商会—アメリカにおける活動を中心に—	調査研究報告 基盤研究 (A) (一般) (平成 27 年度～平成 31 年度)「日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究」	東京国立博物館	4 年 3 月 31 日	無
92	同上	調査研究課東洋室研究員 六人部克典	『小山林堂書画文房図録』—市河米庵の眼差し	特集 江戸時代にもたらされた中国書画	東京国立博物館	9 月 7 日	無
93	同上	調査研究課東洋室研究員 六人部克典	空想動物と神仙世界	博物館でアジアの旅 空想動物園	東京国立博物館	9 月 14 日	無
94	同上	調査研究課東洋室研究員 六人部克典	元時代の文人書法	没後 700 年 趙孟頫とその時代—復古と伝承—	公益財団法人 台東区芸術文化財団	4 年 1 月 2 日	無
95	同上	調査研究課東洋室研究員 六人部克典	趙孟頫書法の受容—文徵明と董其昌の褒貶—	没後 700 年 趙孟頫とその時代—復古と伝承—	公益財団法人 台東区芸術文化財団	4 年 1 月 2 日	無
96	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員 増田政史	コラム インド神話の動物	博物館でアジアの旅 空想動物園	東京国立博物館	9 月 14 日	無
97	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員 増田政史	文殊五尊像の形成と展開	哲学 第 148 集	三田哲学会	10 月 23 日	無
98	同上	保存修復課保存修復室研究員 沼沢ゆかり	作品解説	『博物館でアジアの旅 空想動物園』	東京国立博物館	4 年 1 月 2 日	無
99	同上	保存修復課保存修復室研究員 沼沢ゆかり	作品解説	特集「今年はトーハク 150 周年!めでタイガー!!」リーフレット	東京国立博物館	9 月 14 日	無
100	同上	保存修復課保存修復室研究員 沼沢ゆかり	「博物館に初もうで 今年は一ハク 150 周年!めでタイガー!!」	『うえの』第 751 号、36～37 頁	上野のれん会	4 年 1 月 1 日	無
101	同上	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	三ツ塚古墳群出土漆塗り革袋の X 線 CT 調査	橿原考古学研究所紀要 考古学論叢 第 45 冊	奈良県立橿原考古学研究所	4 年 3 月 18 日	無
102	同上	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	第三章第一節 蛍光 X 線分析調査	関市春日神社文化財詳細調査報告書	関市	4 年 3 月 28 日	無
103	同上	副館長 富田淳	蘭亭十三跋について	趙孟頫とその時代—復古と伝承—	公益財団法人 台東区芸術文化財団	4 年 1 月 2 日	無
104	同上	副館長 富田淳	趙孟頫と中峰明本—両巨匠の邂逅時期について—	趙孟頫とその時代—復古と伝承—	公益財団法人 台東区芸術文化財団	4 年 1 月 2 日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
105	同上	副館長 富田淳	趙孟頫蘭亭十三跋の焼残時期について	東風西声第 17 号	九州国立博物館	4 年 3 月	無
106	同上	調査研究課考古室研究員 山本亮	近畿地方中部における二重口縁壺の系列と変遷—集落域および周溝墓・小型古墳出土の中小型資料を中心に—	考古学雑誌	日本考古学会	4 年 3 月 30 日	有
107	收藏品等の有形文化財に関する調査研究	調査研究課東洋室長 市元 壘	蘆家屯 3 号磚墓—館蔵遼東出土資料の研究 (1) —	『MUSEUM』691 号	東京国立博物館	4 月 15 日	有
108	同上	学芸研究部長 救仁郷秀明	惟肖得巖替李白觀瀑図試論—馬遠派觀瀑図の受容	コレクションとアーカイヴ—東アジア美術研究の可能性	勉誠出版	12 月 28 日	無
109	同上	特任研究員 田沢裕賀	アーカイヴとしての狩野派模本	コレクションとアーカイヴ—東アジア美術研究の可能性	勉誠出版	12 月 28 日	無
110	同上	特任研究員 田沢裕賀	書籍紹介 岩崎均史編『日本書誌学体系 110 大小図輯』	『浮世絵芸術』183	国際浮世絵学会	4 年 1 月 20 日	無
111	東洋民族・東洋考古資料に関する調査研究	客員研究員 谷豊信	藤田亮策「楽浪封泥攷」の図版をめぐって	『考古学雑誌』第 104 巻第 1 号	日本考古学会	12 月 1 日	有
112	同上	列品管理課平常展室主任研究員 小野塚拓造	そこにいた人たち—「ファウヌスの家」のモザイク装飾をめぐる雑感	特別展「ポンペイ」図録	朝日新聞社 NHK NHK プロモーション	4 年 1 月	無
113	同上	列品管理課平常展室主任研究員 小野塚拓造	後期鉄器時代城塞とローマ時代ユダヤ人村落の調査—イスラエル国テル・レヘシュ第二期調査 (2013~2017) —	第 29 回西アジア発掘調査報告会報告集—令和 3 年度 考古学が語る古代オリエント	日本西アジア考古学会	4 年 3 月	無
114	特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」に関連する調査研究	調査研究課絵画・彫刻室研究員 増田政史	国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ	うえの 通巻 744 号	上野のれん会	6 月 1 日	無
115	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員 増田政史	十一面観音—あらゆる方向を見渡す仏—	特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」図録	読売新聞社	6 月 22 日	無
116	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員 増田政史	聖林寺十一面観音菩薩立像 明治十九年の調査	特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」図録	読売新聞社	6 月 22 日	無
117	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員 増田政史	大御輪寺伝来の玄貴庵不動明王坐像	特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」図録	読売新聞社	6 月 22 日	無
118	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員 増田政史	乾漆造り—漆が生み出すかたち—	特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」図録	読売新聞社	6 月 22 日	無
119	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員 増田政史	中世の大神社の神宮寺と密教	特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」図録	読売新聞社	6 月 22 日	無
120	特別展「聖徳太子と法隆寺」に関連する調査研究	調査研究課絵画・彫刻室長 土屋貴裕	法隆寺伝来の聖徳太子絵伝	特別展「聖徳太子と法隆寺」図録	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	4 月 27 日	無
121	同上	調査研究課絵画・彫刻室長 土屋貴裕	聖徳太子と天台宗	特別展「最澄と天台宗のすべて」図録	読売新聞社	10 月 12 日	無
122	博物館環境デザインに関する調査研究	上席研究員 木下史青	近代建築の中で日本工芸を照らす灯り—特別展 工芸 2020 の照明デザイン	「博物館展示新趨勢」専書出版計画 New Trends in Museum Exhibitions	国立科学工芸博物館 National Science and Technology Museum	6 月	有
123	博物館教育に関する調査研究	博物館教育課教育講座室アソシエイトフェロー 山本桃子	多文化共生を実現するためのミュージアムの役割—フィンランドの文化事業と学芸員インタビューから—	『早稲田教育評論』36 巻	早稲田大学教育総合研究所	4 年 3 月 31 日	有
124	同上	博物館教育課教育講座室アソシエイトフェロー 山本桃子	オブジェクト介在型学習による分野横断型学習と科学技術コミュニケーション—学術・文化コミュニケーションとしての大学博物館の機能に着目して—	『科学技術コミュニケーション』30 巻	北海道大学 CoSTEP 内科学技術コミュニケーション編集委員会	4 年 3 月	有
125	博物館広報・国際交流活動に関する調査研究	上席研究員 (兼) 広報室長 鬼頭智美	欧米が見た鳥獣戯画	特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」図録	NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社	4 月 13 日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究 14件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	博物館の環境保存に関する調査研究	保存修復課環境保存室長 和田浩	3次元データを利用した文化財の地震対策	教職課程センター紀要 第6号	大東文化大学	12月1日	無
2	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	屏風用木製骨組みの振動応答特性に関する研究	第59回全日本包装技術研究大会予稿集	日本包装技術協会	12月2日	無
3	同上	保存修復課環境保存修復室 研究員 野中昭美、環境 保存室長 和田浩、調査 分析室専門職 宮田将寛	津波被災した陸前高田市立博物館の再生を目指した東京国立博物館の活動に関する総括	文化財保存修復学会第43 回大会発表集	文化財保存 修復学会	7月3日	無
4	同上	保存修復課環境保存室ア ソシエイトフェロー 相 川悠、保存修復課環境保 存室長 和田浩	新型コロナウイルス感染症対策の視点から試みた歴史的建造物内の文化財修理室における換気対策と修理作業環境維持に関する事例報告	文化財保存修復学会第43 回大会発表集	文化財保存 修復学会	7月3日	無
5	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	屏風の展示用支持具の耐震効果についての検証	日本展示学会第40回大会 研究発表梗概集	日本展示学 会	6月13日	無
6	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	屏風に用いられる木製骨組み下地の振動応答特性に関する研究	日本機械学会2021年度年 次大会要旨集	日本機械学 会	9月7日	無
7	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	屏風下地を想定した木組み構造の振動応答解析シミュレーションに関する基礎的研究	日本包装学会第30回年次 大会研究発表会	日本包装学 会	7月1日	無
8	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	地震動を受けた屏風の挙動に関するシミュレーション	日本文化財科学会第38回 大会発表要旨集	日本文化財 科学会	6月14日	無
9	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	3Dモデルを用いた文化財の地震対策シミュレーションに関する研究	文化財保存修復学会第43 回大会発表集	文化財保存 修復学会	7月3日	無
10	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	法隆寺金堂壁画における壁画の保存・公開に関する研究-収蔵庫の限定公開と建具隙間の気密化を考慮した非公開時の環境調整方法の検討-	日本文化財科学会第38回 大会発表要旨集	日本文化財 科学会	6月14日	無
11	同上	保存修復課環境保存室ア ソシエイトフェロー 相 川悠、保存修復課環境保 存室長 和田浩	新型コロナウイルス感染症対策の視点から試みた歴史的建造物内の文化財修理室における換気対策と修理作業環境維持に関する事例報告	文化財保存修復学会第43 回大会発表集	文化財保存 修復学会	7月3日	無
12	同上	保存修復課環境保存室ア ソシエイトフェロー 相 川悠、保存修復課環境保 存室長 和田浩	新型コロナウイルス感染症対策の視点から試みた歴史的建造物内文化財修理室における換気対策と修理作業環境維持に関する事例報告	文化財保存修復学会誌 65号	文化財保存 修復学会	4年3月31日	有
13	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	博物館情報課情報管理室 アソシエイトフェロー 酒井晶	Digitizing disparity in the museum. The object-based research in the Tokyo National Museum	University Heritage (https://universityheritage.eu/)	University Heritage	8月	無
14	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	博物館情報課情報資料室 主任研究員 遠藤 楽子	海を渡った作品のその後とニール号沈没の影響——関連資料紹介とともに	ベーター・バンツァー、 沓澤宣賢、宮田奈奈編 『1873年ウィーン万国博 覧会——日頃からみた明 治日本の姿』	思文閣出版	4年3月25日	無

【京都国立博物館】71件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 46件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	特別展「京の国宝」に関する調査研究	列品管理室研究員 森道 彦	「最初の国宝」	『なにわ』793号	大阪府警察	6月29日	無
2	同上	同上	総説 国宝一三〇年	『特別展 京の国宝—守 り伝える日本の宝—』図 録	文化庁、京都 国立博物館、 読売新聞社	7月24日	無
3	同上	同上	明治初期の京都と宝物写真(コラム)	同上	同上	同上	無
4	同上	同上	夢の京都博物館(コラム)	同上	同上	同上	無
5	特別展「畠山記念館の名品」に関する調査研究	調査・国際連携室主任研 究員 降矢哲男	與衆愛玩—畠山即翁の想いと数寄者の交友—	『特別展 畠山記念館の 名品—能楽から茶の湯、 そして琳派—』	日本経済新聞 社・NHK京都 放送局・NHK エンタープ ライズ近畿、京 都国立博物館	10月	無
6	同上	同上	数寄者との交流	同上	同上	同上	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
7	同上	同上	「重要文化財 井戸茶碗 銘細川」	『なにわ』796号	大阪府警察	10月	無
8	同上	同上	「與衆愛玩 畠山即翁蒐集の名物道具と数寄者と交友」	『茶道雑誌』85-10	河原書店	10月	無
9	同上	企画室長 山川暁	加賀前田家の能装束	同上	同上	同上	無
10	同上	教育室長 永島明子	未詳の蒔絵師「不尽」の在銘作品	同上	同上	同上	無
11	同上	保存修理指導室主任研究員 福士雄也	近代数寄者の琳派作品収集と畠山即翁	同上	同上	同上	無
12	同上	同上	「四季花木図屏風 渡辺始興筆」	『なにわ』797号	大阪府警察	11月	無
13	特別展「最澄と天台のすべて」に関する調査研究	保存修理指導室長 大原嘉豊	天台宗と京都—平安京が生んだ教線の拡大と絆	『最澄と天台のすべて』図録	東京国立博物館、九州国立博物館、京都国立博物館、読売新聞社	10月12日	無
14	同上	同上	コラム 天台にみる神仏習合一 日吉山王信仰	同上	同上	同上	無
15	同上	同上	コラム 天台真盛宗—真盛と坂本・西教寺	同上	同上	同上	無
16	同上	教育室長 永島明子	コラム 勅封唐櫃	同上	同上	同上	無
17	特別企画「オリエンピア×ニッポン・ビジュツ」に関する調査研究	同上	作品解説等	『なにわ』792号	大阪府警察	5月28日	無
18	特集展示「後期古墳の実像—播磨の首長墓・西宮山古墳—」に関する調査研究	研究員 古谷 毅	時代概説、用語概説、コラム、作品解説等	『西宮山古墳—西播磨の首長墓—』	京都国立博物館	12月24日	無
19	同上	同上	作品解説等	『なにわ』800号	大阪府警察本部	4年1月28日	無
20	特別公開「四国の弥生土器と弥生・古墳時代の生産—辰砂と鉄—」に関する調査研究	同上	展示概説、コラム	『四国の弥生土器と弥生・古墳時代の生産—辰砂と鉄—』(展示解説リーフレット)	京都国立博物館	4年1月	無
21	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	企画室長 山川 暁	「御所人形 宝車引き」	『なにわ』801号	大阪府警察	4年2月	無
22	同上	同上	「染織品に見る大航海時代—龍光院所蔵品から—」(講演録)	『秀明美術』23	秀明文化財団	4年3月	無
23	同上	同上	《展覧会評》「きもの KIMONO -Fashioning Identities-」展	『服飾美学』68	服飾美学会	4年3月	無
24	同上	教育室主任研究員 水谷 亜希	「竹虎図 尾形光琳筆」	『なにわ』800号	大阪府警察	4年1月	無
25	同上	同上	「寅づくし—干支を愛でる」	文化庁広報誌「ぶんかる」(文化財のトビラ)4年1月号	文化庁	4年1月	無
26	同上	同上	「虎と日本美術」	『公明新聞』	-	4年1月	無
27	同上	保存修理指導室主任研究員 福士雄也	「伊藤若冲《果蔬涅槃図》のレトリック」	『美術フォーラム21』44号	醍醐書房	12月	有
28	同上	同上	作品解説等	『トラリんと学ぶ 日本の美術④ 異国への憧れ』	淡交社	5月	無
29	同上	同上	「画題を知る 雑祭・曲水宴・西王母」	『絵の掛物』3月号	淡交社	3月	無
30	同上	同上	「画題を知る 桜・井手の玉川・勿来関」	『絵の掛物』4月号	淡交社	4月	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
31	同上	同上	「画題を知る 菖蒲・東下り、八橋・薬玉」	『絵の掛物』5月号	淡交社	5月	無
32	同上	同上	「画題を知る 夏越の祓・小野道風・蟻通」	『絵の掛物』6月号	淡交社	6月	無
33	同上	同上	「画題を知る 七夕・祇園祭・太公望」	『絵の掛物』7月号	淡交社	7月	無
34	同上	同上	「画題を知る 蓮・放生会・駒牽」	『絵の掛物』8月号	淡交社	8月	無
35	同上	同上	「画題を知る 重陽・猿猴捉月・木賊兎」	『絵の掛物』9月号	淡交社	9月	無
36	同上	同上	「画題を知る 豆名月・宇津山・臥猪」	『絵の掛物』10月号	淡交社	10月	無
37	同上	同上	「画題を知る 楓林停車・御火焚・新嘗祭、五節」	『絵の掛物』11月号	淡交社	11月	無
38	同上	同上	「画題を知る 忠臣蔵・香炉峰・追儼、大祓」	『絵の掛物』12月号	淡交社	12月	無
39	同上	同上	「画題を知る 忠臣蔵・香炉峰・追儼、大祓」	『絵の掛物』12月号	淡交社	12月	無
40	同上	企画室研究員 井並林太郎	「絵巻としての鳥獸戯画―場面展開の妙味―」	『特別展 国宝 鳥獸戯画のすべて』	東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社	4月13日	無
41	同上	調査・国際連携室研究員 上杉智英	「日本における法蔵『起信論疏』の流伝（韓国語）」	『刊経都監本 法蔵 大乘起信論疏 校勘本 研究』	京福大出版部	5月	無
42	同上	企画室アソシエイトフェロー 趙ウニル	国宝 世説新書巻第六残巻	『なにわ』795号	大阪府警察	8月30日	無
43	近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究	企画室長 山川暁、企画室研究員 井並林太郎、列品管理室長 羽田聡、教育室長 永島明子、調査・国際連携室主任研究員 降矢哲男、調査・国際連携室研究員 上杉智英、保存修理指導室長 大原嘉豊、保存修理指導室主任研究員 福士雄也	絵画・書跡・陶磁・金工・漆工・染織・歴史資料に関する調査報告	『社寺調査報告 30 金剛寺』	京都国立博物館	7月	無
44	博物館教育に関する調査研究	教育室長 永島明子	近代漆芸と教育に関する論考「京都の漆器産業が辿った近代」	『開館40周年記念企画展第2弾 美術の教育／教育の美術』	京都工芸繊維大学 美術工芸資料館	10月	無
45	同上	教育室主任研究員 水谷亜希	「コロナ禍で再認識した「さわる」「話す」の重要性」	『美術による学び』第2巻第8号	日本・美術による学び学会	4月	有
46	同上	同上	「〈作る・見る・語る〉が交錯する場所」	『美術を作る・見る・語る―美術と社会のつながりを考える―』	京都歴史文化施設クラスター実行委員会・京都市学校歴史博物館	5月	無

○その他有形文化財に関連する調査研究 25件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1.	その他有形文化財に関連する調査研究	館長 松本伸之	UNE CEUVRE MONUMENTALE DE TOSHIHIRO HMANO - LA VIE ILLUSTRÉE DU PRINCE SHOTOKU	『TOSHIHIRO HAMANO ESPRIT ET FORM DU JAPON』	フランス・ナント歴史博物館	7月	無
2.	同上	学芸部長 尾野善裕	飛鳥時代の土器編年再考補論	『學叢』第43号	京都国立博物館	6月10日	無
3.	同上	同上（共著：奈良文化財研究所 森川実）	大官大寺金堂下層の土器	『奈良文化財研究所紀要2021』	奈良文化財研究所	7月26日	無
4.	同上	同上	猿投窯系須恵器編年の再編と下り松瓦窯の操業年代―須恵器から見た西三河の鋸歯文縁複弁蓮華文軒丸瓦―	伊保庵寺発掘調査報告書	名古屋大学大学院人間環境学研究所考古学研究室	4年3月	無
5.	同上	上席研究員 浅秋毅	男神立像（伝摩多羅神） 静岡市・鉄舟寺	『神像彫刻重要資料集成第一巻 [東日本編]』	国書刊行会	10月	無
6.	同上	企画室長 山川暁	自然とともにあることを	『日本伝統工芸会近畿支部会報』33	日本伝統工芸会近畿支部	8月	無
7.	同上	工芸室主任研究員 末兼俊彦	武士と辟邪と刀剣	『サントリー美術館 開館60周年記念展 刀剣もののふの心』	サントリー美術館・読売新聞社	9月15日	無
8.	同上	保存修理指導室主任研究員 福士雄也	作品解説	『西新井大師こよみ』令和4年版	西新井大師総持寺	12月	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
9.	同上	列品管理室研究員 森道彦	丹波、亀岡と狩野派の画人たち	『第37回特別展 亀岡の名宝』	亀岡市文化資料館	4年2月	無
10.	同上	同上(共編:奥平俊六・門脇むつみ)	作品解説等	『公益財団法人渡辺美術館所蔵品調査報告書(第八回) 中近世絵画(三)』	公益財団法人渡辺美術館	4年3月	無
11.	同上	調査・国際連携室研究員 上杉智英	書評 前島信也『『敬西房信瑞の研究—鎌倉浄土教典籍論—』	『いとくら』第11号	国際仏教学大学院大学日本古写経研究所	4年3月	無
12.	同上	前企画室アシリエイトフェロー 伊藤旭人	京都・誓願寺毘沙門天立像についての一考察	『學叢』第43号	京都国立博物館	6月10日	無
13.	同上	研究員 古谷毅	「流水文細頸壺形土器(大阪府柏原市船橋遺跡) 京都国立博物館、弥生時代中期」	『國華』第1501号(特輯 弥生土器:126編4冊)	國華社	6月	無
14.	同上	同上	「古墳時代の社会と自然—山と海の信仰—」	『2021年 京都国立博物館 第88回夏期講座-日本人と自然Ⅲ-』(要旨集)	京都国立博物館	7月2日	無
15.	同上	同上	「金属器・埴輪研究の特質と展望(I)」 「参考文献索引・凡例」	『古墳文化基礎論集』	古墳文化基礎論集刊行会	12月15日	無
16.	博物館の国際交流に関する調査研究	企画室長 山川暁	ICOM京都大会がもたらした遺産	『桜蔭会京都支部だより』75	桜蔭会京都支部	10月	無
17.	文化財多言語化に関する調査研究	主任専門職 リンネマリサ	コラム「多言語併記と書体—デザイン効果を増すために」	『地域の魅力が世界に響く How to 多言語—解説文整備 文化財・自然・観光資源—』	観光庁	4年2月	無
18.	同上	同上	英語版監修	『文化庁工芸技術記録映画「竹工芸—飯塚小疋齋のわざ—」』	文化庁	4月	無
19.	文化財と国際交流に関する調査研究	同上	「京都・野村正治郎古美術商の芳名帳から見た大正期における外国人染織コレクター」	『調査研究報告 基盤研究(A)(一般)(平成27年度~平成31年度) 日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究』	東京国立博物館	4年3月	無
20.	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	前調査・国際連携室長 吳孟晋(共著:岡岩太郎)	修理報告 国宝絹本着色宮女図(伝桓野王図)	『學叢』第43号	京都国立博物館	6月	無
21.	文化財の製作技法・材料等に関する調査研究	保存科学室長 降幡順子	放射光高エネルギー蛍光X線分析法を用いた平安時代前期の緑釉陶器の胎土分析	『Spring-8/SACLA 利用研究成果集9』第3号	高輝度光科学研究センター	5月	有
22.	同上	同上	埋蔵環境中の鉄イオンによる奈良三彩胎土への影響に関する研究	『Spring-8/SACLA 利用研究成果集9』第4号	同上	6月	有
23.	同上	同上	密教法具の科学的調査—金勝寺所蔵品および京博所蔵品を中心に—	『日本文化財科学会第38回大会研究発表要旨集』	日本文化財科学会	9月	無
24.	同上	同上	書評と紹介・高松塚古墳の材料科学	『日本歴史第886号』	吉川弘文館	4年3月	無
25.	同上	同上	鉛釉陶器のはじまり—7・8世紀の出土遺物の化学的特徴から—	『歴史研究の最前線』vol. 23, February2022	総合研究大学院大学・国立歴史民俗博物館	4年3月	無

【奈良国立博物館】48件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 40件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	収蔵品等及び館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	館長 井上洋一	静かなる仏教美術の聖地—奈良国立博物館	『絲綢之路』97	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	10月	無
2	同上	列品室長 斎木涼子	『灌頂御願記』と『真言付法纂要抄』—真言宗における歴史書成立の背景—	『鹿園雑集』第24号	奈良国立博物館	4年3月31日	無
3	同上	教育室長 谷口耕生	『玄奘三蔵絵』と中世南都の仏教世界観	『玄奘三蔵—新たな玄奘像をもとめて』	勉誠出版	12月28日	無
4	同上	教育室長 谷口耕生	東大寺戒壇院扉図研究	『鹿園雑集』第24号	奈良国立博物館	4年3月31日	無
5	同上	企画室長 中川あや	正倉院宝物模造の世界	『土車』第141号	公益財団法人古代学協会	6月	無
6	同上	企画室主任研究員 山口隆介	「男神立像(伊豆山神社)」 「伊豆山権現立像(同)」 「伊豆山権現立像(同)」 「伊豆山権現立像(同)」 「男神立像、女神立像(同)」	『神像彫刻重要資料集成』第1巻 東日本編	国書刊行会	10月	無
7	同上	特任研究員 岩田茂樹	奥出雲・岩屋寺伝来の毘沙門天立像—新出の保安五年在銘平安彫刻—	『MUSEUM』第692号	東京国立博物館	6月	有

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
8	同上	特任研究員 岩田茂樹 (翻訳:メアリー・ルイン)	"A Newly Restored Image of Eleven-Headed Avalokiteśvara in the Collection of the Museum of Oriental Art, Venice,"	Matter and Image: Studies and Conservation at the Museum of Oriental Art in Venice, ed. Quaderni of the Direzione regionale Musei Veneto 5.	Polo Museale del Veneto	10月	無
9	同上	特任研究員 内藤栄	日本の女神(コラム)	『アジアの女神たち』展覧会図録	龍谷ミュージアム	9月	無
10	同上	特任研究員 内藤栄	四天王寺の舎利信仰(コラム)	聖徳太子千四百年御聖忌記念出版『聖徳太子と四天王寺』	和州総本山四天王寺	11月	無
11	同上	特任研究員 岩田茂樹	作品研究 山口・極楽寺の観音(伝滝見観音)菩薩遊戯坐像	『鹿園雑集』第24号	奈良国立博物館	4年3月31日	無
12	聖徳太子1400年遠忌記念特別展「聖徳太子と法隆寺」に関する調査研究	学芸部長 吉澤悟、美術室長 岩井共二、列品室長 齋木涼子、教育室長 谷口耕生、企画室長 中川あや、資料室長 野尻忠、情報サービス室主任研究員 北澤菜月、企画室主任研究員、山口隆介、教育室研究員 内藤航、工芸考古室研究員 三本周作、美術室アソシエイトフェロー 萩谷みどり	作品解説	『聖徳太子1400年遠忌記念特別展 聖徳太子と法隆寺』展覧会図録	読売新聞社	4月	無
13	同上	情報サービス室長 宮崎幹子	法隆寺金堂壁画の近現代—写真ガラス原板を中心に—	同上	同上	同上	無
14	同上	情報サービス室主任研究員 北澤菜月	聖徳太子を描く絵画と法隆寺	同上	同上	同上	無
15	同上	企画室主任研究員 山口隆介	各論 聖徳太子像の造像と救世観音	同上	同上	同上	無
16	同上	企画室主任研究員 山口隆介	法起寺如来立像のX線CTスキャン調査を踏まえた再評価(コラム)	同上	同上	同上	無
17	同上	企画室主任研究員 山口隆介	グラビア解説 聖徳太子坐像(伝七歳像)	『聖徳』聖徳太子一千四百年御聖諱法要特別号	法隆寺	4月	無
18	同上	教育室研究員 内藤航	五重塔塔本塑像の世界	『聖徳太子1400年遠忌記念特別展 聖徳太子と法隆寺』展覧会図録	読売新聞社	同上	無
19	同上	教育室研究員 内藤航	グラビア解説 道詮律師坐像	『聖徳』	聖徳宗教学部	7月	無
20	同上	教育室アソシエイトフェロー 翁みほり	聖徳太子と法隆寺	『聖徳太子1400年遠忌記念特別展 聖徳太子と法隆寺』ジュニアガイド	NHK 大阪放送局	4月	無
21	特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」に関する調査研究	学芸部長 吉澤悟、美術室長 岩井共二、列品室長 齋木涼子、企画室長 中川あや、教育室長 谷口耕生、資料室長 野尻忠、情報サービス室主任研究員 北澤菜月、企画室主任研究員、山口隆介、教育室研究員 内藤航、工芸考古室研究員 三本周作、美術室アソシエイトフェロー 萩谷みどり	作品解説	『特別展 奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—』展覧会図録	奈良国立博物館	7月	無
22	同上	学芸部長 吉澤悟	奈良国立博物館の考古部門について	同上	同上	同上	無
23	同上	学芸部長 吉澤悟	経塚について(コラム)	同上	同上	同上	無
24	同上	美術室長 岩井共二	奈良博の仏像コレクション—種類と時代—	同上	同上	同上	無
25	同上	教育室長 谷口耕生	奈良博の仏画コレクション	同上	同上	同上	無
26	同上	資料室長 野尻忠	奈良国立博物館所蔵の奈良時代の寺院荘園図について(コラム)	同上	同上	同上	無
27	同上	資料室長 野尻忠	古写経と古代文字史料—奈良博の書跡コレクション—	同上	同上	同上	無
28	同上	情報サービス室長 宮崎幹子	各論 奈良国立博物館と「コレクション」—草創期を中心に—	同上	同上	同上	無
29	同上	企画室主任研究員 山口隆介	興福寺旧蔵の仏像(コラム)	同上	同上	同上	無
30	同上	工芸考古室研究員 三本周作	館蔵の工芸品	同上	同上	同上	無
31	同上	特任研究員 内藤栄	密教法具の旅(コラム)	同上	同上	同上	無
32	同上	教育室アソシエイトフェロー 翁みほり	なぞとき!ざんまいずの探検—あおじの主を探して—	『特別展 奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—』ジュニアガイド	NHK 奈良放送局	同上	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
33	同上	教育室アソシエイトフェロー 翁みほり	事業報告 特別展「奈良博三味—至高の仏教美術コレクション—」におけるこどもを主対象とした展示理解促進の取り組みについて	『鹿園雑集』第24号	奈良国立博物館	4年3月31日	無
34	特別展「第73回正倉院展」に関する調査研究	学芸部長 吉澤悟、美術室長 岩井共二、列品室長 齋木涼子、企画室長 中川あや、資料室長 野尻忠、情報サービス室主任研究員 北澤菜月、企画室主任研究員、山口隆介、教育室研究員 内藤航、工芸考古室研究員 三本周作、工芸考古室アソシエイトフェロー 伊藤旭人、美術室アソシエイトフェロー 萩谷みどり	作品解説	『第73回 正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10月	無
35	同上	学芸部長 吉澤悟	概説 正倉院展と正倉院宝物について	同上	同上	同上	無
36	同上	特任研究員 内藤栄	香印の制作と燃焼の実験(宝物寸描)	同上	同上	同上	無
37	特別展「名画の殿堂 藤田美術館展—傳三郎のまなざし—」に関する調査研究	美術室長 岩井共二、教育室長 谷口耕生、情報サービス室主任研究員 北澤菜月、教育室研究員 内藤航、美術室アソシエイトフェロー 萩谷みどり	作品解説	『名画の殿堂 藤田美術館展—傳三郎のまなざし—』展覧会図録	奈良国立博物館	12月	無
38	同上	情報サービス室主任研究員 北澤菜月	本展開催の経緯	『名画の殿堂 藤田美術館展—傳三郎のまなざし—』展覧会図録	同上	同上	無
39	同上	企画室主任研究員 山口隆介	各論 藤田美術館所蔵(奈良・隔夜寺旧蔵)の空也上人立像に関する覚書	同上	同上	同上	無
40	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	教育室アソシエイトフェロー 翁みほり	事業報告 大分県との連携事業 遠隔操作ロボット「newme」を活用した学校向けオンライン中継プログラムについて	『鹿園雑集』第24号	奈良国立博物館	4年3月31日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究 8件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	その他有形文化財に関連する調査研究	館長 井上洋一	戦渦に巻き込まれたシリア、アフガニスタンの文化財—文化財を預かる博物館の使命	『博物館研究』639号	日本博物館協会	8月	無
2	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー 小峰幸夫	訃報 山野勝次先生	『都市有害生物管理』第11巻 第2号	都市有害生物管理学会	12月	無
3	同上	特任研究員 内藤栄	館蔵 国宝・刺繍釈迦如來說法図の修理について	『鹿園雑集』第24号	奈良国立博物館	4年3月31日	無
4	同上	特任研究員 内藤栄、他2名	天寿国繡帳の染料調査報告	『鹿園雑集』第24号	奈良国立博物館	4年3月31日	無
5	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー 安藤真理子、他1名	調査報告 奈良国立博物館所蔵両界曼荼羅(厨子入)について—X線CT調査の所見とともに—	『鹿園雑集』第24号	奈良国立博物館	4年3月31日	無
6	保存科学の観点からの収蔵品等の調査研究	保存修理指導室長 荒木 臣紀(共著:金宇大、河野正訓)	埼玉県皆野町稲荷塚古墳出土品の研究—単鳳環頭大刀を中心に—	『MUSEUM』第693号	東京国立博物館	8月	有
7	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー 小峰幸夫、他3名	竹材から得たフラスを用いて加害種を特定する分子生物化学的手法の確立	保存科学 第61号	東京文化財研究所	4月3月31日	有
8	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー 小峰幸夫、他1名	竹材の害虫についての報告	第14回東京文化財研究所無形遺産部 公開学術講座「竹と日本の伝統的な管楽器」報告書	東京文化財研究所	4年3月	無

【九州国立博物館】 22件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 7件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関する調査研究	学芸部博物館科学課主任研究員 鷲頭桂	コラム「長崎の黄檗寺院を彩った陳賢の仏画」および作品解説	『特集 江戸時代にもたらされた中国書画』(展覧会図録)	東京国立博物館	9月7日	無
2	同上	大西漆芸修復スタジオ 大西智洋、学芸部博物館科学課研究員 渡辺祐基、浦添市美術館 金城聡子	黒漆山水楼閣牡丹唐草螺鈿中央卓の修復報告とX線CT調査報告	『浦添市美術館紀要』17号	浦添市教育委員会 教育部 浦添市美術館	4年3月	無
3	同上	学芸部企画課特別展室主任研究員 西島亜木子、同研究補佐員 山室翔子、井上祥子	コロナ禍におけるオンライン・プログラム	紀要『東風西声』17号	九州国立博物館	4年3月	無
4	同上	学芸部企画課アソシエイトフェロー レイチェル・ラム	同形異音語のある中国語固有名詞の英文表記にかかるとの考察(2)	紀要『東風西声』17号	九州国立博物館	4年3月	無
5	同上	学芸部企画課アソシエイトフェロー 崔英花	多言語解説パネルの可読性向上に関する試論-九州国立博物館の多言語対応を中心に-	紀要『東風西声』17号	九州国立博物館	4年3月	無
6	特別展「海幸山幸 - 祈りと恵みの風景 -」	学芸部企画課文化交流展室長 川村佳男	作品解説	『海幸山幸 - 祈りと恵みの風景 -』(展覧会図録)	西日本新聞社、TVQ九州放送	10月9日	無
7	特別展「最澄と天台宗のすべて」	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 瓜生翠	作品解説	『特別展 最澄と天台宗のすべて』(展覧会図録)	読売新聞社	10月	無

○その他有形文化財に関連する調査研究 15件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	その他有形文化財に関する調査研究	学芸部博物館科学課主任研究員 鷲頭桂	「柳橋水車園の成立をめぐる再考察」	『香雪美術館研究紀要』	香雪美術館	4年3月31日	無
2	同上	学芸部企画課文化交流展室長 川村佳男	漢代銅盃の研究—とくに陽鑄の銘文と文様をめぐる—	『中国考古学』21号	日本中国考古学会	12月27日	有
3	同上	学芸部博物館科学課長 木川りか	「博物館現場におけるカビ発生予防と発生時の対策」	『博物館研究』56	(公財)日本博物館協会	11月25日	無
4	同上	学芸部博物館科学課長 木川りか	「文化財の保存・活用と木質系材質にかかわる諸問題」	『木材保存』48巻1号	(公財)日本木材保存協会	4年1月	無
5	同上	学芸部博物館科学課長 木川りか、同研究員 渡辺祐基、同研究補佐員 富松志帆、松尾実香、同アソシエイトフェロー 和泉田絢子、東京文化財研究所 秋山純子、(一財)九州環境管理協会 大城戸博文、柿本大典、岡部海都	「ガラス外壁を有する博物館建造物における衝突野鳥の傾向分析と青色LEDライト、音声、植栽剪定などによる衝突対策の試み」	『環動昆』32巻4号	日本環境動物昆虫学会	3年12月	有
6	同上	学芸部博物館科学課研究員 渡辺祐基、京都大学生存圏研究所 藤本いずみ、環境機器株式会社 伊藤誠人、京都大学大学院農学研究科 築瀬佳之、藤井義久	Sex identification of adult bamboo powderpost beetles, <i>Dinoderus minutus</i> , based on X-ray computed tomographic observations	『環動昆』32巻4号	日本環境動物昆虫学会	3年12月	有
7	同上	学芸部博物館科学課長 木川りか、同研究員 渡辺祐基、同アソシエイトフェロー 和泉田絢子、同研究補佐員 富松志帆、松尾実香	IPM of Kyushu National Museum: Developing strategies and cooperation.	Integrated Pest Management for Collections, Proceedings of 2021: A Pest Odyssey, The Next Generation	Archetype and Icon	4年2月	有
8	同上	学芸部博物館科学課研究員 渡辺祐基、同課長 木川りか、Canadian Conservation Institute T. Strang	Seasonal changes in the distribution of head capsule size of a silverfish species	Integrated Pest Management for Collections, Proceedings of 2021: A Pest Odyssey, The Next Generation	Archetype and Icon	4年2月	有
9	同上	学芸部企画課長 白井克也	新羅の長頸壺	紀要『東風西声』17号	九州国立博物館	4年3月	無
10	文化財の材質・構造等に関する研究	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子、学芸部博物館科学課研究員 渡辺祐基、同研究補佐員 田中麻美	叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度の木地構造について(2) 香道具	紀要『東風西声』17号	九州国立博物館	4年3月	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
11	同上	学芸部博物館科学課保存 修復室長 志賀智史	「上の原遺跡群第5次調査で出土 した赤色顔料について」	『上の原遺跡群 第5次発 掘調査報告書』	福岡県田川市 教育委員会	4年3月	無
12	同上	学芸部博物館科学課保存 修復室長 志賀智史	「新井遺跡から出土した赤色顔料 について」	『新井遺跡発掘調査報告 書』	(公財)群馬県 埋蔵文化財 調査事業団	4年3月	無
13	同上	学芸部博物館科学課保存 修復室長 志賀智史	「福岡県三雲南小路遺跡出土彩画 鏡の顔料について」	紀要『東風西声』17号	九州国立博物 館	4年3月	無
14	同上	展示課主任研究員 小澤 佳憲	九州国立博物館所蔵の広形銅矛2 例	紀要『東風西声』17号	九州国立博物 館	4年3月	無
15	同上	学芸部長 河野一隆、新 潟県立歴史博物館 宮尾 亨、東京国立博物館 山 本亮	文化財画像の主成分分析と機械学 習を活用した人文情報学の実践	紀要『東風西声』17号	九州国立博物 館	4年3月	無

【東京文化財研究所】35件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 10件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 3件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	日本東洋美術史の資 料学的研究	文化財情報資料部主任研 究員・安永拓世	与謝蕪村筆「十宣図」(川端康成記 念会蔵)の史的位	『美術研究』434号	東京文化財研 究所	8月	無
2	近・現代美術に関する 調査研究と資料集成	近・現代視覚芸術研究室 長 塩谷純	書簡にみる黒田清輝・久米桂一 郎の交流 二・三	『美術研究』434・435号	東京文化財研 究所	8月 4年1月	無
3	同上	近・現代視覚芸術研究室 長 塩谷純	近代日本画の“新古典主義”再考	『近代画説』30号	明治美術学会	12月	無

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 7件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	無形文化遺産保護に関 する研究交流・情報収 集	文化財情報資料部文化財 情報資料研究室長 二神 葉子	無形文化遺産の保護に関する第16 回政府間委員会における議論の概 要と今後の課題	無形文化遺産研究報告 第 16号	東京文化財研 究所	4年3月31日	有
2	重要無形文化財の保 存・活用に資する調査 研究等	無形文化遺産部無形文化 財研究室研究員 鎌田紗 弓	明治前期東京の歌舞伎囃子方：出 演動向および共演関係の解明に向 けて	無形文化遺産研究報告 第 16号	東京文化財研 究所	4年3月31日	有
3	重要無形民俗文化財の 保存・活用に資する調 査研究等	無形文化遺産部主任研究 員 今石みぎわ	近代における石鎚黒茶の生産と利 用	石鎚黒茶製造技術調査事業 報告書	愛媛県西条市	4年3月31日	無
4	同上	無形文化遺産部無形民俗 文化財研究室長 久保田 裕道	民俗芸能の体系的把握を目的とし た芸態研究の可能性	民俗芸能研究 第71号	民俗芸能学会	4年3月31日	有
5	同上	無形文化遺産部無形民俗 文化財研究室長 久保田 裕道	生活文化という無形文化遺産	無形文化遺産研究報告 第 16号	東京文化財研 究所	4年3月31日	有
6	無形文化財の保存・継 承に関する調査研究	無形文化遺産部無形文化 財研究室長 前原恵美・ 無形文化遺産部研究補佐 員 橋本かおる	楽器を中心とした文化財保存技術 の調査報告5	無形文化遺産研究報告 第 16号	東京文化財研 究所	4年3月31日	有
7	同上	無形文化遺産部無形文化 財研究室長 前原恵美	常磐津節《将門》の音楽分析—〈オ トシ〉と〈ナガシ〉の機能をめぐっ て—	桐朋学園大学研究紀要 2021年第47集	桐朋学園大学	10月15日	有

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 24件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進 5件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財情報の分析・活用 と公開に関する調査研究	保存科学研究センター副 センター長 早川泰弘他	春日権現験記絵の彩色材料調査 (巻十一・巻十二)〈巻十一〉	春日権現験記絵巻九・巻十 光学調査報告書	東京文化財研 究所	4年3月31日	無
2	同上	保存科学研究センター副 センター長 早川泰弘他	春日権現験記絵の彩色材料調査 (巻十一・巻十二)〈巻十二〉	春日権現験記絵巻九・巻十 光学調査報告書	東京文化財研 究所	4年3月31日	無
3	文化財情報の分析・活 用と公開に関する調 査研究	文化財情報資料部専門職 員 城野誠治	ものの記憶 —記録を遺し伝える —	『ものの記憶—読み解き・ 伝え・遺す—』	東京文化財研 究所	6月30日	無
4	同上	文化財情報資料部客員研 究員 山梨絵美子	油彩画を残し伝える写真をめぐっ て	『ものの記憶—読み解き・ 伝え・遺す—』	東京文化財研 究所	6月30日	無
5	同上	文化財情報資料部客員研 究員 田中潤	村上藩主内藤家歴代盗取肖像画に みる公家装束	『ものの記憶—読み解き・ 伝え・遺す—』	東京文化財研 究所	6月30日	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 19件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	生物科学研究室長・佐藤嘉則	博物館・美術館収蔵物のカビ対策システム化の現状と課題	博物館研究	日本博物館協会	11月25日	無
2	同上	生物科学研究室長・佐藤嘉則	文化財の加害生物種特定に向けた新たな試み	木材保存誌	日本木材保存協会	4年3月25日	無
3	同上	生物科学研究室長・佐藤嘉則	微生物による文化財の劣化と対策～古墳・洞窟壁画の微生物劣化～	日本防菌防霉学会誌	日本防菌防霉学会	4年3月31日	無
4	同上	研究補佐員・篠崎聡子、AF・島田潤、生物科学研究室長・佐藤嘉則他	竹材から得たフラスを用いて加害種を特定する分子生物学的手法の確立	保存科学	東京文化財研究所	4年3月31日	有
5	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	研究補佐員・岡部迪子、生物科学研究室長・佐藤嘉則他	国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設における微生物環境管理指針の検討	保存科学	東京文化財研究所	4年3月31日	有
6	文化財の保存環境にかかる調査研究	研究員補佐員・相馬静乃他2名	特定波長域を遮光した照射下における黄色系染料の色差と露光量の関係	保存科学	東京文化財研究所	4年3月31日	有
7	同上	研究員・水谷悦子他3名	プレハブ式高気密高断熱収蔵庫におけるアセトアルデヒドの放散挙動の把握と換気量による低減効果	保存科学	東京文化財研究所	4年3月31日	有
8	同上	研究員・水谷悦子 他 3名	Evaluation of change in pore network structure caused by halite crystallisation	PROCEEDINGS OF SWBSS 2021	TU Delft Open	9月22日	有
9	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	副所長・早川泰弘	琉球の美術工芸品	ぶんせき	日本分析化学会	7月1日	無
10	同上	研究補佐員・紀芝蓮、分析科学研究室長・犬塚将英	文化財の2次元的な分光分析を行うためのハイパースペクトルカメラの性能評価	保存科学	東京文化財研究所	3月1日	有
11	同上	分析科学研究室長・犬塚将英	赤外線を利用した文化財の調査	フォトニクスニュース	応用物理学会	11月1日	無
12	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	修復計画研究室長・朽津信明	文化財としての自然史資料の現地保存	保存科学61号	東京文化財研究所	4年3月17日	有
13	文化財修復と伝統技法に関する調査研究	修復材料研究室長・早川典子	文化財修復に使用されるフノリの精製効果に関する評価	保存科学第61号	東京文化財研究所	4年3月17日	有
14	同上	アソシエイトフェロー・鳥海秀実	絵画修復における欠損部分の補完と補彩に関する考察	文化財保存修復学会誌 第65号	文化財保存修復学会	4年3月	有
15	同上	客員研究員・稲葉政満他	Comparison of Degradation Behaviour of the Painting Paper in Japanese Scrolls for Moist Heat and Sealed Tube Ageing Methods	Studies in Conservation	The International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works	8月	有
16	同上	客員研究員・稲葉政満他	Effect of Lining Papers on the Permanence of Painting Papers in Japanese Scroll Paintings during Moist Heat Ageing	Studies in Conservation	The International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works	8月	有
17	同上	客員研究員・稲葉政満他	Changes in the Degree of Degradation with Position of Painting Papers in Japanese Hanging Scrolls by Accelerated Ageing Using Open and Sealed Tube Methods	Studies in Conservation	The International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works	8月	有
18	同上	客員研究員・本多貴之	向方南遺跡における漆分析	杉並区埋蔵文化財報告書 東京都杉並区向方南遺跡E地点	野村不動産株式会社、株式会社 CEL	7月	無
19	同上	客員研究員・山本記子	装潢文化財の修理と継承	「月刊文化財」No. 693	第一法規	6月	無

(3) 文化遺産保護に関する国際協働 1件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化遺産の保存修復技術に係る国際的研究	文化遺産国際協力センター主任研究員 前川他	Organic Matter and Pigments in the Wall Paintings of Me-Taw-Ya Temple in Bagan Valley, Myanmar	MDPI Applied Sciences	MDPI	12月	有

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 0件

○調査研究成果の発信 0件

【奈良文化財研究所】176件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 68件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 5件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部歴史研究室長・吉川聡 他	当麻寺巻柱とその銘文の調査	奈文研論叢 3	奈良文化財研究所	4年3月18日	無
2	歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部建造物研究室室長・大林潤	地方大名造営の東照宮建築—松江神社建造物調査より—	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
3	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区遺構研究室研究員・福嶋啓人	斑鳩地域の慶長期神社建築—斑鳩神社・菅神社を事例に—	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
4	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区主任研究員・鈴木智大	19世紀の高野山における工匠組織	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
5	同上	都城発掘調査部平城地区主任研究員・前川歩	犬伏家住宅にみる近代性	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 63件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部景観研究室長・中島義晴	獣害に関するアンケートの実施と集計結果	第45回全国遺跡環境整備会議	第45回全国遺跡環境整備会議実行委員会	4年3月	無
2	同上	文化遺産部主任研究員・恵谷浩子	智頭町芦津地区における水系と水利施設の特徴	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
3	同上	文化遺産部 主任研究員 恵谷浩子	山城地域における前方後円墳と地域の暮らし	遺跡学研究 18	日本遺跡学会	12月13日	無
4	同上	文化遺産部 主任研究員 恵谷浩子	KOFUNSCAPE03 古墳と遊び場	遺跡学研究 18	日本遺跡学会	12月13日	無
5	我が国の記念物に関する調査研究(遺跡等整備)	文化遺産部長兼文化遺産部遺跡整備研究室長・内田和伸	近代日本における史跡の保護と整備	『第4回日韓文化財研究フォーラム』: 日帝植民統治期の文化財の整備と復元 令和3年8月27日	韓国 国外所在文化財財団	8月27日	無
6	同上	文化遺産部長兼文化遺産部遺跡整備研究室長・内田和伸	日本統治下の朝鮮における史跡の保存と整備	『第4回日韓文化財研究フォーラム』: 日帝植民統治期の文化財の整備と復元 令和3年8月27日	韓国 国外所在文化財財団	8月27日	無
7	同上	文化遺産部長兼文化遺産部遺跡整備研究室長・内田和伸	史蹟名勝天然記念物保存法と山田寺の史蹟指定	『特別史蹟山田寺 史蹟指定—00年』奈文研第13回東京講演会奈良文化財研究所 pp. 4-7	奈良文化財研究所	10月23日	無
8	同上	文化遺産部長兼文化遺産部遺跡整備研究室長・内田和伸	平城宮第一次大極殿院南門前の射礼について	奈文研ウェブサイト ブログ 作寶楼	奈良文化財研究所	4年1月4日	無
9	同上	文化遺産部主任研究員・高橋知奈津	遺跡現地の活用の推進 2—平城宮跡の活用に関する実践的研究	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
10	我が国の記念物に関する調査研究(庭園)	文化遺産部長兼文化遺産部遺跡整備研究室長・内田和伸	特記すべき石造物について	奈良市の庭園総合調査報告書	奈良文化財研究所	4年3月31日	無
11	同上	文化遺産部長兼文化遺産部遺跡整備研究室長・内田和伸	町家の庭園	奈良市の庭園総合調査報告書	奈良文化財研究所	4年3月31日	無
12	同上	文化遺産部長兼文化遺産部遺跡整備研究室長・内田和伸	奈良の近代数寄者の建築の古材趣味	奈良市の庭園総合調査報告書	奈良文化財研究所	4年3月31日	無
13	同上	文化遺産部主任研究員・高橋知奈津	奈良市内庭園の特質	奈良市の庭園総合調査報告書	奈良文化財研究所	4年3月31日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
14	同上	文化遺産部主任研究員・高橋知奈津	外村市郎兵衛家の庭園・外村与左衛門家の庭園	東近江市近代和風建築等総合調査 近江商人本宅建造物調査報告書 1	東近江市	9月17日	無
15	同上	文化遺産部主任研究員・高橋知奈津	旧森川家住宅の庭園	旧森川家住宅調査報告書	竹原市	4年2月28日	無
16	同上	文化遺産部主任研究員・高橋知奈津	伯耆地方の民家の庭園	近世庭園の研究—安土桃山・江戸時代—	奈良文化財研究所	4年3月31日	無
17	平城宮・京出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部平城地区考古第一研究室研究員・浦蓉子 他	平城宮・京跡出土土物の年輪年代測定	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
18	同上	都城発掘調査部平城地区考古第一研究室長・国武貞克 他	平城宮出土檜扇に関する研究	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
19	同上	都城発掘調査部平城地区主任研究員・丹羽崇史 他	古代都城における生産遺跡出土磁石の基礎的研究 平城京の銹銅遺跡出土品を対象として	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
20	同上	都城発掘調査部平城地区主任研究員・小田裕樹 他	箱形土製品赤色付着物の科学分析 平城第 601 次調査出土	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
21	同上	都城発掘調査部平城地区主任研究員・小田裕樹 他	西大寺食堂院出土須恵器甕と内面の痕跡 第 404 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
22	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長・山崎健	西大寺食堂院 SE950 出土の動物依存体 第 404 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
23	同上	都城発掘調査部平城地区考古第一研究室研究員・浦蓉子	平城宮出土の竹尺 第 440 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
24	同上	企画調整部展示企画室長・岩戸晶子	3 次元モデルを活用した平城宮出土唐花文鬼瓦の復元	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
25	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務	都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員・日黒新悟 他	東大寺所蔵建築部材の年輪年代測定と転写門の改造時期 東大寺東塔復元研究 4	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
26	同上	都城発掘調査部平城地区遺構研究室アソシエイトフェロー・山本光良	東大寺西七重塔模型設計図について	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
27	第一次大極殿院建造物復元整備他にかかる調査委託	都城発掘調査部平城地区遺構研究室アソシエイトフェロー・李暉	古代建築木口金具の鑄造に用いた原型の検討 第一次大極殿院の復元研究 31	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
28	中国との共同研究	企画調整部展示企画室長・岩戸晶子 他	日本民藝館所蔵の建築明器の屋根	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
29	平城宮・京の発掘調査	都城発掘調査部平城地区考古第二研究室研究員・大澤正吾	平城宮東方官衙地区の調査 第 621 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
30	同上	都城発掘調査部平城地区主任研究員・前川歩	薬師寺東塔の調査 第 622 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
31	同上	都城発掘調査部平城地区考古第一研究室研究員・浦蓉子 他	西大寺小塔院の調査 第 624・627 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
32	同上	都城発掘調査部平城地区主任研究員・森先一貴 他	興福寺境内の調査 第 625 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
33	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第三研究室研究員・岩永玲	平城京右京三条一坊八坪の調査 第 629 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
34	同上	都城発掘調査部平城地区主任研究員・小田裕樹	法華寺庭園の調査 第 623 次・立会第 2020-24 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
35	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第三研究室研究員・岩永玲	平城京左京一条二坊九坪の調査立会第 2020-21 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
36	同上	都城発掘調査部平城地区考古第三研究室長・今井昇樹	昭和 38 年一乗院調査出土の軒瓦 第 17-1 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
37	平城宮・京出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部主任研究員 和田一之輔他	薬師寺西塔跡出土品の再整理—昭和 9 年の日本古文化研究所による発掘調査を中心に	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	4年3月18日	有
38	飛鳥地域等の調査	都城発掘調査部主任研究員 石田由紀子ほか	奥山麁寺(奥山久米寺)の調査—第 204-7 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
39	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部主任研究員 石田由紀子ほか	藤原京左京三条三坊の調査—第 204-6 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
40	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部主任研究員 石田由紀子ほか	藤原京左京八条三坊の調査—第 202 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
41	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部主任研究員 石田由紀子	本薬師寺の調査出土の瓦—第 197-8 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
42	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部主任研究員 鈴木智大・若杉智宏ほか	藤原宮大極殿院の調査—第 205 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
43	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部アソシエイトフェロー 道上祥武	藤原宮東方官衙南地区の調査—第 204-1 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
44	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部飛鳥藤原考古第二研究室長 森川実	藤原京右京六条二・三坊、四分遺跡の調査—204-2次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
45	飛鳥地域等の調査	都城発掘調査部飛鳥藤原史料研究室長 山本崇ほか	大官大寺南方の調査—第203・206次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
46	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部アソシエイトフェロー 片山健太郎 (現・総社市)	日高山1号墳出土の木心鉄板張輪鏝	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
47	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部アソシエイトフェロー 片山健太郎 (現・総社市)	飛鳥・藤原地域出土の弓	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
48	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部研究員 山藤正敏	石神遺跡 SD1347・SD1476 出土の土器群—石神遺跡第8・9次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
49	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部飛鳥藤原地区史料研究室長・山本崇	第9講 東漢氏と西文氏	古代史講義【氏族篇】 ちくま新書 1579	筑摩書房	6月	無
50	同上	都城発掘調査部副部長・清野孝之	山田寺の歴史と発掘調査	奈良文化財研究所第13回東京公演会 特別史跡山田寺跡史跡指定100年	奈良文化財研究所	10月	無
51	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第三研究室長・林正憲	出土遺物からみた山田寺—瓦磚類を中心に—	奈良文化財研究所第13回東京公演会 特別史跡山田寺跡史跡指定100年	奈良文化財研究所	10月	無
52	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区史料研究室長・山本崇他1名	総論 7世紀の木簡	考古学ジャーナル 759	ニューサイエンス社	10月	無
53	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区史料研究室長・山本崇	7世紀木簡の樹種—研究現状の整理のために	考古学ジャーナル 759	ニューサイエンス社	10月	無
54	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区史料研究室長・山本崇	概説 大和の墨書・刻書土器	埋蔵文化財ニュース第186号	奈良文化財研究所	11月	無
55	藤原宮大極殿院の調査	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第三研究室アソシエイトフェロー・道上祥武	藤原宮大極殿院の調査(飛鳥藤原第208次)	奈文研ニュースNo.82	奈良文化財研究所	9月	無
56	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第三研究室研究員・岩永玲	藤原宮大極殿院の調査(飛鳥藤原第208次)	奈文研ニュースNo.83	奈良文化財研究所	12月	無
57	古代官衙・集落遺跡に関する研究会の開催及び報告書刊行	都城発掘調査部藤原地区アソシエイトフェロー 道上祥武	古代集落の諸類型 集落研究の現状と方向性	古代集落の構造と変遷 1	奈良文化財研究所	12月27日	無
58	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部飛鳥藤原地区史料研究室長・山本崇	奈良・飛鳥寺旧境内	木簡研究 43	木簡学会	12月	無
59	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第三研究室アソシエイトフェロー・道上祥武 他	奈良県の鷗尾	古代瓦研究XI	奈良文化財研究所	4年2月4日	無
60	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原史料研究室長 山本崇	大官大寺南方	飛鳥の考古学 2021	奈良文化財研究所	4年1月	無
61	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原史料研究室長 山本崇	墨書土器を歩く～奈良県出土墨書刻書土器・文字瓦集成上下の刊行	奈文研ニュースNo.84	奈良文化財研究所	4年3月	無
62	同上	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第二研究室長・森川実	古代食器の計測とその誤差にかんする実験的研究	奈文研論叢 3号	奈良文化財研究所	4年3月18日	有
63	飛鳥地域等の発掘調査	都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第二研究室研究員・山藤正敏	大官大寺南方の調査(飛鳥藤原第206次)	奈文研ニュースNo.81	奈良文化財研究所	6月	無

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 65件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進 34件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	動植物遺存体の分析方法の研究開発	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長・山崎健	都城と馬	馬と古代社会	八木書店	5月25日	無
2	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長・山崎健	古代の蠅害考	古代の食を再現する	吉川弘文館	6月10日	無
3	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長・山崎健	金井下新田遺跡から出土した動物遺存体	金井下新田遺跡≪古墳時代以降編≫分析・論考編	群馬県埋蔵文化財調査事業団	7月20日	無
4	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室客員研究員・上中央子	藤原宮下層運河 SD1901A 埋積土から検出された花粉化石群集にみられる植生変遷	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
5	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長・山崎健	西大寺食堂院 SE950 出土の動物遺存体	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
6	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長・山崎健	日本における家ネズミの考古学的記録	BIOSTORY36	誠文堂新光社	12月1日	無
7	年輪年代学研究	都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員・目黒新悟、埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治	東大寺所蔵建築部材の年輪年代測定と転害門の改造時期－東大寺東塔復元研究4－	奈良文化財研究所紀要2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
8	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治、都城発掘調査部平城地区考古第一研究室研究員・浦容子、副所長・高妻洋成他1名	平城宮・京跡出土曲物の年輪年代測定	奈良文化財研究所紀要2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
9	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治他3名	東北地方南部太平洋側地域における現生スギ標準年輪曲線	文化財科学 83号	日本文化財科学会	9月	無
10	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治他2名	甲斐善光寺木造源頼朝・実朝坐像の解体修理に伴う年代測定	奈文研論叢 3	奈良文化財研究所	4年3月18日	有
11	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治他1名	平城京右京八条二坊十四坪および轟遺跡から出土した曲物円板の年輪年代測定	大和郡山市文化財調査年報令和2年度	大和郡山市	4年3月	無
12	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長・星野安治他2名	上砥山遺跡出土木製品の年輪年代測定からみた出土遺構の数値年代	滋賀県文化財保護協会紀要35	滋賀県文化財保護協会	4年3月	無
13	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・高野紗奈江	縄文原体	季刊考古学 155号	雄山閣	4月	無
14	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員・山口欧志	文化財の三次元計測方法による収集データの比較	日本考古学協会第87回総会研究発表要旨	日本考古学協会	5月	無
15	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・中村亜希子	渤海国の瓦埴の変遷と系譜－紋様埴を読み解く－	中国考古学論叢－古代東アジア社会への多角的アプローチ－	同成社	5月	無
16	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室主任研究員・村田泰輔	金井下新田遺跡出土馬頭のX線CT撮像、X線CTによる非破壊構造解析の有効性－白玉資料群の事例－	金井下新田遺跡《古墳時代以降編》分析・論考編	群馬県埋蔵文化財調査事業団	7月20日	無
17	同上	都城発掘調査部平城地区主任研究員・小田裕樹、埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員・山口欧志、埋蔵文化財センター長・金田明大 他1名	西大寺食堂院出土須恵器甕と内面の痕跡－第404次	奈良文化財研究所紀要2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
18	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員・山口欧志	遺跡発掘調査記録のDXの試行	日本文化財科学会第38回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	9月	有
19	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・中村亜希子、同遺跡・調査技術研究室客員研究員・高野紗奈江、企画調整部写真室専門職員・中村一郎 他1名	山内清男のカメラ～撮影現像関係資料の紹介～	文化財写真研究 vol.11	文化財写真技術研究会	11月	無
20	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・平川ひろみ 他1名	弥生土器における回転台問題とその論理	日本考古学協会第87回総会研究発表要旨	日本考古学協会	5月12日	有
21	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・平川ひろみ 他1名	遺跡発掘調査におけるパブリックアーケオロジーの実践－鹿児島県三島村黒島における地域住民と考古学－	日本情報考古学会講演論文集 Vol. 24	日本情報考古学会	9月25日	無
22	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・平川ひろみ 他2名	3Dを終始多用した発掘調査－鹿児島県三島村黒島の調査から－	日本情報考古学会講演論文集 Vol. 24	日本情報考古学会	9月25日	無
23	同上	埋蔵文化財センター長・金田明大	「起きてから縄をなう」ままでいいのか－東日本大震災復興調査での技術利用とその課題－	考古学研究 第68巻第3号	考古学研究会	12月30日	無
24	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室主任研究員・村田泰輔	歴史災害痕跡データベースの構築とその有効性	考古学研究 第68巻第3号	考古学研究会	12月30日	無
25	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員・中村亜希子 他3名	「瓦様」と瓦範－東大寺式軒丸瓦における同紋瓦・同範瓦の再検討－	奈文研論叢 第3号	奈良文化財研究所	4年3月18日	有
26	同上	埋蔵文化財センター客員研究員中川朋美、埋蔵文化財センター長・金田明大 他2名	SfM とレーザー計測による古人骨計測の比較	奈文研論叢 第3号	奈良文化財研究所	4年3月18日	有

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
27	同上	埋蔵文化財センター客員 研究員野下浩司、埋蔵文 化財センター長・金田明 大 他3名	遠賀川式土器の形態に関する数理 的考察―田村遺跡、矢野遺跡、綾 羅木郷遺跡を中心に―	奈文研論叢 第3号	奈良文化財研 究所	4年3月18日	有
28	同上	埋蔵文化財センター遺 跡・調査技術研究室客員 研究員・中村亜希子 他2 名	変形忍冬唐草文軒平瓦 6647C の再 検討	奈文研論叢 第3号	奈良文化財研 究所	4年3月18日	有
29	同上	埋蔵文化財センター遺 跡・調査技術研究室主任 研究員・村田泰輔、同遺 跡・調査技術研究室研究 員・上相英之	歴史災害痕跡データベースの構築 とその有効性	奈文研論叢 第3号	奈良文化財研 究所	4年3月18日	有
30	同上	埋蔵文化財センター遺 跡・調査技術研究室研究 員・上相英之 他4名	当麻寺巻柱とその銘文の調査	奈文研論叢 第3号	奈良文化財研 究所	4年3月18日	有
31	同上	埋蔵文化財センター長・ 金田明大	第V章 関連諸分野からの検討 I 東塔の探査	薬師寺東塔発掘調査報告	薬師寺	4年3月	無
32	同上	埋蔵文化財センター遺 跡・調査技術研究室主任 研究員・村田泰輔	第V章 関連諸分野からの検討 II 東塔基壇および基壇外周の地質 調査と放射性炭素年代測定の結果	薬師寺東塔発掘調査報告	薬師寺	4年3月	無
33	文化財の調査・研究成 果を社会・教育実装す るためのICTを用 いた普及・啓発手法の 開発	埋蔵文化財センター長・ 金田明大、同主任研究員・ 村田泰輔、同遺跡・調査技 術研究室研究員・山口欧 志、同遺跡・調査技術研 究室研究員・上相英之	MRを利用した発掘調査支援シス テムの試行	日本文化財科学会第38回大 会研究発表要旨集	日本文化財科 学会	9月	無
34	物質文化・地質情報等 を基とした防災・減 災・復興・復旧の歴史 的研究	埋蔵文化財センター上席 研究員・小谷竜介	民俗芸能の被災と再開	文化財の虫菌害 81号	文化財虫菌害 研究所	6月	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 31件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	遺構の安定した保存 のための維持管理方 法に関する調査研究	埋蔵文化財センター保存 修復科学研究室長・脇谷 草一郎、同保存修復科学 研究室客員研究員・小椋 大輔 他3名	地盤に接する文化財の脱塩に関す る研究 ―多孔質材料中における 塩溶液の移動特性の検討―	日本建築学会近畿支部研究 発表会梗概	日本建築学会 近畿支部	6月27日	無
2	同上	埋蔵文化財センター保存 修復科学研究室長・脇谷 草一郎、同保存修復科学 研究室客員研究員・小椋 大輔 他3名	地盤に接する文化財の脱塩に関す る研究 ―多孔質材料中における 塩溶液の移動特性の検討―	日本建築学会大会学術講演 梗概集（東海）	日本建築学会	9月7日	無
3	同上	埋蔵文化財センター保存 修復科学研究室長・脇谷 草一郎、同保存修復科学 研究室客員研究員・小椋 大輔 他3名	地盤に接する文化財の脱塩に関す る研究 ―多孔質材料中における 塩溶液の移動特性の検討―	日本文化財科学会第38回大 会要旨集	日本文化財科 学会	9月18日	無
4	同上	埋蔵文化財センター保存 修復科学研究室長・脇谷 草一郎	鷺ノ山石製剥抜き式石棺の劣化要因 に関する調査報告	高松市内所在剥抜き式石棺調 査報告書Ⅱ	高松市教育委 員会	4年3月	無
5	古墳壁画の恒久的保 存に関する調査研究	埋蔵文化財センター保存 修復科学研究室長・脇谷 草一郎、同保存修復科学 研究室客員研究員・小椋 大輔 他2名	【連載】模擬古墳―遺構・遺物の 保存と活用を考えるための実験的 取り組み―④座談会―現状・課題・ 展望―	考古学研究 第68巻第1号	考古学研究会	6月	無
6	同上	埋蔵文化財センター保存 修復科学研究室アソシエ イトフェロー・松野美由 樹	虎塚古墳の壁画剥落片に形成され た独特な微生物叢	日本文化財科学会第38回大 会要旨集	日本文化財科 学会	9月19日	無
7	同上	埋蔵文化財センター保存 修復科学研究室長・脇谷 草一郎 他3名	壁画構成材料の乾湿による膨張、 収縮の測定	日本文化財科学会第38回大 会要旨集	日本文化財科 学会	9月19日	無
8	同上	副所長・高妻洋成、埋蔵文 化財センター保存修復科 学研究室アソシエイトフ ェロー・中田愛乃、同保存 修復科学研究室客員研究 員・辻本与志一 他7名	蛍光X線分析による泥に覆われた キトラ古墳壁画の調査	日本文化財科学会第38回大 会要旨集	日本文化財科 学会	9月19日	無
9	同上	埋蔵文化財センター保存 修復科学研究室研究員・ 柳田明進	どうして古墳の副葬品は現在まで 残るのか？ ―模擬古墳による金 属製品の腐食メカニズムの検討	奈良文化財研究所第127回 公開講演会	奈良文化財研 究所	11月13日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
10	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進、同保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、副所長・高妻洋成	埋蔵時の鉄製文化財の腐食を支配する土中溶存酸素の挙動に関する検討—マイクロ酸素センサを用いた溶存酸素拡散層の実測	材料と環境 2021 講演集	腐食防食学会	4月30日	無
11	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進、同保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、副所長・高妻洋成	海底遺跡における沈没船の現地保存に関する研究—鷹島海底遺跡における元軍船の埋め戻し法の検討とその評価	日本文化財学会第38回大会要旨集	日本文化財学会	9月18日	無
12	同上	副所長・高妻洋成、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室研究員・松田和貴	溶媒蒸発速度の制御による水浸出土木製遺物の保存処理における薬剤含浸の効率化（その2）	日本文化財学会第38回大会要旨集	日本文化財学会	9月18日	無
13	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進 他1名	大久保間歩で発見されたドッグスパイクへのトレハロース法の適用とその評価—その1 ドッグスパイクの状態調査	石見銀山遺跡科学調査報告書5	島根県教育委員会・大田市教育委員会	4年3月	無
14	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進 他1名	大久保間歩で発見されたドッグスパイクへのトレハロース法の適用とその評価—その2 トレハロースによるドッグスパイクの保存処理	石見銀山遺跡科学調査報告書5	島根県教育委員会・大田市教育委員会	4年3月	無
15	考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美	金井下新田遺跡出土のガラス玉類の自然科学的調査	金井下新田遺跡〈古墳時代以降編〉分析・論考編	群馬県埋蔵文化財調査事業団	7月20日	無
16	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室客員研究員・大賀克彦	府中市熊野神社古墳出土玉類の考古科学的検討	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
17	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美 他1名	Research and Restoration of Western Prasat Top	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
18	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美 他3名	酢醸造壺の白色付着物に関する科学的検討	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
19	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室客員研究員・大賀克彦	COMPOSITIONAL AND ISOTOPIC INVESTIGATION OF PLANT-ASH GLASS BEADS IN JAPAN	Proceedings of the 22nd Congress of the Association International pour l'Histoire du Verre & ICOM Glass Meeting	Association International pour l'Histoire du Verre	9月14日	無
20	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美 他6名	福岡県平原1号墓出土の紺色重層ガラス連珠の再検討	日本文化財学会第38回大会要旨集	日本文化財学会	9月18日	無
21	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美 他3名	元素分析による田能遺跡出土管玉の分類の検討	日本文化財学会第38回大会要旨集	日本文化財学会	9月18日	無
22	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美 他1名	アイヌ文化期におけるガラス玉の時期変遷に関する考古科学研究—化学組成と鉛同位体比分析—	日本文化財学会第38回大会要旨集	日本文化財学会	9月18日	無
23	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美 他3名	A Study on the Structure and Significance of the North Sanctuary at Western Prasat Top	Papers from the SEAMEO SPAFA International Conference on SOUTHEAST ASIAN ARCHAEOLOGY AND FINE ARTS 13 - 17 December 2021	SOUTHEAST ASIAN MINISTERS OF EDUCATION ORGANIZATION REGIONAL CENTRE FOR ARCHAEOLOGY AND FINE ARTS	12月13日	無
24	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美 他4名	SCIENTIFIC ANALYSIS ON THE GLASS BEADS FROM THE XIONGNU BURIAL OF ZAMIIN UTUG	NOMADIC HERITAGE STUDIES, Tomus XXII-II, Fasciculus 1- 22	National Museum of Mongolia	11月	無
25	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美 他4名	Scientific and archaeological approach for the Glass beads trade of Xiongnu and Xianbei	Studia Archaeologica, Tomus XL, Fasc 6, 2021	Institute of Archaeology, Mongolian Academy of Sciences	12月	無
26	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美	ベンシヨ塚古墳出土ガラス製玉類の自然科学的調査	ベンシヨ塚古墳発掘調査報告書	奈良市教育委員会	4年2月10日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
27	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美 ほか2名	猪ノ鼻(1)遺跡出土土玉類等の自然科学的分析	研究紀要第27号	青森県埋蔵文化財調査センター	4年3月16日	無
28	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美	岡山城殿山遺跡出土ガラス玉の自然科学的調査	『城殿山遺跡 和田谷遺跡 マキサヤ遺跡』（『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告256』）	岡山県古代吉備文化財センター	4年3月18日	無
29	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美 ほか1名	アイヌ文化期の遺跡出土ガラス玉の特徴と流通経路	北海道考古学 第58輯	北海道考古学会	4年3月31日	有
30	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美	出雲国分寺跡出土ガラス玉の分析	史跡出雲国分寺跡発掘調査報告書（第19次～第22次発掘調査）	松江市教育委員会	4年3月	無
31	同上	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美	海を越えたガラスビーズ—東西交易とガラスの道	令和3年度 文化遺産国際協力コンソーシアム シンポジウム「海と文化遺産—海が繋ぐヒトとモノ—」	文化遺産国際協力コンソーシアム	11月28日	無

(3) 文化遺産保護に関する国際協働 13件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 13件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	文化遺産保護に関する国際協働	企画調整部国際遺跡研究室長・庄田慎矢、同国際遺跡研究室アソシエイトフェロー・村上夏希	オンラインツールを用いた海外技術移転：カザフスタンでの事例	奈良文化財研究所紀要2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
2	同上	企画調整部国際遺跡研究室専門職・佐藤由似、都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼務）・田村朋美	Research and Restoration of Western Prasat Top	奈良文化財研究所紀要2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
3	同上	企画調整部国際遺跡研究室専門職・佐藤由似 他	Angkorian Khmer stoneware: production and provenance	Journal of Archaeological Science	Elsevier	11月16日	有
4	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部国際遺跡研究室長・庄田慎矢、同国際遺跡研究室アソシエイトフェロー・村上夏希 他1名	キビの起源と拡散をめぐる考古生化学的探求	雑穀研究	雑穀研究会	10月31日	有
5	同上	企画調整部国際遺跡研究室アソシエイトフェロー・村上夏希、企画調整部国際遺跡研究室室長・庄田慎矢	酢醸造壺の白色付着物に関する科学的検討	奈良文化財研究所紀要2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
6	同上	企画調整部国際遺跡研究室長・庄田慎矢、同国際遺跡研究室アソシエイトフェロー・村上夏希 他5名	Dry or Wet? Evaluating the Initial Rice Cultivation Environment on the Korean Peninsula	Agronomy	MDPI	5月8日	有
7	同上	企画調整部国際遺跡研究室長・庄田慎矢	Seeking Prehistoric Fermented Food in Japan and Korea	Current Anthropology	The University of Chicago Press	9月28日	有
8	同上	企画調整部国際遺跡研究室長・庄田慎矢 他	土器残存脂質分析による貝塚文化北限地域における動植物資源利用の復元	文化財科学	日本文化財科学会	9月15日	有
9	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田慎矢 他	土器調理対象物への二つのアプローチ—付着塊状試料の窒素・炭素安定同位体比と残存脂質分析からわかることの違い—	中国考古学論叢—古代東アジア社会への多角的アプローチ—	同成社	5月31日	無
10	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田慎矢 他	A Bayesian approach for fitting and comparing demographic growth models of radiocarbon dates: A case study on the Jomon-Yayoi transition in Kyushu (Japan)	PLOS ONE	Public Library of Science	5月19日	有
11	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田慎矢 他	The wind that shakes the barley: the role of East Asian cuisines on barley grain size	World Archaeology	Taylor & Francis, Ltd.	4年2月1日	有
12	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部国際遺跡研究室室長 庄田慎矢 他	元素分析による土器供給体制への予察	日中共同研究成果報告書『中国江南の考古学』	中国文明起源プロジェクト	4年3月31日	無
13	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部国際遺跡研究室アソシエイトフェロー 村上夏希 企画調整部国際遺跡研究室長 庄田慎矢	須恵器の残存脂質分析に向けて—胎土の性状から見た検討—	奈文研論叢3	奈良文化財研究所	4年3月18日	有

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 30件

○調査研究成果の発信 9件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	調査研究成果の発信	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー 吳 修 詒	異言語間翻訳を超越する——科学技術社会論の視点から見る文化財多言語化	奈良文化財研究所研究報告第32冊『文化財多言語化研究報告2』	奈良文化財研究所	4年3月15日	無
2	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー 吳 修 詒	文化財を「翻訳」する(二)——飛鳥資料館第二展示室パネルテキスト訳文のブラッシュアップ	奈良文化財研究所研究報告第32冊『文化財多言語化研究報告2』	奈良文化財研究所	4年3月15日	無
3	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー 尾 素 妍	韓国における文化財用語醇化に関する断想—「질그릇(ジルグルッ)」の迷走を通じて—	奈良文化財研究所研究報告第32冊『文化財多言語化研究報告2』	奈良文化財研究所	4年3月15日	無
4	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	平城宮跡の文化財多言語展開—文化庁文化財多言語解説整備事業の報告を中心に—	奈良文化財研究所研究報告第32冊『文化財多言語化研究報告2』	奈良文化財研究所	4年3月15日	無
5	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー Yanase Peter	発掘調査報告書から多言語対応収蔵品データベースへ	奈良文化財研究所研究報告第32冊『文化財多言語化研究報告2』	奈良文化財研究所	4年3月15日	無
6	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー Yanase Peter	2021年度日英対訳集	奈良文化財研究所研究報告第32冊『文化財多言語化研究報告2』	奈良文化財研究所	4年3月15日	無
7	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー 吳 修 詒	文化財関連用語日中対訳集	奈良文化財研究所研究報告第32冊『文化財多言語化研究報告2』	奈良文化財研究所	4年3月15日	無
8	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー 尾 素 妍	文化財関連用語日韓対訳集	奈良文化財研究所研究報告第32冊『文化財多言語化研究報告2』	奈良文化財研究所	4年3月15日	無
9	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	多言語に関するガイドラインリスト(関係法令・ガイドライン等)	奈良文化財研究所研究報告第32冊『文化財多言語化研究報告2』	奈良文化財研究所	4年3月15日	無

○文化財情報基盤の整備・充実 21件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財に関するデータベースの充実	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一、同文化財情報研究室アソシエイトフェロー・Peter Yanase	The Production, Preservation and Dissemination of Archaeological Data in Japan	Internet Archaeology (58)	ヨーク大学考古学部	6月1日	有
2	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一他1名	紀要論文等の書誌情報流通における課題と「文化財論文ナビ」の取組	カレントアウェアネス(348) 2-5	国立国会図書館	12月1日	無
3	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	日本全国の文化財を地図で閲覧できる「文化財総覧WebGIS」の公開	奈文研ニュース	奈良文化財研究所	9月1日	無
4	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	機械学習による石器図面画像の自動抽出と分類	奈良文化財研究所紀要2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
5	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー・Peter Yanase、企画調整部文化財情報研究室客員研究員・Shaun I. Mackey	"A Japanese-English Glossary of Terminology Related to the Central	奈良文化財研究所紀要2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
6	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー・吳修詒	Government During the Nara Period(A bridged)"	奈良文化財研究所紀要2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
7	同上	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー・尾素妍	「文化財」を翻訳する—中国語における「文物」「文化遺産」などとの比較を中心に—	奈良文化財研究所紀要2021	奈良文化財研究所	7月26日	無
8	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	「文化財総覧WebGIS」の公開—地図から多様な文化財を探す—	遺跡学研究 18号	日本遺跡学会	12月13日	無
9	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	文化財をめぐる著作権の問題に対応していくために	奈良文化財研究所研究報告第34冊『文化財と著作権』	奈良文化財研究所	4年3月31日	無
10	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一他1名	文化財コンテンツと著作権に関するQ&A	奈良文化財研究所研究報告第34冊『文化財と著作権』	奈良文化財研究所	4年3月31日	無
11	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一他4名	文化財関係行物のデジタル公開の意見交換会開催記録	奈良文化財研究所研究報告第34冊『文化財と著作権』	奈良文化財研究所	4年3月31日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
12	同上	客員研究員 野口淳	考古学・埋蔵文化財情報のオープン化…	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と活用4ーオープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GISー』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
13	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	考古学・埋蔵文化財の情報プラットフォームとしての全国遺跡報告総覧ー When Where What で検索できるシステムを目指してー	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と活用4ーオープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GISー』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
14	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	インターネットで地域の文化財を調べる方法…	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と活用4ーオープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GISー』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
15	同上	客員研究員 野口淳他2名	文化財× Wikipedia、枠組みと実践	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と活用4ーオープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GISー』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
16	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	文化財総覧 WebGIS : データと機能	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と活用4ーオープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GISー』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
17	同上	客員研究員 野口淳	考古学・埋蔵文化財 GIS データの標準化、ファイルフォーマット、オープン化	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と活用4ーオープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GISー』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
18	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	考古学・文化財デジタルデータのための Guides to Good Practice 作成の経緯と意義	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と活用4ーオープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GISー』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
19	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	石丁場のデジタル調査方法ーフオートグラメトリ・ドローン・RTK-GNSS・LiDARー	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と活用4ーオープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GISー』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
20	同上	企画調整部文化財情報研究室研究員・高田祐一	2021 年度数字で見る全国遺跡報告総覧	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と活用4ーオープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GISー』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無
21	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	企画調整部展示企画室アシリエイトフェロー 藤田友香里	平城宮跡資料館における文化財動画の活用	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と活用4ーオープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GISー』	奈良文化財研究所	4年3月30日	無

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】 0件

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

令和4年3月31日現在

【本部文化財活用センター】

○調査研究刊行物 2件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	2020年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書	300	文化庁、首都圏小中学校、都道府県教育委員会、都道府県教育センター、国内の美術館・博物館等

【本部文化財防災センター】

○調査研究刊行物 2件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	令和2年度文化財防災センター年次報告書	400	連携協力機関、関係者・協力者等（奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」を通じて、WEB上にて公開）
2	文化財の放射線対策ガイドブック 2021	700	連携協力機関、関係者・協力者等（奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」を通じて、WEB上にて公開）

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物 3件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	「MUSEUM」691～696号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等
2	「東京国立博物館紀要」57号	500	美術館・博物館・大学・研究所等
3	「東京国立博物館文化財修理報告」22	500	美術館・博物館・大学・研究所等

○展覧会図録等 17件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	特別展『国宝 鳥獣戯画のすべて』	—	—
2	特別展『国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ』	—	—
3	特別展『聖徳太子1400年遠忌記念 聖徳太子と法隆寺』	—	—
4	特別展『マレーシア・イスラーム美術館精選 イスラーム王朝とムスリムの世界』	—	—
5	特別企画『東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 スポーツNIPPON』	—	—
6	特別展『伝教大師1200年大遠忌記念 最澄と天台宗のすべて』	—	—
7	特別展『ボンベイ』	—	—
8	特別展『空也上人と六波羅蜜寺』	—	—
9	「親子のギャラリー 動物のうごき」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
10	『博物館でアジアの旅 空想動物園』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
11	『江戸にもたらされた中国書画』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
12	「岐阜県関市・春日神社の能狂言面」パンフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
13	「瓦が語る東大寺の歴史」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
14	「浅草寺のみほとけ」パンフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
15	「博物館に初もうで 虎 今年はトーハク150周年！めでタイガー!!」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
16	「東京国立博物館コレクションの保存と修理」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
17	『修理完了記念 国宝・医心方のすべて』	1,000	関係機関・協力先等

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物 4件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	研究紀要「学叢」第43号	800	美術館・博物館・大学等
2	文化財保存修理所 修理報告書19	450	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等
3	社寺調査報告30 金剛寺	500	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等
4	社寺調査報告31 観心寺	570	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等

○展覧会図録等 7件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	凝然国師没後七百年 特別展 鑑真和上と戒律のあゆみ	—	美術館・博物館・大学等
2	特別展 京の国宝—守り伝える日本のたから—	—	同上
3	特別展 畠山記念館の名品—能楽から茶の湯、そして琳派—	—	同上
4	特別企画 オリエンピア×ニッポン・ビジュツ	2,000	同上
5	特集展示 後期古墳の実像—播磨の首長墓・西宮山古墳—	1,000	同上
6	特別公開 四国の弥生土器と弥生・古墳時代の生産—辰砂と鉄— リーフレット	8,000	来館者無料配布、ウェブ公開
7	特集展示 雛まつりと人形 リーフレット	5,000	同上

※博物館だより、Newsletterの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【奈良国立博物館】

○調査研究刊行物 2件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	奈良国立博物館研究紀要「鹿園雑集」第24号	700	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書 第4号	650	美術館・博物館・大学・研究機関等・教育委員会等

○展覧会図録 6件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	特別展 『聖徳太子1400年遠忌記念 特別展 聖徳太子と法隆寺』	1,550	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	特別展 『特別展 奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—』	1,900	美術館・博物館・大学・研究機関等
3	特別展 『第73回正倉院展』	1,920	美術館・博物館・大学・研究機関等
4	特別展 『The 73rd Annual Exhibition of Shoso-in Treasures』	990	美術館・博物館・大学・研究機関等
5	特別展 『特別展 名画の殿堂 藤田美術館展 —傳三郎のまなざし—』	1,770	美術館・博物館・大学・研究機関等
6	特別展 『特別展 国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ』	1,450	美術館・博物館・大学・研究機関等

※博物館だよりの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【九州国立博物館】

○調査研究刊行物 2件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	九州国立博物館 研究紀要『東風西声』第17号	900	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	九州国立博物館 文化財修復報告 第4号(平成23年度～平成24年度)	750	文化財所有者・博物館・行政機関・研究機関等

○展覧会図録等 6件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	特別展 御大典記念 特別展『よみがえる正倉院宝物—再現模造にみる天平の技—』	900	博物館・美術館・大学・研究機関等
2	特別展 特別展『皇室の名宝—皇室と九州をむすぶ美—』	1,400	博物館・美術館・大学・研究機関等
3	特別展 特別展『海幸山幸—祈りと恵みの風景—』	1,200	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	特別展 伝教大師1200年大遠忌記念特別展『最澄と天台宗のすべて』	1,100	博物館・美術館・大学・研究機関等
5	特集展示等 特集展示『没後350年記念 明国からやって来た奇才仏師 范道生』	1,500	博物館・美術館・大学・研究機関等
6	その他 点字・触知図・音声コード付き 文化交流展示室案内	1,000	特別対応時に配布

※アジアージュの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 5件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 2件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	『ものの記憶—読み解き・伝え・遺す—』	700	大学・研究機関・教育委員会・博物館・美術館・図書館等
2	Lacquered Door Panels of Wat Rajpradit - Study of the Japan-made Lacquerwork Found in Thailand	600	大学・研究機関・博物館・美術館・図書館等

・無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 3件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	第14回公開学術講座「日本の伝統的な管楽器と竹材」報告書	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルス フォーラム3「伝統芸能と新型コロナウイルス—Good Practiceとは何か—」報告書	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『日本の芸能を支える技Ⅷ 能装束 佐々木能衣装』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 3件

・文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1件

	刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
1	『春日権現験記巻十一・巻十二 光学調査報告書』	500	大学・研究機関、図書館等

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 2件

	刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
1	『東京国立博物館所蔵平安仏画 光学調査報告書』	600	大学・研究機関・教育委員会・博物館・美術館・図書館等
2	『Conservation and Restoration of Concrete Structures』	200部	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(3)文化遺産保護に関する国際協働 18件

・文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 18件

	刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
1	令和3年度世界遺産研究協議会 「整備」をどう説明するか（第二部）	450	官公庁、自治体、国際機関等
2	各国の文化財保護法令シリーズ [26] カナダ	100	官公庁、図書館等
3	アジア諸国等文化遺産保存修復協力 令和3年度成果報告書	50	外部評価委員会、事業関係者等
4	大陸部東南アジアの木造建築を考える	100	大学、研究機関、関係団体等
5	考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産 研究会記録	20	外部評価委員会
6	世界遺産ミャンマー・バガン遺跡 華麗なる壁画の世界	1,000	大学、研究機関、事業関係者等
7	スタック装飾及び塑像に関する研究 令和3年度報告書	50	外部評価委員会及び研究機関、関係団体等
8	平成27年度在外日本古美術品保存修復協力事業 親鸞聖人絵伝 No.2015-4 修復報告	250	関係者・大学・研究機関・博物館等
9	国際研修におけるIT技術導入のための実証実験（デジタル版のみ）	—	※ウェブ公開
10	令和3年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業 ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業 報告書	40	文化庁
11	Understanding Our Heritage / Pema Visits a Rammed Earth House	14,000	ブータン内務文化省、教育省
12	ブータンの伝統的民家 西部中央編—ティンブー、プナカ、パロ、ハー—	100	大学、研究機関、関係団体等
13	第29回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 文化遺産にまつわる情報の保存と継承～開かれたデータベースに向けて～ 報告書（日本語版）	200	大学・研究機関・図書館等
14	第29回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 文化遺産にまつわる情報の保存と継承～開かれたデータベースに向けて～ 報告書（英語版）	200	大学・研究機関・図書館等
15	第30回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 報告書（日本語版）	200	大学・研究機関・図書館等
16	文化遺産国際協力コンソーシアム国際協力調査 海域交流ネットワークと文化遺産 令和3年度 調査報告書（日本語版）	250	大学・研究機関・図書館等
17	文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 文化遺産とSDGs報告書（英語版）	200	大学・研究機関・図書館等
18	令和3年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム 海と文化遺産—海が繋ぐヒトとモノ 報告書（日本語版）	250	大学・研究機関・図書館等

(4)文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 13件

・調査研究成果の発信 13件

	刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
1	『東京文化財研究所年報』2020年度版	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
2	『東京文化財研究所概要』2021年度版	2,700	博物館・美術館・大学・研究機関等
3	『東文研ニュース』74号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	『東文研ニュース』75号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
5	『東文研ニュース』76号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
6	『東文研ニュース』77号	1,400	博物館・美術館・大学・研究機関等
7	『令和元年版 日本美術年鑑』	600	大学・研究機関、図書館等
8	『美術研究』434号	400	大学・研究機関、図書館等
9	『美術研究』435号	400	大学・研究機関、図書館等
10	『美術研究』436号	400	大学・研究機関、図書館等
11	『無形文化遺産研究報告』第16号	700	博物館・美術館・大学・研究機関等
12	『第16回無形民俗文化財研究協議会報告書』	700	博物館・美術館・大学・研究機関等
13	『保存科学』61号	650	博物館・美術館・図書館・大学・研究機関等

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 12件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 2件

	刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
1	『仁和寺史料 目録編〔稿〕』5	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『綿業会館家具調度品調査報告書』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 10件

	刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
1	『近世庭園の研究—安土桃山・江戸時代—』奈良文化財研究所学報第101冊	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『奈良市の庭園総合調査報告書』	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『薬師寺東塔発掘調査報告』	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	『古代集落の構造と変遷2（古代集落を考える2）第25回古代官衙・集落研究会研究報告資料』	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	『研究報告第30冊 第24回古代官衙・集落研究会報告書『古代集落の構造と変遷1』	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

6	『第21回古代瓦研究会シンポジウム 鷗尾・鬼瓦の展開Ⅱ 一鬼瓦一』 発表要旨集	400	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
7	『古代瓦研究Ⅺ 鷗尾の展開』	850	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
8	『学報第99冊 葦義黄治窯発掘調査報告』付論・付表編	700	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
9	藤原宮大極殿院の調査 飛鳥藤原第208次調査 現地見学会資料	2,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
10	『学報第71冊 飛鳥池遺跡発掘調査報告』本文編Ⅰ、Ⅱ	各750	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(2) 科学技術を活用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 0件

(3) 文化遺産保護に関する国際協働 2件

・文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 2件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	『西トップ遺跡調査修復中間報告11』	500	文化庁・大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『Survey and Restoration of Western Prasat Top Interim Report 11』	300	文化庁・大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 16件

・文化財情報基盤の整備・充実 3件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	奈良文化財研究所研究報告第34冊『文化財と著作権』	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	奈良文化財研究所研究報告第33冊『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用4－オープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元データ・GIS－』	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	奈良文化財研究所研究報告第31冊『考古学・文化財デジタルデータのGuides to Good Practice』	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・調査研究成果の発信 7件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	奈良文化財研究所紀要2021	2,600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	奈良文化財研究所概要2021	2,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『奈文研ニュース』No. 81～No. 84	各2,200	大学・研究機関
4	『埋蔵文化財ニュース』No. 186	1,900	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	英文スタイル・マニュアル：基礎編 Style Manual for English Texts: General Conventions	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
6	奈良文化財研究所研究報告第32冊『文化財多言語化研究報告2』	650	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
7	奈文研論叢 第3号	2,500部	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・展示公開施設の充実 6件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	飛鳥資料館図録第74冊『屋根を彩る草花－飛鳥の軒瓦とその文様』	1,800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	飛鳥資料館カタログ第38冊『飛鳥の考古学2021』	1,800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	平城宮跡資料館 令和三年度 春期特別企画展『平城宮跡保存運動のさきがけ』配付資料	—	展示観覧者・一般
4	『森羅の世界－奈良・平安の庭を求めて－』（『奈良を測る－森羅の庭園研究と作庭－』展図録）	2,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	『地下の正倉院展－木簡を科学するⅡ－』	3,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等配布
6	『発掘された平城－2020・2021－』	4,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 0件

・平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物 5件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	『IRCI概要2021(日本語版)』	600 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
2	『IRCI概要2021(英語版)』	800 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
3	Proceedings of The IRCI Researchers Forum on ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region Progress and Challenges in the Research for the Safeguarding of Intangible Cultural Heritage - Towards a Sustainable Future -	500 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
4	Research on ICH' s Contribution to SDGs - Education and Community Development Project Report FY2020-2021	データ版で公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
5	Sustainable Research Data Collection for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region Project Report FY2019-2021	300 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

令和4年3月31日現在

件数	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所			アジア太平洋無形文化遺産研究センター
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	
合計	170	69	45	8	5	11	100	30	70	1
科学研究費補助金のみ	58	23	14	3	1	5	35	10	25	0
学術研究助成基金助成金のみ	112	46	31	5	4	6	65	20	45	1
科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。（日本学術振興会特別研究員を除く）

※科学研究費助成事業の研究分担者等として参画しているものについてはc①2）他機関の共同研究への参画実績参照

※科学研究費の交付決定額には間接経費を含む。

【東京国立博物館】

1) 科学研究費補助金のみ 14件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	小山 弓弦葉	学芸研究部調査研究課工芸室長	基盤研究(A)【令和2年度繰越】	1,194
2	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	田沢 裕賀	研究員	基盤研究(A)【令和2年度繰越】	4,000
3	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	皿井 舞	学芸研究部列品管理課平常展調整室長	基盤研究(B)【令和2年度繰越】	1,385
4	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	皿井 舞	学芸研究部列品管理課平常展調整室長	基盤研究(B)	2,600
5	能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究	浅見龍介	学芸企画部長	基盤研究(B)【令和2年度繰越】	1,300
6	能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究	浅見龍介	学芸企画部長	基盤研究(B)	2,860
7	失われた古代・中世絵巻の復原的研究—作品伝来情報の検討から—	土屋貴裕	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長	基盤研究(B)	3,120
8	中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究	富田 淳	副館長	基盤研究(B)【令和2年度繰越】	1,262
9	中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究	富田 淳	副館長	基盤研究(B)	3,250
10	ユーラシア草原地帯と東アジアの青銅器と鑄造技術の比較研究	高浜 秀	客員研究員	基盤研究(B)【令和2年度繰越】	2,990
11	ユーラシア草原地帯と東アジアの青銅器と鑄造技術の比較研究	高浜 秀	客員研究員	基盤研究(B)	4,940
12	輸送中の振動を受ける美術品の蓄積疲労予測システムの理論構築	和田 浩	学芸研究部保存修復課環境保存室長	基盤研究(B)【令和2年度繰越】	33
13	輸送中の振動を受ける美術品の蓄積疲労予測システムの理論構築	和田 浩	学芸研究部保存修復課環境保存室長	基盤研究(B)	7,150
14	3Dマルチ入力・マルチ出力土器分類DLモデルの開発研究	山本 亮	学芸研究部調査研究課考古室研究員	学術変革領域研究(A)	2,600

2) 学術研究助成基金助成金のみ 31件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）（研究期間）
1	中世律宗絵画に関する基礎的研究	瀬谷 愛	学芸研究部保存修復課保存修復室長	基盤研究(C)	0	4,420 〈平成30～4年度〉
2	金属製幡の基礎的研究—特に密教における灌頂道具としての用途と機能	伊藤 信二	学芸企画部博物館教育課長	基盤研究(C)	650	2,860 〈元～4年度〉
3	文書・典籍料紙における繊維の再利用に関する基礎的研究	高橋 裕次	客員研究員	基盤研究(C)	390	2,210 〈元～4年度〉
4	縄文時代の地域間交流の研究—CADを用いた土器容量の比較—	井出 浩正	学芸企画部博物館教育課教育講座室長	基盤研究(C)	780	4,160 〈元～4年度〉
5	白描画像の分析から帰納する仏画研究—玄証本を起点に—	古川 攝一	学芸研究部列品管理課平常調整室研究員	基盤研究(C)	1,040	4,290 〈元～4年度〉
6	藤原定家の和歌に基づく「定家詠十二ヶ月和歌花鳥図」の歴史的展開の解明	遠藤 楽子	学芸企画部博物館情報課情報資料室主任研究員	基盤研究(C)	780	4,420 〈2～6年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) (研究期間)
7	仏教儀礼的観点に基づく明兆作品の総合的研究	高橋 真作	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	基盤研究(C)	780	4,420 (2~6年度)
8	高精細複製絵画による屏風絵を中心とする実験的展示照明による基盤理論の構築	松嶋 雅人	学芸研究部調査研究課長	基盤研究(C)	1,040	4,160 (2~5年度)
9	東アジアの宮廷工芸に関する物質文化研究－相対的文化史観に基づいて－	猪熊 兼樹	学芸企画部企画課特別展室長	基盤研究(C)	1,690	4,160 (2~4年度)
10	海外博物館の日本美術展示にみる現代「日本」観の研究	鬼頭 智美	学芸企画部上席研究員	基盤研究(C)	1,300	4,290 (2~4年度)
11	中国と日本の書画における表装文化の総合的研究	鍋島 稲子	客員研究員	基盤研究(C)	1,170	4,160 (3~5年度)
12	明治初期宝物調査資料の収集整理による書の鑑賞・受容の歴史に関する研究	恵美 千鶴子	学芸企画部百五十年史編集室長	基盤研究(C)	1,430	3,900 (3~5年度)
13	高精細スキャナー画像を活用した日本刀の研究	佐藤 寛介	学芸研究部列品管理課登録室長	基盤研究(C)	1,300	2,600 (3~7年度)
14	X線断層写真(CT)を用いた乾漆技法の研究	丸山 士郎	学芸企画部企画課長	基盤研究(C)	1,560	4,160 (3~7年度)
15	大谷探検隊将來品を中心とした西域美術の再評価に関する研究	勝木 言一郎	学芸研究部上席研究員	基盤研究(C)	1,560	4,160 (3~5年度)
16	高精細X線CTスキャナ活用を中心とする古代中国の封泥の作成方法に関する総合的研究	谷 豊信	客員研究員	基盤研究(C)	1,170	4,160 (3~5年度)
17	パレスチナ沿岸地域に展開した古代の覇権主義勢力と在地社会に関する考古学的研究	小野塚 拓造	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員	基盤研究(C)	1,170	4,030 (3~5年度)
18	16・17世紀中国江南地域における旅行と絵画の関係についての事例研究	植松 瑞希	学芸企画部企画課出版企画室研究員	若手研究(B)	780	3,250 (平成29~4年度)
19	日本刀における連続と変容の表現に着目した歴史的展開の考察	酒井 元樹	学芸研究部列品管理課登録室主任研究員	若手研究(B)	0	4,160 (平成29~3年度)
20	江戸時代後期における風景表現に関する研究	大橋 美織	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	若手研究	0	4,030 (平成30~4年度)
21	農具からみた古代東アジアにおける技術交流の研究	河野 正訓	学芸企画部企画課特別展室主任研究員	若手研究	0	2,080 (平成30~4年度)
22	黒染め染織文化財に対する脱酸化・抗酸化・強化処置法の開発	佐藤 萌	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員	若手研究	650	3,900 (平成30~5年度)
23	日本陶磁における金銀彩の特殊性について	三笠 景子	学芸企画部企画課特別展室主任研究員	若手研究	1,040	2,080 (元~4年度)
24	ICT技術を用いた個人的コンテクストに応じた展示解説の研究	中村 麻友美	学芸企画部博物館教育課教育普及室研究員	若手研究	520	3,900 (元~4年度)
25	天台宗における仏像の模刻と信仰上の意義	西木 政統	学芸研究部貸与特別観覧室研究員	若手研究	650	4,290 (2~5年度)
26	中近世ドイツ語圏の金工の社会的研究－W.ヤムニツァーを中心に	村松 綾	学芸企画部企画課アソシエイトフェロー	若手研究	1,040	4,290 (2~5年度)
27	瀟湘八景の受容研究 絵画・建築・庭園	武 瀟瀟	学芸企画部企画課アソシエイトフェロー	若手研究	1,300	3,250 (3~6年度)
28	フィンランドを事例とした多文化共生のためのミュージアムの教育機能	山本 桃子	学芸企画部博物館教育課アソシエイトフェロー	若手研究	910	4,290 (元~4年度)
29	鎌倉時代における文殊菩薩造像の伝播に関する調査研究	増田 政史	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	研究活動スタート支援	0	1,430 (元~3年度)
30	18・19世紀における朝廷と古義堂との交流に関する基礎的研究	金 炯辰	学芸企画部企画課アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	910	910 (3年度)
31	地中海世界の大転換期(前12世紀~前10世紀)と「フェニキア人」の出現	小野塚 拓造	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員	国際共同研究強化(A)	0	15,210 (2~4年度)

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 0件

【京都国立博物館】

1) 科学研究費補助金のみ 3件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	松本 伸之	館長	基盤研究(A)	4,810
2	埴輪生産組織の構造分析と古代手工業論による古墳時代日韓交渉史再構築の基礎的研究	古谷 毅	研究員	基盤研究(B)	3,770
3	博物館史資料アーカイブズを活用したメタ文化財情報構築の検討	羽田 聡	学芸部美術室長	基盤研究(B)	7,280

2) 学術研究助成基金助成金のみ 5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) (研究期間)
1	対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究	水谷 亜希	学芸部教育室主任研究員	若手研究 (B)	520	3,900 (平成28～3年度)
2	近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究	福士 雄也	学芸部保存修理指導室主任研究員	若手研究 (B)	0	3,770 (平成28～4年度)
3	思溪版大蔵経刊行実態の解明―目録と遺例による実証的研究―	上杉 智英	学芸部美術室研究員	若手研究 (B)	0	3,900 (平成28～4年度)
4	中国の王朝交替期における絵画動向をめぐって―宋代以後の遺民画家の作例を中心に―	森橋 なつみ	学芸部連携協力室研究員	若手研究 (B)	0	4,030 (平成28～4年度)
5	御室仁清窯跡出土陶片の科学的特徴―野々村仁清が受容した生産技術と陶工必用―	降幡 順子	学芸部保存科学室長	基盤研究 (C)	1,040	4,290 (令和2～5年度)

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 0件

【奈良国立博物館】

1) 科学研究費補助金のみ 1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究	宮崎 幹子	学芸部情報サービス室長	基盤研究 (B)	3,120

2) 学術研究助成基金助成金のみ 4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) (研究期間)
1	叡尊・忍性による中世の教済ネットワークの研究	吉澤 悟	学芸部長	基盤研究 (C)	0	2,990 (平成29～3年度) (補助事業期間延長)
2	密教聖教に基づく護国修法の基礎的研究	斎木 涼子	学芸部列品室長	若手研究 (B)	0	1,560 (平成29～3年度) (補助事業期間延長)
3	仏師快慶の工房制作と分業体制に関する基礎的研究―三尺阿弥陀を中心に―	山口 隆介	学芸部企画室主任研究員	若手研究	0	4,030 (平成30～3年度)
4	戦国期の権門寺院における宗教秩序の復元的研究	佐藤 稜介	文化財防災センター アソシエイトフェロー	若手研究	520	1,170 (2～3年度) (代表者退職に伴い3年度で終了)

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 0件

【九州国立博物館】

1) 科学研究費補助金のみ 5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	伊藤 嘉章	客員研究員	基盤研究 (A)	5,850
2	公武の信仰を統合した足利将軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究	畑 靖紀	学芸部文化財課資料管理室主任研究員	基盤研究 (B)	1,820
3	東南アジアにおける聖地誕生の諸相：古代から近世にいたる仏教文化交流網の研究	小泉 恵英	副館長	基盤研究 (B)	5,980
4	博物館等の展示収蔵環境の有機酸等VOCs低減に向けた現場システムの構築	木川 りか	学芸部博物館科学課長	基盤研究 (B)	7,670
5	王墓と装飾墓の比較考古学	河野 一隆	学芸部長	研究成果公開促進費(学術図書)	2,000

2) 学術研究助成基金助成金のみ 6件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) (研究期間)
1	博物館における文化財害虫管理への個体群動態モデルの応用	渡辺 祐基	学芸部博物館科学課環境保全室研究員	若手研究	1,040	4,160 (元～3年度)
2	名物裂を中心とした日本伝世古渡裂の歴史的・技法的成立過程を探る研究	桑原 有寿子	学芸部企画課特別展室研究員	若手研究	260	4,160 (2～5年度)
3	中国製鎗金器の基盤的研究-東アジアにおける漆器の相互的影響-	川畑 憲子	学芸部企画課特別展室長	基盤研究 (C)	1,170	4,030 (3～7年度)

4	近世大名家伝来コレクションの基礎的研究-松浦家コレクションの分析を通じて-	松浦 晃佑	学芸部文化財課資料登録室 研究員	基盤研究 (C)	650	2,860 (3~7年度)
5	九州の古墳出土ベンガラの流通に関する実証的研究	志賀 智史	学芸部博物館課保存修復室長	基盤研究 (C)	1,040	2,860 (3~5年度)
6	人類遺産としての先史壁画の保存と公開活用に向けた研究基盤の確立	河野 一隆	学芸部長	国際共同研究強化 (B)	130	18,330 (元~5年度)

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 0件

【東京文化財研究所】

1) 科学研究費補助金のみ 10件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	アジア螺鈿文化交流史の構築—物質文化史の視点から	小林 公治	文化財情報資料部 広領域研究室長	基盤研究 (A)	7,930
2	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	小林 公治	文化財情報資料部 広領域研究室長	基盤研究 (B)	0
3	日本美術の記録と評価についての研究—美術作品調査の保存活用	江村 知子	文化財情報資料部 文化財アーカイブズ研究室長	基盤研究 (B)	1,560
4	絵画に使用された絹・自然布の非破壊分析方法の開発と製法・修復に関する総合的調査	早川 典子	保存科学研究センター 修復材料研究室長	基盤研究 (B)	2,210
5	ポンペイ遺跡壁画における無機物を主体とした保存修復材料による補強技法の確立	前川 佳文	文化遺産国際協力センター 研究員	基盤研究 (B)	3,250
6	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	犬塚 将英	保存科学研究センター 分析科学研究室長	基盤研究 (B)	3,250
7	紙文化財補修用材料としての高機能化楮繊維の開発	稲葉 政満	保存科学研究センター 客員研究員	基盤研究 (B)	5,200
8	イラン東部へのウルク文化の拡大に関する考古学的研究	安倍 雅史	文化遺産国際協力センター 主任研究員	新学術領域研究(研究領域提案型)	2,600
9	日本の無形文化遺産保護におけるジェンダーに関する研究	久保田 裕道	無形文化遺産部 無形民俗文化財研究室長	特別研究員奨励費(外国人)	400
10	旅館おかみの誕生	後藤 知美	無形文化遺産部 研究員	研究成果公開促進費(学術図書)	1,300

2) 学術研究助成基金助成金のみ 20件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額(採択時) (千円)	全研究期間での交付決定額 (千円) (研究期間)
1	常磐津節の音楽分析のための基盤研究	前原 恵美	無形文化遺産部 室長	基盤研究 (C)	0	4,290 (30~3年度)
2	江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究	安永 拓世	文化財情報資料部 主任研究員	基盤研究 (C)	0	4,420 (30~3年度)
3	ポスト1968年表現共同体の研究:松澤有アーカイブズを基軸として	橘川 英規	文化財情報資料部 主任研究員	基盤研究 (C)	0	4,420 (30~3年度)
4	鍾乳洞における照明植生を軽減する光環境に関する実験的研究	朽津 信明	保存科学研究センター 室長	基盤研究 (C)	1,170	4,290 (元~3年度)
5	様々な文化財に使用された彩色材料への赤外線画像による画的調査の検討	秋山 純子	保存科学研究センター 室長	基盤研究 (C)	910	4,290 (元~5年度)
6	地域文化の表象としての「箕」の形態に関する学際的研究	今石 みぎわ	無形文化遺産部 主任研究員	基盤研究 (C)	1,560	4,290 (2~4年度)
7	従属栄養性微生物の硫酸酸化と腐食性ガスの生成について	片山 葉子	保存科学研究センター 客員研究員	基盤研究 (C)	1,430	4,420 (2~4年度)
8	イランの乾燥地帯における農業施設の建築構法および建築技術者の存在形態に関する研究	浅田 なつみ	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	基盤研究 (C)	390	1,950 (3~5年度)
9	近現代建造物の価値評価における同時代性に着目した文化財の現状変更概念の再考	金井 健	文化遺産国際協力センター 室長	基盤研究 (C)	1,040	3,510 (3~6年度)
10	マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究	五木田 まきは	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	若手研究	1,040	4,160 (30~3年度)
11	中世日本における中国美術の受容と羅漢の作例に関する調査研究	米沢 玲	文化財情報資料部 研究員	若手研究	0	1,560 (元~3年度)
12	木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案	古田嶋 智子	保存科学研究センター 客員研究員	若手研究	260	4,160 (元~3年度)
13	古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化	宇高 健太郎	保存科学研究センター 客員研究員	若手研究	1,040	4,160 (元~4年度)
14	南西諸島における風葬の定着過程に関する研究	牛窪 彩絢	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	若手研究	1,170	3,770 (2~4年度)
15	組積造建造物の通電による脱塩の適応可能性に関する検討	水谷 悦子	保存科学研究センター 研究員	若手研究	1,560	4,160 (2~4年度)

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) (研究期間)
16	初期合成染料の染色堅牢性評価と変退色挙動の検討	片淵 奈美香	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	若手研究	1,430	3,380 (3~5年度)
17	近現代建造物に適応した文化財保存理念の展開に向けた基礎的研究	金井 健	文化遺産国際協力センター 室長	研究活動スタート支援	0	2,470 (元~3年度)
18	近代の河川工事絵馬にみる河川管理のあり方と地域社会の接点：利根川中流域を中心に	後藤 知美	無形文化遺産部 研究員	研究活動スタート支援	1,560	3,120 (3~4年度)
19	被災文化財保全のための一時保管と処置方法の最適化に向けた研究	芳賀 文絵	保存科学研究センター 研究員	研究活動スタート支援	1,430	2,860 (3~4年度)
20	カジリムシ目昆虫における外部寄生性の進化に伴う形態変化の解明	島田 潤	保存科学研究センター アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	1,560	3,120 (3~4年度)

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 0件

【奈良文化財研究所】

1) 科学研究費補助金のみ 25件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	木簡等の研究資源オープンデータ化を通じた参加誘発型研究スキーム確立による知の展開	馬場 基	都城発掘調査部平城地区 史料研究室長	基盤研究 (S)	27,040
2	平城宮・京跡出土木簡とその歴史環境のグローバル資源化	渡辺 晃宏	都城発掘調査部平城地区 史料研究室客員研究員	基盤研究 (A)	9,880
3	災害で埋没した建物による民家建築史の研究	箱崎 和久	都城発掘調査部長	基盤研究 (A)	8,580
4	東北アジアの農耕化過程における食と調理の変化への考古生化学的アプローチ	庄田 慎矢	企画調整部国際遺跡研究 室長	基盤研究 (A)	9,100
5	南都の未整理文書聖教にもとづく寺社とその周辺社会の調査研究	吉川 聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究 (B)	2,990
6	松帆銅鐸発見を契機とする銅鐸論の再構築	難波 洋三	都城発掘調査部平城地区 考古第一研究室客員研究員	基盤研究 (B)	3,120
7	和同開珎の生産と流通をめぐる総合的研究	松村 恵司	都城発掘調査部飛鳥・藤原 地区考古第一研究室客員 研究員	基盤研究 (B)	4,030
8	国家形成前段階における親族構造の地域的変異に関する研究—九州南部を中心に—	岩永 省三	都城発掘調査部平城地区 考古第一研究室客員研究員	基盤研究 (B)	2,860
9	中央アジア 天山—パミール地域における後期旧石器文化成立過程の研究	国武 貞克	都城発掘調査部平城地区 考古第一研究室長	基盤研究 (B)	2,990
10	3次元データによる瓦の同范認識技術の基礎的研究	林 正憲	都城発掘調査部飛鳥・藤原 地区考古第三研究室長	基盤研究 (B)	6,630
11	災害碑アーカイブ構築を目的とした市民参加型調査の実践	上相 英之	埋蔵文化財センター遺跡・ 調査技術研究室研究員	基盤研究 (B)	2,080
12	ユーラシア東部における細石刃石器群の出現と拡散：中国北部クロスロード仮説の検証	加藤 真二	企画調整部長	基盤研究 (B)	4,680
13	蛍光X線分析と鉱物組成分析による大和の古代寺院・宮都出土瓦の生産・供給体制の研究	清野 孝之	都城発掘調査部副部長	基盤研究 (B)	1,300
14	埴輪の生産・流通体制の総合的検証にもとづく王権中枢部巨大古墳群造営過程の解明	廣瀬 覚	都城発掘調査部飛鳥・藤原 地区考古第一研究室長	基盤研究 (B)	2,340
15	古代都城から出土する製塩土器の生産地推定	神野 恵	都城発掘調査部平城地区 考古第二研究室長	基盤研究 (B)	3,380
16	土製鋳型を中心とした冶金関連資料による東アジア冶金史の構築	丹羽 崇史	都城発掘調査部平城地区 主任研究員	基盤研究 (B)	2,990
17	古建築用語の相互訳及び英訳を通じた系統的把握による東アジア木造建築史の基盤構築	鈴木 智大	都城発掘調査部飛鳥・藤原 地区主任研究員	基盤研究 (B)	2,990
18	日本列島における現生人類移住初期の環境適応史研究	森先 一貴	都城発掘調査部平城地区 主任研究員	基盤研究 (B)	3,900
19	古代官衙における空間構造の変遷と展開に関する実証的研究	小田 裕樹	都城発掘調査部平城地区 主任研究員	基盤研究 (B)	2,600
20	古代における年輪年代学的木材産地推定を可能にする標準年輪曲線ネットワークの整備	星野 安治	埋蔵文化財センター年代学 研究室長	基盤研究 (B)	4,160
21	植物考古学から探るイネ、雑穀、ムギ食文化の交流と変容	庄田 慎矢	企画調整部国際遺跡研究 室長	学術変革領域研究 (A) 計画研究	17,160
22	3D石器形態系統分類学による日本列島およびサフル大陸における人類進出の解明	野口 淳	埋蔵文化財センター遺跡・ 調査技術研究室客員研究員	新学術領域研究 (研究領域提案型) 公募研究	1,170
23	植物遺体群調査解析システムの新構築による古代都城の植物資源利用と集落生態系の解明	上中 央子	埋蔵文化財センター特別 研究員 (PD)	特別研究員奨励費	780

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
24	全国遺跡報告総覧	高田 祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	研究成果公開促進費(データベース)	1,800
25	奈良の都の木簡に会いに行こう! 2021	馬場 基	都城発掘調査部平城地区史料研究室長	ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~ KAKENHI	490

2) 学術研究助成基金助成金のみ 45件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額(採択時)(千円)	全研究期間での交付決定額(千円)(研究期間)
1	展示施設を拠点とする地域住民参加型の歴史的建造物の調査	西田 紀子	都城発掘調査部平城地区主任研究員	基盤研究(C)	1,170	4,550 (平成29~3年度)
2	呪符木簡の時代的地域的特質からみた「木に文字を記す文化」の史的考究	山本 崇	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区史料研究室長	基盤研究(C)	-	4,550 (平成29~3年度)
3	先端技術による未発見遺跡の探査・研究および保護手法の開発	金田 明大	埋蔵文化財センター長	挑戦的研究(開拓)	3,900	25,610 (平成29~3年度)
4	古墳時代中期王権中枢部における埴輪生産体制の実証的研究—奈良市佐紀古墳群を中心に	大澤 正吾	都城発掘調査部平城地区考古第二研究室研究員	若手研究(B)	-	4,160 (平成29~3年度)
5	渤海遺跡出土建築部材の基礎的研究—三次元計測データの活用—	中村 亜希子	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員	若手研究(B)	-	4,030 (平成29~3年度)
6	藤原宮造営に伴う造瓦の新技术とその導入経路に関する総合的研究	石田 由紀子	飛鳥資料館主任研究員	基盤研究(C)	520	4,550 (平成30~3年度)
7	近世における北前船と東北産木材の流通に関する年輪年代学的研究	光谷 拓実	埋蔵文化財センター年代学研究室客員研究員	基盤研究(C)	-	4,420 (平成30~3年度)
8	近世末期から近代に生じた日本庭園の意匠の地域性と現代への継承—出雲地方を中心に	中島 義晴	文化遺産部景観研究室長	基盤研究(C)	910	3,250 (平成30~3年度)
9	シルクロード天山北路の形成過程に関する考古学的研究	山藤 正敏	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第二研究室研究員	若手研究	780	4,160 (平成30~3年度)
10	アンコール王朝の終焉と陶磁器需要の変容に関する考古学的研究	佐藤 由似	企画調整部国際遺跡研究室専門職	若手研究	-	3,770 (平成30~3年度)
11	昭和初期における歴史的建造物保存修理の構造補強体系の構築	前川 歩	都城発掘調査部平城地区主任研究員	若手研究	780	4,030 (平成30~3年度)
12	カザフスタンにおける現生人類北回り拡散ルートの解明に関する国際共同研究の基盤強化	国武 貞克	都城発掘調査部平城地区考古第一研究室長	国際共同研究強化(B)	3,640	18,200 (平成30~4年度)
13	歴史災害の実像解明への考古・歴史・地質学的複合解析による災害履歴検索地図の開発	村田 泰輔	埋蔵文化財センター主任研究員	挑戦的研究(開拓)	3,770	22,880 (平成30~5年度)
14	鎖国期日本のマジョリカ陶器色絵フオグリー文アルパレルロとカトリック修道院	松本 啓子	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第二研究室客員研究員	基盤研究(C)	780	3,640 (元~4年度)
15	塩類風化が進行する遺跡構成材料からの効果的な脱塩方法の開発	脇谷 草一郎	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長	基盤研究(C)	910	3,250 (元~3年度)
16	ポスト・バイオン期のクメール建築の建築的特徴に関する研究	大林 潤	文化遺産部建造物研究室長	基盤研究(C)	910	3,510 (元~3年度)
17	日本と中国における大工道具の比較による東アジア木造建築技術史の基盤構築	李 暉	都城発掘調査部平城地区遺構研究室アソシエイトフェロー	基盤研究(C)	910	4,420 (元~5年度)
18	墨書木製品の分類を手がかりとした日本における木簡利用全史の解明	藤間 温子	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区史料研究室客員研究員	若手研究	780	2,860 (元~4年度)
19	古代壁画の制作技法の伝習に関する研究—シルクロード近隣地域と日本の壁画を中心に	中田 愛乃	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー	若手研究	520	2,600 (元~4年度)
20	文化的景観における棚田集落の相対的価値の解明にむけた比較研究	恵谷 浩子	文化遺産部主任研究員	若手研究	1,690	3,900 (元~3年度)
21	絵画表現の多様性を生みだす彩色材料のナノ構造	杉岡 奈穂子	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室客員研究員	基盤研究(C)	1,560	4,420 (2~4年度)
22	東アジア出土の植物灰ガラスは西アジア産か?—ガラス交易路解明に向けての基礎研究—	田村 朋美	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区主任研究員	基盤研究(C)	1,430	4,290 (2~4年度)
23	石造物からみるブリテン島における古代と初期中世の境界	岩永 玲	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第三研究室研究員	若手研究	520	1,560 (2~4年度)
24	玉類の流通からみた弥生・古墳時代併行期の日韓交渉	谷澤 亜里	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第一研究室研究員	若手研究	1,300	4,290 (2~4年度)

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) <研究期間>
25	西日本集落遺跡の分析に基づく古代地域社会の実証的研究	道上 祥武	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第三研究室アソシエイトフェロー	若手研究	780	4,290 (2~5年度)
26	飲食物表現からみた古代東アジアにおける古墳葬送儀礼の考古学的研究	松永 悦枝	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第一研究室研究員	若手研究	390	2,210 (2~5年度)
27	文化財修理に用いられる和紙の膨潤収縮挙動	金 旻貞	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室客員研究員	若手研究	1,560	3,900 (2~4年度)
28	出土木製遺物の保存処理の飛躍的効率化を実現する溶媒蒸発を用いた薬剤含浸技術の確立	松田 和貴	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究	520	4,160 (2~4年度)
29	考古系展示施設における観覧行動分析とそれに基づく多様な「学び」の構築と実践	廣瀬 智子	企画調整部展示企画室アソシエイトフェロー	若手研究	1,170	4,030 (2~4年度)
30	越後大工・小黒杵右衛門一族の作風—近世在方大工の作家論的研究	目黒 新悟	都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員	若手研究	1,430	4,160 (2~5年度)
31	『築山庭造伝』前編・後編にみる作庭技術とその流布に関する基礎的研究	高橋 知奈津	文化遺産部主任研究員	若手研究	650	2,340 (2~5年度)
32	埴輪生産からみた古墳時代労働力編成システムに関する考古学的研究	木村 理	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第二研究室アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	650	1,950 (2~3年度)
33	古墳に埋葬された鉄製文化財の腐食は予測可能か?—数値解析による現地保存評価の確立	柳田 明進	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	基盤研究 (C)	2,210	4,030 (3~5年度)
34	古代における食文化の実態解明に関する環境考古学的研究	山崎 健	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長	基盤研究 (C)	780	4,160 (3~7年度)
35	埴輪ハケメの年輪年代学: 年輪年代学的同一材推定を応用した埴輪同工品の認定	星野 安治	埋蔵文化財センター年代学研究室長	挑戦的研究 (萌芽)	1,950	6,370 (3~5年度)
36	後期旧石器時代開始期の日本列島における新人到来研究の革新	国武 貞克	都城発掘調査部平城地区考古第一研究室長	挑戦的研究 (萌芽)	2,600	6,500 (3~5年度)
37	新しい遺跡を発見する: 機械学習による自動地形判読手法の開発	高田 祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	挑戦的研究 (萌芽)	2,860	5,850 (3~4年度)
38	日本に伝存する漢字文義資料のデータベース化による文化史的研究	呉 修喆	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー	若手研究	1,430	4,420 (3~5年度)
39	大破した寺院聖教の保存・活用に向けた調査方法に関する研究	橋 悠太	文化遺産部歴史研究室アソシエイトフェロー	若手研究	1,300	3,250 (3~5年度)
40	中国古代簡牘における規範字体算定の基礎的研究	畑野 吉則	都城発掘調査部平城地区史料研究室アソシエイトフェロー	若手研究	1,170	2,470 (3~4年度)
41	3Dデジタル技術等の多角的応用による土器製作者の動的身体技法復元のための基礎研究	平川 ひろみ	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員	若手研究	1,430	4,680 (3~5年度)
42	残材と周辺植生に基づく古墳時代集落における木材調達とその利用に関する研究	浦 蓉子	都城発掘調査部平城地区考古第一研究室研究員	若手研究	780	3,900 (3~6年度)
43	人工知能(AI)による深層学習を活用した縄文原体の素材同定	高野 紗奈江	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室客員研究員	研究活動スタート支援	910	2,080 (3~4年度)
44	近代における日本人産婆の越境実態の検証—渡韓産婆の事例を通じて—	扠 素妍	企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	1,040	1,820 (3~4年度)
45	平安京・大和国における瓦生産・流通構造—9~12世紀を中心に—	田中 龍一	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第三研究室研究員	研究活動スタート支援	1,430	2,340 (3~4年度)

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

- 1) 科学研究費補助金のみ 0件
2) 学術研究助成基金助成金のみ 1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) <研究期間>
1	無形文化遺産の継承・変容と自然災害による影響の動態的把握: バヌアツ北部事例研究	野嶋 洋子	研究担当室長	基盤研究 (C)	0	4,160 <平成30~3年度> (補助事業期間延長)

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 0件

c-⑧ 客員研究員一覧

令和4年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
160人	48人	34人	3人	7人	4人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	107人	42人		65人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財防災センター			
	0人	5人			

【本部文化財防災センター】5人

	氏名(所属)	研究課題
1	天野 真志 (大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館特任准教授)	地域防災体制の構築、災害時ガイドライン等の整備
2	岡田 健 (奈良大学文学部教授)	災害時ガイドライン等の整備
3	日高 真吾 (大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館人類基礎理論研究部教授)	災害時ガイドライン等の整備、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発
4	松下 正和 (国立大学法人神戸大学地域連携推進室特任准教授)	地域防災体制の構築、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発
5	鶴岡 典慶 (京都女子大学家政学部教授)	災害時ガイドライン等の整備、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発

【東京国立博物館】34人

	氏名(所属)	研究課題
1	松原 茂 (公益財団法人根津美術館理事・学芸部長)	絵画に関する研究
2	宮永 美知代 (東京藝術大学美術学部助教)	解剖学・美術解剖学及び医学関係の館史資料に関する調査研究
3	東野 治之 (公益財団法人武田科学振興財団杏雨書屋館長)	法隆寺献納宝物の資料の研究
4	田辺 龍太 (一般財団法人切手の博物館主任)	切手に関する調査研究
5	水上 嘉代子 (元公益財団法人遠山記念館学芸員)	小袖形を中心とする日本近世染織の調査・研究
6	小笠原 小枝 (日本女子大学家政学部名誉教授)	インド更紗に関する研究
7	金子 浩昌 (日本考古学協会員)	原始・古代骨角製品に関する研究
8	湊 信幸 (元東京国立博物館副館長)	絵画に関する研究
9	鍋島 稲子 (台東区立書道博物館主任研究員)	中国書跡の調査研究
10	西岡 康宏 (元東京国立博物館副館長)	東洋漆工に関する研究
11	田中 淑江 (共立女子大学家政学部教授)	江戸時代を中心とする小袖に関する研究
12	佐々木 利和	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
13	望月 幹夫 (松戸市立博物館長)	考古資料(原史・有史、構内出土品)に関する調査研究
14	澤田 むつ代 (名誉館員)	法隆寺献納宝物のうち法隆寺裂などの上代裂の保存と修理に関する調査研究
15	松井 敏也 (筑波大学大学院人間総合科学研究科教授)	文化財の保存環境に関する調査研究
16	佐藤 サアラ (公益財団法人常盤山文庫主任学芸員)	東洋陶磁(宋・元代)に関する研究
17	高濱 秀	中央ユーラシア青銅器に関する研究
18	加藤 雅久 (居住技術研究所主宰)	帝室博物館・復興本館建設における技術史的考察
19	池田 宏 (元東京国立博物館上席研究員)	工芸品、歴史資料に関する調査研究
20	田中 公明 (公益財団法人中村元東方研究所専任研究員)	チベット・ネパール仏教美術の調査研究
21	日高 慎 (東京学芸大学教育学部文化財科学分野(考古学)教授)	埴輪 挂甲の武人 についての調査と修理における助言
22	石松 日奈子 (文化庁文化審議会専門委員(文化財分科会))	日本所在の中国彫刻に関する調査研究
23	田澤 恵子 (公益財団法人古代オリエント博物館研究部主任研究員)	エジプト・コレクションの整理と基礎的研究
24	赤沼 多佳	茶陶の調査
25	西脇 康 (東京大学史料編纂所学術支援専門職員)	埋蔵文化財としての金銀貨鑑別・完全非破壊品位測定
26	高橋 裕次 (公益財団法人大倉文化財団大倉集古館学芸部長)	東京国立博物館百五十年史に関わる研究
27	石川 岳彦 (東京大学大学院人文社会系研究科助教)	漢代土器の調査研究
28	藤田 晴啓 (新潟国際情報大学経営情報学部経営学学科教授)	考古資料からみた日本と東南アジアの文化交流の研究
29	村上 佳代 (文化学園服飾博物館学芸員)	アジア遊牧民染織コレクションに関する調査研究
30	阿部 善也 (東京電機大学工学研究科助教)	古代オリエントのガラス工芸史に関する調査研究
31	谷 豊信 (元東京国立博物館学芸部長)	館蔵及び構内出土品の調査研究
32	中川原 育子 (名古屋大学文学研究科助教)	大谷探検隊収集品の価値の再評価に向けての基礎的調査研究
33	丸山 猶計 (大東文化大学文学部書道学学科准教授)	特別展「本阿弥光悦の大宇宙」ワーキング書跡担当
34	堀内 秀樹 (東京大学埋蔵文化財調査室准教授)	館蔵陶片の調査研究

【京都国立博物館】3人

	氏名(所属)	研究課題
1	井上 一稔 (同志社大学文学部教授)	彫刻に関する調査研究
2	宇都宮 啓吾 (大阪大谷大学文学部教授)	訓点資料としての典籍に関する調査研究
3	後藤 真 (国立歴史民俗博物館准教授)	文化財情報に関する調査研究

【奈良国立博物館】7人

	氏名(所属)	研究課題
1	井出誠之輔 (九州大学大学院人文科学研究科教授)	仏教絵画の調査及び整理
2	清水昭博 (帝塚山大学文学部教授)	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理

	氏名(所属)	研究課題
3	根立研介(京都在大学院文学研究科教授)	仏教彫刻の調査と整理
4	板倉聖哲(東京大学東洋文化研究所教授)	中国・朝鮮絵画の調査及び整理
5	橋詰 文之(和泉市久保記念美術館副館長)	金工品の調査及び研究
6	澤田 むつ代(東京国立博物館名誉館員)	染織品の調査及び研究
7	藤田 謙(大阪大学大学院文学研究科教授)	仏教彫刻の調査と整理

【九州国立博物館】 4人

	氏名(所属)	研究課題
1	伊藤嘉章(愛知県陶磁美術館総長/町田市立博物館館長)	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法に関する調査研究
2	山下善也(元九州国立博物館文化財課主任研究員)	日本美術、特に近世絵画に関する調査研究
3	赤司善彦(大野城心のふるさと館館長)	水中遺跡の保存活用に関する調査研究
4	佐々木蘭貞(福岡市埋蔵文化財センター文化財教育普及専門員)	水中遺跡の保存活用に関する調査研究

【東京文化財研究所】 42人

	氏名(所属)	研究課題
1	三上 豊(和光大学非常勤講師)	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
2	丸川雄三(国立民族学博物館先端人類科学研究部准教授)	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
3	山梨絵美子(千葉市美術館長)	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究
4	田中 淳(大川美術館長)	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
5	片山まび(東京藝術大学美術学部教授)	『売立目録』工芸部門の調査研究
6	齋藤達也	黒田清輝をはじめとするフランスで学んだ美術家の調査研究、及び当研究所のアーカイブ構築
7	永崎研宣(一般財団法人人情報学研究所主席研究員)	刊行物アーカイブシステムの運用・評価に関する調査研究
8	津田徹英(青山学院大学文学部比較芸術学科 教授)	日本東洋古美術に関する資料整理とウェブ公開
9	田中 潤(学習院大学非常勤講師)	古文書の解読や絵画等に見られる服飾の解析
10	川瀬由照(早稲田大学教授)	仏教美術作品の専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充
11	星野厚子(東京大学文学館技術支援職員)	無形文化財(芸能)に関する調査研究
12	永井美和子	無形文化財の記録作成
13	今岡謙太郎(武蔵野美術大学造形学部教授)	無形文化財の記録作成
14	山崎 剛(金沢美術工芸大学教授)	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
15	俵木 悟(成城大学文芸学部教授)	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
16	大西秀紀(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員)	音声映像記録に関する調査研究
17	松山直子	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
18	菊池健策(都留文科大学非常勤講師)	無形民俗文化財の調査
19	齊藤裕嗣	無形民俗文化財の調査
20	森下愛子(公益財団法人泉屋博物館分館学芸課学芸員)	工芸技術(主に陶芸分野)に関する調査研究
21	宮田繁幸(東京福祉大学大学院特任准教授)	ユネスコ無形文化遺産条約に関わる調査研究及び情報収集
22	神野知恵(国立民族学博物館機関研究員)	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
23	谷垣内和子(日本芸能実演家団体協議会常勤職員)	伝統芸能に関わる選定保存技術の調査研究及び情報収集
24	伊藤 純(川村学園女子大学講師)	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
25	川野邊渉	文化財修復材料と伝統技術に関する研究
26	酒井清文(園田学園女子大学 非常勤講師)	文化財の伝統的修復に関する調査研究
27	伊庭千恵美(京都大学大学院工学研究科准教授)	文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究
28	藤井義久(京都大学大学院農学研究科教授)	木造建造物の生物被害対策の研究
29	稲葉政満(東京藝術大学名誉教授)	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
30	本多貴之(明治大学理工学部准教授)	伝統的修復材料に関する分析調査研究
31	北原博幸(トータルシステム研究所代表)	湿度制御・温風殺虫処理の処理システムに関するプロジェクト研究を進める上での工学技術的な指導・助言及び基礎研究
32	山本記子(一般社団法人国宝修理装填師連盟代表理事)	日本画修復に使用される材料及び技法の研究
33	貴田啓子(東京藝術大学准教授)	日本における絵画の劣化要因に関する研究
34	岡田 健(奈良大学教授)	法隆寺金堂壁画をはじめとする文化財の化学分析調査
35	片山葉子(東京農工大学名誉教授)	高松塚・キトラ古墳壁画及び他の装飾古墳等における微生物生態学的調査研究
36	苅田重賀(日本航空協会専任課長)	近代文化遺産(特に航空関連)の保存修復に関する調査・研究
37	古田嶋智子(国立アイヌ民族博物館アソシエイト)	文化財を取り巻く空気環境の成分分析
38	宇高健太郎	文化財構成材料としての墨、煤、膠並びに修理材料としての膠の研究と、修理用膠の製造あるいは関連技術供与等
39	簡 佑丞(佛光大学専任助理教授)	台湾の近代文化遺産の保存活用に関する調査・研究
40	大河原典子(鎌倉女子大学児童学部児童学科准教授)	在外日本古美術品保存修復協力事業の修復研究及び技術移転の手法研究
41	杉山恵助(東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学学科准教授)	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復手法研究、国際研修での技術移転方法に関する研究
42	山田大樹(株式会社都市環境研究所研究員)	ネパールをはじめとする南アジア・西アジア地域等における歴史的都市・集落保存に関する研究

【奈良文化財研究所】 65人

	氏名(所属)	研究課題
1	林 良彦	受託調査等の調査・研究業務
2	高野 紗奈江(京都大学大学院文学研究科非常勤講師)	山内清男縄文原関係資料の整理と調査
3	浜田 拓志	文化遺産防災総合シミュレーション調査
4	羽生 淳子(総合地球環境学研究所研究部客員教授)	研究所の研究活動へ国際的な視野と新たな研究課題の点から指導助言
5	小林 謙一	遺物及びその調査技術、文化財情報の蓄積に関する指導助言

	氏名(所属)	研究課題
6	Shaun Ian Mackey	東アジアの文化財や多言語化に関する専門的な助言
7	杉山 洋(龍谷大学文学部歴史学科教授)	カンボジアプロジェクトを中心とした国際遺跡研究室事業への助言
8	森本 晋((財)ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長)	文化財保護に関する国際協力についての助言
9	綾村 宏	歴史研究室所蔵の調書・写真類の調査
10	山田 徹(同志社大学文学部准教授)	近畿を中心とする古寺社等が所蔵する古文書・古典籍等の釈読・内容分析作業
11	小野 健吉	庭園史研究・遺跡整備研究についての指導・助言
12	Emmanuel MARES(京都産業大学文化学部文化学科准教授)	森羅旧蔵資料・村岡正旧蔵資料の整理に関する助言
13	岩永 省三	古代都城制および都城出土遺物の調査・研究
14	中野 祥子	平城宮・京及び関連遺跡出土漆工に関する研究協力、及び助言
15	難波 洋三	都城及び寺院出土の金属器等の調査・研究
16	青木 敬(國學院大学文学部教授)	薬師寺東塔の発掘調査報告書作成業務に関わる指導・助言
17	深澤 芳樹	学報の編集作業に携わり、歴史考古学の観点から助言を行う。
18	黒田 洋子(奈良女子大学古代学術センター協力研究員)	文字画像データベース構築における研究協力及び助言
19	杉本 一樹(宮内庁正倉院事務所調査員)	都城発掘調査部史料研究室における正倉院文書関連研究などに対する指導・助言
20	館野 和己(奈良女子大学名誉教授 大阪府立近つ飛鳥博物館長)	木簡の整理・釈読等に関する指導・助言
21	方 国花(韓国慶北大学人文学院HK研究教授)	主として木簡に見える古代日本の漢字の字形に関する研究
22	渡邊 晃宏(奈良大学文学部教授)	主として木簡に見える古代日本の漢字の字形に関する研究
23	諫早 直人(京都府立大学文学部歴史学科准教授)	中国遼寧省文物考古研究所と行う共同研究「3-6世紀日中古代遺跡出土遺物の比較研究」に参加
24	上原 真人(公益財団法人辰馬考古資料館長)	都城発掘調査部考古第一研究室の出土木器整理、研究及び出土木器の資料集作成にむけた指導、助言
25	松村 恵司	都城発掘調査部考古第一研究室の出土木器整理、研究及び出土木器・金属器整理、研究に関する指導、助言
26	巽 淳一郎	中国河南省文物考古研究所との共同研究「東アジアにおける生産遺跡の調査研究協力」に参加
27	松本 啓子	奈良・大阪両地域の宮殿・京域の情報をもとに類似点・相違点を比較するうえでの専門的知識の供与及び助言
28	竹内 亮(奈良県立万葉文化館主任研究員)	連携研究において、古代但馬地域出土文字資料集作成のための専門的知識を供与
29	藤間 温子	削屑の整理と保存処理に関する専門的知識の供与、墨書木製品等の調査研究
30	青木 政幸(公益財団法人辰馬考古資料館学芸員)	考古遺物の調査
31	大賀 克彦(奈良女子大学大和・紀伊半島学研究所特任講師)	古代における玉類の生産と流通に関する調査研究
32	荻山 琴美(大分県立歴史博物館学芸員)	彩色文化財や埋蔵文化財の科学調査・分析等
33	小椋 大輔(京都大学大学院工学研究科教授)	文化財の保存環境の研究
34	北田 正弘	考古遺物等の調査分析
35	金 旻貞(株式会社修美 社員)	彩色文化財の材料調査業務
36	肥塚 隆保	古墳壁画の保存修理業務
37	澤田 正昭(東北芸術工科大学文化財修復研究センター客員研究員)	考古遺物及び遺跡の保存科学に関する調査研究
38	杉岡 奈穂子	壁画等の材料調査業務
39	辻本 與志一(株式会社文化財保存)	古墳壁画の保存修理業務
40	中村 力也(宮内庁正倉院事務所保存整理室長)	奈良時代の遺物及び古代壁画等の材料調査業務
41	福永 香(国立研究開発法人情報通信研究機構電磁波研究所電磁波応用総合研究室長)	文化財の非破壊診断調査
42	三村 衛(京都大学大学院工学研究科教授)	文化財の保存環境の研究
43	村上 隆(京都美術工芸大学工芸学部美術工芸学科特任教授)	考古遺物の保存科学
44	吉田 万智((財)ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所)	文化財の展示・保存環境に関する研究
45	柳 成煜(日本学術振興会特別研究員)	彩色文化財の材料調査業務
46	上中 央子(日本学術振興会特別研究員)	微化石の調査研究、花粉分析
47	大江 文雄	遺跡出土資料の指導助言や調査研究
48	菊地 大樹(国立大学法人総合研究大学院大学特別研究員)	遺跡出土資料の分析、骨格標本の収集と公開
49	茂原 信生(京都大学名誉教授)	遺跡出土人骨の指導助言と調査分析
50	橋孝 博(九州大学名誉教授)	遺跡出土人骨の指導助言
51	松崎 哲也	現生標本の整理・管理
52	丸山 真史(東海大学海洋学部海洋文明学科准教授)	遺跡出土資料の指導助言・調査分析
53	伊東 隆夫(京都大学名誉教授)	木造文化財の木材組織学的研究
54	児島 大輔(大阪市立美術館学芸課学芸員)	美術工芸品の年輪年代学的研究
55	光谷 拓実	木造文化財の年輪年代学的研究
56	小澤 毅(三重大学人文学部教授)	遺跡及びその調査技術に関する研究
57	岸田 徹(同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター)	迅速かつ安定的な遺跡探査のための機器システムの構築及び迅速な探査手法と取得データ解析・解釈法の研究
58	狭川 真一(大阪大谷大学文学部歴史文化学科教授)	遺跡及びその調査技術に関する研究
59	中村 亜希子	遺跡探査のための三次元計測による位置決定及び計測技術と成果の連携に関する研究及び山内考古資料の整理
60	西口 和彦	遺跡探査の研究

	氏名(所属)	研究課題
61	西山 昭仁	「考古・文献資料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開並びにその他地質考古学的解析」事業への協力
62	野口 淳	遺跡の三次元計測技術と成果の連携に関する研究
63	平川ひろみ(同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター)	三次元計測手法の開発及び民族学的知見からの考古学研究の推進
64	中川 朋美(南山大学人類学研究所)	科学研究費新領域「出ユーラシアの統合的人類史学」に関する三次元計測、形態測定学、人骨の計測およびその分析
65	野下 浩司(九州大学理学研究院 助教)	科学研究費新領域「出ユーラシアの統合的人類史学」に関する三次元計測、形態測定学、人骨の計測およびその分析

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】 0人

d ウェブサイトアクセス件数

令和4年3月31日現在

	H29	H30	R1	R2	R3
国立文化財機構	272,228	336,016	362,356	302,279	409,102
文化財活用センター	—	29,320	42,733	124,300	114,951
e国宝	3,605,534	3,471,727	4,247,236	1,952,296	650,197
国立文化財機構所蔵品統合検索システム (ColBase)	26,914	54,338	76,875	140,553	142,970
文化財防災センター※	75,375	93,817	182,485	219,544	52,561
東京国立博物館	7,014,006	7,679,851	8,235,810	7,021,923	11,382,143
京都国立博物館	5,788,678	4,382,078	4,948,829	3,480,100	3,514,043
奈良国立博物館	1,385,404	1,316,654	1,704,901	1,082,864	1,236,917
九州国立博物館	1,607,401	1,752,803	2,047,955	824,819	977,605
東京文化財研究所	3,337,734	4,494,214	2,989,314	5,094,252	3,865,899
奈良文化財研究所	10,887,187	13,931,633	17,604,865	15,138,198	10,467,301
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	9,469	10,779	13,261	13,284	15,472

・アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数である。

・東京国立博物館及び奈良文化財研究所の数値には、データベースのアクセス件数を含めている。

※2年度までは、文化財防災ネットワークのウェブサイトアクセス件数である。(3年度のウェブサイトリニューアルによる)

平常展（総合文化展） アンケート集計結果

開催期間：令和3年4月1日（木）～令和4年3月31日（木） 開館日数：277日間

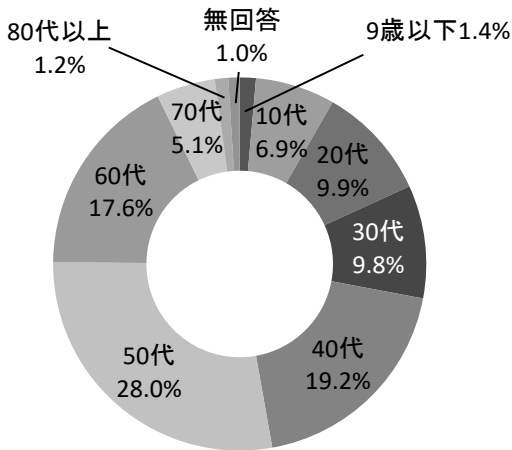
アンケート実施日：8月21日、11月3日、令和4年1月8日（計3回）

回答者数：1,215人

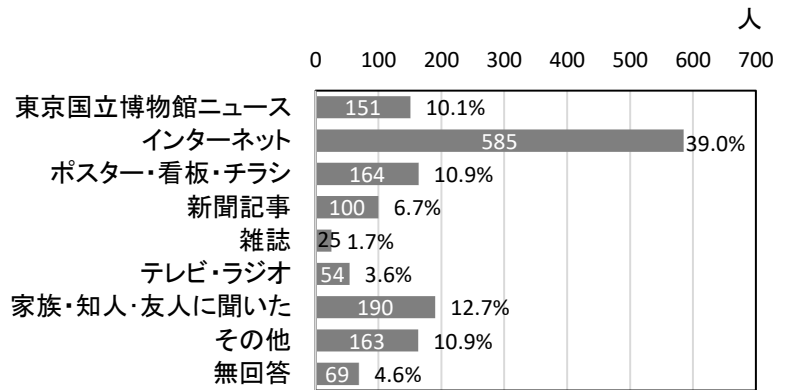
アンケート実施日総合文化展来館者数：6,562人

アンケート回収率：18.5%

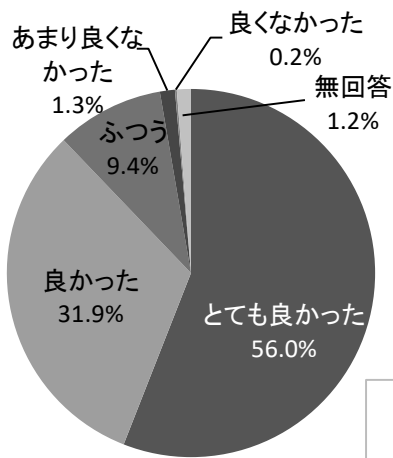
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）

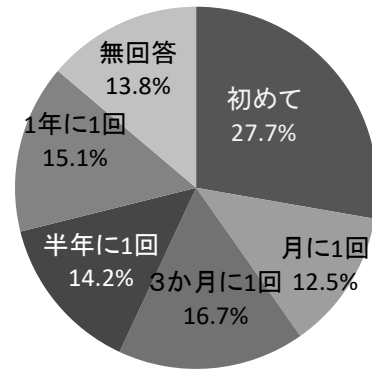


③展示に関する満足度

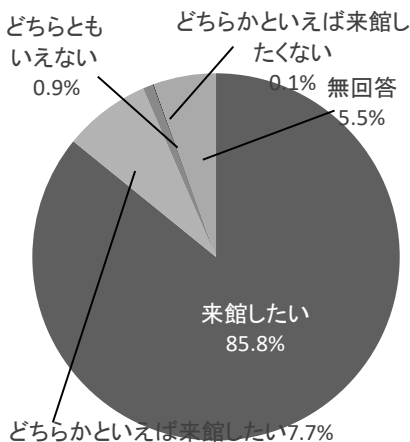


上位合計
87.9%

④来館頻度

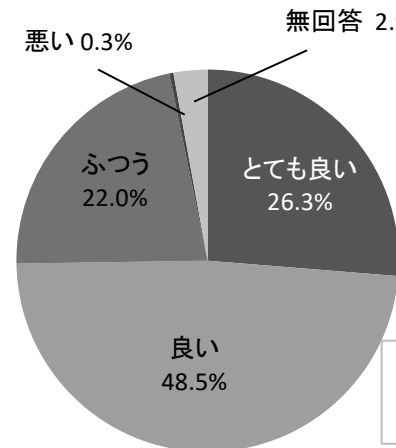


⑤再来館希望率



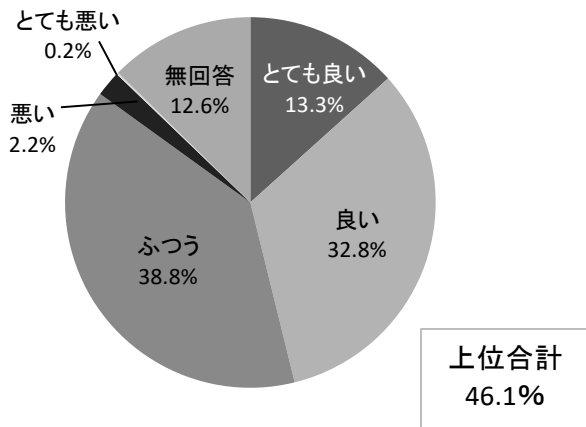
上位合計
93.5%

⑥ミュージアムショップに対する満足度

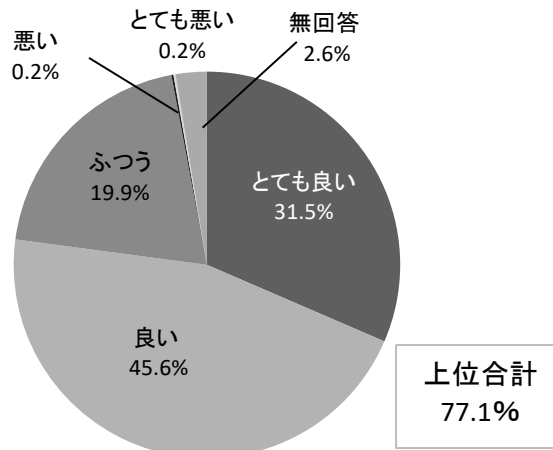


上位合計
74.8%

⑦ レストランに対する満足度



⑧ 館内スタッフの対応について



主な意見・感想

- ・見入ってしまうようなすばらしい展示物がたくさんあってとてもよかった。
- ・コロナ予約制のため、静でゆっくり見られたのがよかった。
- ・刀剣の種類をふやしてほしい。
- ・ラインの外にたつと説明が小さくて見づらい。
- ・高齢者のために説明の文字を大きくしてほしい。
- ・もっとSNS等で頻繁に展示替えの告知をして欲しい。
- ・見どころを教えてください。

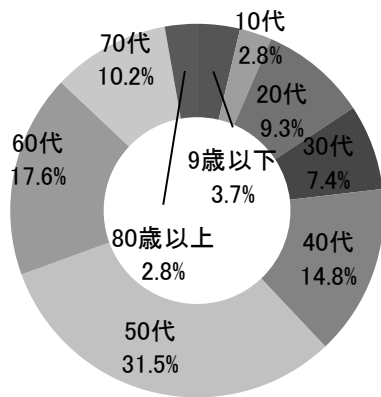
《外国人アンケート集計結果》

※新型コロナウイルス感染症の影響で、外国人の来館を見込めないため、実施していない。

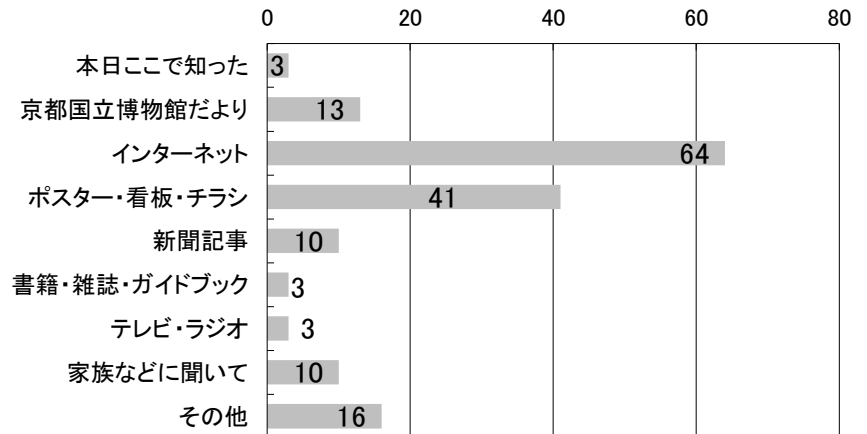
平常展（名品ギャラリー） アンケート集計結果

開催期間：令和3年6月5日（土）～令和3年7月4日（日） 開館日数：22日間
 令和4年1月2日（日）～令和4年3月21日（月・祝） 開館日数：68日間
 回答者数：121人
 来館者数：35,440人（平常展開催期間のみ）

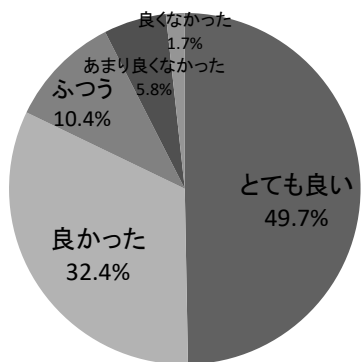
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）

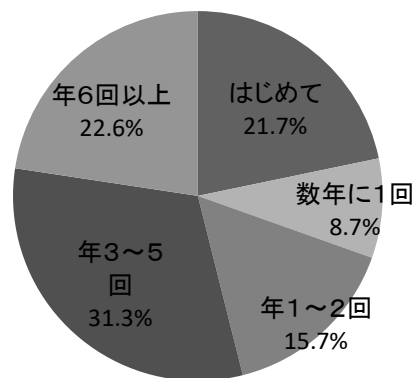


③展示に関する満足度



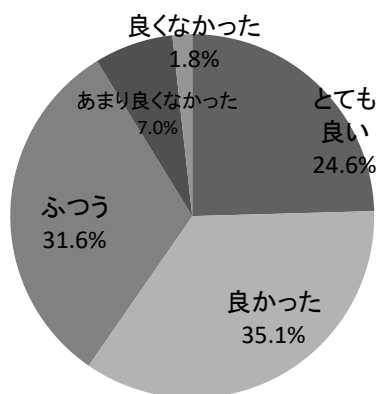
上位合計
82.1%

④来館頻度



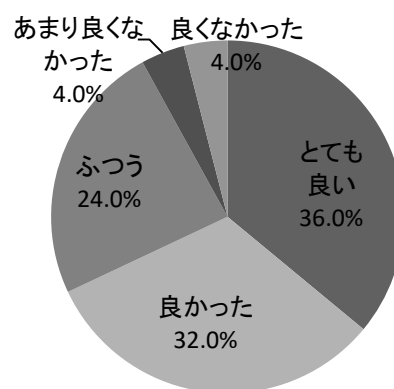
上位合計
53.9%

⑤ミュージアムショップに対する満足度



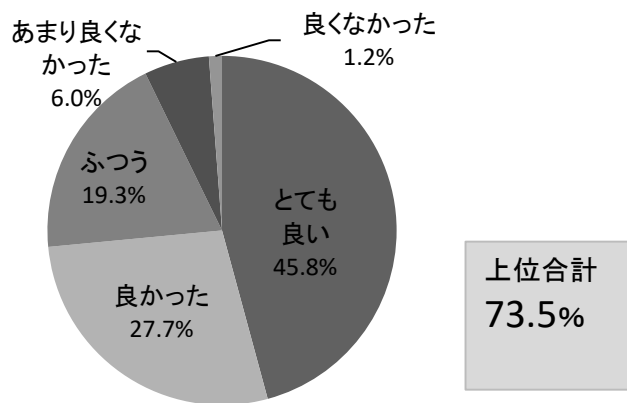
上位合計
59.7%

⑥レストランに対する満足度



上位合計
68.0%

⑦館内スタッフの対応について



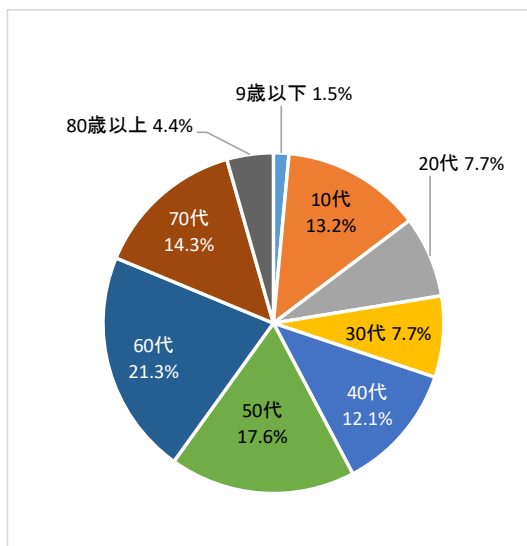
主な意見・感想

- ・館蔵品のみ撮影できるようにすべき
- ・図録の厚さがちょうど良かった
- ・職員の苦勞に頭が下がる
- ・照明が作品の特徴を捉えていた
- ・「新収品展」ほどの作品も興味深かった
- ・「オリュンピア」は楽しかった

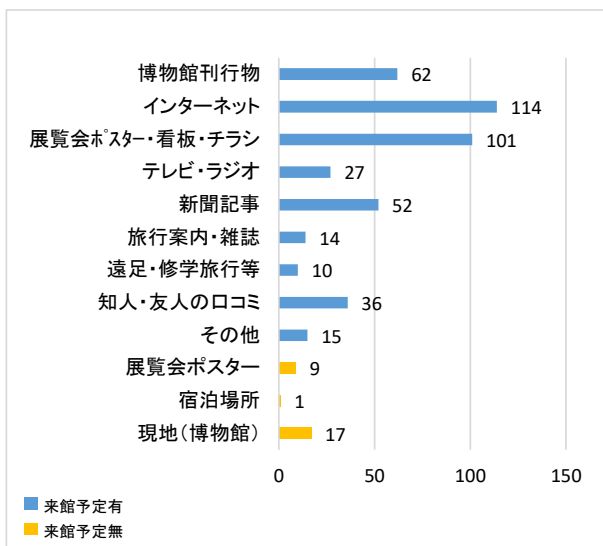
平常展（名品展） アンケート集計結果

開催期間：令和3年4月1日（木）～令和4年3月31日（木） 開館日数：318日間
 （回答者数：315人 入館者数：106,985人 アンケート回収率：0.29%）
 （日本語：307人／英語：8人）

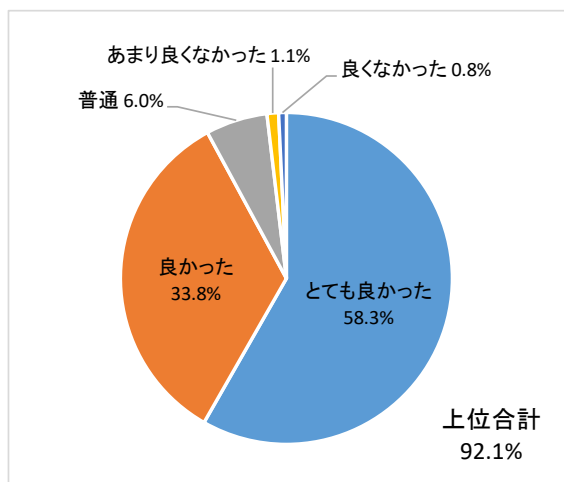
①年齢層



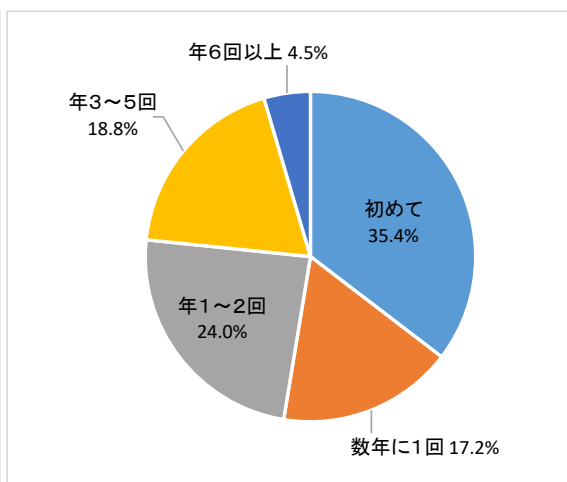
②認知経路（複数回答）



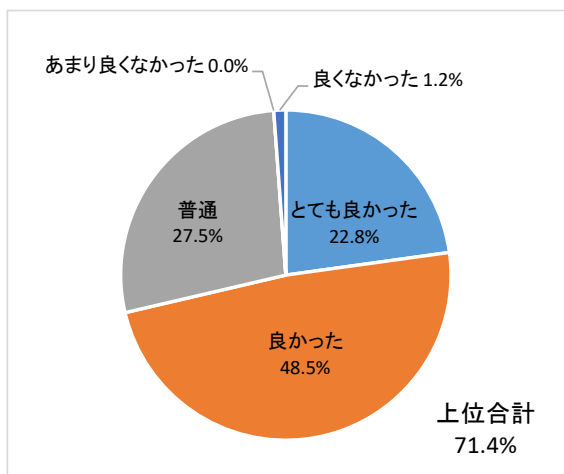
③展示に関する満足度



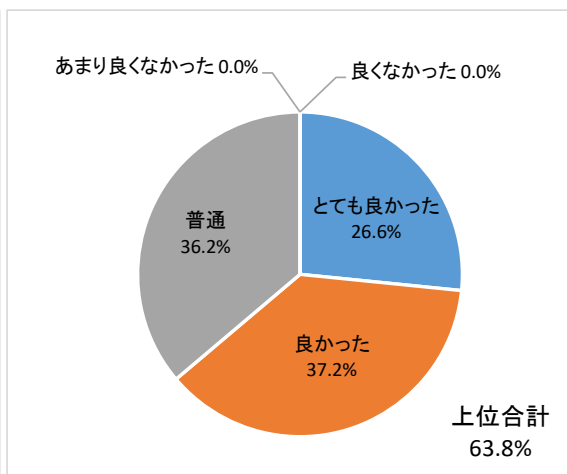
④来館頻度



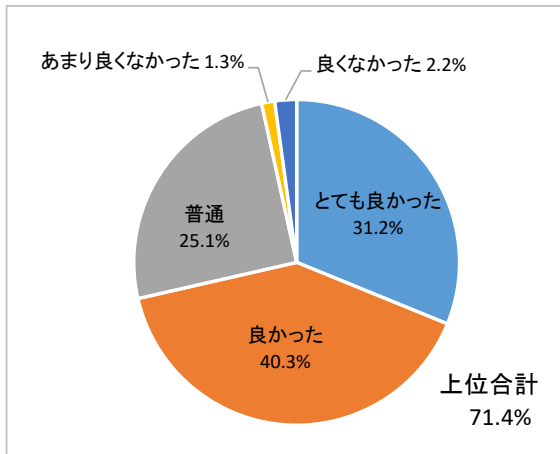
⑤ミュージアムショップに対する満足度



⑥レストランに対する満足度



⑦スタッフ対応に関する満足度



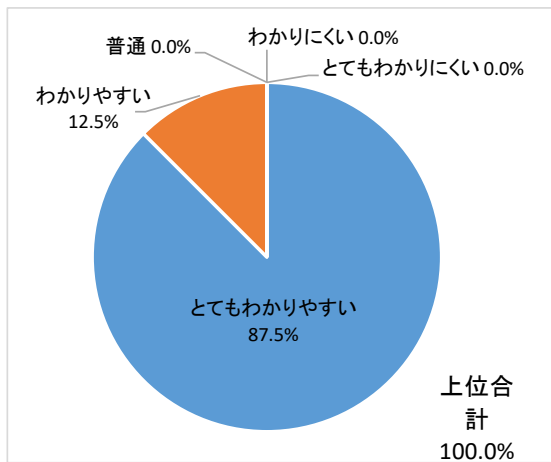
⑧主な意見・感想

- ・とてもきれいな館内で見やすかったです。写真がとれるところもあり良かったと思います。
- ・ここでしか観ることができないものが沢山あり、楽しかった。
- ・一つ一つの作品に説明があり分かりやすかったです。
- ・仏像について体系的に鑑賞できて、面白かったです。
- ・お水取り展の礼堂模型を復活させて欲しい。
- ・展示室にも椅子がほしい。

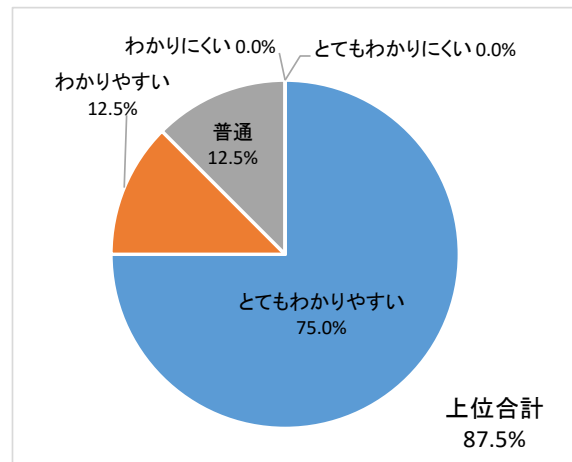
《外国人アンケート集計結果》

回答者数: 8人

1. (外国人アンケート)
施設の案内・説明・看板について



2. (外国人アンケート)
展示のパネル・キャプションについて

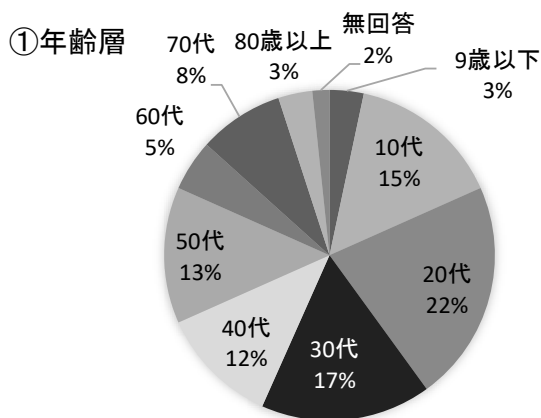


主な意見・感想

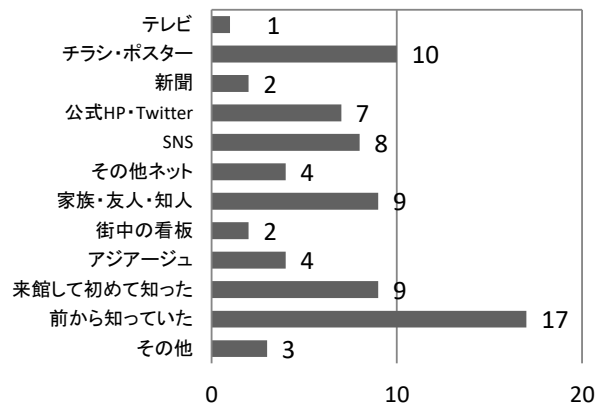
- ・よかったです。
- ・いくつか写真の許可がほしかったです。後で見たいと思いました。

文化交流展 アンケート集計結果

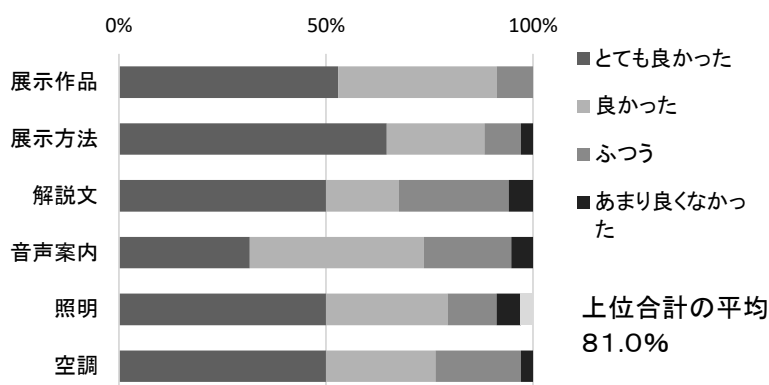
開催期間：令和4年1月1日(土)～令和4年3月31日(木) 開館日数：77日間
 回答者数：60人 来館者数：28,368人 アンケート回収率：0.2%



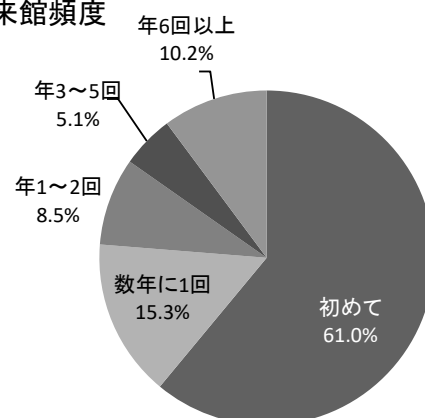
②認知経路（複数回答）



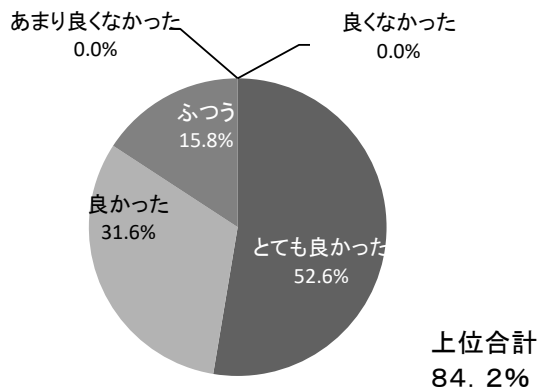
③展示に関する満足度



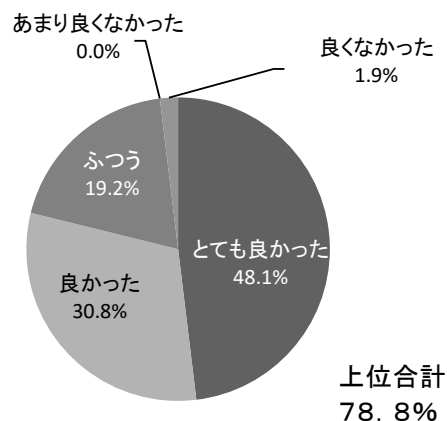
④来館頻度



⑤ミュージアムショップに対する満足度



⑥館内スタッフの対応について



主な意見・感想

心から落ち着きました。親に観に来させてあげたい
 特別展の他、『アジアを変えた鉄』をSNSで知りついでに観に来た。興味深かった。
 照明が暗くて説明文が読みにくい。
 時代順にしてある程度のルートを設定すべき。

特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」

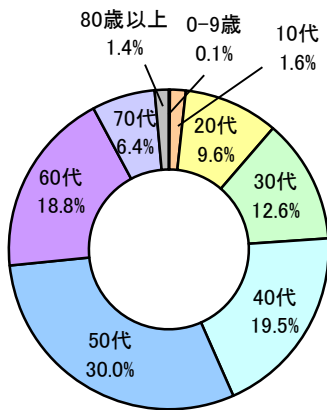
アンケート集計結果

開催期間：令和3年4月13日（火）～令和3年6月20日（日）（31日間）

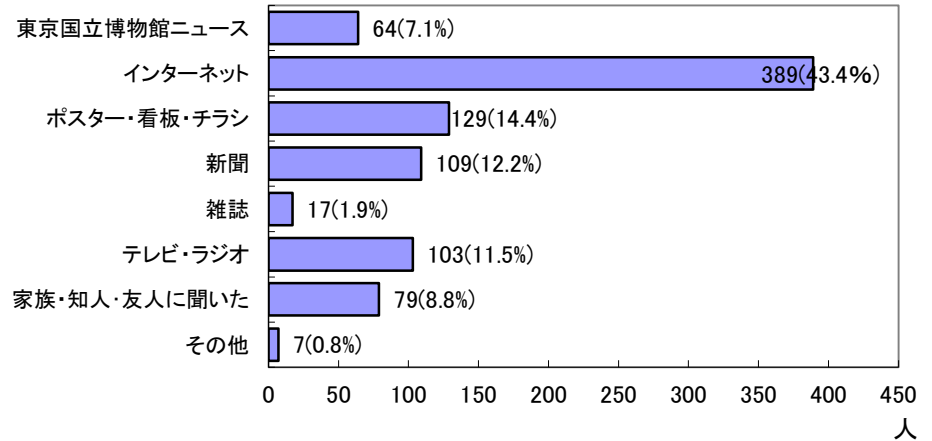
総入館者数：129,349人

回答者数：703人

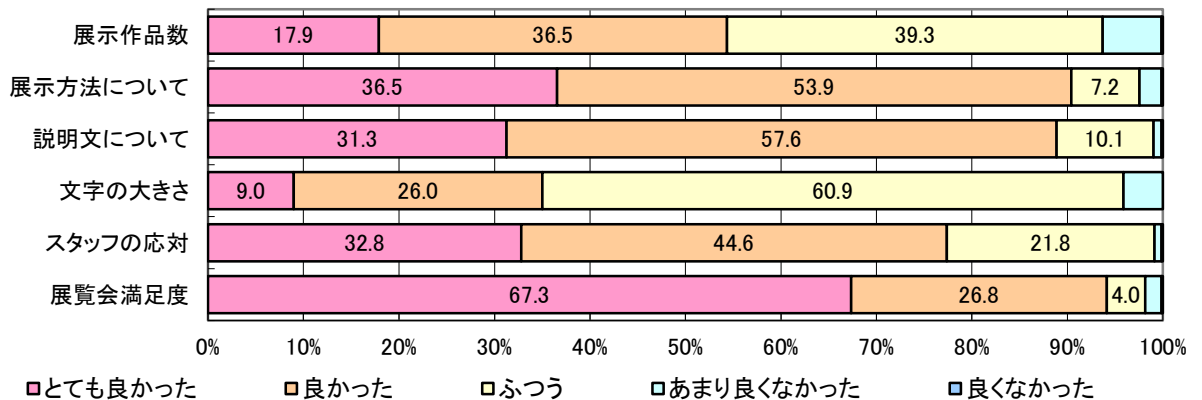
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・動く歩道によってスムーズに鑑賞することができた。
- ・会期延長によって観覧することができて、良かった。
- ・4巻の全場面が一堂に観覧できて良かった。
- ・展示室内の装飾（垂れ幕、プロジェクションマッピング等）が凝っていて、良かった。
- ・グッズ売り場が混雑・密になっていた。
- ・乙、丙、丁巻にも動く歩道を導入してほしい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	6.2	0.1
展示方法	2.3	0.1
説明文	0.9	0.1
文字サイズ	4.1	0.0
スタッフの対応	0.7	0.1
展覧会の満足度	1.7	0.1

(%)

本展は、国宝「鳥獣戯画」の甲・乙・丙・丁全4巻の全場面を、会期を通じて一挙公開しました。加えて、かつて4巻から分かれた断簡、さらに原本ではすでに失われた場面を留める模本の数々も集結し、＜鳥獣戯画のすべて＞をご堪能いただける、またとない機会となりました。さらに、「鳥獣戯画」が伝わる京都の高山寺を再興された明恵上人の魅力を、重要文化財「明恵上人坐像」をはじめとする高山寺選りすぐりの名宝などを通して迫りました。本展会期中には緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館を行いました。会期の延長が実現し、非常に多くのお客様に、ご来館いただくことができました。また、臨時休館からの再開後には、館内消毒の徹底をはじめお客様のご協力もあり、無事に閉幕することができました。

本展覧会を観覧しアンケートに答えた94.1%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。高評価をいただいた要因の一つは、2015年に開催した鳥獣戯画展の課題を踏まえ、新たに導入した動く歩道により、混雑が緩和されたこと、手で巻物を動かしながら見る感覚を体験いただけたことと考えられます。その一方で、コロナ禍を受けて、グッズ売り場の配置・混雑対策へのご意見が寄せられました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」

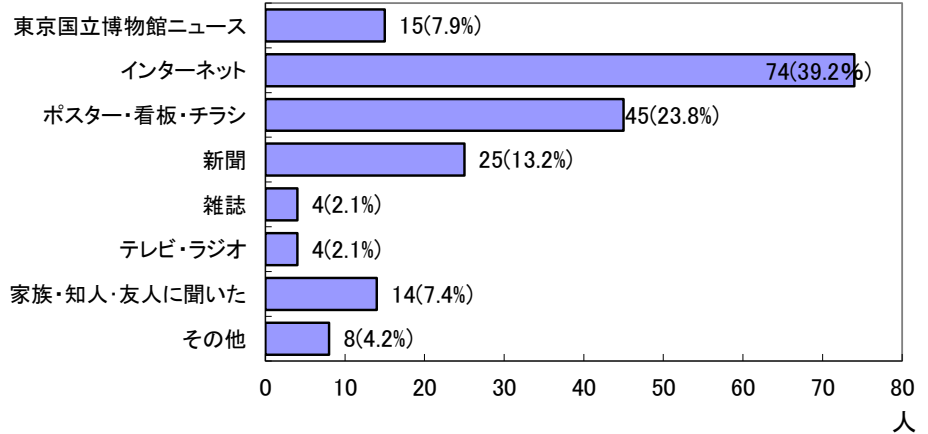
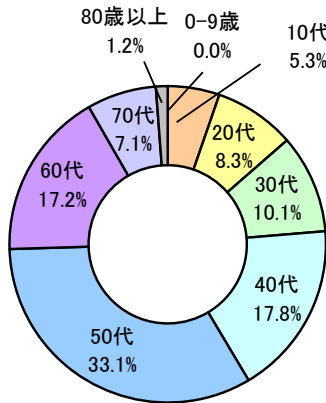
アンケート集計結果

開催期間：令和3年6月22日（火）～令和3年9月12日（日）（73日間）

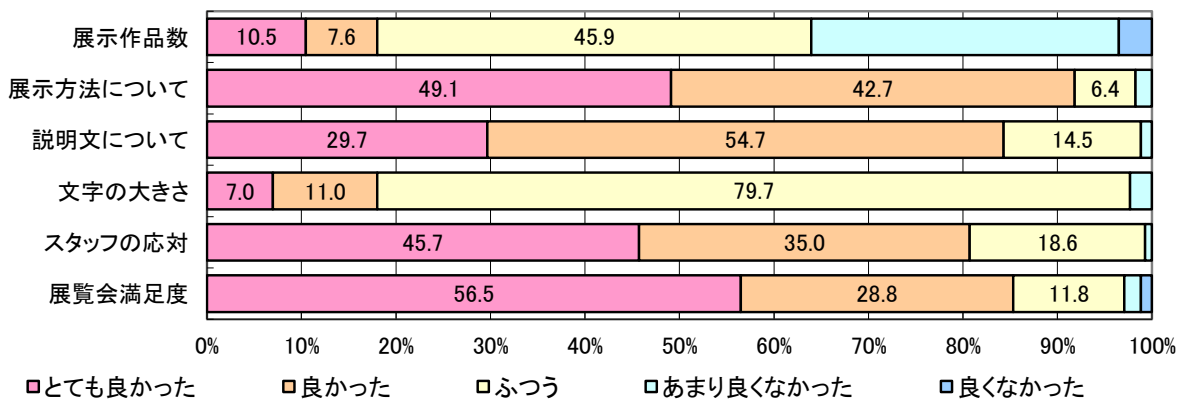
総入館者数：59,125人

回答者数：172人

①アンケート回答年齢層 ②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・国宝 十一面観音菩薩立像に感動した。
- ・時間ごとの入場で密にならず、落ち着いて観覧できた。
- ・音声ガイドが分かりやすかった。
- ・同時期に開催していた特別展「聖徳太子と法隆寺」とのセット券が欲しい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	32.6	3.5
展示方法	1.8	0.0
説明文	1.2	0.0
文字サイズ	2.3	0.0
スタッフの対応	0.7	0.0
展覧会の満足度	1.8	1.2

(%)

本展では、かつて大神寺にあった国宝「十一面観音菩薩立像」（聖林寺蔵）、国宝「地蔵菩薩立像」（法隆寺蔵）などの仏像と、仏教伝来以前の日本の自然信仰を示す三輪山禁足地の出土品などを展示しました。国宝「十一面観音菩薩立像」が奈良県外に出ることは初めてであり、多くの来館者に、この比類なき美しさを間近で、ご覧いただく機会となりました。

本展は、昨年6月に開催を予定していましたが、緊急事態宣言を受けて、本年に開催が延期となりました。会期中に、緊急事態宣言が発令され、通常とは異なる状況下にはありましたが、事前予約制、入館者数の制限、館内消毒の徹底をはじめ、展示室内での会話を控えていただくなど、来館者のご理解とご協力により、無事に閉幕することができました。

本展を観覧しアンケートに答えた85.3%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見が寄せられました。また、同時期に開催していた特別展とのセット券を求める意見も寄せられるなど、コロナ禍における新たな博物館運営への助言をいただきました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」

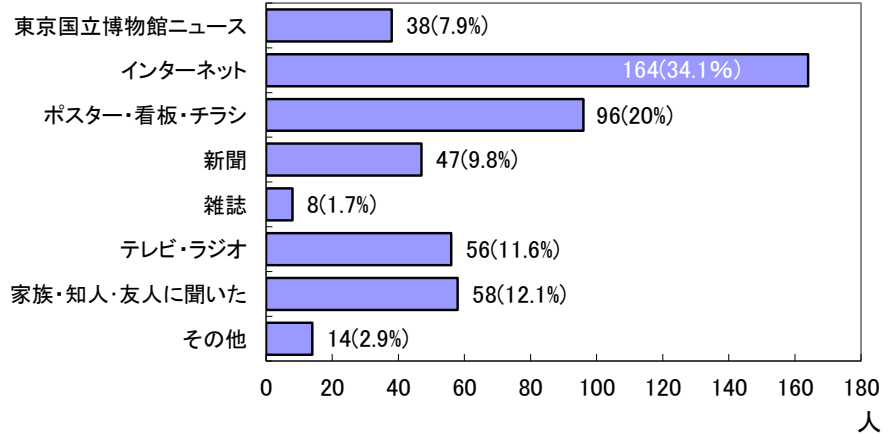
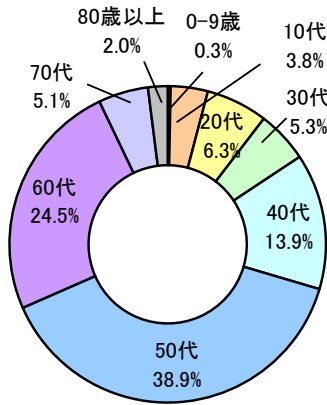
アンケート集計結果

開催期間：令和3年7月13日（火）～令和3年9月5日（日）（48日間）

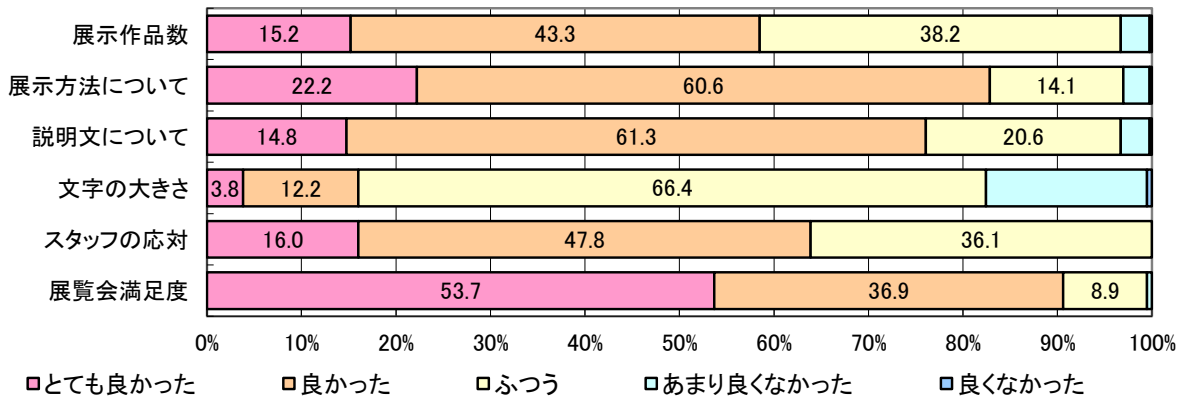
総入館者数：69,640人

回答者数：396人

①アンケート回答年齢層 ②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・貴重な作品をたくさん見ることができ、見ごたえがあった。
- ・コロナの影響で現地に行けないので、東京で法隆寺の寺宝を見ることができてうれしかった。
- ・事前予約制で混雑なく、観覧することができた。
- ・国宝 救世観音・百済観音の8K文化財の映像がとても美しく、細部まで見ることができてよかった。
- ・漢字にルビをふってほしい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	3.0	0.3
展示方法	2.8	0.3
説明文	3.1	0.3
文字サイズ	17.0	0.5
スタッフの対応	0.0	0.0
展覧会の満足度	0.5	0.0

(%)

本展は、聖徳太子の1400年遠忌にあたり、これを記念して開催されたもので、法隆寺において護り伝えられてきた寺宝を中心に、太子の肖像や遺品と伝わる宝物、また飛鳥時代以来の貴重な文化財を通じて、太子その人と太子信仰の世界に迫るものとなりました。1400年という遙かなる時をこえて、今を生きる私たちが聖徳太子に心を寄せることでその理想に思いを馳せ、歩むべき未来について考える絶好の機会となりました。

本展会期中に、緊急事態宣言が発令されましたが、事前予約制による混雑回避をはじめ、館内消毒の徹底、展示室内で会話をお控えいただくなど来館者のご理解とご協力もあり、無事に閉幕することができました。

本展を観覧しアンケートに答えた90.6%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見が寄せられました。コロナ禍で、県境をまたいだ移動が制限される中で、奈良県の現地に行かずに、東京で法隆寺の寺宝等を観覧できたことが、さらに満足度を高めることになったと考えられます。

また、インターネットによる事前予約への手続きの難しさや、解説パネルの漢字にルビが欲しいといったご意見もいただきました。今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

春夏秋冬／フォーシーズンズ 乃木坂46

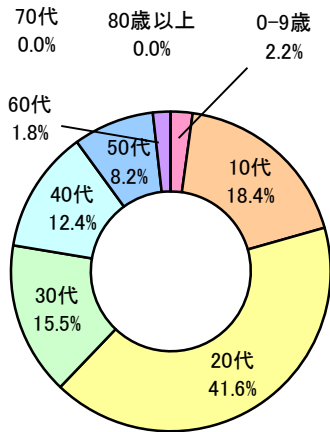
アンケート集計結果

開催期間：令和3年9月4日（土）～令和3年11月28日（日）（75日間）

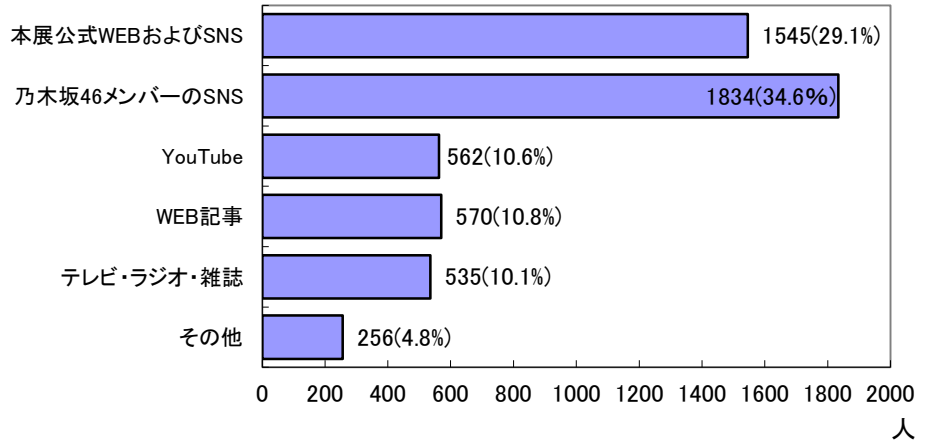
総入館者数：58,461人

回答者数：2,962人

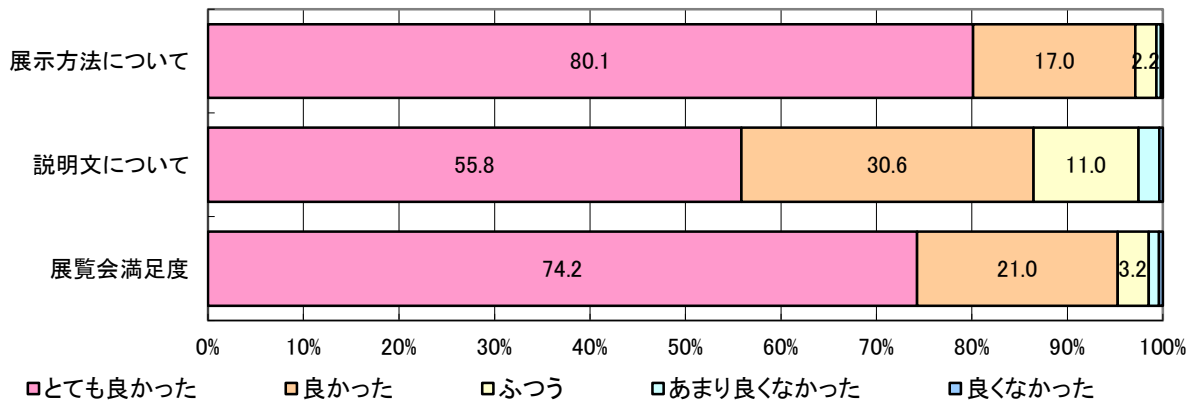
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・展示内容がとてもよく、乃木坂46と日本美術の融合が素晴らしく心を惹かれた。
- ・日本美術作品に触れる良い機会になった。
- ・取っ付きにくいと感じていた、屏風や振袖、水墨画のイメージが今日をきっかけに変わった。
- ・普段来ない美術館が身近に感じた。
- ・人数を制限していたので、安心して見られると同時に、展示も見やすかった。
- ・入口に作品紹介、その後映像があると移動がスムーズで、より理解も深まったと思う。
- ・グッズ売り場の待機列が密で換気悪いのがよくなかった。レジが少ない。オンラインでも販売してほしい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示方法	0.5	0.2
説明文	2.2	0.4
展覧会の満足度	1.1	0.4

(%)

※今回はアンケート実施者が異なるため、アンケート集計内容が一部異なる

本展は、春夏秋冬の花があらわされた7点の日本美術（高精細複製作品）を現代のポップカルチャーとあわせて紹介するものとなりました。7つの日本美術作品と現代を結ぶキーとなるのは、アイドルグループの乃木坂46です。一人一人が花に見立てられ、各々のメンバーが表現するパフォーマンスの映像インスタレーションによって、日本人々が花に託した造形の本質を、季節を巡りながら見ていただきました。彼女たちが日々、表現している歌詞や世界観が、日本美術に重ねられていくことで、乃木坂46と日本の文化と、そして私たちが生きる日常／自然とが、地続きの存在であることを実感していただく機会となりました。

本展を観覧しアンケートに答えた95.3%の方から「とても良かった」「良かった」と大変好意的な意見が寄せられました。乃木坂メンバーそれぞれにあった映像がとても美しく、美術作品や建物の雰囲気とも合っていて感動した、という意見が多く、ふだん接することがなかった日本美術への関心、美術館博物館への関心を想起する機会になったという意見も多くみられました。一方、ショップの待ち列やお客同士の話への注意など、コロナ対策を徹底してほしいという意見も寄せられました。

今後来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」

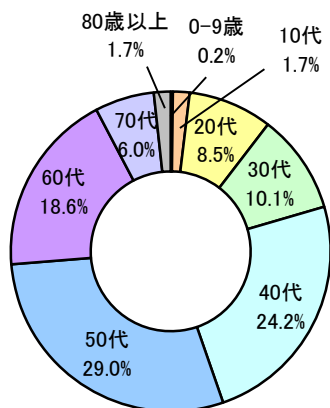
アンケート集計結果

開催期間：令和3年10月12日（火）～11月21日（日）（36日）

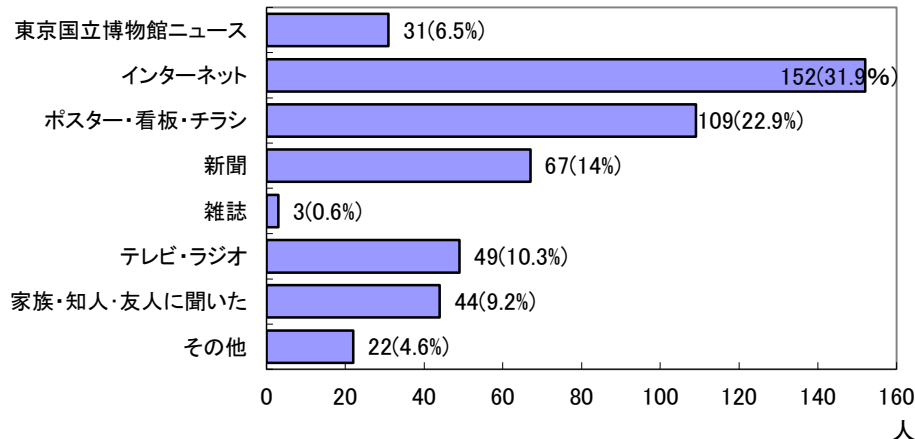
総入館者数：63,977人

回答者数：418人

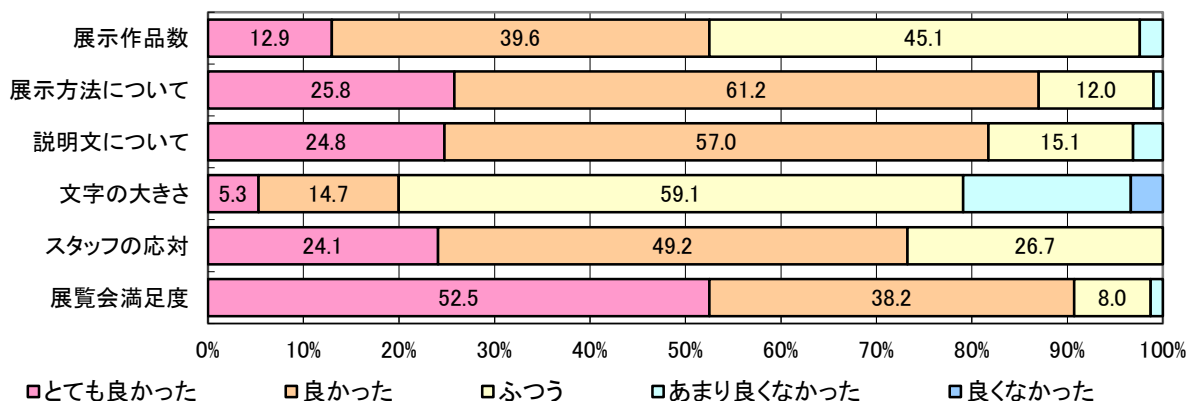
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・ 普段見ることのできない秘仏をたくさん見ることができてよかった。
- ・ 国宝や重要文化財が多数あり、見ごたえのある展示だった。
- ・ 歴史の流れ・結びつきの分かる展示構成だった。
- ・ 事前予約制で混雑なく、観覧することができた。
- ・ 展示室内の椅子を増やしてほしい。
- ・ 展示パネルの文字を大きくしてほしい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	2.4	0.0
展示方法	1.0	0.0
説明文	3.1	0.0
文字サイズ	17.5	3.4
スタッフの対応	0.0	0.0
展覧会の満足度	1.3	0.0

(%)

2021年は、伝教大師最澄の1200年の大遠忌にあたる年でした。本展では、延暦寺における日本天台宗の開宗から、東叡山寛永寺を創建して太平の世を支えた江戸時代に至るまでの天台宗の歴史をご紹介します。また、日本各地で守り伝えられてきた貴重な宝物や、『法華経』の説く万民救済の精神をあらわす文化財を、地域的な特色を示しながらご覧いただくことができ、秘仏をはじめ、天台の名宝が集う貴重な機会となりました。

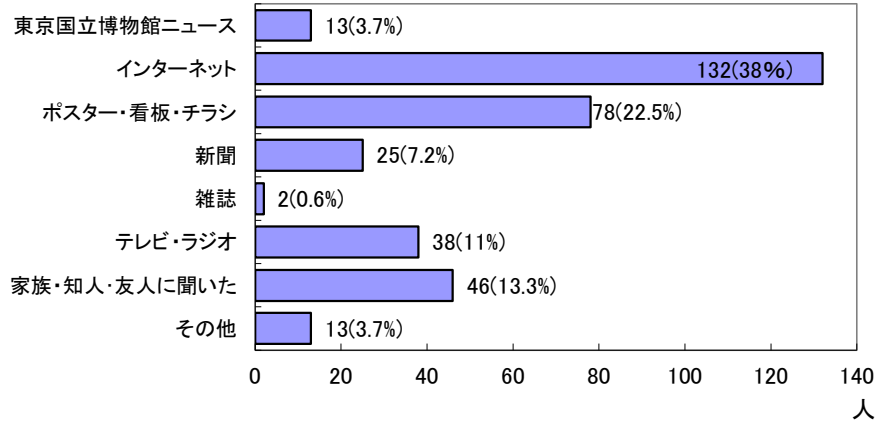
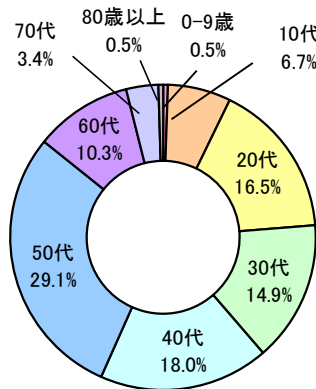
本展会期中に、本展を観覧しアンケートに答えた90.7%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見が寄せられました。新型コロナウイルス感染症対策として、引き続き事前予約制を導入したことで、混雑なくご観覧いただけたこと、そして秘仏、国宝や重要文化財をはじめとした作品構成が多くの来館者にご満足いただけた要因だと考えられます。一方で、展示室内の休憩スペースの増加や、解説パネルの文字を大きくすることへのご意見もいただきました。今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

特別展「ポンペイ」

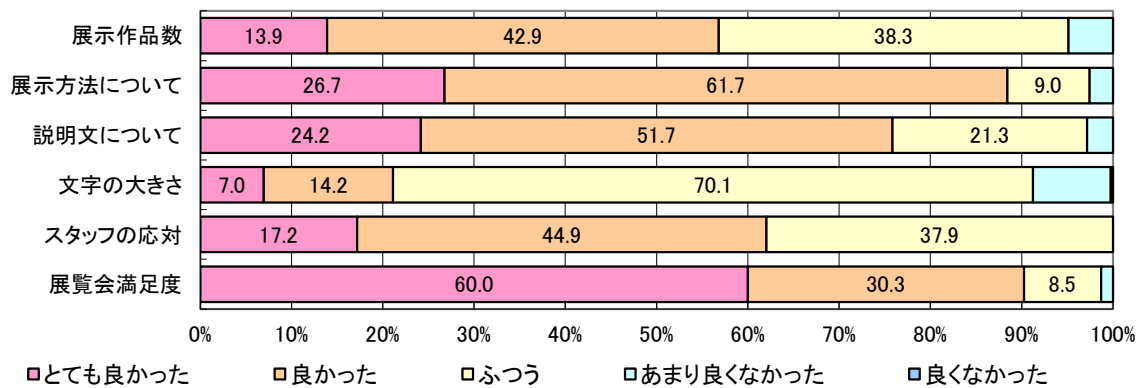
アンケート集計結果

開催期間：令和4年1月14日（金）～4月3日（日）（70日）
 総入館者数：197,700人
 回答者数：390人

①アンケート回答年齢層 ②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・遺跡の再現が非常に魅力的でよかった。
- ・写真撮影可能な点がよかった。
- ・展示を通してポンペイの発達した文化に触れることができ、実際にポンペイを訪れたいと思った。
- ・見ごたえがあり楽しかった。
- ・作品だけでなく展示空間を含めて楽しむことができた。
- ・写真撮影可のため立ち止まる人が多かった。
- ・導線がわかりにくい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	4.9	0.0
展示方法	2.6	0.0
説明文	2.8	0.0
文字サイズ	8.5	0.3
スタッフの対応	0.0	0.0
展覧会の満足度	1.3	0.0

(%)

ポンペイは紀元後79年、イタリアのナポリ近郊のヴェスヴィオ山の大規模な噴火により火山噴出物に飲み込まれたローマ帝国の都市で、発掘は18世紀に始まり、現在まで続いています。本展覧会では、壁画、彫像、工芸品の傑作から、食器、調理具といった日用品にいたる発掘品を展示することで2000年前の都市社会と豊かな市民生活をよみがえらせました。

本展覧会中に、本展を観覧しアンケートに答えた90.3%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見が寄せられました。「遺跡の再現が非常に魅力的でよかった」、「作品だけでなく展示空間を含めて楽しむことができた」というご好評の声を多数いただきました。また展覧会を通して「ポンペイを実際に訪れたい」というご意見も多数お寄せいただきました。

また、展示室内の写真撮影に対しては好意的なご意見をいただく一方で、撮影音を抑えてほしい等のご意見も寄せられました。

今後来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

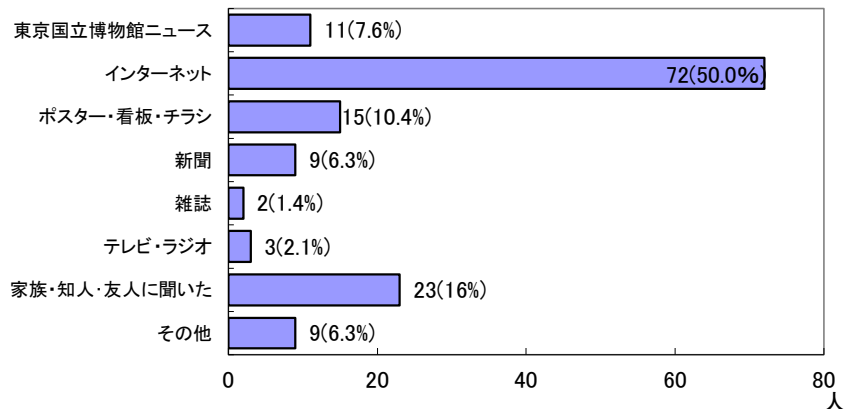
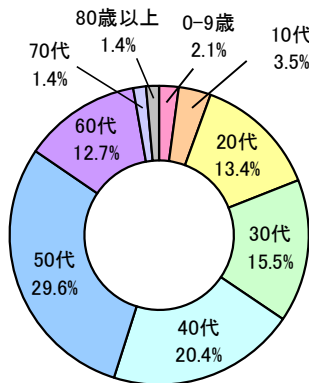
アンケート集計結果

開催期間：令和4年1月7日（金）～3月13日（日）（57日）

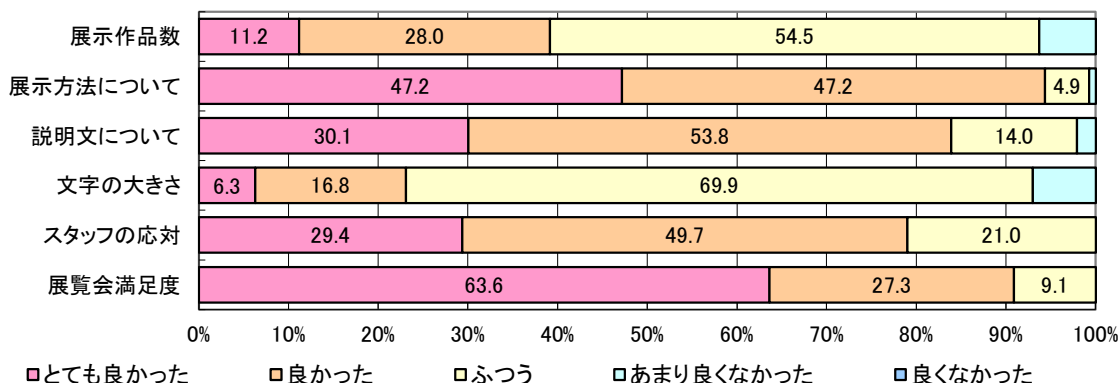
総入館者数：15,405人

回答者数：143人

①アンケート回答年齢層 ②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・日本の伝統芸能に対する理解が深まった。
- ・歌舞伎、文楽、能楽、雅楽、組踊と5つの伝統芸能を比較することができたのが興味深かった。
- ・馴染みのない伝統芸能に接する良い機会となった。
- ・色鮮やかな衣装にうっとりした。
- ・外国の方に見てもらいたい展示だった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	6.3	0.0
展示方法	0.7	0.0
説明文	2.1	0.0
文字サイズ	7.0	0.0
スタッフの対応	0.0	0.0
展覧会の満足度	0.0	0.0

(%)

本展では、ユネスコ無形文化遺産一覧に登録された日本の伝統芸能（歌舞伎、文楽、能楽、雅楽、組踊）を一堂に集め、それぞれの芸能が持つ固有の美とそれを支える「わざ」を紹介しました。また各展示室では、来館者が実際に舞台上上がり、伝統芸能ならではの舞台空間を臨場感たっぷりに体験できる再現舞台を設置するほか、実際の公演で使用されている衣装、小道具、楽器等を展示しました。

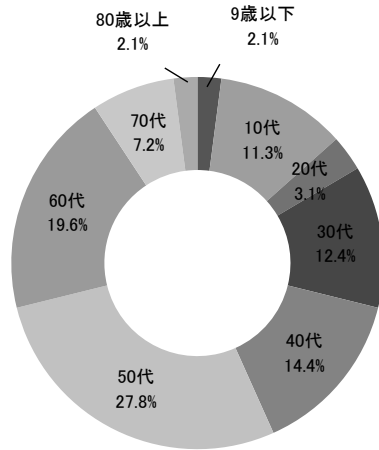
本展会期中に、本展を観覧しアンケートに答えた90.9%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見が寄せられました。コロナ禍により日本の伝統芸能の文化を、多くの外国の方々にご覧いただけなかったことは非常に残念ではありましたが、再現舞台を使用した体験や普段では見ることのできない実際の公演で使用されている衣装、小道具、楽器等を間近でご覧いただけたことが多くのお客様にご満足いただけた要因だと考えます。

一方で、展示室内の休憩スペースの増加や、事前予約の難しさへのご意見もいただきました。今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

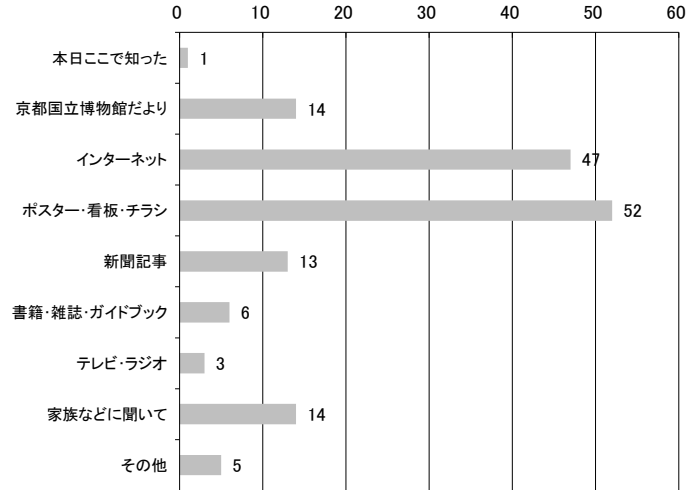
特別展覧会「鑑真和上と戒律のあゆみ」 アンケート集計結果

開催期間：令和 3年 3月 27日（土）～ 5月16日（日）（51日間）
回答者数： 112人（総来館者数 18,797人 アンケート回収 0.6%）

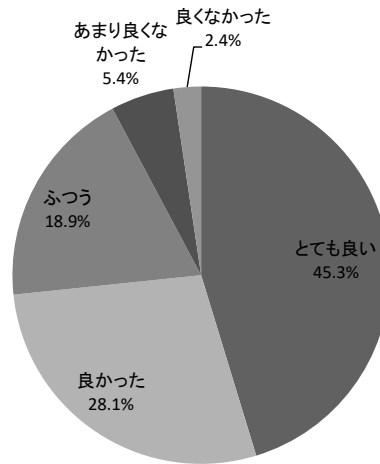
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
(とても良かった+良かった)
73.4%

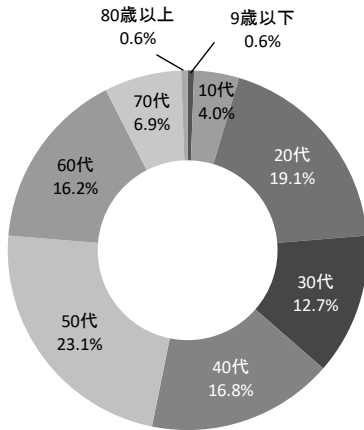
④主な意見・感想

- ・「鑑真和上坐像」は生きているようだった
- ・「弘法大師坐像」に感動した
- ・手を合わせたい気持ちになる
- ・戒律を伝え、守った僧を尊敬する
- ・仏教の知識があればもっと楽しめたと感じた

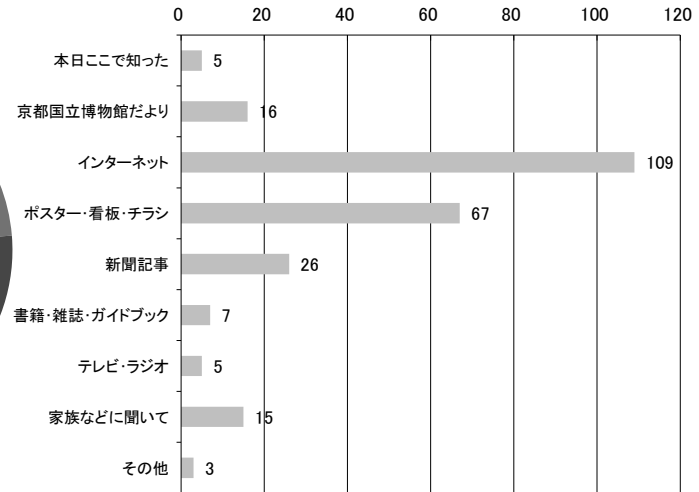
特別展覧会「京の国宝」 アンケート集計結果

開催期間：令和 3年 7月 24日（土）～ 9月 12日（日）（51日間）
回答者数：272人（総来館者数 37,065人 アンケート回収率 0.7%）

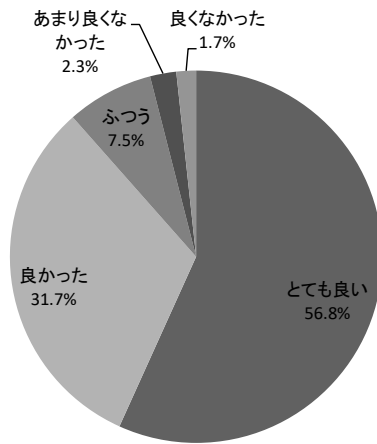
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
(とても良かった+良かった)
88.5%

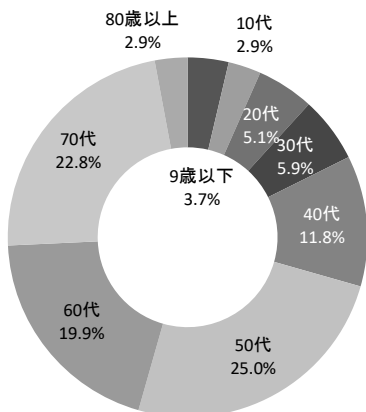
④主な意見・感想

- ・国宝がどのように守られてきたか展示の流れが分かりやすかった
- ・文化財の制度や活動も紹介され以前の国宝展よりも意義深く感じる
- ・京博に来ると清々しい気持ちになりリフレッシュできる
- ・コロナ禍に開館してくれてありがたい
- ・「風神雷神図屏風」を平常展でももっと展示してほしい

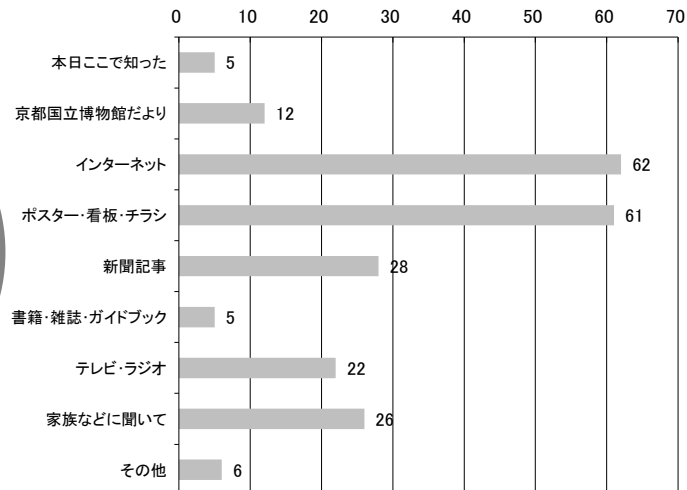
特別展覧会「畠山記念館の名品」 アンケート集計結果

開催期間：令和 3年 10月 9日（土）～ 12月 5日（日）（58日間）
回答者数：272人（総来館者数 39,782人 アンケート回収率 0.7%）

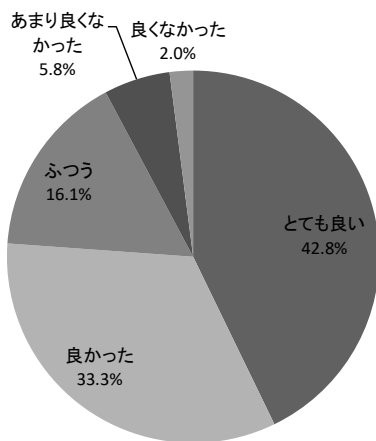
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
76.1%

④主な意見・感想

- ・遠方でなかなか行けない畠山記念館の作品を見ることができた
- ・素晴らしい展示品ばかりで正に名品展だった
- ・茶道のことも分からなくても凄さが分かる展示だった
- ・道具を実際に使うことを想像することができた
- ・能装束の能舞台風の背景に学芸員のこだわりを感じた

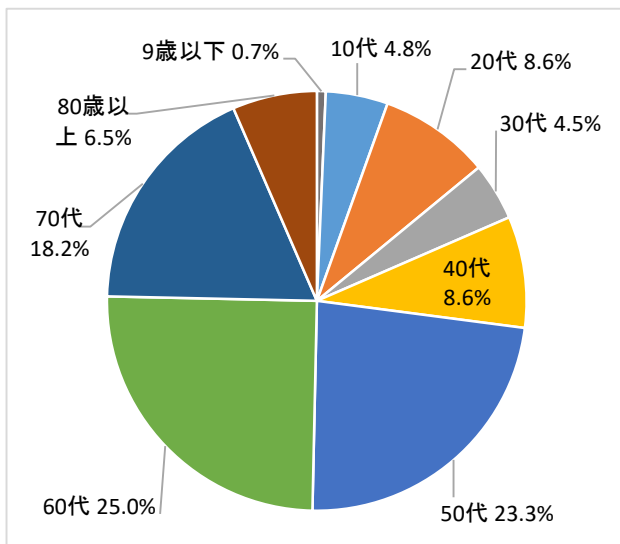
聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」

アンケート集計結果

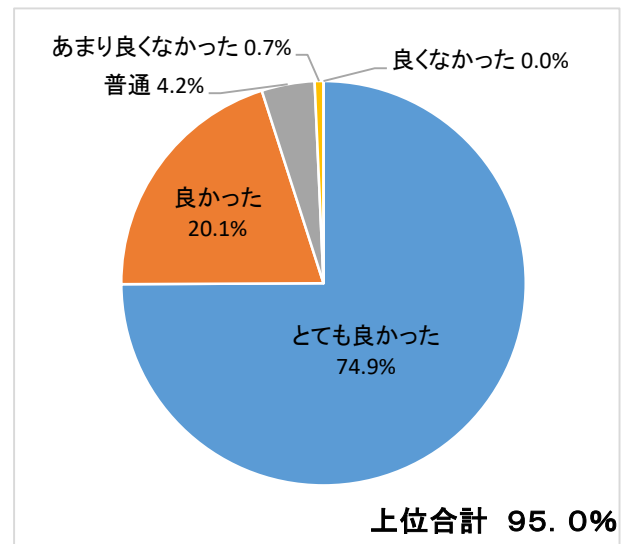
開催期間: 令和3年4月27日(火)～令和3年6月20日(日)(49日間)

回答者数: 355人 入場者数: 44,233人 回収率: 0.80%

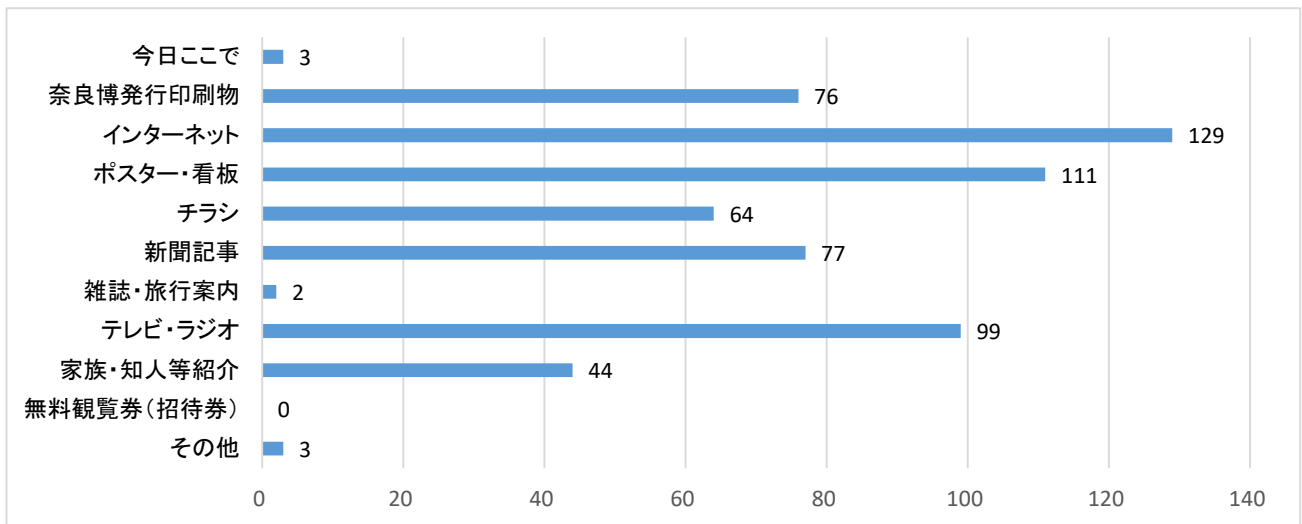
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



④主な意見・感想

- ・玉虫厨子が見ごたえがあり、良かったです。
- ・初めて見るものも多く、また法隆寺内で遠くて暗くて見えにくいものがはっきりと見られて大変良かった。
- ・太子の仏教にける思い、太子信仰を深く味わえた。
- ・国宝が多く展示されており、楽しめました。
- ・文字(説明)が小さく読みづらかった。
- ・番号順・表記を判りやすくお願い致します。
- ・高齢者にとっては、休けいする場所や椅子があると助かります。

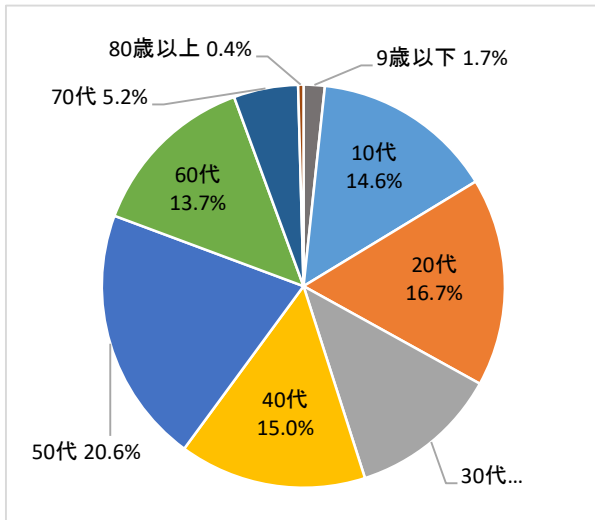
特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション－」

アンケート集計結果

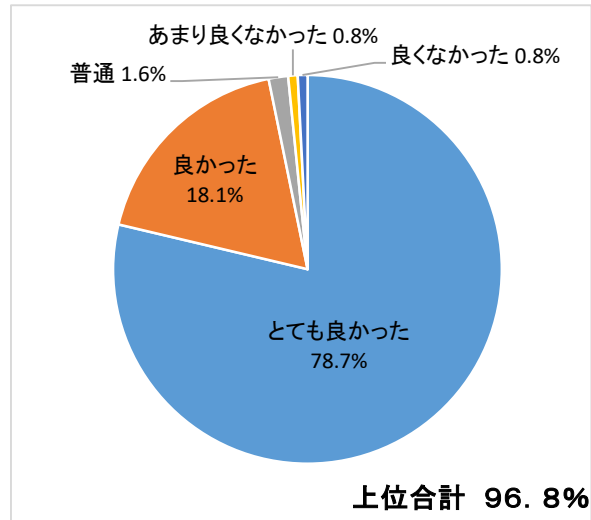
開催期間: 令和3年7月17日(土)～令和3年9月12日(日)(51日間)

回答者数: 253人 入場者数: 34,659人 回収率: 0.73%

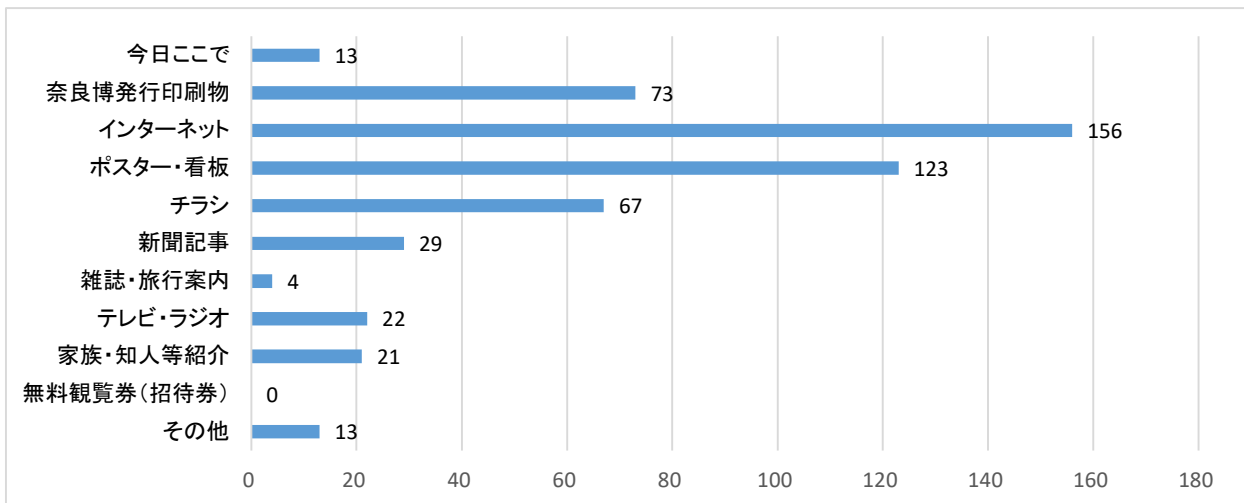
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



④主な意見・感想

- ・奈良博のコレクション(体系)はすばらしいと思った。博物館は定期的に収蔵品のまとまった公開をしてほしい。
- ・ガイド目当てに来てしまいましたが、穏やかに見られて、聞けてとてもよかったです。
- ・オリジナルキャラクターもかわいらしく、展示品も興味深く、楽しい時間でした。ありがとうございます。
- ・子供(小学校低学年)が、読むことができる展示ボードの設置がとても良かった。
- ・やはり写真撮影ができたことは非常に良い。自身の記録、勉強に役立つ。今後も是非お願いしたい。
- ・シャッター音がうるさいので、写真NGのほうが良かった。
- ・明るくて、ケースに反射していて見えにくいところがあった。

第73回正倉院展

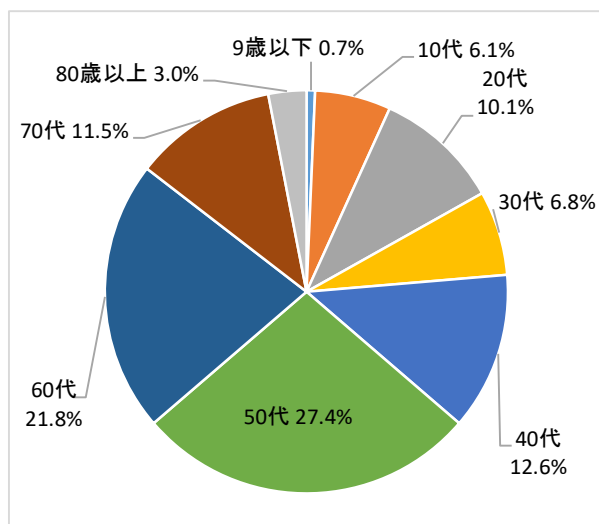
アンケート集計結果

開催期間: 令和3年10月30日(土)～11月15日(月)(17日間)

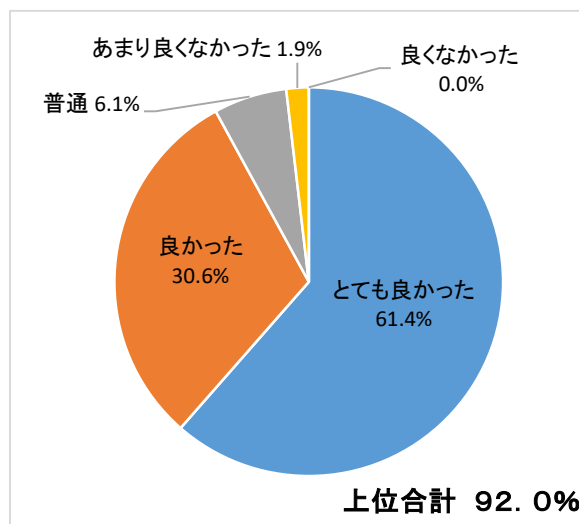
回答者数: 482人 入場者数: 73,968人 回収率: 0.65%

(日本語: 478人 / 英語: 4人)

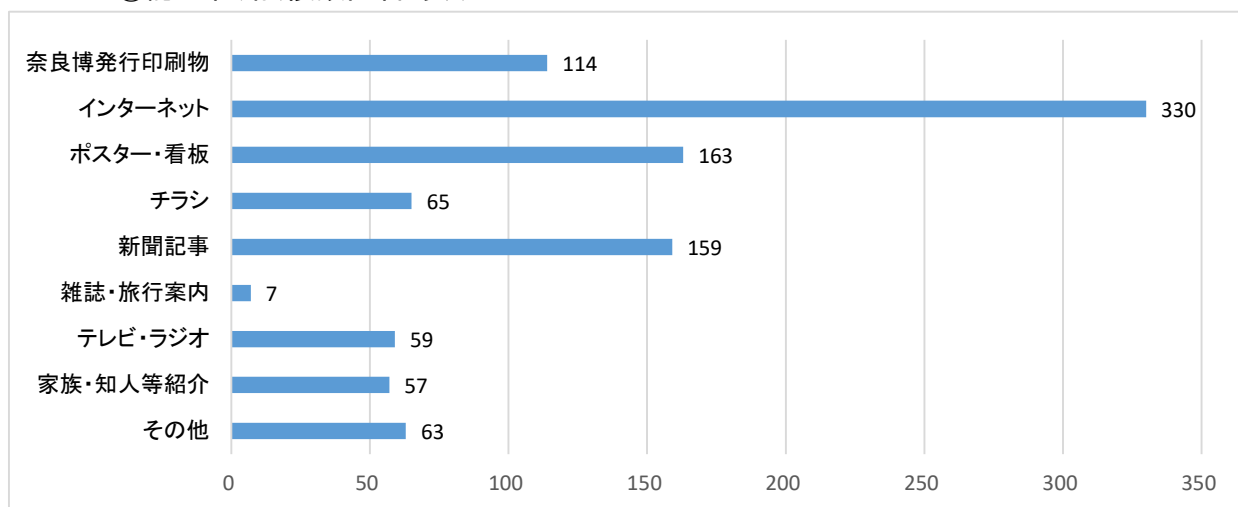
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



④主な意見・感想

- ・毎年来るのを楽しみにしています。今後も続けていてもらいたいです。
- ・来年以降も、前売チケット制にしてほしいです。
- ・教科書にのっているような品々を見ることが出来、歴史を感じられた。
- ・展示が高い為、上部が見にくい。
- ・展示物が少なかった気がしました。
- ・もっと明るさが欲しい。

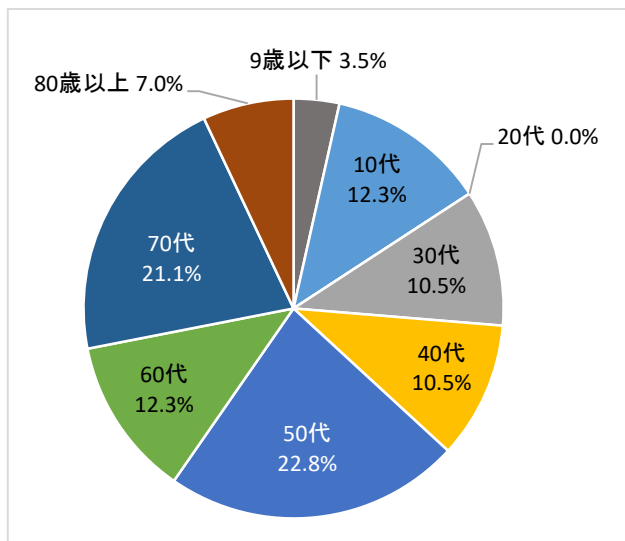
特別展「名画の殿堂 藤田美術館展—傳三郎のまなざし—」

アンケート集計結果

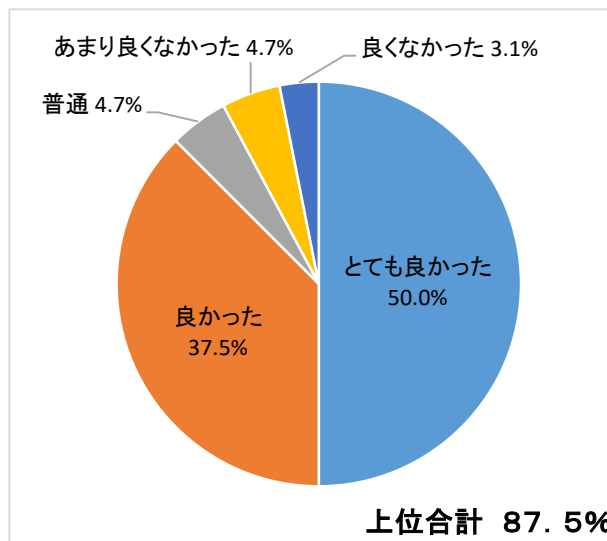
開催期間: 令和3年12月10日(金)～令和4年1月23日(日)(35日間)

回答者数: 66人 入場者数: 13,773人 回収率: 0.48%

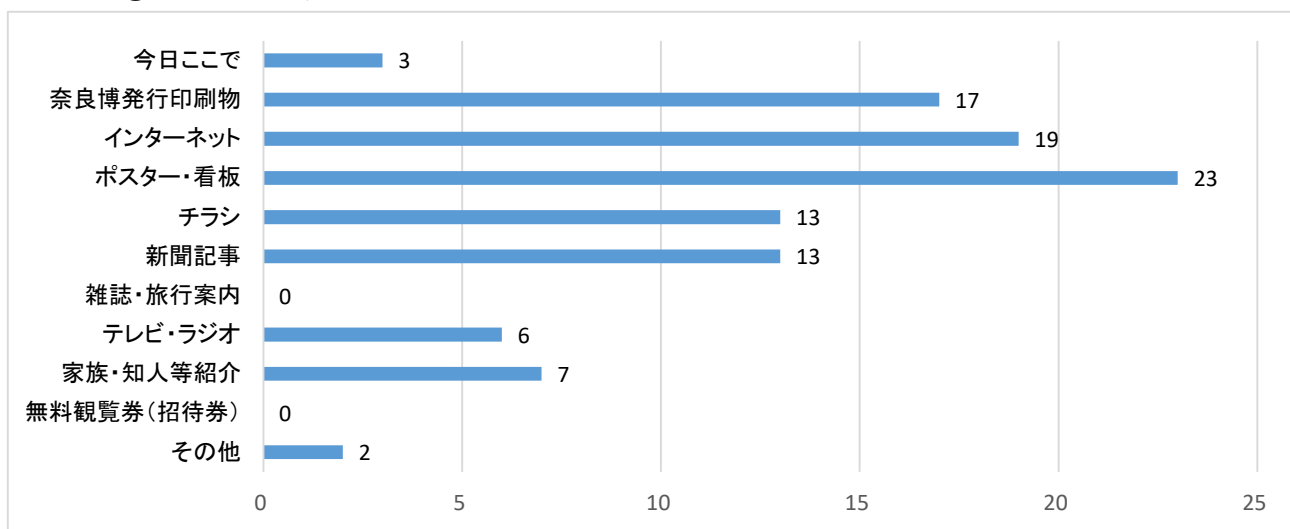
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



④主な意見・感想

- ・藤田美術館の役割と日本の歴史上の動きが良く示されていた。
- ・なかなか他では観られない作品が一挙に観られる点。時代を追う構成もよかった。
- ・竹内栖鳳の作品の獅子図がケースに入っていたとはいえ、近くで観れてとても良かった。
- ・展示内容が少ない。
- ・解説にもっと力を入れてほしい。
- ・作品の保存でうす暗いので少し目が疲れた。

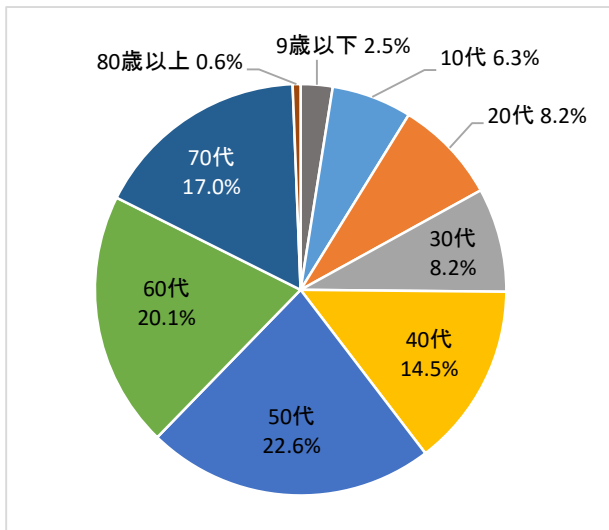
特別展「国宝 聖林寺十一面観音－三輪山信仰のみほとけ」

アンケート集計結果

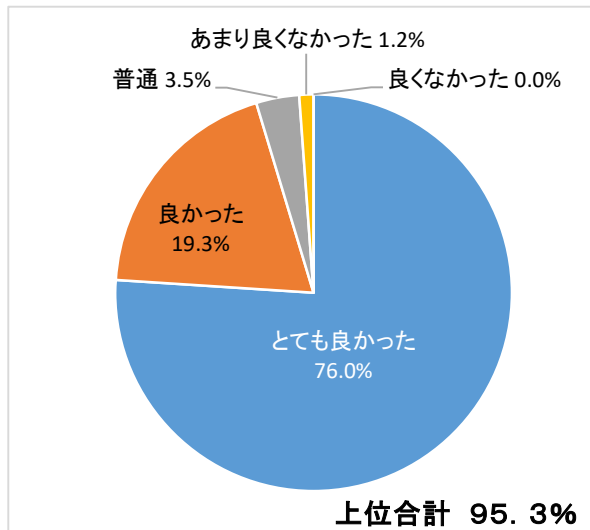
開催期間：令和4年2月5日(土)～令和4年3月27日(日)(47日間)

回答者数：174人 入場者数：34,385人 回収率：0.51%

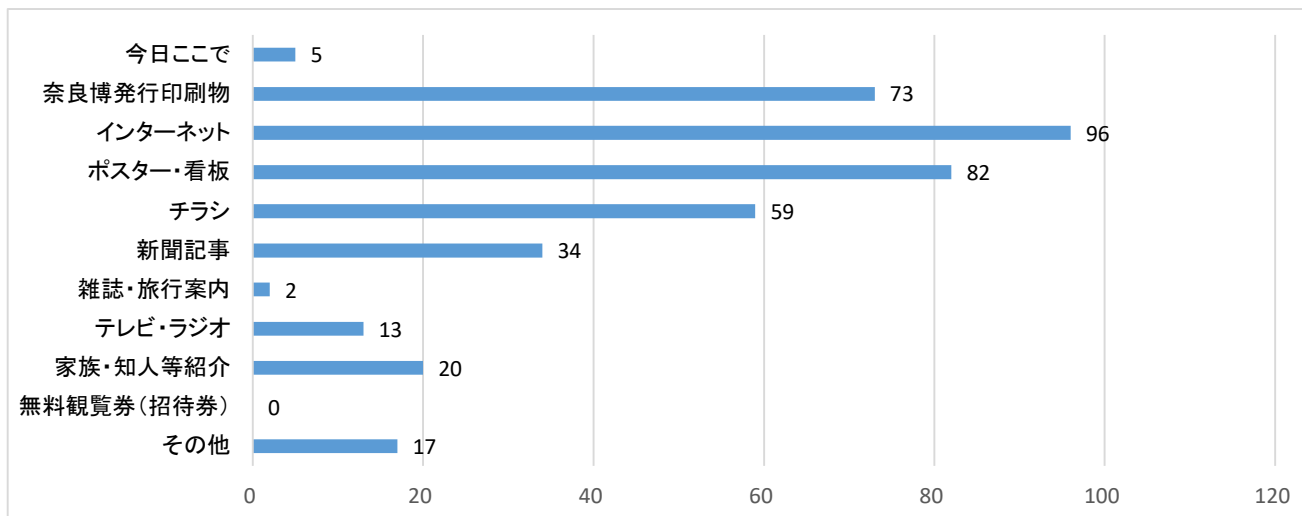
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



④主な意見・感想

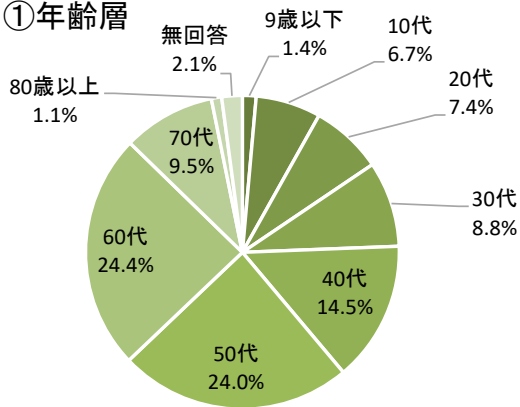
- ・とても見やすい展示だったし、十一面観音がとても美しかった。
- ・聖林寺展に訪れましたが、感動しました。まさかのガラス無しでの360° 拝観はとても良かったです。
- ・十一面観音も良かったです。日光・月光菩薩が興味深かったです。
- ・展示数が手頃で一展示物に時間を注げたことは良かったと思う。
- ・ビデオ上映がよくわかりよかった。
- ・暗くて案内文が読みにくかった。文だけ照明を明るくあてるか、文字を大きくして欲しい。
- ・大御輪寺について理解するには図録が必要かと。キャプション説明だけではムリ。

特別展「よみがえる正倉院宝物」 アンケート集計結果

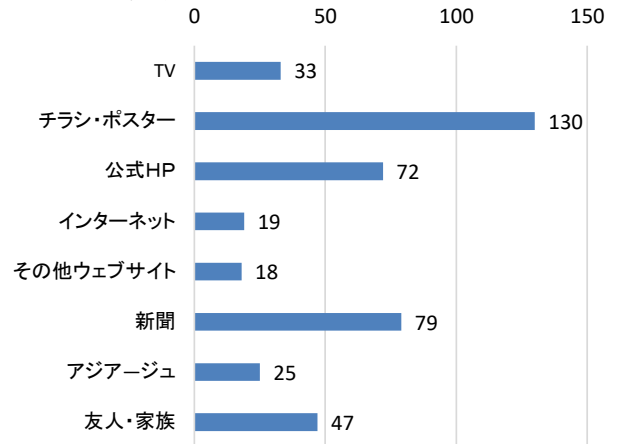
開催期間：3年4月20日(火)～6月13日(日) (49日間)

総回答者数：283人 (総来館者数：18,157人 アンケート回収率：1.56%)

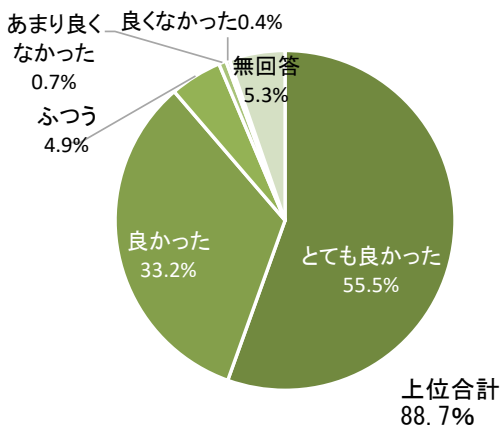
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

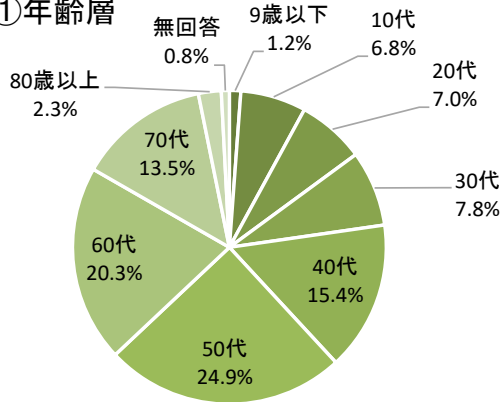
- ・復元再生の必要を強く感じることができました。時代を超えて文化財保護に就いている方々に感謝します。
- ・他の博物館でも見たのだが、展示の仕方などに違いがある。様々楽しみながら見る事が出来た。
- ・再現に関わった工人たちのインタビューがとても良かった。それを見る前と後で視点を変えて見る事ができて二度楽しめました。
- ・再現模造の横にどのくらいの状態からの復元であるか、現物の写真等もっとあれば良かったと思う。

特別展「皇室の名宝」 アンケート集計結果

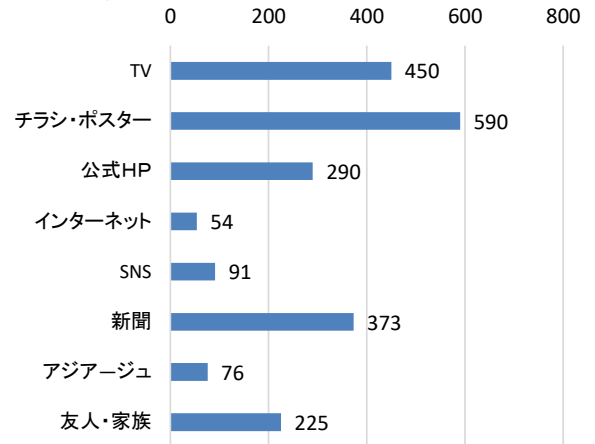
開催期間：3年7月20日(火)～8月29日(日) (35日間)

総回答者数：1,448人 (総来館者数：43,197人 アンケート回収率：3.35%)

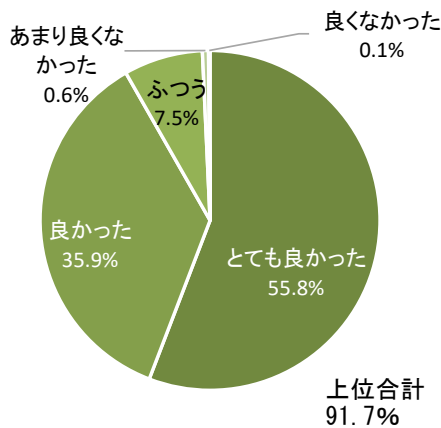
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

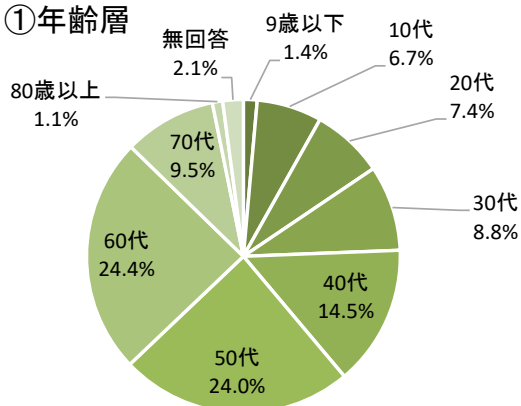
- ・展示作品も多すぎず、少なすぎず丁度良い作品数で集中力が途切れることなく見られました。
- ・聖徳太子の肖像や蒙古襲来絵巻のような教科書で見慣れた作品の本物を見るという体験が出来てよかった。
- ・毎回、特別展を楽しみにしています。今回は、若冲や上村松園が入れ替わり展示のため、前、後期2回来ました。
- ・伊藤若冲は、本やTVなどでよく見ます。ですから、本物を見てみたいと思っていました。今日見ることができ本当に良かったです。
- ・皇室だからこそその名品ぞろいのため息が出た。皇室の存在意義がこういった名宝を後世に残すためでもあることが学べた。
- ・各作品の材料や素材、技法の紹介もして欲しかった。像など木なのか、金属なのかなど興味があります。

特別展「海幸山幸—祈りと恵みの風景—」 アンケート集計結果

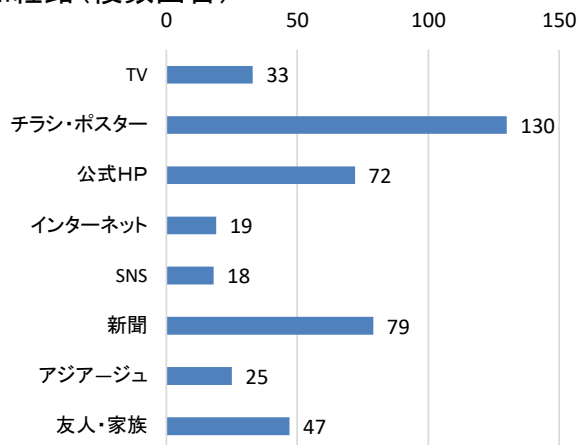
開催期間：3年10月9日(土)～12月5日(日) (50日間)

総回答者数：620人 (総来館者数：17,383人 アンケート回収率：3.57%)

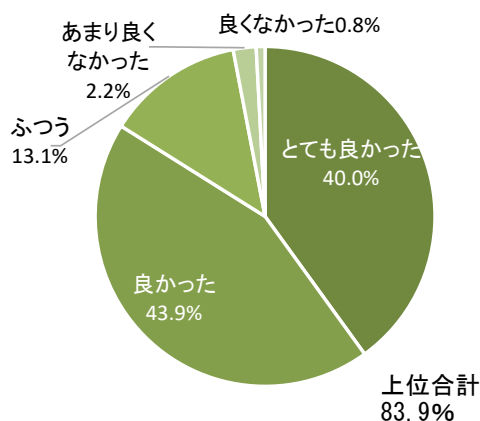
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

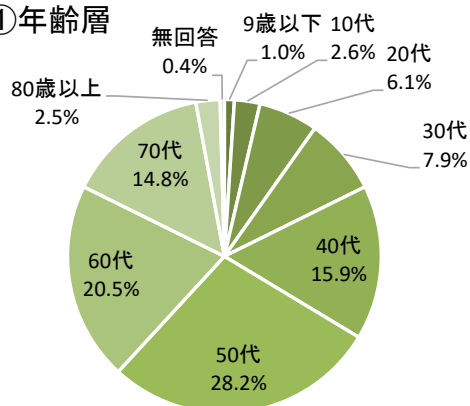
- ・異常気象、天災、コロナ禍に不安が感じられる日々、歴史をたどることで、冷静にならねばと思えました。
- ・縄文時代の品(特にイノシシ、貝)が印象に残った。縄文時代に高度な技術を要する品が作られていたのは日本人として嬉しい。
- ・期待以上だった。海の神と山の神の信仰と歴史と宝物。昔の人々の思いが感じられ素晴らしい展示でした。
- ・今回の展示物で「ここが一番の見どころ」を感じない。もっと興味をそそる作品をそろえてほしい。
- ・チラシに大きく日月山水図屏風があり楽しみに来たのに展示期間外で見ることができなかった。

特別展「最澄と天台宗のすべて」 アンケート集計結果

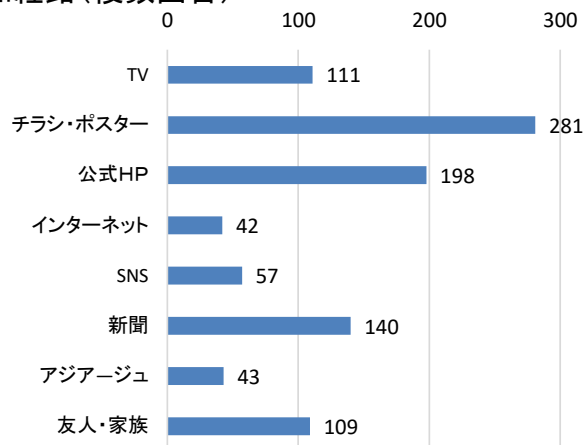
開催期間：4年2月8日(火)～3月21日(日) (37日間)

総回答者数：684人 (総来館者数：29,518人 アンケート回収率：2.32%)

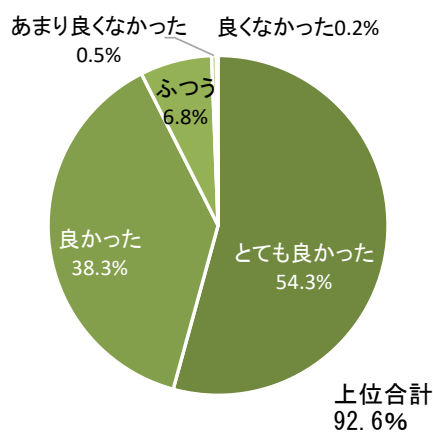
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

仏像が好きなので見に来ました。どれも良かったです。
 最澄様が素晴らしい方だということが良く分かりました。重要文化財、最澄の彫像・坐像がとても良かったです。
 天台宗から仏教の歴史が良く理解でき、より興味が深まりました。
 展示スタッフの方が実際に修行ルートを歩かれてみたパネル展示が大変興味深かったです。
 解説文に何を書くか、チョイスするのは、なかなか難しいなと思った。
 道に迷った。道順を分かりやすくしてほしい。